

黙示録 18: 大声での叫び—2018-2030

「彼女は倒れた、倒れた、丸なるバビロン！」

「私の民よ、彼女の中から出てきてください...」

サミュエルのプレゼント

ダニエルと黙示録について
説明してください

神が存在するという預言的な証明選ばれた者たちへの究極の啓示

この作品では: 彼のプロジェクト -
彼の判断

バージョン: 2023/09/23 (7-7th⁻⁵⁹⁹⁴)

「すると、ウライの真ん中で男の声が聞こえました。

彼は泣いて言った、「ガブリエル、彼に幻を説明して
ください。」 ダニエル 8:16。

表紙の解説文

上から下へ：黙示録 14 章の 3 人の天使からのメッセージ。

これらは、1843 年春の裁判と 1844 年 10 月 22 日の裁判の後、聖徒たちに明らかにされたダニエル書からの 3 つの真理です。安息日の役割を無視していた初期のアドベンチスト派は、これらのメッセージの本当の意味を理解できませんでした。キリストの再臨を待ち望んでいたアドベンチストたちは、自分たちの経験を、マタイ 25 章 1 節から 13 節の「十人の処女」のたとえ話で引用されている「真夜中の叫び」または「真夜中」と結び付け、そこでは「再臨」の知らせが告げられました。『花婿の』について言及されています。

- 1- 裁きのテーマはダニエル書 8:13-14 で展開され、黙示録 14:7 の最初の天使のメッセージの主題は次のとおりです。大地、天、そして水の泉！ »: 神の命令の唯一の真の 7 日目である土曜日に戻ることに、ユダヤ教の安息日と毎週の休息日は、十戒の 4 番目で神によって要求されています。

- 2- 「小さな角」と「別の王」の非難。アポの第 2 天使のメッセージの中で「大なるバビロン」という名前が付けられています。 14:8:

「大なるバビロンは倒れた、彼女も倒れた。

「主に、以前の「太陽の日」は、321 年 3 月 7 日に^{制定}されたコンスタンティヌス 1

世から受け継がれた日曜日であるためです。しかし、この「太陽の日が落ちた」という表現は、神がその呪われた性質を明らかにしたことによって正当化されます。彼は 1843 年以降、1844 年に放棄された安息日の習慣を復活させることによって、アドベンチスト派のしもべたちにそれを導入した。

「彼女は倒れた」とは、「彼女は捕らえられ、敗北した」という意味です。このようにして、真実の神は宗教的嘘の陣営に対する勝利を宣言します。

- 3- 「第二の死の火」がキリスト教徒の反逆者たちを襲う最後の審判のテーマ。これはダニエル書 7:9-10 に示されているイメージであり、このテーマは黙示録 20:10-15 で展開され、黙示録 14:9-10

の第三の天使のメッセージの主題となっています。もう一人、第三の天使が彼らに続いて大声で言いました。「もし誰かがその獣とその像を崇拜し、額や手に刻印を受けたなら、その人もまた、誰にも注がれずに注がれた神の怒りのワインを飲むことになるでしょう」それを怒りの杯に混ぜると、彼は聖なる天使たちの前で、小羊の前で、火と硫黄で苦しめられるだろう。

」：ここでは、日曜日は「獣の刻印」と同一視されています。

9-10と黙示録 14: 9-10の対象となる聖句の番号が同一に対応していることに注目してください。

第 4 の天使:彼は Apo.18 にのみ現れ、そこで彼は、1994年以來、そして世界の終わりまで、つまり、彼らを照らすために来たすべての神の光の恩恵を受ける、以前の 3 つのアドベンチストメッセージの最後の宣言をイメージしています。 2030年春それがこの作品の果たすべき役割です。それを照らすために来た光は、538年以來のカトリック宗教の連続した罪を明らかにします。1843年以來プロテスタントの宗教。これらすべての靈的墮落には、当時の原因がありました。それは、イエス・キリストにおける神の聖靈によって提案された光の拒否でした。ダニエル 11:40で言及されている「終わりの時」に、カトリック教会はその呪いの中で、キリスト教徒であろうとなかろうと、その奉仕とその權威を認めているすべての宗教団体を結集します。これはいわゆる「エキュメニカル」同盟の保護下にあり、プロテスタントの後、1995年に正式なアドベンティズムが加わった。

コリント第二 4:3-4

「

...私たちの福音がまだベールに包まれているとすれば、それは滅びつつある人々にとってもベールに包まれているのと同じです。なぜなら、この時代の神が知性を盲目にして、神の似姿であるキリストの栄光の福音の素晴らしさが見えない不信者たちのためである。」

「そして、もし預言の言葉が誤解されたままであれば、失われるべき人たちだけが誤解されたままになるでしょう。」

また、この文書で提示された啓示を要約すると、「**聖性を正当化する**」ためには、

永遠の福音」に従って、
地球上のすべての男性とすべての女性、
神の恵みを得るには、イエス・キリストの名において完全な浸
礼によるバプテスマを受けなければなりません。

出エジプト記 20 章で引用されている神の 10
の戒めの⁴番目である土曜日、7
日目の安息日を守らなければなりません。これは彼の恩寵を保
つために、

聖書の創世記 1 章 29 節とレビ記 11
章に規定されている神の道徳法と食事法を尊重しなければなり
ません (体の聖さ)

そして、
「神の御霊を消さないように」 (Iテサロニケ5:20) ことがな
いよう、「神の預言の言葉を軽蔑し」てはならない。

これらの基準を満たさない人は、黙示録 20
章に記されている「第二の死」を経験するよう神によって宣告
されます。
サミュエル

説明 – 私ダニエルと黙示録 取り上げられたトピックのページネーション

前半: 準備メモ

使用するソフトウェアのページ番号の自動検索を使用します。

タイトルページ	
07	プレゼンテーション
12	神とその創造物
13	聖書の真理の基礎

16	基本的なメモ: 321年3月7日、呪われた罪の日
26	地上で与えられた神の証し
28	注意: 殉教と刑罰を混同しないでください
29	創世記: 重要な預言の要約
30	信仰と不信仰
33	気候に適した食べ物
37	明らかにされた真の信仰の歴史
39	ダニエル書の準備ノート
41	すべてはダニエルから始まります - ダニエルの書
42	ダニエル 1 章 - ダニエルのバビロン到着
45	ダニエル 2 章 - ネブカドネザル王の幻視の像
56	ダニエル 3 章 - 炉の中の三人の仲間
62	ダニエル 4 章 - 王は屈辱を受けて改心した
69	ダニエル 5 章 - ベルシャザル王の裁き
74	ダニエル 6 - ライオンの穴にいるダニエル
79	ダニエル 7 - ザ・4匹の動物と小さな教皇の角
90	ダニエル 8 章 - 教皇の身元が確認される - ダニエル 8:14 の神聖な布告。
103	ダニエル 9 章 - イエス・キリストの地上での宣教の時期の発表。
121	ダニエル 10 章 - 大災害の告知 - 災害の幻視
127	ダニエル 11 章 - シリアの七つの戦争。
146	ダニエル 12 章 - アドベンチストの普遍的使命が図示され、日付が記載されています。
155	預言的象徴主義の紹介
158	アドベンチズム
163	黙示録の初見
167	預言におけるローマの象徴
173	安息日の光
176	ダニエル書 8:14 の神の定め
179	黙示録への準備
183	黙示録の要約
188	第二部: 黙示録の詳細な研究
188	黙示録 1: プロローグ ~ キリストの再臨 ~ アドベンチストのテーマ
199	黙示録 2: キリストの集会の始まりから 1843 年まで
199	第1期: エフェソス - 第2期: スミルナ - 第3期: ペルガモン 第4 ^{時代} : ティアティラ
216	黙示録 3: 1843 年以來のキリストの集会 - 回復された使徒的キリスト教信仰
216	第5期: サルディス ~ 第6 ^期 : フィラデルフィア ~

223	エレン・G・ホワイトの最初の示現で明らかにされたアドベンチズムの運命
225	第7 ^紀 : ラオデキア
229	黙示録 4: 天の裁き
232	注: 神の法則の預言
239	黙示録 5: 人の子
244	黙示録 6: 俳優、神罰、そして西暦時代の兆候 - 最初の 6 つの封印
251	黙示録 7: 「神の封印」で封印されたセブンスデー・アドベンチズム: 安息日と秘密の「第7の封印」。
259	黙示録 8: 最初の 4 つの「ラッパ」
268	黙示録 9: 第 5 と第 6 の「ラッパ」
268	第5回「ラッパ」
276	第6「ラッパ」
286	黙示録 10 章: 「開いた小さな本」
291	黙示録前半の終わり 後半: 開発されたテーマ
292	黙示録 11: 教皇の統治 - 国家的無神論 - 第 7 の「ラッパ」
305	黙示録 12: 偉大な中央計画
313	黙示録 13: キリスト教の偽りの兄弟たち
322	黙示録 14 章: セブンスデー アドベンチズムの時代
333	黙示録 15: 試用期間の終了
336	黙示録 16: 神の怒りによる最後の七つの災い
345	黙示録 17: 売春婦の正体が暴かれ特定される
356	黙示録 18 章: 売春婦は罰を受ける
368	黙示録 19 章: イエス・キリストのハルマゲドンの戦い
375	黙示録 20: 7 千年紀の千年と最後の審判
381	黙示録 21 章: 象徴される栄光の新エルサレム
392	黙示録 22: 終わりのない永遠の日
405	手紙は人を殺すが、御霊は命を与える
408	イエス・キリストの地上時代
410	聖性と聖化
424	創世記の分離—創世記 1 章から 22 章まで—
525	アブラハムとの約束の成就: 創世記 23 章から...
528	出エジプトと忠実なモーセ—聖書一般から—最後の選択の時— セブンスデー・アドベンチズム: 別離、名前、歴史— 神の主要な裁き—AからZまでの神聖—聖書本文の歪曲— 御霊は真実を回復します。
547	最後の献身
548	ラストコール

注:

外国語への翻訳は自動翻訳ソフトウェアを使用して行われており、著者は文書のオリジナル版の言語であるフランス語のテキストについてのみ責任を負います。

ダニエルと黙示録について説明して ください

プレゼンテーション

「ソドムとエジプト」と名付けていることから、私はこの非常に忌まわしい国に生まれ、住んでいます。共和主義的で羨望の的だったその社会モデルは、世界中の多くの人々によって模倣され、広まり、採用されました。この国はフランスであり、支配的な君主制と革命の国であり、神によって非難された取税制度を備えた5つの共和制の実験者である。それは、創造主である神ご自身によって「十戒」の形で書かれた人間の義務の表に法外に反対する人権表を誇らしげに宣言し、表示しています。その起源と最初の君主制以来、この宗教は、神が「善」と呼ぶものを「悪」と呼び、神が「悪」と呼ぶものを「善」と呼ぶという教えをやめることのない敵であるローマ・カトリック宗教を擁護してきた。

”。容赦のない没落が続き、革命により無神論を採用することになりました。このようにして、フランスは生き物、土の壺として、全能の神、正真正銘の鉄の壺に対抗する対立に陥っている。結果は予測可能であり、彼によって預言されていました。彼女は、自分より先に同じ罪を犯した「ソドム」の運命を経験することになる。過去1700年ほどの世界の歴史は、その邪悪な影響、特に初代君主であるフランク王国の初代王クロヴィス1世からのローマ・カトリック教皇政権の権威への支持によって形作られてきた。彼は498年12月25日にランスで洗礼を受けました。この日は、ローマが不当かつ法外に、世界と世界の創造者で受肉した神であるイエス・キリストの偽りの誕生日と結び付けられたクリスマスのお祝いの兆候を示しています。生きている、または存在するすべてのもの。彼が「真理の神」の称号を正当に主張しているのは、イエスが宣言したように「悪魔を父とする嘘」を嫌っているからです。

イエス・キリストの僕であると主張するローマ法王が正当ではないという否定できない証拠が欲しいですか?これは正確で聖書的です。イエスはマタイ 23:9
でこう言われました。というのは、一人は天におられるあなたの父だからです。」

教皇は一体何と呼ばれているのでしょうか?誰もがそれを見ることができず、「聖なる父」、さらには「非常に聖なる父」。カトリックの司祭は「神父」とも呼ばれます。この反抗的な態度により、聖書はイエス・キリストによって正当化された神への自由なアクセスを罪人に教えている一方で、多くの司祭たちは自分たちを神と罪人の間のおそらく不可欠な仲介者として位置づけるようになります。このように、カトリック信仰は

人間を幼児化して、不可欠で不可欠なものであるかのように見せかけます。イエス・キリストの直接のとりなしからのこの逸脱は、ダニエル書 8:11-12 の預言の中で神によって非難されます。質問と回答: 強力な創造主である神が、ダニエル書 7:8 と 8:25 で非難されているような法外な「傲慢さ」をもって神に従わない人間を自分の僕として採用できるなどと誰が信じられるでしょうか。人間の心の幼児化に対する聖書の反応は、エレ 17:5 のこの聖句にあります。_ !»

キリスト教時代の大部分の宗教史を大きく形作ったのはフランスだったため、神はフランス人に、その呪われた役割を明らかにするという使命を与えた。これは、厳密に聖書の暗号で暗号化された彼の預言的な啓示の隠された意味を明らかにすることによって行われます。

1975年に私は幻を通して自分の預言的使命の発表を受けましたが、その本当の意味を理解したのはバプテスマ後の1980年になってからでした。セブンスデー・アドベンチストのキリスト教信仰にバプテスマを受けている私は、2018年以来、自分がヨベルの時期（7年×7回）の奉仕に任命されていることを知っていました。ヨベルは2030年の春に栄光の再来とともに終わる予定です。全能の主なる神、イエス・キリスト。

神やイエス・キリストの存在を認識するだけでは、永遠の救いを得るのに十分ではありません。

私はここで、天に帰る前に、イエスがマタイ 28:18 から 20 の次の節の言葉を弟子たちに語られたことを思い出します。地球上で、それゆえ、行って、すべての国の弟子を作り、彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、わたしがあなたに命じたことをすべて守るように教えなさい。そして見よ、私は世の終わりまで、いつもあなたとともにいます。」彼の神聖な御霊は使徒ペテロに、使徒 4章12節のもう一つの正式で厳粛な宣言を与えました。なぜなら、天の下で人間の間と与えられる名前は、それ以外に私たちが救われなければならない名前はないからです。」

したがって、私たちが神と和解させる宗教は、人間の伝統による宗教的遺産に基づいたものではないことを理解してください。イエス・キリストにおける人間の死を通して神が差し出された贖いの自発的犠牲を信じる信仰が、神の神聖さの完全な義と私たちが和解する唯一の方法です。また、あなたが誰であれ、出自、受け継いだ宗教、民族、人種、肌の色や言語、さらには人間の間での地位さえも、神との和解は、イエス・キリストと、イエス・キリストが説く神の教えを遵守することによってのみもたらされます。世の終わりまで弟子たちに。この文書によって証明されているように。

父、子、聖霊という表現は、

「第二の死」を宣告された罪を犯した人間に与えられた救いの計画において、唯一の神が果たされる3つの連続した役割を示しています。この「三位一体」はイスラム教徒が信じているような

3

人の神の集まりではなく、したがってこのキリスト教の教義とその宗教に対する彼らの拒否を正当化します。

「父」として、神は私たちすべての創造者です。彼は「子」として、自分の選ばれた人々の罪を彼らの代わりに償うために自らの肉の体を与えた。使徒パウロがヘブライ語 12 章で教えていることによると、「聖霊」の中で、復活したキリストの霊である神は、「それなしでは誰も主を見ることのできない聖化」を獲得することによって、選ばれた人々が回心を成功させるのを助けるために来られます。 : 14; 「聖化」とは、神のために、神によって分けられることです。それは選ばれた者を受け入れることを確証し、彼の信仰の業、神への愛、そして靈感を受けて啓示された聖書の真理に現れます。

ことは、特に彼らがキリスト教徒の出身であるために、地球の人々、その宗教組織、そして西方キリスト教世界の人々に重くのしかかる非常に高度な呪いを理解するために不可欠です。なぜなら、イエス・キリストがたどった道は、神のプロジェクトの唯一かつ唯一の救いの道を構成しているからです。その結果、キリスト教の信仰は依然として悪魔や悪霊の主な攻撃の標的となっています。

基本的に、創造主である神が設計された救済プロジェクトは単純かつ論理的です。しかし、宗教は複雑な性格を帯びています。その理由は、宗教を教える人たちは自分たちの宗教的概念を正当化することだけを考へており、しばしば無知から罪を實踐しており、この概念はもはや神の要求と一致していません。その結果、彼は彼らに自分の都合の良いように解釈した呪いを彼らに浴びせ、神の非難を聞く耳を持ちません。

この作品は文学賞の受賞を目的としたものではありません。創造主である神にとって、彼の唯一の役割は、選ばれた人々に信仰の試練を与え、それによってイエス・キリストが勝ち取った永遠の命を得ることができるようです。そこには繰り返しが見られますが、これは神が異なるイメージやシンボルを通して啓示する同じ教えを打ち出すことによって用いられるスタイルです。これらの多数の繰り返しは、それらが本物であることの最良の証拠を構成し、関係する真実の説明に彼が与えた重要性を証明しています。イエスが教えたたとえ話は、この強調と繰り返しを裏付けています。

この作品には、ナザレのイエスという人間の名で私たちを訪れた偉大な創造主神が与えた啓示が記されており、ダンで引用されているヘブライ語の「マシア」によると、イエスは「油そそがれた者」または「メシア」の称号で与えられました。

.9:25、または「キリスト」、新しい契約の文書のギリシャ語「クリストス」から。神は彼の中で、エバとアダムが犯した原罪以来、彼の到来に先立って行われた動物の犠牲の儀式を正当化するために、彼の完全に純粋な命を自発的な犠牲として捧げるために来ました。

「油注がれた」という用語は、オリーブの油に象徴される聖霊の油注ぎを

受ける人を指します。イエス・キリストの唯一の名によって神によって与えられた預言的な啓示とその贖いの業は、選ばれた者たちを永遠の命に至る道に導きます。なぜなら、恵みによる救いだけでは、選ばれた人たちが自分の知らない罠に陥ることを防ぐことはできないからです。したがって、神はイエス・キリストの御名において、恵みの提供を完了するために、終わりの時の最後の僕たちが混乱した人々を分析し、判断し、**明確に**理解できるようにする主要な罠の存在を明らかにするために来られます。この地上の救いの最後の時代に普及している普遍的なキリスト教の状況。

ただし、播種する前に根こそぎにすることを勧めます。なぜなら、創造主である神の本質が、地球上に蔓延している偉大な一神教の教えによって歪められているからです。それらはすべて、制約によって唯一の神を押しつけ、それによって彼らが分離し、神とのいかなる関係からも切り離されていることを証言するという共通点を持っています。キリスト教の信仰に付随する見かけ上の自由は、単に当時の状況によるものですが、神が悪魔の自由な行動を許すとすぐに、悪魔に従わない者に対するこの不寛容が再び現れるでしょう。もし神が制約によって行動することを望んでいたなら、単に神が自分を彼らの目に見えるようにし、神の被造物から彼らが神の意志のすべてに従うようにさせるだけで十分だっただろう。もし彼がそのように行動しなかったとすれば、それは、彼の選挙で選ばれた役人が、彼を愛するか拒否するかという自由な選択にのみ**基づいているからである**。彼がすべての生き物に与える自由な選択。そして、もし制約があるとすれば、それは、個人の自由な本性によって、愛の神によって押しつけられ、惹きつけられる選ばれた人々の生来の性質によるものだけです。そして、この愛という名前はそれによく似合います。なぜなら、それは生き物たちに、それを議論の余地のないものにする行動のデモンストレーションを提供することによって、それを昇華させるからです。それは、無知と弱さの時に、選ばれた者**だけが**受け継ぎ、犯した罪を、イエス・キリストという御身において、自らの命を捧げて償うことによってである。注意！地球上では、この愛という言葉は感情とその弱さの形をとるだけです。神のものは強力で完全に正義です。それは感情が完全にコントロールされる原理の形をとるため、これが大きな違いを生みます。したがって、神によって承認された真の宗教は、神の人格、思想、法律で定められた原則を自由に遵守することに基づいています。地球上のすべての生命は、その物理的、化学的、道徳的、精神的、靈的法則に基づいて構築されています。地球の重力の法則から逃れてそれを消滅させるという考えが人間の心には入らないのと同じように、人間の精神は、創造主である神によって確立された法則と原則に対する敬意と従順によってのみ調和して繁栄することができます。したがって、コリント第一 10 章 31 節にある使徒パウロの次の言葉は完全に正当化されます。「**食べるにしても、飲むにしても、あるいは他の何をするにしても、すべては神の栄光のために行いなさい。**」この無料の招待の適用は、聖書の中でのみ、神が

ご自身の神聖な意見を伝え、明らかにされたという事実によって可能になります。そして、ヘブライ 12:14

によれば、「**それなしでは誰も主を見ることはできない**」という「聖化」の働きを達成する際に、彼の意見を考慮に入れることが重要です。時には彼の意見が処方箋の形をとることもありますが、それは、人間が自分の健康のために最善の利益を考えて行動していると考えて、急いで従う専門の医師によって提供される意見と同じくらい議論の余地はありません。身体的または精神的（さらには）彼が間違っていたら）。創造主である神は、何よりも、魂の細部まで知っている唯一の真の魂の医師です。痛みはありますが、状況が良いときはいつでも治ります。しかし最終的には、彼を愛することができず、したがって彼に従うことができないことが判明した天上と地上のすべての生命を破壊し、絶滅させるでしょう。

したがって、宗教的不寛容は、偽りの一神教の明らかな成果です。それは神の性質を歪め、神を攻撃することで神の祝福、恵み、救いを得る危険を冒さないため、非常に重大な過失であり罪となります。しかし、神はそれを鞭打ちのように用いて、不信者や不忠実な人類を罰し、打ちます。ここで私は聖書と歴史の証言に依存します。実際、古い契約の記述は、神がご自分の民、イスラエルと呼ばれる国民の不貞を罰するために、ご自身の最も近い隣人である「ペリシテ人」を用いられたことを教えています。私たちの時代でも、この人々は「パレスチナ人」という名前の下でこの行動を続けています。その後、この地上の肉欲のイスラエルに対する自分の裁きと最終的な非難を明らかにしたいと思ったとき、彼はカルデア王ネブカドネザルの奉仕を求めました。これを3回。 3 番目の 586年では、国は滅ぼされ、生き残った人々はエレ 25:11

で預言されている「70年間」バビロンに移送されました。さらにその後、イエス・キリストを救世主として認めることを拒否したために、この国はウェスパシアヌス帝の後継者であるティトゥス率いるローマ軍によって再び滅ぼされました。キリスト教時代、公式には 321 年に罪に逆戻りし、538年からキリスト教の信仰は教皇の不寛容に引き継がれました。そして、この支配的なカトリック信仰は、同じ

6^{世紀}に宗教的にイスラム教徒となった中東の人々との争いを求めました。異教徒のキリスト教はそこに永遠の恐るべき敵を見出しました。なぜなら、両陣営の宗教的対立は両極のようなものであり、世界の終わりまで完全に対立するからである。不信者もまた誇りを持ち、独占の栄光を求めます。神から得たものではなく、それを自分自身のせいにし、挑戦されることを受け入れません。この個人の説明は、さまざまな集會に所属し、さまざまな偽りの宗教に集まっているメンバーを集合的に特徴づけるものです。不寛容を非難することは、神が寛容であることを意味するものではありません。不寛容は悪魔の陣営に触発された人間の習慣です。寛容という言葉は不寛容の考えを暗示し、真の信仰という言葉は聖書の原則「はい、ま

たはいいえ」に従って承認または不承認を意味します。一方、神は悪の存在を容認せずに支持します。彼は、選挙で選ばれた議員を選出するプロジェクトで計画されている自由の時代のために、それを支持している。したがって、寛容という言葉は人類にのみ適用され、この言葉は 1598 年 4 月 13 日のアンリ 4 世のナント勅令に登場しました。しかし、恵みの時代が終わると、悪とそれを行う者は滅ぼされます。寛容は、最初から神によって人間に与えられた宗教の自由を取って代わりました。

本作のメニューが発表！証拠はページ全体にわたって提示され、実証されます。

神とその創造物

ラテンヨーロッパの人々が使用する霊的な辞典には、神から伝えられた重要なメッセージが隠されています。まず第一に、黙示録という言葉も同様であり、この側面において人々が恐れる大災害を呼び起こします。しかし、この恐ろしい用語の背後には、キリストにある神の僕たちに、彼らの救いに必要不可欠な事柄を明らかにする「黙示録」という翻訳が隠さ

れています。ある者の幸福は他の者、つまり反対陣営の人々の不幸を引き起こすという原理によれば、絶対反対のメッセージは非常に豊かな教えであり、使徒ヨハネに与えられた非常に神聖な「黙示録」の中で非常に頻繁に示唆されています。

もう一つの言葉、「天使」という言葉には重要な教訓が隠されています。このフランス語の単語は、メッセンジャーを意味するギリシャ語の「aggelos」から取られたラテン語の「angelus」自体に由来しています。この翻訳は、神がご自分の被造物、つまり自由で比較的独立して創造された対応者である被造物に与えられる価値を私たちに明らかにします。命は神から与えられたものであるため、この独立性には論理的な制約が残ります。しかし、この「メッセンジャー」という言葉は、神が自由な相手を生きたメッセージとみなしておられることを私たちに明らかにしています。したがって、それぞれの生き物は、聖書で「魂」と呼ばれるものを構成する個人的な選択と立場によって特徴付けられる人生経験からなるメッセージを表しています。それぞれの生き物は生きた魂としてユニークです。なぜなら、神によって創造された最初の天上の対応者たち、つまり私たちが伝統的に「天使」と呼んでいる者たちは、彼らに命と生きる権利を与えた者が彼らを取り戻すことができるということを知らなかったからです。彼らは永遠に生きるように創造され、死という言葉の意味さえ知りませんでした。それは、死という言葉が何を意味するのかを彼らに明らかにするためであり、神は私たちの地上の次元を創造し、そこでは人類、つまりアダムがエデンの園の罪の後、死すべき者としての役割を果たすことになった。私たちが表現するメッセージが神に喜ばれるのは、それが神の善と善の基準に一致している場合のみです。このメッセージが悪と悪の基準を満たしている場合、それを伝える人は反逆的なタイプであり、永遠の死、つまり魂全体の最終的な破壊と消滅を宣告されます。

聖書の真理の基礎

神は、すべての人間がそれについて知ることができるように、まず地球システムの起源をモーセに明らかにすることが良いことであり、正しいことであると考えました。彼はそこで、霊的な教えの優先事項を示しています。この行動において、彼は時間の順序を規制することから始まる彼の真実の基礎を私たちに提示します。なぜなら、神は秩序と高貴な一貫性の神だからです。私たちは、その基準と比較することによって、罪の人によって確立された現在の秩序の愚かで支離滅裂な側面を発見するでしょう。なぜなら、すべてを変えるのは確かに罪であり、すでに原罪だからです。

しかし、何よりもまず理解しなければならないのは、聖書の中で神が言及した「始まり」、そして「創世記」と呼ばれる本の最初の言葉は「起源」であり、人生の「始まり」に関係しているのではなく、単に人生の「始まり」に関係しているだけであるということです。それは、地球そのものの誕生後

4
日目に創造された天の宇宙の星々を含む、私たちの地上次元全体の彼の創造のことです。この考えを念頭に置くと、夜と昼が交互に続くこの特定の地球システムは、神とその忠実な選民と悪魔の敵陣営が互いに対立する環境となるように創造されたことが理解できます。生命史上最初の罪人である悪魔の悪に対する神の善の戦いが、彼の存在理由であり、彼の普遍的かつ多元的な救いのプロジェクトの啓示全体の基礎となっています。この作業中に、イエス・キリストが地上での宣教中に語った特定の謎めいた言葉の意味を発見することになります。このようにして、あらゆる形態の生命と物質の創造者である唯一の偉大な神によって開始された偉大なプロジェクトにおいて、それらがどれほどの意味を持っているかがわかるでしょう。ここで私はこの重要な括弧を閉じて、この存在の最高主権者によって確立された時間の秩序の主題に戻ります。

罪を犯す前、アダムとイブは連続する 7
日間の週を中心に生活を組み立てていました。それを思い出させる十戒の
4 番目 (または十戒) のモデルによれば、 7
日目は神と人間によって休息のために聖別された日であり、今日この行動が何を預言しているかを知ると、神がなぜこの戒めを守るのかを理解することができます。この習慣を尊重してください。この特定の地球的創造の理由を説明する全体的なプロジェクトの中で、提案されている時間の単位である週は、神の愛と正義の宇宙的（そして多元的）実証という偉大なプロジェクトが達成されるまでの7000年を予言している。このプログラムでは、週の最初の 6 日間にたとえて、最初の 6,000 年間は神の愛と忍耐の実証の下に置かれます。そして、7日目と同様に、7千年紀は神の完全な正義の確立に捧げられます。このプログラムを次のよ

うに要約できます。6日(1,000年=6,000年)で救われ、7日(=1,000年)で地上と天上の反逆者を裁き、殲滅することができます。この救いのプロジェクトは完全に、創造主である神が、神聖な意志によってギリシャ語訳ではイエス・キリスト、ヘブライ語では救世主イエスと名付けられた人の地上の神聖な側面において、自ら行った自発的な償いの犠牲に基づいています。

罪が起こる前、本来の完全な神の秩序では、一日全体は 2つの連続する等しい部分で構成されています。12時間の月の夜の後に12時間の太陽光が続き、このサイクルが永久に繰り返されます。私たちの現状では、この状況が現れるのは年に春分の日と秋分の日2日だけです。現在の季節は地軸の傾きによるものであることがわかっており、この傾きは最初の夫婦であるアダムとイブが犯した原罪の結果として現れたことが理解できます。罪が起こる前は、このような傾向がなければ、神の秩序の規則性は完璧でした。

太陽の周りの地球の完全な公転は、年の単位を示します。モーセは証言の中で、神によってエジプトの奴隷状態から救出されたヘブライ人の出エジプトの物語を語ります。そして、この出口のまさにその日に、出エジプト記 12:2

で神はモーセにこう言われました。最初の1か月はそれがあなたのためになります。」そのようなこだわりは、神がその物に与えられる重要性を証明しています。太陰暦 12

か月のヘブライ暦は時間とともに変動し、太陽の秩序の背後に、この遅れが数年間蓄積された後、一致を取り戻すためにさらに 13

か月を追加する必要がありました。ヘブライ人はエジプトから出てきた「年の最初の月の 14

日」は、論理的には春分の日から始まります。まさに「初めて」を意味する名前。

今月があなたにとって一年の最初の月になりますように」という神からのこの命令は、世の終わりまで自分の救いを主張するすべての人に向けられたものであるため、簡単なものではありません。ヘブライ語イスラエルは神の啓示を受けており、その神聖な計画における偉大な普遍的救いプロジェクトの先鋒に過ぎません。キリストの月の時間の後にはキリストの太陽時間が続き、それを通して神の救いの計画があらゆる光の中で明らかにされます。

これらの神聖な基準の完全な回復は、反逆的で邪悪な人間が住む地球上では決して達成されることはありません。しかし、私たちと神との個人的な関係においては、正義と同じくらい愛を大きくするこの強力な目に見えない創造的な霊が存在する可能性が残っています。そして、彼とのあらゆる関係は、彼の価値観、そしてまず彼の当時の価値観の探求から始まらなければなりません。これは信仰の行為であり、非常に単純で特にメリットはありません。私たち人間の側から提供できる最低限のもの。そして

私たちのアプローチが神にとって心地よいものであれば、被造物とその創造主との愛情深い関係が可能になります。天国は偉業や奇跡によって獲得されるのではなく、真の愛を表現する相互の注目のしるしによって獲得されます。これは、選ばれた最愛の人だけを救うために、呼びかけのしるしとして自発的に命を捧げたイエス・キリストの働きの中に誰もが発見できることです。

神の秩序のこの素晴らしい描写の後で、私たち人間の秩序の哀れな側面を見てみましょう。この比較は、神が預言者ダニエルを通して預言された非難を理解することを可能にするので、なおさら必要である。なぜなら、イエスはその時代にダニエルをそのように認定したからである。これらの非難の中に、ダニエル書 7:25
には次のように書かれています。「彼は時代と法律を変えることを計画するだろう。」神はこれらのことについての基準を 1
つだけ知っています。それは彼自身が世界の創造以来確立し、その後モーセに啓示したものです。誰がそのような暴挙をあえて犯したのでしょうか？彼はこの支配体制の原因を「傲慢さ」と「その策略の成功」にあると考えている。

「異なる王」とも表現されており、これらの基準を総合すると宗教的な力が示唆されます。さらに、「聖人を迫害した」として非難され、解釈の可能性は狭められ、

538年以来皇帝ユスティニアヌス^{1世}の勅令によって確立されたローマ教皇体制のみを包囲することになる。しかし、黙示録と呼ばれる黙示録は、この538年という日付が、ローマ皇帝コンスタンティヌス^{1世}によって321年3月7日から「時代と神法」に反してもたらされた悪の結果であり、延長に過ぎないという事実を明らかにするでしょう。この邪悪な日付が、使徒の時代に確立された純粋で完全なキリスト教信仰に呪いをもたらすため、この研究では彼の犯罪がしばしば思い出されます。異教の帝国ローマとローマ・カトリック教皇ローマのこの中継による罪の共有は、ダニエルによって書かれた証言の中で構築された預言の啓示の主な鍵です。というのは、異教の皇帝が初日の休みを定めたが、それはキリスト教の教皇政権だからである。

誰が神の十戒を、

「変化した」特別な人間的な形で宗教的に課したのです。

基本的なメモ: 321年3月7日、呪われた罪の日

そして、321年3月7日、日付の入った勅令の命令により、安息日の聖なる7日目の残りが正式に初日に置き換えられたため、強力に呪われました。当時、この初日は異教徒たちによって太陽神、ソル・インヴィクトス、すなわち法外な不敗の太陽の崇拝に捧げられ、大王の出エジプトの時点ですでにエジプト人の崇拝の対象となっていた。ヘブライ人だけでなく、アメリカでも、インカ人やアステカ人によって、そして今日まで日本人（「日出ずる国」）によっても伝えられてきました。悪魔はいつも同じレシピを使って人間を墮落させ、神による有罪判決に導きます。それは彼らの表面性と肉の心を利用して、彼らを霊的生活や歴史的過去の教訓を軽蔑するように導きます。私がこのメモを書いている今日、2021年3月8日、ニュースはこの暴挙の重要性、真の神の不敬罪を証明しており、再び神聖な時間が完全な意味を帯びるようになります。神にとって、一年の時は春に始まり冬の終わりに終わります。つまり、現在のローマ暦では、3月20日から翌年の3月20日までです。したがって、321年3月7日は神にとって320年3月7日、つまり321年の春の13日前だったようです。したがって、神にとって、その正義と正義に対してもたらされた忌まわしい行為によって終わりを告げられたのは320年でした。聖なる神の法。神の時間によると、2020年は320年から数えて17周年（17は裁きの数）にあたる。したがって、2020年の初めから神の呪いが攻撃的な段階に入ったのは驚くべきことではない。伝染性のウイルスの形で、西洋では科学とその進歩に全面的に信頼

と信仰を置いてきた男性社会にパニックを引き起こした。パニックは、現在の科学者の高度な技術にもかかわらず、効果的な治療法やワクチンを提示できないことの結果です。この
17
世紀に預言的な価値を与えることによって、私は何もでっち上げているわけではありません。なぜなら、神にとって数字には霊的な意味があり、それを神が明らかにし、預言を構築する際に使用されるからです。正確に黙示録では、第
17
章が次のテーマに当てられています。多くの水の上に座る娼婦の裁きだ。」

「大いなるバビロン」はその名前であり、それに含まれる「大水」は、来たるべき第三次世界大戦の象徴である、黙示録9章13節の「第6のラッパ」のメッセージで神が標的としている「ユーフラテス川」を示唆しています。これらの象徴の背後には、教皇のカトリック主義と不誠実なキリスト教のヨーロッパがあり、彼の怒りの根源であり標的でもある。神と人間の間の闘争は始まったばかりです。鉄鍋と土鍋、戦いの結果は予測可能です。もっと良いのは、それは預言され、プログラムされているということです。神は、320年3月7日（神とその選民にとっては320年、偽りの宗教的あるいは不敬な世界にとっては321年）の17周年をどのように迎えるつもりだったのでしょうか？私は長い間、それは世界戦争への突入によって起こるだろうと信じてきたが、世界戦争は原子の形で終わるだろう。というのは、神はそれをダニエル書11章40節から45節、エゼキエル書38章と39章、そして最後に3回預言したからである。

2020年の春以来、反逆的な人類に対して神が始めた戦いは、モーセの時代に神がエジプトのファラオに対して行った戦いと同じ種類のものである。最終的な結果は同じになります。神の敵は、当時、自分の長子が死ぬのを見て自分の子を失ったファラオのように、そこで命を失うことになるでしょう。この2021年3月8日、私はこの解釈が成就しなかったことを指摘しますが、私は約1ヶ月前からその準備をしていました。神の靈感によって、321は神320のためのものであり、その結果、神は単なる呪いではなく呪いを計画していたことに気づきました。 2020 年 3 月 7 日の日ではなく、この呪われた日が関連付けられている 1 年全体が対象となるため、この罰には、民14:34 で引用されている原則が適用されます。あなたの咎の罰は40年間、1日につき1年を負うだろう」。

しかし、この観察には一つのこと付け加えられています。私たちの偽りの暦は、年の初めについて間違っているだけでなく、イエス・キリストの誕生日についても間違っています。誤って、5 世紀に修道士ディオニュソス小王が、実際に彼の暦の - 4 年に起こったヘロデ王の死を、ヘロデ王の死と重ね合わせました。この 4 年に、マタイ 2:16 によれば、ヘロデが死刑にしようとしていたメシアの年齢であると推定し

た「二年」を加えなければなりません。賢者たちは非常に怒ったので、彼は賢者たちに注意深く尋ねた日付に従って、ベツレヘムとその全領土にいる2歳以下の子供たちをすべて殺すよう送りました。そこで、神が年を数えるとき、私たちがよく使う誤った誤解を招く日付に6年を加え、イエスの誕生はその年の春、つまり6年に起こりました。その結果、320年が彼にとっては326年と17年となりました。私たちの2020年の^{世俗的な}記念日は、彼にとって、イエス・キリストの誕生の真の瞬間から数えて2026年でした。この26という数字は、ヘブライ語で「ヨド、へ、ワヴ、へ」という四文字「YHWH」の数字であり、モーセの「あなたの名前は何ですか？」という質問に続いて、神がご自身を名付けたものです。 》 ;出エジプト記3章14節によればこれです。したがって、偉大な創造主である神には、全能の神の呪いが印されたこの日に、個人的な王家の印章を刻むもう一つの理由がありました。そしてこれは世界の終わりまで。神聖なこの2026年に現れた伝染病の惨劇は、地球上の生命の最後の数年間にさまざまな形をとるであろうこの呪いの継続を確認したところでは、第三次核世界大戦は、イエス・キリストによってマタイ 24:14で告げられた「諸国民の時代」の「終わり」を告げるでしょう。国家。そうすれば終わりが来るだろう。」この「終了」は猶予期間の終了とともに始まります。救いの提供は終わります。彼の聖なる安息日への敬意に基づく信仰の試みは、マタイ 25:32-33の「羊」の陣営と「ヤギ」の陣営を決定的に分けるでしょう。羊飼いが羊を山羊から分けるように、神は羊を互いに分けるでしょう。そして彼は羊を自分の右手に置き、ヤギを左手に置くでしょう。」ローマの日曜日を義務化する法律の布告は、最終的にはイエス・キリストの真に選ばれた聖徒が死刑を宣告されることになる。この状況は、ダン 12:7の次の言葉を実現します。彼は右手と左手を天に上げ、永遠に生きている御方にかけて、いつかは終わりが来るだろう、そして、人々の力が尽きれば、これらすべてのことは終わるだろうと誓った。聖人は完全に壊れてしまっただろう。」人間の観点から見ると、彼らの状況は絶望的であり、死が差し迫っていることとなります。そのとき、マタイ 24 章 22節で引用されているイエス・キリストの次の言葉が明らかになります。しかし、選ばれた者たちのために、この日は短縮されるでしょう。」西暦6000年は、神聖な時間の2036年4月3日、つまり、^{立春}後14日目にイエス・キリストが磔刑に処せられた日から2000年後の偽暦の2030年4月3日より前に終了します。30.そして、これらの「日」は「短縮」または短縮されなければなりません。これは、死亡判決の適用日がこの日よりも前になることを意味します。なぜなら、この緊急事態こそが、キリストが選ばれた人々を救うために直接介入することを必要とするからである。その場合、私たちは、神が地上の創造物に与えた「時間」という基準を称賛するという神の優先事項を考慮に入れなければなりません。終わりの日の反逆者たちに、地上の歴史6000

年に幕を閉じる2030年の春の初日を数日上回る日を選ぶよう鼓舞するのは彼だ。その後、2

つの可能性が現れます。日付は最後まで不明のまま、または2030年4月3

日の可能性があり、霊的に意味のある限界を示します。イエス・キリストの磔刑の年の14日は、非常に重要であるにもかかわらず、6000年の世界史の終わりを告げるのにふさわしくなく、ましてや7千年紀の始まりを迎えるのにふさわしくないことを考えてください。これが、私が2030年3月21日の春の日、つまり「短縮された」預言の時期である4月3日、またはその中間の日を好み、信仰する理由です。神が創造した自然を特徴とする春は、人類の歴史の6000年を数える上で決定的なものです。それはアダムとイブが罪を犯した瞬間から可能になります。聖書の創世記の記述では、この最初の春に至るまでの日々は永遠の日々でした。神が数えた時間は罪の地の時間であり、週に預言されている6000年は最初の春の始まりに始まり、最後の冬の終わりに終わる。

6000年へのカウントダウンが始まったのは、ある春のことだった。罪のせいで、地球は地軸が23度26分の傾きを起こし、一連の季節が始まる可能性がありました。古い契約のユダヤ人の祝日では、毎週の安息日と過越の祭りの2つの祝日が主要な祝日です。これら2つの祭りは、神の救いの計画の3つの段階を表す「7日、14日、21日」の数字の「7、14 および21」の象徴の下に置かれています。預言する黙示録7章の毎週の安息日のテーマ選ばれた聖者の報酬、「7」。イエス・キリストの救いの働きは、この報酬を「14」に提供する手段を構成します。

7日間続く過越の祭りでは、15日と21日の2つの安息日が世俗的な不活動の日となることに注意してください。そして、三重の「7」または「21」は、最初の7000年の終わりとして、黙示録21章に従って更新された地上の新しい神の創造の永遠への入りを示しています。この21という数字は、神が望んだ目標である人生プロジェクトの完全性(3)と充実性(7)を象徴しています。

黙示録3章の7節と14節は、それぞれセブンスデーアドベンチスト制度の始まりと終わりを示しています。ここでもまた、同じ神聖化された

主題の2つの段階が描かれています。同様に、黙示録7章ではアドベンチスト選民の封印の主題が扱われ、黙示録14章では3人の天使の普遍的な使命を要約したメッセージが示されています。したがって、西暦30年、4000年の終わりは春に達成され、イエスは象徴的な理由だけで、西暦30年のこの春の3月21日から14日後、つまり神にとっては36日後に十字架につけられました。これらの例を通して、神は安息日の「7」とイエス・キリストによる選民の罪の贖いの「14」が切り離せないものであることを確認しています。したがって、終わりに安息日の「7」が攻撃され、「14」の救い主キリストが栄光を与えるために彼の助けに飛んで

くると、2つの日付を分ける最大の14「日」が「短縮」されます。または、最後に選出された信者を救うために抑圧されました。

マタイ

24

章を読み直して、キリストのメッセージは、特に世の終わりの弟子たち、そしてこの終わりの時代に生きる私たちに向けて語られているように思えました。

1節から14節までは「終わり」の時までを描いています。イエスは相次ぐ戦争、偽預言者の出現、そして最終的な霊的冷え込みについて預言しています。次に、15節から20節は二重に適用され、西暦70年にローマ人によって達成されたエルサレムの破壊と、神の聖なる安息日を守る選民のユダヤ人に対する諸国民の最終的な侵略の両方に関係しています。この後、21節は彼らの最後の「大きな苦難」を預言しています。この明確化「**そして決して存在することはない**」は、ダニエル 12:1の教えと矛盾するため、使徒の時代に適用することを禁止していることに注意してください。これは、両方の引用が地上での最後の信仰の試練における同じ達成に関連していることを意味します。ダニエル 12:1の表現は同じです。「その時、あなたの民の子供たちの擁護者である偉大な君主ミカエルが立ち上がるでしょう。そしてそれは、**国々が存在して以来、その時まで経験したことの無いような困難な時代となるでしょう。**その時、その本に書かれているのが見つかったあなたの民は救われるでしょう。」

22節によれば、その「苦難」は非常に大きいので、「日」は「短縮」されなければならないでしょう。

23節は、地上でのキリストの自然発生的な出現では成長しない真の信仰の基準を示しています。

「見よ、彼は荒野にいる。そこには行かないでください。」見よ、彼は部屋にいる、信じないでください。」同じ最後の時代に、スピリチュアリズムはその「天才」と、偽キリストの欺瞞的で魅惑的な出現を増大させ、十分に教えられていない魂を征服するでしょう。彼らは、可能であれば、選ばれた人々さえも欺くまでに、偉大な驚異と奇跡を行うでしょう。」これは黙示録

13:14

によって確認されています。「そして彼女は、獣の前で働くよう与えられたしるしによって地の住民を欺き、獣の像を作るようにと地の住民に言いました。剣の傷があって生きていた人。」

27

節は神聖なるキリストの力強く勝利に満ちた姿を思い起こさせ、28節はキリストの介入後に猛禽類に捧げられた「ごちそう」を預言しています。なぜなら、黙示録 19:17-18 と 21が教えているように、彼の到来まで生き残る反逆者たちは絶滅され、「空の鳥」の牧草地に引き渡されるからです。

私はここで、神の創造に対するこのまったく新しい理解を要約します。最初の週を設けることによって、神は闇の夜と光の昼からなる一日の

統一性を定め、太陽がそれを照らすのは四日目からのみとなる。その夜は、将来のイブとアダムの不従順により、地上に罪が確立されることを預言します。この罪の行為が行われるまで、地上の創造物は永遠の特徴を示します。犯した罪によって状況は変わり、地球が地軸を中心に傾き、季節の原理が始まるため、6000年のカウントダウンが始まります。神によって呪われた地上の被造物は、その後、私たちが知っている永続的な特徴を帯びます。罪によって特徴づけられた最初の春に始まった6000年は、イエス・キリストが神の栄光のうちに再臨する6001年の春に終わります。彼の最後の降臨は、7千年紀の最初の年の「最初の月の1日」に達成されます。

とはいえ、私たちの偽りの人間の暦である2021年3月7日は、イスラム過激派によってイラクで迫害されている東方キリスト教徒を教皇フランシスコが訪問したことで宗教的に記念されたばかりである。この会談で、彼はイスラム教徒たちに、彼らにはアブラハムと同じ神がいることを思い出させ、彼らを自分の「兄弟」とみなした。西洋の不信者を喜ばせるこれらの言葉は、選ばれた人々の罪の赦しのために自らの命を犠牲として捧げたイエス・キリストにとって、同様に大きな怒りである。そして、「元十字軍」の指導者によるカトリック「キリスト教徒」による彼らの領土への侵入は、イスラム主義者の怒りを激化させるだけだ。したがって、教皇のこの平和的行動は、ダニエル11章40節で預言されている劇的な結果、つまりイスラム教の「南の王」と教皇イタリアとヨーロッパの同盟国との「衝突」の激化をもたらすだろう。そしてこの観点から見ると、新型コロナウイルス感染症のせいで、フランスとキリスト教起源のすべての西側諸国の指導者たちが引き起こした経済崩壊は、パワーバランスを変化させ、最終的には強行された「第三次世界大戦」の達成を可能にするだろう。まだこれから先のこの9年間の終わりに戻ります。結論として、神は、新型コロナウイルス感染症とその発展による疫病を引き起こすことによって、地上人類の歴史の最後の10年間を特徴づけることになった呪いへの道を開いたということをお忘れなさい。

しかし、2021年3月7日には、フランスのいくつかの都市で、対立するギャング同士や警察当局に対する若者による暴力行為が目立った。これは、一般化した対立への道を裏付けるものである。それぞれの立場は矛盾しているため、相容れないものです。これは、2つの正反対の文化の衝突の結果です。西洋の世俗的自由と、伝統的かつ国民的イスラム教徒である南部諸国のボスやカポの社会に対するものです。新型コロナウイルス感染症と同様、治療法のない悲劇が起きている。

。冬の始まりである10番目の月^(12月)の名前を持つ12月の後の年の変化。夜中（真夜中）に日が変換すること。時間の正確かつ定期的なカウントだけが正の状態を保ちます。このように、美しい神の秩序は罪のために消え、罪深い秩序に取って代わられ、栄光ある創造主なる神が清算のために現れるとき、すなわち最初の六千年の終わりに、順番に消えることになる

。騙された人類のためには2030年の春に、あるいは選ばれた者のために私たちの主であり救い主であるイエス・キリストが真に誕生する2036年の春に。

確立され観察されているこの障害は、人類に重くのしかかっている神の呪いを証明しています。なぜなら、地球が傾いて以来、時間の計算はその安定性と規則性を失い、昼と夜の時間が永遠に増加と減少を繰り返すようになったからです。

創造者である神が救いの計画を立てる順序は、神が人間に提案する霊的な優先事項を私たちにさらに明らかにします。彼は、4000年にわたる人間の地上での経験を経て、身代金としてイエス・キリストにあって自分の命を捧げることによって、自分の崇高な愛を明らかにすることを選びました。そうすることによって、神は私たちにこう言われます。「まず、あなたの従順を示してください。そうすれば、私もあなたに私の愛を示します。」

地球上では、人間は同じ性格の果実を次々と継承していきますが、2020 年に私たちが突入した最後の時代の世代には特殊性があります。75年間にわたるヨーロッパの平和と、最近の遺伝科学の信じられないほどの進化の後、非常に論理的に考えて、アメリカ、オーストラリア、イスラエルからのヨーロッパ人とその子孫は、社会がますます衛生化されており、あらゆる健康問題に対応できると信じていました。新しいのは伝染性ウイルスの攻撃ではなく、先進社会の指導者の行動です。この恐怖行動の原因は、メディアの攻撃、その中でも、無料のインターネット通信を構成する蜘蛛の巣上に出現する新しいメディアやソーシャルネットワークの攻撃を通じて、彼らが地球の人々にさらされることです。多かれ少なかれ透明なディフューザーを見つけてください。こうして人類は、行き過ぎた自由に囚われ、それが呪いとして降りかかるのです。米国やヨーロッパでは、暴力により民族コミュニティが互いに対立します。そこで新たになるのは「バベル」体験の呪いだ。学ばなかったもう一つの否定できない神の教訓、それは必然的に同じ言語を話す一組の夫婦の子孫であるため、この罪深い経験が今日でも見られるまで、人類は神によって作られ、複数の言語と方言によって分けられ、世界各地に散らばっています。地球。そしてそうです、神は創造の最初の7日間の後でも創造をやめませんでした。彼は今でも、自分の選民を呪い、時には祝福するために多くのものを創造しました。イスラエルの子らに砂漠で捧げられたマナはその一例です。

しかし、自由はその核心であり、創造主からの素晴らしい贈り物です。その目的に対する私たちの自由な取り組みはそこにかかっています。そしてそこでは、神はいかなる形でも介入しないので、この一体的な自由は偶然の存在を暗示していることを認めなければなりません。多くの信者がまったく信じていない言葉です。そしてそれらは間違っています。なぜなら、神は創造において多くの部分を偶然に任せており、まず第一に、選ばれた人々の間で啓示された神の天の規範の認識を呼び起こす役割を任せ

ているからです。創造主は選ばれた者を特定すると、彼らを導き、永遠の日の栄えの生活に備えさせる真理を教える責任を負います。人間の誕生時に観察された奇形や怪物は、種の繁殖の過程で多かれ少なかれ深刻な結果を伴う遺伝的エラーを引き起こす偶然の作用を証明しています。種の増殖は生殖連鎖の勢いに基づいており、時折適合誤差が生じます。これには遺伝の原理が含まれるか、または人生の偶然による独立したものもあります。要約すると、もし私が信仰のおかげで自由な人生を手に入れることができたとしたら、その反対に、この信仰の報酬と養いは、神の愛と、私を救うためにすでに取られ、そしてこれからも神が講じてくださった取り組みのおかげである、ということです。

彼の地上の創造の物語では、神によって呪われる日が週の最初に來ます。彼の運命は書かれています：彼の目標は「光を闇から分離する」ことです。

7日目を聖化する神の選択に反するために偽キリスト教徒によって選ばれたこの初日は、黙示録13:15の不従順な反逆者陣営の「しるし」としての役割を完全に果たすことになる。最初の日曜日が神によって呪われているのと同じように、7

日目の安息日は神によって祝福され、聖化されています。そして、この反対を理解するには、神による、神のための聖化のしるしである神の考えを受け入れなければなりません。安息日は7日目に関係しており、この7という数字の「7」は満腹の象徴です。この満ち足りたという言葉の下に、神は私たちの地上の次元を創造した目的、すなわち罪の規制、罪の非難、死と消滅についての考えを置きます。そしてこの計画では、これらのことは毎週の安息日が預言する第7^{千年紀}の間に完全に成就します。だからこそ、神にとってこの目標は、地上の選民の命を救い、ひどい苦しみを犠牲にしてイエス・キリストにおいて自ら成し遂げられる救いの手段よりも重要なのです。

神が伝道

7章8節で「物事の終わりは始まりよりも優れている」と言われるもう一つの理由がここにあります。創世記では、「夜-昼」または「夕方-朝」という順序の連続がこの神聖な考えを裏付けています。イザヤ書14:12

で、神はバビロンの王を装って悪魔にこう言われました。国々の征服者よ、あなたは地に投げ落とされます！

神が彼を「明けの明星」と名付けた表現は、神が彼を私たちの地球系の「太陽」に例えていることを示唆しています。彼は彼の最初の創造物であり、ティルス¹の王エゼに隠れていました。28:12

は彼の最初の栄光について次のように語っています。あなたは彼に言うだろう。「主ヤハウエはこう仰せられる。あなたは完璧な封印を施した。あなたは知恵に満ち、美しさにおいて完璧だった。」

この完璧さは消え去らなければならず、代わりに彼を敵、悪魔、敵対者、

つまり神から非難されるサタンにする反抗的な行動が取られなければなりませんでした。なぜなら、15

節に次のように宣言されているからです。あなたたちの間で不法行為が見つかるまで創造されました。」このようにして、「**明けの明星**」とみなされた者は、不誠実な人間たちに、神聖な創造の「**明けの明星**」、つまりほぼ全世界の西方キリスト教が異教的に崇拝するローマのカルトから神格化された「**征服されざる太陽**」を神として崇めるよう押し付けた。神は創造前から、この最初の天使が自分に反逆することを知っていましたが、それにもかかわらず彼を創造しました。同様に、イエスは死の前日、12使徒の一人が自分を裏切ろうとしていると告げ、ユダに直接こうも言いました。「しなければならぬことは何でも、早くやりなさい！」

」。このことから、たとえそれがご自身の選択に反する場合でも、神はご自分の被造物が自らの選択を表明するのを妨げようとはされていないことが理解できます。イエスはまた、使徒たちに、もしそれが望むのであれば、ご自分から離れるように勧めました。彼の被造物たちに自分自身を表現し、その本性を明らかにする完全な自由を残すことによって、彼はその忠実さを証明して選ばれた者たちを選び、最終的に天上と地上のすべての敵、価値のない者や無関心な者たちを滅ぼすことができるのです。

原罪

初日の残りの部分は、私たちのキリスト教時代において非常に重要です。それは、それが321年3月7日以来回復された「**罪**」を構成し、神の聖化された陣営に対して反逆を始めた陣営の印となるからです。しかし、この「**罪**」は、**アダムとイブ以来、人類を相続によって死刑に定めている原初の「罪」**を忘れさせてはなりません。御霊の啓発を受けて、このテーマをきっかけに、私は創世記に隠された重要な教訓を発見することができました。観察のレベルでは、この本は第 1 章、第 2 章、第 3 章で創造の起源を明らかにしています。これらの数字の象徴的な意味は依然として完全に正当化されています。 2 = 不完全。 3 = 完璧。これには説明が必要です。 Gen.1 は、最初の 6 日間の作成に関係します。彼らの「**夕方朝**」という定義は、罪と悪魔の支配領域となる地球の呪いがある初めて意味を持つものであり、それが第 3 世代のテーマとなり、それがなければ「**夕方朝**」という表現は意味を持たなくなる。地上レベルで。説明を行うことによって、第 3 章はこの神の啓示に完全性の印を押します。同様に、第 2 世代では、7 日目の安息日、より正確には 7 日目の神と人間の安息のテーマも、エバとアダムが犯した「**原罪**」の後でのみその意味を持ちます。

Gen.3では、それがその存在理由となっています。したがって、逆説的で

で与えられた正当化がなければ、神聖化された安息日は不完全さの「2」の象徴に値します。これらすべてのことから、地球は悪魔とその悪魔たちに捧げられるために神によって創造され、彼らの魂の邪悪な実が物質化して神、天使、人間すべての目に現れるようになったことが明らかになる。男たちは自分の側を選ぶ。

地上の「罪」の呪いを預言している、と指摘することになります。なぜなら、地球自体は神によって呪われており、したがって、それは死の瞬間からのみ始まるからです。そしてその過程がそれを襲い、その6000年の時間と7000年紀の1000年が意味を持ち、説明があり、正当化される。これに注目するのは適切です。地上の創造の前に、天ではすでに悪魔の陣営と神の陣営が対立していますが、個人の選択が決定的なものとなるのはイエス・キリストの死だけです。それは、それ以来地上の創造で死ぬと宣告された反逆者を天から追放することによって明らかになるでしょう。さて、天国では、神は天使たちの生活を「夕方朝」に交代で組織しませんでした。これは、天国が神の永遠の規範を表しているためです。それは選ばれた者たちに永遠に普及し、存続するであろう。これらのデータに直面して、罪が犯される前の地球はどうでしょうか？

「夕方朝」の交替とは別に、その規範は天国の規範でもあり、明らかに人生は永遠の規範の中で展開します。ビーガンの動物、ビーガンの人間、そして罪の代償である死がなければ、日々が続き、それは永遠に続く可能性があります。

しかし創世記 2 では、神は私たちに、神と人間の休息で 7 日目に終わる週の順序を明らかにしました。この休息という言葉は「やめる」という動詞から来ており、人間が行う働きだけでなく神が行う働きにも当てはまります。罪を犯す前は、神も人間も疲れを感じることはできなかったことがわかります。アダムの体には、いかなる種類の病気、疲労、痛みもありませんでした。さて、7日間の週は次々と続き、永遠のサイクルのように再生産されましたが、「夕方朝」の連続が神の国の天の標準との違いを示していました。したがって、この違いは、偉大な創造主である神によって設計されたプログラムを預言的に明らかにすることを目的としていました。

「ヨム・キプール」または「贖罪の日」の祭りがヘブライ人の中で毎年更新され、イエス・キリストの死によって達成される贖いを通して罪の終わりが預言されたのと同じように、毎週の安息日は7日目の到来を預言しています。千年紀、その時、神とその選ばれた者たちは、反逆者たちが死に、悪が打ち負かされたので、真の安息に入るであろう。しかし、選ばれた人々は依然として「罪」に関心を持っています。なぜなら、彼らはキリストとともに「罪」と罪人を裁かなければならないからです。罪人はその時には死すべき眠りに就いているでしょう。これが、前の6日間と同様に、7日が「罪」のサインの下に置かれ、一週間の7日間をカバーし、それに関

係する理由です。そして、罪人たちが「**第二の死の火**」で焼き尽くされた後、八千年紀の初めになって初めて、

「**罪**」のない永遠が新しくなった地球上で始まるのです。 7
日間は罪によって特徴づけられ、7000 年を預言するのであれば、この
7000 年の数え方は、創世記 3
章で明らかにされた罪の確立からしか始まりません。したがって、罪のない地上の日々は、「**夕暮れの朝**」や「**闇の光**」の連続の規範や論理には含まれず、この時間は「**罪**」がないので、計画され預言された7000年に入ることができません。」週7日制。

この教えは、ダニエル 7:25
で神がローマ教皇庁によるこの行動の重要性を強調しています。「**神は時代と法律を変える計画を立てるだろう**」。神によって確立された「**時代の変化**」は、神の「**律法**」の毎週の安息日の預言的性格を発見することを不可能にする結果になります。そしてこれは、コンスタンティヌス1世以来、

321年3月7日以来、7日ではなく初日に毎週の休息を命じることによってローマが行ってきたことです。ローマの命令に従うことによって、罪人はアダムとイブから受け継いだ元の「**罪**」から解放されるのではなく、さらに追加の「**罪**」を今度は**自発的に**負うことになり、それが神に対する罪悪感を増大させます。

夕方、朝」または「**暗闇の光**」という時間の順序は神によって選ばれた概念であり、この選択に従うことは、聖書の預言の神秘へのアクセスを促進し、許可します。人間にこの選択を強制するものは何もありません。その証拠は、人類が日の変わり目を真夜中、つまり春の日没から 6 時間後に迎えることを選択したということです。これは、十人の処女の寓話に登場する花婿であるキリストの輝かしい再臨には遅すぎて目覚める人々の陣営を預言しています。したがって、神が与える微妙なメッセージは、神の知的な範囲を超えています。しかし、神に選ばれた者たちにとって、神の時の秩序は彼のすべての預言、特にその冒頭でイエスがご自身を「**アルファとオメガ**」、「**始まり、あるいは始まりと終わり**」であると表わす黙示録の預言を照らします。私たちの人生で過ぎ行く毎日は、創世記 1、2、3

で要約されている神の計画を預言します。なぜなら、「**夜**」または「**暗闇**」は創世記 1 で示された 6 つの世俗的な日を表し、一方で創世記 2 で確立された神の安息が告げるものだからです。

「**光**」の時間。ダニエル書 8:14
によると、キリスト教時代はこの原則に基づいて 2
つの部分に分けられます。それは、安息日に対する「**罪**」が確立された
321 年と、安息日に対する「**罪**」が確立された 1843
年との間の霊的な「**暗闇**」の時代です。この日から2030年春のイエス・キリストの再臨まで、選民にとって「**光**」の時が始まります。第3世代のよ

うに、全能の創造主である神は、選民と反逆者、「羊と山羊」を裁くために来られます。

」と彼は「蛇と女とアダム」の間で判断した。同様に、黙示録では、「七つの教会への手紙、七つの封印、七つのラッパ」のテーマは、これらのテーマのそれぞれの最初の六段階については「闇」を預言し、第七段階と最後の段階については神の「光」を預言しています。

1991年に、この最後の「光」、つまり1982年以来イエスが私に与えてくださった光であるアドベンティズムが、制度上のアドベンティズムによって公式に拒否されたことにより、黙示録3章17節の「ラオデキア」に宛てた手紙の中で彼はこう言われたのは本当です。

「なぜなら、あなたはこう言うからです。私は金持ちで、裕福で、何も必要としません。そして、あなたは、自分が惨めで、惨めで、貧しく、盲目で、裸であることを知らないからです...

」。公認アドベンチスト派は、ペテロ第一

4章17節にある次の言葉を忘れていました。さて、それが私たちから始まるとしたら、神の福音に従わない人々はどうなるのでしょうか?」この制度は1863年から施行されており、イエスは1873年の「フィラデルフィア」時代にその設立を祝福されました。神の原則「夕方朝」または「明るい闇」によれば、最後で第7の時代は「ラオデキア」という名前で象徴されています。

「この最後の時代には、偉大な神聖な「光」の時代となるはずであり、現在の働きはその証拠となる。この最後の時代に、公式の世界アドベンチスト機関を犠牲にして、預言された奥義を照らす偉大な「光」が実際に到来したのである。

「ラオデキア」という名前は、「裁かれた人々、または裁きの人々」を意味するため、十分に正当化されます。主に属さない人、またはもはや主に属さない人は、「神に呪われた日」の支持者に加わると非難されます。ローマの「日曜日」に対する神の正当な非難を神と分かち合うことができないことを示したので、彼らにとって安息日はもはや洗礼の祝福された時ほど重要なものではなくなるでしょう。イエス・キリストが召使エレン・G・ホワイトに与えたメッセージは、彼女の著書『初期の著作』と最初の幻の中で、この状況を次のように訳しています。邪悪な世界、そして私たちは彼らに二度と会うことはありません。」

「光」の時代を預言しており、この創世記の章は「七日目」の聖化から始まります。それはこの25

節で終わります。「男も妻も裸でしたが、恥ずかしくありませんでした。

」これら2

つのテーマの関連性は、彼らの肉体的な裸の発見が、彼らが犯すであろう

「罪」の帰属の結果であることを示しており、それは第3

世代で詳述されており、従って死すべき霊的な裸の原因として現れています。

この教えを「ラオデキア」の教えと比較すると、安息日が人を「裸」

にする「罪」と結びついていることがわかります。したがって、この最後の文脈では、安息日の実践はもはやキリストの恵みを維持するのに十分ではありません。なぜなら、1982年から1991年の間に公式のアドベンチスト当局に安息日の完全な預言の光を提供したことによって、イエス・キリストの要求が増大し、安息日がこれを望んでいるからです。聖なる安息日を実践することによって、神の恵みに値する選ばれた者が、ダニエルと黙示録に預言されている啓示のために、自分の興味、自分の時間、自分の人生、そして魂のすべてを捧げる時代。だけでなく、黙示録 11 章 3 節によると、その「二人の証人」を構成する啓示された聖書全体にわたっても同様です。

地上で与えられた神の証し

それは重要であると同時に、神がイエス・キリストの形で人類を訪れたことは、モーセの時代における神の前回の訪問を私たちに忘れさせてはなりません。なぜなら、神はこの遠い文脈の中で、地上の次元の起源を彼に明らかにされたからです。そして、神から与えられた啓示として、創世記の記述は使徒ヨハネに啓示された黙示録の記述と同じくらい重要です。地上の生活を組織するために神が選んだ形は、神が完全な自由を与える被造物たちに対する愛の計画を預言しており、その結果、被造物は神の愛に応じて神とともに永遠に生きるか、あるいはそれを拒否して死の虚無の中に消えることができるのです。彼の高額報酬の条件。

その姿に自由な対応者からの愛を求めて「神の似姿（創世記 1:26-27）」として提示されているからです。それは絶対的な孤独の一つでした。これは彼にとって耐え難いものとなり、自分の生き物たちに与えようとしている自由の結果に耐える覚悟ができたほどでした。アダムが死の眠りに就いている間に、アダムの肋骨の一本からイブが創造されたことは、彼の忠実な選民からなる選ばれた者である彼の教会の創造、イエス・キリストにおける彼の死の贖罪によって収穫された果実を預言しています。これは、神がご自分から出て、イブという名前が「命」を意味する女性に与えられた「助け手」の役割を正当化するものです。選ばれし者は永遠に「生きる」ことになり、地球上では、永遠の宇宙に完全に共有され、妨げられない愛を確立することを目的としたプロジェクトの達成に人類が協力するための「助け」を神に提供するという使命を持っています。

不従順の罪は、イブを通じて、あるいはこの原罪を受け継ぐ選ばれた者たちの「女性」の象徴を通じて人類に入り込みます。また、アダムのように、エバへの愛から、イエス・キリストにあって、神は人間となり、選ばれた者の代わりに、彼女の罪にふさわしい死刑を分かち合い、負うのです。したがって、創世記の物語は、私たちの起源とその状況を明らかに

する歴史的証言であると同時に、全能の創造主である神の偉大な愛のプロジェクトの救いの原則を明らかにする預言的証言でもあります。

創世記 1 章で言及されている創造の最初の 6 日間、つまり神が地上で選ばれた人々を選ぶために神が留保しておいた 6,000 年間を預言した 6 日間の後、創世記 2 章では、永遠の安息日のイメージの下で、無限の 7 日目が開かれて歓迎されます。実績があり、選ばれた者。

神はご自身の計画の結果、6000年にわたって現れるであろうご自身の選ばれた人々の名前を最初からご存じです。彼は、私たちの地上の次元を創造することなく、反抗的な天使たちを裁き、滅ぼすすべての力と権威を持っていました。しかし、彼はまさに、彼を愛し、彼が愛する生き物たちを尊重しているからこそ、この目的のために作られた地球上で普遍的なデモンストレーションを組織しているのです。

神は何よりも真理の原則を高めます。詩篇 51 章 6 節で発表されているように、イエスはご自分の選民が神の真理の基準に適合するように「新しく生まれた」、または「真理から生まれた」と定義しています。ヨハネ 18:37 によると、彼自身が「真理を証しする」ために来て、黙示録 3:14 で「真実な人」という名前で自分自身を示しています。この真実の原則の高揚と美化は、嘘の原則とは**絶対的に反対であり、この 2 つの原則はさまざまな形をとります**。嘘の原理は、その歴史を通じて常に地球の住民を誘惑してきました。現代では、嘘をつくことが存在の標準になっています。これはトレーディングマインドでは「ブラフ」という用語で採用されていますが、それでも、ヨハネ 8:44 によれば、それは悪魔の果実、「偽りの父」です。宗教レベルでは、関係する人々や地球上の場所に応じて、嘘は複数の異なる宗教の偽物の形で現れます。そして、キリスト教の信仰自体が、その暗い偽物があまりにも多いため、「混乱」（=バベル）の完璧なイメージとなってしまったのです。

嘘は科学的に教えられています。なぜなら、その権威主義的なアプローチに反して、科学的思考は、その種の進化理論や科学者たちが地球の存在に帰する何百万年、何十億年もの進化論の本当の証拠を提供することができないからです。この科学的考えに反して、創造主である神の証言は、神の現実性を示す多くの証拠を提供します。なぜなら、地上の歴史は神の行動を証言しており、その最初の例は水の洪水であり、平原や地表での海洋化石の存在によって証明されています。たとえ地球上で最も高い山の頂上であっても。この自然の証言に加えて、人類の歴史が残した証言、ノアの生涯、アブラハムの生涯、エジプトの奴隷制からのヘブライ人の解放、ユダヤ人の誕生など、その歴史の生きた証人が加わります。世界の終わり;イエス・キリストの奇跡、十字架、復活を目撃したイエス・キリストの使徒たちの目撃証言もあります。これにより彼らは死の恐怖を忘れ、自

分たちの師であり模範となったナザレのイエスに従って殉教の道を歩みました。

この「殉教」という言葉と呼び起こすことで、私はここで説明を始めなければなりません。

注意: 殉教と刑罰を混同しないでください

この

2

つは外観が同じであるため、混同されやすいです。しかし、この混乱は深刻な結果をもたらす。なぜなら、この懲罰措置は神に真に選ばれた者に課せられる危険があり、逆に悪魔の子は非常に欺瞞的な神のために殉教させられる可能性があるからである。したがって、明確に理解するには、この原則から始まる次の分析を考慮する必要があります。まず、殉教とは何ですか?という質問をしてみましょう。この言葉は、証人を意味するギリシヤ語の「マルトウス」に由来しています。証人って何ですか?それは、自分が見たこと、聞いたこと、またはある主題に関して理解したものを、忠実に報告する人、あるいはそうでない人です。ここで私たちが興味を持っている主題は宗教的なものであり、神の証しをする人々の中には真実の証人と偽証人がいます。確かなことは、神が両者の間に違いをもたらすということです。真実は彼に知られており、それを祝福しているのは、この真実の証人が、明らかにされたすべての真実を「行い」で実践することによって自分が忠実であることを示そうと努めており、真実を受け入れるまでこの道を粘り強く続けているからです。そして、この死は真の殉教です。なぜなら、死に捧げられた命は、神がその時代に要求した聖さの基準に適合していたからです。提供された命がこの適合性を欠いている場合、それは殉教ではなく、神の保護と祝福の恩恵を受けられないため、滅びのために悪魔に引き渡された生き物を襲う罰です。各時代に神が要求する真理の基準への適合に応じて、「殉教」の特定は、終末の時を対象とする預言の

中で明らかにされた神の裁きについての私たちの知識に依存します。それがこの作品の目的であり主題です。

真実には反逆的な心を変える力はない、ということを理解することが重要です。神によってサタンと名付けられた最初の創造された天使の反逆以来の経験がそれを証明しています。真理は、選ばれた人々、つまり真理を愛し、イエス・キリストにあって神とともに戦う用意ができている人々が自然に惹かれる原則であり、それは神を傷つける嘘である。

結論として、神の啓示は、最高の状態と最悪の状態で生きた6000年の経験と証言を経て、段階的に構築されています。6000年という時間は短いように思えるかもしれないが、自分の人生の何年かにしか真剣に関心を持たない人間にとって、実際にはそれは神が何世紀にもわたって、より正確には6000年にも及ぶことを可能にする十分に長い時間である。

、彼の世界的なプロジェクトの成果のさまざまな段階。神はもっぱらイエス・キリストにおいて、終わりの時に選ばれた者たちに、ご自身の奥義と働きに関して、この終わりの時に備えて定められた明確な理解を与えておられます。

創世記: 重要な預言の要約

この理解において、創世記の記述は、ダニエルと黙示録の聖書の預言への基本的な鍵を提供します。そしてこれらの鍵がなければ、この理解は不可能です。これらのことは、預言の研究中に必要に応じて思い出されるでしょうが、今後、私たちは「深海、海、地、女」という言葉が、その啓示「黙示録」の中で神の思想の特定の概念を伝えることになることを知らなければなりません。それらは地球創造の連続する 3 つの段階に関連しています。

「深淵」とは、生命が存在せず、完全に水に覆われた地球を指します。そして、要素が分離した2日目、死の同義語および象徴としての「海」は、5日目は海洋動物だけが生息するようになります。その環境は、空気を呼吸するために作られた人間にとっては過酷です。

「地」は「海」から出てきて、5日目には動物が住み、最後に6日目には「神のかたちに造られた男」と「女」が住み着きます。人間の肋骨に。男性と女性は一緒に2人の子供を妊娠します。最初の「アベル」、霊的に選ばれた人のタイプ（アベル=父は神）は、彼の年長の「カイン」、肉欲的で

物質主義的な人のタイプ（＝獲得）によって嫉妬から殺され、こうして典型的な人の運命を予言する。選ばれた者、イエス・キリストとその選ばれた者たちは、「カイン」、ユダヤ人、カトリック教徒、プロテスタント、すべての「神殿の商人」のせいで苦しみ、殉教者として死ぬことになるが、彼らの連続的かつ攻撃的な嫉妬は地上の歴史の中で示され、達成されてきた。したがって、神の御霊が与える教訓は次のとおりです。

「深淵」から、魂の滅びに導く偽りのキリスト教宗教の象徴が「海と地」に次々と現れます。選出された議会を指定するために、彼は彼女に「女性」という言葉を与えます。彼女が神に忠実であれば、

「男性」という言葉によって預言されたキリストご自身の象徴である「子羊」の「妻」です（アダム）

）。不貞をすれば「女性」のままだが、「売春婦」のイメージを帯びる。これらのことはすべて、この研究で提示された詳細な研究で確認され、その重要性が明らかになるでしょう。

2020年の現在、ダニエル書と黙示録の預言で預言されている出来事のほとんどは歴史の中ですでに成就しており、それらは人々に知られているということは容易に理解できるでしょう。しかし、彼らは神が彼らに与えた霊的な役割を特定されていませんでした。歴史家は歴史的事実に注目しますが、それを解釈できるのは神の預言者だけです。

信仰と不信仰

本来、人間はその起源から信じるタイプです。しかし、信念は信仰ではありません。人は常に、神や神々、上位の霊の存在を信じてきました。彼らは彼らに仕えなければならず、彼らの怒りによって引き起こされる損害を被らないように彼らを喜ばせなければなりません。この自然な信念は、何世紀にもわたって、何千年も、何千年にもわたって現代に至るまで広がり、科学的発見が西洋人の脳を支配し、それ以来、信じられなくなり、不信仰になった。この変化は主にキリスト教起源の人々を特徴づけていることに注意してください。それは同時に、東洋、極東、アフリカでは、目に見えない霊に対する信仰が残っていたからです。これは、これらの宗教的儀式を実践する人々が目撃した超自然的な現象によって説明さ

れます。アフリカでは、目に見えない霊の存在を示す明確な証拠があり、不信感を禁じられています。しかし、これらの人々が知らないことは、彼らの間で強力に現れる霊が、実際にはすべての生命の創造者である神によって拒絶され、執行猶予付きの死刑を宣告された悪魔の霊であるということです。これらの人々は西洋人のように不信仰でも不信仰でもありませんが、彼らを誘惑し圧制的な支配下に置く悪魔に仕えているので、結果は同じです。彼らの宗教性は、人類の起源以来の特徴である偶像崇拝的な異教的なものです。イブは彼の最初の犠牲者でした。

西洋では、不信仰は実際には選択の結果です。なぜなら、自分のキリスト教徒の起源を知らない人はほとんどいないからです。そして、共和制の自由の擁護者の中には、聖書の言葉を引用して、聖書の存在を知らないわけではないと証言する人もいます。彼らは、それが神について証言している輝かしい事実を知らないわけではありませんが、それにもかかわらず、それを考慮に入れないことを選択しています。御霊が不信仰と呼ぶのはこの種の不信仰であり、真の信仰に対する絶対的な反逆です。なぜなら、地球全体、特にアフリカの人々の超自然的な現象において生命が与えてくれる証拠を考慮に入れるなら、人は自分の不信を正当化する可能性がないからです。したがって、悪魔によって実行される超自然的な行為は西洋の不信仰を非難します。創造主である神はまた、自らの支配下にある自然によって生み出される現象を通して力を持って行動し、自らの存在の証拠を与えます。地震、火山の噴火、破壊的な高波、致死性の疫病などですが、現在ではこれらすべてが、神聖な起源を覆い隠し、破壊する科学的な説明を受けています。この信仰の大きな敵である目には、人間の脳を納得させる科学的な説明が加えられ、人間の脳を破滅に導く選択を促します。

神はご自分の被造物に何を期待されているのでしょうか？神は彼らの中から彼の人生観を承認する人、つまり彼の考えを受け入れる人を選びましょう。信仰は手段ではありますが、目的ではありません。これが、ヤコブの手紙 2 章 17 節で、それが果たさなければならない「行いのない信仰」が「死んだ」と言われている理由です。なぜなら、真実の信仰が存在するなら、偽りの信仰も存在するからです。善悪はすべての違いを生みますが、神は従順と不従順を区別することに困難を感じません。いずれにせよ、彼の選択の目的は独特であり、彼の永遠の命の申し出はイエス・キリストを通してのみ得られるため、彼はその意見が彼の被造物のそれぞれの永遠の未来を決定する唯一の裁判官であり続けます。地上での通過は、この永遠の選ばれし者の選択の可能性を提供するためにのみ正当化されます。信仰は、途方もない努力や犠牲の成果ではなく、その生き物が誕生から獲得したかどうかに関係なく、自然な状態の成果です。しかし、それが存在する場合、それは神によって養われなければなりません、そうでなければそれは死んで消えます。

本当の信仰は稀なものです。なぜなら、キリスト教の公式宗教の欺瞞的な側面に反して、天国の扉がその被造物に開かれるためには、被造物の墓の上に十字架を置くだけでは十分ではないからです。そして、これは見落とされているように見えるので指摘しますが、イエスはマタイ 7:13-14

でこう言いました。「狭い門を通過して入りなさい。というのは、滅びに至る門は広く、その道も広く、そこから入る者が多いからである。

しかし、いのちに至る門も道も狭く、それを見つける人はほとんどいません。»

この教えは、聖書のバビロンへのユダヤ人の追放の例でさらに確認されています。なぜなら、神はダニエルとその3人の仲間と5人の強力な王だけを選出にふさわしいとみなされるからです。そしてこの時代に生きるエゼキエル。それから私たちはエゼキエル書 14:13-20

で次のように読みます。もしわたしが人間と獣をそこから滅ぼし、その中にノア、ダニエル、ヨブの三人がいたとしたら、彼らは義によって彼らの魂を救うであろう、と主なる主は言われる。もし私がこの国を野獣を徘徊させて人口が減り、その国がその獣たちのせいで人が通らない砂漠になって、その真ん中にこの三人の男がいれば、私は生きていだろう！主ヤハウエは言われる、彼らは息子や娘を救おうとせず、彼らだけが救われ、その土地は砂漠になるだろう。あるいは、もし私がこの地に剣を持ってきたとしたら、「この地に剣を走らせましょう！」と言ったとしたら。もし私が人間と獣を絶滅させ、その真っ只中にこの三人の男がいれば、私は生きていだろう！主ヤハウエは言われる、彼らは息子や娘を救わない、彼らだけが救われるだろう。あるいは、もし私がこの地に疫病を送り込んだとしても、もし私が死すべき運命を通してこの地に対して怒りを注ぎ、そこから人間や獣を根絶やしにし、その中にノア、ダニエル、ヨブがいたとしても、私は生きています！主ヤハウエは言われる、彼らは息子や娘を救うのではなく、義によって自分の魂を救うだろう。»

こうして私たちは、大洪水の時、箱舟に守られた8人の中で救いに値するのはノアだけだったことが分かります。

イエスはさらにマタイ 22:14 でこう言われました。»

その理由は、私たちの心の中で第一位になろうとする神が要求する高い聖さの基準によって単純に説明されます。この要件の結果は、人間をすべての上に置く世界についてのヒューマンストの考え方に反するものになります。使徒ヤコブはこの反対に対して次のように警告しました。世の愛は神に対する敵意であることを知らないのですか？したがって、世の友人でありたいと願う者は、自らを神の敵とすることになる。» イエスはマタイ 10:37 でもう一度こう言われました。彼の父親か母親は私よりも私にはふさわしくない、そして愛する人は彼の息子か娘は私よりも私にはふさわしくありません。」また、私と同じように、イエス・キリストが要求するこの宗教的基準に応じるよう友人を招待する場合、その友人

があなたを狂信者と呼んでも驚かないでください。これが私に起こったことであり、その後、私にはイエスだけが私の真の友人であることがわかりました。彼は黙示録 3:7

の「真の人」です。また、私たちはあなたを原理主義者と呼びます。なぜなら、あなたは神に対して正直であることを示しており、従順を通じて神の最も神聖な律法を愛し、尊重しているからです。これは部分的には、主イエスを喜ばせるために支払うべき人間の代償であり、主イエスが要求する私たちの自己犠牲と完全な献身に値するものです。

信仰により、私たちは神の驚異的な計画の大きさを知るまで、神の秘密の考えを受け取ることができます。そして、彼の計画全体を理解するために、選ばれた者は、地上での経験に先立って行われた天使たちの天上での生活を考慮に入れる必要があります。なぜなら、この天上の社会では、地上の場合のように、被造物の分割や神に忠実な善良な天使の選択が、十字架につけられたキリストへの信仰やキリストの拒絶に基づいて行われたわけではないからです。このことは、普遍的なレベルで、罪のないままであったキリストの磔刑は神にとって悪魔とその追随者を罪に定める手段であり、地上においてはイエス・キリストへの信仰が神の愛を抱くために神が選んだ手段であることを裏付けるものである。彼を愛し、感謝する選ばれた人々。彼の完全な自己犠牲の実証の目的は、彼の存在感を共有しない反抗的な天上および地上の生き物を法的に死刑に処することができるようにすることでした。そして、神は地上の生き物の中から、彼の考えを受け入れ、彼の行動と判断を承認する人々を選びます。彼らは彼の永遠を分かち合うのにふさわしいからです。最終的に、彼は天上と地上のすべての生き物に与えられた自由によって引き起こされた問題を解決するでしょう。なぜなら、この自由がなければ、彼が選んだ生き物への愛は価値がなく、不可能になるからです。確かに、自由がなければ、この生き物は自動化された行動をするロボットにすぎません。しかし、自由の代償は、最終的には天と地の反逆的な生き物の絶滅となるでしょう。

このように、信仰は「主イエスを信じれば救われる」という単純な考えに基づいていないことが証明されています。これらの聖書の言葉は、「信じる」という動詞が意味するもの、つまり真の信仰を特徴づける神の法則への従順に基づいています。神にとっての目標は、愛から神に従う生き物を見つけることです。神は天上の天使の中から何人かを見つけ、地上の人間の被造物の中から何人かを選び、恵みの時が終わるまで何人かを選び続けるでしょう。

天候に合わせた食事

人間の体が寿命を延ばすために栄養を必要とするのと同じように、その霊に生まれる信仰にも霊的な栄養が必要です。すべての人間は、イエス・キリストにおいて神から与えられた愛の表れに敏感で、自分のために何かをしてあげたいという願望を感じます。しかし、彼が私たちに何を期待しているのかが分からない場合、どうすれば彼を喜ばせることができるでしょうか？この質問に対する答えが私たちの信仰の糧となります。ヘブライ

11:6

によれば、「信仰がなければ神を喜ばせることは不可能である」からです。しかし、この信仰は、それが彼の期待に一致することによって、彼にとって依然として生き生きとし、楽しいものとされなければなりません。全能の主なる神がその仕上げ者であり、裁き手であるからです。多くのキリスト教信者は天の神と良好な関係を築くことを切望していますが、彼らの信仰が適切に養われていないため、この関係は依然として不可能です。この問題に対する答えは、マタイ 24 章と 25 章で与えられています。イエスは、今回はご自身の神性の栄光の中で二度目に現れる直前の、私たちの終わりの日に教えを集中されています。彼は、たとえ話のイメージを重ね合わせることによってそれを説明しています。マタイ 24:43 ~ 51 の夜泥棒のたとえ。マタイ 25:1 から 12 の 10 人の処女のたとえ。マタイ 25:13 ~ 30 のタラントのたとえ。マタイ 25:31 から

46

の羊とヤギのたとえ話。これらのたとえ話の中で、「食べ物」についての言及は

2

回出てきます。夜泥棒のたとえ話と羊とヤギのたとえ話です。イエスが「お腹が空いていたのに、何か食べるものをくれた」と言われたとき、イエスは私たちに霊的な食べ物について話しているように見えますが、それがなければ人間の信仰は死んでしまいます。

「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言葉で生きるからである。マタイ

4:4」。信仰の食物の目的は、人が永遠に生きる権利を失う原因となる黙示録 20 章の「第二の死」から人を守ることです。

この考察の一環として、この夜の泥棒のたとえ話に視線と注意を向けてください。

V.42:

「だから、気をつけなさい。あなたの主がいつ来るかわからないのだから。」

イエス・キリストの再臨というテーマが定義され、その「待ち望み」が 1831 年から 1844 年にかけて北米アメリカ合衆国で霊的な目覚めを引き起こします。それは「アドベンティズム」と呼ばれ、この運動のメンバーは彼ら自身が指名したものです。同時代人の間では「アドベンチスト」という用語で呼ばれています。ラテン語の「アドベントゥス」から取られた言葉で、「出現」を意味します。

V.43:

「このことをよく知っておいてください。もし家の主人が、夜何時に泥棒が来るかを知っていたら、彼は見張って、自分の家に侵入させないでしょう。」

この節の「家の主人」とはイエスの帰りを待っている弟子のことであり、「泥棒」とはイエスご自身のことを指します。この比較を通して、イエスのご自分の再臨の日を知ることの利点を私たちに示されました。したがって、神は私たちにそれを発見するよう勧め、私たちが彼のアドバイスを耳を傾けることで、私たちと神との関係が決まります。

V.44:

「だから、あなたも準備をしておいてください。人の子は、あなたが考えていないときに来るからです。」

この節では、動詞の未来時制を修正しました。ギリシャ語の原文では、これらの動詞は現在時制であるためです。実際、これらの言葉は、イエスがこの問題について質問する現代の弟子たちに語ったものです。主は終わりの時、この「アドベンチスト」のテーマを用いてクリスチャンをふるいかけ、預言的な信仰を試みられます。この目的のために、彼は時間をかけて、4

つの「アドベンチスト」の期待を連続的に整理します。毎回、御霊によって与えられる新たな照明によって正当化され、最初の 3 つはダニエルと黙示録の預言書に関するものです。

V.45:

「それでは、主人が民に適切な時に食物を与えるために任命した、忠実で思慮深い僕とは誰でしょうか。」

「食べ物」は今、あなたの目の前にあるのですから、判断を間違えないように注意してください。はい、私が「ダニエルと黙示録の説明」と名付けたこの文書は、あなたの信仰を養うのに不可欠なこの霊的な「糧」を構成するものです。なぜなら、この文書は、あなたが合法的に尋ねることができる質問に対するすべての答えをイエス・キリストから提供してくれるからです。

、そしてこれらの答えの先には、イエス・キリストの再臨の本当の日付な

ど、予期せぬ啓示があり、それは4番目で最後の「アドベンチスト」で2030年の春まで私たちに約束されています。

私はこの聖句に個人的に関心を持っており、真理の神に対する私の忠実さと思慮深さの成果であるこの文書を提示します。なぜなら、私はイエス・キリストの再臨に驚きたくないからです。イエスはここで終末の計画を明らかにします。今回彼は、彼の栄光の帰還を忠実に待つ選ばれた人々の信仰を養うのにふさわしい「食」を計画しました。そしてこの「食べ物」は予言的です。

V.46:

「そのしもべは幸いです、主人が到着したときにそうしているのを見つけるでしょう！」

ここで彼の輝かしい帰還の背景が確認されます。それは、4番目の「アドベンチスト」の期待の背景です。実際、当該のしもべは、明らかにになった神の思い、人々の信仰に対する神の裁きを知り、すでにとっても喜んでいますが、しかし、この至福の言葉は、イエス・キリストが事実上再臨されるまで、この最後の神の光を受けてそれを広め、世界中に散在する選ばれた人々にそれを分かち合うすべての人々に広がり、関係するでしょう。

V.47:

「真実を言いますが、彼はそれを自分の全財産の上に確立するでしょう。」

主の財産は、主が戻ってくるまで、霊的価値観に関係します。そして、僕はイエスにとって、その霊的な宝の守護者となる。その神託とその明らかにされた光の独占的な保管所。この文書全体を読めば、私が聖書の預言的な啓示に「宝」という名前を付けているのが誇張ではないことがわかるでしょう。

「第二の死」から身を守り、永遠の命への道を開く啓示に、他にどんな名前を付けることができるのでしょうか。なぜなら、それは信仰と救いにとって致命的な疑いの可能性を消散させ、消滅させるからです。

V.48:

「しかし、もしそれが、心の中で『主人が来るのが遅れている』と言うような邪悪な召使であれば、」

神が創造した生命は二元的なものです。すべてのものには絶対的な反対があります。そして神は人間に 2 つの道、彼らの選択を導く 2 つの道、すなわち生と善、死と悪を提示しました。小麦ともみがら。羊とヤギ、光と闇。この聖句では、御霊は邪悪な召使を標的としています、それでも召使であり、神によって養われていない偽りの信仰、そして何よりも、終わりの時代に最終的にアドベンチスト信仰そのものに到達し、それに関わる偽りのキリスト教信仰を示しています。

1982年から1991年の間にイエス・キリストに示され、1994年の来臨を告げたものをイエス・キリストが拒否したため、イエス・キリストからの光はもはや受けられなくなり、この再臨主義は1991年11月に神の使者の放射に

よって引き起こされた邪悪な実を結びました。イエスが「**自分の中でこう言っている**」という心の隠された思いを明らかにしていることに注目してください。なぜなら、外見上の宗教的行為は極めて欺瞞的なものだからです。宗教的形式主義は、真理への熱意に満ちた真の生きた信仰に取って代わります。

V.49:

「もし彼が仲間を殴り始めたり、酔っ払いたちと飲食したりしたら、」

このイメージはこれまで少し予想されていたものですが、放射線は、平和な時代に、来るべき本当の迫害を表現し、それに先立つ反対派と戦いを明確に表現しています。それは時間の問題です。

1995年以来、組織的なアドベンティズムは「**大酒飲みと飲食**」を行っており、エキュメニカル同盟を結ぶことでプロテスタントやカトリックと同盟を結んでいる。なぜなら、黙示録 17:2 では、「**大いなるバビロン**」と呼ばれるカトリックの信仰と、「**地**」と呼ばれるプロテスタントの信仰を対象として、御霊はこう言われます。「**地の王たちが淫行に身を委ねたのは彼女とともにである**」そして、**地球の住民がそれを造ったのは彼の淫行のワインである。酔った。**」

V.50:

「...このしもべの主人は、**予期せぬ日、予期せぬ時刻にやって来ます。**」

アドベンチスト派の第 3 の期待と 1994 年の日付に関する光の拒絶の結果は、最終的には、イエス・キリストの真の再臨の時、つまり神の計画に対する第 4 のアドベンチストの期待が無知という形で現れます。この無知はイエス・キリストとの関係が断絶した結果であるため、次のことが推測できます。この悲劇的な状況に置かれたアドベンチストはもはや神の目には映っておらず、神の判断では「アドベンチスト」ではありません。

V.51:

「...彼は彼を引き裂き、**偽善者たちと自分の分を与えるだろう。泣き叫び、歯ぎしりが起こるであろう。**」

この像は、神を裏切った偽りの僕たちに神が与えるであろう怒りを表現しています。私はこの節で、ダニエル書 11 章 34 節で御霊が偽クリスチャンを指す「偽善者」という用語に注目しますが、預言の対象となった時代の文脈を理解するには、より広範な読み方が必要です。これには 33 節と 35 節が含まれます。そして彼らの中で最も賢い者が多くの人々に教えるでしょう。剣と炎、捕虜と略奪に一時的に屈する人もいます。彼らが倒れるとき、彼らは少しは助けられるだろうし、多くの人が助けられるだろう。**偽善から彼らに加わります。賢者の中には、終わりの時まで清められ、清められ、白くされるために倒れる者もいる。それは、定められた時まで来ないからである。**」

したがって、「邪悪な僕」とはまさに主人である神の期待を裏切る者であ

り、彼は「終わりの時まで」「偽善者」の陣営に加わるのである。それ以来、彼は、最後の審判まで彼らを襲う神の怒りを彼らと共有し、そこで彼らは全滅し、決定的に「第二の死」を与える「火の湖」で焼き尽くされる、と黙示録20章は述べています。 15:

「命の書に記されていない者は火の湖に投げ込まれた。」

明らかにされた真の信仰の歴史

本当の信仰

真の信仰というテーマに関して言いたいことはたくさんありますが、私はすでに優先事項であると思われるこの側面を提案しています。神との関係を築きたいと願う人は誰でも、地上と天国における自分の人生の概念が、神に触発された高慢で邪悪な考えに基づいて構築された地上で確立された私たちのシステムとは対極であることを知らなければなりません。彼の敵、そして彼の真の選ばれた者の敵。イエスは私たちに真の信仰を見分ける方法を与えてくださいました。「**その実によってあなたはそれを知るでしょう。**」私たちはいばらからブドウを摘むのでしょうか、それともアザミからイチジクを摘むのでしょうか？（マタイ

7:16）」この声明に基づいて、彼の名を名乗り、その名を現さないすべての人が、彼の優しさ、親切さ、自己犠牲、犠牲の精神、真理への愛、戒めへの従順に対する熱意を確信してください。神よ、これまでも神の僕であったことはありませんし、これからも決してそうではありません。これは、**Iコリント** 13

章が真の聖性のカリスマを定義することによって私たちに教えていることです。神の正しい裁きによって要求されるもの：6節：「**彼女は不正を喜ばないが、真理を喜ぶ**」。

迫害される者と迫害する者が同じように神によって裁かれるとどうして信じられるのでしょうか。自発的に十字架につけられたイエス・キリストと、男女を死ぬまで拷問にかけたローマ教皇の異端審問官やジョン・カルバンとの間にはどのような類似点があるのでしょうか？違いが分からないようにするには、聖書の記述に触発された言葉を無視する必要があります。聖書が世界中に広まる前はそうでしたが、聖書が地球上のどこでも入手できるようになってからは、このことが当てはまります。人間の判断ミスを正当化できる言い訳は何でしょうか？何もありません。したがって、来たるべき神の怒りは非常に大きく、制御不能になるでしょう。

イエスが地上で宣教に従事した3年半は、福音書の中で私たちに明らかにされており、それは私たちが神の意見における真の信仰の基準を知るためです。重要なのはただ一つ。彼の人生はモデルとして私たちに提供されています。イエスに弟子として認められるためには、私たちが見倣わなければならない模範です。この養子縁組は、私たちが彼の提案する永遠の命についての概念を共有していることを意味します。そこでは利己主義も、壊滅的で破壊的なプライドも追放されます。イエス・キリストご自身によって認められた選ばれた者だけに与えられる永遠の命には、残忍さや邪悪が入り込む余地はありません。彼の行動は平和的に革命的でした。な

ぜなら、主であり主である彼は、人々が表明する高慢な価値観に対する彼の非難に具体的な意味を与えるために、自分自身をすべての奉仕者とし、弟子たちの足を洗うところまで身をかがめたからです。指導者、当時のユダヤ人の宗教的人物。今日でもユダヤ人とキリスト教の宗教的な人々を特徴づけるものです。絶対的に反対ですが、イエス・キリストにおいて啓示された基準は永遠の命の基準です。

イエス・キリストは、ご自分と彼らの敵、神の偽りの僕たちを識別する手段を僕たちに示すことによって、彼らの魂を救うために行動されました。そして、世の終わりまで、ご自分の選ばれた人々の「真っ只中に」いるという神の約束は守られ、それは彼らを地上の生涯を通して啓発し、守ることで構成されています。真の信仰の絶対的な基準は、神が選ばれた者とともに留まるということです。彼らは神の光と聖霊を決して奪われません。そしてもし神が撤退するとしたら、それは選ばれた者がもはや一人ではないからです。彼の霊的状态は神の正しい裁きによって変わりました。彼の判断は人間の行動に適応するからです。個人レベルでは、依然として両方向の変更が可能です。善から悪へ、あるいは悪から善へ。しかし、これは、神が定めた変化に適応しない場合、善から悪に変化するだけの宗教団体や組織の集団レベルでは当てはまりません。イエスは教えの中で、「悪い木が悪い実を結ぶことができないのと同じように、良い木が悪い実を結ぶことはできません（マタイ

7:18）」と教えています。このようにして彼は、カトリック宗教はその忌まわしい果実ゆえに「悪い木」であり、たとえ君主制の支援を剥奪されても、その誤った教義によって人々を迫害するのをやめたとしても、そのままであり続けるであろうということを理解させた。そしてそれは、ヘンリー

8

世が姦淫と犯罪を正当化するために創設した英国国教会についても同様です。神は自分の子孫や後継の君主にどのような価値を与えることができるのでしょうか？これは、プロテスタントのカルヴァン主義宗教の場合でもあります。なぜなら、この創始者ジョン・カルヴァンは、その性格の厳しさ、および彼がジュネーブ市で合法化した多数の死刑執行の評判のせいで、カルヴァン派の宗教と非常によく似ていると恐れられていたからです。当時のカトリックの慣習を超えたものまで。このプロテスタント主義は、優しい主イエス・キリストを喜ばせるとは思えず、決して真の信仰の模範とみなすことはできません。ダニエルに与えられた啓示の中で、神はプロテスタントの宗教改革を無視し、1260年間の教皇政権と、1844年以来啓示された神の真理を伝えるセブンスデー・アドベンチズムのメッセージが確立された時期のみを対象としているのは、まさにその通りです。、2030年に来る世界の終わりまで。

歴史上の邪悪な宗教の偽物はすべて、神の承認されたモデルの側面を持っていますが、決してそれに一致しません。本当の信仰は常にキリス

トの御霊によって養われますが、偽りの信仰はそうではありません。真実の信仰は神の聖書預言の謎を説明できますが、偽りの信仰は説明できません。世界には数多くの予言の解釈が流通しており、それぞれが前回よりも空想的です。彼らとは異なり、私の解釈は聖書からの引用のみから得られます。したがって、メッセージは正確で、安定しており、首尾一貫しており、決して逸脱することなく神の考えと一致しています。そして全能者はそれを見守っています。

ダニエル書の準備ノート

ダニエルという名前は、神が私の裁判官であることを意味します。神の裁きについての知識は信仰の主要な基礎です。なぜなら、神の裁きについての知識は、被造物を神の明らかにされ理解された意志への従順に導くからであり、常に神の祝福を受けるための唯一の条件だからです。神は、従順な信仰を通してそれを具体化し、実証する被造物の愛を求めています。したがって、神の裁きは、イエス・キリストのたとえ話のような象徴を使用する神の預言を通して明らかにされます。神の裁きは最初にダニエル書によって明らかにされますが、それはキリスト教の宗教史に対する神の裁きの主な基礎を築くだけであり、それは黙示録で詳細に明らかにされます。

ダニエル書では、神はほとんど啓示されていませんが、この量的に少ないことは、預言的な黙示録全体の基礎を構成するため、質的に非常に重要です。建築設計者は、建築現場の準備がいかにかに決定的で決定的であるかを知っています。預言において、これは預言者ダニエルが受けた啓示に与えられた役割です。実際、それらの意味が明確に理解されると、神はご自身の存在を証明し、御霊によって伝えられたメッセージを理解するための鍵をご自分の選民に与えるという二重の目標を達成されます。この「いくつものこと」の中で、私たちはすべて同じことを見出します。それは、ダニエルの時代以来、宇宙を支配する
4
つの帝国が連続して発表されたことです (ダニエル

2、7、8)。イエス・キリストの地上での宣教の公式な年代 (Dan.9)。 321年のキリスト教背教の発表 (Dan.8)、538年から1798年までの1260年間の教皇統治 (Dan.7 と

8)。そして1843年からの「アドベンチスト」同盟 (ダニエル8および12) (2030年まで)。私はこれに、ダン.11

を付け加えます。これは、これから見るように、救い主神の栄光ある帰還の前にまだ達成されなければならない究極の地上核世界大戦の形態と展開を明らかにしています。

主イエス・キリストは、新しい契約にとってのダニエルの重要性を思い起こさせるために、それとなくダニエルの名前を呼び起こしました。

「それゆえ、**預言者ダニエルが語った荒廃**という忌まわしい行為が聖所に設置されているのを見たとき、それを読む者は注意しなさい。(マタイ24:15)»

イエスがダニエルに有利な証言をしたとすれば、それはダニエルが彼の初臨と栄光ある帰還に関する教えを、それまでの他の誰よりもイエスから受けていたからである。私の言葉がよく理解されるように、ダニエル書10:13-21、12:3

で、天から来たキリストが以前にダニエルに「**ミカエル**」という名前でご自身を示し、この名前がイエスによって取り上げられたことを知っておく必要があります。 -黙示録 12:7

のキリスト。この「**ミカエル**」という名前は、ラテン語のカトリック形式「**ミシェル**」でよく知られています。ミシェルは、フランスのブルターニュ地方にある有名なモン・サン・ミッシェルに与えられた名前です。ダニエル書には、彼の初臨の年を知ることができる数字の詳細が追加されています。また、「**ミカエル**」という名前には、「神のような人」という意味があることも指摘しておきたいと思います。そして「**イエス**」という名前は「**YaHWeH**救われる」と訳されます。どちらの名前も偉大な創造主である神に関係しており、前者は天上の称号を持ち、後者は地上の称号を持っています。

未来の黙示録は、複数のストーリーを構築するゲームとして私たちに提示されます。映画の初期、漫画にレリーフ効果を作り出すために、映画製作者はガラス板を使用し、その異なる塗装パターンを重ね合わせると、いくつかのレベルの画像が得られました。神が計画された預言も同様です。

すべてはダニエルから始まります

ダニエルの書

この作品を読んだあなたは、無限の全能の神が、隠れていても生きておられることを知っています。

「**預言者ダニエル**」のこの証言は、これをあなたに納得させるために書か

れたものです。それには、イエスが弟子たちに宛てた言葉の中でそれを呼び起こしたので、古い契約と新しい契約の証しの印が押されています。彼の経験は、この善良で公正な神の行動を明らかにしています。そしてこの本は、神が一神教の宗教史を引き継いでいることを私たちに発見させてくれます。最初の同盟ではユダヤ人であり、その後キリスト教徒が新しい同盟で、イエス・キリストが流した血の上に築られました。時代。

「**ダニエル**」以上に神の裁きを明らかにできる人は誰でしょうか？彼の名前は「神は私の裁判官である」を意味します。これらの生きた経験は寓話ではなく、彼の忠実さの模範が神の祝福を受けていることの証拠です。神はエゼキエル書

14:14-20

で、不幸の中で救おうとする三人の人の中に彼を示しています。選ばれたのは「**ノア、ダニエル、ヨブ**」の3種類です。神のメッセージは、たとえイエス・キリストであっても、私たちがこれらの模範に似ていなければ、救いへの扉は閉ざされたままになる、とはっきりと告げています。このメッセージは、イエス・キリストの教えによれば、選ばれた人が天国に入るために通らなければならない狭い道、狭い道、または狭い門を裏付けています。

「**ダニエル**」と彼の

3

人の仲間の物語は、神が困難の日々から救う忠実さのモデルとして私たちに提示されます。

しかし、このダニエルの生涯の物語には、神が完全に無知で崇拜者だった悪魔から彼らを奪うことに成功した三人の強力な王の回心も含まれています。神はこれらの皇帝たちを、人類史上最初であり最後でもあるご自身の大義の最も強力な代弁者にされました。なぜなら、これらの模範的な人物たちは消え去り、宗教、価値観、道徳は絶え間なく衰退するからです。神にとって、魂を奪うことは長い闘いであり、「**ネブカドネザル**」王の事件は、この種の非常に明らかなモデルです。これは、迷った羊を探すために群れを離れる「**善き羊飼**い」であるイエス・キリストのたとえを裏付けるものです。

ダニエル

ダン

1:1

ユダの王エホヤキムの治世の三年に、バビロンの王ネブカドネザルはエルサレムに進軍し、包囲しました。

1a- ユダの王エホヤキムの治世の3年目

エホヤキムの治世は608年から597年までの11年間。605年3^{年目}。

1b- ネブカドネザル

これはネブカドネザル王の名前をバビロニア語で翻訳したもので、「ナブは私の長男を守る」です。ナブはメソポタミアの知識と執筆の神です。神が知識と文字に対するこの力を回復させようとしておられることは、私たちにはすでに理解できます。

Dan

1:2そこで主はユダの王エホヤキムと神の宮の器物の一部をその手に渡された。ネブカドネザルは器具をシナルの地、彼の神の家に持ち帰り、神の宝庫に置きました。

2a- 主はユダの王エホヤキムを手に渡された

神がユダヤ人の王を見捨てることは正当化される。代下

36:5:エホヤキムは王になったとき 25 歳で、エルサレムで 11 年間統治しました。彼は彼の神、ヤハウエの目に悪を行った。

2b-

ネブカドネザルは器具をシナルの地、彼の神の家に持ち帰り、神の宝庫に置きました。

この王は異教徒であり、イスラエルが仕える真の神を知りませんが、自分の神であるベルを敬うことには細心の注意を払っています。将来回心した後、彼は同じ忠実さをもってダニエルの真の神に仕えるでしょう。

ダニエル

1:3王は宦官の長アシュペナズに、イスラエルの王族か貴族の子らを何人か連れて来るよう命じた。

ダニエル

1:4体に傷がなく、容姿が美しく、知恵と理解力と教訓に恵まれ、王の宮殿に仕えることができ、カルデア人の文字と言語を教えられる少年たち。

4a-

ネブカドネザル王は友好的で聡明なように見えますが、ユダヤ人の子供たちが彼の社会とその価値観にうまく溶け込めるよう手助けすることだけを考えています。

ダニエル

1:5王は、毎日、食卓の食べ物と自分が飲んだぶどう酒の一部を彼らに割り当て、彼らを三年間養育し、その終わりには宮廷の奉仕に就かせるつもりであった。王。

5a-

王の好意は明らかです。彼は神から食べ物に至るまで、自分が提供するものを若者たちに分け与えます。

ダニエル

1:6 中には、ユダの子らのダニエル、ハナニヤ、ミシャエル、アザリヤもいた。

6a-

バビロンに連れて行かれたユダヤ人の若者のうち、模範的な忠実さを示したのはたったの 4 人だけでした。以下の事実は、神に仕えて神が祝福する人々と、神に仕えず神が無視する人々がもたらす実の違いを示すために、神によって整理されたものである。

1:7 宦官の長は、彼らにダニエル・ベルテシャザル、ハナニヤ・シャドラク、ミシャエル・メシャク、アザリヤ・アベデネゴという名前を付けた。

7a-

勝者によって課された異教の名前を名乗ることに同意するこれらの若いユダヤ人は知性を共有しています。名前を付けることは優越性のしるしであり、真の神が教える原則です。創世記

2:19:そして、野のすべての獣と空のすべての鳥を土から造られた神、主は、それらを人間にもたらし、それを何と呼ぶか、そしてすべての生き物に人間の名前が付けられるべきかを確認させた。彼にあげるだろう。

7b-

ダニエル「神は私の裁判官です」はベルテシャザルに変更されます：「ベルは守ります」。ベルは、これらの異教の人々がまったく知らないうちに、悪魔の霊の犠牲者として奉仕し、名誉を与えていた悪魔を指します。

ハナニア「Grace or Give from YaHWéH」は「シャドラク」「アクに触発された」になります。アクはバビロンの月の神でした。

ミシャエル「神の義とは誰か」はメシャク「アクに属する者」となる。

アザリア「救いか助けはヤハウエ」は「アベド・ネゴ」「ネゴの召使」となり、そこにはすでにカルデア人の太陽神が存在する。

ダニエル

1:8 ダニエルは、王の食べ物や王が飲んだぶどう酒で身を汚さないと決心し、宦官長に、自分を汚すことを強制しないように懇願した。

8a-異教の名前

を持つことは、敗北したときに問題にはなりません、神に恥をかかせるほど自分を汚すことはあまりにも求めすぎです。若者たちの忠誠心が、王のワインや肉を控えるように導いたのは、これらのものは伝統的にバビロンで崇められている異教の神々に捧げられていたからである。彼らの若さは成熟に欠けており、偽りの神々を風とみなすキリストの忠実な証人であるパウロのように論理的に考えることができません(ローマ14章、1コリント8)。しかし、信仰の弱い人たちに衝撃を与えることを恐れて、彼

は彼らと同じように行動します。もし彼が反対の行動をしたとしても、彼の推論は正しいので、彼は罪を犯しません。神は、あらゆる知識と良心を持って自発的に犯した汚れを非難します。この例では、異教の神々を称えるという意図的な選択が行われています。

ダニエル1:9 神はダニエルに宦官長の前で恵みと恵みを与えた。

9a-

若者の信仰は、神を不快にさせることへの恐れによって示されています。神は彼らを祝福することができます。

1:10 宦官の長はダニエルに言った。なぜなら、なぜ彼はあなたの顔があなたと同年代の若者よりももっと落胆しているのを見る必要があるのでしょうか？あなたは私の首を王にさらすことになるでしょう。

ダニエル

1:11 そこでダニエルは、宦官長からダニエル、ハナニヤ、ミシャエル、アザリヤの監督を任されていた家令に言った。

ダニエル

1:12 あなたのしもべたちを十日間試し、私たちに食べる野菜と水を与えてください。

ダン

1:13 それから、あなたがたは、私たちの顔と、王の食事を食べる若者たちの顔を見て、その見たとおりに家臣たちを扱わなければなりません。

Dan 1:14 そして、イエスは彼らの願いを聞き入れ、十日間彼らを試した。

ダニエル

1:15 十日間が終わると、彼らは王の食事を食べたどの若者たちよりも見栄えが良く、太っていた。

15a-私たちは、ダニエルと彼の 3 人の仲間の経験の「 10 日間」と、アポの「スミルナ」時代のメッセージに対する預言的な迫害の「10 日間」とを霊的に比較することができます。実際、どちらの経験においても、神はご自分から来たと主張する人々の隠された実を明らかにされます。

ダニエル

1:16 家令は、彼らに与えられるはずだった食べ物とぶどう酒を取り上げ、彼らに野菜を与えた。

16a-

この経験は、神がどのようにして人々の心に働きかけて、人々が神の聖なるご意志に従って神の僕たちに好意を持てるかを示しています。なぜなら、王の家令が負ったリスクは大きく、ダニエルの提案を受け入れるために神が介入しなければならなかったからです。信仰体験は成功です。

ダニエル

1:17 神はこの四人の若者に知識とあらゆる文字による理解力と知恵を与えました。そしてダニエルはすべてのビジョンと夢を説明しました。

17a- 神はこの 4
人の若者に知識、すべての文字における知性、知恵を与えました。

すべては主からの贈り物です。イエスを知らない人は、自分たちが聡明で賢明であるか、無知で愚かであるかがどれほどイエスに依存しているか知りません。

1 7 b-
そしてダニエルはすべてのビジョンとすべての夢について説明しました。

ダニエルは最初に自分の忠実さを示し、預言の賜物を与えられた神から栄誉を受けました。これは彼が当時、エジプト人の捕虜だった忠実なヨセフに対して行った証言でした。ソロモンも神の捧げ物の中で知恵を選びました。そしてこの選択のために、神は彼に他のすべて、栄光と富を与えました。ダニエルもまた、彼の忠実な神によって築かれたこの高揚を経験することになります。

ダニエル

1:18 王が彼らを連れて来るよう指定した時刻に、宦官の長は彼らをネブカドネザルに差し出した。

ダニエル

1:19 王は彼らと話した。そして、これらすべての若者の中で、ダニエル、ハナニヤ、ミシャエル、アザリアのような人はいませんでした。したがって、彼らは王への奉仕を許可されました。

ダニエル

1:20 知恵と理解を必要とするすべての事柄、またそれについて王が質問した事柄に関して、王は、それらが王国中の魔術師や占星術師たちよりも十倍も優れていることに気づきました。

20a- 神はこのように、

「神に仕える者と仕えない者の違い」を示されました。それはマル 3:18 に書かれています。ダニエルとその仲間たちの名前は聖書の証しに組み込まれるでしょう。彼らの忠実さの実証は、世の終わりまで選ばれた人々を励ますモデルとして役立つからです。

ダニエル1:21 キュロス王の最初の年までは、ダニエルもそうでした。

ダニエル2

ダニエル

2:1ネブカドネザルの治世の二年に、ネブカドネザルは夢を見ました。彼の心は落ち着かず、眠れませんでした。

1a- それで、604年に。神は王の霊の中でご自身を現されます。

ダニエル

2:2王は魔術師、占星術師、魔術師、カルデア人を呼んで、夢を語らせた。彼らはやって来て、王の前に姿を現しました。

2a-

次に、異教の王は、それまで信頼していた人々、つまりそれぞれが自分の分野の専門家に目を向けます。

Dan

2:3そこで王は彼らに言った、「わたしは夢を見ました。私の心は興奮していて、この夢を知りたいです。

3a-

王様はよく言いました。「この夢を知りたいです。」彼はその意味については語らない。

ダニエル

2:4カルデア人はアラム語で王に答えた、「王よ、永遠に生きてください。」そのことを使用人に伝えてください。説明させていただきます。

ダニエル

2:5王は再び答えて、カルデア人に言った、「その物は私から逃げ出したのです。夢とその説明を私に知らせなければ、あなたは引き裂かれ、家はゴミの山と化すでしょう。

5a-

王の不屈の精神と彼がとった極端な措置は並外れたものであり、異教のペテン師主義を混乱させ、忠実な僕たちを通して神の栄光を明らかにする手段を創造された神に触発されています。

Dan

2:6しかし、もしあなたがその夢とその説明を私に話してくれたら、あなたは私から贈り物や賜物、そして大きな栄誉を受けるでしょう。したがって、夢とその説明を教えてください。

6a-

これらの賜物、贈り物、そして大きな栄誉を、神は忠実な選ばれた人々のために備えておられます。

Dan

2:7彼らは二度目に答えた、「王がその夢を家来たちに話してください。そうすれば私たちがそれを説明しましょう」。

Dan

2:8すると王は答えて言った、「本当に、あなたが時間を稼ごうとしているのはわかります。この問題が私に漏れているのがわかりますから。」

8a-

王は賢者たちに、これまで尋ねられたことのないことを尋ねましたが、彼はそれを達成できませんでした。

ダニエル

2:9ですから、もしあなたがその夢を私に知らせなければ、同じ一文があななたがた全員を覆うことになるでしょう。時代が変わるのを待ちながら、私に嘘や偽りを言う準備をしたいのです。したがって、夢を教えてください。説明してもらえればわかります。

9a-

時代が変わるのを待ちながら、私に嘘や嘘を言う準備をしたいのですか

この原則に基づいて、世界の終わりまで、偽の予言者や占い師はすべて金持ちになります。

9b-

だから、その夢を教えてください。説明してもらえればわかります。

この論理的推論は、人間の思考の中に初めて現れます。ペテン師は、世間知らずであまりにもだまされやすい顧客に何でも話すことができ楽しい時間を過ごしています。王の要請により、彼らの限界が明らかになります。

ダニエル

2:10カルデア人は王に答えた、「王の求めたことを言える者は地上には誰もいない。どんなに偉大で強力な王であっても、魔術師、占星術師、カルデア人にそのようなことを要求したことはありません。

10a-

彼らの言葉は真実です。なぜなら、それまで神は彼らの仮面を解くために介入しなかったため、彼らは彼が唯一の神であり、彼らの異教の神性が人間の手と与えられた霊によって造られた空虚で偶像にすぎないことを理解しました。悪霊に至る。

ダニエル

2:11王の求めることは難しい。神々以外に、王にその住居が人間の中にはないことを告げることができる者はいない。

11a-

ここで賢人たちは否定できない真実を表明しています。しかし、このような発言をすることで、彼らは神々と何の関係もないことを認めていることとなりますが、その一方で、彼らを通じて隠れた神々から答えが得られると考える騙された人々から常に相談を受けています。王が仕掛けた挑戦が彼らの正体を暴く。そしてこれを達成するには、真の神の予測不可能で無限の知恵が必要でしたが、それは神の知恵のマスターであるソロモンにおいてすでに崇高に明らかにされていました。

ダニエル

2:12 これを聞いて王は激怒し、非常に怒った。彼はバビロンのすべての賢者を処刑するよう命じました。

ダニエル

2:13 この判決が発表され、博士たちは死刑に処せられ、彼らを滅ぼすためにダニエルとその仲間たちを探していた。

13a-

神はご自身の僕たちを死の前に置くことによって、彼らをネブカドネザル王とともに栄光のうちに復活させます。この戦略は、選ばれた人々が反逆者によって定められた日に死を待つというアドベンチスト信仰の最後の経験を預言している。しかし、ここでも状況は逆転します。死者は、力強く勝利したキリストが天に現れて彼らを裁き、非難するときに互いに殺し合う反逆者たちだからです。

ダニエル

2:14 そこでダニエルは、バビロンの博士たちを殺すために出て行った王の衛兵の長アルヨクに、賢く賢明に話しかけた。

Dan

2:15 そこで彼は王の司令官アルヨクに答えて言った、「なぜ王の判決はこれほど厳しいのか」。アルヨクはダニエルにこの件について説明した。

ダニエル

2:16 そこでダニエルは王のところに行って、王に説明する時間を与えてほしいと懇願した。

16a-

ダニエルは自分の性質と宗教的経験に従って行動します。彼は自分の預言の賜物が神から与えられたものであることを知っており、神に全幅の信頼を置くことに慣れている。王の質問を聞いて、王は神が答えを持っていることを知りましたが、それを神に知らせるのは神の意志なのでしょうか？

Dan

2:17 それから、ダニエルは自分の家に行き、仲間のハナヌヤ、ミシャエル、アザリヤにこのことを告げた。

17a- 4

人の若者はダニエルの家に住んでいます。

「同じような者たちが集まり」、彼らは神の集まりを表します。すでにイエス・キリストの前で、「二人か三人が私の名のもとに集まるところ、私は彼らの真っ只中にいる」と主は言われます。美しい団結の精神を示す若者たちは兄弟愛で結ばれています。

ダニエル

2:18 ダニエルとその仲間たちがバビロンの他の賢者たちとともに滅ぼされないように、天の神の憐れみを懇願するよう彼らに勧めています。

18a-

命に対するこのような強い脅威に直面して、熱烈な祈りと誠実な断

食が選ばれた者の唯一の武器です。彼らはそれを知っており、彼らを愛しているという十分な証拠をすでに与えてくださっている神からの返答を待ちます。世界の終わりに、死の宣告の対象となった最後に選ばれた者達も同様の行動をとるだろう。

ダニエル

2:19 その秘密は、夜の幻の中でダニエルに明らかにされた。そしてダニエルは天の神を祝福しました。

19a-

選ばれた人々からの要請で、忠実な神がそこにおられます。なぜなら、ダニエルとその三人の仲間のために自分の忠実さを証するためのテストを企画されたからです。彼らを王の政府の最高の地位に引き上げるためです。彼は経験を重ね、彼らを彼が導き、最終的に改宗させるこの王にとって不可欠なものにするだろう。この回心は、並外れた使命のために神によって聖別された4人の若いユダヤ人の忠実で非の打ちどころのない行動の成果となるでしょう。

ダニエル

2:20 ダニエルは答えて言った、「神の御名が永遠から永遠にほめたたえられますように。」知恵と力は彼のものです。

20a-

この経験では彼の知恵の証拠が間違いなく証明されているため、十分に正当な賞賛です。彼女の力でエホヤキムはネブカドネザルに伝わり、彼女は自分の計画を支持する男たちの心に自分の考えを押し付けた。

ダニエル

2:21 神は、時代と状況を変え、王たちを打倒し、立て、知恵ある者には知恵を、理解ある者には知識を与えられる方です。

21a-

この聖句は、神を信じ、神を信じるすべての理由を明確に表現しています。ネブカドネザルはこれらのことを完全に認識したとき、最終的に回心するでしょう。

ダニエル

2:22 彼は深く隠されたものを明らかにし、暗闇の中にあるものを知り、光が彼とともにとどまります。

22a-

悪魔は深く隠されたものを明らかにすることもできますが、光は彼の中にありません。神は人間を誘惑し、真の神から遠ざけるためにそのようなことをするのですが、真の神はそうするとき、イエス・キリストが罪に対して勝利を収めて以来、地上の暗闇に宣告されている悪魔によって仕掛けられた致命的な罠を彼らに明らかにすることによって、選ばれた人々を救おうと行動します。そして死。

Dan

2:23 わたしの先祖の神よ、あなたがわたしに知恵と力を与えてくださった

こと、またわたしたちが求めたことをわたしに知らせてくださったこと、王の秘密をわたしたちに明らかにしてくださったことを、わたしはあなたに栄光と賛美を与えます。

23a-

知恵と力はダニエルの祈りの中に神の中にあり、神はダニエルにそれらを与えました。この経験の中で、私たちはイエスが教えた「求めよ、そうすれば与えられる」という原則が成就するのを目にします。しかし、この結果を得るには、申請者の忠誠心があらゆる試練に耐えなければならないことは明らかです。ダニエルが受けた力は王の思考に作用する形をとり、王はそれまで彼とその民が知らなかったダニエルの神の存在を認めざるを得なくなる明白な証拠にさらされることになる。

ダニエル

2:24 この後、ダニエルはアルヨクのところへ行った。王はアルヨクにバビロンの博士たちを滅ぼすよう命じていた。そこで彼は行って彼にこう言った、「バビロンの賢者たちを滅ぼさないでください！」私を王の前に連れて行ってください、そうすれば王に説明してあげます。

24a-

賢明な異教徒のために命を獲得しようとするダニエルには神の愛が読み取れます。これもまた、完全な謙虚な精神状態において、神の善良さと憐れみを証しする行動です。神は満足し、神のしもべは信仰の行いによって神に栄光をもたらすかもしれません。

ダニエル

2:25 アルヨクはダニエルを急いで王の前に連れて行き、こう言った。「ユダの捕虜の中に、王に説明してくれる人を見つけた。」

25a-

神は王を大きな苦悩に陥れており、彼が望んでいた答えが得られると期待するだけで、彼の怒りはすぐに静まるでしょう。

Dan

2:26

そこで王はベルテシャザルというダニエルに答えて言った、「わたしが見た夢とその説明を見せていただけますか。」

26a-

彼に与えられた異教の名前は何も変わりません。彼に期待される答えを与えるのはベルテシャザルではなくダニエルだ。

ダニエル

2:27 ダニエルは王の面前で答えて言った、「王が尋ねていることは秘密であり、賢者、占星術師、魔術師、占い師が王に明らかにすることはできません。」

27a-

ダニエルは賢い人に代わって執り成しをします。王が彼らに求めたことは、彼らには手の届かないものでした。

ダニエル

2:28 しかし、天には秘密を明らかにし、世の終わりに何が起こるかを王ネ

ブカドネザルに知らせた神がおられます。これはあなたの夢であり、ベッドの中で見たビジョンです。

28a-

この説明の始まりは、ネブカドネザルを注意深くさせるでしょう。なぜなら、未来の主題は常に人々を苦しめ、悩ませてきたからであり、この主題について答えが得られるという見通しは刺激的で慰めになるからです。ダニエルは目に見えない生ける神に王の注意を向けますが、これは物質化された神を崇拝していた王にとっては驚くべきことでした。

Dan

2:29 王よ、あなたのベッドの上で、この後のことについて考えが浮かんできました。そして秘密を明らかにする者は、何が起こるかをあなたに知らせたのです。

ダニエル

2:30 この秘密が私に明らかになったとしても、それは私の中に生きているすべての人の知恵よりも優れた知恵があるからではありません。しかし、それは、王に説明が与えられ、あなたが自分の心の考えを知るためです。

30a-

私の中にすべての生きている人々の知恵よりも優れた知恵があるというわけではありません。しかし、それは王に説明を与えるためです。

行動においては完璧な謙虚さ。ダニエルは脇に進み、この目に見えない神が自分に興味を持っていると王に告げます。この神は、それまで仕えてきた神よりも強力で効果的です。これらの言葉が彼の心と心に与える影響を想像してみてください。

30b- *そしてあなたの心の思いを知りましょう*

異教では、真の神の善悪の基準は無視されます。王は、その力が強大であるために恐れられ、恐れられているため、決して疑問視されません。真の神の発見により、ネブカドネザルは徐々に自分の性格上の欠陥を発見することができます。彼の民の間では誰もそんな大胆なことはしなかつただろう。この教訓は私たちにも当てはまります。神が私たちの良心に基づいて行動する場合にのみ、私たちは自分の心の考えを知ることができます。

ダニエル

2:31 王よ、あなたは目を凝らし、大きな像を見ました。この彫像は巨大で、並外れた素晴らしさでした。彼女はあなたの前に立っていましたが、その様子はひどいものでした。

31a-

大きな彫像を見ました。この彫像は巨大で、並外れた素晴らしさでした

この像は、イエス・キリストの栄光の再来まで次々と続く地上の偉大な帝国の継承を示すものであり、したがってその巨大な外観が示されて

います。その素晴らしさは、歴代の統治者が人々によって与えた富、栄光、名誉で覆われたものです。

31b-

彼女はあなたの前に立っていましたが、その様子はひどいものでした。

彫像によって予言された未来は王の後ろではなく前にあります。その恐ろしい側面は、世界の終わりに至るまで人類の歴史を特徴づける戦争と迫害を引き起こす多数の人間の死を予言しています。支配者は死体の上を歩く。

ダニエル

2:32 この像の頭は純金でした。彼の胸と腕は銀でした。彼のお腹と太ももは真鍮でした。

32a- この像の頭は純金でした

ダニエルは38節でそれを確認しますが、金の頭はネブカドネザル王その人です。このシンボルが彼を特徴づけているのは、まず彼が改心し、信仰をもって真の創造主である神に仕えるからです。ペテロ第一1章7節では、金は清められた信仰の**象徴**です。彼の長い治世は宗教史に特徴を与え、聖書の中での彼の言及が正当化されるでしょう。さらに、彼は地上の統治者の継承を構築する**責任者でもあります**。予言は彼の治世の最初の年、605年に始まります。

32b- 彼の胸と腕は銀だった

銀は金より価値がありません。それは変化しますが、金は不変のままです。私たちは、この像の説明に上から下まで従う人間の価値観の劣化を目の当たりにしています。 539年以降、メディアとペルシアの帝国がカルデア帝国を継承します。

32c- 彼のお腹と太ももは真鍮でした

真鍮も銀より価値が低いです。銅を主成分とした金属合金です。経年劣化が激しく、見た目も変化してしまいます。また、銀よりも硬く、それ自体が金よりも硬く、それだけで非常に展性が高いままです。セクシュアリティは神が選んだイメージの中心ですが、人間の生殖のイメージでもあります。ギリシャ帝国は、実際にそうなので、非常に多産であることが証明され、人類に異教の文化を与え、それは世界の終わりまで続くでしょう。真鍮を溶かして鑄造したギリシャの彫像は、最後まで人々に賞賛され続けるでしょう。身体が裸が暴露され、その墮落した道徳は際限がない。これらのことから、ギリシャ帝国は、キリストの再臨まで何世紀も何千年も存続する典型的な罪の象徴となっています。ダニエル 11:21 から 31 年間は、エピファネスとして知られるギリシャの王アンティオコス 4 世が、175 年から 168 年までの「7 年間」ユダヤ人を迫害しました。この章の預言的な説明。この 32 節は、ローマ帝国につながる帝国を次々にグループ化し、想起させます。

ダニエル

2:33 その足は鉄であった。彼の足は、一部は鉄で、一部は粘土でできていました。

33a- 彼の足、鉄製

4

番目に預言された帝国であるローマは、鉄に代表される最大限の硬化によって特徴付けられます。また、酸化し、錆び、破壊される最も一般的な金属でもあります。ここでも劣化が確認され、増加しています。ローマ人は多神教です。彼らは打ち負かした敵の神々を採用します。このようにして、ギリシャの罪は、その拡大を通じて、その帝国のすべての民族にまで及ぶことになるのです。

33b- 彼の足、部分的に鉄、部分的に粘土

この段階では、粘土部分がこのハードな支配を弱めます。説明は簡単に歴史的で、395年にローマ帝国が崩壊し、その後、像の足の10本の指が10

の独立したキリスト教王国の設立を達成しましたが、すべては538年から教皇となるローマ司教の宗教的監督下に置かれました。ダニエル書7:7と24に言及されています。

ダニエル

2:34 あなたが見ていると、石が手につかずに落ちてきて、像の鉄と粘土の足に当たり、粉々に砕けました。

34a-

打ち付けられる石のイメージは、石打ちによる死の習慣からインスピレーションを得ています。これは、古代イスラエルにおける有罪の罪人の処刑の基準でした。したがって、この石は地上の罪人を石にするために来ます。黙示録 16:21

によると、神の怒りの最後の災いはひょうです。この像は、キリストが栄光に満ちた神からの再臨の際に、罪人に対するキリストの行動を預言しています。ゼカ 3:9

では、御霊はキリストに石の像、つまり隅の主要な石、神が霊的な建物の建設を始める石の像を与えます。この1つの石には7つの目があります。見よ、そこに刻まれるものはわたし自身が刻む、と万軍の主は言われる。そして私は一日のうちにこの地の咎を取り除くだろう。次に、ザカ書 4:7

に次のように書かれています。「大いなる山よ、ゼルバベルの前に、あなたは何者ですか。」スムーズになりますよ。彼は称賛の声の中で主石を置きましょう：恵み、彼女に恵みを！同じ場所の42節と47節に、次のように書かれています。「彼は私に言った。「何が見えますか？」私は答えました、「見ますと、見よ、そこにはすべて金の燭台があり、その上には花瓶があり、7つのランプがあり、燭台の上部にはランプ用の7本のパイプが付いています。

...弱い始まりの日を軽蔑していた人々は、ゼルバベルの手にあるレベルを見て喜ぶでしょう。この七つは全地を貫く主の目です。

このメッセージを確認するために、黙示録 5 章 6 節に、石と燭台の 7 つの目は神の子羊、すなわちイエス・キリストのものであるとされるこの像があります。王座と四人の生き物、そして長老たちの真ん中に、屠られたかのようにそこにいた一匹の小羊。彼には7つの角と7つの目がありましたが、これは全地に遣わされた神の7つの霊です。罪ある民の裁きは神が自ら行われ、人間の手が介入することはありません。

ダニエル

2:35 そのとき、鉄、粘土、真鍮、銀、金は砕けて、夏の脱穀場から漏れ出るもみがらのようになった。風が彼らを運び去り、彼らの痕跡は見つかりませんでした。しかし、像を打った石は大きな山となり、全地を満たしました。

35a-

そのとき、鉄、粘土、真鍮、銀、金は砕かれて、夏の脱穀場から出るもみがらのようになった。風が彼らを運び去り、彼らの痕跡は見つかりませんでした。

キリストが再臨されたとき、金、銀、真鍮、鉄、粘土で象徴される民族の子孫は皆、罪を犯したままであり、キリストによって滅ぼされるに値しており、この像はこの滅亡を預言しています。

35b- しかし、像を打った石は大きな山となり、全地を満たした

4、20、21、22で、

この発表が完全に成就するのは千年にわたる天の裁きの後であり、新たな地に選ばれた者が据えられることであることが明らかになります。

ダニエル 2:36 これは夢です。王様の前で説明させていただきます。

36a-

王はついに夢に見たことを聞きました。彼を騙すことは不可能だったため、そのような答えは発明できません。したがって、これらのことを説明する人は、自分自身も同じビジョンを受けたこととなります。そして彼はまた、自分が画像を解釈し、その意味を与えることができることを示すことで、王の要請に応えました。

Dan

2:37 王よ、あなたは王の中の王です。天の神があなたに支配と力と力と栄光を与えられたからです。

37a-

私はダニエルが強力な王に非公式に話しているこの聖句に本当に感謝しています。私たちの倒錯した墮落した時代には誰もあえてそんなことはしません。非公式の演説は侮辱的ではなく、ダニエルはカルデア王を尊敬しています。トゥイナリティは、一人の第三者に対して自分自身を表現する孤立した主体によって使用される文法形式にすぎません。そして、俳優モリエールが当時言えたように、「国王は偉大であると同時に、人間に

劣らない」とも言えます。そして、不当な誓いの漂流は、誇り高い「太陽王」ルイ 14 世の時代に生まれました。

37b-

王よ、あなたは王の中の王です。天の神があなたに帝国を与えられたからです。

ダニエルは敬意以上に、自分でも気づいていなかった天上の認識を王にもたらしめます。実際、天の王の中の王が地上の王の中の王を建てたことを証明しています。王を統治することは帝国の称号を構成します。帝国の象徴は「鷲の翼」であり、Dan.7

における最初の帝国としての特徴となります。

37c- パワー、

それは多数を支配する権利を指し、量、つまり質量で測定されます。

それは、強力な王を方向転換させ、誇りに満ちさせることができます。王は時々高慢に屈することがありますが、神はダン 4
で明らかになった屈辱の厳しい試練を通して彼を癒します。自分の力を自分の力で得たのではなく、真の神が与えてくれたからであるという考えを受け入れなければなりません。 Dan.7

では、この力はメディアとペルシアのクマの象徴的なイメージを採用します。

自分自身や自分の人生に空虚さを感じて権力を手に入れると、男性は自殺することがあります。権力は、現実には訪れない大きな幸福を手に入れることを夢想させます。

「すべてが新しく、すべてが美しい」という言葉がありますが、この感覚は長くは続きません。現代の生活では、有名で称賛され、豊かな芸術家たちが、目に見えて輝かしい成功を収めたにもかかわらず、結局自殺してしまいます。

37d- 強度

それは、戦いにおいて相手を屈服させるような行動、つまり拘束下での圧力を指します。しかし、この戦いは自分自身に対して行うことができます。次にキャラクターの強さについて話します。強さは品質と効率で測られます。

また、士師記 14 章 18 節「ライオンより強いもの、蜂蜜より甘いもの」によると、そのシンボルはライオンです。ライオンの強さはその筋肉にあります。その足と爪、特に口は獲物を捕食する前に掴んで窒息させます。サムソンがペリシテ人に投げかけた謎に対するこの答えの転用された啓示は、ペリシテ人に対する彼の側の比類のない力の行動の結果となるでしょう。

37位- そして栄光。

この言葉は、地上と天上の概念で意味を変えます。ネブカドネザルはこの経験をするまで人間の栄光を手に入れました。地球上のすべての生

き物の運命を支配し決定する喜び。イエス・キリストが自分を主人であり、主であり、その僕たちの僕とすることによって得られる日の栄えの栄光を発見することは、彼に残されています。救いのために、彼は最終的にはこの栄光とその天国の状態を受け入れるでしょう。

ダニエル

2:38

神は、人の子ら、野の獣、空の鳥を、どこに住んでいてもあなたの手に加え、あなたをそれらすべての支配者とされました。あなたこそがあなたなのです。黄金の頭。

38a- この画像は、ダニエル 4:9
でネブカドネザルを指定するために使用されます。

38b- あなたは金の頭です。

これらの言葉は、神がネブカドネザルが下す選択を前もって知っていることを示しています。このシンボルである金の頭は、彼の将来の聖化と永遠の救いへの選出を預言しています。ペテロ第一 1 章 7 節によると、金は清められた信仰の象徴です。それは、朽ちる金（ただし火で試される）よりも貴重な信仰の試みが、イエス・キリストが現れるときに賞賛、栄光、名誉をもたらすためです。

。この可鍛性のある金属である金は、創造主である神の働きによって自らを変容させるこの偉大な王のイメージです。

ダニエル

2:39あなたたちの後には、あなたの国よりも小さな王国が起こるでしょう。それから第三の王国が青銅製で全地を支配するでしょう。

39a-

時間の経過とともに、人間の質は低下します。像の胸と両腕の銀は頭の金よりも低いです。ネブカドネザルと同様に、メディア人ダリウスも改宗し、ペルシア人クロス 2 も同じく創世記 1:1 から 4 によれば、全員が同じくダニエルを愛しています。そして彼らの後にはペルシア人ダレイオスとアルタクセルクセス1が^{Esd.6}と7によればいる。試練の中で、彼らはユダヤ人の神が自分たちを助けに来るのを見て喜ぶだろう。

39b- 次に、青銅でできた第三の王国が全地を支配します。

ここで、ギリシャ帝国の状況は深刻に悪化します。それを表すシンボルである真鍮は、不純物、罪を表します。 Dan.10 と 11 を研究すると、その理由が理解できるでしょう。しかしすでに、共和制の自由とその原理によれば制限のないすべての邪悪で腐敗した逸脱の発明者として、人民の文化が疑問視されている。これが、神がPro.29:18でこう言われる理由である：啓示がないときは、人々は抑制がありません。彼が法律を守ってくれば幸いです！

ダニエル

2:40鉄のように強い第四の王国が生まれる。鉄がすべてを壊して壊すのと

同じように、鉄がすべてを粉々に砕くように、鉄はすべてを壊して壊します。

40a- この第

4

の王国は、以前の帝国を支配し、そのすべての神性を採用するローマの王国で状況がさらに悪化します。そのため、帝国はそのすべての否定的な特徴を蓄積し、新しさ、容赦ない硬さの鉄の規律をもたらします。これにより、どの国もそれに抵抗できないほど効果的になります。そのため、彼の帝国は西側のイングランドから東側のバビロンまで広がることとなります。両刃の剣、鎧、盾に至るまで鉄はまさにその象徴であり、そのため攻撃時には軍隊は槍の穂先が逆立った甲羅のような外観を呈し、無秩序な攻撃に対して非常に効果的であり、敵から分散されます。

Dan

2:41そして、あなたが見たように、足とつま先は、一部は陶土で、一部は鉄でできているので、この王国は分裂するでしょう。しかし、そこには鉄の強さのようなものがあるでしょう。なぜなら、あなたは鉄が粘土と混合しているのを見たからです。

41a-

ダニエルはそれを特定しませんが、イメージが語っています。足とつま先は、鉄がイメージする異教のローマ帝国を継承する支配的な段階を表しています。分裂したこのローマ帝国は、崩壊後に形成された小王国の戦場となるだろう。鉄と粘土の結合は強さを生み出すのではなく、分裂と弱さを生み出すのです。 **陶土** と読みます。エレミヤ 18:6によれば、陶器師は神です。イスラエルの家よ、私はあなたに対してこの陶器師のように行動できないでしょうか。と主は言われます。見よ、粘土が陶器師の手の中にあるように、イスラエルの家よ、あなたも私の手の中にあります。この粘土は人類の平和的な要素であり、神はその中から選ばれた者を選び、彼らを名誉の器とされるのです。

ダニエル

2:42そして、足のつま先が一部は鉄で、一部は粘土でできていたように、この王国も一部は強く、一部は脆いものとなるでしょう。

42a-ローマ帝国は 395 年に統一性と支配力を失ったが、ローマの鉄は世界の終わりまで存続したと記されています。その説明は、ローマカトリック信仰の宗教的誘惑によって支配が再開されたことにあります。これは、500

年頃、クローヴィスとビザンチン皇帝がローマ司教に与えた武力支援によるものです。

彼らはローマ司教の威信と新たな教皇権力を築き上げ、それによって彼は、しかし人間の目から見てのみキリスト教会の地上の指導者となりました。538年以来。

ダニエル

2:43あなたがたは、鉄が粘土と混ざり合っているのを見ました。それは人

間の同盟によって混ぜられるからです。しかし、鉄が粘土と結合しないのと同じように、それらは互いに結合しません。

43a- 足の指の数は10で、ダン 7:7 と 24 では 10本の角になります。体と足に続いて、それらは最後の時のヨーロッパの西方キリスト教諸国、つまり私たちの国を表します。時代。神はヨーロッパ諸国の偽善的な同盟を非難し、2,600年前、今日のヨーロッパの人々を団結させ、まさに「ローマ条約」に基づいて団結させた協定の脆弱性を明らかにされました。

ダニエル

2:44 これらの王たちの時代に、天の神は決して滅ぼされることのない王国を立てられ、また他の民族の支配下に置かれることもありません。彼はこれらすべての王国を打ち破り、破壊し、彼自身は永遠に耐えるでしょう。

44a- これらの王たちの時代には

それは裏付けられており、

10本の指はキリストの栄光の再臨と同時代のものです。

44b- 天の神は決して滅ぼされることのない王国を立ち上げるでしょう

選ばれた者の選択は、イエス・キリストが救った人々の罪を償うために初めて地上に来られたときの宣教以来、イエス・キリストの名の下に行われます。しかし、この奉仕活動に続く2000年間、この選択は謙虚さと悪魔の陣営からの迫害の中で達成されました。そして、ダニエル8と12の研究が裏付けるように、1843年以来、イエスが救った人々の数は少数です。

。

6000年にわたる選民の時代が終わりを迎え、第7千年紀には、アダムとイブ以来、イエス・キリストの血によって贖われた選民のみに永遠の安息日が開かれる。神は忠実で従順な人間を連れて行き、悪魔とその反抗的な天使と不従順な人間を彼らの魂の完全な破壊に引き渡すからです。

44c- 他人の支配下に置かれないもの

それは地上における人間の支配と継承に終止符を打つからです。

44d-

彼はこれらすべての王国を打ち破り、破壊し、彼自身は永遠に耐えるでしょう

御霊は、終わりという言葉に与えられる意味を説明します。絶対的な意味。すべての人類が絶滅することになるでしょう。そして Rev.20 は、7千年紀に何が起こるかを私たちに明らかにします。こうして私たちは神が計画された計画を発見することになります。荒れ果てた地上では、悪魔は天上にも地上にも仲間がいないまま囚われの身となります。そして天国では、1000年の間、選ばれた者たちが邪悪な死者を裁くでしょう。この1000年の終わりに、悪人は最後の審判のために復活します。それらを破壊する火は地球を浄化し、神はその玉座と救い出された選ばれた者たちを迎えるために栄光を与えて新たに造られるでしょう。したがって、ビジョンのイメージは、イ

エス・キリストの黙示録が明らかにするより複雑な行動を要約しています。

ダニエル

2:45 このことは、あなたが見た石が手の助けもなしに山から落ち、鉄、真鍮、粘土、銀、金を粉々に砕いたことから分かります。偉大な神は、この後に何が起こるかを王に知らせました。その夢は真実であり、その説明は確かです。

45a-

最後に、石によって象徴されるキリストの来臨、千年の天の裁きと彼の最後の裁きの執行の後、神によって回復された新しい地に、幻の中で告げられた偉大な山が形を成し、定位置します。彼にとって、永遠。

Dan

2:46 そこで、ネブカドネザル王はひれ伏してダニエルを拝み、彼にいけにえと香を捧げるよう命じた。

46a-

依然として異教徒である王は、その性質に従って反応します。ダニエルから求めていたものをすべて受け取ったので、彼は彼の前にひれ伏し、彼の約束を守りました。ダニエルは自分に対して行う偶像崇拝的な行為に反対しません。それに反論したり疑問を抱いたりするにはまだ時期尚早です。時間は神のものであり、その働きを果たします。

ダニエル

2:47 そこで王はダニエルに言った、「まことにあなたの神は神々の神、王の主であり、秘密を明らかにしてください。あなたはこの秘密を発見することができたのですから」。

47a-

これはネブカドネザル王の回心への第一歩でした。ダニエルが真の神、実際、神々の中の神、王の中の主との関係にあることを認めざるを得なくなったこの経験を、彼は決して忘れることはできないでしょう。しかし、彼を支援する異教の取り巻きが彼の改宗を遅らせるでしょう。彼の言葉は預言の働きが有効であることを証明しています。何が起こるかを事前に告げる神の力により、普通の間人は、選ばれた者が屈服し、墮落した者が抵抗する説得力のある証拠の壁に直面することになる。

Dan

2:48 そこで王はダニエルをよみがえらせ、多くの豊かな贈り物を彼に与えた。彼は彼にバビロン全州の指揮権を与え、彼をバビロンのすべての賢者の最高統治者とした。

48a-

ネブカドネザルは、ファラオが以前にヨセフに対して行ったのと同じように、ダニエルに対して行動しました。優れたリーダーは、知的で頑固に閉じこもったりブロックされたりしていない場合、貴重な資質をもたらしてくれる召使の奉仕を評価する方法を知っています。彼らとその民は、神の

選民に与えられる神の祝福の受益者です。このように、真の神の知恵はすべての人に利益をもたらします。

ダニエル

2:49ダニエルは、バビロン州の管理職をシャデラク、メシャク、アベデネゴに引き渡すように王に願いました。そしてダニエルは王の宮廷にいました。

49a- この 4
人の若者は、バビロンに一緒に来た他の若いユダヤ人の中で、神に対する特に忠実な態度で際立っていました。誰にとっても劇的なものになるかもしれないこの試練の後、生ける神の承認が現れます。このように私たちは、神に仕える者と仕えない者との間に神が与える違いが分かります。彼は、すべての人々の目に自分が価値があることを公に示した選挙で選ばれた役人を昇格させます。

ダニエル3

ダニエル

3:1ネブカドネザル王は、高さ六十キュビト、幅六キュビトの金の像を造った。彼はバビロン州のドゥラの谷にそれを設置しました。

3a-

王はダニエルの生ける神によって確信されましたが、まだ回心していませんでした。そして誇大妄想が今でも彼の特徴となっている。周りの大人たちは、寓話の中のキツネがカラスにするように、彼をこの道に進むよう励まし、彼を神のように崇拝し、崇拝します。また、王は自分を神に喩えてしまう。異教においては、他の偽りの神々は動かず、彫像の形で凍りついているので、王である彼は生きており、すでに彼らよりも優れている。

るため、漂流は容易であると言わなければなりません。しかし、この黄金は像の建設になんと不適切に使われているのでしょうか。明らかに、以前のビジョンはまだ実を結んでいません。おそらく、神々の神が彼に示した栄誉さえも、彼のプライドを維持し、さらに高めるのに役立ったのでしょうか。ペテロ第一 1 章 7 節によれば、試練によって清められた信仰の象徴である金は、この章で語られる新しい経験の中で、ダニエルの 3 人の仲間の中にこの種の崇高な信仰が存在することを明らかにするのに役立ちます。これは、黙示録 13 章 15 節で預言されている死の宣告が彼らの命を奪おうとしている最後のアドベンチスト裁判において、神が特に選民に向けて語られた教訓です。

ダニエル

3:2ネブカドネザル王は、総督、執事と総督、裁判官長、財務官、法律家、裁判官、および地方のすべての判事たちを呼び、ネブカドネザル王が立てた像の奉獻式に出席させた。

2a- Dan.6

のダニエルの試練とは異なり、この経験は王を取り巻く人々の陰謀によるものではありません。ここで彼の個性が発揮されます。

ダニエル

3:3それから、太守、家令、総督、裁判官長、財務官、法律家、裁判官、および地方のすべての判事が集まり、ネブカドネザル王が立てた像を奉獻した。彼らはネブカドネザルが立てた像の前に立っていました。

ダニエル 3:4すると、使者が大声で叫んだ。

ダニエル

3:5ラッパ、パイプ、ギター、サンブーク、プサルテリー、バグパイプ、その他あらゆる楽器の音を聞くと、あなたはひれ伏して、ネブカドネザル王が建てた金の像を拝むであろう。

5a- ラッパの音を聞く瞬間

黙示録11:15

で7

番目のラッパの音によって象徴されているのと同じように、裁判の合図はラッパの音によって与えられ、以前の 6 つの刑罰もラッパによって象徴されています。

5b- ひれ伏すことになる

ひれ伏すことは、名誉を物理的に表現することです。黙示録 13:16 では、神は獣の刻印を受ける人間の手によってそれを象徴していますが、それは聖なる神の安息日に代わる異教の太陽の日を實踐し、尊重することから成ります。

5c- きっと気に入っていただけるでしょう

礼拝は、精神的に与えられる名誉の形です。黙示録

13:16

では、神は獣の刻印を受ける人の額を通してそれを描写しています。

この聖句を読むと、イエス・キリストの黙示録に引用されているこれらのシンボルの鍵を見つけることができます。人間の額と手は彼の考えと彼の作品を要約しており、選ばれた人々の間では、これらのシンボルは獣の刻印とは対照的に神の印章を受けており、ローマカトリックの「日曜日」と同一視され、以来プロテスタントによって受け入れられ、支持されています。彼らのエキュメニカル同盟への参加。

ネブカドネザル王によって課されたこの措置の組織全体は、世界の終わりに、創造主なる神の安息日への忠実さが試される際に新たに更新されることになる。安息日ごとに、選出された人々が労働を拒否することは、人々の法に対する彼らの抵抗を証明するでしょう。そして日曜日には、彼らが強制された共通の礼拝への参加を拒否したことで、彼らは排除されるべき反逆者であると認定されるだろう。その後死刑判決が言い渡される。したがって、このプロセスは、ダニエルの 3 人の仲間が経験することと完全に一致しており、彼ら自身はすでに示されている忠実さのために神から完全に祝福されています。

しかし、世界の終わりの前に、この教訓はまず、エピファネスとして知られるギリシャの王アンティオコス 4 世によって、175 年から 168 年にかけて同様の試練にさらされ、死に至るまで迫害された旧同盟のユダヤ人たちに与えられました。そして、Dan.11

は、ある忠実なユダヤ人は真の神の前で忌まわしい行為をするよりも殺されることを望んだと証言するでしょう。なぜなら当時、神は後にローマによって殺害されたキリスト教徒に対して介入したのと同じように、彼らを奇跡的に救うために介入しなかったからだ。

ダニエル

3:6 ひれ伏して礼拝しない者は、直ちに火の炉に投げ込まれます。

6a-

ダニエルの仲間にとって、脅威は燃える炉です。この殺害予告は、最後の死刑宣告をイメージしたものだ。しかし、始まりと終わりの二つの経験には違いがあります。なぜなら、最終的には、燃える炉が、神に選ばれた聖徒たちを迫害する侵略者たちの最後の審判の罰となるからです。

ダニエル

3:7 それゆえ、すべての民がラッパ、パイプ、ギター、サンブーク、プサルテリー、あらゆる楽器の音を聞いたとき、すべての民、すべての国民、すべての言語の人々が、ネブカドネザル王が立てた黄金の像をひれ伏して拝みました。

7a-

人間の法律と儀式に対する大衆のほぼ全面的かつ満場一致のこの行動は、地上の信仰の最後の試練の時の彼らの行動を依然として預言しています。地球最後の普遍政府も同じ恐怖を持って従うことになるだろう。

ダニエル

3:8 このとき、そして同時に、あるカルデア人たちがやって来て、ユダヤ人たちを告発した。

8a-

神の選民は、神が選民として認めていないすべての魂を支配する悪魔の怒りの標的だ。地球上では、この悪魔のような憎しみは、嫉妬であると同時に、大きな憎しみという形で形をとります。そして、彼らは人類が苦しむすべての悪の責任を負わされることとなりますが、これらの悪は単に神による保護がなかったことの結果であると説明するのは逆です。選挙で選ばれた役人を憎む人々は、彼らを殺害することで排除しなければならない大衆の排泄者にしようと陰謀を企てる。

ダニエル

3:9 彼らはネブカドネザル王に答えて言った、「王よ、永遠に生きてください。」

9a- 悪魔の手先が現場に入り、陰謀がより明確になります。

ダニエル

3:10 あなたは、ラッパ、キセル、ギター、サンブーク、プサルテリー、バグパイプ、その他あらゆる楽器の音を聞く者はみな、ひれ伏して金の像を礼拝しなさいという戒めを与えられました。

10a-

それらは、王自身の言葉と、従順が要求される王の權威の命令を思い出させます。

ダニエル

3:11 また、ひれ伏して礼拝しない者は、火の炉に投げ込まれます。

11a- 死の脅威も思い出されます。選ばれた聖者たちに畏が迫る。

ダニエル

3:12 さて、王よ、あなたがバビロン州の管理を任されたユダヤ人たち、シャデラク、メシャク、アベデネゴがいますが、彼らはあなたに無関心です。彼らはあなたの神に仕えることも、あなたが立てた黄金の像を崇拜することもありません。

12a-

事は予想通りで、高い地位がユダヤ系外国人に委ねられ、不誠実な嫉妬に火がつき、その凶悪な憎悪の果実が現れた。こうして、神に選ばれた人々が選ばれ、民衆の執念深さによって非難されるのです。

ダニエル

3:13 そこで、ネブカドネザルは激怒し、シャデラク、メシャク、アベドネゴを連れてくるように命じた。そしてこれらの人たちは王の前に連れて行かれました。

13a-

この三人がネブカドネザルから彼の王国で最高の地位を獲得したことを思い出してください。なぜなら、ネブカドネザルには彼らが彼の民の

人々よりも賢く、知性があるように見えたからです。これが、彼の「イライラして激怒した」状態が、彼らの卓越した資質を一時的に忘れてしまったことを説明する理由です。

ダン

3:14 ネブカドネザルは答えて彼らに言った、「シャデラク、メシャク、アベデネゴ、あなたたちがわたしの神々に仕えず、わたしが高く掲げる黄金の像を拜むのは、故意ですか。」

14a-

彼は、彼らが彼の質問に答えるのを待ちませんでした：あなたは意図的に私の命令に従わないのですか？

ダニエル

3:15 さて、準備を整えなさい。ラッパ、パイプ、ギター、サンブーク、詩篇、バグパイプ、その他あらゆる楽器の音を聞いたら、あなたがたはひれ伏して、この像を拜むであろう。私は作りました。もし彼を崇拜しなければ、すぐに燃える炉の中に投げ込まれるでしょう。そして、あなたを私の手から救い出してくれる神は誰ですか？

15a-

突然、これらの人々が自分にとってどれほど有用であるかを認識した王は、普遍的な帝国命令に従うことで、彼らに新たな機会を提供する準備ができています。

尋ねられた質問は、ネブカドネザルが皇帝としての生活の活動によって忘れてしまったように見える真の神から予期せぬ答えを受け取るでしょう。さらに、事件の日付を特定するものは何ともありません。

ダニエル

3:16 シャデラク、メシャク、アベドネゴはネブカドネザル王に答えた、「この件については答える必要はありません。」

16a-

当時の最も強力な王に対してなされたこれらの言葉は、法外で不遜なように見えますが、これらの言葉を言ったこれらの人々は反逆的な人々ではありません。それどころか、彼らは忠実であり続けると固く決心した生ける神への従順の模範を構成します。

Dan

3:17 見よ、私たちが仕えている神は、私たちを火の炉から救い出すことができ、王よ、あなたの手から私たちを救い出してください。

17a-

王とは異なり、忠実な選民は、幻視の試練において神が彼らと共にいたことを示すために神が与えた証拠を保持していました。この個人的な経験を、同じ忠実な神によってエジプト人や奴隷状態から救出された国民の輝かしい記憶と結び付けて、彼らは王に反抗するところまで大胆さを推し進めます。たとえそれが自らの死を犠牲にしても、彼らの決意は完全な

ものです。しかし、御霊は彼らに彼の介入を預言させます。王よ、彼は私
たちをあなたの手から救い出します。

ダニエル

3:18 そうでなければ、王よ、私たちはあなたの神々に仕えたり、あなたの
立てられた金の像を崇拝したりしないことを知っておいてください。

18a-

そして、神の助けが来ない場合には、裏切り者や卑怯者として生き
残るよりも、忠実な選ばれし者として死ぬほうが彼らにとって良いのです。
この忠実さは、168

年にギリシャの迫害者によって課された試練で明らかになります。そして
その後、キリスト教時代を通じて、世の終わりまで神の律法と悪人の律法
を混同しない真のキリスト教徒の間で見られます。

ダニエル

3:19 そこでネブカドネザルは怒りに満ち、顔色を変え、シャデラク、メシ
ャク、アベドネゴに顔を向けた。彼は再び話し、炉を本来の加熱量の7倍
に加熱するように命令しました。

19a-

この王は生涯、彼の決定に反対する者を見たり聞いたりしたことは
一度もなかったということを理解しなければなりません。それは彼の怒り
と顔の変化を正当化します。悪魔が彼に入り込み、彼を神の選民を殺すよ
うに導きます。

ダニエル

3:20 それから、彼は自分の軍の最も強い兵士たちに、シャデラク、メシ
ャク、アベド・ネゴを縛り上げ、燃える炉に投げ込むよう命じた。

Dan

3:21 そして、これらの人たちはズボン、上着、上着、その他の衣服を着た
まま縛られ、燃える炉の中に投げ込まれた。

21a- 言及されたこれらの物質はすべて、その肉体と同様に可燃性です。

ダニエル

3:22 王の命令は厳しく、炉は異常に熱かったので、シャデラク、メシ
ャク、アベド・ネゴを炉に投げ込んだ者たちは炎で死んでしまいました。

22a-

これらの人たちの死は、この炉の火の致命的な効果を証明していま
す。

Dan

3:23 そして、シャデラク、メシャク、アベド・ネゴの三人は、縛られて燃
える炉の中に落ちた。

23a- 王の命令は実行され、王自身の使用人も殺害されます。

ダニエル

3:24 そこで、ネブカドネザル王は恐れて、すぐに立ち上がった。そこで彼

は、自分の相談者たちに答えて言った、「縛られた三人を火の中に投げ込んだのではないか？」彼らは王に答えた、「確かに、王よ！」

24a-

当時の王の中の王は自分の目を信じるできませんでした。彼が見ているものは人間の想像を超えています。彼は、3
人を炉の火の中に投げ込むという行為が現実であるかどうかを周囲の人に尋ねて、自分を安心させる必要があると感じています。そしてこれらは彼に物事を裏付けるものです：それは確かです、おお王！

ダニエル

3:25 彼は答えて言った。そして四番目の姿は神の子に似ています。

25a- 王だけが彼を怖がらせた

4

番目の人物のビジョンを持っていたようです。三人の模範的な信仰は神によって尊重され、応えられました。この火の中で、王は人々を見分けることができ、光と火が彼らとともに立っているのを見ることができます。この新しい体験は最初の体験を超えます。生ける神の現実は今でも彼に証明されています。

25b- そして4番目の姿は神の子のそれに似ています

この

4

番目の人物の外見は人間の外見とは非常に異なっているため、王は彼を神の子であると認識しています。この表現が幸福であるのは、それが確かに、人間のためになられる方、**神の子であり人の子であるイエス・キリスト**の直接の介入であるからです。

Dan

3:26 それから、ネブカドネザルは火の炉の入り口に近づき、こう言いました、「いと高き神の僕たち、シャデラク、メシャク、アベデネゴ、出てきてください。」そしてシャデラク、メシャク、アベデネゴが火の中から出てきた。

26a-

ネブカドネザルは再び、自分よりもはるかに強いライオンの王の前で子羊に変身します。この思い出は、前のビジョンの経験の証言を呼び起こします。天の神は彼に二度目の訴えを起こす。

ダニエル

3:27 太守、家令、総督、王の顧問らが集まった。彼らは、火がこれらの男たちの体に影響を与えていないこと、頭髮が焼けていないこと、下着が損傷していないこと、そして火の匂いが彼らに届いていないことを確認しました。

27a-

この経験において、神は私たちとネブカドネザルに、ご自身の真の全能性の証拠を与えてくださいました。彼は、彼の土地と次元に住むすべての人間とすべての動物の命を条件づける地球の法則を作りました。しかし、彼は自分も天使たちもこうした地上の規則に従わないことを証明した

ところでは、宇宙の法則の創造者である神は彼らの上におり、ご自身の意志で、その時代にイエス・キリストに栄光と名声をもたらす奇跡的な事件を命じることができます。

ダニエル

3:28 ネブカドネザルは答えて言った、「シャデラクとメシャクとアベデネゴの神はほめたたえられますように。神は御使いを遣わして、自分を信頼し、王の戒めを破って奉仕も崇拝もせずにその身を差し出した家臣たちを救い出しました」彼らの神以外のどんな神も！

28a-

王の怒りは消えた。男として立ち直った彼は、その経験から学び、同じことが二度と起こらないように命令を下します。それは苦い経験だからです。神はバビロニア人に、ご自身が生きていて活動しており、力と力に満ちていることを示しました。

28b-

誰が天使を送り、彼を信頼し、王の命令に違反し、自分たちの神以外の神に仕えて崇拝するのではなく、自分の体を差し出した家臣たちを救ったのです！

高度な明晰さの中で、王は、彼の狂ったプライドが殺そうとした人々の忠誠心がどれほど素晴らしいかを理解します。無実の人々を危険にさらして間違いを犯すだけの彼のプライドによって引き起こされたこの愚かな試練を、彼の力のおかげで回避することが可能だったであろうことを彼が認識していることは疑いの余地がありません。

ダニエル

3:29 さて、これが私の命令です。どんな民族、国民、言語であっても、シャデラク、メシャク、アベデネゴの神を悪く言う者は皆、切り刻まれ、その家は滅ぼされます。彼のように救ってくれる神は他にいないからです。

29a-

この宣言により、ネブカドネザル王は神に選ばれた者たちに保護を与えます。

同時に、彼はシャデラク、メシャク、アベデネゴの神の悪口を言う者は誰であっても脅迫し、彼は引き裂かれ、家はゴミの山と化すだろうと述べています。彼ほど救える神は他にいない。この脅威に直面しても、ネブカドネザル王が統治する限り、神の忠実な選民が陰謀による問題に悩まされることはないのは確かです。

ダニエル

3:30 この後、王はバビロン州でシャデラク、メシャク、アベデネゴを繁栄させた。

30a-

生き

て存在するすべてのものの創造者である生ける神の忠実な選ばれし者のための「終わり良ければすべて良し」。なぜなら、神に選ばれた者た

ちは最後に復活し、回復された地の上で、かつての敵である死者の塵の上を永遠に歩くことになるからである。

最後の試練でもこのハッピーエンドが得られます。このように、最初の試練も最後の試練も、救い主イエス・キリストにおいて救うために来られる選ばれた者たちに有利な生ける神が直接介入することから恩恵を受けるのです。なぜなら、イエスという名前は「主が救う」という意味だからです。

ダニエル4

ダニエル

4:1 ネブカドネザルは全地に住むすべての民族、国家、言語の王である。平和が豊かにあなたに与えられますように！

1a-

口調と態度がそれを証明しています、話している王はダニエルの神に改宗した人です。その表現は新しい契約の書簡の記述に似ています。彼が平和を提供するのは、彼自身が今、人間の心の中で、愛と正義の神、真の、唯一の、唯一無二の神との間に平和を感じているからです。

ダニエル

4:2

いと高き神が私に対してしてくださったしるしや不思議な出来事を示すのは、私にとって良いことのように思えました。

2a-

王は、イエスが自分によって癒された目の見えない障害者に「神殿に行き姿を現し、神があなたのためにしてくださったことを知らせなさい」と言われたとおりに行動します。王は、神に触発された同じ願望によって動かされています。なぜなら、回心は毎日可能ですが、神は王の中の王、強力な皇帝が経験したような衝撃をすべての人に与えるわけではないからです。

ダニエル

4:3 そのしるしはなんと偉大なことでしょう。彼の驚異は何と力強いのでしょうか！彼の統治は永遠であり、彼の支配は世代から世代へと続きます。

3a-

これらのことを理解して確信することで、彼は平安と真の幸福をすでに得られます。王はすべてを学び、理解しました。

ダニエル

4:4 わたし、ネブカドネザルは、自分の家で平和に暮らし、宮殿で幸せに暮らしていました。

4a-

静かで幸せですか? はい、しかし、依然として真の神に対して回心していない異教徒です。

ダニエル

4:5 私は恐ろしい夢を見た。ベッドの上で私を追い求めていた考えと心のビジョンが私を恐怖で満たしました。

5a-

このネブカドネザル王は、まさに、キリストにある神が助けを求めて不幸から救い出すためにやって来た失われた羊として私たちに示されています。なぜなら、この平和で幸福な地上時代が過ぎれば、王の未来は滅びと永遠の死となるからです。彼の永遠の救いのために、神は彼をかき乱し、苦しめるために来ます。

ダニエル

4:6 そこで私は、バビロンの博士たちをすべて私の前に呼んで、夢の説明をしてもらうように命じました。

6a-

明らかに、ネブカドネザルには深刻な記憶障害があります。なぜ彼はすぐにダニエルに電話をかけないのですか?

ダニエル

4:7 それから、魔術師、占星術師、カルデア人、占い師たちがやって来た。私は彼らに夢を話しましたが、彼らは私に説明をしませんでした。

7a-

最初のビジョンと同じように物事が起こります。異教の占い師たちは、すでに自分たちの命を脅かされている王に寓話を語るよりも、自分たちの無力さを認識することを好みます。

ダニエル

4:8 最後に、ダニエルが私の前に現れました。ダニエルは私の神の名にちなんでベルテシャザルと名付けられ、彼の内に聖なる神々の霊を持っています。私は彼に夢を話します。

8a-

忘れる理由が示されます。ベルは依然として王の神でした。ここで思い出しますが、メディア人ダリウス、ペルシア人キュロス、ペルシア人ダリウス、アルタクセルクセス一世は

Esd.1、6、7によれば、いずれも選挙で選ばれたユダヤ人と彼らの唯一の神を高く評価するでしょう。その中には、神がイザヤ書 44:28 で預言されているクロスも含まれており、次のように述べています。彼は

エルサレムについてこう言うだろう、「再建させよう！」そして神殿について：それを設立しましょう！

預言された羊飼いは、従うことを認めた神の預言的な意志を成就します。この他の聖句は彼の預言された回心を裏付けるものである： イザヤ書 45:2:主は油そそがれた者、キュロスにこう言われる、そして 13節でこう言われる:キュロスを自分の義によって立てたのはわたしである、そしてわたしは彼の道をすべてまっすぐにするだろう;彼は私の町を再建し、身代金も賄賂もなしに私の捕虜を解放してくれる、と万軍の主は言われる。そして、この計画の成就是、エスカデ 6:3 から 5に現れています。キュロス王の最初の年に、キュロス王はエルサレムの神の家に関して次の命令を与えました。「家を再び建て、犠牲を捧げる場所にせよ」が提供されており、しっかりとした基盤があることがわかります。それは高さ60キュビト、幅60キュビト、切り出した石が3列、新しい木材が1列あります。

費用は王の家が負担します。さらに、ネブカドネザルがエルサレムの神殿から取り出してバビロンに運んだ神の家の金銀の器は返され、エルサレムの神殿の元の場所に運ばれ、家の中に置かれます。神の**費用は王家が負担する。**

神はソロモン王に与えた栄誉を彼に与えます。ただし、注意してください。この法令は、ダニエル 9:25で提案されている計算をメシアの初臨の日付を求めるために使用することを許可しません。それはペルシアのアルタクセルクセス王のものでしょう。キュロスは神殿を再建させたが、アルタクセルクセスはエルサレムの城壁の再建とユダヤ人全員の国土への帰還を許可した。

ダニエル

4:9 魔術師の長ベルテシャザル、あなたのうちに聖なる神々の霊が宿っており、どんな秘密も難しい人ではないと私は知っていますが、私が夢で見た幻について説明してください。

9a-

王がどこにいるのかを理解する必要があります。彼の心の中では、彼は異教徒であり続け、夢を説明できることを除いて、ダニエルの神を別の神として認識していました。神を変えなければならないという考えは彼には思いつきませんでした。ダニエルの神は、他の神と比べれば、単なる別の神でした。

ダニエル

4:10 これらは横たわっている間に私の心に浮かんだ幻です。私が見ると、見よ、地球の真ん中に大きな木がありました。

10a-

イエスが教えたい霊的な人々に教訓を与えるために使用するイメージでは、曲がりくねるアシから力強く雄大な杉に至るまで、木が人間のイメージになります。そして、人間が木のおいしい果実を評価できるのと同

じように、神はご自分の被造物が結ぶ果実を、最も楽しいものから最も楽しくないもの、さらには忌まわしく嫌悪すべきものまで、評価するかどうかを評価します。

ダン

4:11 この木は大きく、強くなり、そのてっぺんは天にまで届き、全地の果てからも見えるようになった。

11a-

像のビジョンの中で、カルデアの王は、真の神によって彼に与えられた力、強さ、帝国のイメージに従って、すでに木にたとえられていました。

ダニエル

4:12 その葉は美しく、その実は豊かであった。彼は皆のために食べ物を運んだ。野の獣たちはその日陰に避難し、あらゆる生き物がそこから食物を吸い出しました。

12a-

この強力な王は、彼の命令に従って生産された富と食糧を帝国のすべての人々に分け与えました。

12b- 空の鳥はその枝の間に住処を作りました。

この表現は

Dan.2:38

の繰り返しです。文字通りの意味で、これらの空の鳥は彼の統治下に君臨する平和と静けさを表しています。霊的な意味では、彼らは神の天の天使たちを指しますが、伝道 10:20 のこの 1 つの言及では、問題となっているのは神ご自身であり、神だけがそれぞれの考えを調べているからです。心の中でさえ、あなたが寝ている部屋で金持ちを呪わないでください。空の鳥があなたの声を奪い去り、翼のある動物があなたの言葉を公開するからです。引用の大部分では、空の鳥は、有翼種の中で最も優勢なワシや猛禽類を連想させます。鳥は食べ物が豊富な場所に住み着きます。したがって、この画像は繁栄と食べ物の飽食を裏付けています。

ダニエル

4:13 横たわっている間に見た霊の幻の中で、見よ、見守っている聖なる者たちの一人が天から降りて来たのを見た。

13a-

確かに、天の天使たちは眠る必要がなく、したがって永久に活動しています。聖なる者で神に仕えている人たちは、地上の僕たちに神のメッセージを伝えるために天から降りてきます。

ダニエル

4:14 そして、彼は力強く叫び、こう言った。「木を切り倒し、その枝を切りなさい。葉を振り落とし、果実を散らす。獣はその下から、鳥は枝の間から逃げましょう。」

14a- ビジョンは、王が王国と彼に対する支配を失うことを告げます。

ダニエル

4:15 ただし、根が生えている茎は地中に残し、鉄と真鍮の鎖で野の草の間に縛りなさい。彼を天の露に濡らし、獣のように地の草を自分の分として持たせてください。

15a- ただし、幹は根のある地面に残しておきます
王は自分の王国に留まります。彼は追放されないでしょう。

15b- そして野の草の中で鉄と真鍮の鎖で彼を縛りなさい
鉄や真鍮の鎖は必要ありません。なぜなら、神はその可鍛性のある被造物に、肉体的、精神的、道徳的、あらゆる面で理性と常識を失わせるだけだからです。強力な王は自らを野獣とみなすだろう。したがって、彼の王国の偉い人たちは、王国の支配を彼から剥奪することを余儀なくされるでしょう。

15c-
彼が天の露に濡れますように、そして獣のように地の草を自分の分として持つことができますように

彼が牛や羊のように地面の草を食べているのを見た大人たちの驚きは想像できます。彼は屋根付きの住居を拒否し、野原で暮らして寝ることを好みます。

ダニエル

4:16 彼の人間の心は彼から奪われ、獣の心臓が彼に与えられるでしょう。そして七度が彼を通り過ぎるだろう。

この経験において、神は再びご自身の真の全能性の証拠を与えます。すべての被造物の命の創造者である神は、その栄光のために、いつでも人を賢くすることも、逆に愚かにすることもできるからです。それは目に見えないため、男性は常に自分たちにのしかかるこの脅威を無視します。しかし、彼が介入することはめったになく、介入する場合は特定の理由と目的があるのは事実です。

罰は計られる。この規則はネブカドネザル王に**7 回**、わずか 7 年間適用されます。王自身以外のものに対してこの期間を使用することには正当性はありません。ここでもまた、この「7」という数字を選択することによって、創造主なる神は、これから達成される行動を「王家の印章」でイニシャル化したのです。

ダニエル

4:17 この文は見守る者たちの命令であり、この決議は聖徒たちの命令であり、いと高き方が人間の国を治め、それを御心に適う者に与えられることを生ける者が知るためである。そこで最も卑劣な人間を育てます。

17a- この文は見る者の命令です

御霊は、見守る者たちによる「命令」の役割を与えられたこの神の介入の例外的な性質を強調しています。人間は、欺瞞的な外見にもかかわらず、常に天上の存在たちに見守られているということを学ばなければなりません。神はこの例を世の終わりまで人類への教訓としたいと考えてい

ます。見守る人々の言葉を引用することによって、彼は神の陣営の天使たちの完璧な集団的団結が明らかになり、それが彼らを彼の計画と行動に結びつけています。

17b-

それは、いと高き方が人間の王国を支配しており、御心のままにそれを与えられることを生ける者が知るためである。

神はすべてを導き、すべてを制御します。多くの場合、人はこの隠された現実を忘れて、自分が自分の運命と自分の決定の支配者であると信じています。彼は指導者を自分で選んだと思っていますが、善意と物事や存在に対する神の判断に従って、指導者を任命するのは神です。

17c- そして彼はそこで最も卑劣な人間を育てているということ

「人々には彼らにふさわしいリーダーがいる」という格言は真実です。民が卑劣な人物を指導者としてふさわしいとき、神はそれを民に押し付ける。

ダニエル

4:18 これは、私、ネブカドネザル王が見た夢です。ベルテシャザル、あなたが説明してください。私の王国のすべての賢者が私にそれを与えることができないからです。それができるのは、あなたの中に聖なる神々の霊が宿っているからです。

18a-

ネブカドネザルは進歩していますが、まだ回心していません。彼はダニエルが聖なる神に仕えているということをも今でも覚えていました。一神教は彼にはまだ理解されていません。

ダニエル

4:19 そのとき、ベルテシャザルという名前のダニエルは、しばし呆然とし、考えに悩んだ。王は答えて言いました、「ベルテシャザル、夢や説明に悩まされないでください。」するとベルテシャザルは答えた、「主よ、夢をあなたの敵に、その夢をあなたの敵に説明してください！」

19a-

ダニエルはその夢を理解し、これから起こることは王にとって非常に恐ろしいものであるため、ダニエルは敵に対してそれが達成されるのを見たいと思っています。

ダニエル

4:20 あなたが見たその木は、大きく成長し、そのてっぺんは天に届き、地の至るところに見られました。

ダニエル

4:21 この木は、葉が美しく、その実が豊かで、すべての人に食物をもたらし、その下に野の獣たちが住みつき、その枝の間に空の鳥たちが住んでいました。

21a- 紅葉が綺麗でした
外見や服装。

21b- そして豊富な果物
豊かさの豊かさ。

21c- 全員のために食料を運んだ人
国民全員の食糧を確保したのは誰か。

21d- その下に野の獣たちが隠れていた
家臣たちの守護者である王。

21日 - その枝の間に空の鳥が住処とした
彼の統治下で、彼の民は非常に安全に暮らしていました。鳥たちは
少しでも危険を冒して飛び立ち、木から離れます。

ダニエル

4:22 王よ、あなたは大きく、強くなり、その偉大さは増大して天にまで高
められ、その支配は地の果てにまで及びます。

ダン

4:23 王は、聖なる番人の一人が天から降りてきて、「その木を切り倒し、
滅ぼせ」と言ったのを見た。ただし、幹は根のある地面に残し、野の草の
間に鉄と真鍮の鎖で縛ります。彼を天の露で濡らして、七度が彼の身に降
りかかるまで、彼の分を野の獣たちとともにさせなさい。

ダニエル

4:24 これが説明です、王よ、これはいと高き方の命令であり、私の主君で
ある王に成就されるものです。

ダニエル

4:25 彼らはあなたを人々の中から追い出し、野の獣たちとともに住み、牛
のように食べる草を与えるでしょう。あなたは天の露に濡れ、至高者が人
間の王国を支配し、その王国を御心に適う者に与えられることを知るまで
、七回あなたを襲うであろう。

25a- いと
高き方が人間の国を治め、御心に適う者にそれを与えられることを
あなたが知るまでは。

ダニエルは神を「いと高き方」と呼んでいます。このようにして彼
は、唯一の神の存在について王の考えを導きます。この考えは、父から子
へと受け継がれてきた多神教の起源のため、国王には理解が非常に困難で
す。

ダニエル

4:26 木の根がある幹を離れなさいという命令は、支配者が天におられるこ
とをあなたが認識するとき、あなたの王国があなたとともに残ることを意
味します。

26a-

統治する者が天国にいると彼が認識すると、王は確信して改心する
ので、屈辱の経験はなくなります。

ダニエル

4:27 ですから、王よ、私の助言があなたを喜ばせますように。正義を実践

することで自分の罪に終止符を打ち、不幸な人たちに同情心を示すことによって不法行為に終止符を打てば、あなたの幸福は続くかもしれません。

27a-

王がこの聖句にダニエルが挙げていることを実践するとき、彼は真に回心するでしょう。しかし、これまでに明らかにされた経験が私たちに教えているように、この性格はプライドに負けており、彼の議論の余地のない力は彼を気まぐれでしばしば不当なものにしています。

ダニ

4:28

これらすべてのことはネブカドネザル王において達成されました。

28a-

ダニエルによるこの宣言は、この預言の他のいかなる解釈も禁止しており、ダニエルが定義した規則に違反するエホバの証人およびその他の宗教団体によって教えられている預言の根拠を無効にすると非難しています。さらに、この章全体の内容がこれを証明しています。なぜなら、この物語は、なぜ王が木の予言の呪いに見舞われるのかを教えてくれるからです。

ダニエル4:29 十二か月の終わり、バビロンの王宮を歩いていたとき、

29a- ビジョンとその達成の間には 12 か月、または 1 年、または「時間」が経過します。

ダン

4:30 王は答えて言った、「このバビロンこそが偉大なバビロンではないでしょうか。わたしが王の住居として、またわたしの威厳を誇示するため、力を尽くして建てたのです。」

30a-

これは、王が沈黙していた方が良かったであろう運命の瞬間です。しかし、私たちがそれを理解できるのは、彼のバビロンが今でも「世界の七不思議」の一つに挙げられているまさに純粋な驚異だったからです。緑豊かな空中庭園、池、広々とした広場と城壁が四方 40 km の広場にあります。城壁の上部には 2 台の戦車が城壁の全長に沿って互いに通過できます。当時の高速道路。ベルリンで再建されたその門の 1 つは、青いエナメルを塗った石でできた 2 つの壁の中央にあり、そこには王の紋章、つまりダニエル 7:4 で言及されている鷲の翼を持つライオンが刻まれています。彼には誇るべきものがあつた。しかし、神はご自分の言葉に高慢を見ているのではなく、高慢ではなく、何よりも自分の過去の経験に対する忘れと軽蔑を見ているのです。確かに、地上で誇りに思っているのはこの王だけではありませんが、神は彼に目を付け、彼を天国に迎え入れたいと望んでおり、彼を手に入れようとしています。これには説明が必要です。神は外見を超えて被造物を裁かれるのです。神は彼らの心と思いを調べ、決して間違えることなく、救いに値する羊を認識します。このため、彼は主張し、時には奇跡

を起こすようになりますが、その方法は、得られる最終結果の品質によって正当化されます。

ダニエル

4:31 その言葉がまだ王の口の中にあったとき、天から声が出た、「ネブカドネザル王、聞いてください。王国はあなたから奪われようとしています。」

31a-

ネブカドネザルは、彼に罫を仕掛け、預言的な夢の中でそれを警告した神の愛の犠牲者です。天からの宣告が聞こえますが、神が彼になさる悪が彼の命を救い、それを永遠にするので、喜びましょう。

ダニエル

4:32 彼らはあなたを人々の中から追い出し、あなたは野の獣たちとともに住み、牛のように食べる草をあなたに与えるでしょう。そして至高者が人間の王国を支配し、その王国を御心に適う者に与えられることをあなたが知るまで、七回があなたを襲うだろう。

32a- 7年間、

7回、王は正気を失い、自分が単なる動物であると思い込んでしまいます。

ダニエル

4:33 同時に、その言葉はネブカドネザルでも成就した。彼は人々の間から追放され、牛のように草を食べ、彼の体は天の露でびしょぬれになりました。彼女の髪が鷲の羽のように、爪が鳥のように伸びるまで。

33a- 王は発表されたすべてのことを証言する

ビジョンの中で彼は見事に達成されました。回心した王は証言を書く際に、三人称で自分自身について語り、この屈辱的な経験を呼び起こした。恥ずかしさが今でも彼を後ずさりさせている。別の説明も可能です。それは、この証言が王と真の神の新しい兄弟であるダニエルによって一緒に書かれたということです。

ダニエル

4:34 定められた時が過ぎ、私、ネブカドネザルが天に向かって目を上げたとき、私は理性を取り戻しました。私はいと高き方を祝福し、永遠に生き、その支配は永遠の支配であり、その王国は世代から世代へと存続する方を賞賛し、栄光を与えました。

34a-

賢明で全能の神は、失われた羊の愛を獲得します。彼女は彼の群れに加わり、彼の栄光を讃えます。

34b- その支配は永遠であり、その統治は世代から世代へと続く者

この公式は、ダンの人の子のビジョンの、今回は永遠の第 5
の王国に関するものです。

7:14: 彼には支配権、栄光、王国が与えられました。そしてあらゆる民族、国家、あらゆる言語の人々が彼に仕えました。彼の支配は過ぎ去ることの

ない永遠の支配であり、彼の王国は決して破壊されない。また、ダニエル 2:44

の像の幻の中でも、これらの王たちの時代に、天の神は決して滅ぼされることのない王国を立ち上げるでしょうし、他の人々の支配下に置かれることもありません。彼はこれらすべての王国を打ち破り、破壊し、彼自身は永遠に耐えるでしょう。

ダニエル

4:35 地に住む者はみな、彼の目には何も映らない、彼は天の軍勢と地に住む者たちに対して思いのままに行動する、その手に耐えられる者はいない。彼：何をしているの？

35a

生ける神に栄光あれ！今度は王がすべてを理解し、回心したからです。

ダニエル

4:36 その時、私は正気に戻りました。私の王国の栄光、私の素晴らしさ、そして輝きが私に回復されました。私の顧問や長老たちは私に再び尋ねました。私は王国に戻され、力は増すばかりでした。

36a-

試練の終わりに神が息子、娘、そして子孫を与えた正しく正しいヨブのように、王は偉大な者たちからの信頼を取り戻し、生ける神によって啓発された真の賢者たちの中で今の賢明な統治を再開する。この経験は、神が望む者には誰にでも王国を与えるということを証明しています。偉大なカルデア人に再び王を求めるよう促したのは彼でした。

Dan

4:37 さて、わたし、ネブカドネザルは、天の王を讚美し、称賛し、栄光を与えます。その御業はすべて真実であり、その道は義であり、高慢に歩む者たちを謙虚にすることがおできになります。

37a-

彼はそれを言うことができる、それを言えるようになるためにお金を払ったからである。

最悪の事態を避けるために、歯を抜くことは大きな痛みを伴う可能性があります。しかし、賭け金は苦しみを正当化することができます。永遠を得るには、厳しい、または非常に厳しい試練を経験する必要があるかもしれませんが、それが可能であれば、プライドを根こそぎにすれば、それが正当化されます。イエス・キリストはパウロの可能性を知っていて、ダマスカスへの道でパウロを盲目にされた。それは、霊的に盲目の「兄弟の迫害者」が、彼の目の視力を取り戻した後、忠実で熱心な証人となるためであったが、何よりもパウロの視力を回復したからである。精神。

ダニエル5

ダニエル

5:1 ベルシャザル王は、千人の貴族たちに大宴会を開き、彼らの前でぶどう酒を飲んだ。

1a-

ネブカドネザル王はかなり高齢になって神の平安の中で眠りにつき、息子のナボニドゥスが王の後を継ぎ、統治することに消極的だったので、息子のベルシャザルに代わって統治させました。

「ベルが王を守る」という神が挑戦しようとしている挑戦を意味するこの名前と、ネブカドネザルがダニエルに与えた名前、「ベルが守る」を意味するベルテシャザルを混同しないでください。これらの名前の起源は、ベルまたはベリアルへの崇拝であり、その背後には多神教の唯一の主催者であるサタン、悪魔がいます。これから見るように、改宗した王の後継者たちはこの道を歩むことはしませんでした。

ダニエル

5:2 ベルシャザルは、そのぶどう酒を味見した後、父ネブカドネザルがエルサレムの神殿から取ってきた金銀の器を持って来て、王とその貴族、妻と側女たちが、飲酒。

2a-

この異教の王にとって、これらの金銀の器はユダヤ人から奪った戦利品にすぎません。ネブカドネザルが改宗した真の神を無視することを選んだ彼は、この生ける神が自分のすべての行動を裁いているという事実を無視しています。創造主である神への奉仕において聖別され神聖化されたこれらのものを根拠として使用し、冒流的に使用することによって、彼は短い人生の最後の過ちを犯します。当時のネブカドネザルは、ユダヤ人の神の積極的な力を考慮する方法を知っていました。なぜなら、ネブカドネザルは、彼の国の神が実際には存在しないことを理解していたからです。バビロンの王に従属するすべての民族は、天の王、特に彼の近親者に有利な彼の力強い証言を聞いていました。したがって、神には今、ご自身が正義であり、無慈悲であることを示す十分な理由があります。

ダニエル

5:3 そこで彼らは、神殿から持ち出された金の器を、エルサレムの神の宮から運び出した。そして王とその貴族、彼の妻と側室はそれを飲むためにそれを使いました。

3a- ダニエルは除去されたこれらの船の起源を主張します

神殿から、エルサレムの神の家から。すでにユダヤの神が神殿からこれらのものを取り除くことを許可したのを見て、若い王は、真の神がご自分にひどい仕えをする者たちを罰し、厳しく懲らしめることを理解していたはずで、異教の神々はそのようなことはせず、その司祭たちは自分たちの軽薄さを利用する人々を喜ばせようとしているだけです。

ダニエル

5:4 彼らはぶどう酒を飲み、金、銀、真鍮、鉄、木、石の神々を賛美した

。
4a-

不敬な使用は時代遅れであり、偶像礼拝的な使用であり、神にとっては忌まわしいことの極みです。重要な詳細は、彼の都市が包囲しているメディア人とペルシア人によって脅かされている間、王が友人たちと祝宴を繰り広げているという不注意の顕著な表れである。

ダニエル

5:5 その瞬間、人の手の指が現れ、王宮の壁の石灰岩の燭台の反対側に文字を書きました。王は、文字を書いているこの手の端を見た。

5a-

ネブカドネザルの時代の奇跡は軽蔑されてきましたが、この新しい奇跡は改宗を目的とするのではなく、これから見るように罪を犯した人々の命を破壊することを目的としています。罪人の死を望んだ邪悪な告発者の前で、イエス・キリストも彼らが密かに犯した罪を指で砂に書きます。

ダニエル

5:6 そのとき、王は顔色を変え、思い悩んだ。背中関節が緩み、膝がぶつかり合った。

6a-

奇跡はすぐにその効果をもたらします。酩酊にもかかわらず、彼の心は反応し、恐怖を感じている。

ダニエル

5:7 そこで王は、占星術師たち、カルデア人たち、占い師たちのために大声で叫んだ。すると王はバビロンの賢者たちに答えて言った、「この経典を読んで私に説明してくれる者は、紫の服を着て、首に金のネックレスをし、世界第3位になるだろう」王国政府です。

7a-

再びダニエルは無視されます。彼の証言は王位継承によって軽蔑された。そして再び極度の苦悩の中、若き王は壁に書かれたメッセージを超自然的な方法で解読できると証明した者に最高の栄誉を約束する。ナボニドゥスとベルシャザルが1位と2位を占めているため、これを行う人が王国で3位を獲得することになります。

ダニエル

5:8 王の博士たち全員が入ってきた。しかし彼らは文字を読んで王に説明することができませんでした。

8a-

ネブカドネザルの時代と同様、異教の賢者にとってこれは依然として不可能です。

ダニエル

5:9そこで、ベルシャザル王は非常に恐れて顔色を変え、王の貴族たちは狼狽した。

ダニエル

5:10王妃は、王とその貴族たちの言葉を聞いて宴会場に入り、こう言った、「王よ、永遠に生きてください。」あなたの考えがあなたを悩ませませんように、そしてあなたの顔の色が変わりませんように。

ダニエル

5:11あなたの王国に、内に聖なる神の霊を持つ人がいます。そして、あなたの父親の時代には、彼の中には光と理解力と神々の知恵のような知恵が見られました。また、あなたの父、王、あなたの父であるネブカドネザル王は、彼を魔術師、占星術師、カルデア人、占い師の指導者に任命しました。

ダニエル

5:12なぜなら、ベルテシャザル王によって指名されたダニエルは、彼の中に優れた精神、知識と理解力、夢を解き明かし、謎を説明し、難しい質問を解く能力があることが判明したからです。そこでダニエルを呼んで説明してもらいましょう。

12a-

女王のこの証言は混乱を招くものであり、王室全体を非難するものです。私たちはそれを知っていました...しかし、私たちはそれを考慮しないことにしました。

ダニエル

5:13それからダニエルは王の前に連れて行かれた。王はダニエルに答えて言った、「あなたはこのダニエル、私の父王がユダから連れ出したユダの捕虜の一人ですか？」

ダニエル

5:14私はあなたのことを聞いていますが、あなたの内には神の霊が宿っており、あなたの中には光と理解力と並外れた知恵があるとのことです。

ダニエル

5:15彼らは、この文書を読んで説明してもらうために、博士たちと占星術師たちを私の前に連れてきたところです。しかし彼らは言葉の説明をすることができませんでした。

ダニ

5:16私は、あなたが説明をしたり、難しい質問を解決したりできることを学びました。さて、もしあなたがこの経典を読んで私に説明してもらえれば、あなたは紫色の服を着て、首には金のネックレスをしており、王国の政府で第三位の地位に就くでしょう。

16a- ナボニドゥスの父親と彼自身に次ぐ第3位。

ダニエル

5:17 ダニエルは王の前で答えた、「自分の賜物を守り、他の人に贈りなさい。それでも、私は王にその文書を読んで説明します。

17a-

ダニエルは年老いており、名誉や品物、銀や金の価値を重視していませんが、この若い王に自分の過ち、命をかけて償わなければならない罪を思い出させる機会は、そうではありません。拒否すれば、彼はこの種の行為に対する神の僕です。

ダニエル

5:18 王よ、至高の神はあなたの父ネブカドネザルに統治権、偉大さ、栄光、そして威光を与えられました。

18a- ネブカドネザルの治世は真の神の働きであり賜物であり、7年間神に愚かにされる前に、ネブカドネザルが誇りから誤って自分の力の素晴らしさを自分の強さに帰したのと同様に、真の神の働きでした。

ダニエル

5:19 そして、彼が与えた偉大さのゆえに、すべての民族、国々、あらゆる言語の人々が彼の前で恐れ、震えた。王は自分が望む者を殺し、彼が望む者を生かした。彼は自分が望むものを上げ、彼が望むものを下げました。

19a- 王は望んでいた者たちを殺した

特に、神から与えられたこの力により、彼は反抗的なユダヤ人を罰し、その代表者の多くを死刑に処しました。

19b- そして彼は望んでいた人々の命を捨てた

ダニエルと捕虜となったユダヤ人たちは恩恵を受けました。

19c- 彼は自分が望んでいた人たちを育てた

ダニエルと彼の3人の忠実な仲間、ネブカドネザル王によってカルデア人の上に育てられました。

19日- そして彼は自分が望んでいたものを下げた

彼の王国の偉人たちは、ユダヤ人捕虜の若い見知らぬ人たちによって統治されることに同意しなければなりませんでした。彼の強力な手によって、ユダヤ人の民族的誇りは謙虚にされ、破壊されました。

ダニエル

5:20 しかし、彼の心が高揚し、精神がかたくなになって傲慢になったとき、彼は王座から引き落とされ、栄光を剥奪されました。

20a- ネブカドネザル王の経験により、ダニエル 7:8

の教皇の王の傲慢さを理解することができます。ダニエルは、彼のプログラムに従って、神が望む者に絶対的な権力が与えられることを王に証明します。しかし、ネブカドネザル王の屈辱を回想する中で、ネブカドネザル王は、彼がどれほど強力であっても、地上の王は天の王の無限の力に依存していることを思い出させます。

ダニエル

5:21 彼は人の子らの中から追放され、その心は獣の心のようになり、彼の

住処は野ろばとともにあった。彼らは彼に牛のように食べる草を与え、彼の体は天の露でびしょぬれになりましたが、最高の神が人間の王国を支配し、彼が好きな人には誰でもそれを与えると彼が認識するまで。

21a-この聖句だけで「

野生のロバ」という言及に注目します。ロバは頑固さの典型的な象徴であり、特にそれが「野生」で飼いならされていない場合は「ロバのように頑固」です。それは、人生の経験や聖書の啓示を通じて神が与えた教訓を聞くことを拒否する人間の精神を表すシンボルです。

Dan

5:22そして、その子ベルシャザルよ、あなたはこれらすべてのことを知っていたにもかかわらず、心を謙虚にしませんでした。

22a-

実際、「父親」（祖父）が生きた経験を考慮せず、「野生のロバ」のように振る舞ったのはベルシャザルでした。

ダニエル

5:23あなたは天の主に対して自分を高めました。彼の家の器があなたの前に運ばれ、あなたも長老たちも妻も妾も、それを使ってワインを飲みました。あなたは銀、金、真鍮、鉄、木、石の神々を賛美しましたが、彼らを見ず、聞かず、何も知らず、あなたの息とあなたのすべての道をその手に持っている神を讃えませんでした。

23a-

ベルシャザルは、創造主である神の神殿の宗教的奉仕のために神聖化された黄金の器を冒瀆しました。しかし、偽りの異教の神々を賛美するためにそれらを利用することにより、彼は忌まわしい極みを達成しました。このイメージは黙示録 17:4 のイメージを準備しています。この女性は紫と緋色の服を着ており、金、宝石、真珠で飾られていました。彼女は手に、忌まわしいものと売春の不純物で満たされた金の杯を持っていました。彼女は 5 節で「大いなるバビロン」という名前を受け取ります。

ダニエル 5:24そこで彼は、この文字をなぞる手のこの端を送った。

24a-

次に、ベルシャザルは人間の行動に対して奇跡的な方法で行動し、反応する真の生ける神の存在を遅すぎて発見します。

ダニエル

5:25書かれていたのは次の文字である、「ミノウ、ミノウ、テケル、ウフアルシン」。

25a- 翻訳: 数えて、数えて、重さを量って、分ける

ダニエル 5:26これがこれらの言葉の説明です。番号付け: 神はあなたの王国に番号を付け、それに終止符を打ちました。

26a- 最初の「カウント」は統治の始まりをターゲットにし、2番目の「カウント」はこの統治の終わりをターゲットにします。

ダニエル

5:27 計量された:

あなたがたは天秤で量られたが、不足していることがわかった。

27a-ここでは

天秤は神の裁きの象徴です。男性は正義の奉仕を指定するためにそれを採用しました。非常に不完全な正義。しかし、神のものは完全であり、二重の秤のイメージに基づいて、裁かれる者が成し遂げた善と悪の行為を秤量します。善のプラトーが悪のプラトーよりも軽い場合、神の非難は正当化されます。そしてこれはベルシャザル王の場合です。

ダニエル

5:28 分割:

あなたの王国は分割され、メディア人とペルシア人に与えられます。

28a-

彼がダレイオス王に率いられて王宮で忌まわしい酒宴に耽っていた間、メディア人は川床からバビロンに入り、一時的に方向を変えて干上がった。

ダニエル

5:29 そこでベルシャザルはすぐに命令を出し、ダニエルに紫の服を着せ、首に金の首飾りをかけ、彼が王国の政府の第三位になることが発表された。

ダニエル 5:30 その夜、カルデア人の王ベルシャザルが殺された。

ダニエル 5:31 そしてメディア人ダリヨスが六十二歳で王国を占領した。

31a- ダニエルのこの正確な目撃証言は、この行動を 539
年のペルシャ王キュロス 2

世によるものだとする歴史家には認められていません。

ダニエル6

イエス・キリストにおいて神に召されたすべての選ばれた人々のために模倣し再現するという模範的な忠実性のテストを提示しています。コメントは役に立ちますが、ただ読んで教訓を学んでください。ダレイオス王は当時のネブカドネザルのように行動し、62歳になった今度はダニエルという生ける神の栄光を告白するでしょう。神がライオンからダニエルを守ってくださったとき、ダニエルの忠実さの証によって得られた回心。関係が始まった当初から、彼はダニエルに愛情と関心を持っており、ダニエルは忠実かつ誠実に奉仕し、ダニエルの中に自分の良さを見出します。 *優れた精神*。

ダニエル

6:1ダリウスにとって、王国全体に百二十人の太守を任命したのは良かった。

1a- ダレイオス王は、120 の州に設置された 120 人の総督に王国の統治を委ねることで、その知恵を明らかにします。

ダン

6:2そこで、彼は彼らの上に三人の首長を任命したが、その中にはダニエルもいた。それは、これらの太守たちが彼らに責任を与え、王がいかなる損害も被らないようにするためであった。

2a- ダニエルは依然として太守を監督する主要な指導者の一人です。

ダニエル

6:3ダニエルは君たちや太守たちよりも優れていました。それは、ダニエ

ルの内に優れた精神があったからです。そして王は王国全土にそれを確立することを考えました。

3a-

ダリウスは今度はダニエルの知性と賢明な精神の点でダニエルが優れていることに気づきます。そして、何よりも彼を確立しようとする彼の計画は、ダニエルに対する嫉妬と憎しみを呼び起こすでしょう。

ダニエル

6:4そこで、支配者たちや太守たちは、王国の問題に関してダニエルを告発する機会を求めた。しかし、彼は忠実で、何の落ち度も悪いことも見られなかったため、彼らは叱責する機会も何も見つけることができませんでした。

4a-

ダニエルは神が置かれた場所で神に仕えるので、同じ献身と忠実さをもって王に仕えます。したがって、それはとがめられないように見えません。黙示録

14:5

によれば、「末日アドベンチスト」聖徒の間で見られる基準。

ダニエル

6:5そこでこの人たちは言った、「神の律法の中にそのような理由があるのでなければ、このダニエルに反対する機会はない。」

5a-

これらの推論は、神の律法の7日目の安息日は、信仰を尊重することに同意しないため、その忠実な僕たちの殺害を許可するという、最後の地上の信仰の試練に対する悪魔の陣営の考え方を明らかにしています。ローマの宗教法に基づく日曜日、初日の残りの日は義務とされています。

ダニエル

6:6そこで、これらの君たちや太守たちは、騒ぎながら王のところに来て、こう言った、「ダリヨス王よ、永遠に生きてください。」

6a-

この騒々しい入場は、数の強さ、混乱を引き起こす能力、そしてそれゆえに支配を強化する必要性を王に思い出させることを目的としています。

ダニエル

6:7王国の君たち、執事、太守、参議官、総督たちは皆、三十日以内にかかなる者も祈りを捧げてはならないという厳重な禁止を伴う勅令を発すべからざるかと考えている。神であろうと、王よ、あなた以外の人間は、ライオンの穴に投げ込まれるでしょう。

7a-

それまで、ダレイオス王は王国の人々に、別の神ではなくある神に仕えるよう強制しようとはしませんでした。多神教では信教の自由は完全です。そして彼を説得するために、陰謀者たちはダレイオス王を神として崇めながら彼にお世辞を言います。ここでも、すべての偉大な統治者と同

様に、プライドが目覚め、この命令を承認するようになりますが、それは彼の心から出たものではありませんでした。

ダニエル

6:8 王よ、今、禁止事項を確認し、メディアとペルシア人の不変の法律に従って、それを取り消すことができないように布告を書き記してください。

8a-

この法令は、終わりの日にローマの日曜日を義務化する者を見事に預言しています。しかし、間違いを犯す罪深い人々によって確立されたメディアとペルシアの法のこの不変の性質は、完全に不当なものであることに注意しましょう。不変性は、真の生ける神、創造主に属します。

ダニエル 6:9 そこでダリヨス王は法令と布告を書き記した。

9a- このステップは不可欠である。なぜなら、彼自身が

法令と弁明を書いた以上、メディアとペルシヤの不変の法律が尊重されなければならないからである。

ダニエル

6:10 ダニエルは、その法令が書かれたことを知ると、自分の家に引きこもった。そこでは、上の部屋の窓がエルサレムに向かって開いていた。そして日に三回、以前と同じように、ひざまずいて祈り、神を賛美しました。

10a-

ダニエルは自分の行動を変えず、この人間の尺度に影響されることを許しません。彼は窓を開けることで、全能神への忠誠をすべての人に知ってもらいたいことを示しています。このとき、ダニエルは神の神殿があり、破壊されたエルサレムの方向を向きます。なぜなら、霊なる神は、ご自分の家、地上の住居としたこの聖なる神殿に、長い間ご自身を現されたからです。

ダニエル

6:11 そこで、この人たちが騒然として入って行ったところ、ダニエルが神に祈り求めているのを見つけた。

11a-

陰謀者たちは王令に従わない彼を捕まえようと待ち構えていました。現在は「フレグランスデリクト」です。

ダニエル

6:12 そこで彼らは王の前に立って、王の弁護について王に言った、「王よ、三十日以内にだれでも神に、あるいはだれにでも祈りなさいという弁明書を書かなかったのですか、王よ。」ライオンの巣穴に放り込まれたのか？王は答えた、「メディアとペルシアの法律によれば、このことは確実であり、不変である。」

12a- 国王は、自分が書き署名した法令のみを確認することができます。

6:13 彼らは再び話し、王に言った、「ユダの捕虜の一人ダニエルは、王よ、あなたの書いた弁明にも、一日三度の祈りにも耳を傾けませんでした。」

」

13a-

ダニエルはその行為、祈りの行為で捕らえられ、非難されます。王はダニエルの忠実で正直な行動を高く評価しています。彼は、一日三回定期的に神に祈っているのも、熱心に忠実に仕えているこの神と自分とをすぐに結びつけます。これは、ダニエルの非難が彼に引き起こす痛みと苦しみ、そして彼の来るべき回心の始まりを説明しています。

ダニエル

6:14 王はこれを聞いて非常に悲しんだ。彼はダニエルを救い出すことを心に留め、日没まで彼を救おうと努力した。

14a-

その後、王は自分が操作されていることに気づき、ダニエルを救うためにあらゆる努力を払いますが、彼はダニエルにとっても感謝しています。しかし彼の努力は無駄に終わり、悲しいことに王はすべての前に、手紙は人を殺すが、精神は命を与えることに気づきました。後に神は人間にこの表現を与えることによって、律法に対する尊重の限界を示しました。法律の条文の文字だけで人生を規制することはできません。神は神の裁きにおいて、成文律法の死文が無視している詳細を考慮に入れており、神のいない人間には同じことをする知恵がありません。

ダニエル

6:15 ところが、この人たちは王に強く主張して、「王よ、知ってください。メディア人とペルシャ人の法律では、王が確認したあらゆる禁止や布告は取り消しできないものであると定めているのです。」と言いました。

15a-

陰謀者たちは、メディアとペルシアの王によって下された決定の取り消し不可能な（不当な）性質を思い出します。彼自身も、受け継いだ文化に囚われている。しかし、彼は自分がダニエルに対する陰謀の犠牲者だったことを理解しています。

ダニエル

6:16 そこで王は、ダニエルを連れてきて獅子の穴に投げ込むように命じた。王はダニエルに答えて、「あなたが忍耐強く仕えているあなたの神があなたを救い出してくださいますように！」と言いました。

16a-

王はダニエルをライオンの穴に投げ込むことを余儀なくされましたが、彼は忠実に仕えている神が介入して彼を救ってくれることを心から願っています。

ダニエル

6:17 彼らは石を持って来て、穴の入り口に置いた。王はダニエルに関して何も変わらないように、自分の指輪と貴族の指輪でそれを封印しました。

17a-

ここで、ダニエルが生きた経験は、人間の介入を防ぐために円形の石の扉も封印されたキリストの埋葬との類似点を示しています。

ダニエル

6:18 それから、王は宮殿に行った。彼はその夜を断食して過ごし、側室を連れてこなかったので、眠ることができませんでした。

18a-

王のこの行動は彼の誠実さを証明しています。これらのことを行うことによって、彼はダニエルの神を喜ばせ、ダニエルの神から救いを得たいと願っていることを示しています。これが彼の唯一の神への回心の始まりです。

ダニエル 6:19 王は夜明けに起きて、急いで獅子の巣へ行った。

19a-

ダニエルの死の考えで心が苦しむために眠れぬ夜が続く純潔の準備と、夜明けにライオンの巣に向かって突進するこの行動は、異教の王が行う行動ではなく、兄弟を愛する兄弟の行動です。神の中で。

ダニエル

6:20 彼は穴に近づくと、悲しそうな声でダニエルを呼びました。王はダニエルに答えて、「生ける神、あなたが辛抱強く仕えているあなたの神に仕えるダニエルが、あなたをライオンから救ってくれるのでしょうか？」と言いました。

20a- 穴に近づくと、彼は悲しそうな声でダニエルに呼びかけました。

王は期待していますが、ダニエルにとって最悪の事態が起こることを恐れています。しかし、彼の希望は、彼が彼女に電話して質問したという事実によって示されています。

20b-

生ける神、あなたが辛抱強く仕えているあなたの神に仕えるダニエルは、あなたをライオンから救い出すことができましたか。

彼を「生ける神」と呼ぶことで、彼の回心の始まりを証言しています。しかし、彼の質問は「彼はあなたをライオンから救い出すことができましたか？」

は、彼がまだ自分のことを知らないことを示しています。そうでなければ、彼は「あなたをライオンから救い出したかったですか？」と言うだろう。»。

ダニエル

6:21 そこでダニエルは王に言った、「王よ、永遠に生きてください。」

21a- 陰謀者の口では、6

節のこの表現にはほとんど意味がありませんでしたが、ダニエルの言葉では、神の選民に与えられた永遠の命へのアクセスが預言されていました。

ダニエル

6:22 わたしの神は御使いを遣わして獅子の口をふさぎましたが、わたしは

神の前で無実であることが判明したので、ライオンはわたしに危害を加えませんでした。そして王よ、あなたの前でも私は何も悪いことをしていません。

22a-

この経験で、ダリウス王は、人間の王令の不変の概念が、ダニエルが隠れることなく仕えている真の生ける神によってどれほど愚かで、不当で、不承認であるかを認識します。

ダニエル

6:23すると王は非常に喜び、ダニエルを穴から連れ出すように命じた。ダニエルは穴から引き上げられましたが、神を信頼していたため傷は見つかりませんでした。

23a- それで王様はとてもうれしかったです

この自然で自発的な喜びの反応は、神が選んだ未来を明らかにします。なぜなら、王は今や自分の存在と権力の確信を持っているからです。

23b-

ダニエルは穴から引き上げられましたが、傷は見つかりませんでした。

ちょうど、過熱した炉に投げ込まれたダニエルの三人の仲間の衣服が焼けなかったのと同じです。

23c- 彼は自分の神を信頼していたから

この自信は、神の祈りを奪うことになる王令には従わないという彼の決断に表れていました。この純粋に人間的な信仰モデルにとっては不可能かつ考えられない選択です。

ダニエル

6:24王は、ダニエルを告発した者たちとその子供たちとその妻たちを連れてきて獅子の穴に投げ込むよう命じた。そして、彼らが穴の底に着く前に、ライオンが彼らを捕まえて、骨をすべて折ってしまいました。

24a-

神は悪を計画した邪悪な者たちに対して状況を逆転させました。来たるべきペルシア王の時代に、指導者ハマーンがエステル女王の時代に民とともに死刑にしたいと考えているユダヤ人モルデカイにとって、その経験は新たなものとなるだろう。そこでも、モルデカイのために設けられた絞首台で絞首刑に処せられるのはハマーンである。

ダニエル

6:25この後、ダリヨス王は、全地に住むすべての人々、すべての国々、すべての言語に宛てて、「平和があなたがたに豊かにあるように」と書きました。

25a-

王からのこの新しい文書は、生ける神によって征服された人間の文書です。今、心の中に完全な平安がある彼は、その支配的な立場を利用して、王国のすべての人々に、真の神から受けた平和の証しを語ります。

ダニエル

6:26 わたしは、わたしの王国全体にダニエルの神への恐れと恐れが存在するように命じます。なぜなら、彼は生ける神であり、永遠に耐え続けるからです。彼の王国は決して破壊されることはなく、彼の支配は最後まで続きます。

26a- 私は王国全土にこう命じます。
王は命令しますが、誰にも強制しません。

26b- ダニエルの神に対する恐れと恐れ
しかし、この経験によって豊かになった彼は、ダニエルに対して扇動された新たな陰謀の作者を思いとどまらせるために、ダニエルの神への恐れと恐れを押し付けます。

26c- 彼は生ける神であり、永遠に耐えるからです
彼はこの証しが王国の人々の心に受け入れられることを望んでおり、そうするためにこの証しを賞賛し称賛しています。

26d- 彼の王国は決して破壊されず、彼の支配は最後まで続く
王国の彫像の永遠の性格が再び宣言されます。

ダニエル

6:27 救い出し、救い、天と地にしるしと不思議を行われる方です。ダニエルをライオンの力から救い出したのは彼でした。

27a- 救い出すのも救うのも彼だ
王は自分が観察したことを証言しますが、この救出と救いはダニエルの肉体、つまり命にのみ関係します。罪を救い出し、救いたいという神の願いを理解するには、イエス・キリストの到来を待たなければなりません。しかし、生ける神を喜ばせるために王は自然に自分自身を清める必要性を感じていたことを指摘しておきます。

27b- 天と地にしるしと不思議を行う者
ダニエル書は、これらのしるしや不思議、神が行った超自然的な行為について証言していますが、悪魔とその悪霊が特定の神の奇跡を偽造することもあるので注意してください。考えられる 2
つの発信元を識別するには、配信されたメッセージから誰が利益を得ているかを理解するだけで十分です。それは創造主である神への従順につながるのでしょうか、それとも不従順につながるのでしょうか？

ダニエル

6:28 ダニエルはダリウスの治世とペルシア人キュロスの治世に栄えました。

28a- ダニエルは故郷に戻らないことは理解していますが、ダン 9
で神が彼に教えた教訓のおかげで、ダニエルは神が決めたこの運命を苦しむことなく受け入れることができたでしょう。

ダニエル7

ダニエル 7:1

バビロンの王ベルシャザルの最初の年に、ダニエルは横たわっているときに夢を見、幻を見ました。それから彼は夢を書き留め、主要なことを話しました。

1a- バビロンの王ベルシャザルの最初の年
つまり 605 年。Dan.2 のビジョン以来、50年が経過しました。偉大な王ネブカドネザルの死により、孫のベルシャザルが跡を継ぎます。

ダニエル 7:2

ダニエルは話し始めて言いました、「夜の幻で見ると、見よ、天の四風が大海に吹き出た。」

2a- 天の四風が吹き込んだ

北、南、東、西の4

つの基本点の方向に勢力を拡大するように導く普遍的な戦争です。

2b- 偉大な海の上で

海はたとえ大きくても死の象徴であるため、このイメージは人類にとって好ましいものではありません。創世記1によれば、それは神の計画において、人間のために神の似姿に作られた環境ではありません。その環境は地球です。しかし、人類は原罪以来、その不従順によって神聖なイメージを失い、もはやその純粋で聖なる目に映るのは、悪魔や悪霊の靈感のもとで互いに貪り合う不純で貪欲な海洋動物たちだけです。このビジョンでは、海は匿名の人間集団を象徴しています。

さらに、この預言の対象となっている地域は、地中海に接する海岸沿いの面でつながっている人々に関するものです。したがって、海は支配者の征服における好戦的な行動において大きな役割を果たしている。

ダニエル7:3すると、四匹の異なる獣が海から出てきた。互いに。

3a- そして4匹の大きな動物が海から現れました

私たちは新しい示現の中でダニエル書 2章に与えられた教えを見つめますが、そこでは動物が彫像の体の部分を置き換えています。

3b- 異なるファイル_互いに
像の素材とか。

ダニエル

7:4 最初のもはライオンのようで、鷲の翼を持っていました。私は彼の翼がもぎ取られるまで見ていました。彼は地から引き上げられ、人間のよう
に自分の足で立たせられ、人間の心臓が彼に与えられた。

4a- 最初はライオンのようで、鷲の翼を持っていました

ここでは、

Dan.2

のカルデア王の黄金の頭が鷲の翼を持つライオンになります。

Dan.4

のネブカドネザル王の誇り、バビロンの青い石に刻まれた紋章。

4b- 私は彼の翼がもぎ取られるまで見ました

この預言は、ネブカドネザル王が神によって愚かにされた7年間、

または7回について言及しています。ダニエル書

4:16

で預言されているこの 7 年間 (7 回) の屈辱の間に、彼の人間の心臓は取り除かれ、獣の心臓に置き換えられました。

4c-

彼は地から引き上げられ、人間のよう
に自分の足で立たせられ、人間の心臓が彼に与えられた。

彼の創造主なる神への回心はここで確認されます。彼の経験は、神にとって、人間が人間であるのは、その心が神の似姿を帯びている場合に限られるということ私たちは理解することができます。彼はイエス・キリストとしての受肉において、愛と従順の完璧な神の模範を明らかにするでしょう。

ダニエル

7:5 すると、見よ、第二の獣が熊のようで、片側に立っていました。彼の歯の間にあばら骨が3本も入っていたので、彼らは彼に言った、「起きて、肉をたくさん食べなさい」。

5a-そして見よ、二番目の獣は 熊のようで、片側に立っていました

カルデア王の後、メディア人とペルシア人の銀の胸と腕は熊になります。

「片側に立った」正確さは、メディアの支配に次いで現れたペルシアの支配を示していますが、ペルシア人キュロス2世が獲得した征服により、ペルシアはメディアの支配よりもはるかに大きな力を与えられました。

5b-

彼は歯の間に肋骨が3本入っていたので、彼らは彼に言った、「起きて、肉をたくさん食べなさい」

ペルシア人はメディアを支配し、546年に富裕王クロイソスのリディア、539年にバビロニア、525年にエジプトの3ヶ国を征服します。

ダニエル

7:6 この後、私が見ると、見よ、もう一人はヒョウのようで、鳥のように

背中に四つの翼を持っていた。この動物には 4
つの頭があり、それに支配権が与えられました。

6a- この後見てみると、見よ、もう一匹はヒョウのようだった
同上、ギリシャの支配者の厚かましい腹と太ももは、鳥の翼が 4
枚あるヒョウになります。ギリシャヒョウの斑点は、それを罪の象徴とし
ています。

6b- 背中には鳥のように4つの翼がありました
ヒョウに関連する4つの鳥の翼は、若い王アレクサンダー大王 (-336
年から -323 年の間) の征服の驚異的な速度を示し、裏付けています。

6c- この動物には4つの頭があり、それに支配権が与えられました
ここでは「 4つの頭」ですが、Dan.8では「
4つの大きな角」となり、ギリシャの統治者、アレクサンダー大王の後継
者であるセレウコス、プトレマイオス、リュシマコス、カッサンドロス
を指します。

ダニエル

7:7この後、私は夜の幻を見た。そして、見よ、恐ろしい、恐ろしく、非
常に強い**四番目の獣**がいた。彼には大きな鉄の歯があり、残ったものを食
べ、砕き、足で踏みつけました。それはそれまでのすべての動物とは異な
り、10本の角を持っていました。

7a- この後、私は夜の幻覚を覗いてみると、見よ、恐ろしい、恐ろしく
、並外れて強い、**四番目の獣**がいた。

ここでもローマ帝国の鉄の脚が、鉄の歯と10本の角を持つ怪物と化
す。なぜなら、黙示録13:2 によれば、この国だけが以前の 3
つの帝国の基準を備えているからです。クマの力とヒョウのスピード
彼の罪の継承は彼の汚れによって象徴されています。

7b- 彼には大きな鉄の歯があり、残ったものを食べ、砕き、足で踏みつ
けました。

鉄の象徴によって行われた大虐殺と虐殺が彼の教皇の支配によって
世界の終わりまで続くことを示しています。

7c- それはそれまでのすべての動物とは異なり、10本の角を持っていま
した。

の角はフランク人、ロンバルド人、アレマン人、アングロサクソン
人、西ゴート人、ブルゴーニュ人、スエビ人、ヘルリ人、ヴァンダル人、
東ゴート人を表しています。

24節で天使がダニエルに与えた説明によると、これらは395年以降のロー
マ帝国崩壊後に形成されるキリスト教**10王国**です。

ダニエル

7:8そこで私が角をよく観察すると、見よ、もう一つの小さな角が角の中

から出てきて、その角の前に最初の角のうちの三本が引き抜かれた。そして見よ、彼女は男の目のような目と、傲慢に話す口を持っていました。

8a- 角を見ると、見よ、角の中からまた小さな角が出てきた。

小さな角は10本の角のうちの1本から出ており、ローマ市が位置する東ゴート族のイタリアと、カエリウス山のラテラノ宮殿にあるいわゆる教皇の「聖座」を示しています。ラテン語の名前の意味: 空。

8b- そして最初の角のうちの3本がこの角の前で引きちぎられた
引きちぎられた角は年代順に3人の王

24節以降、すなわち493年から510年までのヘルリ族、続いて533年にヴァンダル族、そして538年にユスティニアヌス1世の命令で將軍ベリサリウスによってローマから追われ、540年にラヴェンナで決定的に敗北した東ゴート族が挙げられた。なぜなら、このホーンの前の表現の結果に注意しなければならぬからです。これは、ホルンには個人的な軍事力はなく、ホルンとその宗教的権力を恐れ、支持し従うことを好む君主の武力の恩恵を受けていることを意味します。この推論はダニエル書 8 章 24 節で確認されます。そこでは「彼の力は増大しますが、彼自身の力によるものではありません。」と25

節に明記されています。「彼の繁栄と策略の成功により、彼は世界において傲慢になるだろう」心。このように、ダニエル書のさまざまな章、さらに広くは聖書全体に散在する同様のメッセージをグループ化することによってのみ、真実が確認されることが証明されています。この本の各章は切り離されており、預言とそのメッセージは「封印」されており、最も微妙で最も重要なものにはアクセスできないままになっています。

8c- そして見よ、彼女は男の目のような目をしていました

ような用語を付けています。このようにして、現実ではない外観の類似性を示唆します。ここでも同様に、イエス・キリストにおける完全性において受肉した人間との類似点に注目しなければなりません、人間はそれを見せかけているだけです。しかし、それだけではありません。なぜなら、「目」は預言者の千里眼の象徴であり、イエスはその完璧なモデルでもあるからです。そして聖霊は、最終的にはバチカン市国に正式な本部を設立する教皇庁の預言的なふりをほのめかしており、この言葉はラテン語の「バチナーレ」から来て、預言するという意味です。このことは黙示録 2 章 20 節で確認されます。聖霊がこのローマカトリック教会を、主の預言者を殺させたイゼベル、アハブ王と結婚したバアルを崇拝する外国人女性と比較するときです。この比較は正当化される。なぜなら、教皇はキリストにおける神の真の預言者たちを異端審問の火にかけて死に至らしめるからである。

8d- そして傲慢に話す口。

この第

7

章では、神聖な映画製作者であり監督である彼が、特に彼に関係するキリスト教時代、ローマ帝国の終焉と、天使とその天の名であるミカエルによ

るキリストの栄光の再臨の間の期間を「ズーム」で紹介します。彼は聖徒たちを迫害する傲慢な王の到来を告げる時代や法律、十戒だけでなく他の神の儀式も変えようとしている神の宗教規範を攻撃する至高者。御霊は彼の最後の罰を告げる。彼は「火に焼かれる」だろう彼の傲慢な発言のせいで」したがって、彼の傲慢な言葉の直後に、7千年紀の天の裁きの場面が提示されます。彼女の前ではネブカドネザル王も傲慢さを示していましたが、神が与えた屈辱の教訓を謙虚に受け入れました。

天の裁き

ダニエル

7:9 わたしは玉座が設置されているところを見ました。そして日の古人は座った。彼の衣服は雪のように白く、頭の髪は純粋な羊毛のようでした。彼の玉座は炎のようであり、車輪は燃え盛る火のようでした。

9a- 玉座が置かれている間、私は見ました

千年の間、黙示録

4

章によれば、天国で玉座に座るイエス・キリストの救い出された聖徒たちによって臨前に行われる裁きの時を表しています。この判決は最終判決の条件を準備し、その執行については11節に示されています。

9b- そして、昔の者が座った。

それは神格化されたキリスト、唯一の創造主の神です。動詞sitの動作は立っている活動の停止を示し、休息のイメージです。空は完全に平和です。地上では、悪人はキリストの再臨によって滅ぼされました。

9c- 彼の衣服は雪のように白く、彼の頭の髪は純粋な羊毛のようでした、作品の象徴、そしてすべての罪から解放された純粋で完璧な知恵の冠である頭髪のレベルで神の性質全体に関係します。

この聖句は、イザヤ書

1:18: さあ、嘆願しましょう! ヤハウエは言います。あなたの罪が緋のようであれば、それは雪のように白くなるでしょう。紫のような赤であれば、羊毛のようになります。

9d- 彼の玉座は炎のようだった、

玉座は、神の心の裁きを司る偉大な裁判官の場所を示しています。

この聖句は、黙示録

1

章

14

節の正義なるキリストの目となる火の炎の像の下に置かれており、そこにこの聖句の記述があります。火は滅ぼし、この裁きには神とその選民の敵を滅ぼすという目的が与えられます。彼らはすでに死亡しているため、この判決は死刑囚を決定的に襲う第二の死に関するものである。

9番目- そして車輪は燃え盛る火のようです。

玉座には車輪があり、地上で燃え上がる燃える火に例えられます:

黙示録

20:14-15: 第二の死は

火の湖。したがって、車輪は、宣告された判決を執行するために裁判官が

天から地へ移動することを示唆しています。生ける神、偉大な裁判官が動き、地球が新しくなり清められると、黙示録 21:2-3 に従ってそこに王位を据えるために再び動きます。

ダニエル

7:10 火の川が流れ出て、彼の前から出てきた。千人が彼に仕え、一万人が彼の前に立った。裁判官は着席し、帳簿が開かれた。

10a- 火の川が流れて彼の前から出てきた

黙示録 20 章 9

節によると、天から降りてきて墮落した死者の魂を焼き尽くし、その後復活する浄化の火です。そして、彼らは地の表面に上り、聖徒と聖徒の陣営を取り囲みました。愛する街。しかし、火が天から降りてきて、彼らを焼き尽くしました。

10b- 千人が彼に仕えた

地上から救出された百万の魂です。

10c- そして1万の人々が彼の前に立った

呼び出された百億の地上の魂が復活し、神とその裁判官たちの前に呼び出されて、第二の死という正当な神の宣告を受けるよう命じられるが、それはルカ

19 章 27

節で確認されている：そして残りは、私に望まなかった敵をここに連れて来い彼らを支配し、私の前で彼らを殺してください。このようにして、御霊はマタイ 22:14 でイエスを通して語られた言葉を裏付けます。ルカ 18:8 によると、これは特に終わりの日に当てはまります。

...しかし、人の子が来るとき、彼は地上に信仰を見出すでしょうか。

10d- 裁判官が着席し、帳簿が開かれた

最高裁判所は、それぞれの有罪判決を受けた魂に個別に適応した判決と起訴状を可能にした証言に基づいて判決を下すことになる。彼の本には、現在地球人には目に見えない、忠実な天使たちが証人となり、神によって記憶に留められている生き物の生涯が含まれています。

Dan

7:11 それから、角が高慢な言葉を言ったので、私は見ました。私が見ていると、その動物は殺されていました。

11a- それから私は見ました、角笛が発した傲慢な言葉のため

だから」という言葉のように、傲慢な言葉」が示すように、この聖句は神の裁きを定義する因果関係を示したいと考えています。神は理由なく判断することはありません。

11b- そして私が見ている間にその動物は殺されました

4 番目の動物である帝国ローマ - ヨーロッパ 10 王国 - 教皇ローマが火災で破壊された場合、それは教皇ローマの傲慢な口頭活動によるものです。この活動はキリストが再臨されるまで続きます。

11c- そして彼の体は破壊され、火に送られて焼かれました

小さな角と、それを支え罪に加わった10
本の民間の角を同時に打ちます。第二の死の火の湖が彼らを飲み込み、破壊するでしょう。

ダニエル

7:12他の動物たちは力を奪われましたが、ある時までの延命が与えられました。

12a- 他の動物たちは力を剥奪されました

ここで、黙示録 19:20 と 21
にあるように、聖霊は、地上の歴史を通じてアダムから人類大衆に受け継がれた原罪の相続人である、異教の普通の罪人には異なる運命が与えられていることを明らかにしています。

12b- しかし、ある時点までは寿命の延長が彼らに与えられました

は、イエス・キリストの帰還時のキリスト教普遍政府の最後の形態の下でのローマの動物の4番目の場合のように、世界の終わりに支配の終わりを経験していないという以前の帝国の利点を意味します。

4番目の終わりはその完全な破壊によって特徴付けられます。この後、地球は創世記 1 章 2 節の深淵のイメージのように、形がなく空のままになります。

人の子イエス・キリスト

ダニエル

7:13わたしが夜の幻を見たとき、見よ、天の雲の中に人の子のような人が現れた。彼は日の老いた者のところに来た、そして彼らは彼を彼の近くに連れて行った。

13a-

私は夜の幻を見た、そして見よ、天の雲の上に人の子のような人が現れた

人の子のこの出現は、先ほど述べた裁きに与えられた意味を明らかにします。裁きはキリストに属します。しかし、ダニエルの時代にはイエスはまだ来ていなかったため、神はイエスが初めて人間の地に来たときに、地上での宣教を通して何を達成するかを思い描いています。

13b-

彼は昔の人の所に来た、そして彼らは彼を彼の近くに連れて行った。

彼の死後、彼は復活し、気分を害した神への捧げ物として犠牲となった自分の完全な義を提示し、自分で選別され選ばれた忠実な選ばれた人々の許しを得るでしょう。提示された絵は、キリストにおける神の進んでの犠牲への信仰を通して得られる救いの原則を教えています。そしてそれは神に対してその正当性を確認します。

Dan

7:14そして彼らは彼に支配と栄光と王国を与えた。そしてあらゆる民族、

国家、あらゆる言語の人々が彼に仕えました。彼の支配は過ぎ去ることのない永遠の支配であり、彼の王国は決して破壊されない。

14a- 彼には支配、栄光、王国が与えられました

この節のデータは、マタイ 28:18 から 20の節に要約されており、裁きが確かにイエス・キリストのものであることを裏付けています。

イエスは近づいて来て、彼らにこう言われました。「天と地のすべての権威が私に与えられている」

。それゆえ、行って、すべての国の弟子を作り、彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、わたしがあなたに命じたすべてのことを守るように教えなさい。そして見よ、私は世の終わりまで、いつもあなたとともにいます。

14b- そして、あらゆる言語のすべての民族、国家、人々が彼に**仕えた**

絶対的に言えば、それは新しい地球上にあり、古い地球は7000年紀以降に更新され、栄光を受けるでしょう。しかし、救われた者たちは、生涯イエスに**仕えた**ために、イエス・キリストによって得られたただ一つの救いによって、すべての民族、国家、言語の中から選ばれたのです。黙示録

10:11 と 17:15

では、この表現はキリスト教化されたヨーロッパと西側世界を指しています。このグループには、

10節にある神に仕える救われた100万人の選ばれた人々がいます。

14c- そして彼の統治は決して破壊されない

彼に関してダニエル

2:44

に引用されている詳細はここで確認されます。彼の統治は決して破壊されることはありません。

ダニエル

7:15 私かというと、ダニエル、私の霊は私の中で動揺し、頭の中の幻を見て私を怖がらせました。

15a- 私、ダニエルは心の中に悩みを抱えていました

ダニエルの悩みは当然であり、幻は神の聖徒たちに危険が迫っていることを告げています。

15b- そして頭の中のビジョンが私を怖がらせました。

、すぐに彼のマイケルの幻影は彼に同じ影響を与えることとなります。私の力は失われ、私の顔は変色し、腐敗し、すべての活力を失いました。説明:人の子とミカエルは同一の神人です。恐怖はローマの治世を特徴付けることになるでしょう。なぜなら、これら2回の連続した支配では、ネブカドネザル、メディアのダレイオス、ペルシアのキュロス2世のような聖なる統治者の人々に恐怖が与えられないからです。

ダニエル

7:16 そこで私は、そこに立っている彼らのうちの一人に近づき、これらす

べてのことについての真実を尋ねました。彼は私にこう言い、説明してくれました。

16a- ここから天使による追加の説明が始まります

ダニエル

7:17 この四匹の大きな獣、これは地から現れる四人の王である。

17a- この定義は、Dan.7の動物の像と同様に、Dan.2
で彫像のイメージによって明らかにされる継承にも適用されることに注意してください。

ダン

7:18 しかし、いと高き者の聖徒たちは王国を受け取り、彼らは永遠から永遠に至るまで、永遠にその王国を所有するでしょう。

18a- 4

回の継承についてと同じコメント。再び、第五は、キリストが罪と死に対する勝利の上に築かれる選ばれた者の永遠の王国に関するものです。

ダニエル

7:19 それから、私は第四の獣についての真実を知りたかったのですが、その獣は他の獣とは違って、非常に恐ろしいもので、鉄の歯と青銅の釘を持っていて、残ったものを食べ、砕き、踏みつけました。

19a- 鉄の歯を持っていた人

歯の中に、

Dan.2の像の脚によって指定されたローマ帝国の硬さの象徴である鉄がすでに見られます。

19b- **真鍮**の釘。

この追加情報では、天使は次のことを指定しています: **と真鍮の釘**
。したがって、**ギリシャの罪の遺産は、ダン** 2
の像の**腹部と太ももにあるギリシャ帝国を象徴する合金**であるこの不純な物質によって確認されます。

19c- 残ったものを食べ、壊し、踏みつけたのは誰ですか

食べる、あるいはそれを利用する、成長させるものを破壊する、強制する、破壊する、踏みつけ、軽蔑し迫害する、これらは二代続いた「ローマ」とその市民的、宗教的支持者が帰還するまで実践する行為である。

キリストの。黙示録

12:17

では、御霊は最後の「再臨派」を「残りの者」という言葉で示しています。

ダニエル

7:20 そして、彼の頭にあった十本の角のうち、もう一本の角が出て、そのうちの三本がその前に落ちたが、その角には目と口があり、傲慢に話していた。そして他のものよりも優れた外観。

20a- この節は 8 節に矛盾した詳細をもたらします。

「小さな角」はここでどうなるのか

他のものよりも優れた外観ですか？これが他の十角王との違いのすべてです。彼女は非常に弱くて脆いのですが、それでも、地上で自分が代表していると主張する神への信仰心と恐れを通して、まれな例外を除いて、彼らを支配し、思うがままに操作します。

Dan

7:21そして、私はこの角が聖徒たちと戦い、彼らに勝利するのを見た。

21a-

パラドックスは続いています。彼女は最高の聖性を体現していると主張し、神は彼女を聖徒たちを迫害していると非難する。したがって、説明は 1 つだけです。彼女は息をするように嘘をつきます。その成功は、イエス・キリストがたどった道を非常に破壊する、計り知れない欺瞞的で壊滅的な嘘によるものです。

ダン

7:22日の老いた者が来て、いと高き者の聖徒たちに権利を与え、聖徒たちが王国を所有する時が来るまで。

22a-

幸いなことに、良い知らせが確認されました。教皇ローマとその市民的・宗教的支持者らの暗躍の末、最終的な勝利はキリストとその選ばれた者たちに訪れるだろう。

23 節と 24 節では継承順序が指定されています

ダニエル

7:23彼はこう言った。「第四の獣は、すべての王国とは異なり、地上に存在する第四の王国であり、全地を食い尽くし、踏み倒し、粉々に打ち砕くであろう。」

23a- 27 年から 395 年までの帝国形態の異教のローマ帝国。

ダニエル

7:24十本の角は、この王国から生まれる十人の王です。最初のものとは異なる別のものが彼らの後に現れ、3人の王を倒すでしょう。

24a- この正確さのおかげで、これらの10

の角を、崩壊し粉碎されたローマ帝国の西側領土に形成された10

のキリスト教王国と識別できるのです。この領域は現在のヨーロッパ、つまり EU (または EU) の領域です。

ダニエル

7:25彼はいと高き者に敵対する言葉を語り、いと高き者の聖徒たちを抑圧し、時代と法律を変えることを望んでいる。そして聖徒たちは、何度も、そして半分の間、彼の手に渡されるであろう。

25a- 彼はいと高き者に対して言葉を語るだろう

神はこの節で、ローマ教皇政権とその前身であるローマの司教たちの罪を非難し、彼らによって犯された悪が広められ、正当化され、無知な

群衆に教えられたと集中的に非難されています。御霊は、最も深刻なもの、つまり至高者ご自身に対する言葉から始めて非難を列挙します。逆説的ですが、教皇たちは神に仕え、地上で神を代表していると主張します。しかし、神は決して教皇のこのふりを認めていないので、まさにこのふりこそが間違いなのです。その結果、ローマが神について誤って教えていることはすべて、ローマに直接影響を及ぼします。

25b- 彼はいと高き者の聖徒たちを抑圧するだろう

21節の聖徒に対する不当な迫害

ここで思い出され、確認されます。判決は「聖なる異端審問」の名を冠した宗教法廷によって言い渡される。拷問は、無実の人々に罪を認めさせるために行われます。

25c- そして彼は時代と法律を変えることを望むだろう

この告発は、読者に、真の生ける唯一の神に与えられた崇拝の基本的な真理を再確立する機会を与えます。

神によって確立された美しい秩序は、ローマの修道士によって変えられました。出エジプト記 12 章 2 節によると、神はエジプトから脱出する際にヘブライ人にこう言われました。**それはあなたにとって今年最初の月になるでしょう。**これは命令であり、単なる提案ではありません。そして、救いはイエス・キリストによれば、出エジプト以来、ユダヤ人からもたらされるので、救いに入るすべての存在はまた、神の家族に加わり、そこでは神の秩序が君臨し、尊重されなければなりません。これが救いの真の教義であり、使徒の時代から続いています。キリストにあって、神のイスラエルは霊的な側面を帯びました。それは、キリストがご自分の秩序と教義を確立された神のイスラエルでもあります。ローマ 11:24 によると、異教の改宗者はアブラハムのヘブライ語の根と幹に接ぎ木されるのであって、その逆ではありません。彼はパウロから、古い契約の反抗的なユダヤ人にとって致命的となった不信仰について警告されていますが、それは新しい契約の反抗的なキリスト教徒にとっても同様に致命的となるでしょう。これはローマ・カトリックの信仰に直接関係しており、1843年以來プロテスタントのキリスト教徒にとっては、ダン 8 の研究によってそれが確認されるでしょう。

私たちは、この聖句でなされた神の告発が遍在する、長い預言の啓示の始まりにすぎません。なぜなら、その結果は恐ろしく劇的なものだからです。ローマが変えた時代の懸念:

戒めの安息日の休息。

321年3月7日以來、7日目は神によって世俗的な日および週の始まりとして定められた初日に置き換えられました。さらに、この初日はローマ皇帝コンスタンティヌス1世によって課せられ、この日は聖書の罪の象徴であり、すでにエジプトに存在していた異教徒によって神格化された太陽である「尊い征服されざる太陽」を崇拝する日として捧げられました。ダニエル 5

章は、神が自分に対して行われた非道をどのように罰するかを示し、人間はこのように警告され、ベルシャザル王を裁いて殺害したように神が人間を裁くときに何が待っているかを知っています。世界の創設時から神によって聖別された安息日は、聖句にあるように、**時間と神の律法に関する**という二重の特徴を持っています。

2

年の始まりはもともと春に行われ、初めてを意味する言葉でしたが、冬の初めに行われるように変更されました。

3

神によると、日の変化は日没時に起こり、真夜中ではなく、夜の順番で起こります。それは、それがリズムカルであり、神がこの意図で創造した星によってマークされるからです。

法の変更は安息日の主題よりもはるかに深いところにまで及んでいます。ローマは神殿の黄金の器を冒瀆したのではなく、モーセに与えられた石の台に神が指で書いた言葉の原文を変更する権限を自らに与えた。あまりにも神聖な物は、箱舟に触れることができたので、神は即座に死を与えた。

25c-

そして聖人たちは、しばらく、何度も、そして半分の間、彼の手に渡されるでしょう

時間ってどういう意味ですか？ネブカドネザル王の経験はダニエル書

4:23

で答えを与えてくれます。彼らはあなたを人間の中から追い出し、野の獣たちと一緒に住み、牛と同じように食べる草を与えます。そして至高者が人間の王国を支配し、その王国を御心に適う者に与えられることをあなたが知るまで、七回があなたを襲うだろう。この厳しい経験の後、王は 34 節で次のように言いました。私は至高者を祝福し、永遠に生き、その支配は永遠の支配であり、その王国は世代から世代へと続く彼を賞賛し、栄光を与えました。これらの7

つの時間、彼の生涯の中でその期間が始まり、終わる7

年間を表していると推測できます。したがって、神が時間と呼ぶものは、地球が太陽の完全な一回転を完了するのにかかる時間です。そこから多くのメッセージが生まれます。神は太陽によって象徴されており、生き物が誇りを持って立ち上がる時、それをその場所に置くために、神はそれに言います、「私の神性の周りを回って、私が誰であるかを学びなさい」。

ネブカドネザルの場合、7

ターンが必要ですが効果的です。もう一つの教訓は、この聖句の「時間」という用語によっても預言されている教皇の治世の期間に関するものです。ネブカドネザルの経験と比較すると、神は預言者の年間のうち、一度、何度、そして半分の期間、キリスト教徒の高慢を愚か者に引き渡すことによって罰します。 321 年 3 月 7

日以降、人類は愚かさに対する誇りと無知から、神の戒めを変えたこの命令を尊重することに同意するようになりました。キリストの謙虚な奴隷が従うことができないこと、さもなければ救い主である神から自らを断ち切ることになるでしょう。

この聖句は、私たちに、この預言された期間の本当の価値と始まりと終わりの日付を求めるよう導きます。それが 3 年 6 か月を表していることがわかります。実際、この公式は黙示録 12 章 14 節で再び登場し、6 節の1260 日後の公式と対比されています。エゼ 4 章 5-6 節の暗号(1 年に 1 日)を適用すると、次のことが可能になります。これは実際には苦しみと死の1260年という長く恐ろしい年月だということを理解することです。

ダニエル

7:26 そのとき、裁きが来て、彼の支配権は剥奪され、滅び、永遠に滅ぼされるであろう。

2a-

この正確さの興味深い点を強調しています。判決と教皇の支配の終わりが同時に起こります。これは、言及された裁きがキリストの再臨以前には開始されないことを証明しています。アドベンチストの兄弟たち、2021年現在、教皇たちはまだ活動しているため、ダニエル書で引用された判決は1844年に始まったものではありません。

ダニエル

7:27 天の下のすべての王国の王国と支配権と偉大さは、いと高き聖徒たちの民に与えられる。彼の統治は永遠であり、すべての支配者は彼に仕え、従うでしょう。

27a-

したがって、この裁きは、キリストが栄光のうちに再臨し、キリストに選ばれた者が天国に引き上げられた後に、適切に執行される。

27b- そしてすべての統治者は彼に仕え、彼に従うでしょう

神はその例として、この本で紹介されている三人の支配者、すなわちカルデアの王ネブカドネザル、メディアの王ダレイオス、そしてペルシアの王キュロス2世を示しておられます。

ダニエル

7:28 ここで言葉は終わりました。私、ダニエルは自分の考えに非常に悩み、色を変え、この言葉を心の中に保管していました。

28a-

ダニエルの悩みは依然として正当化されます。なぜなら、このレベルでは教皇ローマのアイデンティティの証拠がまだ強度に欠けているからです。彼のアイデンティティは、すでに非常に説得力のある「仮説」のままですが、それでもやはり「仮説」です。しかし、ダニエル 7 章は、このダニエル書に掲載されている 7 つの預言版の 2 番目にすぎません。そしてすでに、Dan.2 と Dan.7

で伝えられるメッセージが同一であり、補完的であることがわかりました。新しいページごとに、すでに行われた研究に重ねられる追加の要素が表示され、神のメッセージがさらに強化され、ますます明確になります。

この第 7
章の「小さな角」が教皇ローマであるという仮説はまだ確認されていません。事は完了するでしょう。しかし、ローマに関係するこの歴史的継承、「鉄の歯を持つ4番目の怪物」をすでに思い出してみましよう。それは、ローマ帝国に続いて、自由で独立したヨーロッパの王国の「十の角」を指しており、これらは538年に教皇と推定された「小さな角」、この「別の王」に引き継がれ、その後「三本の角または三人の王」が続きます。ヘルール族、ヴァンダル族、東ゴート族は、493年から538年にかけて8節と24節で貶められています。

ダニエル8

ダニエル

8:1 ベルテシャザル王の治世の三年に、私ダニエルは、以前に見た幻とは別の幻を見ました。

1a- 時間が経過しました: 3
年。ダニエルは新しいビジョンを受け取ります。この例では、20節と21節で、メディア人、ペルシア人、および以前の幻の中で預言された継承の第2帝国と第3^{帝国であったギリシャ人}に明確に識別される動物は2匹だけです。時間が

経つにつれて、幻視の中で動物たちはヘブライ人の儀式にますます明確に準拠していきます。 Dan.8

は雄羊とヤギを提示します。ユダヤ教の儀式の贖罪の日の犠牲として捧げられた動物。したがって、ギリシャ帝国を重ね合わせると、罪の象徴に気づくことができます。 Dan.2の青銅の腹と太もも、 Dan.7
のヒョウ、そしてDan.8のヤギ。

ダニエル

8:2 この幻を見たとき、私は自分がエラム州の首都シュシャンにいるように思えました。そして視界の中で私はウライ川の近くにいました。

2a-

ダニエルはペルシャにいて、彼の時代にはウライ川だったカルウン川の近くにいます。ペルシャの首都と民族を象徴する川は、神が彼らに与えるビジョンの地理的な参照場所を示しています。したがって、預言的なメッセージは、第 2 章と第 7 章では欠けていた貴重な地理的データをこの章で提供します。

ダニエル

8:3 そこで私が目を上げて見ると、見よ、一頭の雄羊が川の前に立っていました。それには角がありました。これらの角は高かったが、一方の角が他方よりも高く、最後に上がった。

3a-この節は、

角を持つ雄羊によって描かれたペルシャの歴史を要約しています。最も高いものがそれを表しているのは、最初は同盟国であるメディアによって支配されていたが、ダニエル10:1によるとダニエルの最後の同時代人であるペルシア人キュロス2世が539年に権力を掌握したとき、最後にはその地位を上回ったからである。しかし、ここで私は実際の日付の問題を指摘します。なぜなら、歴史家はダニエルの目撃証言を完全に無視しているからです。ダニエルはダニエル 5:31
で、バビロンの征服は、ダンによるとバビロンを 120
のサトラップに組織したメディアの王ダリウスによるものであるとしています。

6:1。キュロスはダリウスの死後に権力を握ったので、539年ではなく少し後、あるいは逆にダリウスによる征服は539年より少し前に行われた可能性があります。

3b-

この聖句には、小さな角と大きな角を表すのに使用される形式に、神聖な繊細さが現れています。これは、「小さな角」という慎重に避けられた表現が、ローマのアイデンティティに特別かつ排他的に結びついていることを裏付けています。

ダニエル

8:4 私は、雄羊が角で西と北と南に向かって打っているのを見た。どの動

物も彼に抵抗することはできず、彼の犠牲者を救出する人もいませんでした。彼は自分のやりたいことをやり、そして力強くなった。

4a-

この聖句のイメージは、ペルシア征服の連続的な段階を示しており、ペルシア征服は彼らを帝国、つまり王の中の王の支配へと導きます。

西側：キュロス2世は549年から539年にかけてカルデア人およびエジプト人と同盟を結んだ。

北：クロイソス王のリディアが征服 – 546年

正午：キュロスは、539

年以降にメディア王ダレイオスの跡を継いでバビロニアを征服し、その後、ペルシア王カンビュセス2世が525年にエジプトを征服します。

4b- そして彼は強力になりました

彼は、この第

8

章で預言されたペルシアを最初の帝国とする帝国権力を達成しました。それは、Dan.2 と Dan.7 の幻視では2番目の帝国でした。この勢力で地中海にまで拡張したペルシア帝国はギリシャを攻撃し、490年に Marathon でギリシャを阻止しました。戦争は再開されました。

ダニエル

8:5 わたしがよく見ると、見よ、一頭の雄やぎが西から来て、地面に触れずに、ひっくり返って地中を走った。このヤギは目の間に大きな角がありました。

5a- 節

21

はヤギを明確に示しています。ヤギはジャワの王であり、彼の目の間の大きな角は最初の王です。ジャワンは、ギリシャの古代の名前。弱いギリシャの王たちを無視して、御霊は偉大なギリシャの征服者アレクサンダー大王に基づいてその啓示を組み立てます。

5b- 見よ、ヤギが西から来た

地理的表示はまだ与えられています。ヤギは地理的な参照場所としてのペルシャ帝国に関連して西洋から来ています。

5c- そして、触れることなく、地球の表面を旅しました。

このメッセージは、ダニエル 7:6 のヒョウの 4つの鳥の翼に似ています。彼は、10年後にはその支配をインダス川まで拡大するであろうこの若いマケドニア王の征服の極めて速いスピードを強調している。

5d- このヤギには目の間に大きな角がありました

その正体は

21

節に示されています。彼の目の間の大きな角は初代王です。この王はアレキサンダー大王 (– 543 –

523) です。精霊はそれに、素晴らしい神話上の動物であるユニコーンの

外観を与えます。こうして彼は、宗教に適用される寓話をでっち上げ、その精神が何世紀にもわたって、私たちが欺瞞的にキリスト教徒である西欧に至るまで受け継がれてきたギリシャ社会の無尽蔵の豊かな想像力を非難している。それは、「償いの日」という神聖な年中儀式で罪の役割を果たした動物であるヤギのイメージによって確認される罪の側面です。救世主イエスの磔刑は神聖な完全性において達成されましたが、この儀式は彼の後、力づくで中止されなければなりませんでした。70年にローマ人によって神殿とユダヤ人国家が破壊されたのです。

ダニエル

8:6そして、彼は、川の前に立っているのを私が見た、角のある雄羊のところに来ると、怒りのあまり彼に襲いかかりました。

6a- アレクサンダー大王は、ダレイオス 3
を王とするペルシア人に対して攻撃を開始します。後者はイッソスで敗北し、弓、盾、マント、そして妻と後継者を残して逃亡します。 333 年、彼は後に二人の偉人によって殺されることになる。

6b- そして彼は怒りのあまり彼に向かって走りました

この怒りは歴史的に正当化されています。その前に、ダリウスとアレクサンダーの間で次のようなやりとりがあった：「アレクサンダーがダリウスに会う前に、ペルシア王は王と子供としてのそれぞれの立場を強調することを目的とした贈り物を彼に送った。アレクサンダーは当時まだ若者だった。王子は芸術の初心者だった」戦争 (ブランチ I、リーシュ 89)。ダリウスは彼に銃弾、鞭、馬のブレーキ、そして金が詰まった銀の箱を送りました。宝物に添えられた手紙はその要素を際立たせている。ボールは彼が子供のようにプレーし続けるためのもの、ブレーキは彼に自分をコントロールすることを教えるためのもの、鞭は彼を正すためのもの、そして金はマケドニア人が支払わなければならない貢物を表している。ペルシア皇帝。

アレクサンダーは使者たちを恐れていたにもかかわらず、怒りの兆しは見られなかった。それどころか、彼はダリウスの技巧を祝福するよう彼らに頼みます。ダリウスは、アレクサンダーに将来の世界征服を表すボールを与えたので、未来を知っている、ブレーキはすべての人が彼に服従することを意味し、鞭はあえて彼に立ち向かう者たちを罰することを意味し、金は彼が臣下全員から受け取るであろう貢物を暗示している。」預言的な詳細ですが、アレクサンダーは馬に「頭」という意味の接頭辞を付けて「ブセファルス」という名前を付けた馬を飼っていました。すべての戦いにおいて、彼は武器を手に軍隊の「先頭」に立つことになる。そして彼は「10年間」、預言の対象となる世界の支配者「頭」となる。その悪名はギリシャ文化とそれを非難する罪を促進するでしょう。

ダニエル

8:7私は、彼が雄羊に近づき、怒っているのを見た。彼は雄羊を殴り、そ

の二本の角を折ったが、雄羊には彼に抵抗する力がなかった。彼は彼を地面に投げ、踏みつけました、そして誰もその羊を助けませんでした。

7a- アレキサンダー大王によって開始された戦争: 333年、イッソスでペルシア軍陣営は敗北しました。

ダニエル

8:8するとやぎはとても強くなった。しかし、彼が強かったとき、彼の大きな角は折れました。それに代わって四本の大きな角が天の四風に向かって立ち上がった。

8a- 彼の大きな角が折れた

323年、若い王 (- 356 -

323) は後継者を残さずに32歳でバビロンで亡くなりました。

8b-

四本の大きな角が、天の四方の風の中で、それに代わって立ち上がった。

死んだ王の代わりは彼の将軍、ディアドコイでした。アレクサンダーが亡くなったとき、彼らは10人でしたが、20年間彼らの間で争い、20年の終わりには生き残ったのは4人だけでした。彼らはそれぞれ、自分が支配する国に王朝を設立しました。最も偉大なのはニカトルとして知られるセレウコスで、彼はシリア王国に君臨する「セレウコス」王朝を設立しました。

2人目はプトレマイオス・ラゴスで、彼はエジプトに君臨する「ラギッド」王朝を設立しました。

3人目はギリシャに君臨するカサンドロス、4人目はトラキアに君臨するリュシマコス（ラテン名）です。

地理に基づいた預言的なメッセージは続きます。天の4つの風の4つの基本点は、関係する戦闘員の国のアイデンティティを確認します。

ローマの帰還、小さな角笛

ダニエル

8:9その中の一つから小さな角が出て、それは南に向かって、東に向かって、そして最も美しい地に向かって大きく伸びました。

9a-

この節の側面は、やがて支配的な帝国となる王国の拡張を表しています。しかし、これまでのレッスンや世界の歴史では、ギリシャの後継王国はローマです。この識別は、より短い中央ホーンに対して行われたものとは対照的に、今回は明確に引用された「小さなホーン」という表現によってさらに正当化されます。このことから、この「小さな角」は、この文脈においては共和制の発展を遂げるローマを象徴していると言えます。なぜなら、それは、敵対者間の局地的な紛争を解決するために呼び出されることが多く、世界の警察官として東に向けて介入するからです。そしてこれが、以下に続くイメージを正当化する正確な理由です。

9b- そのうちの一人から**小さな角が出てきました**

以前の支配者はギリシャであり、イスラエルが位置するこの東部地域でローマが支配するようになったのはギリシャからでした。ギリシャ、4つの角の1つ。

9c-

南に向かって、東に向かって、そして最も美しい国々に向かって大きく広がっています。

、まず地理的な位置から**南に向かって始まります**。歴史がこれを裏付けており

、250年頃にローマはカルタゴ、現在のチュニスとのポエニ戦争に突入しました。

次の延長フェーズは、**4 つの角の 1 つ**を介して**東に向かって**行われます。ギリシャ、約 200。アカイアリーグ（アカイア対アカイア）との対戦を支援するために、アエトリアギリシャ

リーグによってそこに呼ばれました。ギリシャの地に到着したローマ軍はそこから離れることはなく、ギリシャ全土は160年からローマの植民地となりました。

ローマはギリシャからパレスチナとユダヤに足を踏み入れて拡大を続け、63年にポンペイウス将軍の軍隊によって征服されたローマの属州となる。聖霊がこの美しい表現で指定するのはこのユダヤです。「**最も美しい国々**」、ダニエル書 11:16 と 42、およびエゼ 20:6 と 15に引用されている表現です。

仮説は確認され、「小さな角」はローマです

今度は、もはや疑いは許されず、Dan.7

の教皇政権の覆いが暴かれるので、不必要な数世紀を飛び越え、聖霊は私たちを、皇帝たちに見捨てられたローマが宗教的形態の下で支配を再開する悲劇の時へと私たちを導きます。続く 10
節の象徴によって明らかにされる行動は、キリスト教徒の外見によるものであると彼は考えています。これがDan.7の“**違う**”王の行動である。

帝政ローマ、その後教皇ローマが聖人を迫害

この単一の聖句を2回連続して朗読する

ダニエル

8:10彼女は天の軍勢に上って、その軍勢の一部と星々の一部を地に降ろし、それらを足で踏みしめた。

10a- 彼女は天の軍隊に立ち上がった

彼女」と言うことで、聖霊は、黙示録 17 章 10節ではほめかしているさまざまな政府形態を経て、ローマがローマの治世下に帝国に到達した、その拡張の時系列順にローマのアイデンティティを

標的として保持しています。アウグストゥスとして知られるローマ皇帝オクタヴィアヌス。そしてイエス・キリストが聖霊によって、ヨセフの若い妻マリアのまだ処女の体に誕生したのは彼の時代でした。どちらもダビデ王の血統に属しているという唯一の理由で選ばれました。イエスは死後、宣言どおり自ら復活した後、世界中で選ばれた人々を地上にするために、救いの良い知らせ（福音）を告げ知らせる使命を使徒と弟子たちに託されました。この時期、ローマは柔和さとキリスト教的平和主義に直面した。彼女は肉屋の役割を果たし、キリストの弟子は屠殺された子羊の役割を果たしました。多くの殉教者の血が流された代償として、キリスト教の信仰は世界中に、特に帝国の首都ローマに広がりました。帝政ローマを迫害する人々がキリスト教徒に対して立ち上がります。この10節にはローマの二つの行動が重なっています。

1つ目は帝国に関するものであり、2つ目は教皇に関するものです。帝国政権においては、引用された行動がすでに彼のものであると考えることができます。

彼女は天の軍隊に立ち向かい、キリスト教徒と対峙しました。天で武装したこの象徴的な表現の背後には、イエスがすでに自分の信者を天の国の国民と名付けた、それに基づいて選ばれたキリスト教徒がいます。さらに、ダニエル 12:3 は、真の聖徒たちを、同じく創世記 15:5 のアブラハムの子孫である星に例えています。最初に読んだだけで、神の息子や娘たちを殉教させるという大胆な行為は、異教ローマにとってすでに傲慢な行為であり、価値のない不当な昇進を意味します。もう一度読んでみると、538年からイエス・キリストの選ばれし者を教皇として統治するというローマ司教の主張も傲慢な行動であり、さらに価値がなく不当な昇格である。

彼女はこの軍隊の一部と星々を地面に落とし、彼らを踏みにじりました。彼女はアリーナの住民の注意をそらすために彼らを迫害し、殺害しました。迫害者は主にネロ、ドミティアヌス、そして 303 年から 313 年までの最後の公式迫害者ディオクレティアヌスです。最初に読むと、この劇的な期間は

Apo.2 で「エフェソス」という象徴的な名前でカバーされており、ヨハネが「」と呼ばれる神の啓示を受けた時期です。アポカリプス』と『スマーナ』。第二読では、教皇ローマによるものとされ、これらの行為は「ペルガモン」つまり同盟関係の破綻や姦通、「ティアティラ」つまり忌まわしい行為や死という期間の下でApo.2に置かれている。そうやって彼女は彼らを踏みつけ、聖霊は両方のローマに同じ種類の血に飢えた行為を課した。動詞「踏みにじられる」とその表現「踏みにじられる」はダニエル書 7:19 で異教のローマに由来すると考えられています。しかし、踏みつける行為は、

13節の記述によれば、この章8の14節の2300年の夕方から朝の終わりまで続くでしょう。「聖性と軍隊はいつまで踏みつけられるのでしょうか？」

この行動はキリスト教時代に達成されたものであり、したがって私たちはそれを教皇ローマとその君主制の支援のおかげであると考えなければなりません。歴史がそれを裏付けています。ただし、重要な違いがあることに注意してください。異教のローマは文字通りイエス・キリストの聖人たちを地に伏せさせるだけですが、教皇ローマはその偽りの宗教的教えによって彼らを霊的に地に伏せさせた後、文字通り彼らを順番に迫害します。

散発的な迫害は和平を繰り返しながら続き、コンスタンティヌス1世が³¹³年にローマの首都ミラノの勅令でキリスト教徒への迫害に終止符を打ち、これが「

10年間」の期間を構成する。黙示録 2:8
の「スミルナ」時代を特徴づける迫害。この平和によってキリスト教の信仰は何も得られず、神は多くを失うこととなります。なぜなら、迫害という障壁がなければ、この新しい信仰への未改宗の人々の献身は帝国全土、特に殉教者の血が最も多く流れたローマで溢れかえり、その数を増やしているからである。

したがって、この聖句の第二朗読の冒頭をこの時点に結び付けることができます。

321年にコンスタンティヌス帝の命令に従って、ローマがキリスト教徒になった例です。コンスタンティヌス帝は、週ごとの休みの日の変更を命じる勅令を出したばかりです。つまり、7日目の安息日が週の最初の日に置き換えられます。当時、異教徒によって「尊い不征服の太陽」を崇拝するために捧げられました。この行為は飲酒と同じくらい深刻です

しかし、今回は神は反応せず、最後の審判の時が来れば十分だろう。彼の新たな休日により、ローマはそのキリスト教の教義を帝国全土に拡大し、その地方権威であるローマ司教は、

533年にビザンチン帝国の法令により教皇の称号が最高位に与えられるまで、名声と支持を獲得することになるだろう。皇帝ユスティニアヌス¹
^世。敵対的な東ゴート族が追放されて初めて、初代教皇ヴィギリウスがローマのカエリウス山に建てられたラテラノ宮殿に教皇の座に着いた。538年の日付と最初の教皇の到着は、続く 11

節で説明されている行動の達成を記念します。しかし、それはまた、教皇たちの統治の 1260 日と、教皇たちに関係し、Dan.7で明らかになったすべてのことの始まりでもあります。聖人たちが再び踏みにじられる統治が続くが、今度はローマ教皇の宗教的支配とその民間支持者である君主とその頂点によって...キリストの名の下に。

538年に制定された教皇の具体的な行動

Dan

8:11 彼女は軍の長のところに立ち上がって、彼から永遠のいけにえを取り上げ、その聖所の土台を打ち壊した。

11a- 彼女は軍の長に昇進した

によると、この軍の指導者は論理的にも聖書的にもイエス・キリストです。キリストが教会のかしらであるように、夫は妻のかしらであり、キリストは教会のかしらであり、教会は彼の体であり、教会のかしらなのです。救世主。

「彼女は立ち上がった」という動詞は適切に選ばれています。なぜなら、まさに

538

年に、教皇庁が地上にある一方で、イエスは天におられるからです。空は彼女の手の届かないところにありますが、地上では彼女が彼の代わりになると男性に信じ込ませることで「彼女は立ち上がった」のです。イエスは天から、悪魔が仕掛けた罠から人々を避ける可能性はほとんどありません。さらに、彼自身が彼らをこの罠とそのすべての呪いに引き渡しているのに、なぜそのようなことをするのでしょうか？というのには、私たちはダニエル書

7:25

に「聖徒たちは、一度、二度（二回）、そして半分の間、神の手に渡されるであろう」とよく読んだからです。時代と法律の変化により、彼らは神であるキリストによって意図的に救出されました。安息日に関してコンスタンティヌスによって

321

年に修正された法律はもちろんですが、何よりも、538年以降ローマ教皇によって変更された法律は、影響を受け攻撃されているのは安息日だけではなく、ローマ法全体が作り直されています。バージョン。

11b-彼から 永遠の犠牲を取り去った

私はヘブライ語の原文には犠牲という言葉が存在しないことを指摘します。そうは言っても、その存在は古い同盟の背景を示唆していますが、私が今証明したように、そうではありません。新しい契約の下では犠牲と捧げ物は中止され、ダニエル書

9:27

で引用されている週の半ばにキリストが死去したため、これらの儀式は無力になった。しかし、古い契約には何かが残っていました。それは、大祭司の奉仕であり、人々の罪のためのとりなし手でもありました。また、イエスが復活以来、その血によって買われた選民のみを支持して達成した日の栄えの奉仕も預言しました。キリストは天に戻られましたが、彼から何が残されたのでしょうか？彼の司祭としての役割は、選ばれた人々の罪を赦すとりなし手としての彼の独占的な役割です。実際、538年以来、地上、ローマにキリスト教会の指導者が設立されたことにより、イエスの天の奉仕は無駄で無益なものとなった。祈りはもはや神を通らず、罪人は罪と神に対する罪悪感を負ったままです。ヘブル

7:23

はこの分析を裏付けており、次のように述べています。「しかし、彼は永遠にとどまるので、譲渡できない神権を持っています。」地上の支配者の交代は、キリスト抜きこのキリスト教がもたらす忌まわしい果実を正当化する。神がダニエルに預言した果実。なぜクリスチャンはこの恐ろしい

呪いに見舞われたのでしょうか？次の
節にその答えが示されています。「罪のため」です。 12

たった今実行された永久の識別は、ダニエル 12:11 と 12
で提案される 1290 日と 1335
日年という期間を使用した計算の基礎として役立ちます。確立された根拠
は、永久神権が地上の教皇指導者によって盗まれた538年の日付です。

11c- そして彼の聖域の本拠地を打倒した

新しい契約の文脈を考慮して、「場所」と訳されたヘブライ語「メ
コン」の考えられる 2

つの意味の間で、私はその訳「基地」をそのまま正当なものとし、預言の
対象となったキリスト教時代の文脈によりよく適合させました。。

聖所についてしばしば議論されているダニエル書の微妙な点に目が開かれ
ますが、それは混乱を招くものです。しかし、聖域で行われる行為を表す
動詞によっては騙されないことも可能です。

ここダニエル 7:11

では、その基礎は教皇制によって覆されました。

ダニエル 11:30

では、彼はユダヤ人を迫害していたギリシャ王アンティオコス 4
エピファネスによって-168年に冒涇されます。

ダニエル 8:14 とダニエル 9:26

では、それは聖域の問題ではなく、聖さの問題です。ヘブライ語の「qode
sh」は、最も一般的なバージョンのすべての翻訳で体系的に誤訳されてい
ます。しかし、元のヘブライ語のテキストは、元の真実を証言するために
変更されていません。

聖域」という用語は、神が直接立たれる場所のみを指すことを知っ
ておく必要があります。イエスが復活して天に戻られて以来、地上にはも
はや聖域はありません。したがって、神の聖所の基礎を覆すことは、救い
のすべての条件を示す神の日の栄えの務めに関係する教義の基礎を損なう
ことを意味します。実際、一度バプテスマを受けると、召された人はイエ
ス・キリストの承認から恩恵を受けることができなければなりません。イ
エス・キリストは自分の行いに基づいて信仰を判断し、犠牲の名において
罪を赦すかどうか同意するかどうかです。洗礼は、神の正しい裁きの下
で生きる経験の始まりを示すものであり、終わりではありません。これは
、地上の選民と天の仲介者との間の直接の関係が遮断されると、救いはも
はや不可能となり、聖なる契約は破られることを意味します。これは、32
1年3月7日と538年にイエス・キリストの永遠の司祭職が教皇の利益のため
に教皇によって剥奪されて以来、騙され誘惑された人類大衆によって無視
されてきた恐ろしい霊的ドラマである。彼の聖域の基礎を覆すということ
は、神法に反する罪を正当化し、合法化する誤ったキリスト教の教義であ
る、選ばれた者の基礎または基礎を代表する12人の使徒に帰することも意
味します。使徒なら誰もしなかったであろうこと。

ダニエル

8:12そして、軍隊は罪のために永遠の犠牲を払って引き渡された。角笛は真実を地面に投げ捨て、彼の事業は成功した。

12a- 軍隊は永遠の犠牲を払って救出された

より象徴的な言葉で言えば、この表現はダニエル 7:25
の表現と同じ意味を持ちます:軍隊は届けられました...
しかし、ここで御霊は永遠の言葉を付け加えます。

12b- 罪のせいで

ヨハネ第一 3:4 によると、律法の違反のため、ダニエル 7:25
で変更されたどちらかです。というのは、ヨハネはこう言い、書いたから
です。罪を犯す者は律法に違反しており、罪は律法に違反するのです。
この違反は 321 年 3 月 7
日に遡り、第一に神の聖なる安息日の放棄に関するものです。世界の創造
以来、唯一かつ永遠の「7日目」に神によって聖別された安息日。

12c- 角笛が真実を地面に投げつけた

詩篇

119:142-151

によれば、真理は今でも律法を示す霊的な言葉です。「あなたの律法は真理
です...あなたの戒めはすべて真理です。」

12d- そして彼の努力は成功する

創造主である神の霊が事前にそれを告げたとしたら、人類史上最大
の霊的欺瞞であるこの欺瞞を無視したとしても驚かないでください。しか
しました、神にとって人間の魂の喪失がもたらす結果において最も深刻な
ものでもあります。 24
節は、「彼の力は増大するが、彼自身の力によるものではない」という言
葉を確認します。彼は信じられないほどの大混乱を引き起こし、自分の事
業を成功させ、権力者と聖徒たちを滅ぼすでしょう。

聖化の準備

古い契約の宗教的儀式によって与えられる教訓には、聖化への準備
というこの主題が常に登場します。第一に、奴隷の時代からカナンに入る
までの間に、神がご自身の国土である約束の地イスラエルに導こうとして
いる民を聖別するために過越の祭りが必要でした。実際、カナンへの入国
が完了するまでには、浄化と聖化の試みが40年かかりました。

同様に、7日目の日没から次の日没までの安息日についても、事前
の準備が必要でした。

6日間の世俗的な活動には体を洗うことと衣服の交換が必要であり、これ
らのことはまた、命の危険を冒さずに神殿の聖地に入り、そこで儀式を執
り行うことができるようにするために司祭に課せられたものであった。..

創造の一週間は 7 日、24 時間ですが、これは 7,000
年にわたる神の救いの計画をモデルとしています。したがって、最初の 6
日間は、神が選ばれた人を選ぶ最初の 6,000

年間を表します。そして、最後の7千年紀は、神と天に集まった選ばれた者たちが真の完全な休息を楽しむ大安息日となります。罪人たちは一時的に全員死んでいます。ただし、サタンは例外であり、サタンは黙示録 20章で明らかにされているこの「千年」の期間中、人口の減少した地球上で孤立したままです。

「天国」に入る前に、選ばれた者は清められ、神聖化されなければなりません。清めはキリストの自発的な犠牲への信仰に基づいていますが、聖化はバプテスマ後のキリストの助けによって得られます。なぜなら、清めは信仰の原則の名のもとに課せられるか、事前に得られるものですが、聖化はキリストの全体において現実^に得られる果実だからです。生ける神イエス・キリストとの真の協力を通して、選ばれた者によって魂が救われるのです。それは、罪に抵抗するために、自分自身と、自分の悪い性質との戦いを通じて獲得されます。

罪を犯させないようにするために十字架で死ぬために来られたことを教えています。さて、私たちはちょうど12節で見たように、選ばれたクリスチャンは罪のために教皇の専制政治に引き渡されました。したがって、ヘブライ 12:14に書かれているように、清めなければ誰も神を見ることができない聖化を得るために必要です。

「すべての者との平和を追い求めなさい。それなしでは誰も主を見ることができない聖化」。

イエス・キリストの死から2030年の再臨までのキリスト教時代の2000年間に当てはめると、この準備と聖化の時期が続く13節と14節で明らかになります。アドベンティスト派の本来の信念に反して、この時代はダニエル 7章に描かれているような裁きの時代ではなく、ローマ教皇の忌まわしい教えによって正当化された何世紀にもわたる罪の遺産のために必要とされた聖化の時代です。

13^{世紀}から始まった宗教改革の働きは、三度の聖なる完全に純粋な救い主神があらゆる正義において要求した浄化と神聖化を達成できなかった、と私は明記します。

ダニエル

8:13 私は聖人が話すのを聞きました。すると別の聖人が、その話をした彼にこう言った、「永遠の犠牲と壊滅的な罪についての幻はどれくらい成就するのでしょうか？」聖域と軍隊はいつまで踏み荒らされるのだろうか？ 13a-

私は聖人が話すのを聞きました。すると別の聖人が話しかけた彼に言いました。

真の聖人だけがローマから受け継いだ罪に気づくのです。 Dan.12で示されるビジョンシーンでそれらを再び見つけることができます。

13b- ビジョンはどれくらいの期間実現されますか?
聖人たちはローマの忌まわしい行為に終止符を打つ日付を要求している。

13c- 永遠の犠牲について
永遠の司祭職の再開を記念する日付を求めています。

13日- そして壊滅的な罪について?
聖徒たちは、ローマの荒廃と戦争の罪によって罰せられる7日目の安息日の復活を記念する日付を求めている。そして違反者に対するこの罰は世界の終わりまで続くだろう。

13日 - 聖域と軍隊はいつまで踏みにじられるのでしょうか?
、神に選ばれた聖人たちに対して加えられた教皇による迫害が終わる日付を求めている。

Dan

8:14 すると彼は私に言った、「夕と朝は二千三百ある。そうすれば聖所は清められるでしょう。」

14a- 1991
年以来、神はこの不十分に翻訳された聖句についての私の研究を指示されました。これがヘブライ語本文の彼の本当の翻訳です。

そして彼は私に言った、「夕方から朝まで、2,300の義とされる聖性が与えられます。」

ご覧のとおり、23:00夕方から朝にかけての期間は、この期間に決定される日付から神によって選ばれた者の聖化を目的としています。それまで洗礼によって得られていた永遠の正義が問われます。父、子、聖霊としての三位の聖なる神の要求は、選ばれた者が安息日に対して、あるいは神の口から出る他のいかなる儀式に対しても罪を犯さないという必要性によって変化し、強化されてきました。こうして、イエスが教えられた救いの狭い道が回復されるのです。そして、ノア、ダニエル、ヨブに示された選民のモデルは、ダニエル7:10 の最後の審判で倒れた 100億人のために選ばれた百万人を正当化します。

ダニエル

8:15 私、ダニエルがこの幻を見て、それを理解しようと努めていると、見よ、私の前に人の姿をした人が立っていた。

15a-
論理的には、ダニエルは幻の意味を理解したいと思っており、これはダニエル 10:12
で神からの正当な承認を得るでしょう。しかし、ダニエルの願いはダン 10:12 の神からの返答のように完全に叶えられることはありません。 12:9 はそれを示しています。彼は答えました。「行きなさい、ダニエル、これらの言葉は終わりの時まで秘密にされ、封印されるからです。」

ダニエル

8:16 わたしはウライの真ん中で人の声を聞いた。彼は叫んで言った、「ガブリエル、彼に幻を説明してください。」

16a- ウライの真ん中にあるイエス・キリストの像は、ダン 12
の幻視で与えられた教訓を先取りしています。キリストの側近である天使ガブリエルは、ビジョン全体の意味を最初から説明する責任があります。したがって、次の聖句で明らかにされる追加情報に注意深く従ってみましょう。

ダニエル

8:17 それから、彼は私のいた場所に近づいてきた。彼が近づいてきたとき、私は怖くなってひれ伏しました。彼は私にこう言いました。「人の子よ、気をつけなさい。この幻は終わりの時に関するものだからです。」

17a-

天上の存在の幻影は常に生身の人間にこの影響を引き起こします。しかし、神が私たちにそうするよう勧めておられるので、注意を払いましょう。関連する終了時間は、ビジョン全体の終了時に始まります。

Dan

8:18 彼が私に話しかけたとき、私は呆然と立ち尽くした。彼は私に触れ、私をその場に立たせました。

18a-

この経験において、神は忠実な天使の天体の純粹さとは等しくない肉の呪いを強調されます。

Dan

8:19 そこで彼は私に言った、「怒りの終わりに何が起こるかを教えましょう。終わりにには時が定められているからです。」

19a-

神の怒りの終わりは来るが、この怒りはローマ教皇の教義の遺産であるキリスト教徒の不従順によって正当化される。したがって、この預言された神の怒りの停止は部分的なものとなるでしょう。なぜなら、それが真に停止するのは、キリストの栄光のうちに再臨して人類が完全に滅ぼされた後だけだからです。

ダニエル

8:20 あなたが見た角のある雄羊は、メディア人とペルシア人の王です。

20a-

それは、神が選ばれた者たちに参照点を与え、彼らが提示されたシンボルの連続の原理を理解できるようにするという問題です。メディア人とペルシア人は、啓示の始まりの歴史的背景を示しています。

Dan.2と7では2位でした。

ダニエル

8:21 やぎはジャフの王であり、その目の間の大きな角は初代の王です。

21a- 次に、ギリシャが2番目の継承者です。Dan.2と7の3番目。

21b- 目の間の大きな角は初代王です

これまで見てきたように、それはギリシャの偉大な征服者、アレクサンダー大王に関するものです。偉大な角は、その攻撃的で好戦的な性格をイメージしており、ダリウス3世王が王国と命を犠牲にしたため、屈辱を与えるのは間違っていたと考えられています。この角を額ではなく目の間に置くことで、御霊は自分の死だけが止まるという飽くなき征服欲を示しています。しかし、その目は予言の透視能力でもあり、生まれたときから透視能力者によって並外れた運命を告げられており、彼は生涯を通じて自分の予言された運命を信じています。

ダニエル

8:22 この折れた角に代わって生じた四つの角は、この国から生まれる四つの王国ですが、それほど強力ではありません。

22a- アレクサンダーの後継者である 4 人の将軍によって設立された 4 つのギリシャ王朝が、当初の 10 王朝の間で 20 年間続いた戦争の後もまだ生きていることがわかります。

ダニエル

8:23 彼らの統治が終わり、罪人たちが焼き尽くされる時、厚かましく狡猾な王が現れるでしょう。

23a-

中間の時代を飛ばして、天使は教皇ローマの支配のキリスト教時代を思い出させます。そうすることで、彼は与えられた啓示の主な目的を示します。しかし、この説明は、この節の最初の文にある別の教えをもたらします。それは、彼らの支配の終わり、罪人が焼き尽くされる時です。教皇政権時代以前の、この焼き尽くされた罪人とは誰なのでしょう？これらは、イエス・キリストを救世主であり救い主であり解放者であることを拒否した反逆的なユダヤ人たちですが、罪を犯しただけであり、信仰の質によってイエス・キリストが認めた人々だけを支持したのです。実際、彼らは70年にローマ軍とエルサレムの都市によって焼き尽くされましたが、これは586年にネブカドネザルの下で引き起こされた破壊に次いで二度目のことでした。この行動によって、神は古代の同盟がそれ以来終わったことの証拠を与えました。イエス・キリストの死では、エルサレムで神殿の分離の幕が上から下まで真っ二つに引き裂かれ、その行為が神ご自身から来たことが示されました。

23b- 生意気で巧みな王が現れるだろう

その傲慢さによって特徴づけられ、ここではその厚かましきによって特徴づけられた教皇に関する神による説明です。彼は付け加えて、芸術的です。人為的なものは、真実を覆い隠し、私たちではないものの外観を帯びることで構成されます。この策略は隣人を欺くために使われ、これが歴代の教皇が行ってきたことである。

ダニエル

8:24 彼の力は増大するが、それは彼自身の力によるものではない。彼は信

じられないほどの大混乱を引き起こし、その事業を成功させ、権力者と聖徒の民を滅ぼすでしょう。

24a- 彼の力は増大するでしょう

実際、ダニエル書 7:8 では「小さな角」と表現されており、20節ではそれが「他のものよりも大きな外観」とされています。

24b- ただし、彼自身の力によるものではありません

ここでも歴史は、君主たちの武力支援がなければ教皇政権は存在し得なかったことを証明しています。最初の支援はメロヴィング朝のフランク王クロヴィスであり、その後はカロリング朝、そして最後にカペー朝となったが、フランス君主国の支援が欠けることはほとんどなかった。そして、このサポートには代償が伴うことがわかります。これは、1793年の間にフランスの首都と地方都市に設置されたギロチンによって、フランス国王ルイ16世、王妃マリー・アントワネット、主に責任を負った君主主義者の廷臣およびローマ・カトリック聖職者の斬首によって行われるだろう。そして1794年。人類の記憶に血文字で刻まれた二つの時代の「恐怖」。黙示録

2:22

では、この神罰は次の言葉で預言されています。見よ、私は彼女をベッドに投げ込み、大患難を送ります。 もっている

彼女と姦淫を犯す者は、自分の行いを悔い改めない限り。私は彼女の子供たちを死刑にします。そうすれば、すべての教会は、私が思いと心を探求する者であることを知るでしょう、そして私はあなたの働きに応じてそれぞれに報酬を与えます。

24c- 彼は信じられないほどの大混乱を引き起こすだろう

地上では誰もそれらを数えることはできませんが、天国では神が正確な数を知っており、最後の審判の罰の時に、それらはすべて、最も小さなものから最もひどいものまで、その作者によって償われるでしょう。

24日 - 彼は自分の事業を成功させるだろう

イエス・キリストによって救いが勝ち取られたと主張する神の民が犯した罪を罰するという役割を神が彼に与えられたのに、どうして彼が成功できなかったのでしょうか？

24日 - 彼は強者と聖徒の民を滅ぼすだろう

地上の神の代表者であると偽り、天国への入り口を閉ざすことになる破門で彼らを脅すことによって、教皇庁は西方地球の偉大な君主や君主、さらには小者、富裕層、貧困層の服従を獲得している。しかし、神の真理に対する不信仰と無関心のせいで、全員が無知です。

1170年のピョートル・ヴァルド以来始まった宗教改革の時代が始まって以来、教皇政権は、神の忠実な僕たち、常に平和で平穏な唯一の真の聖人たち、法廷に支援された残忍なカトリック連盟を扇動することで激怒して反応した。彼の偽りの聖性に対する尋問。このようにして聖人やその他の人々にひどい拷問を命じた頭巾をかぶった裁判官たちは皆、神とローマに対する異端の罪で告発されており、まさに預言された最後の審判の時

に、真の神の前で自らの苦行を説明しなければならぬだろう。

9および黙示録20:9から15。

ダニエル

8:25 その繁栄とその策略の成功のゆえに、彼は心に傲慢さを抱き、平和に暮らしていた多くの人を滅ぼし、君主たちの長たちに対して自分を高ぶらせるでしょう。しかし、それは誰の手で努力しなくても壊れてしまいます。

25a- 彼の繁栄と彼のトリックの成功のおかげで

この繁栄は彼の豊かさを示唆しており、その詩は彼のトリックに結びついています。実際、私たちが小さくて弱いとき、金持ち、お金、そして黙示録 18:12 と 13 に挙げられているあらゆる種類の富を手に入れるためには、策略を使わなければなりません。

25b- 彼は心の中に傲慢さを抱くだろう

これは、ダン 4 のネブカドネザル王の経験と、より悲劇的なダン 5 の孫ベルシャザルの経験によって与えられた教訓にもかかわらず、です。

25c- 彼は平和に暮らしていた多くの人を滅ぼすでしょう

平和的な性格は真のキリスト教の成果ですが、それは 1843 年までのことです。その日以前、主にフランス革命の終わりまで、ダニエル 7:25 で預言されている 1260 年間の教皇統治の終わりに、偽りの信仰があったからです。残忍な行為を攻撃したり、残忍な行為に反応したりする残忍性が特徴です。このような時だからこそ、優しさと平和の違いを生みます。イエスが定めた規則は使徒時代から変わっておらず、選ばれるのは犠牲を受け入れる羊であり、決して肉屋ではない。

25d- そして彼は首長たちの首長に対して立ち上がるだろう

この精度があれば、もはや疑いは許されない。

11節と12節で引用されている指導者はまさにイエス・キリストであり、王の中の王、主の中の主であり、黙示録19章16節で再臨の栄光の中に現れます。そして、ローマ教皇によって合法的な永久祭司職が剥奪されたのは彼からでした。

Dan

8:26 そして、語られている夕方と朝の幻は真実です。あなたのほうでは、このビジョンは遠い時代に関係するものであるため、秘密にしておいてください。

26a- そして問題の夕方と朝の幻は真実です

天使は、14 節の「2300 年の夕方から朝」の預言が神聖な起源であることを証明しています。したがって彼は最後に、時が来たらイエス・キリストの選ばれた聖徒たちによって解明され、理解されなければならないこの謎に注意を向けています。それをするために到着した。

26b-

あなたのほうでは、このビジョンは秘密にしておいてください、それは遠い時代に関係するものだからです

実際、ダニエルの時代から私たちの時代までに、約 26世紀が経過しました。そして私たちは、この謎が明らかにされなければならない**終末の時にいることに気づきます**。それは実行されるでしょうが、提案された計算を実行するための重要な鍵を提供する **Dan.9**の研究の前には実行されません。

ダニエル

8:27 私、ダニエルは、何日も疲れ果てて病気でした。それから私は起きて王の用事に取り組みました。私はそのビジョンに驚きましたが、誰もそれを知りませんでした。

27a-

ダニエルの健康に関するこの詳細は個人的なものではありません。このことは、預言された2300回の夕と朝に関する情報を神から受け取ることが非常に重要であることを私たちに意味します。なぜなら、病気が死に至る可能性があるのと同じように、この謎に対する無知は、**終わりの時代に生きる最後のクリスチャン**を永遠の霊的な死に宣告するからです。

ダニエル9

ダニエル

9:1 カルデア人の王国の王となったメディア人のアハシュエロスの子ダリウスの初年に、

1a-

ダニエルの目撃証言によれば、したがって否定することはできませんが、ダンのダリウス王 **5:30**がメディア族のアハシュエロスの息子であることがわかります。したがって、ペルシャ王キュロス2世はまだ彼の代わりをしていない。彼の治世の最初の年は彼がバビロンを征服し、カルデア人からバビロンを奪った年でした。

ダニエル

9:2

彼の治世の最初の年に、私、ダニエルは、主が預言者エレミヤに語られた年数に従って、エルサレムの滅びにはあと70年がかかることを本で見ました。

2a-

ダニエルは預言者エレミヤの預言的著作に言及しています。彼は、神の僕たちを神の視線の下で団結させる信仰と信頼の美しい模範を私たちに与えてくれます。こうして彼は、Iコリント 14:32の次の言葉を裏付けています。「預言者の霊は預言者に従う」。ダニエルはヘブライ人の追放を預言した70年間のほとんどをバビロンに住んでいました。彼はまた、イスラエルへの帰還というテーマにも興味を持っており、彼によれば、それはかなり近いはずであるという。神からの答えを得るために、彼は壮大な祈りを捧げます。それを私たちは学びます。

聖人の信仰の模範的な祈り

このダニエル書

9

章の最初の教訓は、なぜ神がダニエル書のこの部分にそれが登場することを望んだのかを理解することです。

焼き尽くされた罪人の預言的な発表を通して、私たちは、ダニエルがその著書で告白しようとしているすべての事柄のせいで、イスラエル国民のユダヤ人が

70

年に再びローマ人によって有罪とされ、火で滅ぼされたという確証を得ました。祈り。さて、アブラハムから12使徒およびイエス・キリストの弟子たちに至る生ける神との最初の同盟において示されたこのイスラエルとは誰でしょうか。彼自身もユダヤ人でしたでしょうか。アダム以来、肌の色が非常に明るいものから非常に暗いものまでであることを除けば、男性は同じであるため、全人類のサンプルにすぎません。しかし、彼らの人種、民族性、父親と母親から息子や娘に遺伝的に受け継がれたものが何であれ、彼らの精神的行動は同一です。デイジーの葉を剥ぐ原則によれば、「私はあなたを少し、たくさん、情熱的に、狂おしく、まったく愛していません」存在。また、偉大な裁判官は、自分から来たと主張する人々の中にも、彼を愛し、従う忠実な人々、彼を愛していると主張するが従わない人々、無関心に自分の宗教を生きる人々、さらには、信仰を持って生きる人々を見ている。頑固で辛辣な心のせいで狂信的になり、極端な場合には矛盾や非難に耐えられず、耐えられない相手の殺害を支持する。これらの行動はユダヤ人の間でも見られ、地球全体の男性の間で今も見られ、またすべての宗教でも見られますが、それらは平等ではありません。

ダニエルの祈りはあなたに問いかけます。あなたは次のどの行動に自分自身を気づきますか?それが神を愛し、その忠実さの証として神に従う人のものではないなら、あなたの信仰の概念を疑ってください。ダニエルがするように、悔い改めて、誠実で本物の悔い改めの実を神に捧げてください。

この祈りがこの章9章に存在する第二の理由は、70年にローマ人によってイスラエルが滅ぼされた最後の原因、つまり人類の地へのメシア

の初臨がそこで扱われ、展開されているからです。そして、宗教指導者たちは、自分たちを非難する作品の完璧さだけが唯一の欠点であるこの救世主を拒否したため、すべて事実と矛盾し、解体された中傷的な非難によって、民衆を彼に対して煽動した。そこで彼らは、神の真理に基づいて最終的な告発を行い、人間である彼が神の子であると主張していると非難した。これらの宗教指導者の魂は、正義の怒りの時に彼らを焼き尽くすであろう、燃える囲炉裏の石炭のように黒かった。しかし、ユダヤ人の最大の過ちは彼を殺したのではなく、神による復活の後に彼を認識しなかったことにありました。 12

使徒によって行われた奇跡と善行に直面して、彼らは当時のファラオのように身をかたくなにし、今回はローマ人に頼ることなく、自分たちで石打ちにした忠実な助祭ステファノを死刑にすることでそのことを証言しました。

この祈りの第三の理由は、この祈りが、神との関係の中で生きてきた長い経験の終わりに、悲しい最後の観察としての役割を果たしているということです。これはユダヤ同盟が残りの人類に残した証言、一種の遺言である。なぜなら、このバビロンへの移送においてこそ、神が用意されたデモが終わるからである。確かに、ユダヤ人は祖国に戻り、しばらくは神が敬われ従うことになるが、忠誠心はすぐに消えてしまい、彼らの生存は最初の基準に基づいた最後の信仰の試練としてのみ正当化されるほどになるだろう。メシアの到来は、彼がイスラエルの子、ユダヤ人の中のユダヤ人に違いないからです。

この祈りの第 4 の理由は、321 年 3 月 7 日の安息日の放棄から私たちの時代に至るまで、述べられ告白された過ちはすべて、その時代のクリスチャンによって達成され、新たにされたという事実に基づいています。

1873年以来、そして1844年以来個別に祝福された最後の公的機関は、1994年にイエスが吐き出して以来、時の呪縛から逃れられていない。ダニエル書の最後の章と黙示録の本を研究することで、これらの日付と最後の謎が説明されるだろう。

では、ダニエルが全能の神に語る声を注意深く聞いてみましょう。

ダニエル

9:3 私は、祈りと願いを込めて、断食し、荒布と灰を受け取るために、顔を主なる神に向けました。

3a-

ダニエルは現在高齢ですが、彼の信仰は衰えておらず、神とのつながりは維持され、養われ、維持されています。彼の場合、その心は深く誠実であり、断食し、荒布を着て、そして灰が真の意味を持っている。これらの習慣は、神に聞いてもらい、叶えてもらいたいという人の願望の強さ

を示しています。断食は、食べる楽しみと比べて神の応答が優れていることを示しています。このアプローチには、自殺までせずに、あなたの答えなしではもう生きてたくない、と神に伝えるという考えがあります。

ダニエル

9:4 私は私の神、主に祈り、告白しました。「主よ、偉大なる恐るべき神よ。あなたの契約を守り、あなたを愛し、あなたの戒めを守る者たちを憐れんでくださいます。」

4a- 主よ、偉大なる恐るべき神よ

イスラエルはバビロンに亡命しており、神が偉大で偉大であることを学ぶためにお金を払っています。

4b- 契約を守り、あなたを愛し戒めを守る人たちを憐れむ人よ！

ダニエルは、神の十戒の第二戒の本文から議論を引き出しているの
で、神を知っていることを示していますが、不幸なカトリック教徒は何世
紀にもわたる暗闇の中でそれを知りません。なぜなら、教皇庁が主権を持
って、教皇庁が率先してそれを教皇の戒律から削除したからです。十戒の
バージョン。数を10に保つために肉に焦点を当てた戒めが追加されたから
である。前の章で非難された厚かましさと欺瞞の良い例です。

ダニエル

9:5 私たちは罪を犯し、不法を行い、邪悪で反逆し、あなたの戒めと裁きに背を向けてきました。

5a- ダニエルとその仲間

3

人がこの種の過失について無罪であることを除けば、これらはイスラエルを国外追放に導いた過失であるため、これ以上真実かつ明確になることはできません。だからといって、彼が罪の重荷を負いながらも国民の大義を信奉することを妨げるものではない。

2021 年に私たちは、クリスチャンである私たちも、マル 3:6
の宣言に従って変わらないこの同じ神に仕えているということを認識しな
ければなりません。そして、ヤコブの子供たちであるあなたたちは、まだ
食い尽くされていません。

「まだ消費されていない」と言うのが適切でしょう。というのは、マラキ
がこれらの言葉を書いて以来、キリストが現れ、ヤコブの子供たちは彼を
拒絶して死刑にし、ダニエル

8:23

で預言された言葉に従って、彼らは結局

70

年にローマ人によって焼き尽くされたからです。そしてもし神が変わらな
いとしたり、これは神の戒め、第一に神聖な安息日に違反する不忠実なク
リスチャンが、当時のヘブライ人やユダヤ教徒よりもさらに厳しい打撃を
受けることを意味します。

ダニエル

9:6

**わたしたちは、あなたの名によって王たち、君主たち、先祖たち、そして
国のすべての民に語ったあなたのしもべ預言者たちの言うことを聞きませ
んでした。**

6a-

ヘブライ人がこれらの罪を犯しているのは事実ですが、たとえヘブライ人が設立した最後の組織であっても、同じ行為を犯しているクリスチャンについては何と言えますか？

ダニエル

9:7 主よ、あなたの義はあなたの義であり、私たちの義は今日、ユダの人々、エルサレムの住民、そして近くにいる者も遠くにいる者も含めた全イスラエルにとっての恥です。彼らがあなたに対して有罪だった不貞のせいで、あなたが彼らを追いかけたすべての国で。

7a-

イスラエルの懲罰はひどいもので、多くの死者が出て、生き残った者だけがバビロンに追放される機会があり、そこからカルデア帝国と彼の後継者であるペルシャ帝国の国々に散らばりました。ユダヤ民族は異国の地で解体されましたが、神の約束に従って、神は間もなくユダヤ人を彼らの祖先の土地である祖国に再会させます。この生ける神は何という力と力を持っているのでしょうか！ダニエルは祈りの中で、これらの人々が聖地に戻る前に示さなければならないすべての悔い改めを表明していますが、それは神が側にいる場合に限られます。

ダニエルはユダヤ人の不貞行為を告白し、神によって罰せられましたが、では同じことをしたキリスト教徒にはどんな罰が与えられるのでしょうか？国外追放か、それとも死か？

Dan

9:8 主よ、私たちはあなたに対して罪を犯したので、私たち、私たちの王たち、私たちの君主たち、そして私たちの先祖たちにとって、面目の恥です。

8a-

恐ろしい言葉、「罪」という言葉が引用されています。これほど大きな苦しみをもたらす罪を誰が終わらせることができるのでしょうか？この章ではその答えを示します。教訓は学び、覚えておく価値があります。イスラエルは、それを統治した王、指導者、父親たちの選択と行動の結果に苦しんできました。ここでは、腐敗した指導者に対する不従順が神の祝福の中に留まるように奨励される例を示します。これはダニエルと彼の3人の仲間が行った選択であり、彼らはその選択を祝福されました。

Dan

9:9 私たちの神、主に憐れみと赦しを与えてください。私たちは主に不従順でした。

10a-

罪の状況においては、唯一の希望が残されています。慈悲深い善良な神が許しを与えてくださることに頼ってください。このプロセスは永続的であり、古い同盟のユダヤ人も新しい同盟のキリスト教徒も同じ許しを必要としています。ここでも神は、高い代償を払わなければならない対応を準備しておられます。

Dan

9:10 私たちは、私たちの神、主の声に従わず、主がその僕たち預言者たちによって私たちの前に定められた律法に従わなかったのです。

10a- これは 2021 年のクリスチャンにも当てはまります。

ダニエル

9:11 全イスラエルはあなたの律法を犯し、あなたの声を聞くことから離れました。それから、私たちが神に対して罪を犯したとして、神の僕モーセの律法に記されている呪いと非難が私たちに注がれました。

11a-

モーセの律法の中で、神は確かにイスラエルに不従順に対して警告しました。しかし、彼の後、ダニエルと同時代の預言者エゼキエルは、ダニエルから13年後、つまり、彼が後継者となったエホヤキムの兄弟であるエホヤキン王がチグリス川とエジプトの間にあるチェバル川で捕虜となって発見されてから5年後に国外追放されました。ユーフラテス。そこで神は彼に靈感を与え、今日の聖書に記されているメッセージを書かせました。そして、エゼ書 26 章には、黙示録の 7 つのラッパの黙示録 8 章と 9 章に、靈的に適用されただけではない一連の刑罰が見られます。この驚くべき類似性は、神が実際には変わらないことを裏付けています。罪は古い契約と同様に、新しい契約でも罰せられます。

ダニエル

9:12 彼は、私たちに対して、また私たちが支配する支配者たちに対して語られた言葉を実現し、エルサレムに到着した人が、天上でかつて起きたことのないような大きな災いを私たちにもたらしました。

12a-

神は弱まっておらず、祝福するか呪うかの宣言を同じ注意をもって遂行し、ダニエルの民を襲った「災い」は、これらのことを学ぶ国々に警告することを目的としています。しかし、私たちは何を見るのでしょうか？聖書に証言が書かれているにもかかわらず、この教訓は聖書を読んだ人たちさえも無視したままです。

このメッセージを覚えておいてください。神はユダヤ人のために、そして彼らの後にキリスト教徒のために、ダニエル書の残りの部分で明らかにされる他の2つの大きな災いを備えておられます。

ダニエル

9:13 モーセの律法に書かれているとおり、この災いはすべて私たちに降りかかりました。そして、私たちは私たちの神、主に祈ったこともなければ、自分の咎から目を背けたこともなく、あなたの真理に耳を傾けたこともありません。

13a-

神が聖書に書かれたことに対する軽蔑は、2021年においても永遠に続いており、キリスト教徒もこの罪を犯しており、神は彼らに矛盾するつもりはないと信じている。また、彼らは自分たちの咎から目を背けること

もせず、聖書の真理にも注意を払わないが、終末の時代にとって非常に重要であり、理解の鍵は聖書そのものにあるため、その預言的真理は激しく、そして理解できる形で明らかにされている。

Dan

9:14 主はこの災いを見守り、わたしたちにそれをもたらした。私たちの神、主はそのなさることすべてにおいて義であるのに、私たちはその御声に従わなかったからです。

14a-

これ以上何を言うことができますか?実は!しかし、神は、同じ原因のために、現代の人類のために、さらに大きな災いが用意されていることをよく知ってください。それは2021年から2030年の間に核戦争の形で起こり、その神聖な使命は黙示録9章15節によれば人類の3分の1を殺すことである。

Dan

9:15 さて、わたしたちの神、主よ、あなたの力強い御手によってあなたの民をエジプトの地から導き出し、あなたの名を今日のようにして下さった方、わたしたちは罪を犯し、咎を犯しました。

15a-

ダニエルは、なぜ不信仰が神によって非とされるのかを思い出させます。地上では、ユダヤ人の存在は、ヘブライ人のエジプトからの脱出という超自然的な力によるこの異常な事実を証明しています。彼らの物語全体はこの奇跡的な事実に基づいています。私たちはこの脱出を目撃する機会がありませんが、この経験の子孫が今日も私たちの中にいることを否定する人はいません。そして、この存在をさらに活用するために、神は第二次世界大戦中にこれらの人々をナチスの憎しみにさらしました。こうして人類の関心は、1948年に70年以来失われた古代の故郷の地に再定住を果たした生存者たちに向けられた。神はただ、ローマ総督ポンテオ・ピラトにイエスについて語った彼らの父親たちの言葉を彼らの頭に降らせたにすぎなかった。

、彼の死を得るために、私は「彼の血が私たちと私たちの子供たちに降り注ぎますように」と引用します。神は彼らに手紙に答えました。しかし、あらゆる宗派のキリスト教徒は恥ずべきことにこの神の教訓を無視しており、彼ら全員が呪いを共有しているので、その理由は理解できます。ユダヤ人はメシアを拒否しましたが、キリスト教徒は彼の律法を軽蔑しました。したがって、神が両方を非難することは完全に正当化されます。

Dan

9:16 主よ、あなたの大いなる憐れみに従って、あなたの怒りと怒りをあなたの都エルサレム、あなたの聖なる山から遠ざけてください。なぜなら、私たちの罪と先祖たちの咎のゆえに、エルサレムとあなたの民は、私たちの周りにいるすべての人々にとって非難の対象となっているからです。

16a-

ダニエルはここで、モーセが神に提示した議論を取り上げています

。神の民の懲罰を目撃した民は何と言うのでしょうか。ローマ 2:24
でパウロの口を通して、神ご自身がユダヤ人について宣言しているので、
神はこの問題に気づいています。次のように書かれているように、神の名
はあなたのせいで異邦人の間で冒瀆されているからです。彼はエゼの聖句
をほのめかしています。

16:27:そして、見よ、わたしはあなたに向かって手を差し伸べ、あなたに
任命した分を減らし、あなたをあなたの敵である娘たちの意のままに引
き渡した。ペリシテ人はあなたの犯罪行為を恥じていました。ダニエル
は同情心に富み、自分の都市エルサレムに対する神の裁きについてまだ学
ぶべきことがたくさんあります。しかし、彼が「エルサレムとあなたの民
は、私たちの周りのすべての人々にとって非難である」と言うとき、彼は
間違っていない。なぜなら、イスラエルの罰が異教徒たちに有益な恐怖
とこの真の神に仕えたいという願望を生み出したとしたら、その罰は起こ
つただろうからです。本当に興味がありました。しかし、この悲しい経験
は、ネブカドネザル王とメディア王ダレイオスの改宗のおかげで、私たち
はそれを負っているのです。重要ではないどころか、ほとんど実を結びませ
んでした。

Dan

9:17 それゆえ、私たちの神よ、今、あなたのしもべの祈りと嘆願を聞いて
ください。そして、主のために、あなたの荒れ果てた聖所にあなたの顔を
輝かせてください。

17a-

ダニエルの願いはかなえられますが、それは神がダニエルを愛して
いるからではなく、単にイスラエルへの帰還と神殿の再建がダニエルの計
画の中にあるからです。しかしダニエルは、実際には再建される神殿が、
70年に再びローマ人によって破壊されることを知りませんでした。だから
こそ、この第 9
章で彼が受け取るであろう情報は、彼が今もエルサレムに建てられた石の
神殿に与えているユダヤ人の重要性を正すことになるのです。キリストの
肉の神殿は間もなくそれを無駄にし、そのため70年に再びローマ軍によっ
て破壊されるでしょう。

ダニエル

9:18 わが神よ、耳を傾けて聞いてください。目を開けて、私たちの廢墟を
見てください、あなたの名前が呼び出された都市を見てください！私たち
があなたに祈りをささげるのは、私たちの義のためではなく、あなたの大
きな憐れみのためだからです。

18a-

神がご自身の輝かしい臨在によって神聖化された場所とするために
エルサレムを選ばれたのは事実です。しかし、その場所が聖なるのは神が
そこに立っているときだけであり、586
年以降はそうではなくなりました。そしてそれどころか、エルサレムとそ

の神殿の遺跡は彼の正義の公平性を証明しました。この教訓は、悪魔の陣営の悪い天使たちとしか関係のない偶像崇拝的な異教の神々とは異なり、真の神を、見て、判断し、反応する生きた存在として見るために人間にとって必要でした。忠実な人は神に仕えますが、不忠実な人は神を利用して周囲の人々に対して宗教的正当性を自分に与えるのです。ダニエルが訴えている神の憐れみは本物であり、ダニエルは間もなくイエス・キリストにおいてその最も美しい証拠を示すでしょう。

ダニエル

9:19 主よ、聞いてください。主よ、許してください！主よ、気を付けてください！あなたへの愛のために、遅れずに行動してください、おおわが神よ！あなたの名前があなたの街とあなたの民に呼ばれているからです。

19a-

ダニエルは高齢であるため、彼の主張は正当化されます。なぜなら、モーセと同様に、彼の最も大切な個人的な願望は、彼の「聖」地への帰還を体験できることだからです。彼は神とイスラエルに再び栄光をもたらす聖なる神殿の再建に立ち会いたいと望んでいます。

ダニエル

9:20

それにもかかわらず、わたしは話し、祈り、自分の罪と、わたしの民イスラエルの罪を告白し、わたしの神の聖山のためにわたしの神、主に祈りをささげました。

20a-

神がダニエルを愛しているのは驚くべきことではありません。それは彼を魅了し、神の要求する聖さの基準を満たす謙虚さの模範です。肉の体で生きている限り、人間は誰でも間違いを犯す可能性があり、ダニエルも例外ではありません。私たち皆がそうしなければならないのと同じように、彼は自分の極度の弱さを認識しながら、自分の罪を告白します。しかし、彼個人の霊的特質では人々の罪をカバーすることはできません。なぜなら彼は単なる人間であり、それ自体が不完全だからです。解決策はイエス・キリストにおいて神から与えられます。

Dan

9:21 私がまだ祈りを語っていたとき、以前幻で見たガブリエルという人が、夕べの献げ物の時間に私の方に飛んで来ました。

21a-

ガブリエルの訪問のために神が選んだ時間は、夕方の捧げ物、つまり、完全に聖く罪のないイエス・キリストの体が将来自発的に捧げられることを夕方と朝に預言する子羊の永遠の犠牲の時間です。彼は、彼の唯一の真の民を構成する唯一の選ばれた人々の罪を償うために十字架につけられて死ぬでしょう。したがって、以下に述べるダニエルへの啓示とのつながりが確立されます。

祈りの終わり：神の答え

Dan

9:22 彼は私に教え、話してくれました。彼は私にこう言いました。「ダニエル、私はあなたの理解を広げるために今ここに来ました。」

22a-

「知性を開く」という表現は、それまで知性が閉ざされていたことを意味します。天使は、神に選ばれた預言者との出会いの時まで隠されていた神の救いの計画について話します。

Dan

9:23 あなたが祈り始めたとき、御言葉が発せられたので、わたしはあなたがたに告げるために来たのです。あなたは愛されているからです。言葉に注目してビジョンを理解しましょう！

23a- あなたが祈り始めたとき、言葉が出てきました

天の神はすべてを計画し、永遠の時の集会の瞬間に、ヨハネが福音書の冒頭で行うように、天使ガブリエルはキリストを「言葉」によって指定しました。言葉は肉とされました。天使は彼に「御言葉」を告げるために来ます。これは、申命記 18 章 15 節から 19 節に従って、モーセから預言されたキリストの到来を彼に告げるために来ることを意味します。あなたの神、主はあなたをあなたの中から立ち上がらせませす。

、「あなたの兄弟の中に私のような預言者がいます。あなたは彼の言うことを聞くでしょう！」このようにして、彼は、あなたが集会の日にホラブであなたの神、主に対して行った、「もう私の神、主の声を聞かせないでください、そしてこの大きな火を見させないでください、死なないように。主は私に言われた、「彼らの言ったことは良いことだ。」わたしは彼らの兄弟の中から彼らのために立ち上がるだろう

あなたのような預言者なら、私は彼の口に私の言葉を伝えます、そして彼は私が彼に命じることは何でも彼らに話します。そして、もし誰かが私の名において語る私の言葉に耳を傾けないなら、私はその責任を追及します。しかし、私が語るように命じていない言葉を、大胆にも私の名において語る預言者、あるいは他の神々の名において語る預言者は、死刑に処せられるであろう。

この聖句は、メシアであるイエスが来臨について預言されたすべての基準を満たしていたため、メシアであるイエスを拒否したユダヤ人の罪を理解するための基礎となります。人間の間で取り上げられ、神の言葉を伝えたイエスはこの描写に相当し、彼が行った奇跡は神の行為を証明しました。

23b- あなたは最愛の人だから

なぜ神はダニエルを愛されるのでしょうか？単純に、ダニエルが彼を愛しているからです。神が目の前にある自由な生き物のために命を創造した理由は愛です。彼の愛への欲求こそが、彼が地上の人間の生き物たちから愛を得るために支払わなければならない非常に高い代償を正当化する

ものである。そして、彼が支払わなければならない死の代償として、彼が選ぶ人々は彼の永遠の仲間となるでしょう。

23c- 言葉に注意を払い、ビジョンを理解してください。

それは天使の言葉、それともキリストに隠された神の「言葉」、どちらの言葉でしょうか？確かなことは、そのビジョンはイエス・キリストにおいて肉体を持って来る「言葉」に関するものであるため、両方が可能であり、補完的であるということです。したがって、メッセージを理解することが最も重要です。

70週の予言

ダニエル

9:24 あなたの民とあなたの聖なる都には、そむきを止め、罪を終わらせ、咎を償い、永遠の義をもたらし、幻と預言者に印を押し、油を注ぐために、七十週間が定められている。至聖所中の聖所。

24a- 70週間があなたの民とあなたの聖なる都市から切り離されました

ヘブライ語の動詞「ハタック」は、第一の意味で切る、またはスライスすることを意味します。そして単に比喩的に「決定する、または修正する」という意味です。私が最初の意味を保持するのは、創世記 15 章 10 節にある、犠牲を通して神との同盟を具体化するアブラハムのこの行動に意味を与えるからです。

アブラムはこれらの動物をすべて取り、それらを真ん中で切り、それぞれの部分を

1
つつつ置きました。もう一方。しかし彼は鳥を共有しませんでした。この儀式は神とその僕との間の同盟を示していました。これが、この「切る」という動詞が、27

節の「一週間多くの者と結ばれた同盟」において完全な意味を持つ理由です。この「多くの」というのは国民的ユダヤ人であり、その利益は、十字架につけられたキリストへの信仰の利益です。最初に提示されました。この動詞のカットの 2 番目の興味深い点は、この第 9 章の 70 週の年がダニエル

8:14

の「2300

年の夕方から朝まで」でカットされていることです。そして、この年表からは、キリスト教の信仰をユダヤ人の信仰よりも優先するという教訓が得られます。このようにして、神はイエス・キリストにおいて、全人類の救いに値するすべての信者のための贖いとして自分の命を捧げられることを私たちに教えておられます。イエスが全地球の選民との新しい契約を破るために血を流したとき、古い契約は消滅しなければなりません。

ダニエル書は、ダニエルの現代の王たちの改宗を私たちに示すことによって、この普遍的な救いを教えることを目的としています。ネブカドネザル、メディア人のダリウス、ペルシア人のキュロス。

このメッセージは、70週間の期限が与えられたユダヤ人とその聖地エルサレムを脅かす厳粛な警告である。ここでもエゼ

4:5-6

の暗号は、490 年すべてを表す 1 年に 1 日を与えています。ダニエルは、すでに廃墟となっている自分の街に対する脅威の意味を理解するのが難しいに違いありません。

24b- 違反を止め、罪に終止符を打つ

ダニエルが自分の罪と民の罪の許しを求めて神に祈りを求めたばかりのとき、これらのことを聞いてダニエルの心に何が起こったか想像してみてください。彼はそれが何であるかをすぐに理解するでしょう。しかし、私たち自身も、示された神の要求をよく理解しています。神は、ご自分が選んだ人々から、ご自身が救ってくださること、彼らがもはや罪を犯さないこと、彼らが神の律法への違反に終止符を打つことを望んでおり、それによって使徒ヨハネがヨハネ第一 3 章で書くことに従って罪に終止符を打つのです。

4: 罪を犯す者は律法に違反しており、罪は律法に違反することです。この目的は、もはや罪を犯さないように自分の邪悪な性質と戦わなければならない人々に向けられています。

24c- 不法行為を償い、永遠の正義をもたらす

ユダヤ人のダニエルにとって、このメッセージは、ヤギを犠牲にして罪を取り除くことを祝う年に一度の祭りである「贖罪の日」の儀式を思い出させます。この典型的な罪の象徴は、Dan.8

でギリシャを表しており、その存在がこの「償いの日」の霊的な雰囲気にも預言を置きました。しかし、一年を通して犠牲にされた他の動物の死が罪を取り除くことに成功しなかった場合、どうやってヤギの死で罪を取り除くことができるのでしょうか？このジレンマに対する答えはヘブライ 10:3 から 7

に示されています。しかし、罪の記憶はこれらの犠牲によって毎年新たにされます。雄牛やヤギの血で罪を取り除くことは不可能だからです。それゆえ、キリストはこの世に入り、こう言われました。あなたは罪のために全焼のいけにえや犠牲を受け入れていません。それから私は言いました：**見よ、私は（本の巻物の中で私について語られています）するために来ました、**

おお神よ、あなたのご意志を。使徒パウロの説明は非常に明確で論理的です。したがって、神は、天使ガブリエルによってダニエルに告げられた罪の贖いの働きを、イエス・キリストにおいてご自身のために留保しておられたということになります。しかし、イエス・キリストはこの「贖いの日」の儀式の中でどこにいたのでしょうか？彼の完全な個人の無実は、象徴的に彼を世の罪を取り除く神の過ぎ越しの子羊とし、贖罪の儀式のヤギによって象徴される彼の選ばれた人々の罪の世話をしました。子羊はヤギに隠されたので、子羊は自分が世話したヤギのために命を落とした。神は、キリストにおいて選ばれた人々の罪、彼が責任を負っていた罪を償うために十字架での死を受け入れることによって、彼らに対する愛の最も美しい証拠を彼らに与えました。

24d- そして永遠の正義をもたらす

これは救い主メシアの死の幸いな結果です。アダム以来人間が生み出すことのできなかつたこの義が選ばれた者に帰せられるのは、この神の愛の実証に対する彼らの信仰を通して、純粋な恵みによって、イエス・キリストの完全な義が最初は戦いまで彼らに帰せられるためである。信仰は罪に打ち勝ちます。そして、これが完全に消えると、キリストの正義が与えられると言われます。生徒は師のようになります。イエスの使徒たちの信仰はこれらの教義に基づいて築かれました。時間と闇の力が彼らを変え、イエス・キリストが教えた狭い道を広げる前に。この**義は**、忠実に選ばれた者、つまり神の義の要求を聞いてそれに従う者にとってのみ**永遠**となります。

24日 - ビジョンと預言者を封印する

あるいは、発表された預言者の出現によってその幻が成就するように。封印するという動詞は、神の封印を暗示しており、それによって預言と、完全に議論の余地のない神の権威と正当性を自らに示す預言者に与えられます。これから成就しようとする業は、その神聖な王印によって封印される。このシールの象徴的な数字は「7:7」です。それはまた、創造主である神とその御霊の性質を特徴づける豊かさを表します。この選択の基礎は、7,000年にわたる彼のプロジェクトの構築であり、それが彼が7,000年と同じように時間を
7
日の週に分割した理由です。したがって、70週の預言は、黙示録7章の生ける神の印である数字(7)に役割を与えています。続く聖句では、この「7」という数字の重要性が確認されます。

24f- そして至聖所に油を注ぐ

これはイエスがバプテスマを受けるときに受ける聖霊の油注ぎです。しかし、誤解しないでいただきたいのは、天から彼に降り立った鳩の目的はただ一つ、それは、イエスが確かに発表された救世主であるとヨハネを説得することだった。天は彼を証しします。地上では、イエスは常にキリストであり、司祭たちに選ばれた質問という形で、12歳のときの会堂でのイエスの教えがその証拠です。彼が生まれ育った彼の民にとって、彼の正式な使命は、26
年の秋の洗礼から始まり、30
年の春に命を捨てることでした。「至聖所」という称号は、なぜなら、彼はモーセの時代にヘブライ人を恐れさせた生ける神を肉の形で体現しているからです。しかし、生きている至聖所は地上に物質的な象徴を持っていました。エルサレム神殿の最も神聖な場所または聖域。それは天国の象徴であり、神とその天使たちが立つ人間の立ち入ることのできない次元です。神の裁きの座であり玉座の場所である神は、裁判官として、この選択のために設定された6000年の間に選ばれた者の罪の赦しを証明するためにキリストの血を待っていました。こうしてイエスの死は究極の「贖罪の祭典」を完成させたのです。許しが得られ、神によって承認された古代の犠牲はすべて検証されました。至聖所への油そそぎは、贖罪の日に、神の罪を

犯した戒めを収めた箱舟の上に置かれた祭壇である贖罪の座で殺されたヤギの血を振りかけることによって行われました。この行為のために、大祭司は年に一度、分離のベールを越えて最も聖なる場所に侵入する権限を与えられました。こうしてイエスは復活後、支配権、正義の転嫁によって選ばれた者を救う正当性、そして邪悪な天使とその指導者であるサタン、悪魔を含む悔い改めない罪人を罪に定める権利を受けるために、自らの血の贖いを天にもたらした。

。至聖所はまた天国、イエスが地上で流した血を示しており、ミカエルにおいてイエスが悪魔とその悪霊を天から追い出すことを可能にします。これは黙示録 12:9

で明らかになりました。したがって、宗教的なユダヤ人の誤りは、毎年行われる「贖いの日」の預言的性格を理解していなかった点にありました。彼らは、この祭典で捧げられた動物の血が、その年に排出される別の動物の意味を証明できると誤って信じていました。人間は神の似姿に造られました。陸生生物によって生み出された動物であるにもかかわらず、この2つの種の価値の平等をどうやって正当化できるのでしょうか？

神であるイエス・キリストは、ご自身が聖霊としての油注ぎの油であり、天に昇る際に、地上で勝ち取ったご自身の正当性の油注ぎを携えておられます。

計算の鍵

ダニエル

9:25 ですから、知って、理解してください。エルサレムが油そそがれた者、指導者に再建されると言葉が宣言されてから、7週間と30分と2週間前に、場所と溝は回復されますが、困難な時期にあります。

25a- それなら、これを知って、理解してください！

天使がダニエルに注目を集めるのは正しいことです。なぜなら、彼は多大な精神のおよび知的集中を必要とするデータに取り組んでいるからです。計算が必要になるからです。

25b-

エルサレムが再建されるという言葉が油そそがれた者、指導者に告げられた時から

この聖句のこの部分だけが、ビジョンの目的を要約しているため、非常に重要です。**神はメシアを待ち望むご自分の民に、何年にご自身が彼らの前に現れるかを知る手段をお与えになります。**そして、エルサレムが再建されるという言葉が告げられるこの瞬間は、預言された490年の期間に従って決定されなければなりません。この再建の布告について、エズラ記には、キュロス、ダリウス、アルタクセルクセスの 3人のペルシア王が連続して命じた 3つの布告の可能性が見つかります。458年に最後に制定された法令により、私たちの時代の26年に490年間の頂点を迎えることが認められていることが判明しました。したがって、アル

タクセルクセスのこの布告は、それが書かれた季節を考慮して保持されるべきである: 伝道記 7:9 によると春: 彼は第一の月の一日にバビロンを去り、エルサレムに到着した。五月の一日、彼の神の善い御手が彼の上にあった。王の布告の年はエズラ記 7:7 に記されています。アルタクセルクセス王の第 7 年には、イスラエルの子らの多く、祭司、レビ人、歌手、門番、ネティ人もエルサレムにやって来ました。

法令の出発は春であり、御霊はその預言の対象、イエス・キリストが十字架につけられて死んだ春の復活祭を対象としています。計算により、この目標が達成されます。

25c-

7週間と62週間前、場所と溝は復元されますが、困難な時期にあります。

最初は 70 週間あります。天使は69週間を呼び起こします。 7 + 62。 最初の 7

週間は、エルサレムと神殿の回復の時期に最高潮に達します。この時期は、ユダヤ人が国外追放によって自由になった地域に定住するためにやって来たアラブ人の永遠の逆境の下で働いていたため、不運な時代でした。ネハ書 4 章 17 節のこの聖句は状況をよく表しています。城壁を建てた人たち、荷物を運んだり荷物を積んだ人たちは、片手で働き、もう一方の手で武器を持っていました。これは細かい指定ですが、主なものは数えて70週目にあります。

70週目

ダニエル

9:26そして、六十二週間後に、油そそがれた者は断たれ、彼には後継者がなく、彼に代わるものは何もない。来るべき支配者の民は都市と聖域を破壊し、彼らの最後は洪水のように訪れるだろう。この惨状は終戦まで続くことが確定している。

26a- 62週間後、油そそがれた者は断たれる

この 62 週間の前には 7

週間があり、これは本当のメッセージは「69

週間後」油注がれた者が断たれるということの意味ですが、ただの油注がれた者ではなく、このように告げられた者は神の油そそがれを体現しているのです。式「

a) を使用すると、

油注がれた」では、神はユダヤ人を神の制約から遠く離れた普通の外見の男性との出会いに備えさせます。ブドウ栽培者のたとえ話によれば、ブドウ畑の主人の息子である人の子は、自分よりも先にいて彼らが虐待した使者を送った後、ブドウ栽培者たちに姿を現します。人間の観点から見ると、イエスは他の油そそがれた者の後に現れる油そそがれた者にすぎません。

。

天使は合計 69 週間の期間の「後」と言ったため、
週間目を示しました。このようにして、天使のデータは、日暦のこの

70^{週目}の真ん中に位置する
年春の過越祭に向けて、私たちを段階的に導いてくれます。

26b- そして彼には後継者がいないだろう

彼にとっては誰もであると述べていることから、ますます不当である。そして、私にとっては、彼の磔刑の瞬間に実際に何が起こったのかを語っているので、文字通りの翻訳が私にぴったりです。聖書は、使徒たち自身が、他のユダヤ人と同様、ローマ人を国から追い出す戦士のメシアを待っていたため、イエスが期待されるメシアであると信じるのをやめたと証言しています。

26c- 来るべき指導者の人々は都市と聖域を破壊するでしょう

人の国民的不信仰に対する神の反応を構成します。神に対する怒りは、エルサレムの破壊とその偽りの神聖さによって決定的に償われるでしょう。なぜなら、西暦30年以來、ユダヤ人の地にはもはや聖性が存在しなくなっただからです。聖域はもはや一つではありません。この行動のために、神はローマ人を用いました。ユダヤ人の宗教指導者たちがメシアを十字架につけさせたローマ人たちですが、ローマ人たちは自分たちなしでは「3年6か月」執事ステファノを石打ちにすることを知っていたにもかかわらず、自分たちではそれを行う勇氣も能力もありませんでした。" 後で。

26日- そしてその終わりは洪水のように来るだろう

したがって、ローマによる数年間の包囲の後、エルサレムが彼らの手に落ち、神の熱意に動かされて破壊的な憎しみに満たされたのは70年であり、彼らは予告通り、もはや存在しなかった都市と聖性を狂ったように破壊した。イエスが死ぬ前にマタイ

24:2
で宣言されたように、もはや一つの石がもう一つの石の上に残されることはありませんでした。真実に言いますが、ここには、取り壊されずに積み重なった石は一つもありません。

26日-惨状は 終戦 まで続くと決定

マタイ

24:6

でイエスはこう言われました。「戦争や戦争の噂を聞くでしょう。心配しないように気をつけなさい。これらのことは必ず起こるからです。」しかし、まだ終わりではありません。ローマ時代以降、西暦二千年にわたって戦争が続き、第二次世界大戦の終結以來私たちが享受してきた長い平和は例外的ではありますが、神によってプログラムされたものです。こうして人類は、致命的な代償を支払う前に、その幻想の果てまで倒錯の成果を生み出すことができるのです。

異教の「破壊者または荒廢者」の働きを延長し、そこでもキリストの神に選ばれた者に対して行われた戦争が終わるまで延長することを忘れてはなりません。

ダニエル

9:27 彼は一週間の間、多くの人々と強い契約を結び、その週の半分はいけにえと穀物の捧げ物を中止させます。そして、荒廢の忌まわしいものたちの翼の上に、さらには絶滅（または完全な破壊）まであり、それは荒廢した[地]で、定められたものに従って、打ち砕かれるでしょう。

27a-彼は 一週間多くの人々と強力な同盟を結ぶでしょう

契約の成立を預言します。それは世の終わりまで提供される救いの基礎となるため、それは堅実です。

「多くの者」という用語の下で、神は十字架につけられたメシアを正式に受け入れるか拒否するかについてユダヤ国民に与えられた期限の最後の**7年間に契約を結ぶユダヤ国民、使徒、そして最初のユダヤ人の弟子たち**をターゲットにしています。

24節で神と悔い改めたユダヤ人の罪人との間で「**切断**」されたのはこの契約です。 33

年の秋、この先週の終わりは、新しい執事スティーブンの石打ちに代表される、このもう一つの不当で忌まわしい行為によって特徴づけられるでしょう。彼の唯一の間違ひは、イエスが自分の言葉を口に出す間に、ユダヤ人たちが聞くに耐えられない真実を告げたことだった。イエスは自分の大義の信奉者が殺されるのを見て、ご自分のとりなしを国民が公式に拒否したことを記録しました。 33

年の秋から、ユダヤ人の反乱軍はローマの怒りを煽り、70年にエルサレムの街区が空になりました。

27b- そして週の半分の間、彼は犠牲と捧げ物を中止するでしょう

週の半ばか半分のこの瞬間が、70週の予言の対象となる春30日です。これは、24節に引用されているすべての行為が達成される瞬間です。**罪の終わり、その償い、永遠の正義を確立することによって幻を実現する預言者の到来、そして勝利し、天に昇る復活したキリストの油注ぎです**

オールマイティー。ここでは、メシアの償いの死が、それが伴う結果という側面の下で言及されています。それは、ユダヤ人の神殿で夕方と朝に、そして朝から夕方まで、人々の罪のために捧げられる動物のいけにえと供物が**決定的に中止**されることです。イエス・キリストの死により、古い契約でイエスを象徴していた動物の象徴は時代遅れになりましたが、これはイエスの犠牲によってもたらされた本質的な変化です。イエスが息を引き取る瞬間に神が神殿のベールを引き裂いたことは、地上の宗教儀式的な決定的な停止を裏付けており、70年の神殿の破壊はこの裏付けを強化している。次に、彼の到来を預言する毎年恒例のユダヤ人の祭りは消滅しなければなりません。しかし、いかなる場合でも、毎週の安息日の習慣は、この死においてその真の意味を受け取る。それは、イエス・キリストがその勝利を通して、神と、ご自身の完全性を認められる真の選民のために獲得される、7千年紀の天の安息を預言するものである。

24節に引用されている永遠の正義。

週」の始まりは、26
年の秋、洗礼者ヨハネから洗礼を受けたイエスの洗礼によって始まります

27c- そして、*荒廢の忌まわしいものの翼*に[存在するだろう]

申し訳ありませんが、詩のこの部分は誤解されていたため、L.セゴン版ではうまく翻訳されていません。ヨハネの黙示録に与えられた啓示を考慮して、他の翻訳でも確認されているヘブライ語本文の私の翻訳を紹介します。天の性質と支配権の象徴である「*翼の上に*」というフレーズは、
ダニエル8:10-11

で「立ち上がる」教皇ローマと、終わりの日の宗教的同盟者を直接標的とする宗教的責任を示唆しています。*鷲の翼は皇帝の称号の至高の高貴を象徴しており、例えばネブカドネザル王に関する鷲の翼を持つライオンや、エジプトの隷属制から解放したヘブライ人を鷲の翼に乗せた神ご自身を象徴しています。* 1806 年に Apo.8:13 で確認されたナポレオン 1 世を含め、すべての帝国がこの鷲のシンボルを採用し、その後プロイセン皇帝とドイツ皇帝 最後独裁者 A. ヒトラーが採用されました。しかしそれ以来、米国は自国の通貨であるドルのドルにもこの帝国の鷲を刻むようになりました。

前の主題を離れ、スピリットはお気に入りの敵であるローマをターゲットに戻ります。イエス・キリストの地上での使命の後、地球の最終的な荒廢を引き起こす憎むべき行為の標的となったのは、まさにローマであり、その異教の帝国時代はちょうど70年に26節でエルサレムを滅ぼしたばかりです。そして「*荒廢の忌まわしい行為*」を犯す行為は、世界の終わりまで時間内に進み続けます。したがって、複数形の忌まわしい行為は、まず第一に、血に飢えたローマ国民を楽しませるために、華々しい「舞台」で信徒を死刑にすることによって選出された信者を迫害する帝国ローマに起因するものであり、それは313年に終わることになる。次に忌まわしい行為が行われ、それは 321 年 3 月 7 日の 7 日目の安息日の習慣を終わらせることで構成されます。この行動は依然としてローマ帝国とその帝国指導者コンスタンティヌス¹

世によるものです。彼のおかげでローマ帝国はビザンチン皇帝の支配下に入った。538年、皇帝ユスティニアヌス1世はローマ教皇の座にヴィギリウス1

世の教皇政権を樹立するという新たな忌まわしい行為^{を犯しました}。そして、この忌まわしい行為が世界の終わりまで延長されたのは、神が定めたこの段階の教皇法に起因すると考えられます。Dan.7以来非難されています。

「小さな角」という名前は、Dan.7 と Dan.8 のローマの 2 つの主要な段階を示していることを思い出します。神はこれら二つの連続する段階において、同じ忌まわしい業が継続していることだけを見ている

。

これまでの章を研究することで、この聖句が彼に課しているさまざまな種類の忌まわしい行為を特定することができました。

27d-

そして絶滅（または完全な破壊）まで、そしてそれは荒廃した[土地]で、布告されたものに従って**破壊される**でしょう。

「**彼女は壊れてしまうだろう**」

「定められたことに従って」とダニエル 7:9-10 とダニエル 8:25 で明らかにされています。彼の繁栄と策略の成功のせいで、彼は心の中に傲慢になり、多くのことを行うでしょう。平和に暮らしていた人々は滅び、彼は首長の中の首長に対して立ち上がるだろう。しかし、それは誰の手で努力しなくても壊れてしまいます。

ヘブライ語本文は、現在の翻訳とは異なるこの神聖な考えを提供しています。

このニュアンスは、人類の責任を人類が住む地球に負わせるという神の計画に基づいています。黙示録 20章が私たちに教えていること。偽りのキリスト教信仰は、キリストの栄光ある再臨の際に地上から人類を絶滅させるというこの神聖な計画を無視しているという事実に注目しましょう。彼らは黙示録 20章で与えられた啓示を無視して、地上にキリストの王国が設立されるのを無駄に待ちます。しかし、その表面の完全な破壊はこと Rev.20 で計画されています。勝利したキリストがその神性のすべてにおいて栄光のうちに地球に帰還すると、創世記 1章に記されている歴史の初めからの混沌とした姿が地球に戻ります。巨大な地震が地球を揺るがし、深淵という名の下に「形のない」混沌とした状態に戻ります。そして空の「」、 「tohu wa bohu」、イニシャル。彼女の上には生きている人間は一人も残らないが、彼女は死ぬ時まで千年間隔離された悪魔の牢獄となるだろう。

研究のこの段階では、まず最初に研究したばかりの「第70週」に関する追加情報を提供する必要があります。預言的な日、年におけるその成就是、文字通りの成就と結びついています。なぜなら、ユダヤ暦の証拠のおかげで、私たちは2019年30年の復活祭週の構成を知っているからです。その中心は、その年の木曜日に当たるユダヤ人の過越祭によって正当化される不定期の安息日の前水曜でした。こうして私たちは、イエスが死んだこの過越祭の流れを完全に再構築することができます。イエスは火曜日の夜に逮捕され、夜中に裁かれ、水曜日の朝9時に十字架につけられました。有効期限は午後3時です。午後6時前、アリマタヤのヨセフは自分の遺体を墓に置き、墓を閉じていた石を転がして取り除きました。木曜日の復活祭安息日が過ぎます。金曜日の朝、敬虔な女性たちがスパイスを購入し、イエスの遺体に防腐処理を施すためにその日のうちに準備します。金曜日の午後6時に毎週の安息日が始まり、ある夜、神によって聖別された安息の中で一

日が過ぎます。そして土曜日の午後6時に、世俗的な週の初日が始まります。夜が明け、夜明けとともに女性たちは石を転がしてくれる人を探して墓に行きます。彼らは石が転がされ、墓が開いているのを発見しました。マグダラのマリアとイエスの母マリアは墓に入ると、天使が座っているのを見て、イエスが復活したことを告げ、天使は行って兄弟たち、使徒たちに警告するように言いました。マグダラのマリアは庭に留まっていると、白い服を着た男を庭師だと思い、その会話の中でイエスだと認識します。そしてここで、非常に広まった信仰を破壊する非常に重要な詳細ですが、イエスはマリアにこう言います。「私はまだ父のもとに戻っていません」。十字架にかけられた強盗とイエスご自身は、十字架にかけられた同じ日に楽園、つまり神の国に入ることはありませんでした。それは、丸三日経ってもイエスがまだ天に戻っていないからです。ですから、主の御名において、主から何も言えない人々は黙っていてください、と言えるでしょうか。いつか嘲笑や恥辱に遭わなくて済むように。

2番目のことは、458年という日付を利用することです。これは、神がアイデンティティの2つの主要なしるし、すなわち安息日と肉の割礼をユダヤ人に与えたユダヤ人に定められた70週間の日年が最初に始まることを示します。

ローマ

11

章によれば、新しい契約を結んだ異教の改宗者は、ヘブライ語とユダヤ人の根と幹に接ぎ木されます。しかし、新しい同盟の拠点は純粋にユダヤ人であり、イエスはヨハネ

4:22

でこのことをわざわざ思い出させられました。救いはユダヤ人から来るので、私たちは自分の知っているものを崇拜します。今日、このメッセージは生きた関連性を帯びています。なぜなら、イエスがあらゆる時代の誤って改宗した異教徒たちにこのメッセージを語りかけられたからです。彼らをよりよく破滅させるために、悪魔は彼らにユダヤ人とその同盟を憎むように促しました。それは彼らを神の戒めとその聖なる安息日から遠ざけたのです。したがって、私たちはこの誤りを正し、ユダヤ人のアイデンティティを持った新しい契約を検討しなければなりません。使徒たちと新し

く改宗したユダヤ人の弟子たちは、ダニエル書

9:27

にあるように、イエスと堅固な同盟を結ぶ「多くの者たち」ですが、彼らの基盤は依然としてユダヤ人であり、「

70

週」の期間の始まりにも懸念を抱いています。イエス・キリストが自発的に流した人間の血に基づいた新しい契約の基準を受け入れるか拒否するかについて、神がユダヤ国民に与えたものです。これらの推論から演繹すると、日付 - 458 はダニエル 8:14 の「2300 夕方 - 朝」の始まりになります。

年というこの長い預言の期間の終わりに、3つのことが終わらなければなりませんでした。

- 1- 永遠の神権
- 2- 壊滅的な罪
- 3- 聖性と軍隊の迫害。

次の3つのことが特定されます。

- 1- 教皇の永続的な地上の司祭職
- 2- 初日の残りの日は「日曜日」に変更されました。
- 3- キリスト教の聖性と聖人、天の国の国民に対する迫害。

これらの変更は次のことを目的としています。

- 1- イエス・キリストに聖なる永遠の天の神権を回復してください。
- 2- ^{休み}を含む神の法全体を回復します。
- 3- キリスト教の神聖さと聖人に対する迫害に終止符を打ちましょう。

「2300 夕方から朝」の日付 - 458
 から始まる計算が提案されており、この期間の終わりは 1843
 年の春に終わります: $2300 - 458 = 1842 + 1$ 。この計算では、1842
 年の丸年があり、これに +1 を加えて、預言された「2300
 夕方から朝」が終わる 1843

年の初めの春を指定する必要があります。この日は、1260年間ローマ教皇のカトリックから受け継がれてきた宗教的嘘から真の聖徒たちを解放したいと願う神の介入の復活の始まりを記念するものである。このようにして、プロテスタントが避難所となっている米国で霊的目覚めを生み出すイニシアチブを取り、御霊はウィリアム・ミラーにダニエル書

8章14節の預言への関心を呼び起こし、2回連続で提案された日付は、イエス・キリストの再臨を発表する日としては初めてのことである。

1回目は1843年の春、2回目は1844年の秋でした。彼にとって聖域の浄化は、イエスが地球を浄化するために再臨されることを意味します。予定された日に二度失望した後、御霊は二つの信仰の試みに参加した最も忍耐強い者にしるしを与えます。

1844年10月23日の朝、野原を横切っていた聖人の一人が天の幻を受け取りました。天は、天の聖所で奉仕を務める大祭司としてのイエス・キリストを示す場面に開かれました。幻の中で彼は聖なる場所から最も聖なる場所へと移りました。このようにして、1260年間の暗闇の後、イエス・キリストは2つの連続する試練によって分類された忠実な人々と再びつながりました。

- 1- 永久の再開。したがって、神はこの幻を通して、1844年10月23日に永久の天の神権の制御を正式に取り戻したのです。
- 2- 安息日の帰還。同月、別の聖徒たちはレイチェル・オックス夫人の訪問を受けて、彼女の教会から発行されたパンフレット「七日目の

バプテスマ」を渡されたことを受けて、七日目の安息日を守り始めた。時間が経つにつれて、2つの試験によって選ばれた聖徒たちも7

日目の安息日を採用するようになりました。このようにして神は、異教のローマによって確立されたものの、教皇ローマによって「日曜日」という名前で合法化された壊滅的な罪に終止符を打たれました。

3- 迫害を止める。

3番目の主題は、聖性と1260年間迫害されてきたキリスト教徒に関するものでした。そして再び、1843年と1844年に、この預言に関係する西側世界のあらゆる場所で宗教的平和が君臨しました。革命フランスが宗教的虐待の責任者をギロチンで黙らせたからである。このようにして、アポ 2:22-23による宗教的姦淫者に対する最後の血なまぐさい刑罰の後、教皇政権の樹立による永久の廃止に関連する日付である538年に始まった1260年の終わりに、つまり、1798年には宗教的平和が君臨します。そして確立された良心の自由により、聖徒たちは自らの選択と神が増し加えられるという知識に応じて神に仕えることができるのです。1843年に、ダニエル 8:13-14の預言が告げているように、聖さと聖徒の軍隊、つまりイエス・キリストによって選ばれた天の国の国民は、もはや迫害されていません。

これらすべての経験は全能の神によって組織され、導かれました。全能の神は、神の選ばれし者が終わる世の終わりまで、神の計画、計画全体を達成できるように、まったく目に見えない形で人々の心を導いています。これらすべてのことから、人間は安息日とその光を尊重することを選択するのではなく、エゼが教えているように、人間の承認と人間に対する真の愛のしるしとして、人間に属するこれらのものを人間に与えるのは神であることがわかります。

20: わたしはまた、わたしと彼らの間のしるしとして、わたしの安息日を彼らに与えた。それは、わたしが彼らを聖化する主であることを彼らが知るためである。.....わたしの安息日を神聖なものにして、彼らがわたしとあなたとの間に一つのしるしを与えてくださるように。わたしがあなたの神、主であることは知られています。いなくなった羊を探しているのは彼なのですから、選挙で選ばれた役人が電話を逃さないようにしましょう。

ダン 8 節では、13 節の質問に対して 14 節で神が与えた独特の答えの中で、「聖さ」という言葉が完全に当てはまります。なぜなら、神聖さは一般的に神の所有物であり、特に神に影響を与えるすべてのものに関わるからです。これは、彼の永遠の天の祭司職、

アダムの創造の翌日の世界の基礎からの彼の神聖な安息日、そして彼の忠実な選ばれた聖徒たちの場合でした。

ダニエル 8 章 13-14 節で預言されている経験は、神の布告が発効した
1843 年から 1844

年の秋の間に成就しましたが、どちらもその日にイエス・キリストが再臨されるといふ期待に基づいており、イエス・キリストの出現とともに、この経験をした同時代人たちは、こうした期待に従う参加者たちに「アドベンチスト」という名前を与えました。これは、まさに「降臨」を意味するラテン語の「アドベントゥス」に由来します。この「アドベンチスト」の経験は、このダニエル書の第 12 章に記されており、そこで聖霊はこの最後の正式な「契約」の重要性を強調します。

である。しかし、ダニエル 12
章が呼び起こすものは、キリストの再臨までその使命が続く最後に選ばれた「アドベンチスト」を選びます。彼らの最後の者は、最後の**大災難を経験することになるでしょう**。その極端な形態は、力強く輝かしい救いと復讐の為にキリストの介入を必要とするでしょう。

ダニエルに告げられた最初の災いはダニエル 11:30
に記されています。それは古代のユダヤ人に関するものですが、別の同様の**災難がRev.1**

の類似の画像によって告知されるでしょう。これは、**男性の 3 分の 1**が殺される第三次世界大戦後に達成されるでしょう。そして、この矛盾は黙示録 9 章 13 節から 21 節では象徴によって示されていますが、このダニエル書では 11 章の終わりの 40 節から 45 節で平易な言葉で展開されています。11章ではユダヤ人の大災難、ダニエル12章1節ではキリスト教の選民とキリストに改宗する終末の忠実なユダヤ人を標的とする大災難が記されている。この災難はそこで「時代」という用語で言及されている。そして主な焦点は神に聖別された安息日の実践になります。

予測される災害の2つのビジョンの比較

- 1- 古い契約のダニエルの民の子供たちへ: ダニエル 10:5-6。
- 2- 新しい契約のダニエルの民の子供たちへ: 黙示録 1:13-14。

これら 2
つの災難に私たちが注がなければならない関心を十分に理解するには、これら 2

つの災難は時間的には互いに続いているものの、最初の災難は、最後の忠実な者であるイエス・キリストの再臨を標的とする、2

番目の災難を預言する類型であることを理解する必要があります。ダニエルとその三人の仲間に似た神の子たち。数十年にわたる平和と、それに続く恐ろしく破壊的な核戦争の後、ローマの日曜日の休息日は、災害の生存者によって組織された普遍政府によって課せられます。そして再び、ダニエル、ハナニアス、ミシャエル、アザリアの時代のように、忠実な選民の命を脅かすために死が訪れるでしょう。そして、ダニエル書のこの章で発表された**災いが標的とした、-**

168年の「マカビーズ」の時代のように。そして最終的に、最後のアドベンチストは2029年の7日目の安息日に忠実であり続けました。

しかし、この最後の試練の前に、1260年にわたる教皇の長い統治により、すでに多くの生き物が神の名の下に死んでいくことになるでしょう。

要約すると、ダニエルに与えられたこの幻が伝えるメッセージを理解することで、黙示録 1 章 13 節から 16 節でダニエルがヨハネに与えた幻の意味を理解できるようになります。

ダン

10:5 そこで私が目を上げて見ると、見よ、亜麻布を着て、腰にウパズ産の金の帯を締めた男がいた。

5a- 亜麻布を着た男がいた

リネンが象徴する正義の働きは、神によって人間を通して実行されます。描かれている画像では、神はエピファネスとして知られるギリシャの王アンティオコス 4 の姿をしています。彼は治世の175年から164年の間、ユダヤ人を迫害することになる。

5b- 腰にウファズの黄金の帯を巻いている

腎臓に配置されたベルトは、強制された真実を示しています。さらに、それが作られる金はウファズ産であり、エレ 10:9 では異教の偶像礼拝での使用が対象となっています。

ダニエル

10:6 彼の体は燭石のようで、顔は稲妻のように輝き、目は火の炎のようで、腕と足は磨かれた真鍮のようで、その声は群衆の騒ぎのようでした。

6a- 彼の体はクリソライトのようだった

神はビジョンの作者ですが、異教の神の到来を告げるので、この輝かしい超自然的な側面が生まれます。

6b- 彼の顔は稲妻のように輝いていました

この神のギリシャ人であることが確認されています。これは、ギリシャのアンティオコス王の神、ゼウスです。4. 稲妻は、オリュンポスの神ゼウスの象徴です。ギリシャ神話のオリュンポスの神々の中の神

6c- 彼の目は炎のようだった

彼は自分が見て認めないものを破壊します。ダニエル 11:30 によれば、彼の目はユダヤ人に向けられるでしょう。

...彼は聖なる契約を捨てた人々に目を向けるでしょう。災難は理由なしに起こるものではなく、背教は人々を汚します。

6d- 彼の腕と足は磨かれた真鍮のように見えました

神によって遣わされる死刑執行人も、犠牲者と同じように罪を犯します。真鍮の腕と足で象徴される彼の破壊的な行動は、Dan.2 の像におけるギリシャの罪の象徴です。

6番目 - 彼の声は群衆の騒音のようだった

ギリシャ王は単独で行動することはありません。彼の後ろにも前にも、自分と同じ異教徒の大勢の兵士がいて、彼の命令に従うことになるだろう。

この預言の発表のクライマックスとクライマックスは、ダンの成就の時に達します。彼らは聖域、要塞を冒瀆し、永遠の犠牲に終止符を打ち、破壊者という忌まわしいものを設置するだろう。聖書の正直さのために、ヘブライ語本文には書かれていない犠牲という言葉に取り消し線を引いたのですが、それは神が古い契約と新しい契約において「永遠の」二つの異なる連続する役割を備えておられたからです。古代では、夕方と朝に子羊を全焼のいけにえとして捧げることで構成されています。短編小説では、それはイエス・キリストの天のとりなしを指しており、選ばれた人々の祈りのためにとりなすための彼の犠牲を思い出させます。ダニエル 11:31 のこの文脈、つまり古い契約の文脈では、ギリシャ王はモーセの律法の永遠の捧げ物に終止符を打ちます。したがって、地上の祭司または天の大祭司であるイエス・キリストの永遠のとりなしの奉仕の解釈を決定するのは、それが呼び起こされた時代の文脈だけです。したがって、永遠のものは人間の奉仕に結びついており、あるいは二次的かつ決定的にはイエス・キリストの神聖な天の奉仕に結びついています。

ダニエル

10:7 わたし、ダニエルはひとりでその幻を見たが、わたしと一緒にいた人々はそれを見なかったが、非常に恐れて、逃げて身を隠した。

7-

この集団的な恐怖は、ビジョンの達成のかすかなイメージにすぎません。なぜなら、予言された大虐殺の日には、たとえそれが地の腹にいたとしても、義人は逃げて隠れるのが賢明だからである。

ダニエル

10:8 私は一人残され、この大きな幻を見ました。私の力は失われ、私の顔は変色し、腐敗し、すべての活力を失いました。

8a-

ダニエルは自分の感情を通して、これから起こる不幸の結果を預言し続けます。

ダニエル

10:9 わたしは彼の言葉の響きを聞いた。そして彼の言葉を聞いたとき、私は呆然として地面に突っ伏してしまいました。

9a-

不幸の日には、迫害する王の声が同じ恐ろしい影響を引き起こすでしょう。膝がぶつかり、足が曲がり、遺体を運ぶことができず、地面に落ちます。

Dan 10:10 すると、見よ、手が私に触れ、私の膝と手を震わせた。

10a-彼にとって幸運なことに、ダニエルはこの

大災害の到来を民に告げる責任のある預言者に過ぎず、彼自身は神の正当な怒りの標的にはされていません。

Dan

10:11それから彼は私に言った、「ダニエル、愛する人よ、私があなたに話す言葉に注意を払い、あなたのいるところに立ってください。」私は今あなたに遣わされたからです。彼が私にこう話したとき、私は震えながら立っていた。

11a-

ダニエル、愛する人よ、私があなたに話す言葉に注意を払い、あなたのいる場所に立ってください。

神に愛されている人は、神の天の介入を恐れる理由がありません。神の怒りは邪悪で残忍な攻撃的な反抗的な罪人に対して向けられます。ダニエルはこれらの人々とは正反対であり、最終的には選ばれた者に降りかかる運命の違いそのものを示すものであるため、彼は立ち続けなければなりません。たとえ地上の死の塵の中に横たわっていても、彼らは目覚めて立ち上がるでしょう。悪人は横たわり、悪人は目覚めて、最後の審判が永遠に滅ぼされるでしょう。天使は「あなたのいる場所」を指定します。で、彼はどこにいるの？自然の中で、フランス語でユーフラテス川「ヒデケル」川のほとりにあり、黙示録で新しい同盟のキリスト教ヨーロッパを指定します。最初の教訓は、人はどこにいても神に会い、そこで神から祝福を受けることができるということです。この教訓は、多くの人にとって神は教会、神聖な建物、寺院、祭壇でしか出会うことができないという偶像崇拝的な偏見を覆しますが、ここにはそのようなものはありません。イエスはその時代に、ヨハネ 4 章 21 節から 24 節でこの教訓を更新します。「女性よ、イエスは彼女に言った、私を信じなさい、あなたが父を崇拝するのはこの山でもエルサレムでもなくなる時が来ています。

」あなたは自分が知らないものを崇拝します。救いはユダヤ人から来るので、私たちは自分の知っているものを崇拝します。

しかし、真の崇拝者たちが霊と真理をもって御父を礼拝する時は来ていますし、すでに来ています。これらは父が求めておられる崇拝者たちだからです。

神は霊であり、神を崇拝する者は霊と真実において神を崇拝しなければなりません。

2番目の教訓はより微妙であり、それはヒデケル川に基づいています。なぜなら、聖霊は彼の最後の忠実な僕たちにのみ彼の本の理解を開くことを計画しているからです、彼らの経験と彼らの選択が実行されるテストは、次のイメージによって説明されています。フランス語でヒデケル川の危険な渡りを意味する虎は、この名前の動物と同じように、信仰を試され、人の魂を食べるものです。

11b-

私は今あなたのところに遣わされているからです。彼が私にこう話したとき、私は震えながら立っていた。

この出会いはもはや幻覚ではなく、対話、つまり、一方は天から来たもの、もう一方はまだ地から来た神の二匹の生き物の間の交流に変わりました。

ダニ

10:12

彼は私にこう言いました。「ダニエル、恐れることはない。なぜなら、あなたが心を理解して神の前にへりくだろうと決意した最初の日から、あなたの言葉は聞き入れられ、あなたの言葉のおかげで私は来たのです。」

この聖句全体を通して、私が言いたいことはただ一つ。もしあなたが記憶を失ったとしたら、少なくとも私たちの創造主である神を喜ばせる方法を教えているこの聖句を思い出してください。

この詩はその一例です。それぞれの原因が神に対して影響を与えるという事実に基づく論理的な順序です。つまり、真の謙虚さを伴う理解への渴望が聞き入れられ、満たされます。

ここから長い啓示が始まり、ダニエル書の終わり、つまり12章まで終わらないでしょう。

ダニエル

10:13 ペルシャ王国の君主は二十一日私に耐えてくれました。しかし見よ、主要指導者の一人であるミカエルが私を助けに来てくれたので、私はペルシャの王たちと一緒にそこに留まりました。

13a- そしてペルシャ王国の指導者は21日間私に抵抗しました

天使ガブリエルはペルシャ王キュロス

2

を支援しており、神に対する彼の使命は、とられた行動が彼の偉大な計画に反することのないように、彼の決定に影響を与えることで構成されています。この天使の失敗の例は、神の被造物が実際に自由で独立したままにされており、したがってすべての選択と働きに対して責任があることを証明しています。

13b- しかし見よ、指導者の一人であるマイケルが私を助けに来てくれた

明らかになった例は、本当に必要な場合には、「主要リーダーの一人であるマイケル」が介入して決定を強制できることも教えてくれます。ミカエルが「神のような者」という意味なので、この優れた助けは神の助けです。イエス・キリストとして受肉するために地上に来るのはその人です。天国では、天使たちにとって、彼は彼らと共にいる神の御霊の代表でした。この場合、「主要なリーダーの一人」という表現は当然のことながら私たちを驚かせる可能性があります。これは驚くべきことではありません。なぜなら、イエスが地上で示される謙虚さ、優しさ、分かち合い、そして愛は、忠実な天使たちとの天上での生活の中ですでに実践されていた

からです。天の法則は、神が地上での務めの間に実証したものです。地上では、彼は召使の召使いになりました。そして私たちは、彼が天国で自分を他の天使長たちと同等にしたことを学びます。

13c- そして私はペルシャの王たちと一緒にそこに残りました

したがってペルシャ王朝の支配はギリシャの支配までしばらく続くことになる。

ダニエル

10:14 私が今来たのは、あなたの民に将来何が起こるかを示すためです。なぜなら、ビジョンは依然として当時のものだからです。

14a-

世の終わりまで、ダニエルの民は古い契約でも新しい契約でも心配するでしょう。なぜなら彼の民は神が

エジプトの罪、イエス・キリストによるアダムの罪、そして罪から救ってくださったイスラエルだからです。イエスの血によって清められたキリスト教においてローマによって設立されました。

天使によってダニエルにもたらされた啓示の目的は、彼の民にこれから起こる悲劇について警告することです。ダニエルは、自分に啓示されたことがもはや自分個人に関係しないことをすでに理解していますが、これらの教えが将来、彼の民の僕たち、ひいては神が彼らに語りかけ、彼らに運命を定めているすべての人々にとって有益であることも確信しています。彼。

ダニエル

10:15 彼がこれらの言葉を私に話している間、私は地に目を向けて黙っていました。

15a-

ヨハネは、その災難の恐ろしいビジョンをまだ心に残していて、聞こえることを聞くことに集中しようとしていますが、もはや、話しかけてくる人を見ようとして顔を上げようとはしません。

Dan

10:16 すると、見よ、人の子らに似た者が私の唇に触れた。私は口を開いて話し、目の前に立っている彼に言いました。「主よ、その幻は私を恐怖で満たし、私はすべての力を失いました。」

1a- そして見よ、人の子のような姿をした人が私の唇に触れた

その恐ろしいビジョンはダニエルの心の中に作られた非現実的な架空のイメージでしたが、それとは反対に、天使は地上の人間と同じ人間の姿で現れます。第一に、彼も神の似姿に創造されましたが、地上の法則から自由な天体に創造されました。彼の天上の性質により、それぞれの次元で積極的な能力を持つことによって、両方の次元へのアクセスが可能になります。その感触を感じるダニエルの唇に触れる。

ダニエル

10:17 わたしの主の僕がどうして主と話せるのでしょうか。今では体力が衰えて、もう息がありません。

17a-

純粹に地上の人間にとって、状況は大きく異なります。地上の法律が課され、恐怖のために力と息を失います。

ダニエル

10:18 すると、人の姿をした方が、またわたしに触れ、わたしを強めてくださった。

18a-

天使は穏やかな主張でダニエルを落ち着かせることで、ダニエルに力を取り戻すことに成功しました。

Dan

10:19 すると彼は私に言った、「愛する人よ、恐れることはありません。あなたに平安がありますように。」 勇気勇気！そして彼が私に話しかけると、私は力を得て言いました、「主よ、あなたが私を力づけてくださったので、語らせてください。」

19a-

平和のメッセージ!イエスが弟子たちに語る言葉と同じです！怯えている心を安心させること以上に素晴らしいことはありません。勇気、勇気という言葉は、彼が息を整えて力を取り戻すのに役立ちます。

Dan

10:20 彼は私に言った、「私がなぜあなたのところに来たのか知っていますか？」 今、私はペルシャの支配者と戦うために戻ります。そして私が出発すると、見よ、ジャワの支配者が来るでしょう。

20a- 今、私はペルシャの指導者と戦うために戻ります

このペルシャの指導者はキュロス2世であり、神は彼を油そそがれたとみなしている。だからといって、自分の決定を自分の方向に導くために彼と戦わなくてはいけないわけではありません。

20b- そして私が行くとき、見よ、ジャワの支配者が来るでしょう

天使がキュロス2を離れると、当時のギリシャの指導者からの攻撃により、ペルシアとギリシャの2つの支配の間の敵意が増大することになります。

ダニエル

10:21 しかし、真理の書に書かれていることを、わたしはあなたがたに知らせます。あなたのリーダーであるマイケルを除いて、誰も私をこれらに對して助けてくれません。

21a- ダニエルが受け取るこの啓示は、真理の書と呼ばれます。

2021年の今日、私はそこに明らかにされたすべての成就を確認することができます。なぜなら、その理解は、古い契約ではダニエルに、そしてイエス・キリスト以来、新しい契約では私のために、私たちの指導者ミカエル

の不滅の御霊によって完全に与えられたからです。彼の栄光の帰還までまだ活動している悪魔を裁くためにこの名前を主張します。

ダニエル11

注意 ！章が変わっても、天使とダニエルの会話は 10
章の最後の節から継続して行われます。

ダニエル

11:1 わたしは、メディア人ダリヨスの最初の年に、彼とともにいて彼を助け、支えました。

1a-

永遠に生きるように神によって創造されたダニエルに話しかける天使は、62歳でバビロンを占領し、ダン6でまだ統治していたメディアの王ダリウスを助け、支援したと告げます。この王はダニエルとその神を愛していましたが、畏にはまり、ライオンに引き渡して命を危険にさらしました。そこで、ライオンの口を塞いで彼の命を救うために介入したのは彼でした。したがって、ダニエルの神が唯一の真の神であり、生きているすべてのものの創造者であり、彼のような神は他にいないことをこのダリウス王に理解させるのを助けたのも彼でした。

ダニエル

11:2 さて、わたしはあなたがたに真実を知らせます。見よ、ペルシャにはまだ三人の王がいるだろう。

4人目は他の人よりも多くの富を蓄積するでしょう。そして、彼がその富で強力になると、彼はすべての人をジャワの王国に対して反乱させるでしょう。

2a- さあ、真実を知らせます

真理は真の神だけが知っており、黙示録 3:14

によれば、それは神がキリストにおける最後に選ばれた者たちとの関係においてご自身に与えられる名前です。真理は神の律法、その儀式、戒めだけではありません。また、神が周到に計画し、神の時に達成させようとするすべての事柄も含まれます。私たちは、人生の毎日が、人生の終わりまで、そして選ばれた人々が永遠にアクセスできるようになる最後の貯蓄プロジェクトの終わりまで、集合的に前進するこの偉大なプログラムの一部であることを発見しているだけなのです。

2b- 見よ、ペルシャにはまだ三人の王がいるだろう

最初の王: カンビュセス2世 (— 528 —
521)は、ギリシャ人によってスメルディスと呼ばれていた息子バルディヤを殺害した。

第 2代王:
偽スメルディス、スメルディスの名前を篡奪した魔術師ガウマタが統治する
のは短期間だけです。

3代王: ペルシア人ダレイオス1世(-521-486) ヒスタペの息子
2c- 4番目は他の人よりも多くの富を蓄積するでしょう
4代王: クセルクセス1世 (-486-465)

)。彼の直後にアルタクセルクセス1世が統治し、治世 7
年目の春にすべてのユダヤ人の捕虜を解放します- 伝道記 7:7-9 によると
458。

2d-
そして彼が富によって権力を握るとき、彼はジャワ王国に対してあ
らゆるものを起こすでしょう

クセルクセス1世は反乱を起こしたエジプトを弾圧して平定し、その
後ギリシャに対して戦争を仕掛け、アッティカに侵攻してアテネを滅ぼし
た。しかし、彼は 480
年にサラミスで敗北しました。ギリシャはその領土に対する支配を維持し
ます。そしてペルシア王はアジアに留まりながらも攻撃を開始し、ギリシ
ャ征服への願望を証明した。

ダン 11:3
しかし、強力な王が現れ、大いなる力で統治し、自分の好きなことを何で
も行うであろう。

3a-
領土で敗北し、追われたペルシア王クセルクセス1世は、彼の2人の
偉人によって暗殺され、最終的に死ぬことになる。彼は欺瞞的に嘲笑してい
た若者に敗北した。ギリシャは、20歳の若いマケドニア人アレクサンダー
大王 (356年生まれ、336年統治、323年没) を王に選びました。予言には
、彼がダン.2の彫像、ダン.7の三番目の動物、ダン.8の二番目の動物の第3
帝国の創設者として言及されています。

ダン
11:4そして、彼が高められるとき、彼の王国は粉々に砕かれ、天の四つの
風に向かって裂かれるであろう。それは彼の子孫のものではなく、以前は
ど強力なものではありません。それは引き裂かれ、彼ら以外の他の人の手
に渡るからです。

4a- そこには、ダン 8:8
のギリシアヤギの折れた大きな角に与えられた正確な定義と、22
節の説明が記されています。この折れた角に代わって生じた 4
本の角、これらはこれから生じる 4
つの王国です。この国から来たが、誰がこれほどの力を持たないだろう。
「四大角」が何を表しているのかを思い出します。

第

1^{ホルン:}

セレウコス

1^{世ニカトル}によってシリアに設立されたギリシャのセレウコス朝。

2番目のホルン:

プトレマイオス^{1世ラゴス}によってエジプトに設立されたギリシャのラギド王朝。

3番目のホルン:

リュシマコスによってトレースに設立されたギリシャ王朝

第4^{ホルン}: カサンドラによってマケドニアに設立されたギリシャ王朝

ダニエル

11:5 南の王は強くなる。しかし、彼の指導者の一人は彼よりも強く、支配するでしょう。彼の支配力は強力なものとなるだろう。

5a- 南の王は強くなる

プトレマイオス 1 世 ソテル ラゴス - 383 -285
エジプトの王、または「南の王」。

5b-

しかし、彼の指導者の一人は彼よりも強く、支配するでしょう。彼の支配力は強力なものとなるだろう。

セレウコス 初代ニカトル -312-281
シリアの王、または「北の王」。

ダニエル

11:6 数年後、彼らは同盟を結び、南の王の娘が調和を回復するために北の王のところに来るでしょう。しかし、彼女は腕の力を保てず、彼も彼女の腕も抵抗しません。彼女は連れて来てくれた人たち、父親、そして当時彼女を支えてくれた人たちとともに救出されるだろう。

6a-この預言は、

「南の王」プトレマイオス2世フィラデルフィスに対して最初の「シリア戦争」(-274-271)を開始した2番目の「北の王」であるアンティオコス1世⁽⁻²⁸¹⁻²⁶¹⁾の治世をスキップしています。 (-282-286)。

その後、エジプト人の新しい「北の王」アンティオコス 2 テオス (-261 - 246) に対抗する第二次「シリア戦争」(-260 - 253) が起こります。

6b-

数年後、彼らは同盟を結び、南の王の娘が北の王のもとにやって来て調和を取り戻すでしょう。

卑劣な行為が始まります。ベレニケと結婚するために、アンティオコス 2 世はラオディケという正妻と離婚します。父親は娘に付き添って義理の息子の家に滞在する。

6c-

しかし、彼女は腕の力を保てず、彼も彼女の腕も抵抗しません。彼

女は連れて来てくれた人たち、父親、そして当時彼女を支えてくれた人たちとともに救出されるだろう。

しかし、彼の死の直前に、アンティオコス 2 世はベレニスを廃嫡しました。ラオデキアは復讐し、父親と幼い娘（腕＝子供）とともに殺される。注: 黙示録 3:16 で、イエスは象徴的にラオデキアという名前のアドベンチスト派の正式な妻と離婚しようとしています。アンティオコス 2 世は自分自身を「テオス」つまり神と呼んでいるので、なおさらです。イギリスでは、ヘンリー8世のほうがかまくやって、ローマの宗教的権威から離れて離婚し、英国国教会を設立し、7人の妻を次々と死なせました。そして第三次「シリア戦争」(-246-241)が起こります。

ダニエル

11:7彼の根からの芽が彼の代わりに生じます。彼は軍隊に来て、北の王の要塞に入り、自分の好きなようにそれらを処分し、自分自身を強力にするでしょう。

7a- 根からの芽がその場所から立ち上がる
プトレマイオス3世 エバーゲテス -246-222 ベレニケの弟。

7b- 彼は軍隊に来て、北の王の要塞に入るだろう
セレウコス2 カリニコス -246-226

7c- 彼はそれを自分の好きなように処分し、自分自身を強力にするでしょう

支配は南の王に属します。このエジプトの支配は、セレウコス朝のギリシャ人とは異なり、ユダヤ人にとって有利です。私たちは、対立する二人の支配者の間にはイスラエルの領土があり、交戦する二つの陣営が攻撃または撤退の際にそこを通過しなければならぬことを直ちに理解しなければなりません。

ダニエル

11:8彼は、彼らの神々や、その溶けた像や、彼らの高価な銀や金の品物さえも奪い取って、エジプトに持ち込むでしょう。それから彼は数年間北の王から離れることとなります。

8a- 表彰として、エジプト人は彼の名前、プトレマイオス 3 世に「エヴェルゲテス」または恩人という名前を追加します。

Dan 11:9そして彼は南の王の王国に敵対し、自分の土地に帰るであろう。

9a-セレウコス2世の対応は、アンティオコス3とプトレマイオス4フィロパトルとの間で争われた第 4 次「シリア戦争」(-219-217)が始まるまで失敗しました。

ダニエル

11:10彼の息子たちは出て行って、大勢の軍隊を集めるだろう。そのうちの1つが前に出て、激流のように広がり、溢れて戻ってきます。そして彼らは南の王の要塞まで敵対行為を推し進めるだろう。

10a- アンティオコス 3 メガ (-223 -187) 対 プトレマイオス 4
フィロパトル (-222-205)。追加されたニックネームは、怠惰な人々の嘲笑の状態を明らかにしています。なぜなら、フィロペーターはギリシャ語で父親の愛を意味するからです。プトレマイオスが殺した父親...またしてもセレウコス朝の攻撃は失敗した。支配力は醜い陣営に残るだろう。

ダニエル

11:11 南の王は怒って、出て行って北の王を攻撃するでしょう。彼は大群衆を集め、北の王の軍隊は彼の手に渡されるであろう。

11a-

このセレウコス朝の圧倒的な敗北は、エジプト人をよく扱ってくれるのでエジプト人を好むユダヤ人にとっては良いことです。

ダン

11:12 この群衆は誇りとなり、王の心は高揚するであろう。彼は何千もの人々を倒すでしょうが、勝利することはありません。

12a- **第 5 回「シリア戦争」 (-202-200)**で状況は変わり、アンティオコス 3 とプトレマイオス 5 世のエピファネス (-205 -181) が争うこととなります。

ダニエル

11:13 北の王が再び来て、最初の王よりも多くの群衆を集めるからである。しばらく後、数年後、彼は大軍と莫大な富を率いて出発するでしょう。

13a-

ユダヤ人にとって残念なことに、セレウコス朝ギリシャ人はエジプトを攻撃するために自分たちの領土に戻りました。

ダニエル

11:14 その時、多くの人が南の王に対して蜂起し、民の中の暴徒たちが幻を実現しようとして反乱を起こし、彼らは倒れるでしょう。

14a- エジプト南部の新しい王プトレマイオス 5 世エピファネス -
またはイラストリアス (-205-181) 5
歳は、敵対者の支援を受けたアンティオコス 3
の攻撃により困難に陥ります。しかしユダヤ人はセレウコス朝と戦ってエジプト王を支持します。彼らです、
シリアのセレウコス朝ギリシャ人を打ち負かして殺害しただけでなく、生涯の不倶戴天の敵となったのです。

この節で明らかにされたユダヤ人の反乱は、ユダヤ人がエジプト陣営を好むことによって正当化されます。したがって、彼らは状況の支配を取り戻したセレウコス陣営に対して敵対的です。しかし、神はご自分の民にエジプト人との同盟を警告しなかったのでしょうか？イザヤ書 36:6 によれば、「エジプトよ、それに寄りかかる者の手を突き刺す葦です。」見よ、あなたはそれをエジプトに置き、手に突き刺さり突き刺すこの折れた葦を支えとしたのです。これはエジプトの王ファラオです。彼を信頼す

るすべての人に。」この警告はユダヤ人によって無視されているようで、神との関係は最悪の状態にあります。罰が近づいて襲いかかります。アンティオコス3は彼らに敵意の代償を払わせませす。

注意してください：このユダヤ人の反乱は、ユダヤ人に対するシリア人の憎しみを準備し構築するという意味で、「ビジョンを達成する」ことを目的としています。このようにして、ダニエル 10:1 で告げられている**大いなる災い**が彼らを襲うでしょう。

Dan

11:15 北の王が出てきて、段丘を築き、堅固な都市を占領するであろう。南部の軍隊と王のエリートたちは抵抗しないでしょう、彼らには抵抗する力がありません。

15a-

支配は永続的に立場を変え、セレウコス朝の陣営にあります。彼の目の前では、エジプト王はまだ5歳です。

ダニエル

11:16 彼に逆らう者は、自分の望むことを何でも行い、誰も彼に逆らうことはありません。彼はこの最も美しい国に立ち寄り、手に入るものはすべて根絶するだろう。

16a- アンティオコス

3

世は依然としてエジプトを征服できず、征服への渴望が彼をイライラさせ、ユダヤ人が彼の苦痛となっています。彼は、ダニエル書 8:9にあるように「最も美しい土地」という表現で言及されている殉教したユダヤ国民に対して、怒りの余剰を空にしました。

ダニ

11:17 彼は王国の全軍を率いてやって来て、南の王と和平を結ぶことを提案するだろう。彼は破滅をもたらすつもりで、自分の娘を妻に与えるだろう。しかし、これは起こらず、成功もしないでしょう。

17a- 戦争が成功しなかったため、アンティオコス

3

はラギッド陣営との同盟の道を試みます。この戦略の変更には理由があります。ローマがエジプトの保護者になったのです。そこで彼は、プトレマイオス5世との結婚に娘の名前の最初のクレオパトラを与えることで意見の相違を解決しようとしてしました。結婚は行われますが、夫婦はセレウコス朝の陣営からの独立を維持したいと考えています。アンティオコス3世のエジプト占領計画はまたしても失敗した。

ダニエル

11:18 彼は島々に狙いを定め、その多くを占領するであろう。しかし指導者は、自分が引きつけようとした非難に終止符を打ち、それが自分に降りかかるようにするだろう。

18a-

彼はアジアの土地を征服しますが、その途中でローマ軍を発見することになります。ローマ軍はここではダニエル 9:26

で「指導者」という用語で示されています。なぜなら、ローマは依然として共和制であり、元老院議員と国民、平民の権力を代表する特使の指揮の下、軍隊を精力的に鎮定作戦に派遣しているからである。帝国主義への移行はこの種の軍事組織を変えるものではない。この指導者はアフリカ人として知られるルキウス・スキピオと呼ばれ、アンティオコス王は危険を冒して彼と対決したが、189年のマグネシアの戦いで敗北し、戦争賠償としてローマに1万5千タラントもの巨額の借金を支払うことになった。さらに、彼の末の息子である将来のアンティオコス

4
世エピファネスは、ダニエル 10:1 で預言されている「災い」を 31
節で実現するユダヤ人迫害者であり、ローマ人に人質に取られています。

ダニエル

11:19 それから彼は自分の国の要塞に行きます。そして彼はつまずいて倒れ、もう見つからないでしょう。

19a- 征服の夢は王の死とともに終わり、長男セレウコス 4 世 (-187-175) が後継者となった。

ダニエル

11:20 だれでも、自分に代わって、王国の最も美しい場所に徴税人を連れてくるでしょう。しかし、それは数日のうちに、怒りや戦争によってではなく、打ち砕かれます。

20a-

ローマ人に対する借金を返済するために、王は神殿の宝物を強奪するために大臣ヘリオドロスをエルサレムに送りますが、神殿で恐ろしい幻覚を見たために、彼はこの恐ろしい計画を断念します。この執行者はヘリオドロスであり、エルサレムへの任務を課したセレウコス4世を暗殺することになります。その意図は行動する価値があり、神は彼に、怒りでも戦争でもない、殺害された指導者の死によって、聖なる神殿を冒涇した代償を払わせた。

アンティオコス 4:大災厄の幻に描かれた男

ダニエル

11:21 軽蔑された者は、王の威厳を身に着けずに、その地位に就くでしょう。彼は平和の真っ只中に現れ、陰謀によって王国を占領するでしょう。

21a- これはアンティオコス、アンティオコス 3
の末息子です。ローマ人の捕虜および人質として、彼の性格に生じた影響を想像することができます。王となった彼は、命がけで復讐を果たした。さらに、彼がローマ人と滞在したことにより、彼らとある程度の理解が得られました。彼のシリア王位への到着は陰謀に基づいており、年上の別の息子ディメトリオスが彼より優先されたからである。デメトリオスがローマ人の敵であるマケドニア王ペルセウスと協定を結んだのを見て、ペルセウスは彼らの友人であるアンティオコスを支持し、王位に就かせた。

ダン

11:22そして、激流のように押し寄せる軍隊は、契約の君としてさえ、彼の前に打ち負かされ、滅ぼされるであろう。

22a- 激流のように広がった軍隊は彼の前に沈み、破壊されるでしょう

第6次「シリア戦争」(-170-168¹)で敵対行為が再開される。

今度はローマ人がアンティオコス4世に、エジプトの醜い陣営に対する父親の戦争を再開させた。彼女は罪の象徴にこれほど値することはありませんでした。ギリシャ語では、この文脈ではそれが当てはまります。むしろ、神が当時そうされたように、事実を判断してください。ラギッド陣営ではプトレマイオス6世が妹のクレオパトラ2世と近親相姦で結婚している。フィスコンとして知られる弟のプトレマイオス8世も彼らと関係がある。そうすれば、なぜ神がアンティオコスに彼らの軍隊を粉砕させたのかが理解できます。

22b- *同盟のリーダーでもある。*

セレウコス朝の協力者であるメネラウスは、正統な大祭司オニアスの地位を切望し、アンドロニカスに暗殺させてその地位に就く。ここはやはり神のイスラエルなのでしょうか？このドラマでは、神はローマが何世紀にもわたって実行するであろう行動を思い出し始めます。実際、メネラウスがオニアスを殺してメシアに取って代わったように、帝国ローマはメシアを殺し、教皇ローマはメシアの永久司祭職を切望して奪うだろう。

Dan

11:23そして、彼と結ばれた後、彼は欺きを使うでしょう。彼は出発し、少ない人数で優位に立つだろう。

23a-

アンティオコスはあらゆる者と同盟を結び、自分の利益になれば同盟を破る用意がある。この人物だけでも、フランスとヨーロッパの王の歴史を表しています。同盟が結ばれ、同盟が破られ、短期間の平和の中に血なまぐさい戦争が散在しました。

しかし、この聖句はまた、二重読みで、聖人たちを120年間迫害する教皇政権の略図を与え続けています。なぜなら、ギリシャの王と教皇は非常によく似ており、どちらも欺瞞と策略があるからです。

ダニエル

11:24彼はその州の最も肥沃な場所に平和のうちに入るであろう。彼は自分の父親や父親の父親がしなかったことをするだろう。彼は戦利品、戦利品、富を分配するだろう。彼は要塞に対するプロジェクトを結成し、これを一定期間続けるでしょう。

24a-

ローマ人に負っている莫大な借金を支払わなければなりません。この目的のために、アンティオコス 4世は自分の属州に課税し、したがって彼が支配するユダヤ人にも課税しました。彼は自分が蒔いていないところを奪い、彼の支配下に置かれた奴隷

化された人々から富を剥奪します。彼は、ひっかけや詐欺師によってエジプトを征服するという目標を放棄しませんでした。そして、兵士たちに感謝され、彼らの支援を得るために、彼は戦利品を軍隊に分け与え、ギリシャの神々を惜しみなく称えます。その主なものは、ギリシャ神話の神々の中の神、オリンピアのゼウスです。

二重に読むと、ローマ教皇政権も同じように行動するでしょう。彼は本質的に弱いので、王国とその軍隊に認められ、支援されるように、王国の偉人たちを誘惑し、富ませなければなりません。

ダニエル

11:25 彼は大軍の先頭に立って、その力と熱意を南の王に対して行使するであろう。そして南の王は多数の非常に強力な軍隊と戦争をするでしょう。しかし、彼は抵抗しません。なぜなら、彼に対して邪悪な計画が計画されるからです。

25a- 170 年、アンティオコス 4
はペルシウムを強奪し、首都アレクサンドリアを除くエジプト全土を占領します。

ダニエル

11:26 彼の食卓から食べる者は彼を滅ぼすでしょう。彼の軍隊は激流のように広がり、死者が大量に倒れるだろう。

26a- プトレマイオス 6 世は叔父のアンティオコス 4
世と交渉する。彼はセレウコス朝の陣営に加わる。しかし、エジプト人に不承認となり、アレクサンドリアで弟のプトレマイオス8世が後継者となったが、そのため食卓から食べ物を食べた家族に裏切られた。戦争は続き、大量の死者が出る。

ダン

11:27 両王は心の中で悪を求め、同じ食卓で偽りのことを言うであろう。しかし、定められた時まで終わりは来ないので、これは成功しません。

27a- アンティオコス 4
の陰謀は再び失敗します。彼と合流した甥のプトレマイオス6世との関係は欺瞞に基づいている。

27b-

しかし、終わりは定められた時にしか来ないので、これは成功しません。

この聖句はどのような目的について語っているのでしょうか？実際、それはいくつかの結末を示唆しており、まず第一に、アンティオコス 3 とエジプトの甥と姪の間の戦争の終結です。この終わりは近づいています。他の結末は、ダニエル 12:6 と 7 にある 1260 年間の教皇統治の期間と、その文脈を準備する第三次世界大戦の終結が見られる現在の章の 40 節の終わりの時期に関係します。最後の大きな世界的災難。

これから発見して実証するように、40節で引用されている「終わりの時」と直接のつながりはありません。この章の構造は、一見すると巧妙に欺瞞的です。

ダニエル

11:28 彼は莫大な富を携えて国に帰ります。彼は心の中で神聖同盟に敵対し、それに反対して行動し、その後祖国に戻るだろう。

28a- 彼は莫大な富を持って祖国に戻るだろう

エジプト人から奪った富の責任を負ったアンティオコス 4世は、征服したエジプトの半分を統治する王に据えたプトレマイオス 6世を残してアンティオキアに戻ります。しかし、この半分の勝利は不満を持つ王を苛立たせます。

28b-

王が遭遇した迷惑な行為により、ユダヤ人は王の怒りの標的となった。また、彼らの家を訪問することで、この怒りの一部を彼らにぶつけますが、彼はなだめられません。

ダニエル

11:29 定めの際に、彼は再び南に向かって行くであろう。しかし、今回は最後では、これまでのように物事は起こらないでしょう。

29a- 私たちは大災害の年に入ります。

年、アンティオコスは甥たちが再び彼に対して和解したことを知り、プトレマイオス6世は弟のプトレマイオス8世と和平を結んだ。征服されたエジプトの土地はエジプト陣営に戻った。そこで彼はあらゆる抵抗を打ち破る決意を固め、甥たちに対する遠征に再び出発するのだが……。

ダン

11:30 チッティムの船が彼に向かって来る。落胆して彼は引き返すだろう。そして、聖なる同盟に対して激怒した彼は、無活動のままではいられません。彼が戻ってきたとき、彼は聖なる契約を放棄した人々に目を向けるでしょう。

30a- チッティムの船が彼に向かって前進する

したがって、スピリットは現在のキプロス島を拠点とするローマ艦隊を指定します。そこから彼らは地中海の人々とアジアの沿岸の人々を支配します。父親の死後、アンティオコス3世はローマの拒否権に直面します。彼は激怒するであろう屈辱に苦しんでいます。ローマ特使ポピリウス・ラエナスは足元の地面に円を描き、ローマと戦うか従うかを決心しない限りそこから離れないよう指示した。元人質だったアンティオコスは父親から与えられた教訓を学び、完全にローマの保護領下に置かれたエジプト征服を放棄しなければならない。この爆発的な怒りの状況の中で、彼はユダヤ人たちが死んだと信じて喜び、祝っていることを知りました。彼らは、彼がまだ生きているということを、大変な思いで知ることになるでしょう。

ダニエル

11:31 彼の命令に従って軍隊が来る。彼らは聖域、要塞を冒瀆し、永遠の犠牲に終止符を打ち、荒廃者（あるいは破壊者）という忌まわしいものを設置するだろう。

31a- この聖句は、1 Macc. 1:43-44-45 の外典に関連する事実を裏付けています。その後、アンティオコス王は全王国に宛てて、すべての人が一つの民となり、各自が独自の法律を放棄するようにとの手紙を書きました。すべての国々はアンティオコス王のこの命令に同意し、イスラエルの多くの人々がこの束縛に同意し、偶像に犠牲を捧げ、安息日を破った（汚した）。この記述の中に、ダニエルとその三人の仲間がバビロンで経験した試練が記されています。そして神は、マカベ書第一章で、キリストにあって生きていた私たちが、イエス・キリストの栄光の再臨の直前に直面しなければならない最後の大きな災いは何であるかを説明しておられます。私たちの時代とマカベアのユダヤ人の時代の間に、別の大災害により、イエス・キリストの聖徒たちは120年間死亡しました。

31b-彼らは聖域、要塞を冒瀆し、
永遠の犠牲に終止符を打ち、荒廃者（または破壊者）の忌まわしいものを設置するでしょう。

これらの行動は、ユダヤ人およびローマの歴史家ヨセフスによって記録されたこの歴史的証言で確認されます。このことの重要性はそれを正当化するものであるため、第三次世界大戦の生存者によって形成された普遍的体制によって宣言された終わりの日の日曜法と詳細が同一であることがわかるこの証言を見てみましょう。

以下は 1 Macc.1:41 ~ 64 の初期バージョンです。

1Ma 1:41そこで王は、帝国内のすべての者が一つの民となるよう命じた。

1Ma

1:42皆はその習慣を捨てなければならなかった。すべての異教徒は王の命令に従った

1Ma

1:43また、イスラエルでも多くの人々が彼の崇拜を歓迎し、偶像に犠牲をささげ、安息日を汚しました。

1Ma

1:44王はエルサレムとユダの町々に使者を送って命令を伝えた。これからは外国の習慣に従う必要があったからである。

1Ma

1:45神殿の燔祭、いけにえ、注ぎのいけにえを中止しなさい。安息日と祭りは冒瀆されるべきであった、

1マ1:46聖所と聖なるすべてのものを汚し、

1マ
 1:47祭壇、礼拝所、神殿を偶像のために建て、豚や汚れた動物を屠殺しました。

1Ma 1:48
 彼らは、自分たちの息子たちに割礼を受けさせずに残しておき、その結果、あらゆる種類の汚れと冒瀆によって自らを卑しめなければならなかった。

1Ma
 1:49一言で言えば、私たちは律法を忘れ、その遵守事項をすべて無視することになりました。

1Ma 1:50王の命令に従わなかった者は死刑に処せられる。

1Ma 1:51
 王の手紙はこのようにして王国中に送られた。彼は全民の上に監督を任命し、ユダのすべての都市に犠牲を捧げるよう命じました。

1Ma
 1:52民の中には律法を捨てた者も多く従った。彼らはこの地で悪を行い、

1マ 1:53 イスラエルに避難を強いる。

1Ma 1:54
 145年、キスルの月の15日、王は燔祭の祭壇に荒廢の憎むべきものを設置し、ユダの近隣の都市にも祭壇を築いた。

1Ma 1:55 彼らは家の戸口や広場で香を焚き、

1Ma 1:56 律法の書は発見されると、引き裂かれて火の中に投げ込まれ、

1Ma
 1:57 また、もし契約の書が誰かの中から見つかった場合、あるいは神の律法に従った者があれば、王の命令に従ってその人を死刑にするであらう。

1Ma 1:58
 彼らは毎月、各都市で違反行為をして捕らえられたイスラエル人を罰し、

1マ 1:59 また、毎月 25
 日には、燔祭の祭壇の代わりに主祭壇にいけにえがささげられた。

1Ma 1:60
 この律法に従って、彼らは子供に割礼を受けた女たちを死刑にした。

1マ 1:61
 赤ん坊を首にぶら下げたまま。彼らの親族や割礼を行った人たちも処刑されました。

1マ 1:62
 こうしたすべてにもかかわらず、イスラエルの多くの人は忠実であり、汚れた食べ物を食べない勇気を持っていました。

1Ma

1:63 彼らは、聖約に反する食べ物で身を汚すくらいなら死んだ方がましで、実際に死刑に処せられました。

1Ma 1:64 それはイスラエルにとって大きな試練でした。

永遠のとりなしの捧げ物の停止を確認する45節から47節と、聖所の冒瀆を証言する54節に注目してみましょう。

王は全焼のいけにえの祭壇の上に荒廢の忌まわしいものを設置しました

。これらの悪の根源は、このイスラエルの背教です： 1マ 1:11
その時、イスラエルで誤った方向に導かれた世代の人々が現れ、多くの人々を彼らの後ろに連れて行きました。「私たちの周りの国々と同盟を結びましょう。なぜなら、私たちが彼らから離れて以来、多くの不幸が起こったからです」と彼らは言いました。私たちに。」不幸はすでに彼らの神への不忠実の結果でしたが、反抗的な態度によってさらに不幸を自分たちにもたらすことになりました。

、Dan.2の像のブロンズに遍在する罪の象徴を正当化しました。

Dan.7の斑点のあるヒョウ。そしてDan.8の臭いヤギ。ただし、まだ注意が必要な点が 1 つあります。 168 年にアンティオコス 4 世によってエルサレムに派遣された懲罰任務の責任者はアポロニウスと呼ばれ、フランス語で「破壊者」を意味するこのギリシャ語の名前は、アポ 9:11

で破壊的な使用を非難するために聖霊によって選ばれるでしょう。偽りの末日プロテスタントキリスト教による聖書の改ざん。あるいは、究極の大きな最後の災いを組織する者たちだ。アポロニウスは22,000人の兵士を率いてエルサレムに来て、安息日、壮絶な民衆蜂起の最中にユダヤ人の観客全員を虐殺した。彼らはこの不敬な利益で安息日を汚したので、神は彼らを殺させました。そして、この血なまぐさい事実の裏でユダヤ人のギリシャ化が命じられているため、彼の怒りは収まらない。王の代表であるアテナイのゲロンテスは、エルサレムでもサマリアと同様に礼拝と道德のギリシャ化を全国民に課しました。その後、エルサレムの神殿はオリュポスのゼウスに、ゲリジム山の神殿はもてなしのゼウスに捧げられました。こうして私たちは、神がご自身の神殿、エルサレム、そして国全体からの保護を撤回されるのを見ます。聖都は非道な行為に満ちており、そのどれもが前回よりもさらに忌まわしいものとなっている。しかし、適用されたのは神のご意志のみであり、バビロンへの追放に代表される警告後の道德的および宗教的弛緩は非常に大きかった。

ダニエル

11:32 彼はお世辞で契約を裏切る者たちを欺くでしょう。しかし、自分たちの神を知っている人々は断固として行動し、

32a- 彼はお世辞で同盟の裏切り者を誘惑するだろう

この明確化は、神罰が当然で正当なものであったことを裏付けています。聖なる場所では、冒涇が常態化していました。

32b- しかし、自分たちの神を知る民は、毅然として行動するだろう。

この悲劇において、誠実で価値のある信者たちはその忠実さによって自らを際立たせ、創造主である神とその聖法への敬意を放棄するのではなく、殉教者として死ぬことを選びました。

もう一度読むと、実際の1090日のこの血なまぐさい経験は、ダニエル7:25、12:7、黙示録12:6-

14でさまざまな形で連続して預言された1260日の教皇統治の状況に似ています。11:2-3; 13:5。

古代の文脈で現在の出来事を振り返る

何が起きているのかを明確に理解するために、カメラマンが注意深く追跡していたシーンをカメラで撮影している画像を撮ります。この時点で、彼は高度を上げながらズームアウトし、表示されるフィールドがますます広がります。そのため、宗教史に適用されると、聖霊のまなざしは、その小さな始まりから、苦しみの時代、殉教者の時代、そして待望の救い主の再臨によって特徴づけられる輝かしい終わりに至るまで、キリスト教の宗教史全体を監督します。

ダニエル

11:33 そして、彼らのうちで最も賢い者が、多くの人を教えるであろう。

剣と炎、捕虜と略奪に一時的に屈する人もいます。

33a- そして彼らのうちで最も賢い者が群衆に教えるであろう

イエス・キリストの使徒たち、そして私たちが新しい契約の14の手紙を書く義務のあるタルソスのパウロです。この新しい宗教上の教えには「福音」、つまり神の恵みによって選ばれた人々に与えられる救いの良い知らせという名前が付けられています。このようにして、御霊は私たちを時間の経過とともに前進させ、新たに検討される対象はキリスト教の信仰になります。

33b- 剣と炎、捕虜と略奪に一時的に屈する人もいます。

しばらくの間、聖霊は天使を通して告げられ、今度は1260年という長い年月が預言されていましたが、カリグラ、ネロ、ドミティアヌス、ディオクレティアヌスというローマ皇帝のもとでは、キリスト教徒であるということは殉教者として死ななければならないことを意味していました。

黙示録 13:10

で、聖霊は教皇によるローマの強制執行の時代を思い出し、次のように述べています。誰かが剣で殺すなら、彼は剣で殺されなければなりません。

これが聖徒たちの忍耐と信仰です。

ダニエル

11:34 彼らが失敗したとき、彼らは少しだけ助けられるだろうし、多くの人が偽善に加わるだろう。

34a-

この聖句の偽善者の助けが現れたのは、まさに教皇庁の残酷な支配のこの時代においてでした。彼らの識別は、イエス・キリストによって教えられた価値観と戒め、そしてこの場合、この対象とされた時代における剣による殺人の禁止を無視することに基づいています。歴史を再検討すると、15世紀から現代に至るまでの広範なプロテスタント運動が、正義の裁判官イエス・キリストによって偽善的であると裁かれたことが理解できるでしょう。したがって、1843年以降の彼らの完全な放棄は、より理解し、受け入れやすくなるでしょう。

ダン

11:35 賢者の中には、終わりの時まで、清められ、清められ、白くされるために、落ちる者もいる。それは、定められた時までは来ないからである。

35a-

賢者の中には、終わりの時まで清められ、清められ、白くされるために倒れる者もいる

この言葉から判断すると、クリスチャンの人生の基準は、世の終わりまで迫害に耐え、耐えられるかどうかによる試練と選択です。このように、平和と寛容に慣れた現代人は、もはや何も理解できなくなっています。彼はこれらのメッセージの中で自分の人生を認識していません。このため、この主題については黙示録 7 章と 9:5-10 で説明します。150実年、つまり「預言的な5か月」という長期にわたる宗教的平和の期間は神によって計画されましたが、1995年以降、この期間は終了し、宗教戦争が再び始まりました。イスラム教はフランスや世界中で殺害を行っている。そしてその作用は地球全体を発火させるまで激化することが意図されています。

35b- 指定された時間にしか到着しないため

この終わりは世界の終わりであり、天使は私たちに、平和や戦争の兆しは誰にもそれが来るのを見ることを許さないと告げます。それはただ一つの要因によって決まります。それは、神によって定められた「時」、つまり神が地上で選ばれた人々を選ぶために捧げられた6000年間の終わりです。そして、今期まであと 10年

年も経っていないからこそ、神はその日付を知る恵みを私たちに与えてくださいました。それは、2030年4月3日に先立つ春の3月20日、つまり2000年後のキリストの贖いの死です。彼は自分が選んだ者たちを救い、彼らを殺そうとした残忍な反逆者たちを滅ぼすために、力強く勝利を収めたように見えるだろう。

「キリスト教」ローマのカトリック教皇政権：西洋世界の宗教史に対する偉大な迫害者。

アンティオコス

4

モデルが私たちを導くのは彼に向かってです。型はそのアンチタイプを準備しましたが、この比較について何が言えるのでしょうか?確かに驚異的な規模で、ギリシャの迫害者は1090実日にわたって行動したが、教皇はほぼ1260実年にわたって猛威を振るい、したがってすべての歴史的モデルを上回っている。

ダニエル

11:36 王は自分の望むことを行います。彼は自分自身を高め、すべての神々に優って栄光を表し、神々の神に対して信じられないことを言います。怒りが完了するまで、それは繁栄するだろう、なぜなら、決定されたことは達成されるからである。

36a-

この聖句の言葉は曖昧なままであり、依然としてギリシャ王とローマ教皇王に当てはめることができます。預言の明らかな構造は、表面的な読者から注意深く隠蔽されなければなりません。それにもかかわらず、小さな詳細は教皇の目標を指定します。それは正確さです。なぜなら、**決められたことは必ず達成されるから**です。この言葉はダニエル書 9:26と同じです。62

週間が過ぎると、油そそがれた者は断ち切れ、自分のものは何もなくなくなります。来るべき支配者の民は都市と聖域を破壊し、彼らの最後は洪水のように訪れるだろう。荒廃（または荒廢）は戦争が終わるまで続くことが決定されています。

ダニエル

11:37 彼は先祖たちの神々も、女を喜ばせる神も敬わない。彼はどんな神にも関心を持たない、なぜなら彼は何よりも自分自身を讃えるからである。

37a- 彼は先祖たちの神々を尊重しない

これが、私たちの知性を明らかにする小さな詳細です。私たちはここに、彼の言葉の標的となった王が、先祖の神々、そしてその中でも最も偉大な神、エルサレムのユダヤ神殿を捧げたオリンポスの神々の神ゼウスを尊重していたアンティオコス4世ではありえないという正式な証拠を手に入れました。こうして我々は、標的となった王が確かにキリスト教時代のローマ教皇政権であるという否定できない証拠を手に入れた。したがって、これから明らかにされるすべての言葉は、Dan.7とは異なり、Dan.8とは生意気で狡猾であるこの王に関するものになります。この破滅的な、あるいは荒廢したダンの王9:27に付け加えます。頭を支える「ロケットステージ」 小柄で傲慢な教皇の男で、支配の頂点に位置する。

教皇ローマは祖先の神々を尊敬していましたか?公式には「いいえ」です。なぜなら、彼女はキリスト教に改宗したことで、異教のローマの神々の名前を捨てることになったからです。しかし、彼女は彼らの崇拝の形式とスタイル、つまり、崇拝者たちがその前で頭を下げ、ひざまずいて祈る彫刻、彫刻、または成形された像を保持しました。神によってすべての律法で非難されているこの行為を保存するために、彼女は聖書を一般の人間がアクセスできないようにし、生ける神の十戒の2番目を削除しました。なぜなら、聖書はこの行為を禁止し、違反者に計画されている罰を明らかにしているからです。悪魔でなければ、誰が受けた罰を隠したいと思うのでしょうか?したがって、教皇体制の性格は、この聖句で提案されている定義の枠内に収まります。

37b- *女性を喜ばせる神にも*

神の御霊がこの忌まわしい主題を呼び起こすのは、教皇によって放棄された異教のローマの宗教を考えることによってです。なぜなら、彼女は神聖さの価値観を示すために、あからさまな性的伝統に背を向けたからです。この示唆されている神はプリアポスであり、ローマの異教の教父たちによって神として崇められている男性の男根です。それはまだギリシャの罪の遺産でした。そして、この性的伝統を打破するために、彼女は肉体と精神の純粋さを過剰に擁護します。

ダニエル

11:38 *しかし彼はその台座の上に要塞の神を敬うであろう。先祖たちが知らなかったこの神に、彼は金や銀、宝石や貴重な品物をもって敬意を払うでしょう。*

38a- *しかし彼は台座の上で要塞の神を讃えるだろう*

新しい異教の神、要塞の神が誕生しました。その台座は人間の心の中にあり、その高さは印象と同じくらい高いです。異教のローマはあらゆる風に開かれた異教の神殿を建てました。柱で支えられた大文字で十分でした。しかしローマはキリスト教に加盟することで、破壊されたユダヤ人のモデルに取って代わることを目指している。ユダヤ人は、彼らに栄光と名声を与えた力強い外観の閉鎖された神殿を持っていました。したがって、ローマは彼を真似し、今度は要塞化された城に似たロマネスク様式の教会を建設します。なぜなら、治安の悪化が蔓延し、最も裕福な領主が家を強化するためです。ローマも同じことをしている。大聖堂の時代までは厳格なスタイルで教会を建てましたが、そこですべてが変わりました。丸い屋根は空を指す矢印となり、ますます高くなっていきます。外側のファサードはレースのような外観を持ち、あらゆる色のステンドグラスの窓によって豊かに彩られ、内部に虹色の光をもたらし、祝賀会の参加者、信者、訪問者に感動を与えます。

38b-

彼の先祖が知らなかったこの神に、彼は金と銀、宝石と貴重な品物で敬意を払うでしょう。

それらをさらに魅力的にするために、内壁は**金、銀、貴重な真珠、高価な品物で飾られています**。黙示録

17:5に登場する売春婦バビロン大王は、自分を誇示して客を惹きつける方法を知っています。

真の神は、この素晴らしさが自分に利益をもたらさないからといって、誘惑されることを許しません。彼の預言の中で、彼はこれまでまったく関係のなかったこの教皇ローマを非難して**います**。彼にとって、彼のロマネスク様式やゴシック様式の教会は、彼から背を向ける霊的な人々を誘惑するためだけに役立つ、より異教の神々にすぎません。新しい神が誕生します。要塞の神であり、彼は神が城壁に入っているのを発見したと信じる群衆を誘惑します。不釣り合いに高い天井の下で。

ダニ

11:39

~~彼が要塞化された場所に対して行動するのは外国の神とともにであるそして彼は外国の神とともに要塞の要塞化に取り組んだ、そして彼を認める人々を名誉で満たし、彼らを多くの人に支配させ、土地を分配するだろう報酬として彼らに。~~

39a- ~~そして彼は異国の神とともに要塞の要塞化に取り組んだ~~

神にとって、彼に直面している活動的な神はただ一人、つまり神にとって異質な神です。それは、イエス・キリストが使徒と弟子たちに警告した悪魔、サタンです。ヘブライ語本文では、「に対して行動する」という問題ではなく、「する」ということが問題になっています。同じメッセージが黙示録

13:3

で次のような形で読めます。

...ドラゴンは彼に力と王座と偉大な権威を与えました。ドラゴンは黙示録 12:9
では悪魔ですが、同時に黙示録 12:3
によれば帝国ローマでもあります。

さらに、キリスト教に改宗することによって、ローマ当局は、もともとアブラハムの子孫であるヘブライ人のユダヤ人の神であったため、ローマ当局にとって異質な真の神を採用しました。

39b- ~~そして彼は彼を認める人々を榮譽で満たすだろう~~

これらの榮譽は宗教的なものです。教皇は、自分を地上の神の代表者として認める王たちに、自らの権威のための神の権威の印章をもたらします。王は、教会がフランス、サン＝ドニとランスにある神聖な要塞の一つで聖別したときにのみ、真の王となるのです。

39c- ~~彼は彼らを多くの人を支配させるだろう~~

教皇は、他の属国王を支配する宗主国王を示す帝国称号を授与します。最も有名なのは、カール大帝、カール 5 世、ナポレオン 1 世 ヒトラーです。

39d- ~~彼は報酬として彼らに土地を分配するでしょう。~~

この地上と天上の時間的な超大国は、地上の王たちによく適していました。なぜなら、特に征服または発見された土地に関して、彼は彼らの相違を解決したからです。このようにして、1494年、ローマ教皇の中で最

悪で現職の暗殺者であるアレクサンダー6世ボルジアは、古代以来再発見された南アメリカの領土の帰属と所有をスペインとポルトガルの間で共有するために子午線を修正するよう導かれた。

第三次世界大戦またはRev.9の第6^{トランペット}。

それは人類を人口の3分の1に減らし、国家の独立に終止符を打ち、Apo.1で発表された究極の大災いを確立する普遍的な体制を準備します。攻撃的な主体の中にはイスラム諸国のイスラム教も含まれているので、この問題について聖書的な見解を皆さんに提供したいと思います。

イスラム教の役割

イスラム教が存在するのは、神がそれを必要としているからです。この役割は救うことではなく、もっぱらイエス・キリストによってもたらされた恵みにかかっており、敵を攻撃し、殺し、虐殺することである。すでに古い契約において、神はイスラエルの不貞を罰するために「ペリシテ人」の民に頼ることになっていました。物語の中で、彼はキリスト教徒の不貞を罰するためにイスラム教徒に訴えます。イスラム教徒とアラブ人の起源は、アブラハムとその妻サラのエジプト人の召使ハガルの息子イシュマエルです。そしてすでにその時、イシュマエルは嫡子イサクと争っていました。これは神の同意を得て、サラの要請により、ハガルとイシュマエルがアブラハムによって宿営から追い出されたほどでした。そして神は、追放された人々の子孫である異母兄弟がアブラハムの子孫に対して敵対的な態度を取り続けるであろう人々を配慮されました。一人目はユダヤ人。

2つ目は、キリスト教徒であるイエス・キリストにおいてです。創世記 16章

12節で神がイシュマエルとそのアラブの子孫について預言したのは次のとおりです。彼の手はすべての人に敵対し、すべての人の手は彼に敵対するだろう。そして彼は兄弟全員の向かい側に住むことになる。」神は物事に対するご自身の考えや判断を知らせたいと望んでおられます。キリストの選民は、至高の意志に従って地上の人々と権力を用いる神のこの計画を知り、分かち合わなければなりません。イスラム教の創始者である預言者ムハンマドは、538年にローマ・カトリック教皇庁が設立された後の6^{世紀末}に生まれたことに留意すべきである。イスラム教は、神の呪いに見舞われたときに、異教のカトリックと一般のキリスト教徒を攻撃するように見えた。そして、これは 321年3月7日以来、コンスタンティヌス 1世が「征服されざる太陽」（ソル・インヴィクトゥス）、つまり現在の日曜日に捧げられた最初の日を優先して

7日目の安息日の休みを放棄させて以来、当てはまっています。今日の多くのキリスト教徒と同様に、コンスタンティヌスは誤ってキリスト教徒とユダヤ人との間に決別を示したいと考えていました。彼は当時のキリスト教徒が神の聖なる安息日を尊重してユダヤ化したと批判した。異教の王から下

されたこの不当な裁きは、黙示録 8 章と 9 章で明らかにされた「七つのラッパ」の懲罰、つまり途切れることなく続く不幸と悲劇によって、代償を払われ、そして最後まで支払われ続けるでしょう。最終的な罰は、イエス・キリストが現れてご自分の選ばれた人々を地上から排除するというひどい幻滅という形で与えられます。しかし、今扱われたテーマ、「第三次世界大戦」そのものが、預言された神罰の 6 番目であり、その中でイスラム教が重要な役割を果たしている。なぜなら、神はイシュマエルについても創世記 17:20 で次のように預言されたからです。見よ、わたしは彼を祝福し、子を産み、彼を大いに増やすだろう。彼は12人の王子を産むでしょう、そして私は彼を偉大な国にします。」この括弧を閉じて、ダニエル 11:40 の研究を再開します。

ダニエル

11:40 終わりの時には、南の王が彼を攻撃するであろう。そして北の王は戦車、騎兵、多くの船を率いて、嵐のように彼に襲いかかるだろう。それは地に入り、激流のように広がり、溢れ出るでしょう。

40a- 終わりの時

今度はまさに人類の歴史の終わりです。現在の地球の国々の時代の終わり。イエスは今回、マタイ 24:24 でこう言われました。王国のこの良いよりは、すべての国々への証として全世界に宣べ伝えられるでしょう。そうすれば終わりが来る。

40b- 南の王が彼を攻撃するだろう

ここで私たちは、神のしもべたちが他の人間から隠されているものを理解できるようにする計り知れない神の繊細さに感心する必要があります。どうやら、見た目だけではありますが、この節ではセレウキ王とラギド王の間の争いが再開され、続いているように見えますが、これ以上誤解を招くことはありません。なぜなら、実際には、私たちはこの文脈を34節から36節まで残しており、この新たな対立の終わりの時期は、教皇によるカトリック政権のキリスト教時代と、エキュメニカルな同盟を結んだ普遍的プロテスタントに関係しているからです。この状況の変化により、役割を再配分する必要があります。

「彼」の役割:

教皇のカトリックヨーロッパとその同盟キリスト教諸宗教。

「南の王」の役割:

創始者ムハンマドが主導した行動に従って、人間を武力で改宗させるか、奴隷制に陥らなければならない征服イスラム教。

ここで動詞の選択に注意してください:衝突する;ヘブライ語で「ナーガ」は角で打つことを意味します。形容詞として、通常は攻撃する猛烈な攻撃者を指します。この動詞は、第二次世界大戦後、途切れることなく西側世界に対して攻撃的なアラブのイスラム教にぴったりと当てはまりま

す。

「戦う、戦う、衝突する」という動詞は非常に近い距離にあることを示しており、したがって、全国的な近隣地域、または町や通りの近隣地域という概念が考えられます。どちらの可能性も、ヨーロッパ人の宗教的無関心により、イスラム教がヨーロッパに定着していることを裏付けるものである。

1948年にユダヤ人がパレスチナに帰還して以来、闘争は激化している。パレスチナ人の窮状により、イスラム教徒は西側キリスト教徒の植民地と対立している。そして2021年、イスラム主義者の攻撃は増加しており、ヨーロッパの人々、とりわけ北アフリカとアフリカの人々の元植民地であったフランスの間に不安を引き起こしている。もっと大きな国家衝突が起こるだろうか？おそらく、しかしそれは、大都市自体の土壌で残忍なグループ対グループの衝突を引き起こすほど内部状況が悪化する前にはありません。その日、フランスは内戦状態に陥るだろう。実際には、正真正銘の宗教戦争、つまりイスラム教とキリスト教、あるいは神のいない不信者に対する戦争です。

40c-

そして、北の王は戦車と騎手、そして多くの船を率いて、嵐のように彼に襲いかかるだろう。

エゼキエル書

38:1

では、この北の王は、メシエク(モスクワ)とトバル(トボリスク)のロシュ(ロシア)の王子マゴグと呼ばれており、9節にはこう書かれています。嵐が来たら、あなたは雲のように大地を、あなたとあなたのバンド全員を、そしてあなたと一緒にいる多くの人々を覆うでしょう。

北の王」、正統派ロシアとそのイスラム教徒の同盟国民の役割。ここでもまた、動詞「

tourera

sur」の選択が重要です。彼」は、空からの突然の大規模な奇襲攻撃を示唆しています。ロシアの首都モスクワは、実際、ヨーロッパの首都ブリュッセルや軍事の先鋒であるパリからはかなりの距離にある。ヨーロッパの繁栄はその指導者たちを盲目にさせ、強力なロシアの軍事的可能性を過小評価するまでに至った。陸路には航空機と数千台の戦車、そして多数の海洋および潜水艦の軍艦が攻撃を仕掛けるだろう。そして、その懲罰が強制的に表明されるように、ヨーロッパの指導者たちは、熱血ウラジーミル・ジリノフスキーから新しい現在の「皇帝」ウラジーミル・プーチン（ウラジーミル：ロシア語で世界の王子）に至るまで、ロシアとその指導者たちに屈辱を与えることを止めていない。

は、新国家イスラエルが関与する第7次「シリア戦争」の形で互いに対決することになる。それは次の聖句で確認できます。しかし今のところ、ロシアが攻撃する「王」（彼）はローマ条約のヨーロッパである。

40日 - それは諸地に進入し、激流のように広がり、溢れ出るだろう。

その圧倒的な軍事的優位性により、ロシアはヨーロッパに侵攻し、その全領土を占領することができます。これに直面すると、フランス軍は太刀打ちできない。彼らは押しつぶされ、破壊されます。

Dan

11:41 彼は最も美しい地に入ると、多くの人々が倒れる。しかしエドム、モアブ、そしてアンモン人の長たちは彼の手から救出されるであろう。

41a- 彼は最も美しい国に入り、多くの人々が死ぬだろう

ロシアの拡張は、西側諸国の同盟国であるイスラエルが位置する南に向かって進行しており、今度はロシア軍が侵攻している。ユダヤ人はまだ死ぬだろう。

41b-

しかし、エドム、モアブ、そしてアンモン人の族長は彼の手から救われるであろう。

、現代のヨルダンを代表するこれらの名前をロシア側に置く軍事同盟の結果である。

2021年、ロシアはすでにシリアの公式同盟国となり、シリアを武器にし、保護している。

ダン

11:42 そして彼はその手をさまざまな国々に差し伸べ、エジプトの地は逃れられない。

42a- この政治的構図が預言を裏付けるようになったのは 1979年 年以来です。なぜならその年、アメリカのキャンプ・デービッドで、エジプトのアンワル・エル・サダト大統領がイスラエルのメナヘム・ベギン首相と正式に同盟を結んだからである。当時の戦略的・政治的選択は、イスラエルが米国の強力な支援を受けていたため、当時最も強かった勢力の大義を受け入れることでした。この意味で、神の御霊は彼に破滅と災難から「逃れる」努力の主導権を与えているのです。しかし、時間が経つにつれて、ゲームの主導権は変わり、イスラエルとエジプトは、2021年以降、米国からほぼ見捨てられていることに気づきます。ロシアはシリア地域に自国の法律を課している。

ダニエル

11:43 彼は金銀の財宝とエジプトのすべての貴重なものを所有するでしょう。リビア人とエチオピア人も彼に従うだろう。

43a-

彼は金と銀の宝物、そしてエジプトのすべての貴重なものの主人となるでしょう

スエズ運河の通行料収入のおかげで、エジプトは大きく豊かになりました。しかし、この富が役立つのは平時のみであり、戦争時には交易路が閑散としてしまうからである。エジプトは観光業で豊かになりました。人々は地球の四隅からそのピラミッドを鑑賞するためにやって来ます。そ

の博物館は、古代以来地下に隠されていたエジプトの墓の継続的な発見によって充実しています。これらの墓では、若きツタンカーメン王の墓から、価値不明の純金の物品が発見されました。したがって、ロシアはエジプトで戦利品への欲求を満たすものを見つけるだろう。

2022年1月22日の安息日の終わりに、御霊は、私がダニエル11章に与えている解釈を、**異論の余地なく確認する**議論を私にもたらしめました。42節と43節の2節で、この明確な言及の重要性に注目しましょう。コード化されていないが、この文脈では「南の王」と呼ばれる国とは異なる国である「エジプト」という名前から来ている。しかし、5節から32節では、プトレマイオス朝の怠惰な「エジプト」は覆いをされていますが、「南の王」であることが明らかにされています。このようにして、**歴史的な文脈の変化は反駁の余地なく確認され、証明されています**。古代の文脈から始まるダニエル11章の物語は、1979年以来キリスト教徒で不可知論的な西側陣営の同盟国である「エジプト」が標的となる世界の「終わりの時」で終わります。

「南の王」、つまり好戦的なイスラム教、そして特に新しい「北の王」であるロシア正教のそれである。

43b- リビア人とエチオピア人は彼に従うだろう

翻訳者は、

「リビア」、サハラ以北に位置するイスラム諸国、アフリカ沿岸の沿岸諸国、そしてエチオピア、黒人アフリカ、サハラ以南に位置するすべての国々を指す預言の「プースとクシュ」という言葉を正確に翻訳しました。サハラ砂漠。彼らの多くはイスラム教を受け入れ、受け入れました。コートジボワールの場合にはフランスのニコラ・サルコジ大統領の共謀があり、リビアの混乱も彼のおかげだ。

こうして、ロシアの攻撃を受けた「エジプト」はあらゆる捕食者の餌食となり、その同胞であるイスラム教徒のハゲワシたちがその死体を清め、ロシアによる侵攻後にまだ残っている戦利品の分け前を手に入れるためにエジプトに降りかかる。

「リビアとエチオピア」を明確に引用することで、聖霊は「南の王」の宗教的同盟者であるアフリカ人を指定しており、彼らは預言者ムハンマドが632年に現れ、メッカ以来イスラム教と呼ばれる彼の新しい宗教を広めるためにアラビアと同一視されるべきである。それは、西側の世俗的価値観への一時的な服従という屈辱を経て、この最終的な状況において、原理主義的で征服的で復讐心に満ちたイスラム教の宗教的関与に戻った強力なトルコによって支援されている。しかし、イラン、パキスタン、インドネシアなど、「南部」に位置しない他のイスラム諸国は、「南の王」に加わって、すべてのイスラム教徒が嫌う道徳的価値観を持つ西側諸国と戦うことができる。この憎しみは、実のところ、西洋キリスト教徒が軽蔑する真の神イエス・キリストに対する憎悪にすぎません。したがって、それはイスラム教と正教を通して、西洋世界におけるユダヤ教、

カトリック、正統派、プロテスタント、さらにはアドベンチストの不貞を罰します。一神教の信仰すべてが彼に対して有罪である。

ダニエル

11:44 東と北からの知らせが来て彼を怖がらせ、彼は激しい怒りを持って出て行って、多くの人々を滅ぼし滅ぼすだろう。

44a- 東と北からの知らせが彼を怖がらせるだろう

これら

2

つの重要な地点「東と北」は、教皇のヨーロッパから言及されたかイスラエルから言及されたかに応じて、ロシア国のみに関係します。なぜなら、

預言は

40

節と

41

節でロシアによって連続的に攻撃されると指定されているからです。これは、恐怖が意味するものです。引用されているのはロシア領土からのものだが、何がそのような征服者を怖がらせることができるだろうか？彼をそれほど怖がらせるほど、彼の国に何が起こったのでしょうか？答えはダニエル書ではなく、黙示録

9

章にあり、その世界的な拠点が米国にあるプロテスタント宗教を明らかにし、標的にしています。このアメリカの存在を踏まえると、その謎はより明らかになるだろう。反逆的なロシアが社会主義・共産主義体制を採用した1917年以来、ロシアと帝国主義資本主義の米国との間には永続的な隔たりがあった。共産主義者であれば、隣人を犠牲にして自分を豊かにすることはできない。これが、2

つの選択肢が両立できない理由です。平和の灰の下で、憎しみの炎がくすぶり、表現を求めています。競争と核の脅威だけが最悪の事態を防ぐことができた。それは核テロのバランスでした。ただ、核兵器を使用せずに、ロシアはヨーロッパ、イスラエル、エジプトを占領するでしょう。バランスが崩れると、米国はだまされている、脅威を感じていると感じ、死者数を減らすために戦争に参戦し、まず最初に激しく攻撃するだろう。ロシアが核で破壊されれば、占領地に点在するロシア軍の間に恐怖が生じるだろう。

44b-

そして彼は群衆を破壊し絶滅させるために激しい怒りを持って出て行くでしょう。

その瞬間まで、ロシアは征服と戦利品の精神にあるだろうが、突然その心境は変化し、ロシア軍にはもはや帰る故郷がなくなり、その絶望は「破壊して戦利品を手に入れたい」という願望に変わるだろう。多数を絶滅させる」。これは黙示録 9 章の第 6 のラッパの「殺された人々の 3 人目」になります。したがって、核兵器を保有するすべての国は、事実によって、個人的な潜在的な敵に対して核兵器を使用することを余儀なくされるでしょう。

Dan

11:45 彼は海の間、輝かしい聖なる山に向かって宮殿の天幕を張る。そうすれば彼は誰も助けてくれないまま最期を迎えることになるだろう。

45a-

彼は海の間、輝かしい聖なる山に向かって宮殿のテントを張るだろう

海の間、その宮殿はもう地球上にないからです。ロシア軍の絶望的な状況は、彼らをこの運命に宣告した聖霊によって明確に描写されています。敵の砲火を受けて、彼らはイスラエルの地に押し戻されます。彼らは誰からも嫌われ、支援も同情も受けられず、ユダヤ人の土地で絶滅させられました。したがって、ロシアは、バビロンへの強制送還の際に、古い同盟においてイスラエルの霊的敵対者を支援して以来、神がロシアに帰したとされる重い論争を支払うことになる。彼女は異教の欲望の都市ティルスの人々に馬を売りました。エゼキエル書 27:13-14 は、神がティルスにこう言われたことを裏付けています。「ヤワン、トバル(トボリスク)

、メシエク(モスクワ)はあなたと取引しました。彼らはあなたの商品と引き換えに奴隷と真鍮の食器を与えました。トガルマ(アルメニア)の家の人々は、馬、騎手、ラバを市場に供給しました。それはまた、それと貿易をしていたユダヤ人にとっても商業上のつまずきの石でした。エゼキエル 27:17:ユダとイスラエルの地はあなたと貿易しました。彼らはあなたの品物と引き換えに、ミニスの小麦、ペストリー、蜂蜜、油、バルサムを与えました。したがって、タイヤは彼らを犠牲にして自らを富ませました。その後、エゼキエル書 28 章 12 節で、「ツロの王」というタイトルで、神はサタンに直接語られます。複数の異教の神々を装って、むしろ無意識のうちに、しかし常にどこでも、神が忌まわしいと考える崇拝形態で彼に仕えた偉大な異教の都市に蓄積された贅沢と富を利用したのは彼であったことを私たちは理解しています。彼は、人類の歴史の何世紀、何千年にもわたって蓄積されたフラストレーションの重みを胸に抱えています。このフラストレーションは、最近のひどく破壊的な国際紛争の形で部分的に空になった彼の怒りを正当化します。

しかし、古代の商業交通に対するこの神の怒りは、完全に市場経済に基づいて構築された国際的な文脈における現代の国際交通について神がどのように考えているのかを理解するよう私たちを促します。2001年9月11日のニューヨークの世界貿易センタービルの破壊がその答えだと思います。黙示録 18 章の預言は、商業や国際交流による富の有害な役割を強調しており、その前ではいかなる規則や神聖な宗教的権利も崩壊し、その不敬虔さは甚大であるため、なおさらです。

Dan.11

の終わりに、アメリカの世襲の敵であるロシアが滅ぼされます。したがって、これにより、国際紛争のすべての生存者に対して絶対的な権力が与えられることとなります。打ち負かされた者たちには災いあれ！彼は地球上のどこにいても生き残るために、勝利者の法に頭を下げて従わなければなりません。

ダニエル12

ダニエル

12:1 その時、偉大な君主、あなたの民の子らの擁護者であるミカエルが立ち上がる。そしてそれは、国家が存在して以来、それまで経験したことがないような困難な時代となるだろう。その時、その本に書かれているのが見つかったあなたの民は救われるでしょう。

1a- その時、マイケルは立ち上がるだろう、

この時は世界の終わりの時であり、イエス・キリストが最後の言葉を持って、競合する宗教によって長らく争われてきた彼の神性の栄光と力の中で戻って来られます。黙示録 1 章 7 節にはこう書かれています。見よ、彼は雲に乗ってやって来ます。そして、それを突き刺した者さえも、すべての目でそれを見るでしょう。そして地上のすべての部族は彼のために悲しむでしょう。はい。アーメン！私たちはこの考えに慣れなければなりません、なぜなら神は自分の役割ごとに異なる名前を自分に与えており、それがダニエル書と黙示録 12:7 で自分自身を天使のような天上の生命の最高の頭であるミカエルとして表している理由です。悪魔と悪魔に対する権威。彼の名前、イエス・キリストは、彼がこの名前の下で救うために来た地上の選ばれた人々のためにのみそれを表しています。

1b- 偉大なリーダー、

、この偉大な指導者は主であるミカエル・イエス・キリストであり、教皇政権がその特徴的な厚かましきで、1843年までの永遠の天の仲介者としての彼の使命を、その利益のために奪ったのは彼からであり、これは538年以来であり、紀元前からのものです。ローマ市のカエリウス山のラテラノ宮殿にある教皇政権とその施設。この主題はダニエル 8 章で取り上げられています。

1c- あなたの民族の子供たちの擁護者。

攻撃があった場合、ディフェンダーが介入します。そしてこれは、最後の反逆者たちによって死刑を宣告されても、忠実を守り続けた選ばれた者たちの地上生活の最後の数時間に当てはまるだろう。ここでは、ダニエルの物語で提案されているすべてのモデルを見つけることができます。なぜなら、それらは最終的な悲劇的な状況で実現されるからです。この最後の**大惨事**において、私たちはダン.3で語られる奇跡的な介入、炉とその4人の生きた登場人物、ダン.5で神による大いなるバビロンの捕獲、ダン.6

で無害化されたライオンを追体験します。また、168年、キスレウ15日、つまり12月18日の安息日にユダヤ人を襲った災難によって予見された**大災難**の終焉でもあった。

1d-

そしてそれは、**国家が存在して以来、それまで経験したことの無いような苦難の時代**となるでしょう。

この声明から判断すると、最後の大きな災いは、ギリシャ人によって組織されたユダヤ人の災いを超えるでしょう。実際、ギリシャ人は路上や自宅で見つけたユダヤ人を殴るだけだ。世界の終わりでは、状況は大きく異なり、現代のテクノロジーにより、地球に住む人々を完全に制御することができます。したがって、人間検出技術を使用すると、どこにいても、どこに隠れていても、誰でも見つけることができます。したがって、布告された命令に抵抗する人々のリストを正確に作成することができます。この最後の文脈では、選挙で選ばれた人々の根絶が人為的に可能になるでしょう。救出への信仰と希望に満ちているとはいえ、選ばれた人々は苦痛な時間を経験することになるでしょう。すべてを奪われて自由の身となった者たち、残りの者たちは反乱軍の刑務所で処刑を待っているからだ。殺されなければ虐待される選挙で選ばれた役人の心は苦痛で支配されるだろう。

1e-

その時、その本に書かれているのが見つかったあなたの民は救われるでしょう。

それは命の書です。なぜなら、神はコンピュータを使わずに、アダムとイブとその子孫が生み出したすべての生き物のリストも作成したからです。各人の人生の終わりに、最終的な運命は神によって決定されました。

神は、**申命記30:19-20** で人類に示された 2つの道に従って、選ばれた者のリストと墮落した人のリストの 2つのリストを保持していました。今日、天と地があなたに対して証言するために、私は生と死、祝福と呪いをあなたの前に置いた。あなたとあなたの子孫が生き残るために、命を選択してください。

あなたの神、主を愛し、その声に従い、彼に固く結ばれなさい。これにあなたの命と寿命がかかっているからです...ローマ教皇の運命の最終的な終わりは、悪に対する彼の選択によるものです。火で焼かれたことがダニエル書 7:9-10 で明らかにされています。これはダニエル書 11:36によると、彼の神々の神に対する傲慢な言葉のせいです。

第一の復活と呼ばれるキリストにおける死者の復活が伴います。第一の復活に参加する人々は幸いであり、聖です。第二の死は彼らに何の力も及ばないからです。

ダニエル

12:2 地のちりの中で眠っている人々の多くは目覚め、ある者は永遠の命を得、ある者は非難され永遠の恥を得る。

2a-

地の塵の中で眠っている人々の多くは目覚め、ある者は永遠の命を得るだろう。

死者は**土の塵**の中でよく眠っており、偽りのキリスト教や異教の宗教が教え信じているような素晴らしい楽園や灼熱の地獄ではないことに注意しましょう。この明確化は、伝道 9:5-6-10 で教えられているように、死者の真の状態を回復します。そして、生きている犬でさえ、死んだライオンよりも優れています。

実際、生きている人は自分が死ぬことを知っています。しかし、死者は何も知りませんし、記憶も忘れ去られているので、それ以上の報酬もありません。

そして彼らの愛も憎しみも妬みもすでに消え去った。そして、彼らは二度と太陽の下で行われることに一切関与することはありません。

...自分の力でできることは何であれ、それを実行してください。あなたが行く地獄には、仕事も思考も知識も知恵もないからです。

(**大地の塵**である死者の住居)。

思考が人間の脳の中に生きているのは、人間がまだ生きていて、心臓の鼓動によって送られる血液によって栄養を与えられている間だけであるため、死後の思考はありません。そしてこの血液自体も肺呼吸によって浄化されなければなりません。神は、不従順によって罪人となったアダムに、創世記 3 章 19

節でこう言われて以来、他には何も言われませんでした。**あなたは塵であり、塵に戻るからです**。この死者の無の状態を確認するために、私たちは詩篇 30 章 9

節で次のように読みます。「私の血を流して、私を穴に下ろさせて、何の得があるのですか？」**塵**があなたを褒めてくれましたか？それはあなたの忠誠心を物語っていますか？いいえ、詩篇 115 章 17 節によれば、それはあり得ません。主を祝うのは死者ではなく、沈黙の場所に下る人々でもありません。しかし、これは神が以前に存在していた生命を再び生み出すことを妨げるものではなく、この創造力こそが神を天使や人間ではなく神たらしめているのです。

7

千年紀の千年によって分けられていることが示されています。この千年の初めに人間の命はすべて地上から消えますが、墮落した人々は日の栄えの王国で聖徒たちとイエス・キリストによって行われた裁きの後にのみ復活します。第7のラッパに付けられたこのメッセージによって、黙示録 11:18 は次のように述べています。そしてあなたの怒りが来ましたが、**そして死者を裁き、あなたのしもべである預言者、聖人、そしてあなたの名を恐れる小さな者と大きな者たちに報いる時が来ましたが、**

そして地球を破壊する者たちを滅ぼすために。この聖句では、死者の裁

きにより、神はまず、死の状態にある悪人を裁くことができるように、ご自分の忠実な死者を選出して復活させます。

2b- そして他の人たちは非難され、永遠の恥辱のために。

永遠は生きている者だけに属します。最後の審判で彼らが滅ぼされた後、墮落した人々の

非難と恥辱は、選ばれた者たち、天使たち、そして神の永遠の記憶にのみ残るでしょう。

ダニエル

12:3 理解する者は空の輝きのように輝き、多くの人に義を教える者は世々限りなく星のように輝きます。

3a- 聡明な人は空の輝きのように輝く

知性は人間を動物よりも高くします。それは、事実の観察や単純な演繹によって推論し、結論を引き出す能力によって明らかにされます。もし人間が神から与えられた自由に対して反抗的でなかったなら、知性は全人類を神の存在とその法についての同じ認識に導くだろう。なぜなら、神はモーセ以来、人間に対する啓示の最も重要な出来事を文書に記録させてきたからです。これがたどる推論のルートです。一神教の信仰はヘブライ人の歴史の中に現れました。したがって、彼の証言と著作は、この同じ唯一の神に帰せられる他のすべての著作よりも優先されます。神の民が敵対することは通常の可能性として残りますが、聖書が敵対することは極悪非道な行為となります。イエス・キリストによって確立された信仰は、古い契約のヘブライ語聖書から出典と参照を得ており、信仰に正当性を与えています。しかし、ローマ・カトリックの教義はこの原則を尊重していません。そのため、ローマ・カトリック教もイスラム教のコーランも、生ける神、生きて存在するすべての創造者であると主張することができません。

イエスはヨハネ

4

章

22

節で、救いはユダヤ人から来るということを思い出して原則を確認されました。救いはユダヤ人から来るので、私たちは自分の知っているものを崇拜します。

この最初の選ばれたグループにおいて、神は、アダムとイブ以来、命をかけて忠実さを示したために、特別な知識がなくても救われた人々を指定します。彼らが救われたのは、彼らの作品が彼らの知性と、従順によって示された神の律法の受容を証明したからです。このグループの中で、最も忠実で平和的なプロテスタントは、1843

年の春まで、その日から聖なる安息日の実施を義務化しただけの神の忍耐の恩恵を受けました。黙示録

2:24-25

はこの例外を確認します。あなたたち、テアティラにいる他のすべての人たち、この教義を受け入れず、サタンと呼ばれる深みを知らない人たちに、私はあなたたちに言います。他の重荷を自分自身に課さないでください。私が来るまで持っているものだけ持っていてください。

3b-

そして、群衆に正義を教える人たちは、永遠に星のように輝きます

。

この 2 番目のグループは、1843 年以來地上で高いレベルの聖化が示されているため、特別に区別されています。最初はイエス・キリストの再臨の希望に基づいて、信仰のテストによって選ばれ、その後 1843 年の春から 1844 年の秋、何世紀にもわたる暗闇、忘れ物、軽蔑の日々を経て、安息日を復活させたことによって、神による彼の聖化が正式に認められた。

この 2 つのグループへの分け方において、彼らを区別するのは、神の正義に対する彼らの状況、神の十戒やその他の健康やその他の儀式に対する彼らの立場です。出エジプト記 20:5-6 の原文では、ローマによって削除された第 2 戒めは、神がご自身の戒めに従うことの重要性を明らかに示しており、神は 2 つの道と 2 つの相反する最終運命を思い出させます。神様誰わたしを憎み、わたしの戒めに背く者たちには、父親の咎を三世代、四世代に至るまで罰し、わたしを愛し、わたしの戒めを守る者たちには千代に至るまで慈悲を与えてください。

星が存在する理由を明らかにしています。彼らには、神によって選ばれた地上の選ばれた人々の象徴としての役割を果たすためだけに存在する理由がありました。そして創世記 1 章 17 節は彼らのメッセージを明らかにしています。神は地に光を与えるために彼らを空の広がりにも置いたのです。次に、神は創世記 15 章 5 節で、それらを使ってアブラハムに彼の子孫の大勢を示します。それがあなたの子孫になります。

星のステータスは、救われた信者が行った働きに応じて変化する可能性があります。不従順によって霊的に墮落することによって、星が落ち、空から落ちます。このイメージは、黙示録 6 章 13 節の第 6 封印において、1833 年に実際の天の兆候によって発表された 1843 年のプロテスタント信仰の崩壊をイメージさせるように呼び起こされます。激しい風に揺れるイチジクの木は、緑のイチジクを飛ばします。そして再び黙示録 12:4 で、彼の尾は空の星の 3 分の 1 を引きずり、それらを地に投げました。このメッセージはダニエル 8:10 のメッセージを更新します。彼女は天の軍隊に立ち上がって、その軍隊の一部と星々を地に降ろし、彼らを踏みにじりました。聖霊は、救い出された信者の 3 分の 1 が霊的に墮落したのはローマ教皇政権のせいだとしています。キリストの救いを無駄に信じ、キリストの正義を主張するだまされた人々。

ダニエル

12:4ダニエルよ、あなたはこの言葉を秘密にして、終わりの時までその書を封じてください。そうすれば多くの人がそれを読み、知識が増えます。

4a-

この**終わりの時**はいくつかの連続した段階を知っていますが、公式には 1843 年の春に始まり、ダニエル 8:14 にあらかじめ書かれた神の布告の適用が開始されました。2300 年の夕方から朝まで、聖性は続きます。**正当化された。**

1994年、第二の終わりの時代は、普遍的なアドベンチスト組織の非難によって特徴付けられました。

1843年以来、ダニエル書は読まれてきましたが、2021年に私が準備を進めているこの本と、2020年からこの本を準備している以前には、正しく解釈されたことはありませんでした。したがって、この日が彼の知識の頂点を示すものであり、したがって、そこにあります。**終末の真の最終時**は、2030

年の春に知られ期待されているイエス・キリストの真の再臨によって終わることになります。全人類が死すべき運命に見舞われていることから、今年 2020

年がすでに神によって十分にマークされていることがわかります。新型コロナウイルスは2019年に中国に出現したが、教皇カトリックのヨーロッパでは2020年になってから出現した。2021年、ウイルスは変異し、罪悪感と反抗的な人類を襲い続けている。

アドベンチストの信仰の試みの図解

ダン

12:5そこで私、ダニエルが見ると、見よ、ほかに二人の男が立っていた。一人は川のこちら側に、もう一人は川の向こう側にいた。

5a-

覚えておいてください！ダニエルは人食いタイガーこと「ヒデケル」川のほとりにいます。しかし、川の両側に 2 人の男がいます。これは、1 人が川を渡ることができ、もう 1 人がその準備をしていることを意味します。すでにダニエル 8:13 で、二人の聖徒の間で議論が行われました。

ダン

12:6そこで、彼らのうちの一人が、川の水の上に立っている亜麻布を着た人に言った、「これらの不思議はいつ終わるのでしょうか。」

6a- ダニエル 8:14 では、聖徒たちの質問は神から 23:00 夕方から朝にかけての答えを受け取り、それによって1843

年の日付が決定されました。このアプローチはここでも繰り返されており、今回の質問は世界の終わりに関するものです。予言が役に立たなくなる

瞬間。質問は、川の上に立って人々が川を渡るのを観察している亜麻布を着たこの男によって表されたキリストに尋ねられます。神は、ヘブライ人を救い、エジプトの敵を溺死させた紅海横断のイメージを用いています。

ダニエル

12:7 わたしは、亜麻布を着た人が川の水の上に立っているのを聞いた。彼は右手と左手を天に上げ、永遠に生きている御方にかけて、いつかは終わりが来るだろう、そして、人々の力が尽きれば、これらすべてのことは終わるだろうと誓った。聖人は完全に壊れてしまいます。

7a-

そして、川の水の上に立っている亜麻布を着た男の声が聞こえました。彼は右手と左手を天に上げ、

仲裁者の立場で、イエス・キリストは祝福の右手と罰の左手を空に向けて上げ、厳粛な宣言をします。

7b-

そして彼は、永遠に生きる彼にかけて、いつか、何度か、そして半分になると誓った

キリストは、教皇の統治期間の預言的な期間を引用することによって、過去に自分の教会が教皇政権の圧政とそれに先立つ野蛮人の侵略の呪縛に苦しむことを非難したご自身の判決を示し、思い起こさせます。これは、321 年 3 月 7 日以来安息日が放棄されたためです。アドベンチストの裁判の時代の信者はこのように警告されています。しかし、第二の理由により、神はこの教皇の統治を呼び起こしました。これはその始まりである西暦 538 年の日付です。この 538 年という日付は、11 節と 12 節で新しい預言の期間を提示することによって、預言が私たちに提案する計算の基礎となるため、この選択は賢明です。

7c-

そして、聖なる民の力が完全に壊れたときに、これらすべてのことは終わるでしょう

大災害の終わりに、選ばれた人々は絶滅の危機に瀕し、地球上から根絶されることとなります。精度に注目してください：**完全に壊れています。**

ダニエル

12:8 聞いても分かりませんでした。そして私は言いました、「主よ、これらの結果はどうなりますか？」

8a- かわいそうなダニエル！

2021年に生きる人々にとって、彼の本の理解が依然として謎であるとすれば、この理解は彼自身の救いにとってどれほど手の届かないものであり、役に立たなかったことでしょう。

Dan

12:9彼は言った、「ダニエル、行きなさい。この言葉は終わりの時まで秘密にされ、封印されるからです。」

9a-

天使の返答はダニエルをお腹を空かせますが、それはキリスト教時代の終わりの時に予約されていた預言の遅い成就を裏付けます。

ダニエル

12:10多くの人は清められ、白くされ、洗練されるでしょう。悪人は悪を行います、悪人は誰も理解できませんが、理解力のある人は理解します

。

10a- 多くの人が清められ、白くなり、浄化されるでしょう

ここでダン

11

章

35

節の言葉に近い正確な引用を繰り返すことによって、天使は36節で自分自身をすべての神々

、さらには唯一の真の神よりも高く掲げる傲慢で専制的な王の教皇としてのアイデンティティを確認しています。

10b- 悪人は悪を行います、悪人は誰も理解できません。

、キリストの再臨までギリシャの罪の「真鍮」とローマの力の「鉄」の拡張によって悪の長期化がイメージされています。

。邪悪な人は二重に理解が妨げられます。第一に個人的な無関心によって、第二に、Ⅱテサロニケ

2:11-12

によると、神が与えて嘘を信じることを可能にする妄想の力によってです。**混乱の、**

それは、彼らが嘘を信じるためであり、真実を信じずに不義を喜んでいた者が、罪に定められるためである。

10c- しかし、理解のある人は理解するでしょう。

この例は、霊的知性が神から与えられた特別な賜物であることを証明していますが、その前に、すべての普通の人々に与えられている基本的な知性をうまく活用する必要があります。なぜなら、この基準においてさえ、人間は教育とその卒業証書を知性と混同しているからです。そこで私はこの違いを思い出します。命令によって人間の記憶にデータを入力できるようになりますが、データをうまく賢く使用できるのは知性だけです。

ダニエル

12:11~~絶え間ない犠牲が終わり、忌まわしい荒廃が確立される時から、千二百九十日ある。~~

11a- 永遠の犠牲が終わる時から

ヘブライ語の原文には「犠牲」という言葉は出てきません。そして、この永続的なものはイエス・キリストの天の神権に関係しているため、この正確さは非常に重要です。教皇は地上での執り成しを再現することによって、イエス・キリストから選ばれた人々の罪の執り成しとしての役割を取り除きます。

この横取りされた地上での奉仕活動は538年に始まります。称号を持つ最初の教皇であるヴィギリウス 1 世がローマのカエリウス山 (天空) のラテラノ宮殿に定住した^{日付}。

11b- そして忌まわしい荒廢が確立される場所

ダニエル書 9 章 27

節で引用されているローマ教皇の統治が始まる538 年以來です。

荒廢の忌まわしい行為、それは破壊に至るものであり、それは荒廢した[地]で、定められたもの[に従って]滅ぼされます。

この聖句では、538

年の日付を対象として、聖霊は教皇ローマのみを対象としており、これが「忌まわしい」という言葉の単数化を説明しています。これはダニエル 9:27

には当てはまらず、異教とその後の教皇というローマの両段階が関係していました。

この節で 2

つの事柄をグループ化することの興味と重要性に注目しましょう。ダニエル 8:11 のキリストへの「永遠の者の携挙」と、ダニエル 8 章 11 節で引用されている「忌まわしい荒廢」を運ぶ教皇の「翼」です。

9時27分。これら 2 つの行為を同じ日付 538 年と同じ実体に結びつけることによって、聖霊はこれらの悪行の作者が確かにローマ教皇であることを確認し、証明します。

ダニエル 11:31 では、ギリシャ王アンティオコス 4 世の行動とされ、神が「忌まわしい荒廢」と呼ぶものの典型的なモデルを示しています。教皇庁はそれを再現しましたが、それは 1260 年という血なまぐさい年月を要しました。

11c- あと千二百九十日になります。

終わりの時に関する引用された預言の期間を反証不可能にするために、ダニエルのすべての預言の数字の前に単位が置かれています: 1290 日; 1290 日。 1335 日(次の節)。ダニエル 8:14:夕方から朝にかけて 2300 ;そしてすでに Dan.9:24: 70 週目にあります。

実行する必要があるのは非常に単純な計算だけです: $538 + 1290 = 1828$ 。

、英国王室の出席の下、ロンドンのオルベリーパークで開催される 5 年間のアドベンチスト会議のうちの 3 回目を対象としているからです。

ダニエル12:12 千三百三十五日まで待つて到着する者は幸いである。

12a- この聖句だけが、これら 2

つの預言的な期間の意味を私たちに与えてくれます。テーマはキリストの再臨を待つことですが、聖書によって与えられた数値命題に基づいた特別な待ち方です。新しい計算が必要です: $538 + 1335 = 1873$ 。天使は、1828 年から 1873

年の間に達成されたアドベンチストの信仰の試みの始まりと終わりをそれぞれ示す 2

つの日付を私たちに示します。このようにして、私たちの注意は次のとおりです。

1843 年と 1844 年
年の日付は、まさに、イエス・キリストが米国、つまりプロテスタントの地に栄光の帰還を遂げると言う 2

回連続の期待の原因となったものでした。

「虎」川を渡るイメージの中で、虎が人間の魂を食べるという時代は1843年から1844年であり、この時代は無礼なプロテスタントを精神的な生から精神的な死へと移行させます。一方、テストに合格した人は、この危険な交差点から生きて神の祝福を受けて生還します。彼は神から次のような特別な至福の言葉を受け取りました。 »

Dan

12:13そして、あなたは終わりに向かって歩きなさい。あなたは休み、世の終わりには自分の相続財産のために立ち上がるだろう。

13a-

ダニエルは、最初の復活の後、彼が私たちに伝えたすべてのことの意味を発見します。しかし、まだ生きているアドベンチストにとって、彼の教えはヨハネの黙示録に含まれる啓示によって補足されるでしょう。

ダニエル書はその莫大な富をうまく隠しています。私たちはここで、主が終わりの日に選ばれた者たちに語られる励ましの教訓に注目しました。なぜなら、この終わりの日は、地球上の人類の歴史全体を通して蔓延してきた恐怖と不安の標準に戻るからです。最後になりますが、選出された役人たちは選び出され、ダニエル書 11:40-45 と黙示録 9:13 で発表されている第三次世界大戦の反抗的な生存者に降りかかるであろう不幸の責任を負わされることになります。エゼキエル書 14 章には、ノア、ダニエル、ヨブという信仰の標準的なモデルが示されています。ノアのように、私たちは神への忠実さの箱舟を建てることによって、世界の思想の流れから逃れ、抵抗しなければなりません。ダニエルのように、私たちも偽りの宗教によって確立された基準を拒否して、選挙で選ばれた役人としての義務を果たすことにしっかりと決意し続けなければなりません。そして、ヨブのように、私たちは神が許すときはいつでも、ヨブよりも有利な立場で、肉体的および精神的な苦しみを受け入れなければなりません。彼の経験を通して、私たちは神がなぜこれらの試練を許すのかを学びました。

ダニエル書はまた、目に見えない天上の生命についてより深く理解することを可能にしました。これは、「神の顔を見る人」を意味するガブリエルという名前のキャラクターを発見することによって起こります。彼は神の救いの計画のすべての重要な使命に臨在しています。そして私たちは、神の日の栄えの王国において、彼とすべての善良な天使たちは、ミカエルが

地上に受肉した期間、すなわち35年間、神の天使の表現であるミカエルの臨在を奪われていたことを認識しなければなりません。愛を大きく分かち合うことで、ミカエルも自分の権威を分かち合い、単に「主要な指導者の一人」であることに同意します。しかしガブリエルはまた、選ばれた者の中から選ばれた者であるダニエルに彼を「あなたの民の指導者」として紹介しました。そして、Dan.9

は、イエスが忠実な選民を救うために成し遂げられるすべてのことを私たちに非常に明確に明らかにします。このように神の救いのプロジェクトは明確に発表され、30年4月3日にイエス・キリストの磔刑によって達成されました。

ダニエル書は、信仰は大人によってのみ実証できることを示しました。そして神様によれば、子供は13歳になると大人になるそうです。したがって、すべての偽りの宗教では、幼児洗礼と宗教的誕生の継承によってもたらされる苦い果実しか見ることはできません。イエスはマルコ 16:16でこう言われました。信じてバプテスマを受ける者は救われます。信じない者は誰でも罪に定められます。したがって、これは、バプテスマの前に信仰が存在し、実証されなければならないことを意味します。洗礼の後、神は彼女を試しました。また、ダニエル書で明らかにされたもう一つの真珠は、マタイ 7:13

のイエスの次の言葉が確認されています。「狭い門を通過して入りなさい」。門は広く、滅びに至る道も広いから、そしてその道を通り過ぎる人もたくさんいます。そしてマタイ 22:14にもこうあります。というのは、多くの人は召されますが、選ばれる人はほとんどいないからです。ダニエル 7:9によれば、100億たった100万について神に責任を問うよう求められた。なぜなら、彼らは聖霊におけるキリストにおいて創造主である神に真によく仕えているからである。

は、黙示録の時間区分の基礎となる、隠され示唆されていた 538年、1798年、1828年、1843年から1844年の日付と1873年を思い出すことによって、黙示録という本の構造の基礎を築いたところ。もう1つの日付、1994年には、ある人の不幸と他の人の幸福のために建てられます。

預言的象徴主義の紹介

すべての聖書の寓話において、聖霊は地上の要素を使用しており、その特定の基準は共通の基準を示す匿名の存在を象徴することができます。したがって、使用されている各シンボルは、そこから神によって隠された教訓を引き出すために、そのあらゆる側面から検討されなければなりません。たとえば「海」という単語を考えてみましょう。創世記 1 章 20 節によると、神はこの地に、数え切れないほどの、無名のあらゆる種類の動物を住まわせました。空気を吸って生きている人間にとって、その環境は致命的だ。したがって、当然のことながら、地球を不毛にするその塩分を恐れることもある人間にとって、それは死の象徴となります。明らかに、このシンボルは人類にとって好ましいものではなく、その死を意味するため、神は洗礼の水の前兆であるヘブライ語の清めのタンクにその名前を与えるでしょう。さて、バプテスマを授けるということは、イエス・キリストに浸り、溺れて死んで再びイエス・キリストに生きることを意味します。理不尽な老人がキリストの義を担って復活する。私たちはそこに、神の創造の単一要素である海が持つ豊かさのすべてを見るのです。この教えに基づいて、私たちはダニエル 7:2-

3の次の聖句に神が与えておられる意味をよりよく理解できるようになります。そして、それぞれ異なる四匹の偉大な獣が海から現れました。

「天の四風」は、勝利した民族を支配的な権力に導く世界的な戦争を暗示していることを知ってください。ここで「大海」とは、神を敬わない異教の人々の人間集団を象徴しており、彼らは神の目には「海」の動物と同等であると考えられています。

「天の四風」という言葉の「四」は、東西南北の4つの基本点を表します。

「天の風」は空の様子に変化をもたらし、雲を吹き、嵐を引き起こし、雨をもたらします。雲を押し分け、太陽の光を促進します。同様に、戦争は社会に大きな政治的変化、大変動を引き起こし、神によって選ばれた新たな勝利者に支配権を与えますが、彼らは神の祝福を受けません。

「動物」として指定されているため、彼には真の人間に提供されるはずの祝福を受ける権利がありません。アダムとイブ以来、そして世界の終わりまで神の光の中を歩む忠実な選ばれた者たちです。そして、その選出された役員は誰なのでしょう？ 創世記 1 章 26 節に従って人間が神の似姿に造られて以来、神が自分の似姿を認識している人々。この違いに注意してください。人間は神によってその姿に似せて作られ、または創造されますが、動物は海、陸、天の環境、神が与えた命令によって生み出されます。動詞の選択はステータスの違いを表します。

earth 」という単語を考えてみましょう。創世記 1:9-10 によれば、この「地」という名前は「海」から出てきた乾いた地面に与え

られています。神が黙示録 13
章でカトリック信仰から生まれたプロテスタント信仰を象徴するために利用されるイメージ。しかし、「地球」の他の側面を見てみましょう。それが人間に栄養を与えるときは人間にとって有利ですが、乾燥した砂漠の形をとるときは不利です。したがって、人間にとって祝福となるかどうかは、空からの適切な水やりにかかっています。この水やりは、川を横切る川から来ることもあります。聖書の中で神の言葉自体が「生ける水の泉」に喩えられるのはこのためです。この「水」の有無が「地球」の性質を決定し、霊的には75%が水で構成される人間の信仰の質を決定します。

3

番目の例として、空の星を考えてみましょう。まず、「太陽」ですが、ポジティブな面では、それは照らします。創世記 1 章 16
節によれば、それは「月」の光であり、人間が食物を作る植物を温め、成長を促進します。マイナス面としては、過剰な暑さや雨不足により作物が焼けてしまいます。ガリレオは正しかった。ガリレオは私たちの宇宙の中心にあり、その系のすべての惑星はその周りを回っている。そして何よりも彼は最大であり、聖書は創世記 1 章 16
節で彼を「最も偉大な」、最も魅力的であり、手の届く価格ではないと述べています。これらすべての基準により、彼はこれらすべての特徴が見出される神の完璧な像となります。

「太陽」に足を置くことができないのと同じように、誰も神を見て生きることはできません。唯一の男性的な星であり、他の星はすべて惑星か女性化された星です。彼の後には、「月」、「最も小さいもの」が続きます。創世記 1 章 16

節によれば、それは夜の光、彼が主宰する暗闇の光です。したがって、「月」にはネガティブなメッセージしかありません。私たちに最も近い星でありながら、その隠された側面は長い間謎に包まれてきました。それ自体は光りませんが、他のすべての惑星と同様に、「太陽」から受け取るかすかな光を、漸進的なサイクルで私たちに送り返します。これらすべての基準からすると、「月」は、第一にユダヤ教を、第二に、538年から現在に至るまでのローマ・カトリック教皇庁という偽キリスト教の宗教、そしてルーテル派プロテスタント、カルビン派、聖公会を表すのに最適なシンボルである。空には「星」もあり、創世記 1:14-15-17

によれば、それらは「太陽と月」と共有する2つの役割を持っています。」、そして「地球を照らす」ということです。それらのほとんどは、夜間の暗闇のときにのみ輝きます。それは、預言によって彼らが墮落したとされるまで、神の僕たち、真の僕たちを表す理想的なシンボルです。それは彼らの霊的状态の変化を示しています。これは、ダニエル書 8:10
と黙示録 12:4

にあるローマの嘘の犠牲者であるキリスト教の墮落を呼び起こすために神が用いるメッセージとなるでしょう。そして黙示録 6:13 と 8:12

にある普遍的プロテスタント主義の崩壊。孤立した「星」は黙示録 8:10-11
 ではカトリック教皇制を、黙示録 9:1
 ではプロテスタントの信仰を示しています。そして、黙示録 12:1
 にある勝利した選ばれた議会である 12
 の数に冠をかぶって集まりました。ダニエル 12:3
 は、彼らを「群衆に義を教える者たち」、つまり神から与えられた光で「
 地を照らす者たち」の象徴としています。

これら 5
 つのシンボルは黙示録の預言において重要な役割を果たします。したがっ
 て、提示されたシンボルの基準によって伝えられる隠されたメッセージを
 発見する練習をすることができます。しかし、中には発見が難しいものも
 あるため、神ご自身が聖書の一節で謎の鍵を示しています。たとえば、「
 頭と尾」という言葉は、神がイザヤ書 9
 章で与えた意味によってのみ理解できます。
 14章には、「判事や長老が頭であり、嘘を教える預言者が尾である。」と
 書かれています。しかし、13
 節では、「ヤシの枝と葦」という言葉が並行して提案されており、したが
 って同じ意味を持ちます。黙示録 11:1 でローマ教皇権を表す「葦」。

数字や数値には象徴的な意味もあります。基本的なルールとして、
 昇順で次のようになります。

数字「1」の場合：独自性（神聖または数値的）

数字「2」の場合：不完全。

数字の「3」：完璧。

数字の「4」：普遍性（4つの基本点）

数字の「5」の場合：男性（男性または女性の間）。

数字の「6」の場合：天の天使（天人または使者）。

数字の「7」の場合：満腹。（別名：創造神の印章）

この図の上には、最初の 7
 つの基本数字の加算の組み合わせがあります。例: $8 = 6+2$; $9 = 6+3$; $10 = 7+3$;
 $11 = 6+5$ および $7+4$; $12 = 7+5$ および $6+6$; $13 = 7 +$
 6 。これらの選択には、黙示録のこれらの章で扱われるテーマに関連して
 霊的な意味があります。ダニエル書の第 2 章、第 7 章、第 8 章、第 9
 章、第 11
 章、および第 12
 章には、メシアによるキリスト教の時代に関する預言的なメッセージが記
 されています。

使徒ヨハネに啓示された本「黙示録」では、章番号の象徴的な暗号
 が非常に明らかです。キリスト教時代は 2
 つの主要な歴史部分に分けられます。

数字の「2」が付いた最初のもは、異教のローマ皇帝コンスタン
 ティヌスによって321年3月7日以来確立された宗教規範の継承者であるロ

ーマ・カトリック教皇庁によって538年から代表されるキリスト教信仰の教義上の「不完全さ」の大部分をカバーしています。私。第 2 章では、94 年から 1843 年までの期間全体がカバーされます。

数字「3」で表される第2の部分は、1843年からの「アドベンチスト」の時代、ダニエル書第8章14節に引用されている神の布告によって預言されたプログラムに従って回復される使徒の教義の「完全性」を神が要求する時代に関するものである。この完全性は、2030 年の春に予想されるキリストの再臨まで徐々に達成されるでしょう。

7 という数字の上にある 8 という数字 2+6 は、不完全な時代 (2) や悪魔的な業 (6) を思い出させます。3+6 という数字の 9 は、完璧な時代 (3) と、同様に悪魔的な業 (6) を示しています。3+7 という数字 10 は、神の働きが完全になる (3) こと、充実する (7) ときを預言します。

「11」、つまり主に 5+6 という数字は、人間 (5) が悪魔 (6) と関連付けられていたフランスの無神論の時代をターゲットにしています。

数字の「12」、つまり 5+7 は、人間 (5) と創造主の神 (7 = 豊かさ) との関係を明らかにしています。

「13」または 7+6 という数字は、悪魔 (6) と関連付けられたキリスト教の宗教の充実 (7) を示します。最初は教皇 (海)、終わりの日はプロテスタント (陸)。

「14」または 7+7 という数字は、アドベンチストの活動とその普遍的なメッセージ (永遠の福音) に関係しています。

「15」という数字、つまり 5+5+5 または 3x5 は、人間 (3) 完璧 (5) の時間を思い出させます。それは恵みの時の終わりを告げるものです。霊的な「小麦」は収穫され、天の納屋に保管されるのに適しています。選民の準備は神の要求するレベルに達したので完了します。

第13章で神が宗教上の敵である不忠実なキリスト教に「怒りの最後の7瓶」を注ぐ時に関するものです。

神による「大娼婦の裁き」の象徴からとられています。聖書の中で、この象徴的な数字が最初に使用されたのは、年の最初の月の 10 日に始まり 17 日に終わる復活祭の週に関するものです。

「神の子羊」イエス・キリストの死までの日数のレベルで文字どおりに達成された過越祭は、ダニエル書 9:24 ~ 27 の「70 週」の70 番目に日単位で預言されています。したがって、27 節の第70週の預言は、日付 26 から 33 までの 7 年間をカバーしています。預言が示す目標は、この 7 年間の預言週の「真ん中」、春に位置する過越祭です。ダニエル書 9:27 に引用されています。

最後の真の「アドベンチスト」にとって、17 という数字は、321 年 3 月 7 日に定められた罪であるローマの主日の 17

世紀にわたる実践に関係することになります。この 17
世紀の終わりの記念日である 2021 年 3 月 7
日は、「ローマの時代」の始まりとなりました。終わり」はダニエル書
11:40

で預言されています。この「時」は、黙示録9章13節から21節で啓示され
ている「第6のラッパ」によって神によって預言されている、第三次世界
大戦を示すこの最後の警告刑の履行に有利である。 -19
ウイルスにより、2020年(2020年3月20日から2021年3月20日)
は天罰が始まった年となります。

大いなるバビロン」の懲罰です。

第 19
章は、イエス・キリストの栄光の再来と人間の反逆者との対決の文脈を対
象としています。

第 20
章は、悪魔が囚われている荒れ果てた地上と、神に拒絶された邪悪な死ん
だ反逆者の生涯と行為を選民が裁き続ける天上で、第 7
千年紀を思い出させます。

第 21 章では、3x7
の象徴性、つまり、地上から救い出された選ばれた者に再現された神の聖
化(7)の完全性(3)が見出されます。

したがって、この預言は、黙示録3章、7章、14章=2x7および21
章 =3x7 (聖化の完成に向けた成長)
にあるアドベンチズムの選出をテーマとしていることがわかります。

「22章」は、再生され新しくなった地球上に、神がご自身の王座と
永遠の王国の選出者を据える時を開始します。

アドベンチズム

では、神の息子や娘たちは誰なのでしょう？この文書は、この神
の啓示が神によって「アドベンチスト」クリスチャンに宛てられたもので
あるという望ましい証拠をすべて提供するので、すぐにそう言ったほうが
よいでしょう。好むと好まざるにかかわらず、神のご意志は主権を有して
おり、ダニエル書

8章14節で預言されている法令が発効した1843年の春以来、「セブンスデー・アドベンチスト」基準は今でも神との関係を結ぶ唯一のチャンネルとなっています。そして彼の人間の召使たち。でも気をつけてください！この規範は絶えず進化しており、神のご意志によるこの進化の拒否により、19

94
年以来、その公式の制度的表現はイエス・キリストによって吐き出されてきました。

アドベンティズムとは何ですか？この言葉はラテン語の「アドベントゥス」に由来しており、「出現」を意味します。イエス・キリストが御父の栄光の中で最後の大いなる再臨をされることは、1843 年の春、1844年の秋、そして 1994

年の秋に期待されてきました。これらの誤った期待は神の計画に備えられていましたが、それでも深刻な結果をもたらしました。結果：

これらの預言の発表とその期待を軽蔑した人々にとって、それらは偉大な創造主である神によって主権をもって組織されたものであるため、悲劇的な霊的結末を意味します。したがって、この文書の中でイエス・キリストが提案した光を認識する人は誰でも、直接の結果として、「七日目の」「アドベンチスト」になるでしょう。たとえ人間の間ではなくても、これは神の場合です。これは、彼が初日の宗教的な休息を放棄するとすぐに、世界の創造以来神によって神聖化された安息日と呼ばれる7日目の残りを実践することです。神に属するという事は、補完的な神の要求を意味します。安息日とともに、選出されたアドベンチストは、自分の肉体も神の所有物であることを認識しなければならず、そのため、貴重な神の所有物、肉の聖域として肉体に栄養を与え、世話をしなければなりません。なぜなら、神は創世記 1 章 29

節で人間の理想的な食事を次のように定めたからです。種を生む木の実、これがあなたの食べ物になります。」

アドベンチストの思想は、神によって啓示されたキリスト教の計画と切り離すことができません。イエス・キリストの再臨は、数多くの聖書の引用文の中で言及されています。詩篇 50:3:

「**私たちの神は来られます。彼は沈黙しておられません。彼の前には焼き尽くす火があり、彼の周りには激しい嵐があります。**」詩篇 96:13: 「...**主の前に！彼は来るから、彼は地球を裁くために来るからです。彼は義をもって世を裁き、その忠実さに従って民を裁くであろう。**」；イザヤ書 35:4:

「**心の悩みを抱えている人たちに言いなさい。勇気を出しなさい。恐れるな。**」ここにあなたの神がいます、復讐が起こり、神の報復が起こります。**彼自身が来てあなたを救います。**」ホセ 6:3:

「**私たちは知りましょう。主を知るよう努めましょう。その到来は夜明けの到来と同じくらい確実である。彼は雨のように、大地を潤す春の雨のように、私たちが迎えに来るでしょう。**」新しい契約の聖文には次のよう

間違いを犯さないようにお願いします。神の計画に適応しなければならないのはあなたです。全能者はあなたの視点に適応しないからです。光の拒否は大罪であり、救済策はありません。イエス・キリストが流した血はそれを覆い隠しません。この重要な括弧を閉じて、発表された「災難」に戻ります。

黙示録の物語に近づく前に、一般に、なぜ神の靈感による預言が私たち人間にとって最も重要であるのかを説明しなければなりません。なぜなら、預言の知識や軽蔑は永遠の命か永遠の死をもたらすからです。その理由は次のとおりです。人間は安定を好むため、変化を恐れます。その結果、彼はこの安定を守り、自分の宗教を伝統に変え、目新しさの側面で現れるすべてを捨てました。これが、古い神聖同盟のユダヤ人たちが最初に行動し、破滅に至った経緯であり、イエスは黙示録2:8 と 3:9 で彼らを「サタンの会堂」であるとためらうことなく非難しました。彼らは、父祖たちの伝統を守ることによって、神との関係を何とか守ることができると信じていました。しかし、この場合はどうなるのでしょうか？人間はもはや神が語ることに耳を貸さず、神に自分の話を聞いてほしいと願います。このような状況では、神はもはや自分の説明を見つけることができません。なぜなら、神ご自身の性格や判断力が永遠に変わらないことが本当であるならば、神の計画が絶えず成長し続けていることもまた事実であるため、なおさらです。常に変わっている。この考えを裏付けるのは、次の1 つの聖句だけで十分です。 (箴言

4:18) 「この聖句の「道」は、イエス・キリストに体现された「道」に相当します。これは、キリストへの信仰の真理も、神の選択に従って、神の計画に従って、時間の経過とともに進化することを証明しています。永遠の候補者は、イエスが自分たちに語られた次の言葉にふさわしい意味を与えるべきです。「私の作品を最後まで守り続ける者に、私は与えます...

(黙示録2:26)」。多くの人は、学んだことを最初から最後まで続ければ十分だと考えています。そしてこれはすでに国民的ユダヤ人の誤りであり、タラントのたとえにおけるイエスの教訓でもあった。しかしこれは、真の信仰は、いつでもどんな時でも、口から出るこの食物を子供たちに与えるよう気を配ってくださる生ける神の御霊との永続的な関係であることを忘れることです。神の言葉は聖書の聖典に限定されません。神の言葉の後には、生きた「ロゴス」が永久に残り、言葉は一時的に肉体となり、キリストは聖霊によって作用して、彼を持つ人々との対話を続けます。魂を込めて彼を愛し、求めなさい。私がこれらのことを証言できるのは、私と同じように新しい光を愛する人々と分かち合う、新しい光への貢献から個人的に恩恵を受けてきたからです。天から受け取った新しさは、その明らかにされたプロジェクトに対する私たちの理解を常に改善してくれます。そ

して私たちは、時代遅れの解釈が時代遅れになったときに、どのように判断し、それを放棄するかを知らなければなりません。聖書は私たちに次のように勧めています。良いものをしっかり持ちなさい。(テサー5:21)。

神の裁きは、神の神託の選出された寄託者に靈感を受けて明らかにされた光のこの進歩的な進化に継続的に適応されます。このように、伝統を厳格に尊重することは損失をもたらします。なぜなら、それが人類が世界の終わりまで徐々に明らかになる貯蓄プログラムの進化に適応することを妨げるからです。宗教の領域でその真価を発揮する表現があります。それは、「現在の真実」または「現在の真実」です。この考えをよりよく理解するには、使徒の時代に完全な信仰教義があった過去を振り返る必要があります。その後、預言された極度の暗闇の時代に、使徒の教義は二人の「ローマ」の教義に置き換えられました。帝国と教皇、悪魔のために用意された同じ神聖な計画の二段階である。したがって、改革の働きには、偽りの教義を根こそぎにし、破壊された使徒教義の良い種を植え直すことが含まれるため、改革の働きはその名にふさわしいものである。神は忍耐強く、ご自身の光が完全に回復されるよう、多くの時間を与えてくださいました。存在しないために反応しない異教の神々とは異なり、創造主である神は永遠に生きており、その反応とその比類のない行動によってご自身の存在を示します。人間にとって残念なことに、それは厳しい罰を装ったものでした。自然を指揮し、稲妻、雷鳴、電光を導き、火山を目覚めさせ、罪ある人類に火を噴かせる者、地震を引き起こし、破壊的な津波を引き起こす者は、また、選出された役人の心の中でささやきに来る者でもある。彼がずっと前に事前に発表していたように、彼のプロジェクトの進捗状況、彼が何を準備しているのか。アモス 3:7 によれば、「主なる神は、そのしもべである預言者たちにその秘密を明らかにするまでは、何もなさらないのです。」

黙示録の初見

主イエス・キリストの使徒ヨハネは、プレゼンテーションの中で、神がビジョンの中で与えてくださるイメージと、彼が聞くメッセージについて説明しています。ギリシャ語「黙示録」の翻訳である黙示録は、見た目だけではありますが、何も明らかにしていません。なぜなら、それを読んだ多くの信者には理解できない神秘的な側面が保たれているからです。謎が彼らを落胆させ、彼らは明らかにされた秘密を無視するようになりました。

神は理由もなくこれを行うわけではありません。このように行動することによって、神はご自分の黙示録がいかにかに神聖なものであり、そのため、それが選ばれた者のみを対象としたものであるかを私たちに教えてください。そして、ここはこの問題について明確にするのが適切なところである、彼が選んだ者たちは、そう主張する人々ではなく、もっぱら彼自身が自分のしもべであると認めた者たちである、なぜなら彼らは忠実さと従順さによって偽りの信者として目立つからである。。

「イエス・キリストの啓示。神はすぐに起こらなければならないことをその僕たちに示すために彼に与え、そして神は天使を遣わして僕ヨハネに知らせた。ヨハネは神の言葉とイエス・キリストの証しを証した」、彼が見たすべて。（黙示録 1:1-2）。

ですから、ヨハネ

14:6

で次のように宣言した人は、「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしは道であり、真理であり、命である。私を通してでなければ、誰も父のもとに来ません」と彼は、黙示録、啓示を通して、神の名のもとに提供され提案された永遠の命を得ることができる真理の道を、しもべたちに示すためにやって来ます。したがって、それを受け取るにふさわしいと彼が判断した者だけがそれを得ることができます。イエスは、地上での宣教を通して真の信仰の模範となるものを具体的に示した後、ご自分とその自発的な贖いの犠牲にふさわしい人々を、イエスが彼らの前で歩まれたこの模範的な道に真に献身したという点で認識するでしょう。神への奉仕に対する彼の完全な奉獻が提案された基準です。もしあるじがピラトにこう言ったとしたら、「...私は真理の証しをするためにこの世に来ました... (ヨハネ18:37)」この同じ世界で、主に選ばれた者たちは同じことをしなければなりません。

すべての謎には説明がありますが、それを入手するには、秘密へのアクセスを開閉するキーを使用する必要があります。しかし、表面的に好奇心を持っている人にとっては残念ながら、主な鍵は神ご自身です。彼は自分の都合に合わせて、間違いのない完全に公正な判断に従って、人間の知性を開いたり閉じたりします。この最初の障害により、啓示された本は理解不能になり、聖書は一般に、偽信者の読書にさらされると、宗教的なアライバイの記事の集合体になってしまいます。そして、これらの偽信者は非常に多く存在するので、マタイ 24:5-11-24 とマタイ 24:5-11-24 によれば、イエスは地上で、世の終わりまで現れる偽キリストについての警告を何倍にも増していました。

.7:21から23で、彼は自分を求めて叫ぶ人々の誤った主張に対して警告しています。

したがって、黙示録は、父なる神と、唯一の創造主である父から来る聖霊のうちにイエス・キリストによって認められた真の信仰の歴史の啓示です。この真の信仰は、暗黒世紀にわたる極度の宗教的混乱の時代を経験する選ばれた者たちに資格を与えます。この状況は、創世記 1 章 15 節によれば、それらと同じように、「地を照らすために」暗闇の中で輝くため、神がたとえ瞬間的であっても、ご自身が認めた選民に与えられた星の象徴を正当化します。 »

黙示録の 2 番目の鍵は、古い契約の書の 1 つである預言者ダニエルの書に隠されており、黙示録11:3 で引用されている神の「二人の証人」の最初の部分を構成しています。2つ目は黙示録と新しい契約の書です。イエスは地上での宣教中に、この預言者ダニエルに弟子たちの注意を向けました。ダニエルの証言は、ユダヤ教の聖典「律法」の歴史書に分類されています。

神の啓示は

2

つの霊的な柱の形をとります。ダニエルの本とヨハネに与えられた黙示録の本が相互に依存しており、補完し合って、二本の柱のように、神からの天の啓示の中心を担っているのは、まさにその通りです。

したがって、黙示録とは、神がこの節で次のように定義している真の信仰の物語です。「預言の言葉を読む人、聞く人、そしてそこに書かれていることを守る人は幸いです。その時が近づいているからです(黙示録1:3)。」

「読む」という動詞は、神にとって、読まれたメッセージを理解するという事実と関連付けられる正確な意味を持っています。この考えはイザヤ書

29:11-12

に表現されています。「すべての啓示は、読み方を知っている人に与えられる、『これを読んでください!そして誰が答えるのか:それは封印されているので、私はできません。あるいは、読み方を知らない人に「これを読んでください!」と言って渡す本のようなものです。そして誰が答えますか、「読み方がわかりません。」これらの比較によって、聖霊は、イザヤ書29:13

によると、「口と口では神を敬っているが、心は神から遠く離れている」人々のために暗号化された神のメッセージを理解することが不可能であることを確認しています。人々は私に近づき、口と唇で私を敬います。しかし彼の心は私から遠く離れており、彼が私に対して抱いている恐怖は人間の伝統に過ぎない」。

3

番目のキーが最初のキーに結合します。それはまた、ご自分の選民の中から、イエス・キリストにおいてご自分の兄弟姉妹を啓蒙する預言を「読む」ことができる人を主権的に選ぶ神にも見られます。というのは、パウロはコリント人への手紙第一

12

:28-29

で次のように回想しているからです。助けたり、統治したり、さまざまな言語を話したり。みんな使徒なの?みんな預言者なの?彼らは全員医者ですか?」。

神に導かれた秩序では、人間の個人的な決定によって即興で預言者として行動することはありません。すべてはイエスがたとえ話で教えたとおりに起こっています、私たちは急いで舞台の前で一番前に立つべきではなく、逆に、必要であれば部屋の後ろに座って待っていなければなりません。

、神が私たちを最前列に招待していること。私は彼の作品で特定の役割を望んでいたわけではなく、黙示録で読んだこれらの奇妙なメッセージの意味を理解したいという強い欲求だけがありました。そして、私が意味を理解する前に、ビジョンの中で私を呼んだのは神でした。したがって、私が

紹介する作品の並外れて明るい性格に驚かないでください。それは真の使徒的使命の成果です。

したがって、コードで明らかにされたその秘密を理解できないのは正常であり、神によって確立された順序では予期されています。無知は、与えられた光を拒否した結果でない限り、過失にはなりません。この任務のために彼が預言者を通して明らかにすることを拒否した場合、神の宣告は即座に下されます。それは関係、保護、そして希望の断絶です。このように、宣教預言者ヨハネは、終わりの時に神から暗号化された幻を受け取りましたが、今日、別の宣教預言者がダニエルと黙示録の解読された幻をあなたに提示し、その崇高な明快さを通じて神の祝福のすべての保証をあなたに提供します。この解読には、唯一の情報源である聖書、聖書以外の何ものでもない、聖書全体が聖霊の光の下に置かれます。神の関心と愛は、終末の時代には稀少となった、従順な子供のような最も単純な人間に集中しています。神の思想を理解することは、神とその僕の間で熱心な協力によってのみ達成できます。真実は盗むことはできません。彼女はそれに値する。それを愛する人々は、神聖な輝き、果実、最愛の崇拜される主のエッセンスとして受け入れます。

ダニエル書と黙示録によって補完的な方法でもたらされた偉大な黙示録の完全な構造は巨大で、一見複雑です。なぜなら実際には、神はしばしば同じ主題を、異なる相補的な側面や詳細の下で言及するからです。今日、この主題について私が習得しているレベルでは、明らかにされた宗教の歴史は、実際には非常に簡単に要約できます。

4

番目の鍵はまだ残っています。それは私たち自身です。私たちは選ばなければならないからです。なぜなら、私たちの魂と人格全体が、神の善と悪に関するすべての概念を神と共有しなければならないからです。誰かが自分に属さない場合、彼は何らかの点で自分の教義に異議を唱えることは確実です。輝かしい黙示録は、選ばれた人々の聖化された心の中でのみ鮮明に現れます。真実は、交渉の余地のないものであり、そのまま受け取るか放置しなければならないものです。イエスが教えたように、すべては「はい」か「いいえ」で決まります。そして人間が付け加えるものは悪しき者から来ます。

神が要求する基本的な基準は依然として残っています。それは完全な謙虚さです。仕事に対する誇りは正当ですが、誇りは決して存在しません。「神は高慢なものに抵抗する」しかし、神は謙虚な者たちに恵みを与えてくださいます(ヤコブ4:6)。」高慢は悪魔の滅亡を引き起こし、自分自身と神の天と地のすべての被造物に恐ろしい結果をもたらす悪の根源であるため、高慢な存在がキリストにおいて選ばれることは不可能です。

謙虚さ、真の謙虚さは、私たちの人間の弱さを認識し、「私なしではあなたは何もできない(ヨハネ15:5)」というキリストの言葉を信じることから成ります。この「何も」の中には、主に、コード化された預言的

スト教の信仰は、帝国と教皇の2つの連続した段階で不倶戴天の敵と遭遇します: Dan.2 :40 43まで。 7:7-8-19~26。 8:9-12; 11:36-40; 12:7; Rev.2; 8:8-11; 11:2; 12:3から6-13から16。 13:1-10; 14:8。

1170 年からキリストの再臨までの宗教改革の働き (ピエールヴァルド): アポ 2:19-20-24 から 29。 3:1から3。 9:1-12; 13:11~18。

1789 年から 1798 年の間、フランス革命的無神論に対する懲罰的行動: 黙示録 2:22。 8:12; 11:7-13。

ナポレオン 1 世の帝国: Apo.8:13。

1843 年からのアドベンチスト信仰の試練とその結果: ダニエル 8:14。 12:11-12; Rev.3.伝統的なプロテスタンティズムの崩壊: 黙示録 3:1 ~ 3。彼の罰: 黙示録 9:1 ~ 12 (⁵ 番目 トランペット) 。祝福されたアドベンチスト開拓者たち: 黙示録 3:4-6。

1873 年から、普遍的なセブンスデーアドベンチスト制度の公式の祝福: ダニエル 12:12。 黙示録 3:7。 神の封印: 黙示録7。その普遍的な使命または三人の天使からのメッセージ: 黙示録 14:7 ~ 13。

1994 年以降、預言的信仰の試練を受けて、制度的なアドベンチスト信仰は崩壊しました: 黙示録 3:14 ~ 19。その結果: アドベンチストは 1844 年以來拒否されてきたプロテスタント陣営に加わりました: 黙示録 9:5-10。彼の罰: 黙示録 14:10 (彼も酒を飲むでしょう...)。

2021 年から 2029 年の間、第三次世界大戦: ダニエル 11:40 ~ 45。 黙示録 9:13 ~ 19 (第⁶章) トランペット) 。

2029年、集団と個人の恵みの時代が終わる: Apo.15。

普遍的な信仰の試練: 日曜日の律法が課せられる: 黙示録12:17。 13:11-18; 17:12-14;最後の七つの災い: 黙示録16章。

2030 年春、「ハルマゲドン」: 死の宣告とキリストの栄光の再臨: ダニエル 2:34-35-44-45。 12:1;黙示録13:15。 16:16。第7 のラッパ: 黙示録 1:7; 11:15-19;最後の七番目の災い: 黙示録 16:17 。選ばれた者の収穫または携挙: 黙示録 14:14 ~ 16。偽りの宗教教師の収穫または罰: 黙示録 14:17 ~ 20。 16:19; 17; 18; 19:20-21。

2030 年の春から、神とその選民のための第 7 千年紀または大安息日が始まります。敗北し、サタンは千年間荒廃した地に鎖につながれます。黙示録 20:1 ~ 3。天国では、選民が墮落した者を裁きます。ダニエル 7章: 9; Rev.4; 11:18; 20:4-6。

3030年頃、最後の審判:選ばれし者の栄光:Apo.21。地上での第二の死: ダニエル 7:11。 20:7 ~ 15。新しくなった地について: 黙示録 22 章。ダニエル 2:35-44。 7:22-27。

預言におけるローマの象徴

予言のあいまいな側面は、同じ存在に関するものであるにもかかわらず、異なるシンボルの使用に基づいています。したがって、それらは互いに排除するのではなく、補完的になります。これにより、神はテキストの神秘的な側面を保持し、対象となる主題のさまざまな側面をスケッチで構築することができます。主な標的であるローマも同様だ。

Dan.2では、像のビジョンの中で、それは「鉄の足」のシンボルを持つ第4の帝国です。

「鉄」はその厳しい性格とラテン語のモットー「DVRA LEX SED LEX」を反映しています。これは「法律は厳しいですが、法律は法律です」と訳されます。さらに、「鉄の脚」は、胴体、頭、肩、腕、足に鉄の胸当てを身に着け、長く組織的で規律ある縦隊を組んで徒歩で進むローマ軍団の姿を思い起こさせます。

Dan.7 では、共和制と帝政という異教の 2
つの段階にあるローマは、依然として「鉄の歯を持った恐ろしい怪物」として描写される第 4
の帝国です。彼女の歯の鉄は、彼女をダンの鉄の脚に接続します。また、ローマ帝国の崩壊後に形成されるヨーロッパの 10
の独立した王国を表す「10の角」もあります。これはダニエル書 7:24
で与えられている教えです。

は、預言の中ですべての神の怒りの主な標的となる11
番目の「角」の出現について説明しています。それは「小さな角」という名前が付けられていますが、逆説的に、ダニエル 7:20

はそれを「他のものよりも大きな外観」であるとしています。その説明は
ダニエル書 8:23-24

で与えられます。彼は強者と聖徒の民を滅ぼすだろう。」これは、ユステ
ィニアヌス¹ 世の皇帝権限を通じてローマ

カトリック信仰を強制する教皇政権の確立により、538

年から達成されたこの第 2

のローマ支配に神が帰せられた行為の一部にすぎません。私たちは、ロー
マ教皇が代表するこの独裁的で専制的だが宗教的な体制に対して、預言全
体を通して神が散在的に提示するすべての非難に注目する必要があるだろ
う。ダニエル 7:24

が彼を「最初とは違う」と呼んでいるなら、それはまさに彼の権力が宗教
的なものであり、それが彼を恐れ、彼の神への影響力を恐れる権力者の軽
薄さに基づいているからです。ダニエル 8:25

はこれを「彼の策略の成功」に帰していると述べています。私がダニエル
7 章の王とダニエル 8

章の王を結び付けるのは異常だと思う人もいるかもしれませんが。したがっ
て、私はこの関連付けの正当性を証明しなければなりません。

」で指定されたメディア帝国とペルシア帝国、およびギリシャ帝国
です。ローマ帝国以前の「ヤギ」をイメージ。

323年、ギリシャの偉大な征服者アレキサンダー大王は「ヤギの大角が折
れて」亡くなりました。しかし後継者がいないため、彼の帝国は将軍たち
によって分割されてしまいます。彼らの間の20年間の戦争の後、「4つの
角が天の4つの風に昇り、それに取って代わられた」4つの王国だけが残っ
ています。この4つの角とは、エジプト、シリア、ギリシャ、トラキアで
す。この第 8 章では、聖霊がこの第 4

の帝国の誕生を私たちに示しています。この帝国は、当初はただの西洋の
都市であり、最初は君主主義者でしたが、510

年以降は共和制でした。ローマが人々を変革することによって徐々に権力
を獲得したのは、その共和制体制においてでした。ローマの植民地への援
助を訴えた。これは、ダン7ですすでにローマ教皇政権を指定している「小
さな角」という名前の下で、ギリシャへの介入を通じて達成された、イス
ラエルの存在する東方の歴史における共和政ローマの到来を、9節でどの
ようにして示しているかです。「

4つの角のうちの1つ」。先ほど述べたように、アカイアリーグとアイトリ
アリーグというギリシャの2つのリーグの間の紛争を解決するために、21
4年に召集がかけられました。その結果、ギリシャは独立を失い、植民地
はローマ人に奴隷化されました。 - 146. 9

節は、イタリアのこの小さな町を、以前の預言で「鉄」によってイメージ
された第 4

の帝国にすることになる連続的な征服を思い出させます。この推論の地理
的位置は、ローマがあるイタリアです。その創設者であるロムルスとレム

スの誕生には、彼らに母乳を与えたであろう雌狼が登場します。ラテン語でルーヴという言葉は「lupa」で、雌狼であると同時に売春婦を意味します。このように、この都市はその創設時から、二重の預言的な運命を神によって示されていました。私たちは彼女をイエスの羊の囲いの中の狼として見つけますが、イエスは黙示録 17 章で彼女を売春婦と比較します。その後、その「南」への拡張は、南イタリア (-496 年から-272 年) を征服することによって達成され、紀元前 264 年からカルタゴ (現在のチュニス) に対して行われた戦争で勝利を収めました。その「東」に向けた次の段階は、今見たようにギリシャへの介入です。そこには、アレキサンダー大王から受け継いだ粉砕されたギリシャ帝国の「4つの角の1つから立ち上がった」と描写されています。ローマはますます強力になり、1663年には、聖霊が「最も美しい国」と呼ぶユダヤにその存在と植民地権力を押し付けることとなります。それは、エジプトの民が脱出した後の建国以来、ローマの仕事であったからです。この表現はエゼキエル書 20:6-15 で繰り返されています。歴史の正確さ: ローマは再びヒルカヌスによって、弟のアリストブロスと戦うよう呼び出されました。記述されている 3 つのローマの征服は、同じ章のメディア・ペルシャの「雄羊」の地理的形態と同じであり、歴史的証言と一致しています。したがって、神が定めた目標は達成されました。ダニエル 7:8 とダニエル 8:9 の「小さな角」という表現は、両方の参照においてローマ人のアイデンティティに関係しています。そのことは証明されており、議論の余地はありません。この確信に基づいて、聖霊はその教えと、天上のすべての雷電を自らに集中させるこの教皇の宗教体制に対してもたらされた告発を完了することができるだろう。教皇ローマから帝政ローマへの継承は第 7 段で示されましたが、ここ第 8 段では、聖霊はそれらを隔てる世紀を飛び越え、第 10 節から再び教皇の実体、つまり彼のお気に入りの不倶戴天の敵を標的とします。理由がないわけではありません。それは、イエス・キリストによって集められた天の国の国民のキリスト教の宗教「天の軍隊に立ち上がった」にアクセスしているからです。このことは、ヴィギリウス¹ 世に¹ 宗教的権威とバチカンの教皇の座を与えた^{ユスティニアヌス} 1 世の勅令によって 538 年に達成されました。しかし、この力を武器に、彼は神の聖人たちに対して行動し、彼の歴史上の後継者たちがほぼ1260年間 (538年から1789年から1793年の間) にわたって行うのと同じように、キリスト教の名の下に聖人たちを迫害します。この法令が533年に書かれたことがわかると、歴史の正確さがこの期間の正確さを裏付けます。したがって、この計算では、1260年は、革命的な「テロル」でローマ教会の廃止が布告された1793年に終わりました。

「彼女は星々を地面に落として踏みにじりました。」このイメージは黙示録 12:4 で取り上げられます。「彼の尾は空の星の 3 分の 1 を引きずり、それらを地に投げました。」鍵は聖書の中で与えられます。星については、創世記 1 章 15 節にあります。「神は地に光を与えるために、空の広がり星を置いた。」創世記 15:5 では、彼らはアブラハムの子孫に例えられています。それがあなたの子孫になります。」ダニエル書 12:3 では、「多くの人に義を教える人は、永遠に星のように輝きます。」「尾」という言葉は、イザヤ書 9 章 14 節が私たちに明らかにしているように、「嘘を教える預言者」を象徴し、指定しているため、イエス・キリストの黙示録で非常に重要な意味を持ち、コード化された神のメッセージに対する私たちの理解を広げます。したがって、ローマの教皇政権は、その支配の何世紀にもわたって、そしてその起源以来、神が明らかにした聖なる正義の裁きに従って、偽預言者によって導かれてきました。

ダニエル 8:11 で神は、25 節で明らかにされるように、唯一の「支配者の長」であるイエス・キリストに対して教皇庁が反逆したと非難しています。 17:14; 19:16。

「彼女は軍の司令官に立ち上がって、彼から永久のものを奪い、彼の聖域の基礎をひっくり返した。」と書かれています。この翻訳は現在の翻訳とは異なりますが、ヘブライ語の原文を厳密に尊重しているという利点があります。そしてこの形式において、神のメッセージは一貫性と正確性を帯びます。

「永久」という用語はここでは「犠牲」とは関係ありません。この言葉はヘブライ語本文には書かれておらず、その存在は違法であり正当化されないからです。さらに、それは預言の意味を歪めます。実際、この預言は、ダニエル書 9:26

によれば、犠牲と捧げ物が廃止されたキリスト教時代を対象としています。この「永続的」という用語は、イエス・キリストの独占的な財産、すなわち彼の神権であり、イエス・キリストが特定し選択した選民のみを支持するとりなし手としての彼の力に関するものです。しかし、この主張を利用することで、教皇政権は呪われた者を祝福し、異端として誤って告発した神に祝福された者を呪って、自らを神の信仰の模範としている。この主張は、ダニエル 7:25

で神を「時代と法律を変える計画を立てた」と非難する預言的啓示の中で、神によって完全に異議を唱えられています。したがって、異端は教皇政権の活動全体に含まれており、宗教的判決を下したり、下したりする価値がないとされています。したがって、永遠のものは、ヘブライ 7:24 の教え、つまりイエス・キリストの「伝わることのない神権」に従っています。これが、教皇がイエス・キリストにおける神からの力と権威の伝達

を主張できない理由です。したがって、彼はそれを不法に盗むことしかできず、そのような盗難が彼と彼が誘惑した人々にあらゆる結果をもたらすこととなります。これらの結果はダニエル書 7:11に明らかにされています。最後の審判のとき、彼は「生きたまま火と硫黄の湖に投げ込まれる第二の死」を経験することになるが、それによって彼は長い間自分自身、君主たち、そしてすべての人々が彼に仕え、恐れるように脅してきたのだ。角が言った傲慢な言葉のせいで見ました、そして私が見ていると、獣は殺され、その体は破壊され、火に送られて焼かれました。」次に、黙示録の黙示録は、黙示録 17:16で激怒し挫折した真の神の正しい裁きのこの文を確認します。 18:8; 19:20。私は教皇政権に対する告発の精神的な性質を考慮して、「そして彼の聖域の基地を転覆した」と訳すことにしました。実際、ヘブライ語の「メコン」は「場所」または「基地」と翻訳できます。そして、そうなった場合、まさに精神的な聖域の基礎が覆されることになる。この「台座」という用語は、エペソ 2:20-21によれば、イエス・キリストご自身、「隅の親石」を意味していますが、また、霊的な建物、すなわち教会の「聖所」の財産と比較した使徒の基礎全体をも意味しています。イエス・キリストは、神によってその上に建てられました。したがって、聖ペテロの遺産とされるものは、神ご自身によって否定されています。教皇にとって、ペテロの唯一の遺産は、神聖な主の後にペテロを十字架につけた死刑執行人の仕事の継続である。彼の異端審問制度は、初期の異教モデルを忠実に再現しました。神が定めた「時代と法を変えた」この不寛容で残虐な政権は、特定の教皇の長が暗殺者であり、アレクサンデル6世ボルジアとその息子シーザー、死刑執行人、枢機卿のような悪名高い犯罪者であったことは、国家の一体的な悪魔的性質を証明している。ローマカトリック教皇の機関。平和的な人々の大規模な虐殺は、この宗教当局によって、死刑のもとでの強制改宗によって、そしてイスラエルの土地を占領したイスラム教徒に対して主導された十字軍の宗教教団によって引き起こされました。

70年以来神に呪われた土地。ダニエル書9章26節で発表されているとおり、ユダヤ人によるメシアの拒絶の結果、ローマ人が「都市と神聖」を破壊するためにやって来た。

「神の聖所の基礎」は、新しい契約の聖典を通して後世に伝えた使徒たちが受け取ったすべての教義上の真理に関係しています。黙示録 11:3によると、神の「二人の証人」の 2人目。この沈黙の証言から、教皇庁は、大勢の信奉者に崇拜され、奉仕させられている聖書信仰の英雄たちの名前だけを保持している。ローマによれば、真理は部分的にその「ミサ典書」（ミサへの導き）に記録されており、神の「二人の証人」に代わるものである。聖書を構成する古い契約と新しい契約の文書に対して、彼女は忠実な追随者を殺害することで抵抗しました。

節は、なぜ神ご自身がこの忌まわしい忌むべき宗教を創設せざるを得なかったのかを明らかにします。

「軍隊は罪のために永久に引き渡された。」このように、この政権の恐ろしく忌まわしい行為は、ヨハネ第一

3章4節によれば、律法の違反である「罪」を罰するために、神の望みによって存在したのです。そして、それはすでにローマに帰せられる行為であるが、その異教の帝国段階にあった行為である。なぜなら、そのような刑罰に値するほど重大な罪は、創造主なる神としての栄光とキリストにおける勝利者という二つの非常に敏感な点に神に触れたからである。黙示録 8:7-8 で、538 年の教皇政権の樹立が、神によって課せられ、「第 2 のラッパ」という警告のシンボルによって預言された第 2 の懲罰であることがわかります。それに先立って、不誠実なキリスト教徒となったヨーロッパへの野蛮な侵略によって達成された別の懲罰があった。これらの行為は 395 年から 476 年に及んだが、課せられた刑罰の原因は 395 年以前にまだ見つかっている。したがって、321 年 3 月 7 日の日付が確認され、その日に異教のローマ皇帝コンスタンティヌス 1 世が平和を申し出た。帝国のキリスト教徒らは布告で安息日の習慣を放棄するよう命令し、安息日を初日の残りの日と置き換えた。さて、この初日は、征服されなかった神聖な太陽に対する異教の崇拝に捧げられました。神は突然、二重の怒りに見舞われた。すなわち、安息日、創造者としての働きの記念、そしてすべての敵に対する最後の勝利の記念であるが、その代わりに、初日にささげられた異教の名誉の延長でもあった。イエス・キリストの弟子の階級。この過ちの重要性を理解する人はほとんどいないでしょう。なぜなら、神は生命の創造者であるだけでなく、時間の創造者であり、組織者でもあること、そして神が空の星を創造したのもこの目的のためだけであることを理解しなければならないからです。

4日目に太陽が現れて日を示し、月が夜を示し、再び太陽と星が現れて年を示します。しかし、その週は星によってマークされるのではなく、創造主である神の主権的な決定のみに基づいています。したがって、それは神の権威のしるしを表し、神はそれを配慮してくださるでしょう。

安息日の光

今週の内部組織は神の神の意志の表現でもあり、神はやがて第四戒の本文の中でこのことを思い出されるでしょう。あなたはすべての仕事をしなければならない6日間を与えられているが、7日目はあなたの神、主の日である、その日は、あなたも、あなたの妻も、あなたの子供たちも、あなたの動物も、見知らぬ人も、どんな仕事もしてはならない。主は天と地と海とそこにあるすべてのものを六日間で造られたからです。したがって、彼は7日目を祝福し、それを**神聖なものとした**」。

6と7

」という数字についてのみ話されています。安息日という言葉すら出てきません。そして、その「

7番目」の形式、つまり序数において、創造者立法者は、この7番目が次であるという立場を主張します。

忙しい一日。なぜこのようなこだわりがあるのでしょうか？必要に応じて、この戒めに対するあなたの見方を変える理由を説明します。神は世界の基礎から確立した時間の秩序を更新したいと願われました。そして、彼がそこまで主張するとすれば、それはその週が彼の貯蓄プロジェクトの全期間、つまり 7000 年、より正確には 6000 + 1000

年をイメージして構成されているからです。モーセはホレブの岩を二度打ち、救いの計画を歪めたため、地上のカナンに入ることができなくなりました。これは神が彼の不従順について与えたかった教訓でした。

1843年から1844年にかけて、最初の日¹の休息は同じ結果をもたらすが、今回はイエス・キリストの贖いの死によって与えられた選民の信仰に対する報酬である天のカナンへの入場が妨げられる。モーセの行動と同様に、初日の残りは神の計画に従っていないため、この神の裁きは反逆者たちに下ります。名前は大きな影響を与えることなく変更できますが、数字の性質は不変です。創造物を監督する創造主である神にとって、時間の漸進的な進行は、7

日からなる週の連続によって行われます。不変に、初日は初日のままであり、「^{7日}」は「

7日」のままです。毎日²は、神が最初から与えた価値を永久に保持します。そして、創世記は第

2章で、7日目が特定の運命の対象であること、つまり「神聖化」、つまり区別されることを教えています。これまで人類はこの特別な価値の真の原因を無視してきましたが、今日私はその名において神の説明をします。その観点から見ると、神の選択は明確になり、正当化されます。7日目は、7000太陽年という神聖な世界的プロジェクトの7千年紀を預言しており、そのうちの最後の「千年」はApo.20で引用されており、イエス・キリストが選ばれることとなります。愛するマスターの喜びと臨在の中に入るのです。そしてこの報いは、イエスが罪と死に勝利したおかげで得られるものです。聖別された安息日は、もはや神による私たちの地上宇宙の創造を記念するだけでなく、ヨハネ

14:2-3によれば、イエスが「場所を備えてくださった」天国への入場に向けて毎週前進することを記念するものでもあります。

」彼の最愛の選出者のために。この聖なる7日目に彼を愛し、彼を讃える非常に美しい理由がここにあります。この聖なる7日目、6日³の終わり、日没時に彼が私たちの週の終わりを告げるように現れます。

今後、この第 4

戒の言葉を読んだり聞いたりするときは、その言葉の裏で神が人間に次のように言っているのを聞かなければなりません。今から終わりを迎え、**7千年紀の1000年の時間**はもはやあなたのものではありません。それは、イエス・キリストによって認められた真の信仰によって、私の天上の永遠に入った私の選ばれた人々にのみ続くでしょう。」

したがって、安息日は、地球の救いのために予約された永遠の命の象徴的かつ預言的なしるしとして現れます。またイエスは、マタイ 13:45-46

で引用されているたとえ話の「高価な真珠」によってそのことを例証されました。「天の王国は依然として美しい真珠を求める商人のようなものです。彼は高価な真珠を見つけた。そして彼は行って、持っていたものをす

べて売り払い、彼女を買ったのです。」この聖句は 2
つの逆の説明を受けることができます。

「天国」という表現は神の救いのプロジェクトを指します。イエス・キリストは、自分のプロジェクトを描く際に、自分自身を、最も美しく、最も完璧で、したがって最も高値で売れる真珠を探している「真珠」「商人」に例えています。この珍しい、したがって貴重な真珠を見つけるために、イエスは天とその栄光を去り、恐ろしい死を代償として地上でこれらの霊的な真珠を買い戻し、永遠の所有物となるようにしました。しかし逆に、商人は絶対的なもの、真の信仰の報酬である神の完全さを渴望する選ばれた人です。ここでもまた、天上の召命というこの賞を勝ち取るために、彼は空虚で不当な地上の価値観を捨て、創造主である神に喜ばれる崇拝を捧げることに専念します。このバージョンでは、高価な真珠は、2030年の春にイエス・キリストによって選ばれた人々に提供された永遠の命です。

この高価な真珠はアドベンティズムの最後の時代にのみ関係することができます。その最後の代表者がイエス・キリストの真の再臨まで生き続ける者です。これが、この高価な真珠が安息日、キリストの再臨、そして最後の選ばれた者の聖性を結びつける理由です。この最後の時代に見出された教義の完璧さは、聖徒たちに真珠のイメージを与えています。生きて永遠に入るという彼らの特別な経験は、この真珠のイメージを裏付けています。そして、彼らが第7千年紀を預言することを知っている第7日の安息日への執着は、安息日と第7千年紀に、「高価な真珠」以外に比較することができないユニークな貴重な宝石のイメージを与えます。この考えは黙示録 21:21 に現れます。「 12 の門は 12 の真珠でした。各ドアは単一のビーズでできていました。街の広場は、まるで透明なガラスのような純金でした。」この聖句は、神が要求する聖化の基準の独自性と、同時に、アドベンチスト派の信仰の試練を描いた象徴的な「門」を通して7千年紀の安息日に入ることによって永遠の命を得るという独特の報酬を強調しています。最後に救われた人たちは、その前に救われた人たちと何ら変わりはありません。カットされた宝石のイメージを引き継ぐ真珠のイメージを正当化するのは、神が彼らに知らせた教義上の真理だけです。神は人々に例外を設けることは決してありませんが、その時々に応じて、救いを得るために必要な聖さの基準に関して例外を設ける権利を留保しておられます。考察されるキリスト教時代は主に、ローマ教皇政権の確立以来、つまり538年以降、宗教的に形式化された罪の回帰によって特徴付けられた時代に関するものである。また、宗教改革の始まりは、その慈悲と憐れみ、そして罪によって覆い隠されている。 1843年の春以来、ダニエル 8:14の法令が発効するまでは安息日の義務は課されていませんでした。微妙なほのめかしとして、イエスは真珠の購入を黙示録 3:18で提案しています。あなたが金持ちになれるように、火で試された金を私

から買いなさい。また、衣服を着て裸の恥が現れないようにするために白い衣服を買ってください。そして、見えるようにあなたの目に油を注ぐための軟膏を買ってください。

」イエスがそれらを欠いている人々に提供するこれらのものは、選ばれた者に主イエス・キリストの目と裁きの中での「真珠」の象徴的な側面を与える要素を構成します。

「真珠」は神から「購入」しなければならない、無料で手に入るものではありません。その代償は自己否定の代償であり、信仰のための戦いの基礎です。それぞれの秩序において、イエスは選ばれた者に精神的な富を与える試練によって試される信仰を売ることを提案します。赦された罪人の霊的な裸体を覆う彼の純粋で汚れのない正義。それは、神が聖書の中で明らかにした計画に対して罪深い人間の目と知性を開く聖霊の助けです。

キリスト教時代の

6000

年の間、神はこの地上のサイクルが終わるまで待つ、最後の選ばれた者たちに聖なる

7

日目、つまり安息日が聖なる安息日であることの素晴らしさを発見させました。その意味を理解している選挙で選ばれた役人たちは、今ではそれをイエス・キリストからの贈り物として愛し、尊重する十分な理由を持っています。それを好まず、それと戦う人々に関して言えば、それが彼らの動物としての地上での存在の終わりを示すものであるため、彼らにはそれを嫌う十分な理由があり、そして今後もそうなるでしょう。

ダニエル 8:14 の布告

ダニエル

8:12

は続けて、「角は真理を投げ捨て、その事業は成功した。」と述べています。詩篇 119 章 142 節によれば、「真理」とは「律法」です。しかし、それはまた、イザヤ書 9:14 によれば、黙示録12:4

で彼を直接非難している「尾」という用語によって教皇の「偽預言者」を特徴付ける「嘘」の絶対的な反対でもあります。実際、彼女は真実を地面に投げ捨て、その場所に宗教的な「嘘」を据え付けます。321年3月7日以来行われてきたキリスト教徒の不貞行為を罰するために神ご自身が彼の出現を引き起こしたので、彼の「事業」は「成功」するしかありませんでした。

13節と14節は世の終わりまで極めて重要になります。

13

節で、聖徒たちは「永遠の」「壊滅的な罪」の強要がいつまで続くのか疑問に思っています。私たちがたった今特定したこと。しかし、この「壊滅的な罪」について少し考えてみましょう。問題となっている荒廃とは、人間の魂や命を奪うことです。最終的に、滅ぼされた人類全体は、7千年紀の「千年」の間に、アポ.9:2-

11、11にあるように、人類にとって価値のある元の形である「形のない空虚な」地球を離れることになるでしょう。7、17:8、20:1-3、創世記 1:2 の「深い」という名前。

「聖徒たち」もまた、「キリスト教徒」の「聖性とホスト」はいつまで踏みにじられるのか、と問うている。

」。この場面では、これらの「聖人」たちは神の忠実な僕として行動し、

ダニエル

10:12

で例として挙げられているダニエルのように生き生きとしており、「～したい」という正当な願望を抱いています。

理解する»

神聖なプロジェクト。彼らは、言及された 3 つの主題について、14節に示されている 1 つの答えを取得します。

神が私にヘブライ語の原典からの修正と改善を導いてくださったところによると、与えられた答えは次のとおりです。「朝の夕方まで、二千三百、そうすれば聖性が証明されるでしょう。」それはもはやそこにはありません、「二千三百の夕と朝と聖域が清められるまで」というあいまいな伝統の文章。それはもはや聖域の問題ではなく、**神聖さ**の問題です。さらに、動詞「purified」は「justified」に置き換えられます。」、そして

3

番目の変更は、ヘブライ語本文では確かに単数である「夕方の朝」という

表現に関するものです。このようにして、神は、夜と朝を分けると主張して、合計数を2で割って変更しようとする人々から、あらゆる正当化を取り除きます。彼のアプローチは、 Gen.1 で 1 日 24 時間を定義する「夕方朝」という計算単位を提示することで構成されています。そのとき初めて、御霊はこの単位の番号「2300」を明らかにします。したがって、引用された預言の日数の合計は保護されます。

「正当化された」という動詞の語源は、ヘブライ語で「正義」「ツェデク」という言葉です。したがって、私が提案する翻訳自体は正当化されます。次に、ヘブライ語の「qodesh」に関する誤りにより、この用語は「聖域」と訳され、ヘブライ語では「miqdash」となります。

「聖所」という言葉はダニエル書 8 章 11 節でよく訳されていますが、13 節と 14 節では聖霊が「聖性」と訳さなければならない「コデシュ」という言葉を使っている箇所はありません。

「壊滅的な罪」が、特定の神の聖化の対象である安息日の放棄を具体的にターゲットにしていることを知ると、この「聖さ」という言葉が預言的なメッセージの意味をかなり明らかにします。神は、引用された「2300の夕と朝」の終わりに、聖性とイエス・キリストによって得られた「永遠の正義」を主張するすべての人々に対して、真の「7日目」の残りの時間への敬意が神によって要求されることを発表しました。

「壊滅的な罪」の終わりには、^{異教}の皇帝コンスタンティヌス1世が定めた、かつての太陽の日である日曜日の宗教的崇拝の放棄が含まれます。こうして神は、使徒たちの時代に普及していた救いの教義規範を再び確立します。この「聖性」という用語だけで、キリスト教の信仰の基礎となる教義上の真理がすべて網羅されています。ユダヤ人に与えられた教えをモデルと起源として持つキリスト教の信仰は、ゴルゴタの地下洞窟に隠された慈悲の座でイエス・キリストが流した血によって、動物の犠牲に代わる新しいものをもたらすだけです。

1982年に、私たちの救い主は、しもベロン・ワイアットに明らかにし、示して喜んでくださいました。「聖さ」という言葉に関係する主題の発見は進歩的であり、生涯の時間を超えて広がりますが、2018年以降、この時間はカウントされ、2020年の今日、すべての面を復元するにはあと9年しか残されていません。

ダニエル 8 章 14 節は魂を殺す布告です。神の裁きを変えることは、すべてのローマ・カトリック日曜教会信者に対するキリストの救いの申し出を失うことになるからです。したがって、受け継がれた伝統の精神は、多くの場合、神による有罪判決に気づいていない多くの人々に永遠の死をもたらすこととなります。ここで、真理への愛を示すことによって、神は「神に仕える者と仕え

ない者」に影響を与える運命に関して「違い」を示すことができるのです（マラヤ 3:18）。

中には、マル 3:6
で「わたしは変わらない」と自ら宣言された神による変化という考え自体に異議を唱えたいと思う人もいるでしょう。このとき、私たちは、1843年から 1844年にかけて達成された変化は、長い間歪められ、変形されてきた元の規範を再確立することだけから成るということを認識しなければなりません。これが、宗教改革の選民の祝福が、彼らの不完全な行いにもかかわらず帰せられる理由であり、その教義的側面は真の信仰のモデルとして提示することができない例外的な性格を示しているのです。初期の改革者たちに対するこの特別な判決は非常に例外的であるため、神はそれを取り上げ、黙示録 2 章 24 節で明らかにされ、そこで神は 1843年以前にプロテスタントにこう言いました。来ますよ。」

ダニエル 8:14
のこの法令の発効に付随する「災い」は非常に「大きい」ので、神は黙示録 8:13 で3つの「大きな災い」を発表することによってそれを知らせます。そして、これほど深刻な結果をもたらすため、その発効日を知ることが急務となっている。これはまさにダニエル 8:13の「聖徒たち」の懸念でした。ダニエルの同時代の預言者であるエゼキエルに与えられた暗号によれば、その期間は預言的な「2300日」、つまり実太陽年2300年であることが現在明らかにされています（エゼキエル書4:5-

6)。ローマの「罪」に終止符を打つことをテーマとするこの第8章は、第9段に欠けている要素を見つけ出し、そこでも「罪に終止符を打つ」ことが問われますが、今回は、アダムとイブ以来、永遠の命を失わせた原罪。この作戦は、メシア・イエスの地上での宣教と、イエスに選ばれた人々、そして私が明記する彼らだけの罪の贖いとして、イエスの完全な命を自発的に捧げることに基づいている。神が人々の間に来る時期は、預言の時代の預言によって定められています。このメッセージは、神と同盟を結んでいるユダヤ人を優先するものである。神はユダヤ人に「罪に終止符を打つ」ために、実質490日を表す「70週間」の期間を与えました。ただし、計算の開始点を年代測定する方法も示します。

「エルサレムが建設されるとの言葉が発表されてから、油そそがれるまで、... (7 + 62 = 69週間)。」ペルシャの三人の王がこの認可を与えましたが、エズラ記 7章7節に従って完全にそれを履行したのは³番目のアルタクセルクセス1世だけでした。彼の王令は紀元前 458 年の春に公布されました。 69週間という期間は、イエス・キリストの宣教の始まりを 26

年に定めています。特に、イエスの働きのために残された最後の「7年間」を対象としています。イエスは、償いの死を通して、新しい契約の基礎を確立されました。聖霊はダン 9 の 27 節に現れています。数日から数年にわたるこの「週」は、その「真ん中」にあり、自らの自発的な死によって「犠牲と捧げ物を停止させます」。罪の赦しのためにイエス・キリストに捧げられたもの。しかし、彼の死は何よりも「罪に終止符を打つ」ためのものです。このメッセージをどのように理解すればよいでしょうか?神はご自身の愛を示し、それが選ばれた人々の心をつかまえ、愛と認識のお返しとして神の助けを借りて罪と戦うこととなります。ヨハネ第一

3章6節はこう確証しています。罪を犯した者は誰でも、その人を見たことがないし、彼を知ったこともない。」そして彼は他の多くの引用によって自分のメッセージを強化しています。

教義レベルでは、イエス・キリストによって築かれた新しい同盟は古い同盟に置き換わるだけです。したがって、両方の契約はダニエル書 9:25 で明らかにされた同じ預言的根拠に基づいています。したがって、458 という日付は、ユダヤ人に定められた 70

週を計算する基礎として役立つだけでなく、キリスト教の信仰に関するダニエル 8:14 の実際の 2300

日年を計算する基礎としても役立ちます。この正確な日付のおかげで、メシアの死を 30 年とし、ダニエル 8:14 の法令の適用開始を 1843 年とすることができます。どちらのメッセージも「罪に終止符を打つ」ものであり、死が彼らを襲うまで、あるいは人類に先立つ集団的および個人的な恵みの時代が終わった後、互いに同じように無視し続ける人々に永遠の致命的な結果をもたらします。イエス・キリストの栄光ある再臨。この最後の時点まで、人生は選ばれた者の地位へのアクセスを可能にする誠実な回心を許可します。

黙示録への準備

この本の執筆は完全に神によって行われます。言葉を選ぶのは彼であり、黙示録 22:18-19

で彼は、元の物語を世代から世代へと伝えたり転写したりする責任がある翻訳者や筆記者たちに、言葉のほんのわずかな変更が影響を与えるだろうと警告しています。

救いを失う価値があるでしょう。したがって、ここには非常に神聖性の高い特別な作品があります。これは、元のピースを少しでも変更すると組み立てが完了しない巨大な「パズル」にたとえることができます。したがって、この働きは神聖に巨大であり、その性質によれば、神がその中で述べていることはすべて真実ですが、神の救いの計画の完了に関しては真実です。なぜなら、彼はこの預言を世界の終わりについての彼の「しもべ」、より正確には「彼の奴隷」に向けているからです。預言は、預言された要素が成就しようとしているか、大部分が達成されている場合にのみ解釈可能になります。

神による救いのプロジェクトが継続する全体の期間の長さは、人々によって常に無視されてきました。このようにして、神の僕はいつでも世の終わりに立ち会うことを望むことができ、パウロは次の言葉でこれを証しています。それは、これから先、妻を持つ者は妻がいないかのように、泣く者は泣かないように、喜ぶ者は喜ばず、物を買う者は持たないように、そしてこの世を使わない者のように使うためである。この世の形は消え去ります(1コリント7:29~31)。」

私たちはパウロよりも、神が永遠の選民の選択に終止符を打とうとしているこの時代に身を置くという利点を持っています。そして今日、彼の靈感に満ちた勧告は、私たちの最後の時代に真に選ばれた者によって実行されるべきです。世界は滅び、選ばれた者の永遠の命だけが続きます。

また、黙示録 1 章 3 節にあるキリストにおける神の言葉「わたしは**すぐに来ます**」は真実であり、完全に正当化されており、私たちの最後の時に適応されています。帰国から9年後、この文章を書いている時点では。

ダニエル 7:25
で、ローマの目的は「時代と神の法を変える」ことであることが分かりました。パトモス島に拘留されている使徒ヨハネに与えられたイエス・キリストの黙示録の奥義の理解は、本質的に神によって確立された真の時間の知識に基づいています。したがって、時間の主題は黙示録を理解するための基礎であり、神はこの時間の概念に基づいて黙示録を構築します。したがって、彼はこのデータの不正確さを利用して、この本が告発され非難される存在によって破壊されることなく、私たちの時代の20世紀を越えることができるように、この本が無害な神秘的な性格を保持することを可能にします。時代の変化、特にイエスの誕生に関連してローマが定めた偽りの日付により、選民が神の預言を解釈する際に騙されることは許されなくなった。これは、神が預言の中で、その始まりと終わりが、専門の歴史家によって容易に特定され、日付が付けられる歴史的行為に基づいている期間を提示しているからです。

しかし黙示録では、本の全体の構造が時間の概念に基づいているため、時間の概念は不可欠です。したがって、その理解は、1844年に神が要求し回復された安息日の正しい解釈に依存していました。1980年に始まった私の宣教は、7千年紀の大いなる残りを預言する安息日の預言的役割の重要性を明らかにすることを目的としていました。神とその選民について、黙示録 20 章のテーマ。ペテロ第二 3:8 節によれば、「一日は千年に似ており、千年は一日に似ている」とあり、創世記 1 章と 2 章で明らかにされた創造の 7 日間のイメージと、創造の 7 日間の間に確立された関連性が示されています。神聖な計画の全体的な時間の千年だけで、この本の構造の組み立てを理解することができました。この知識があれば、預言はより明確になり、その秘密がすべて明らかになります。

したがって、預言は、そのメッセージがキリスト教時代の歴史の日付に関連付けられる場合にのみ、生き生きと有効になります。これは、イエス・キリストにおける神の聖霊の靈感によって、私が悟ることができたことです。また、黙示録 5 章 5 節と 10 章 2 節で発表された神の計画の達成を確認するために、この「小さな本を開いて」と宣言させてください。

その構造の観点から見ると、黙示録のビジョンは、使徒時代の終わりである 94 年頃から、2030 年のイエス・キリストの最終的な再臨に続く 7 千年紀の終わりまでのキリスト教時代を対象としています。したがって、それはダニエルと共通しています。第 2 章、第 7 章、第 8 章、第 9 章、第 11 章、および第 12 章では、キリスト教時代の概要を説明します。クリスチャンにとって、この本の研究から得られる主な教えは、ダニエル 8:14 によって確立された 1843 年の春という重要な日付ですが、同時に信仰の試練が終わった 1844 年の秋でもあります。神がセブンスデー・アドベンチストの信仰の基礎を築いたのは、やはり 1844 年の秋からでした。これら 2 つの日付は非常に重要であるため、神は黙示録のビジョンを構築するためにそれらを使用します。この 2 つの近い日付の価値を完全に理解するには、預言の言葉に対する信仰の試みが始まった 1843 年と関連付けなければなりません。最初の霊的犠牲者は、ウィリアム・ミラーの最初のアドベンチストの発表を軽蔑的に拒否したことにより、この日に倒れました。しかし、裁判の時は、1844年10月22日のイエスの再臨に関する2回目の発表により、彼らに2度目のチャンスを与えます。10月23日に裁判は終了し、こうして神の裁きが策定され、明らかにされる可能性があります。集団テストは終了しましたが、個人変換は引き続き可能です。さらに、実際、アドベンチスト派は皆、ローマの日曜日の休みがまだ罪と

して認識されていないことを観察しています。そして、安息日はアドベンチスト全体によってその主要な役割が実現されることなく、アドベンチストによって徐々に個別に採用されるようになりました。この推論により、私は偽のプロテスタント信仰の終焉である1843年春の日付と、神に祝福されたアドベンティズムの始まりである1844年10月23日の秋を支持することになります。ヘブライ人の間では、すでに春と秋は結びついていました。正反対の補完的なテーマを祝うフェスティバルを生み出すことによって。一方では、春の「過越祭」に屠られた「子羊」の永遠の正義、そして一方では、秋の、どこか別の場所で、罪の「償いの日」のために殺された「山羊」の罪の終わり。この
2
つの宗教的な祭りは、メシアであるイエスが命を捧げた
30
年の過越祭でその成就を迎えました。ダニエル書
7:24
によれば、信仰の試みの目的は「罪に終止符を打つ」ことであるため、18
43 年の春と 1844 年 10 月 22
日も意味的に関連しています。それは、週の最初の日毎週休むという忌まわしい習慣を構成するものであるが、神は地上の創造の最初の週の終わりから、この使用のために神聖化させた7日目にそれを定めた。
5991年前、2021年。

また、1843年春の日付を定めているダニエル書8章14節の法令の日付を支持することもできます。この選択を正当化するには、この瞬間がそれまで神と被造物との間に確立されていたすべての関係を断ち切ることを考慮しなければなりません。この日以来、2回連続のアドベンチストの発表に基づいて最終的な選択を行ってきた神。

1843年の春から安息日が予定されていましたが、神は、聖書の教えに従って、彼らが神のものであるという祝福された神聖なしるしとして、1844年の秋まで試験の勝者に安息日を与えるつもりではありませんでした。前に見たように、エゼ書 20:12-20。

本書の第

5

章は、「神の子羊」イエス・キリストによって非常に大切に支払われた勝利がなければ、すべての神の助け、すべての啓示された光は不可能であり、したがって、魂の人間は存在し得ないということを私たちに思い出させることを目的としています。保存されました。彼の預言的な光は、自発的に受け入れた十字架と同じくらい、選ばれた者を救います。ダニエル書
7:24

によると、彼の犠牲に対する信仰は神の「永遠の正義」を私たちに帰属させますが、彼の啓示は私たちの道を照らし、私たちを悪魔の恐ろしい運命に共有させるために悪魔が仕掛けた霊的な罠を示しています。この場合、救いは具体的な形をとります。

これらの微妙なトラップの例を次に示します。聖書は正しく見られ、神の言葉として書かれたものであると考えられています。しかし、これらの言葉は、当時の状況にどっぷりと浸かった人々によって書かれたもの

です。しかし、神が変わらなければ、神の敵である悪魔であるサタンは、時間の経過とともに、神の選民に対する戦略と行動を都合よく変えます。これが、ヨハネが当時、その時代に限って、悪魔が公然と迫害していた戦争の「竜」のイメージとして行動した理由です。ヨハネ第一

4章1節から3節で次のように宣言できました。しかし、多くの偽預言者が世に出てきているので、霊が神から出たものであるかどうかを試してください。この中に神の霊があることを認識してください。イエス・キリストが肉となって来たと告白するすべての霊は神から出たものです。そして、イエスを告白しない霊はすべて神から出たものではなく、反キリストの霊であり、その到来をあなたがたが聞いており、すでにこの世にいるのです。

ヨハネは自分の言葉の中で、目撃証言からキリストを特定するためにのみ「肉体となって来る」と述べています。しかし、「イエス・キリストが受肉して来たと告白するすべての霊は神から出たものである」という彼の断言は、キリスト教が聖化された真の7日目の真の安息日の実践を放棄することによって321年3月7日から背教と罪に陥って以来、その価値を失った。神によって。罪の実践は、1843

年までは「イエス・キリストが肉体となって来られたと告白する」ことの価値を低下させていましたが、同じ日以降、罪はその価値をすべて剥奪しました。イエス・キリストの最後の敵は、イエス・キリストがマタイ 7:21 から 23

で次のように宣言したように、イエス・キリストの「名前」を使用していると主張しています。天におられる父の御心。その日、多くの人が私にこう言うでしょう、主よ、主よ、私たちはあなたの御名によって預言したのではありませんか？私たちはあなたの御名を通して悪霊を追い出したのではありませんか？そして、私たちはあなたの御名を通して多くの奇跡を起こしたではありませんか？その時、私は彼らに公然と言うつもりです。

「私はあなたのことを知りませんでした。不法を働く者よ、私から離れてください。」

「決して知られていない」！したがって、これらの「奇跡」は悪魔とその悪霊によって行われたのです。

黙示録の要約

第	1
章のプロローグ、つまり神の輝かしい啓示の始まりで、御霊は用意された ごちそうのメニューを私たちに示します。そこには、普遍的で主にアメリ カ人のプロテスタント信仰を試すために、すでに1843年と1844年に組織さ れたイエス・キリストの栄光の再来の発表というテーマが見られます。こ のテーマはどこにでも存在します。 3 節、その時が近づいています。 7 節、見よ、彼は雲に乗ってやって来る... ; 10 節、主の日に私は御霊に導かれ、後ろからラッパの音のような大きな声が 聞こえました。聖霊に導かれてヨハネは、イエスの栄光の再臨の日、マル	

4:5

によれば「偉大で恐ろしい日」である主の日にいることに気づきます。そして彼の背後には、キリスト教時代の歴史的過去があります。アジアの7つの都市(現在のトルコ)から借用した7つの名前(現在のトルコ)から借用した7つの名前のシンボルの下に表示されます。そして、ダニエル書と同様に、手紙、印章、ラッパの3つのテーマがキリスト教時代全体を並行してカバーすることになりますが、それぞれが2章に分かれています。詳細な研究により、この分割はダニエル 8:14 で確立された 1843年という極めて重要な日に行われたことが明らかになります。各テーマ内では、ダニエルで確立された精神的な基準に適合したメッセージが、対象となる時代に合わせて、対象となる時間の7つの瞬間をマークします。7は、その「封印」として機能し、Rev.7のテーマとなる神の聖化の数です。

時間の概念は第 1 章で引用された「7つの教会」の名前の意味によってのみ明らかにされるため、この説明は決して有効なものではありません。黙示録 2 章と 3 章の手紙のテーマには、「第一の天使、第二の天使...など」という形式に正確さは見られません。

「アザラシ、ラッパ、そして神の怒りによる最後の七つの災い」も同様です。このようにして、一部の人たちは、そのメッセージが実際に文字通り、古代カッパドキア、現在のトルコのこれらの都市に住むキリスト教徒に宛てられたものであると信じることができました。預言がこれらの都市名を提示する順序は、キリスト教時代を通じて宗教的な歴史的事実が成就した順序に時系列に従っています。そして、ダニエル書によってすでに得られた啓示によると、神は都市の名前の意味によって各時代に与える性格を定義します。続いて、明らかにされた命令は次のように翻訳されます。

1-エフェソス: 意味: 打ち上げ (集会または神の聖所の打ち上げ)。

2-スミルナ: 意味: ミルラ (神のための心地よい香りと死者の防腐処理。303 年から 313 年にかけてのローマの忠実な選民への迫害)。

3-ペルガモン: 意味: 姦淫 (321 年 3 月 7 日に安息日が廃止されて以来。538 年に確立された教皇政権は、最初の日の残りの部分を宗教的に正式化し、日曜日と改名しました)。

4-ティアティラ: 意味: 忌まわしいことと致命的な苦しみ (カトリック信仰の極悪非道な性質を公然と非難したプロテスタントの宗教改革の時期を指す。機械印刷のおかげで聖書の普及が促進された 16 世紀に関する時期)。

5- Sardis : 二重の反対の意味: けいれんと宝石。(それは、神が1843年から1844年の信仰の試練に合格したという判決を明らかにしている。その衝撃的な意味は、拒否されたプロテスタントの信仰

に関するものである：「あなたは死んだ」、宝石は試練の選ばれた勝者を示している：

「彼らは共に歩むだろう」私は白い服を着ています、それは価値があるからです。」)

6-フィラデルフィア: 意味: 兄弟愛 (サルディスの宝石は1863年以來セブンスデー

アドベンチスト機関に収集されています。メッセージは Dan.12:12
によって定義された 1873

年に授与されます。この時点で彼女は祝福されています。ただし、王冠を「奪われる」危険性については警告した)。

7-ラオデキア: 意味: 人々は次のように判断されました:
「寒くも暑くもなく、生ぬるい」 (「王冠を奪われた」のはフィラデルフィアです。「あなたは不幸で、惨めで、貧しく、盲目で、裸です」。施設はそのようなことを想像していませんでした)

1980年から1994年にかけて、1844年の開拓者たちが神の祝福を得たのと同じ信仰の試練によって、何度も試されることになる。1994年にこの組織は崩壊したが、そのメッセージは、神が特定し選ばれた散在するアドベンチストによって継続された。明らかにされた預言の光に対する彼らの愛、そしてあらゆる時代におけるイエス・キリストの真の弟子の特徴である柔和で従順な性質によるものです。)

「続き」において、Apo.4は、「24の玉座」のシンボルによって、神が選ばれた人々を集めて行う天の裁きの場面(天上)をイメージします。「彼らは邪悪な死者を裁くのです。この章は、Rev.20 と並行して、7千年紀の「千年」を取り上げています。説明: なぜ王座が 12 ではなく 24 なのか?それは、キリスト教時代が、当時の信仰の試練の始まりと終わりの1843年から1844年の日付で2つの部分に分割されたためです。

次に、重要な余談として、Rev.5
では預言の書を理解することの重要性を強調します。それは、私たちの神聖な主であり救い主であるイエス・キリストによって得られた勝利によってのみ可能になります。

西暦の時代は、新たなテーマの視点の下で、黙示録 6 章と 7 章で再び見直されます。それは「七つの封印」。最初の 6 つは、舞台上の主要な俳優と、西暦の区分の 2 つの部分の特徴づける時代の兆候を示します。そして1844年からはApo.7

。ラッパ」のテーマが来ます。これは、黙示録 8 章と 9 章の最初の 6 つについては警告の刑罰を象徴し、「第 7 のラッパ」については決定的な懲罰を象徴しており、常に区別されています。

と同じように、預言的な啓示を固守し、誰にもそれを奪わせないで、天から与えられた真珠を最後まで集め続ける人々を、この言葉で指しています。

第 13 章では、キリスト教の信仰を持った 2 人の攻撃的な宗教上の敵を紹介し、そのために、彼はそれらを二匹の「獣」によってイメージしており、この第 13 章でそれらを定義している創世記の物語の「海と地」という言葉の関係によって示唆されているように、そのうちの 2 番目の獣が最初の獣から現れました。

1844年と2番目は地上時間の最後の年にのみ現れるため、人間に提供された恵みの時間の終わりを示します。これら 2 つの「獣」は、1 つ目は母教会であるカトリック教会であり、2 つ目はそこから派生したプロテスタント改革派教会、つまりその娘たちです。

1844 年以降のキリスト教時代の後半のみをカバーする黙示録 14 章は、永遠の条件に対するセブンスデー アドベンチストの真理の 3 つのメッセージを呼び起こします。それは、聖なる安息日の実践の回復を要求する神の栄光、ローマ カトリック教の非難です。そして、その日曜日を帝国ローマと教皇ローマ双方の人間のかつ悪魔的な権威の「しるし」として彼が称するプロテスタント主義に対する彼の非難。

「収穫」によってイメージされる選ばれた聖徒たちの歓喜と、「ヴィンテージ」によってイメージされる反抗的な教師とすべての不信者の行為の破壊によって準備使命の時間が次々に終わるとき、地球は再び元の世界に戻るでしょう。あらゆる形態の地上生命が奪われた、創造の最初の日の「深淵」。しかし、それは「千年」の間、選ばれた住人であるサタン、悪魔そのものを生き続け、他のすべての反逆者や天使たちと同様に最後の審判での滅びを待っています。

Rev.15 は、試用期間終了のタイミングに焦点を当てています。

黙示録 16

章は、「神の怒りによる最後の七つの災い」を明らかにしています。これは、執行猶予期間の終了後、ますます攻撃的になる最後の不信者の反逆者たちを襲い、監視者の死刑を宣告するまでに至っています。正義の神の安息日、第七の災いの前。

大いなるバビロン」と呼ばれる「大売春婦」の特定に全面的に捧げられています。聖霊が帝国であり教皇の「大都市」であるローマを指定するのは、このような言葉に基づいています。こうして彼女に対する神の裁きがはっきりと明らかになります。この章はまた、小羊とその忠実な選ばれた者が彼女に打ち勝つため、彼女の将来の裁きと火による滅びを告げています。

大いなるバビロン」の「収穫」または罰の時期を対象としています

。

黙示録

19

章には、イエス・キリストの輝かしい再臨と、おびえた地上の反乱軍との対決が描かれています。

黙示録

20

章は、天においては選ばれた者たちによって、そして荒廃した地においてはサタンによって孤立するという、全く異なった経験をした、第 7

千年紀の 1,000 年間を対象としています。千年の終わりに、神は最後の審判を組織します。それは、地上の人間と天上の天使の反逆者たちすべてを、天上と地下の地上の火によって滅ぼすことです。

Apo.21は、イエス・キリストの血によって贖われた選ばれた人々の集まりによって形成された議会の栄光を描いています。選ばれた者の完璧さは、地球が人間に提供する最も貴重なもの、つまり金、銀、真珠、宝石との比較によって説明されます。

Apo.22は、失われたエデンへの回帰をイメージさせます。罪の地球上で永遠に発見され設置され、全宇宙を支配する唯一の偉大な神、創造者、立法者、そして救い主の宇宙王座となるために再生され、変容されました。地上的には救われました。

これで黙示録の本についてのこの簡単な概要は終わります。この本の詳細な研究は、今述べたことを確認し強化するでしょう。

私は、神の心の隠された推論を明らかにする、この高度に精神的な説明を付け加えます。彼は、聖書が私たちを啓発するという微妙なほめかしを通して、思いがけないメッセージを伝えます。ダニエルに与えられた啓示を組み立てるのに用いたのと同じプロセスを黙示録の組み立てに従うことによって、神はご自身が「変わらない」こと、そして「永遠に変わらない」ことを確認されました。また、私は黙示録の中で、「議会への手紙」、「印章」、「ラッパ」という 3

つのテーマを並列させる同じ方法を見つけました。

Apo.5によれば、黙示録は「

7つの封印」で閉じられた本によって描かれており、「7番目の封印」を解くことだけが、第8章から第22章、解釈、疑惑を裏付ける証拠へのアクセスを許可するという。したがって、第 7 章は、明らかにされた謎を理解するための鍵となります。そして驚かないでください。そのテーマはまさに安息日であり、安息日は1843年以来、真の神聖さと偽りの神聖さの間のすべての違いを生み出してきました。したがって、私たちはApo.7で、1843年の春にプロテスタントの宗教を謎に陥れた偉大な真実を見つけます。黙示録は、ダニエルに明らかにされたこの基本的な教えを確認するだけです。しかし、この日に勝利者として現れたアドベンチズムにとって、黙示録は1994年に向けて、それを順番にふるい

にかけることになる試練を明らかにするだろう。この新しい光は、もう一度、「再び」、「神に仕える者と仕えない者との違い」、あるいはそれ以上の違いをもたらすでしょう。

パート 2: 黙示録の詳細な研究

黙示録 1: プロローグ ~キリストの再臨~

アドベンチストのテーマ

プレゼンテーション

1

節:

「イエス・キリストの啓示。神は、すぐに起こらなければならないことをその僕の奴隷たちに示すために与えられ、御使いを遣わして僕ヨハネに知らせた。...」

イエスが愛した使徒ヨハネは、イエス・キリストの名において父から得たこの神の啓示の寄託者です。ヨハネはヘブライ語で「ヨハン」という意味です。神は与えたものです。そしてそれは私のファーストネームでもあります。イエスは「持っている者には与えられる」と言いませんでしたか？このメッセージは父なる「神」によって「与えられた」ものであるため、内容は無制限です。なぜなら、イエス・キリストは復活以来、神としての特質を取り戻しており、天の父として、天から、ご自分の僕たち、より正確にはご自分の「奴隷」のために行動できるからです。ことわざにあるように、「事前警告は事前武装」です。神はこの考えを持っており、ご自分の僕たちに将来についての啓示を語ることによってそれを証明しています。このメッセージが西暦 94 年に発せられ、現在はこの文書が書かれた 2020 年から 2021 年であることを知ると、

「速やかに起こらなければならないこと」という表現は驚くかもしれませんが。しかし、彼のメッセージを発見することによって、私たちはこれが「すぐに」であることを理解するでしょう。」

受信者はイエス・キリストの栄光の再臨と同時代人となるため、文字通りの意味を持ちます。このテーマは遍在する黙示録の中に含まれます。なぜなら、黙示録は、黙示録 9:1-12 のデータに基づいて構築された最終テストで実証された信仰によって、神によって選ばれた最後の「アドベンチスト」たちに宛てられたものであるからです。

「第5のトランペット」。この章の5節と10節では、私まで誤解されていた「

5か月」という預言的な期間が引用されています。この主題についての私の研究では、この期間によって、キリストの真の誕生の実際の2000年である1994年にイエスの再臨を発表するとされる新しい日付が決定されました。この信仰の試みは、公式のアドベンティズムを最後に試すこととなった。アドベンティズムは生ぬるい形式的なものとなり、神が黙示録で敵であることを明らかにした人々と協定を結ぶ準備をしていた。

2018年以来、私はイエス・キリストの真の再臨の日付を知っていますが、それはダニエル書と黙示録の預言のデータに基づいたものではありません。定量化された期間はすべて、定められた時に選別の役割を果たすことに

よって達成されました。イエスの真の再臨は、創世記の記述から理解できます。私たちの週の7日間は、罪と罪人を排除し、神の永遠をもたらすために神が計画された計画全体の7,000年をイメージして構築されていると信じられています。最初の6000年間に選ばれた最愛の選ばれし者たち。ヘブライ語の聖所や幕屋の比率と同様に、6000年の時間は2000年の3分の3を占めます。最後の3分の1の始まりは、30年4月3日、救い主イエス・キリストの贖いの死によって示されました。ユダヤ暦によってこの日付が確認されています。したがって、その再来は2000年後の2030年の春に設定されています。キリストの再臨が私たちの前にあり、非常に近いことを知っているのも、「速やかに」という言葉が必要になります

。》

イエスの言葉は完全に正当化されます。したがって、黙示録は何世紀にもわたって知られ読み継がれ続けたにもかかわらず、私たちの世代に関係する終わりの時まで、封印され、凍結され、封印されたままでした。

2節：「……誰が神の言葉とイエス・キリストの証し、彼が見たすべてのことを証した。」

ジョンは自分のビジョンを神から受け取ったと証言しています。イエス・キリストの証しを構成する幻であり、黙示録19章10節では「預言の霊」として定義されています。メッセージは「見た」イメージと聞いた言葉に基づいています。ヨハネは、キリスト教時代の宗教史の偉大なテーマを映像で彼に明らかにした神の御霊によって地上の偶発的な出来事から引き裂かれました。それは敵に対する彼の輝かしい恐るべき帰還で終わるだろう。

3節：「預言の言葉を読み聞き、そこに書かれていることを守る人は幸いです。その時が近づいているからだ。」

私は、預言の言葉を「読む人」への至福という、自分に課せられた部分を自分のものとして受け止めています。なぜなら、主は「読む」という動詞に正確な論理的意味を与えておられるからです。彼はイザヤ書29:11-12

で次のように説明しています。そして誰が答えるのか：それは封印されているので、私はできません。あるいは、読み方を知らない人に「これを読んでください！」と言って渡す本のようなものです。そして誰が答えますか、「読み方がわかりません。」続く 13

節は、この無能の原因を明らかにしています。しかし彼の心は私から遠く離れており、彼が私に対して抱く恐怖は人間の伝統に過ぎない。」

「封印された」または封印されたという用語は、封印されているために判読できない黙示録の側面を表しています。したがって、最後の時のもう一人のヨハネである私が神に召されたのは、それを完全に開封し封印を解くためです。これは、彼の真に選ばれた者全員が、預言の言葉と映像の中で明らかにされた真実を「聞いて守る」ためです。これらの動詞は「理解し

、実践する」という意味です。この節で神は、キリストにある兄弟の一人である「読む人」から、預言の奥義を説明する光を受け取ることで、選ばれた人々に警告し、その結果、彼らが喜び、その教えを実践できるようになります。実践に移す。したがって、イエスの時代と同様に、信仰、信頼、謙虚さが必要となります。この方法によって、神は教えられないほど傲慢な人々をふるいにかけて、排除します。そこで私は選挙で選ばれた人たちにこう言います。「この小さな公式翻訳者であり伝達者である人間のことは忘れて、真の著者である全能の神イエス・キリストを見なさい。」

4節：「ヨハネ、アジアにある7つの教会へ。今おられる方、かつておられた方、そしてこれから来る方、そして御座の前にいる七つの霊から恵みと平安がありますように...」

大文字の A を持つ議会は永久に 1 つであるため、「7つの議会」という言及には疑問があります。したがって、「七つの集会」とは必然的に、連続した七つの時代におけるイエス・キリストの統一された集会を指します。そのことは確証されるでしょう、そして私たちは神がキリスト教時代を7つの特定の時代に分割していることをすでに知っています。 11

節に示されている名前は、小アジア、現在のトルコの西に位置する古代アナトリアに存在する都市の名前であるため、アジアへの言及は有益であり正当化されます。スピリットはすでにヨーロッパの限界とアジア大陸の始まりを確認しています。しかし、アジアという言葉には、アナトリアという言葉と同様に、精神的なメッセージが隠されています。それらはアッカド語とギリシャ語で昇る太陽を意味し、ルカ 1 章 78-79節にあるイエス・キリストが訪れた神の陣営、「昇る太陽」を暗示しています。そのおかげで、昇る太陽が高いところから私たちを訪れ、暗闇と死の影に座っている人々に光を与え、平和への道に私たちの歩みを導きます。 4:2

の「義の太陽」でもあります。あなたは外に出て、馬小屋から出てくる子牛のように飛び跳ねることになるでしょう。

」この挨拶の定型は、ヨハネの時代にクリスチャンが交換した手紙と一致しています。しかし、神はこれまで知られていなかった新しい表現で指定されています。「今、かつて、そしてこれから来られる方から」。この表現は、原文のギリシャ語やその他の翻訳において、ヘブライ語の神の名前「YaHWéH」の意味を反映しているだけです。これは、ヘブライ語の不完了時制の三人称単数で活用された動詞「である」です。不完全と呼ばれるこの時制は、ヘブライ語の活用には現在時制が存在しないため、時間の経過に伴う達成されたものを表します。

「そして誰が来るのか」は、イエス・キリストの再臨、アドベンティズムのテーマをさらに裏付けています。このようにして、異教徒に対してキリスト教の信仰が開かれていることが確認されます。彼らのために、神はご

自分の名前を適応させます。次に、聖霊を「玉座の前にある七人の精霊」と呼ぶ別の目新しさが現れます。この引用は黙示録 5:6 に登場します。数字の7は聖化、この場合は神の被造物に注がれる聖霊、つまり「彼の玉座の前」に注がれる聖化を示しています。黙示録 5 章 6 節では、

「屠られた小羊」がこれらの象徴と結びついており、この預言はイエス・キリストの神聖な全能性を裏付けています。

「神の七つの霊」は、神の救いの計画を預言するヘブライの幕屋の「七杖の燭台」に象徴されています。彼の計画はこのように明確に概説されました。アダムが誕生して4000年が経ち、イエスは30年4月3日にその死によって選民の罪を償い、このようにして罪のベールを引き裂き、プログラムされた6000年のうち最後の2000年の間に贖われた選民に天国へのアクセスを与えます。それは、世の終わりまで、全地球の国々の中に散らばった選ばれた者が選ばれたからです。

5節：「

...そして、忠実な証人、死者の中からの初子、そして地上の王たちの君であるイエス・キリストより！私たちを愛し、その血によって私たちを罪から救い出してくださった方に。

イエス・キリスト」という名前は、神が地上で達成するために来た地上の宣教に関連付けられています。この聖句は、選ばれた者だけに与えられた恵みによる救いを得るために成し遂げられた彼の業を思い出させます。イエスは、神とその価値観に対する完璧な忠実さにおいて、私たちを含むあらゆる時代の使徒や弟子たちに模倣すべきモデルとして提案された「忠実な証人」でした。彼の死は、罪を犯した後、アダムとイブの裸を着るために殺された最初の動物の死によって預言されました。したがって、彼を通して、彼はまさに「死者の中からの初子」でした。しかし、彼はまた、その神聖な重要性により、彼の死だけで悪魔、罪、罪人を罪に定める有効性と力を持っていました。彼は宗教史上、あらゆる「長子」に勝る「長子」であり続けます。神がヘブライ人を奴隷状態から「解放」するために、罪の象徴である反逆的なエジプトの「初子」人間と動物をすべて殺したのは、ご自分の選民の罪を贖うために必要とされたご自分の死を考えたときでした。すでに「罪」の象徴でありイメージです。

「長子」として、霊的な長子の権利は彼に属します。イエスはご自身を「地上の王たちの君」であると示すことによって、救い出された者の僕となります。

「地の王たち」とは、神の血によって贖われて神の王国に入る者たちです。彼らは新しくなった地球を受け継ぐでしょう。天上の生命の神聖な基準に忠実であり続けた天上の存在たちの謙虚さ、思いやり、友情、兄弟愛、愛のレベルを発見することは驚くべきことです。イエスは地上で、ご自分が「主人であり主」であることを確認しながら、使徒たちの足を洗いました。天国では、彼は永遠にその「王」の「王子」です。しかし、「王」も

兄弟の召使となるでしょう。また、イエスは自分に「王子」という称号を与えることで、自分を敵対者であり敗北した競争相手である悪魔のレベルに置き、悪魔を「この世の王子」と呼んでいます。イエスにおける神の受肉は、二人の「王子」が顔を合わせることによって動機付けられました。世界とその被造物の運命は、偉大な勝利者イエス・ミカエル・ヤハウエの力にかかっています。しかし、イエスが勝利したのは部分的にはご自身の神性によるものにすぎません。なぜなら、最初のアダムが負けた戦いから

4000年後、イエスは私たちと同じ肉体で悪魔と同等の条件で戦ったからです。彼の精神状態と、自分が選んだ者だけを救うために勝つという決意が、彼に勝利をもたらしたのです。彼は、忠実で真実な神の助けがあれば、従順な「子羊」が肉と霊をむさぼり食う「狼」を倒すことができることを示して、選ばれた者たちに道を開いたのです。

6節：「そして、私たちが王国としてくださった方、父なる神への祭司、栄光と力が世々限りなく彼にありますように！アーメン！」

選挙民議会を構成するものを定義するのはヨハネです。イエス・キリストにおいて、古代イスラエルは古い契約の儀式の中で預言された霊的な形をとり続けています。

「王の中の王、主の中の主」に仕えることによって、真に選ばれた者はその王権を共有し、彼とともに天の国の国民を構成します。彼らは霊的な「祭司」でもあります。なぜなら、彼らは自分の肉体の神殿で奉仕し、そこで神に仕え、神への奉仕のために自分自身を神聖に捧げるからです。そして神への祈りを通して、彼らはエルサレムの古代神殿の香の祭壇に捧げられた香水を伝えます。イエスと御父との分離は誤解を招きますが、それは多くの偽キリスト教徒がこの主題について抱いている概念と一致しています。これは、御父を犠牲にして御子を「敬う」と主張するようなものです。これは、321年3月7日以来、キリスト教信仰の過ち、つまり罪でした。多くの人にとって、安息日の休みは、古い契約、つまり御父の摂理に従うユダヤ人だけに関係する規定です。父とイエスはただ一人の人間であるため、彼らは尊敬していると思っていたイエスの怒りに苦しむこととなります。イエスは父としての神聖な性質において、永遠に「栄光と力を永遠に」保持しておられます。アーメン！」「アーメン」意味: それは本当です!実は!

アドベンチストのテーマ

7節「見よ、彼は雲に乗って来る。そして、それを突き刺した者さえも、すべての目でそれを見るでしょう。そして地上のすべての部族は彼のために悲しむでしょう。はい。アーメン！」

イエスが戻ってくるときこそ、イエスのご自身の栄光と力を実証されるのです。使徒

1:11

によると、彼は「天に昇ったのと同じように」戻ってくるとのことですが、その帰還は敵を恐れさせる極度の天の栄光の中で行われるでしょう。彼の本当のプロジェクトに反対して「彼を刺した人たち」。なぜなら、この表現は彼の到来と同時代の人類にのみ関係しているからです。ご自分の僕たちが死の脅威にさらされたり、死刑に処せられたりしたとき、イエスは彼らと同一視するため、彼らと運命を共にします。兄弟たち、あなたは私のためにそれを作ってくれました。 (マタイ

25:40) 」このメッセージには、彼を十字架につけたユダヤ人とローマ兵は含まれていません。神の御霊は、神の救いの働きを妨げ、自分自身や他者に対する神の恵みと永遠の救いの提供を挫折させるすべての人間にこの行動を課す。イエスは「地の部族」を引き合いに出して、イスラエルの部族が新しい契約に拡張されると考えられている偽クリスチャンをターゲットにしています。彼が戻ってきたとき、彼らが彼の真の選民を殺す準備をしていたことを知り、彼らは自分たちが彼らを救おうとしていた神の敵であることに気づき、嘆く正当な理由があるでしょう。終わりの日のプログラムの詳細は、黙示録の各章に散りばめられて明らかにされます。しかし、黙示録

6 章

15-16

節はその場面を次の言葉で描写していると言えます。「地上の王たち、偉い人たち、軍司令官、金持ち、権力者、すべての奴隷と自由民は、この中に隠れた」洞窟や山の岩の中。そして彼らは山や岩に向かって言った、「私たちの上に倒れ、王座に座っておられる方の顔と小羊の怒りから私たちを隠してください。」」。

8節：「私はアルファでありオメガであると、全能者である主なる神は言われます。今も昔も、そしてこれからも全能者です。」

このように自分自身を表現する人は、天に神聖な栄光を見出した優しいイエスであり、彼は「全能者」です。証拠を得るには、この聖句を黙示録

22:13-16

の聖句と結びつけるだけで十分です。これらのことを諸教会の皆さんに証明するために私の天使を送りました。私はダビデの根であり種、明るい明けの明星です。」

4

節にあるように、イエスは創造主なる神の属性、出エジプト 3:14 によるとモーセのヘブライ語名が「ヤハウエ」であるモーセの友人としてご自身を表します。しかし、私は、神の名前は、神が自分自身を名付けるのか、それとも人間が神を名付けるのかによって変わると明記します。「私はいる」は「YaHWéH」という形で「神は」になるのです。

アルファとオメガ」という表現は、創世記1章から黙示録22章まで、聖書の中で神が与えた啓示全体を要約しています。しかし、2018年以降、「6000」年という預言的な意味が、この6日間に与えられています。この一週間は、神が地球とそれを支える生命を創造した期間である実際の6日であるという価値に疑問を抱くことなく確認されました。しかし、預言的な意味を保持しながら、この6日間、つまり「6000」年によって、2030

年の春にイエス・キリストの最終的な勝利の帰還と彼の忠実な聖徒たちの携挙を定義することが可能になりました。イエスは「アルファとオメガ」という表現を通して、末日聖徒に再臨の本当の時刻を知ることができる鍵を与えました。しかし、この 6,000 年をどのように使うかを理解し、それらを「アルファとオメガ」、「始まりと終わり」という表現に結びつけるには、2018 年春まで待たなければなりませんでした。

9節：「私ヨハネ、あなたの兄弟は、患難と王国とイエスにおける忍耐をあなたと分かち合っていますが、神の言葉とイエスの証しのゆえに、パトモスと呼ばれる島にいました。」

イエス・キリストの真の奴隷にとって、艱難時代の部分、王国の部分、そしてイエスにおける忍耐の部分という 3 つのことが結びついています。ヨハネは、神聖なビジョンを受けたときの状況を証言しています。彼が明らかに不滅であると判断したローマ人は、男性への証言を制限するために、最終的に彼をパトモス島に亡命させて隔離した。彼は生涯を通して、イエス・キリストの栄光を讃えるために神の言葉を証しすることを決してやめませんでした。しかし、ヨハネがパトモス島に連れて行かれたのは、そこで神から受けた黙示録を構成するイエスの証を静かに受け取るためだったということも理解できます。

ところで、2

つの預言の著者であるダニエルと黙示録が奇跡的に神によって保護されたことに注目しましょう。ダニエルはライオンの歯から救われ、ジョンは沸騰した油で満たされた桶から無傷で解放されました。彼らの経験は私たちに教訓を教えてください。神は、ご自分を最も讃え、特に奨励したい模範的な側面を示している人々を強力かつ超自然的な方法で保護することによって、ご自分の僕の間に変化をもたらします。したがって、預言の宣教は、Iコリント

12:31

で「より優れた方法」として示されています。しかし、預言者と預言者がいます。すべての預言者が神からの幻や預言を受けるように召されているわけではありません。しかし、すべての選民は預言すること、つまり隣人たちに主の真理を証しし、救いに導くよう勧められています。

アドベンチスト時代に対するヨハネの見方

10節：「主の日、私は御霊の中にいた。すると、後ろからラツパの音のような大きな声が聞こえた。」

「主の日」という表現は悲劇的な解釈を好むでしょう。

J.N.ダービーは聖書の翻訳の中で、それをためらうことなく「日曜日」という言葉で訳しています。神はそれを、黙示録13章16節で悪魔に率いられた「獣」の枯れる「しるし」であると考えています。これは彼の王室の「封印」、つまり神聖な休息の7日目に真っ向から反するものでした。語源

的には、「日曜日」という言葉は「主の日」を意味しますが、問題は、週の最初の日を神が決して命じたことのない休息に充てるという事実から来ています。これは7日目に使用します。それでは、この節で引用されている「主の日」とは実際には何を意味するのでしょうか？しかし、答えはすでに 7 節に示されており、「見よ、彼は雲に乗って来る。」³ここに、それが神によって目標とされた「主の日」です。（マラ 3:5）³；アドベンティズムと、イエスの再臨というその 3 つの「期待」を創造した人物は、1843 年、1844 年、1994 年の 3 つの試練によってもたらされた良い結果も悪い結果もすべて含めてすでに達成されました。このようにして 94 年に生きているヨハネは、イエスが神聖な栄光のうちに戻ってくる、7千年紀のまさに初めの霊。では、彼の「背後」には何があるのでしょうか？キリスト教時代の歴史的過去全体。イエスの死以来、キリスト教の2000年。イエスが選ばれた人々の間に立って、ご自身が悪魔、罪、死を打ち負かしたように、聖霊によって悪を打ち負かすことができるよう彼らを助けた2000年間。彼の「背後」で聞こえる「大きな声」はイエスの声であり、イエスは「ラッパ」のように介入し、自分の選んだ者たちに警告し、彼らが「七つの時代」すべてにおいて人生で遭遇するであろう悪魔的な宗教の罠の性質を明らかにするために介入した。
 」次の詩でその時代が名付けられます。

11節：「だれが言った、『あなたが見たものを本に書いて、エフェソス、スミルナ、ペルガモス、テアティラ、サルディス、フィラデルフィア、ラオデキアの七つの教会に送りなさい。』」。

本文の見かけの形式は、文字通り、ヨハネの時代のアジアの名前の付いた都市を宛先として示しているように見えました。それぞれに独自のメッセージがあります。しかし、これはイエスがメッセージに与えている本当の意味を隠すことを目的とした欺瞞的な外観にすぎませんでした。聖書全体を通して、男性に与えられる固有名には、ヘブライ語、カルデア語、ギリシャ語など、その語源に隠された意味があります。この原則は、これら 7 つの都市のギリシャ名にも当てはまります。それぞれの名前は、それが表す時代の特徴を明らかにします。そして、これらの名前が提示される順序は、神によってプログラムされた時間の進みの順序に対応しています。これらの名前の順序が尊重され確認されている黙示録 2 章と 3 章の研究で、これら 7 つの名前の意味がわかりますが、最初と最後の「エフェソスとラオデキア」の意味は彼らだけに明らかになります。御霊がそれらを利用すること。それぞれ「出発する」と「裁かれる人々」を意味し、キリスト教の恵みの時代の「アルファとオメガ、始まりと終わり」がわかります。イエスが 8 節で、この定義に基づいて、「私はアルファでありオメガである」と自己

紹介したのも不思議ではありません。このようにして彼は、キリスト教時代全体を通して、忠実な奴隷たちに自分の存在を記録します。

12節：「私はどんな声が私に話しかけているのか知りたくて振り向いた。そして振り返ると、7つの金色の燭台が見えました。

振り向く」という行為は、ヨハネ自身をイエスの栄光の再来の瞬間に連れて行って以来、キリスト教時代全体を見るように導きます。正確な「後ろ」の後に、ここでは「私は振り向いた」、そして再び「そして、振り向いた後」があります。聖霊は過去に対するこの見方を強く主張し、私たちがその論理に従うようにします。そしてジャンは何を見たのでしょうか？ 「7つの黄金の燭台」。ここでも「七つの議会」と同様に疑わしいものがある。というのは、「燭台」のモデルはヘブライ語の幕屋で発見されており、それにはすでに神の御霊とその光の聖化を象徴する七本の枝があったからです。この観察は、「7つの集会」、「7つの燭台」は神の光の聖化を象徴していますが、キリスト教時代全体で7つの瞬間がマークされています。燭台は時代の選民を表し、その光で選民を照らすのに依存する神の御霊の油を受け取っています。

大災害の予告

13節：「そして、七つの燭台の真ん中に、長いローブを着て、胸に金の帯をつけた人の子のような人がいた。」

ここから主イエス・キリストの象徴的な説明が始まります。この場面はイエスの約束を表しています。ルカ 17:21: 「『彼はここにいる』とか、『彼はそこにいる』とは誰も言わないでしょう。見よ、神の王国はあなたがたの間にあるからである。」 ;マタイ 28:20:

「そしてわたしがあなたたちに命じたすべてのことを守るようにならに彼らに教えなさい。そして見よ、わたしは世の終わりまで、いつもあなたとともにいます。」。この幻はダニエル 10 章の幻と非常に似ており、1節ではユダヤ人に対する「大きな災い」の知らせとして示されています。

したがって、黙示録 1 章のそれも「大災難」を告げていますが、今回はキリスト教議会にとっての災難です。 2

つのまったく異なる歴史的な文脈のそれぞれに詳細が適応されているため、 2

つのビジョンの比較は非常に啓発的です。これから提示される象徴的な説明は、イエス・キリストの最後の栄光の帰還という文脈で語られます。二つの「災い」には、神が引き続いて築いた二つの同盟の終わりに起こるという共通点がある。ここで 2

つの幻を比較してみましょう。この節の「人の子」はダニエルでは「人」でしたが、それは神がまだイエスにおいて受肉していなかったからです。それどころか、「人の子」には、イエスが福音書の中でイエスについて語る時に常に名前を挙げている「人の子」が見られます。もし神がこの表現をそこまで主張したとすれば、それは人間を救う神の能力を正当化するためである。彼はダニエル書で「長いローブを着て」、「亜麻布を着て」ここにいます。この長いローブの意味の鍵は黙示録 7:13-14 に示されています。それは、真の信仰の殉教者として死んだ人々によって運ばれます。

「すると、長老の一人が答えて私に言いました：白いローブを着ている人たちは誰ですか、そしてどこから来たのですか？」私は彼に言いました。

「主よ、あなたはそれを知っています。」そして彼は私に言った、「彼らは大患難から来た人々です。彼らは自分たちの衣を洗い、子羊の血で白くしました。

」。ダニエル書では、イエスは「胸に金の帯」を着けていますが、心臓には「腰に」力の象徴を着けています。そして、「金の帯」は、エペソ6:14によると真理を象徴しています。義の胸当てを着けなさい。

」。イエスのように、真理はそれを愛する人によってのみ尊重されます。

14節：「彼の頭と髪は白い羊毛のように、雪のように白かった。彼の目は炎のようだった。」

完全な純粋さの象徴である白は、罪に対する恐怖を抱く神イエス・キリストを特徴づけています。しかし、「大災害」の告知は、罪人を罰するという目的しかあり得ません。この原因は両方の災難に関係しているのので、私たちはこことダニエルの中で、偉大な裁き主である神が「目は火の炎のようだ」と見出すことができます。彼の視線は罪や罪人を焼き尽くしますが、イエス・キリストの裁きが最終的に焼き尽くす偽ユダヤ人や偽キリスト教徒の反逆者とは異なり、イエスに選ばれた者は罪を放棄することを選択します。そして、この「災い」の最後の文脈は、その歴史上の敵を指定しており、それらはすべてこの本とダニエルの章で特定されています。

Apo.13は、創世記 1:9-10 にその名前が示唆されているように、カトリックの信仰とそれに由来するプロテスタントの信仰を示す「海と地」という名前で識別される2匹の「獣」の側面でそれらを私たちに示しています。

。彼が帰還すると、二頭の同盟の獣は一つとなり、彼の安息日と彼の信者たちと戦うために団結する。黙示録 6 章 16 節によれば、彼の敵は恐れおののき、立っていらなくなるでしょう。

15

節：「彼の足は、まるで炉で燃えているようで、青銅が燃えているようでした。そして彼の声は多くの水の音のようでした。」

イエスの足は体の他の部分と同じように純粋ですが、この像では反逆的な罪人の血を踏んで汚れています。ダニエル書 2:32

にあるように、不純な合金金属である「真鍮」は罪を象徴しています。黙示録 10:2

にはこう書かれています。「彼は手に開いた小さな本を持っていました。彼は右足を海に置き、左足を地に置きました。」。黙示録 14:17 ~ 20では、この行為に「ブドウの収穫」という名前が付けられています。イザヤ書 63 章で展開されるテーマ。黙示録 17:15 では、「多くの水」は、「娼婦大バビロン」と同盟を結ぶ「民、群衆、国民、異国語」を象徴しています。教皇のローマ・カトリック教会を指す名前。この11時間の同盟は、神によって聖化された安息日に反対するために彼らを団結させるでしょう。彼らは彼の忠実な観察者たちを殺害する決定までするだろう。したがって、私たちは彼の正義の怒りの象徴を理解します。イエスはその幻の中で、ご自身の唯一の個人的な神の「声」が、地球上のすべての人々の声を合わせたものよりも強力であることを、ご自分の選ばれた人々に示しました。

16節「彼は右手に七つの星を持っていました。彼の口からは鋭い両刃の剣が出てきました。そして彼の顔は力強く輝く太陽のようでした。」

彼の右手」に握られた「七つの星」のシンボルは、それだけで神の祝福を与えることができる彼の永続的な支配を思い出させます。異教徒の敵によって頻繁かつ大規模に不当な主張がなされる。創世記 1:15の星と同様に、その役割は彼の場合、神の正義について「地を照らす」ことであるため、星は宗教的な使者の象徴です。再臨の日、イエスは、7つの議会の名前によって象徴されるあらゆる時代から選ばれた者たちを復活させます（死と呼ばれる完全な瞬間的な消滅の後に再蘇生するか、再び蘇らせません）

。この輝かしい文脈の中で、彼と彼の忠実な選民のために、彼は自分自身を「神の言葉」として表し、その象徴は「鋭い両刃の剣」であることがヘブル書 4:12 で引用されています。これは、黙示録 11 章 3節が神の「二人の証人」として象徴している、聖書に書かれているこの神の言葉に示されている信仰に従って、この剣が生と死を与える時です。人間の場合、顔の外観のみがその人を識別し、区別することができます。したがって、それは優れた識別要素です。このビジョンでは、神も対象となる状況に合わせて顔を適応させます。ダニエルの幻では、神はギリシャ神ゼウスの典型的な象徴である「稲妻」で顔を象徴しています。なぜなら、預言の敵は、168年に預言を成就したアンティオコス4世王のギリシャのセレウコス朝の人々だからです。黙示録の幻視と同様に、イエスの顔もまた、今度は「力強く輝く太陽」である敵の外観を帯びています。聖なる安息日を守る者を地球上から根絶するというこの最後の試みが、321年3月7日に皇帝によって定められた「征服されざる太陽の日」を尊重する反乱軍の戦いの頂点を構成するのは事実である。コンスタンティン 1^{er}

。この反乱軍陣営は、2030

年春の初日に、その神聖な力のすべてを備えた「神の正義の太陽」を目の前に見つけるでしょう。

17節：「彼を見たとき、私は死んだかのように彼の足元にひれ伏しました。彼は右手を私の上に置き、「恐れるな！」と言った。」

このように反応することで、ジョンは帰還時に自分に立ち向かう人々の運命を予期しているだけです。ダニエルも同じ行動をとりましたが、どちらの場合も、イエスは忠実な僕である奴隷を安心させ、強めます。

「彼の右手」は彼の祝福とその忠実さを裏付けるものであり、他の陣営の反逆者とは異なり、選ばれた者には愛から救いに来る神を恐れる理由がありません。「恐れるな」という表現は、黙示録 14 章 7 節の最初の天使からのこのアドベンチスト派のメッセージによって 1843 年以來特徴づけられた最後の文脈を裏付けています。裁きが来た。そして天と地と海と水の泉を造られた方の前にひれ伏しなさい。 »

;つまり創造主なる神です。

18節：「わたしは最初であり、最後であり、生きている者です。私は死んでいました;そして見よ、私は永遠に生きます。私は死と地獄への鍵を握っています。」

このような言葉でご自身を表現しているのは、まさに、悪魔、罪、死に対する征服者であるイエスです。彼の言葉「最初と最後」は、預言がカバーする時間の始まりと終わりのメッセージを裏付けていますが、同時にイエスは、最初の被造物から最後の被造物に至るまで、命を与える神性を確認しています。

「死の鍵を握る者」は、誰が生きるべきで誰が死ぬべきかを決定する力を持っています。彼の帰還の時は、黙示録 20:6 によれば、

「キリストにある祝福された死者」のために予約された「最初の復活」で彼の聖徒たちが復活する時です。ギリシャとローマの遺産である偽キリスト教の伝統に関するすべての神話を排除し、「死者の墓」とは、まったく単純に、創世記に書かれているように、塵に変えられた死者を集めた地球の土であることを理解しましょう。 . 3:19:

「あなたは顔に汗をかいてパンを食べ、連れ去られた地に帰るまで、パンを食べるでしょう。あなたは塵であり、塵に戻るからです。

」。これらの遺体は二度と役に立たないでしょう。なぜなら、彼らの創造主は、神への忠実さを保つ天使たちと同じ不朽の天体 (1コリント15:42) の中で、神聖な記憶に刻まれた人格のすべてを持って彼らを復活させるからです。

「というのは、復活のとき、人は結婚することも結婚することもせず、天にいる神の天使のようになるからです。マタイ 22:30」。

未来についての預言的なメッセージが確認される

19節「だから、あなたが見たこと、今あること、そしてその後起こることを書きなさい。」

この定義において、イエスは、栄光のうちに戻ってくることで終わるキリスト教時代の世界的な時についての預言的な報道を裏付けています。使徒時代は「あなたが見た」という表現に関係しており、神はヨハネを使徒職の真の目撃者として指名しています。彼は黙示録 2 章 4 節で引用されている選ばれた者の「初恋」を目撃しました。

「...である人々」は、ヨハネが生きて活動し続けるこの使徒時代の終わりに関係しています。

「...そしてその後に来るべきもの」は、イエス・キリストの再臨の時まで、そしてその後、7千年紀の終わりまでに起こる宗教的出来事を示しています。

20節：「あなたが私の右手に見た七つの星の神秘と、七つの金の燭台の神秘。7つの星は7つの教会の天使であり、7つの燭台は7つの教会です。」。

「7つの議会の天使」は、これら7つの時代すべてから選ばれた者たちです。なぜなら、ギリシャ語の「angelos」に由来する「天使」という言葉はメッセンジャーを意味し、「天上人」という言葉がそれを明確にする場合にのみ、天上の天使を指すからです。同様に、私の解説で疑われた「7つの燭台」と「7つの議会」がここにまとめられています。したがって、御霊は私の解釈を裏付けています。「7つの燭台」は、「7つの議会」の名前で指定された7つの時代における神の光の聖化を表しています。

黙示録 2: キリストの集会 発売から1843年まで

手紙というテーマでは、黙示録 2 には 94 年から 1843 年までの期間を対象とした 4 つのメッセージがあり、黙示録 3 には 1843 年から 1844 年から 2030 年までの期間を対象とした 3 つのメッセージが含まれています。名前に関するこの明らかな正確さに興味深く注目してみましょう。最初と最後の文字は「エフェソスとラオデキア」で、それぞれ「人を投げる」「裁かれる」という意味です。キリスト教の恵みの時代の始まりと終わり。黙示録 2 章の終わりでは、御霊はダニエル 12:11 であらかじめ定められた 1828 年を対象とする「キリストの再臨というアドベンチストのテーマ」の始まりを呼び起こします。また、時が経つと、黙示録の第 3 章の始まりは、アドベンチスト派の信仰の試みの始まりとなった 1843 年の日付と正当に関連付けられる可能性があります。証明されたプロテスタントの信仰を認可するために、「あなたは死んだ」という改作されたメッセージが登場します。これらの説明は、メッセージとダニエル書で確立された日付との関連性を確認するために必要でした。しかし、黙示録の示現は、ダニエルが開発しなかったキリスト教時代の始まりに関する啓示をもたらします。私たちの時代を通じてイエスがご自分のしもべたちに宛てた手紙やメッセージは、多くのキリスト教信者を悩ませている誤った誤解を招く幻想という宗教的な誤解を払拭します。そこには、正当な要求と常に正当な非難を伴う本物のイエスがいます。Rev.2 の4 つの文字は、94 年から 1843 年の間に位置する 4 つの時代を連続して対象としています。

1^{限目} : エフェソス

94年、キリスト議会発足の最後の証人となる

1節：「エフェソスの会衆の天使に書きなさい。右手に七つの星を持ち、七つの金の燭台の間を歩く者はこう言います。」

エフェソスという名前は、出発を意味するギリシャ語「エフェシス」の最初の翻訳に由来しており、ローマ皇帝ドミティアヌス (81-96 年)

の時代、キリストの議会の発足の時から神がしもべたちに語られました。
)。したがって、聖霊は、ヨハネが私たちに説明している啓示を神から受け取る時をターゲットとしています。彼は奇跡的に生き残った最後の使徒であり、イエス・キリストの集会の発足の最後の目撃者となったのも一人です。神は自分の神聖な力を思い出します。祝福の象徴である選ばれた人々の命である「星」を「右手に持っている」のは彼だけであり、彼らの働きを彼が判断するのは彼らの信仰の成果です。場合に依じて、彼は祝福したり呪ったりします。神は「歩き」、代々、選ばれた人々の生活や、神が組織したり戦ったりする世界の出来事に随伴することによって、ご自身の計画の時代を前進させていることを理解し、「そして、私が定めたことすべてを守るように彼らに教えます」あなたへ。そして見よ、わたしは世の終わりまで、いつもあなたとともにいます。マタイ

28:20。」世の終わりまで、神に選ばれた者たちは、神が自分たちのために前もって用意しておいた業を実行しなければならない。それらを実践するかもしれませんが。エフェソス 2:10。」そして、7つの時代それぞれで必要とされる特定の条件に適応する必要があります。なぜなら、「エフェソス」で与えられた教訓は7つの時代に有効だからです。彼は右手に持っている「七つの星」を地面に落とすことができ、それは反抗的なキリスト教徒に関係するものです。

「燭台」は光を与える場合にのみ役に立ち、光を与えるためには聖霊の象徴である油で満たされなければならないという考えを覚えておいてください。

2節「私はあなたの働き、労苦、忍耐を知っています。悪者には我慢できないのはわかっています。あなたが自分を使徒と呼ぶ者とそうでない者を試したこと、そして、嘘つきを見つけた。」

注意

！動詞の活用時制は、使徒時代の目標時期を決定するため、非常に重要です。この節では、現在形で活用されている動詞は 94年を指し、過去形の動詞は 65 年から 68年の間にローマ皇帝ネロによって加えられた迫害の時期に関係しています。

「邪悪な」異教徒、特にその中でも当時の横暴なローマ人を憎んでいます。これには理由があります。それは、イエス・キリストが教えた真理の他の多くの古代の証人たちと同様に、使徒ヨハネがまだ生きているからです。したがって、

「嘘つき」は簡単に暴かれます。というのは、いつの時代でも、改心していない毒麦が小麦と混ざろうとするのは、神への畏れが依然として大きく、救いのメッセージが魅惑的で魅力的だからである。彼らは教義に誤った考えを持ち込んでいます。しかし、真実への愛の試練で彼らは失敗し、真に啓発された選ばれた人々によってその正体が暴かれます。同様に、使徒時代の過去について、「あなた方は試練に遭った」と聖霊は、ネロ帝が65

年から68年にかけて、この聖句で標的とされた偽キリスト教徒、真の「嘘つき」たちの欺瞞の仮面がどのようにして死の試練によって剥がされたかを思い起こさせます。彼はキリストの選民をコロッセオの野獣に引き渡し、ローマの住民に血なまぐさい光景を提供した。しかし、指摘しておきたいのは、イエスは過去の時代のこの熱意を呼び起こしているということです。

3節：「あなたが忍耐強く、わたしの名のために苦しみ、疲れなかったのです。」»

ここでも動詞の活用の時制に注意してください！

忍耐の証がまだ残っているとしても、苦しみの証はもう残っていないのです。そして神は、約30年前、65年から68年の間、血に飢えたローマのネロが、邪悪で墮落した民に見世物としてキリスト教徒を死刑に引き渡し、明らかにされ崇高な栄誉を与えられた苦しみの受け入れを思い出す義務がある。選ばれし陣営がその「名の下に」「苦しみ」、「疲れ」なかったのはこの時だけだった。

4節「しかし、私があなたに反対しているのは、あなたが初恋を捨てたということです。」»

示唆された脅威がより明確になり、確認されます。この当時、キリスト教徒は忠実でしたが、ネロの下で示された熱意は弱まっていたか、もはや存在していませんでした。イエスが「最初の愛を失うこと」と呼んだものは、94年時代にとって、最初の愛よりもはるかに劣った2番目の愛の存在を示唆しています。

5節：「だから、あなたがどこから墮落したのかを思い出し、悔い改めて、以前の行いをしなさい。そうでないなら、あなたが悔い改めない限り、私はあなたのところに行き、あなたの燭台をその場所から取り除きます。」»

真理をただ尊重したり、単純に認識したりするだけでは救いはもたらされません。神は救った人々を永遠の伴侶とするために、さらに多くのことを求められます。永遠の命への信仰は、最初の命の価値を下げることを意味します。マタイ 16 章 24 節から 26節によれば、イエスのメッセージは永遠に同じです。私に従ってください。自分の命を救いたい者はそれを失うが、私の為命を失う者はそれを見つけるからである。そして、人間が魂を失ったら、全世界を手に入れても何の得があるのでしょうか？あるいは、人は自分の魂と引き換えに何を与えるのでしょうか？

「燭台」に象徴される神の御霊を取り除くという脅迫は、神にとって真の信仰が魂に貼り付けられた単純なラベルではないことを示しています。エペソ時代、神の御霊の象徴的な燭台は東方、キリスト教信仰が生まれたエルサレム、そしてギリシャと現在のトルコにパウロによって設立された教会にありました。宗教の中心地は間もなく西側、主にイタリアのローマに移される予定だ。

6

節「それでも、あなたはニコライ派の作品を憎んでいます。私もその作品を憎んでいます。」

この手紙では、ローマ人は「邪悪な人々」にちなんで、象徴的に「ニコライ人」と名付けられています。これは、勝利した人々、あるいは勝利の人々、当時の支配者を意味します。ギリシャ語で「ニケ」という言葉は勝利を擬人化した名前です。では、神とその選民が憎む「ニコライ人の作品」とは何でしょうか？異教と宗教の混合主義。彼らは多くの異教の神々を讃えており、その中で最も偉大な神々には、曜日がその神々に捧げられています。私たちの現在のカレンダーは、太陽系の 7 つの星の名前、惑星、または星の名前を 7 つの曜日に割り当てていますが、これはローマの宗教の直接の遺産です。そして、「征服されざる太陽」に捧げられた初日の崇拜は、やがて321年以降、創造主である神がローマ人の宗教的な「作品」を憎む特別な理由を与えることになるでしょう。

7節：「耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞きなさい。勝利する者には、わたしは神の楽園にある命の木の実を食べさせよう。」

勝利する者」という地上の勝利の時と、その報いが与えられる天上の時を思い出させます。

この公式は、預言の対象となった 7 つの時代のうちの 1 つにおいて、イエスが召使いたちに宛てた最後のメッセージです。御霊はそれをそれぞれの時代の特定の状況に適応させます。エフェソスの出来事は、預言の対象となる時代の始まりを示しているため、神は地上の歴史の始まりという形でそこに永遠の救いを与えます。イエスのイメージは、神が罪のない純粋な人間をそこに置くために創造した地上の園の生命の木の下で呼び起こされました。 Apo.22

は、勝利した選ばれた人々が新しい地で幸福になるために、この新たなエデンの回復を預言しています。毎回提示される公式は、イエス・キリストが選ばれた者だけに提供された永遠の命の側面に関するものです。

2期：スミルナ

303年から313年の間、ローマ最後の「帝国」迫害

8節：「スミルナの会衆の天使に手紙を書きなさい。これは、死んでいて再び生きている最初と最後の天使の言葉です。」

2文字目の「スミルナ」という名前は、「没薬」を意味するギリシャ語「スミルナ」から翻訳されたもので、神はローマ皇帝ディオクレティアヌス帝による恐ろしい迫害の時代を標的としています。

「ミルナ」は、イエスの死の直前に彼の足に防腐処理を施し、東方の賢者たちが誕生の際に捧げ物としてもたらした香水です。イエスは、この試練の中で、94年にはもう見出せなかった真の信仰の熱意を見出します。イエスの名のもとに死ぬことに同意する人は、イエスが死を克服し、再び生き

て、かつてと同じように彼らを復活させることができることを知らなければなりません。

「自分のためにやったのです。この預言は、イエスご自身がその「最初の」代表者であるクリスチャンにのみ宛てられています。彼の人格を彼の召使いたちの人生に同化させることによって、彼はまた「最後の」クリスチャンとして表されるでしょう。

9節：「私は、あなたの患難と貧困（あなたは金持ちですが）、そしてユダヤ人と称しながらユダヤ人ではなくサタンの会堂である人々の中傷を知っています。」

ローマ人による迫害により、キリスト教徒は財産を奪われ、ほとんどの場合死刑に処されました。しかし、こうした物質的、肉体的な貧困によって、彼らは神の裁きという信仰の基準において霊的に豊かになります。その一方で、彼は自らの判断を隠すことなく、聖書が預言するメシアであるイエス・キリストを認めず、神の救いの基準を拒否したユダヤ教に与えている価値を非常に明確な言葉で明らかにしています。神に見捨てられたユダヤ人は悪魔とその悪霊たちに乗っ取られ、神とその真の選民にとって「サタンの会堂」となります。

10節：「自分が苦しむことを恐れてはいけません。見よ、悪魔はあなたがたのうちの何人かを投獄し、あなたがたを試み、10日間の艱難を経験させるだろう。死に至るまで忠実であれ、そうすれば私はあなたに命の冠を与えます。」

この聖句では、悪魔はディオクレティアヌスと呼ばれています。この残酷なローマ皇帝と彼に関連する「テトラルカ」は、彼らが絶滅させようとしているキリスト教徒に対して激しい憎しみを持っていました。発表された迫害または「艱難」は、実際には303年から313年まで「10日間」または「10年間」続きました。祝福された大殉教者として「死に至るまで忠実」だった一部の人たちに、イエスは「命の冠」を与えます。永遠の命は彼らの勝利のしるしです。

11節：「耳のある人は、御霊が諸教会に言うことを聞いてください。勝利する者は第二の死を経験しません。」

期間終了のメッセージのテーマは「死」です。今度は、聖霊は、神のための最初の殉教の死を受け入れない人々は、最後の審判の「火の湖」での「第二の死」から逃れることができずに苦しまなければならないことを私たちに思い出させ、救いを呼び起こします。

「第二の死」は、選ばれた人々には永遠に永遠の命に入っているため、影響を与えることはありません。

3期：ペルガモン

538年、ローマに教皇政権が樹立される

12節：「ペルガモスの会衆の天使に手紙を書きなさい。鋭い両刃の剣を持つ者はこう言うのです。」

ペルガモスという名前によって、神は靈的な姦淫の時代を思い出させます。ペルガモンという名前には、ギリシャ語の 2
つの語源「ペラオ」と「ガモス」が含まれており、「結婚を犯す」という意味になります。それは、世の終わりまでキリスト教徒を襲うであろう不幸が始まる運命の時です。前の時代は 313

年という日付をターゲットにすることで、四君主コンスタンティウス
クロルスの息子でマクセンティウスに対する勝者である 皇帝コンスタンティヌス 1
世の権力へのアクセスと異教の統治を示唆しました。 321年3月7日の勅令により、彼は第7
聖なる日、つまり現在の土曜日の聖なる安息日の毎週の休みを放棄し、当時、異教の太陽神崇拝「ソル」に捧げられた初日を優先しました。インビクタス」、征服されざる太陽。彼に従うことによってキリスト教徒は「靈的姦淫」を犯したことになり、これが538年以降、ペルガモン時代と結びついたローマ教皇の公式規範となった。不忠実なキリスト教徒は、皇帝ユスティニアヌス¹

世によって設立された新興宗教指導者ヴィギリウスに従います。この陰謀家は、皇帝と結婚した売春婦テオドラとの関係を利用して、彼の新たな普遍的宗教権力、つまりカトリックによって拡大された教皇の地位を獲得した。このように、神はペルガモンという名のもとに、靈的姦淫の新たな名称であり大義である「日曜日」の慣行を非難し、その下でコンスタンティヌスから受け継いだかつての「太陽の日」はローマのキリスト教会で尊重され続けている。それはイエス・キリストであると主張し、ローマ法王の首長の称号である「神の子の代理」（神の子の代わりまたは代替者）、ラテン語で「VICARIVS

FILII DEI」、の文字数で主張しています。それは「 666
」です。この数字は、黙示録 13:18

が「獣」の宗教的要素に帰している数字と一致しています。したがって、ペルガモスと呼ばれる時代は、ダニエル書 8:11
によれば、受肉した全能の神であるイエス・キリストから議会の長の称号を剥奪する不寛容で篡奪した教皇の統治から始まります。エペソ 5:23:
「というのは、キリストが教会のかしらであり、その体であり救い主であるのと同じように、夫は妻のかしらなのです。

「でも気をつけて！この行動は神ご自身の靈感によるものです。実際には、公式に不誠実となったキリスト教の信仰を撤回し、教皇政権に引き渡したのも彼であった。ダニエル 8:23

で非難されているこの政権の厚かましきは、ダニエル 7:25
によれば、神が自ら制定された「時代と法律を変える」という主導権を政権にとらせるところまで行っています。そしてさらに、いかなる人間も靈的に「父」と呼んではいけないという彼の警告を無視して、彼は自分自身を「至聖なる父」という称号で崇拝させ、こうして自分を創造主である神、立法者よりも高くしており、いつかそれが有益であることに気づくでしょう。そして地上では誰もあなたの父親と呼んではなりません。なぜなら

、その一人は天におられるあなたの父だからです。 (マタイ 23:9) 」この人間の王には後継者がおり、その体制とその行き過ぎは、最も偉大で、最も強く、最も正義である真の「至聖なる天の父」によって計画された裁きの日まで継続されることになる。

したがって、皇帝ユスティニアヌス 1

世は、神が彼に対する「姦淫」とみなしたこの宗教体制を確立しました。したがって、この暴挙の重要性は歴史に刻まれなければなりません。彼の治世中の 535 年と 536 年に 2

つの巨大な火山噴火があり、大気を暗くし、541 年に致命的な疫病の流行を引き起こしました。この疫病は 767 年まで消滅せず、592

年に最大の攻撃がピークに達します。神の呪いが起こる可能性があります。これ以上ひどい形にはなりません。この件については次の節で詳しく説明します。

13節「私はあなたがどこに住んでいるのか知っていますし、サタンの王座があることも知っています。あなたは私の名前を覚えていて、私の忠実な証人であるアンティパスの時代でさえ、私の信仰を否定しませんでした。アンティパスは、サタンの住処であるあなたたちの間で殺されました。」

この預言は、その名声と、罪人たちが今日でも受けている名誉のために、「王座」とその位置を強調しています。今度は、この偽りのキリスト教的で完全に異教的な宗教的側面の下で、再び支配を再開するのは「ローマ」です。自分の「後任」（または代理者）であると主張する教皇は、神から個人的に話しかけられることすらありません。預言の受信者は選ばれた者であり、墮落した者でも、異教の儀式を美化する篡奪者でもありません。ローマ

カトリック信仰のこの高貴な場所は、ローマのラテラノ宮殿に教皇の玉座があり、コンスタンティヌス 1

世が寛大にもローマ司教にこの玉座を提供しました。このラテラン宮殿は、市の南東に位置する「ローマの七つの丘」の 1

つであるカエリウス山にあります。カエリウスという名前は空を意味します。この丘は 7

つの丘の中で最も長く、面積も大きいです。現在も教皇庁とその聖職者にとって世界で最も重要なカトリック教会であるラテラン教会の近くには、ローマに現存する最大のオベリスクが立っており、その高さは 47

メートルに達し、13 本あります。7 メートルの土の下で発見され、3 つの部分に分割されていたこの遺跡は、教皇シクストゥス 5 世によって 1588

年に設置され、同時にティアティラと呼ばれる次の預言の時代にバチカン国家の支配を組織しました。エジプトの太陽崇拝のこのシンボルは、コンスタンティヌス帝の申し出を思い出させる大きな碑文が刻まれています。

実際には、父親の死後、それをコンスタンティノーブルに持ち込みたいという父親の願いの一部をかなえるために、エジプトからローマにそれを持ち込んだのは息子のコンスタンティウス2世でした。コンスタンティヌス1世の栄光へのこの献身は、コンスタンティヌス1世の息子のためというよりも、神の願望によるものです。なぜなら、その高い台座を備えたオベリスク全体が、コンスタンティヌス1世を「太陽の日」の残りの期間を定める公権力者とし、当時ローマのキリスト教会の単純な司教であった教皇とする預言されたつながりを裏付けるからである。宗教当局は、この異教の日を「日曜日」または「主の日」という名前で宗教的に強制するでしょう。このオベリスクの頂上には、この昇順で互いに続く4つの明らかなシンボルがあります。その先端には4頭のライオンが座っており、4つの枢点を指し、その上には太陽の光がそびえ立つ4つの山があり、その上にはキリスト教徒と一緒に支配しています。クロス。4つの枢機卿の点に向けられたライオンのシンボルは、普遍的な力を持つ王族を示しています。これはダニエル7節と8節でその記述が明らかになっていることで裏付けられます。黙示録17章18節はローマについて次の言葉を裏付けています。

さらに、オベリスクに刻まれたエジプトのカルトゥーシュは、「王が太陽神アモンに宛てた不純な願い」を思い起こさせます。これらすべてのことは、コンスタンティヌス1世以来、彼の勝利の日である313年以来、ローマで支配してきたキリスト教信仰の本当の性質を明らかにしています。このオベリスクとそのシンボルは、ダニエル8:25で預言されている悪魔のしもべの「成功」を証明しています。彼は、コンスタンティヌス1世を通して、キリスト教の信仰に、神によって宗教的に断固として非難されている混合主義の外観を与えることに成功しました。イエス・キリストにおいて。これらのシンボルのメッセージを要約します。「十字架」：キリスト教の信仰。「太陽光線」：太陽崇拝。「山」：地上の力。「四頭のライオン」：普遍的な王族と強さ。「オベリスク」：出エジプトのファラオの反逆以来、そして太陽神アモンへの偶像崇拝を構成する罪のために、エジプトは罪であれ。神はこれらの基準をコンスタンティヌス¹世が発展させたローマカトリック信仰によるものであると考えています。そして、これらの象徴に、エジプトのカルトゥーシュを通して、彼はローマの司教たちの宗教的献身についての判断を加えているが、二人とも彼は不純であると考えている。彼らはすでに街の宗教兄弟たちから「教皇」と呼ばれています。キリスト教の信仰と、コンスタンティヌス自身がすでに実践し称賛している太陽崇拝との結びつきは、人類が世界の終わりまで継続的に支払うことになる恐ろしい呪いの根源となっている。このラテラン王位はローマ皇帝と競

合していません。コンスタンティヌス 1
世以来、彼らはもはやローマではなく、帝国の東、コンスタンティノープルに住んでいるからです。このように、イエス・キリストがヨハネに与えた預言的な啓示を無視することによって、多くの人類が史上最大の宗教的欺瞞の犠牲になっているのです。しかし、彼らの無知は罪深いものです。なぜなら、彼らは真理を愛しておらず、したがって神ご自身によってあらゆる種類の嘘や嘘つきに引き渡されているからです。ペルガモン時代の国民の教育の欠如は、当時の歴代のローマ皇帝によって押し付けられ支援された教皇政権の成功を説明しています。だからといって、真に選出された一部の役人がこの新たな違法な権威を拒否したり拒否したりすることは妨げられない。それによってイエスは彼らを自分の真の僕であると認識するようになります。ローマで選ばれた人々の位置が決定されましたが、日曜日を尊重しながらイエスの名における信仰を保った538人の僕たちの中に御霊がそこに見出されたことに注目してください。しかし、ローマのこの場所で最後の殉教者、つまり「忠実な証人」が現れたのは、65年から68年のネロの時代と、303年から313年のディオクレティアヌス帝の時代だけでした。ローマの街をターゲットに、聖霊はローマの忠実さを思い出させます。

「アンティパス」は過ぎ去った時代の彼の「忠実な証人」です。このギリシャ語の名前は、「すべてに対して」を意味します。この都市でイエス・キリストの福音を最初に伝えた使徒パウロを指すものと思われませんが、65年にネロ皇帝のもとで斬首され、殉教者として亡くなりました。このように神は、教皇たちの「神の子の代理」という誤った誤解を招く称号に異議を唱えています。真の牧師は忠実なパウロであり、不誠実なヴィギリウスや彼の後継者ではありませんでした。

全能の創造主である神は、キリスト教時代の宗教史の重要な瞬間を自然の中に刻み込みました。呪いが強烈な性格を帯び、キリスト教徒に深刻な結果をもたらす瞬間です。すでに地上での宣教中に、イエス・キリストはガリラヤ湖の嵐を制御したという証拠を12人の使徒たちに与え、驚き、驚きました。彼の命令で嵐を瞬時に静めた。私たちの時代、533年から538

年までの期間は特にこの呪われた性格を帯びていました。それは、神がユスティニアヌス 1

世によって教皇政権を確立することによって、コンスタンティヌス 1
世皇帝が発布した休息を義務付ける法令に従うキリスト教徒を罰することを望んでいたからです。 321 年 3 月 7

日以来、週の最初の日の「征服されざる太陽の日」です。神に呪われたこの期間に、神は 2

つの火山の目覚めを引き起こし、地球の北半球を窒息させ、地球上に痕跡を残しました。南半球はもちろん南極まで。数か月離れて、赤道付近の対蹠地に位置する闇の広がり是非常に効果的で、非常に致命的でした。何十

億トンもの塵が大気中に広がり、人類から光といつもの食料作物を奪います。天頂にある太陽は、完全に消えてしまった満月と同じ光を放っています。歴史家は、7月中旬の吹雪のおかげでユスティニアヌス帝の軍隊が東ゴート族からローマを奪還したというこの証言に注目している。

「クラカトア」と名付けられた最初の火山はインドネシアにあり、535年10月に目覚め、想像を絶する規模で山岳地帯が50 kmにわたって海洋地帯に変わりました。そして2つ目は「イロパンゴ」と名付けられ、中米に位置し、536年2月に噴火した。

14節：「しかし、私はあなたに反対しています。バラムの教義を堅持するあなたがたは、イスラエルの子らの前につまづきを置くようにバラクに教え、その結果彼らは偶像に捧げられたものを食べ、性的不品行を犯したのです。」»

「聖霊」はローマで確立された霊的状况を説明しています。

538年以来、当時の選挙で選ばれた忠実な役人たちは、神が預言者「バラム」に喩える宗教的権威の確立を目撃してきました。この男は神に仕えていましたが、利得やこの世の財産の誘惑に身をまかせていました。ローマ教皇政権が共有するすべてのもの。さらに、「バラム」は、イスラエルを崩壊させる手段を「バラク」に明かして、イスラエルの崩壊を引き起こしました。イスラエルをユダヤ人と異教徒との結婚を受け入れるよう促すだけで十分でした。神が強く非難したこと。神は彼を「バラム」と比較することによって、教皇政権の概略を私たちに与えてくれます。そして、選ばれた者は、神ご自身が悪魔とその天上および地上のパートナーに行わせている行為の意味を理解します。キリスト教会の呪いは、321年以来不忠実なキリスト教徒によって守られてきた異教の「征服されざる太陽の日」を採用したことにある。そして、「バラム」のような教皇政権は彼らの崩壊に向けて動き、彼らの神の呪いを強化するでしょう。

「偶像に捧げられた肉」は、異教の「太陽の日」と比べればイメージに過ぎません。ローマはキリスト教に異教を持ち込んだ。しかし、理解しなければならないのは、それらは同じ性質のものであり、神の裁きの下では同じ深刻な結果を招くということです...。特に、キリスト教時代の「バラム」によって引き起こされた呪いは、イエス・キリストの栄光の再来によって特徴付けられる世界の終わりまで続くためです。クリスチャンの不貞は、神が十戒を理解させた後、

「淫行」に身を委ねたヘブライ人の不貞とも比較されます。

321年から538年の間、不忠実なクリスチャンも彼らと同じように行動しました。そしてこの活動は今日まで続いています。

15

節「そうであっても、あなたがたの中には、ニコライ派の教義を堅持する人々もいます。」»

エフェソスの「ニコライ人」の名前が再び出てきます。しかし、エフェソスで彼らに関係する「業」は、ここでは「教義」になります。実際

、一部のローマ人はエフェソス以来キリスト教徒になり、321年以来不忠実なキリスト教徒となり、538年以降はローマ・カトリックの「教義」を尊重することによって公式の宗教的方法で行われました。

16節：「だから悔い改めなさい。そうでないなら、私はすぐにあなたのところに行き、私の口の剣で彼らと戦います。」

「口の剣」によって導かれる「戦闘」を呼び起こすことによって、来る4番目のメッセージの文脈を準備します。それは、聖書、その聖なる書かれた言葉、黙示録 11 章 3節によるとその「二人の証人」が神の真理を広め、偽りのローマ・カトリック信仰の覆いを暴く、16^{世紀}の時代になるでしょう。

17節：「耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞きましょう。勝利する者には、わたしは隠されたマナを与え、彼には白い石を与えます。そしてこの石には、それを受け取った人以外には誰も知らない新しい名前が書かれています。」

いつものように、御霊は永遠の命の一面を呼び起こします。ここで彼は、不毛で乾燥した砂漠で飢えたヘブライ人に与えられたマナによって預言されたイメージでそれを私たちに示しています。そこで神は、創造力によって選ばれた人々を守り、命を延ばすことができると教えました。それは彼が救い出された選ばれた者たちに永遠の命を与えることによって達成されるでしょう。これは彼の貯蓄プロジェクト全体の集大成となる。

その時に選ばれた者は、その報酬として御霊がイメージで描写する永遠の命を得るでしょう。天の食べ物のイメージ「マナ」は天の王国に隠されており、神ご自身がその生産者です。古代の象徴主義では、マナは神が王座で主権を統治する天国をすでに象徴する最も神聖な場所にありました。ローマの習慣では、「白い小石」は「賛成」の投票を表し、黒い小石は「いいえ」の投票を表していました。

「白い石」はまた、永遠となった選ばれた者の生命の純粋さを表します。彼の永遠の命は神からの熱狂的かつ大規模な歓迎を反映する神聖なイエスです。選ばれし者は天体で復活するため、その新たな状態は「新たな名前」に喩えられる。そして、選ばれた者たちにとって、この天上の自然は永遠に神秘的で個性的なものであり、「誰もそれを知りません」。したがって、私たちはこの自然を受け継ぎ、その中に入る必要があります、それが何であるかを発見する必要があります。

第4^{時代}：ティアティラ

1500年から1800年にかけて宗教戦争が起こった

18節：「**ティアティラの会衆の天使に書きなさい。目は火の炎のようで、足は燃える青銅のようである神の御子はこう仰います。**」

4番目の手紙は、「ティアティラ」という名前の下で、カトリックとプロテスタントの同盟のキリスト教信仰が血なまぐさい衝突を通じて忌まわしい光景を見せた時代を思い出させます。しかし、このメッセージに

は大きな驚きが含まれています。ティアティラという名前には、ギリシャ語の

2
 つの語源「トゥアオ、テイロ」があり、「忌まわしいもの、苦しみを伴う死をもたらすもの」と訳されています。この忌まわしい解釈を正当化するギリシャ語は、バイリーギリシャ語辞典によれば、発情期の豚やイノシシを指します。そしてここで、説明が必要です。 16

世紀^は、ローマ教皇政権の権威に挑戦するプロテスタントの覚醒によって特徴づけられました。また、世俗的な権威を強化するために、教皇シクストゥス5世に代表される教皇庁はバチカン国家を設立し、その宗教的権威と結びついた民事正統性をバチカンに与えた。これが、16

世紀以来、教皇政権が、それまでラテラン宮殿にあった本部を、すでに独立した教皇国家を形成していたバチカンの敷地内に移転した理由です。しかし、バチカン国から来たと主張する人物が依然としてラテラノ宮殿に座っているため、この移送は単なる欺瞞にすぎません。なぜなら、ラテラン島では、教皇たちがそこを訪れる外国の使者を歓迎する場所だからである。そして1587年、1588年8月3日以来ラテラン宮殿の近くに再建されたオペリスカが、7メートルの土の下から3つに分かれた状態で発見されたのである。テヴェレ川が北から南まで街に隣接しています。このバチカン市国の平面図を見たとき、私は豚の頭の形、北に耳、南西に鼻があることを発見して驚きました。このように、ギリシャ語の「トゥアオ」のメッセージは、これらの事柄の主催者である神によって二重に確認され、正当化されます。ペルガモンから受け継がれたカトリック信仰は、その忌まわしい頂点に達しています。彼女は、聖書によって啓発され、印刷機のおかげで最終的に普及し、その罪とその虐待を非難する人々に対して、憎しみと残酷さで激しく反応します。さらに良いことに、それまで修道院や修道院の修道士たちによって複製された聖書の守護者であった彼女は、自分の不義を非難する聖書を迫害しました。そして彼女は盲目で自己満足な君主の力によって非難者たちを死刑に処す。彼の意志を従順に遂行する者たち。イエスが自分自身を表現して引用した表現は、「火の炎のような目を持っている人」です。そしてその足は燃えるような真鍮のようだ」と、地球への帰還の際に滅ぼすであろう宗教上の敵に対する彼の懲罰的な行動を明らかにしている。これらはまさに、ティアティラ時代の歴史的な文脈において「剣」と銃器によって死ぬまで戦った

2
 つのキリスト教イデオロギーです。そして、「彼の足」は、黙示録 10:5と黙示録 13:1-11

でカトリック信仰とプロテスタント信仰の象徴である「海と地」の上に置かれます。カトリックとプロテスタントは、どちらも罪深く（罪＝真鍮）、悔い改めないため、神イエス・キリストの裁きの怒りを招く「燃える真鍮」と表現されています。神は、黙示録 1 章 15 節で大いなる「災い」を告げるこのイメージを取り上げることによって、忠実な子供たちに対して最後の迫害者たちが団結して、野生の「獣」のよ

うに互いに死ぬまで戦ったときのことを明らかにされ、それが彼らを象徴することになる。予言全体。フランソワ1世からルイ14世^{まで}、宗教戦争は次々と起こった。そして私たちは、神がフランク族の初代王クロヴィス以来の教皇庁の武装支援というフランス国民の呪いをどのように明らかにされたかに注目しなければなりません。この呪いの頂点を示すために、神は「5」歳の若きルイ14世をフランス王位に就かせました。伝道 10:16
このこの聖書の一節は、そのメッセージを次のように表しています。»ルイ14

世は、ベルサイユ宮殿への贅沢な出費と、高額な戦争でフランスを破滅させました。彼はフランスを貧困に陥らせ、その後継者ルイ15世は放蕩のかけがえのない仲間であるデュボワ枢機卿と分かち合った自由主義のためだけに生きた。忌まわしい人物、ルイこの怒りの標的として温厚で平和的な男性をターゲットにすることによって、神は、クロヴィス以来、教皇の宗教的見せかけに不当に盲目的な信頼を置いてきた世襲君主制を攻撃するというご自身の意図を明らかにされました。

19節：「私はあなたの働き、あなたの愛、あなたの信仰、あなたの忠実な奉仕、あなたの堅実さを知っています。そしてあなたの後者の働きは前者の働きよりも優れています。」

主の姿に自らを犠牲として捧げる「死に至るまで忠実な」僕たちに向けて語られた言葉です。彼らの「働き」は、救い主に対する真の「愛」を証するものであるため、神に受け入れられます。彼らの「信仰」は「忠実な奉仕」を伴うので正当化されるのです。ここで引用されている「恒常性」という言葉は、歴史的にかなりの重要性を持っています。マリー・デュランが信仰の模範として、40年間の長く苦しい生活を囚われの身で過ごしたのは、エーグ・モルトの町にある「コンスタンツの塔」でした。他の多くのクリスチャンも同じ証言をしましたが、多くの場合、歴史に知られていませんでした。それは時代とともに殉教者の数が増加したためである。最新の作品は、ルイ王の治世（1643年から1715年）の時代に関するものです。黙示録 12:9-4-13-16

にある、「悪魔」を意味する「ドラゴン」という名前の明らかにな役割と、帝国ローマと教皇ローマの公然と攻撃的な行動に明確に注目してください。自らを「太陽王」と呼ぶ者は、コンスタンティヌス^{1世}以来受け継がれる「太陽の日」の擁護者として、カトリックのための戦いを頂点に達させた。しかし、神は彼に不利な証言をするために、彼の長い治世の全期間を暗闇に陥れ、彼に真の太陽の暖かさや十分な光を与えず、フランス国民の食生活に深刻な影響を与えました。

20節：「しかし、私があなたに反対しているのは、あなたが自らを女預言者と呼ぶ女性イゼベルに、私のしもべたちに性的不道徳を犯し、偶像に捧げられた肉を食べるように教え、誘惑させたことです。」

1170年、神はピエール・ヴォーデスによって聖書をプロヴァンス語に翻訳させました。彼は、真の安息日の尊重や菜食主義の採用など、使徒

の統合的真理の教義を再発見した最初のクリスチャンでした。ピエール・ヴァルドの名で知られる彼は、イタリアのアルプスのピエモンテに定住した「ヴォードワ族」の起源にあたります。彼らが代表した宗教改革の活動は教皇によって反対され、メッセージは消滅しました。神はヨーロッパ全土をモンゴル人の残忍な侵略にさらし、その後モンゴル人によって引き起こされたひどい疫病の流行に見舞われ、1348年から人口の3分の1とほぼ半分が破壊された。この聖句のメッセージ、「あなたは女性イゼベルを去る

…」は、ピエール・ヴァルドの作品が完璧だったからといって、それにふさわしい重要性を与えなかった改革者たちに向けられた非難です。

1170年から1517年の間、彼らはキリスト教の救いの真理に関する完全な教義を無視し、この時代の終わりに行われた改革は部分的で非常に不完全なものでした。

注：ピエール・ヴァルドによって理解され適用された教義の完璧さは、神が彼の中で実行されるべき宗教改革の完全なプログラムを提示したことを示しています。実際、物事は二段階で達成され、安息日の要求はダニエル書第8章14節の法令によって示された時期に従って1843年から1844年まで始まりませんでした。

教皇のローマ・カトリック信仰を描写するために、神はそれを、神の預言者を殺し、罪のない血を流した恐ろしい「イゼベル」であるアハブ王の外国人の妻に喩えられます。コピーはモデルに準拠していますが、動作寿命がはるかに長いという欠点もあります。彼女に「女預言者」という名前を付けることで、神はご自身の「玉座」の新しい場所の名前、つまり古フランス語とラテン語で「ヴァティチナーレ」、つまり預言することを意味するバチカン市国の名前を標的とされました。この場所の歴史的詳細は非常に明らかです。もともとこの場所は、「蛇」の神アスクレピオスに捧げられたローマ神殿の存在によって特徴づけられました。このシンボル

12:9-14-15

で悪魔と教皇政権を表します。皇帝ネロはそこに戦車レース場を設置し、「魔術師シモン」はその墓地に埋葬されました。それは、ローマで十字架につけられた使徒ペテロの遺骨と同じように讃えられる彼の遺骨であるようだ。ここでもまた、コンスタンティヌスによって提供された大聖堂がキリスト教の栄光を讃えました。この地域はもともと湿地だった。このように作られた嘘は、15世紀に拡張され装飾されたこのバチカン大聖堂の新しい名前が「ローマのサン・ピエトロ大聖堂」という誤解を招く名前になることを正当化するだろう。実際に魔術師と「蛇」アスクレピオスに与えられたこの栄誉は、聖書のダービー訳が次のように語っている黙示録

18:23

で聖霊がローマ・カトリックの宗教儀式に帰する「魔術」という名前を正当化するでしょう。ランプの光はもうあなたの中では輝きません。そして、花婿と妻の声はもはやあなたの中に聞こえなくなります。あなたの商人

たちは地上の偉大な商人だったからです。あなたの魔法によってすべての国が迷わされたからです。 »

まさに、巨額の資金を必要としたこの大聖堂「サンピエール・ド・ローマ」の工事が完成したことで、高位聖職者テツツェルは「免罪符」を売ることになる。罪の赦しがお金で売られているのを見て、修道士教師マルティン・ルターはローマ・カトリック教会の本質を発見しました。こうして彼は、1517 年にアウグスブルクのドイツ教会の扉に彼の有名な 95 か条の論題を展示することで、自分の極悪非道な性質といくつかの誤りを非難しました。こうして彼は、1170年以来神がピエール・ヴァルドに提案した宗教改革の取り組みを正式なものとした。

聖霊は、当時の改心した召使たち、真に諦めた平和的な犠牲者たちに直接語りかけ、イゼベルが召使たちを教え誘惑することを許したとして彼らを非難します。私たちはこの非難の中に、この改革の始まりの教義上のあらゆる不完全性を読み取ることができます。彼女は自分の「しもべたち」

、つまりイエスの「しもべたち」を「教え、誘惑」しており、それが彼女をキリスト教会にしているのです。しかし、彼の教えはペルガモン時代の教えであり、そこでは「淫行」の告発と「肉」のイメージが広まっていた。

偶像に犠牲を捧げた」はすでに非難されていました。一見欺瞞的に見えますが、この聖句において重要な存在は「女性イゼベル」ではなく、プロテスタントのクリスチャンその人です。最初から、「あなたは女性イゼベルと別れます...

」と告げることによって、聖霊は最初のプロテスタントに共通する欠点を示唆しています。次に彼は、この欠点の性格、つまり異教の偶像崇拝を明らかにします。そうすることで、彼は、当時はまだ自分に課していなかったが、1843年以降に要求するであろう「重荷」の性質を明らかにします。そして、このメッセージの中で、創造主の神は、その実践がローマの「日曜日」にターゲットを定めています。彼の目には、この作品は人類史上最古の異教の偽りの太陽の神を讃える異教の偶像崇拝的な作品である。

1843年以降、彼は「日曜日」、あるいは地上の罪人の唯一の救い主であるイエス・キリストとの関係を放棄しなければならなくなりました。

21節：「私は彼女が悔い改めるように時間を与えましたが、彼女は淫行を悔い改めません。 »

次の表現です。

「1260日、または42か月」とは、いずれも538年から1798年までの間、不寛容な教皇の統治が行われたことを示している。聖書による真理の普及と真の改革者たちの説教は、カトリック信仰に悔い改め、信仰を捨てる最後の機会を与えた。罪。彼女は何もせず、その探求力の名の下に、生ける神の平和的な使者たちを迫害し、拷問しました。このように、それはユダヤ人の反抗的な行為を再現し、イエスのたとえ話に第二の成就を与えました

。それは、神から遣わされた最初の者たちを殺し、その後、神が彼らのところに来ると、主人の息子を殺すワイン生産者のたとえ話です。彼の遺産を盗むためにブドウ畑を襲った。

22節：「見よ、わたしは彼女を寢床に投げ込み、彼女と姦淫する者たちに、その行いを悔い改めない限り、大きな艱難を送り込む。」

「売春婦」 「ベッドに投げかけられた」ものとして扱うでしょう。これにより、このテーマの「女イゼベル」を黙示録17:1の「娼婦大バビロン」と結び付けることができます。予言された「大患難」は、聖書の宣言が失敗した後起こるでしょう。この同じメッセージは、この「大艱難」が黙示録11:7

の「深みから昇る獣」と同一であることを裏付けます。それは、聖書の新旧の神聖な契約を記した神の「二人の証人」の働きの後に起こります。霊的な「姦淫」は確認され、名前が付けられており、神が「イゼベル」とともにそれを犯したと非難している「者たち」は、フランスの君主と君主主義者である。カトリックの司祭たちとともに、君主主義者たちは、全能の神イエス・キリストの怒りの表現にすぎない革命的国家無神論の怒りの主な標的となるだろう。彼らは悔い改めなかったため、1793年から1798年までの教皇治世の終わりとして神が定めた時期に、二重の怒りが彼らを襲った。

「艱難」という言葉は、ローマ 2:19
によれば神の呪いの結果を示しています。「**悪を行うすべての人の魂に艱難と苦悩が、まずユダヤ人に、次にギリシャ人に!**」。
」。しかし、カトリック君主国とその同盟者であるローマ・カトリック教会の罪を罰する「艱難」は、黙示録 17:5
で「バビロン」という名前で象徴されています。

「大いなる」は、論理的には「大患難」です。

23節：「私は彼女の子供たちを死をもって殺します。そうすれば、すべての教会は、私が思いと心を探求する者であることを知るでしょう、そして私はあなたの働きに応じてそれぞれに報酬を与えます。」

「死に至る」とは、聖霊が1793年と1794年の革命政権の2つの「恐怖」を呼び起こすために使用した表現です。この表現で、彼は、プロテスタントに関係するであろう単純な霊的な死についてのいかなる考えも却下します。

1843年、黙示録3:1の当時の天使「サルデス」に伝えられたメッセージの中で。人類は、ルイ博士によって発明された殺人機械によって実行されるこのような血なまぐさい仕事がかつて知りませんでした。ギロチン博士によって高く評価され、その名前はその器具自体に由来し、それ以来ギロチンと呼ばれるようになりました。その後、略式判決で多数の死刑命令が言い渡され、前日の裁判官と告発者を死刑にするという原則が追加された。この原則によれば、人類は消滅しなければならないように見え、神がこの絶滅する革命政権を「深淵」と呼んだのはこのためです。創世記 1 章 2

節によれば、最終的に神は天地創造の初日から生命の形を持たない「深淵」を造ったであろう。しかし、七つの時代の選民である「すべての教会（または集会）」が、神が与えた意味を持つこれらの歴史的事実を発見するのは、天において、集まった選民によって行使される天の審判の間だけである。神の正義は完全です。誤って裁いた人々は、「自分たちの『行い』に従って」神の義に打たれました。彼らは人々を不当に死なせ、その結果、完全な神の正義によって死に打ち負かされました。「そして、私はあなたの方一人一人に、あなたの行いに応じて報います。」

24

節：「この教義を受け入れず、サタンと呼ばれる深みを知らないあなたたちとテアティラの残りのすべての人々に、私はあなたたちに言います。私はあなたたちに他の重荷を課しません。」

カトリック信仰を非難し、その宗教儀式に「サタンの深み」という名前を付けている人々は、1200年頃から1789年のフランス革命までに現れた改革者だけです。彼らの行動が何であれ、彼らの教義はカトリック教会が教えた純粋な真理からは非常に遠いものでした。イエス・キリストの使徒と弟子たちに聖霊を与えてください。私たちは、彼らの利益となる3つの肯定的な事柄だけを指摘します。それは、イエスの犠牲のみに対する信仰、聖書のみを与えられた信頼、そして彼らの人間性と人生の賜物です。他のすべての教義はカトリックから受け継がれたものであるため、疑問の対象となります。このように、キリスト教信仰の真理の教義のレベルでは不完全ではあるが、選出された改革者たちは、1844年の政令発効の日を待ちながら、生きていけにえとして神に捧げられた命を捧げる方法を知っていた。ダニエル

8:14、神は彼らの奉仕を一時的に承認されました。このことを彼は次のようにはっきりと表現しています。「私はあなたにこれ以上の負担をかけません。」異例の神の裁きの状況がこの言葉にはっきりと現れています。

25節：「持っているものだけを持っていて、私に来るまで待っていてください。」

神が不完全なプロテスタントの信仰を祝福できる理由は、イエス・キリストが再臨されるまで、選ばれた人々によって守られ、実践されなければなりません。

26節「勝利を収めて、わたしの業を最後まで守り抜く者に、わたしは国々を治める権威を与えよう。」

この聖句は、宗教改革のこの時期からキリストの再臨までに何が救いの喪失を引き起こすのかを明らかにしています。選ばれた者は、世の終わりまで継続的にイエス・キリストによって準備され明らかにされた業を最後まで守り続けなければなりません。神の新たな要求を拒否することによって呼び出された墮落。しかし、彼は栄光の到来の時まで徐々に光を増していくという意図を決して隠さなかった。

「義人の道はまばゆい光のようであり、その明るさは真昼まで増大する(

箴言4:18)」。この聖書の一節がそれを証明しています。したがって、1844

年以降、彼の独特の聖書的預言の言葉によって計画され、預言された日に神の要求が現れるということは、彼のプロジェクトの枠組みの中にあります。選ばれた者が神から「諸国民に対する権威」を受け取るのは、天の裁判官の能力においてのみです。

27節：「私自身が父から力を受けたのと同じように、彼は鉄の棒で彼らを支配します。人が粘土の器を壊すように。」

この表現は死刑を宣告される権利を示唆しています。選ばれた者たちが、第7千年紀の大安息日の「千年」の間に、最後の審判のために定められた悪人に対する裁きをイエス・キリストと分かち合う権利。

28節：「そして、私は彼に明けの明星を与えます。」

神は、現在の地球上で太陽の光によって象徴される、完全な神聖な光をそれに与えてくださるでしょう。しかしイエスは、「わたしは光です」と言われました。このようにして神は、もはや私たちの太陽のような天の星に依存しない光の源である神ご自身が天の生命の光を宣言します。

29節：「耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞きなさい。」

黙示録の建設は7階建ての塔のようなもので、7階が神と出会う時です。この構成では、第2章と第3章が、94年から2030年までのキリスト教時代全体の基本的な枠組みを構成しています。黙示録で言及されているすべてのテーマは、この基本的な枠組みの中に位置しています。しかし、この枠組みでは、1階は上の階につながる階級の役割だけを果たします。啓示の重要性は、*ペルガモンと呼ばれるレベル* 3に現れます。この重要性は、*Thyatira*と呼ばれるレベル 4でさらに強化されます。キリスト教の信仰が混乱し、誤解を招くのはこの時代です。この時代の霊的状況に対する神の裁きは、世の終わりまで影響を及ぼします。このような理由から、この判決に対する皆さんの理解を確実にするために、*ルイ* 14世の治世中に神が選出されたプロテスタントに宛てたこのメッセージを要約したいと思います。

要約:

宗教改革当時、キリスト教徒の行動は多様でした。私たちは、迫害されているが常に平和な真の聖人たちと、宗教と政治を混同し、武装して王立カトリック軍に打撃を返す人々を見つめます。*ダニエル* 11:34では、御霊は彼らを「偽善者」と呼んでいます。キリスト教徒であるとは、あらゆる面でイエスに倣い、イエスの命令に従い、禁止事項に従うことであることを理解している宗教家はほとんどいません。武器の使用もその1つであり、これが逮捕時に与えられた最後の教訓となった。イエスの非難は、プロテスタント自身がカトリックの伝統を実践し続けながら、その模範によってカトリックのイゼベルに属する教えと誘惑を促進しているという事実によって正当化されます。彼らの不完全な宗教的実践は、神の裁

きにおいて彼らの信用を傷つけ、敵の前で神の名誉を傷つけます。宗教改革の初めのこの段階で、彼は例外的な判断を下すようになりました。彼はそれを次のように強調して、「私はあなたたちに他の重荷を課しません。私が来るまであなたたちが持っているものだけを保管してください。」と述べました。しかし、教義の不完全性はこの始まりにおいては正当なものであり、神はご自身の名において迫害と死を受け入れる人々の奉仕を受け入れます。彼らはこれ以上与えることはできず、自分たちの命という最大限のものを与えました。神はこの犠牲の精神を強調し、それを「最初のものよりも多くの働き(19節)」と呼んでいます。ローマ・カトリックの異教主義は、偶像に捧げられた肉に例えられてきました。ローマの欺瞞に対する非難は、1170

年からラテン語以外の言語であるプロヴァンス語で聖書の版を書いたピエール
ヴァルド (ヴォーデス)

の完璧に啓蒙された作品から始まりました。彼の神の要求に関する知識と理解は驚くほど完璧でしたが、彼の後、プロテスタントの信仰は悪化しました。ジョン・カルビンの影響を受けて、プロテスタントの信仰はさらに硬化し、カトリックの敵のイメージを取り入れました。そして、「宗教戦争」という表現は、神にとって忌まわしい行為であることを証明しています。なぜなら、イエス・キリストに選ばれた者、真の者たちは、自分たちに与えられた打撃に報復しないからです。彼らの復讐は主ご自身から来るでしょう。 「sola

scriptura」、「聖書だけを」をモットーとするプロテスタントは、武装することで暴力を禁じた聖書を軽蔑した。イエスは、自分たちを殴る者に「もう片方の頬」を向けるべきだと弟子たちに教え、この分野で非常に深く踏み込みました。

カトリックの迫害によってイエスの忠実な僕たちが死んだこの時期は、黙示録の中で三重に強調されており、この時期はテアティラですが、
第5世紀にも強調されています。 第6章と第3章の封印

ここで、イエスは 22節で殉教した家臣たちを励まし、彼らの死に復讐する、あるいはローマとその王室の僕たちが与えた苦痛に復讐するというご自身の意図を告げられました。ペルガモンという名前に隠されたキーワードがはっきりと現れている、カトリック宗教は神に対する姦淫の罪であり、それを犯した者たち、カトリック君主、そのリーグ、そして偽りの貴族は、フランス革命家の断頭台の下でその代償を払うことになるだろう。不当に流された血。黙示録 2:22-23:

「見よ、わたしは彼女を床に投げ、彼女と姦淫する者たちに、彼らがその行いを悔い改めない限り、大きな艱難を送り込む。私は彼女の子供たちを死刑にします。そうすれば、すべての教会は、私が思いと心を探求する者であることを知るでしょう、そして私はあなた方一人一人の働きに応じて報酬を与えます。」でも気をつけてください!

1843年以降、「彼女と姦通した者」もプロテスタントになるため、神は核

による「第三次世界大戦」を準備し、カトリック、正教会、聖公会、プロテスタント、その他の姦淫に対する新たな懲罰を与えるだろう。並行して、御霊は^{第5章でこう言います。} 封印: 黙示録 6:9 ~ 11: 「彼が第 5 の封印を開いたとき、私は祭壇の下に、神の言葉と彼らが立てたあかしのゆえに殺された人々の魂を見た。彼らは大声で叫びながら言った、「おお聖なる真の主よ、あなたはいつまで裁きを遅らせ、地上に住む者たちに私たちの血の復讐をするのを遅らせるのですか？」彼らにはそれぞれ白いローブが与えられました。そして彼らは、彼らと同じように死刑に処せられる仲間の召使いや兄弟たちの数が全員揃うまで、しばらく安静にしておくように言われた。」。

第

5

の封印のこのシーンは、混乱を招き、啓発されていない心に誤解を招く可能性があります。はっきりさせておきたいのですが、この像は神の秘密の考えを私たちに明らかにしています。伝道記9:5-6-

10によると、キリストにある死者は記憶を忘れられた状態で眠っており、もはやすべてに参加していないからです。太陽の下で行われること。聖書は最初の死に、存在全体の消滅という意味を与えています。死んだ人は、あたかも存在しなかったかのように、存在していたという違いはありますが、彼の存在全体が神の思いの中に刻まれ続けます。したがって、神は、ご自分の生きている僕たちに、彼らを励ますためにこの慰めの音信を語られるのです。イエスは、ご自分の約束に従って、死の眠りの後に目覚める時が定められており、その時、彼らはイエスを通して復活することを思い出させます。その後、彼らはイエス・キリストにおける神の視線と裁きの下で、同様に復活した拷問者たちを裁く機会を得るが、それは千年の終わりにである。テアティラのメッセージの中で、カトリック教徒イゼベルと姦淫を犯した者に告げられる死は二重の成就をもたらすだろう、とあります。地球上では、革命家の働きは第一段階であるが、その後、その時と第二段階で、最後の審判の第二の死、「全集会」があらゆる時代のキリスト教徒異教徒または信者となる時が来るだろう。キリスト教時代には、霊的な姦淫に対して神の正義の裁きが適用されることになるでしょう。

その象徴的なイメージとして、

4番目の

第8章のラッパは、教皇とそれを支援した君主主義者の姦淫を罰するために計画された「大患難」の行動を確認している。太陽、神聖な光、月、暗黒のカトリック宗教、そして星々、宗教的な人々は、1793年と1794年のフランス革命家による無神論の迫害によって、三分の一、あるいは部分的に打撃を受けました。

平和的なプロテスタントに宛てたメッセージの最後で、聖霊は、選ばれた者が復讐されるのは、7千年紀の天の審判の間に準備された最後の審判のためにのみであることを思い出し、武器使用の非難を確認しています。したがって、イエス・キリストとともに迫害者たちを裁き、彼らの死刑判決の評決に加わるであろうこの天の裁きの前に、彼自身に復讐する権

限は与えられていない。

「粘土の器を壊すように、彼は鉄の棒で彼らを支配するだろう。」この判決の目的は、前回の判決で二度目の死を宣告された犯人の苦しみの時期を決定することである。29節には明けの明星について言及されています。

「そして私は彼に明けの明星をあげます。」この表現は太陽、神聖な光のイメージを表しています。勝者は永遠に神の光の中に入ります。しかし、この永遠の文脈の前に、この用語は来る5番目の手紙を準備します。明けの明星はペテロ第二 1 章 19-20-21

節で引用されています。夜が明けると、明けの明星があなたの心に昇ります。まず第一に、聖書のいかなる預言も個人的な解釈の対象になり得ないことを知ってください。なぜなら、預言は人間の意志によってもたらされたものではなく、人間が神から語ったものは聖霊によって動かされるからです。この聖句は、ダニエル 8:14

で預言されている神の布告が適用されることによって、次の時代の状況が霊的に条件付けられるため、預言の言葉の重要性を強調しています。

「午後23時まで、そうすれば聖性が証明されるだろう。」しかし当時、この聖句は「 23:00

夕方と朝まで、そうすれば聖所は清められるだろう」という翻訳でのみ知られていました。この翻訳でも、神のメッセージは同じでしたが、正確さには劣り、この形式では、私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの栄光の再来を通じて世界の終わりを告げるものと解釈される可能性があります。神はアメリカのプロテスタントであるウィリアム・ミラーを用いて、1843年の春と1844年の秋にアドベンチスト派の2回の信仰試験を実施させました。ダニエル書12章11節から12節が教えているように、この2つの日付の間に、1843年に神の布告が墮落したプロテスタントから撤回されました。イエス・キリストによって提供された救いの正義。なぜなら、彼らはもはや神が要求する新しい聖さの基準を満たしていないからです。イエスの正義は永遠ですが、それはイエスご自身によって選ばれた真の選ばれた者のみに利益をもたらします。これは、いつの時代も、そして世界の終わりまでです。

ここ、テアティラとサルディスの間、1843年の春の初日にダニエル 8:14の法令が発効し、その日に聖霊がクリスチャンに宛てたメッセージの中でその結果を知ることになります。

黙示録 3: 1843 年以來の議會 – 回復された使徒的キリスト教信仰

第5^{時代} : サルディス

1843年春と1844年10月22日のアドベンチスト裁判の後にイエス・キリストによって宣告された判決

1節：「サルデスの会衆の天使に手紙を書きなさい。神の七つの霊と七つの星を持つ者はこう言います。私はあなたの業を知っています。」あなたは生きていると思われているのに、あなたは死んでいるのは知っています。」

「サルディス」時代は、プロテスタントのキリスト教徒の2つの正反対の行動を浮き彫りにするだろう。それは、墮落した人々に対してイエスが宣言した、「あなたは生きているとみなされ、あなたは死んでいる」と宣言されたものである。そして4節では選ばれた人々にこう書かれています。「彼らはふさわしいから、白い衣を着て私と一緒に歩くでしょう。」彼の 2 つのメッセージの内容と同様に、「*Sardis*」という名前には、まったく逆の意味を持つ二重の意味が込められています。私はこのギリシャ語のルーツの主なアイデア、つまり、けいれんと宝石、死と生を保持しています。しかめ面とけいれんは皮肉な笑いを定義します。ギリシャ語では、サルドニオンは狩猟用の網の上のロープを指します。イワシは魚です。逆に、サルドとサードニクスは宝石です。サードニクスは茶色のカルセドニーの変種です。この手紙の冒頭で、イエスはご自身を「神の七つの霊と七つの星を持つ者」、つまり聖霊の聖化と七つの時代の彼の僕たちに対する裁きを示されました。

Dan.12

と同様に、彼はアドベンチスト信仰の試練である殺人の川の上に立ち、ここで判決を下します。対話者が集合的な意味での一人であることを示す親しみやすさに注目してみましょう。プロテスタントの規範全体が関係しています。イエスは、ティアティラのメッセージに記されているプロテスタントの例外に終止符を打たれました。新たな「重荷」（反抗的な信者たちが理解しているように）が今、課せられ、要求されています。ローマの日曜日の習慣は放棄され、土曜日の安息日に置き換えられなければなりません。このダニエル 8:14 の法令は、321 年 3 月7日以来コンスタンティヌス¹

世皇帝によって確立された状況を逆転させます。

1844年より11年前の1833年、真夜中から午前5時まで続き、米国全土で見られた流れ星のシャワーを通して、神はプロテスタントキリスト教徒の大規模な墮落を例証し、預言しました。この解釈をあなたに納得させるために、神はアブラハムに空の星を見せて、「あなたの子孫はこうなるでしょう」と言いました。したがって、1833

年の星々の崩壊は、アブラハムの子孫の大規模な崩壊を預言しました。この天のしるしは、黙示録6:13 の第6

の封印のテーマに引用されています。イエスは、「あなたは生きていますが、あなたは死んでいる」と言われました。したがって、彼が語るものは神を代表するという評判があり、この細部は宗教改革を信じて神と和解したと考えるプロテスタントに相当する。

「私はあなたの行いを知っています」、「そしてあなたは死んでいます」

という神の判決が下されます。この裁きは偉大な裁判官である神ご自身から下されるのです。プロテスタントはこの判決を無視することはできませんが、その結果から逃れることはできません。

1843年にダニエル書8章14節の法令が施行され、生ける神の律法を知らないクリスチャンはいないはずですが。この無知は、ペテロ第二 1:19-20で使徒ペテロが次のように勧めている聖書の預言の言葉を軽蔑しているためです。夜が明けて明けの明星があなたの心に昇るまで、暗い場所で輝くランプのように注意を払いなさい。まず第一に、聖書のいかなる預言も個人的な解釈の対象になり得ないことを知ってください。 »

新しい契約に関する聖書のすべての文章の真っ只中で気づかれずに過ぎ去ったこれらの聖句は、特に 1843年以降、生と死を分けるものとなっています。

2

節:

「目を覚まして、死につつある残りの者たちを強めなさい。というのは、あなたの作品が私の神の前で完璧であるとは私には思えなかったからです。 »

もし彼らが聖性の新しい基準を満たさなければ、プロテスタントの「残りの人々」は「死ぬ」ことになるでしょう。なぜなら、神は二つの理由で彼を罪に定めているからです。 1 つ目は、ダニエル 8:14の法令の発効によって非難されたローマの日曜日の習慣です。

2つ目は、預言の言葉に対する無関心です。なぜなら、アドベンチストの経験を通して神が与えた教訓を考慮に入れていないからです。プロテスタントの子孫は、父親から受け継いだ罪を背負うことになるからです。両方の点において、イエスは「あなたの作品が私の神の前で完璧だとは思えませんでした。」と言いました。イエスは、「私の神の前に」と言うことで、プロテスタントに、彼らを救うはずの御子を支持して軽蔑する父である神の指によって書かれた十戒の規範を思い出させます。彼が模範として示した彼の完全に従順な信仰は、プロテスタントの信仰と何の共通点もありません。プロテスタントの信仰とは何の共通点もありません。第一に、初日の毎週の休息を含め、カトリックの数多くの罪の継承者です。プロテスタントの集団的宗教規範において救いの扉は永久に閉ざされ、「第六の封印」の「星」が落ちる。

3節：「だから、あなたがどのように受け止め、聞いたかを思い出し、守り、悔い改めなさい。あなたが見ていないなら、私は泥棒のように来ます、そしてあなたは私がいつあなたに来るかわかりません。 »

この「覚えている」という動詞は、過去の作品に対する批判的な瞑想を暗示しています。しかし、自分の作品を批判できるのは、本当に選ばれた人だけです。さらに、この「覚えておけ」という命令は、7日目の神聖な休息を命じる第4戒の冒頭の「覚えておけ」を思い出させます。ここでもまた、二重に、公式プロテスタントは、1843年春と1844年秋にウィリ

アム・ミラーが発表した預言的メッセージだけでなく、神の十戒の第4戒の本文に対する受け入れを再考するよう求められている。彼は 1843年以來大罪を犯し続けているということです。イエス・キリストとの決別の最も深刻な結果は次のように定式化されています。あなた。 » 2018年以降、このメッセージがどのように現実のものとなったかを見ていきます。徹夜がなければ、悔い改めと悔い改めの成果がなければ、プロテスタントの信仰は決定的に死んでしまいます。

4節：「それでも、サルディスには衣服を汚していない人たちがいます。彼らは価値があるので、白い[衣服]を着て私と一緒に歩きます。」

新しい神聖さが現れるでしょう。このメッセージの中で、イエスは「数人の男性」の存在を証言することに満足していますが、その中にいたエレン・G・ホワイトに明らかにされた詳細によれば、神の承認を受けたのはわずか50人でした。これらの「少数の男性」とは、主の期待に沿って信仰を証しするために、個別に承認され祝福された男女を指します。イエスはこう言われました。「それにもかかわらず、サルディスには衣服を汚していない人たちがいます。そうすれば彼らは白い[衣服]を着て私と一緒に歩くでしょう、彼らはふさわしいからです。」イエス・キリストご自身が認めた尊厳に誰が異議を唱えることができるでしょうか。

1843年と1844年の信仰の試練の勝利者に、イエスは永遠の命と地上での完全な認識を約束し、それはフィラデルフィアからの次のメッセージで正式な形をとります。「衣服」の汚れは人間の自由な行為によるものです。

「衣」はイエス・キリストによって帰せられた義であり、この場合は「白」であり、その汚れは伝統的なプロテスタント陣営にとってこの義の喪失を意味します。ここでは、逆に、汚れがないということは、ダニエル書9:24

によれば、イエス・キリストの「永遠の義」の帰属が継続することを示しています。すぐに、安息日の知識と実践は、彼らに真の聖性、イエス・キリストが与えられた正義の実としるしを与えるでしょう。この賢明で賢明な選択により、彼らは間もなく、続く 5

節の「白い衣」によってイメージされる聖化と天の栄光の中で永遠となるでしょう。御霊は彼らに「罪がない」と宣言します。「そして彼らの口には何の偽りも見つからなかった。彼らには罪がないからである（黙示録14:5)」。パウロによれば、彼らは「すべての者との平和と聖化、それなしでは肉なる者は主を見ることできない」（ヘブライ人への手紙

12:14) ことを知るでしょう。具体的には、これらの「白い衣」は、ローマの日曜日の習慣を構成する罪の除去の形をとります。彼らは彼の承認のしるしとして、彼の代わりに二度も忠実にイエスを待ったので、神の義を守る主の選ばれた者を白くするために来る安息日によって神の印章が彼らに与えられました。こうして「聖所の清め」が完了し、ダニエル

8章14節は当時この形で翻訳されました。この視線の下で、イエスは1844年10月23日から、選ばれた勝利者たちに天のビジョンで、聖所から地上の

聖所の最も聖なる場所への通過のイメージを与えました。このように彼は、十字架上で死ぬ瞬間、選ばれた者の罪が償われ、こうして「償いの日」、ヘブライ語の「ヨム・キプール」が成就したことを例として回想した。この出来事はすでに起こっており、幻における行動の更新は、イエスの死によって得られた永遠の正義の最初の達成に疑問を投げかけることだけを目的としていました。これは文字通り、証明された信仰が創造主の神に満足できないサルディスの墮落した人々にとって達成されたことです。神が彼らを拒絶する理由は2つあります。その理由は、ご自身の宣言された預言的真理に対する愛の欠如と、ダニエル書8章14節の法令の発効により1843年以降に定められた安息日の違反のためです。

5節：「勝利する者は白い衣を着ます。私は彼の名前を命の書から消し去るつもりはありませんが、私の父と彼の天使たちの前で彼の名前を告白します。」

イエス・キリストによって贖われた選民は従順な存在であり、自分の命と永遠を創造主、善良で賢明で公正な神に負っていることを意識しています。これが彼の勝利の秘密です。彼は彼の言動すべてを承認しているため、彼と議論することはできません。また、彼自身も、世界の創世以来、予知によって彼を見ていたので、彼を認識し、彼の名前で呼んでくれる救い主の喜びです。この聖句は、偽宗教者の誤った主張がいかに無駄であり、主張する人たちにとっても誤解を招くものであるかを示しています。最後の言葉はイエス・キリストに属し、すべての人にこう言います。「私はあなたの行いを知っています。」これらの著作によれば、彼は羊の群れを分け、右側に羊を置き、左側に最後の審判の第二の死の火に送られる反抗的なヤギと貪欲なオオカミを置いています。

6節「耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞きなさい。」

誰もが御霊の預言の言葉を文字通り聞くことができるとしても、逆に、御霊が靈感を与え、教育する選ばれた者だけがその意味を理解できるのです。御霊は歴史の中で達成された正確な事実を指します。したがって、選ばれた者は宗教と世俗の歴史、そして証言、賛美、預言の物語で構成される聖書全体に興味を持たなければなりません。

注:

3

節で、イエス・キリストは墮落したプロテスタントにこう言われました。あなたが見ていないなら、私は泥棒のように来ます、そしてあなたは私がいつあなたに来るかわかりません。」逆に、勝利者の相続人たちにとって、2018年の春以降、このメッセージは「見ていれば、私は泥棒のように来ません、そして私がいつあなたのところに来るかわかるでしょう」に変わりました。そして、2020年の今日、主の選民は2030年の春に明らかにされる主の真の帰還の日付を知って以来、主は約束を守られました。しかし、プロテスタントの信仰は、イエスを通してのみ保留されたこの正確さを無視するように非難されています。彼の選んだ人に。なぜなら、邪悪な僕

に対する彼の態度とは異なり、「主はその僕である預言者たちに警告せずには何もなさない」（アモ.3:7）からです。

第6^{時代}：フィラデルフィア

アドベンティズムは普遍的な使命を帯びる

1843 年から 1873 年にかけて、神によって定められた真の 7 日目である神聖な土曜日の安息日が復活し、セブンスデーアドベンチズムの先駆者によって採用されました。セブンスデーアドベンチズムは、1863 年以来「セブンスデー」と呼ばれるアメリカの公式キリスト教宗教団体の形をとりました。アドベンチスト教会の日。ダニエル 12:12 で準備された教えに従って、イエスのメッセージは 1873 年の日付で、安息日の休みによって聖化された選民に宛てられました。:12: 「1335日まで待つ者は幸いです！」。

1843 年以來確立された新しい規格は 1873 年に世界共通になりました

7節：「フィラデルフィアの会衆の天使に手紙を書きなさい。聖なる方、まことの方がこう言われます。ダビデの鍵を持っている方、開いても誰も閉まらない、閉じても誰も閉まらない、ということです。」開ける：»

「フィラデルフィア」という名前で、イエスは選ばれた者を示します。彼は言いました、「もしあなたたちがお互いに愛を持っているなら、これによってすべての人々はあなたたちが私の弟子であることを知るでしょう。ヨハネ 13:35」

これはフィラデルフィアの場合で、そのギリシャ語のルーツは兄弟愛を意味します。神は信仰を試されて、それを構成する選ばれた人々を選ばれ、その勝利者たちに対して神の愛が溢れます。彼はこのメッセージの中で自分自身を示し、こう言います。「これは聖なる方、真なる方が仰っておられることです。」聖なるもの、それは安息日と選ばれた人々の神聖化が、1843 年の春から発効したダニエル 8:14

の法令によって要求される時だからです。真実なもの、なぜならこの預言的な時代に、真理の法則が回復します。神は、321 年 3 月 7 日以来キリスト教徒によって踏みにじられてきた第

4^{戒め}の神聖さを再発見され、再び「ダビデの鍵を持つ者」と言われます。これらはローマの所有物であると主張された聖ペテロの鍵ではありません。「ダビデの鍵」は「ダビデの子」イエスご自身のものです。イザヤ書 22:22

によれば、彼は十字架の形で「肩に担いで」この鍵を手に入れたので、永遠の救いを与えることができるのは彼以外に誰もありません。

「私は彼の肩に家の鍵をかけます」ダビデの言葉：それが開くと、誰も閉

じません。それが閉まると誰も開けなくなります。」この鍵は彼の苦しみの十字架を示しており、この聖句の成就として、ここにこう書かれています。「開いた者は誰も閉じず、閉じた者は誰も開かない。」救いの扉は、セブンスデー・アドベンティズムの構築には開かれていましたが、1843年の春以来、ローマ日曜宗教信奉者には閉ざされてきました。なぜなら、彼らは提示された教義的真理に従うことに同意し、預言的にイエスの御言葉である聖霊を信仰をもって尊重しているからです。イエスはフィラデルフィア時代の聖徒たちにこう言いました。「私はあなたの行いを知っています。見よ、あなたには力がほとんどなく、私の言葉を守り、私の名を否定しなかったため、私はあなたの前に誰も閉じることのできない開いた扉を設けました。」この小さな宗教団体は、公式には 1863年以來アメリカ人のみでしたが、1873年、バトクリークで開催された総大会中に、御霊が普遍的な宣教の扉を開き、その扉はイエス、キリストの真の再臨まで続くことになりました。誰もそれを妨げることはなく、神はそれを見守ってくださいます。私たちは、イエスが真の聖徒たちの間で見ていくすべての良いことは、1843年にプロテスタントの信仰が崩壊した原因を規定しているという事実に注目しなければなりません。このメッセージは、イエスが 3節でサルディスの倒れた人々に向けて語ったメッセージとはまったく逆です。対象作品自体が反転します。

Rev.7の12部族の成長

8節：「私はあなたの作品を知っています。見よ、あなたには力がほとんどなく、私の言葉を守り、私の名を否定しなかったため、私はあなたの前に誰も閉じることのできない開いた扉を設けました。」

その時に選ばれた者は、イエスが彼を正義であると認めた彼の行いによって好意的に判断されます。イエスの「小さな力」は、4節の「少数の人々

」に基づくグループの誕生を裏付けています。1873年、イエスは、1873年の春に開く天の扉の象徴によって、再臨に向けた進歩をアドベンティスト派に発表しました。

2030年、つまり157年後。ラオデキアに宛てた次のメッセージの中で、イエスはこのドアの前に立ち、こうして彼の帰還が近いことを示しています。「見よ、私はドアのところに立ってノックしています。誰かが私の声を聞いてドアを開けたら、私は彼のところに入って彼と一緒に食事をし、彼も私と一緒に食事をします。黙示録3:20」

ユダヤ人に許可されたキリスト教信仰へのアクセス

9節：「見よ、私はサタンの会堂の人々のことをあなたにあげます。彼らは自分たちはユダヤ人であると主張していますが、そうではありません

せんが、嘘をついています。見よ、わたしは彼らを来させ、あなたの足元に礼拝させ、わたしがあなたを愛していることを知るだろう。」

この聖句は、人種と肉体に応じた真のユダヤ人がアドベンチスト派に加わったことを引用することによって、安息日の休みが復活したことを裏付けています。日曜日はもはや彼らの回心を妨げるものではありません。なぜなら、321年以来、その放棄は誠実なユダヤ人がキリスト教の信仰を受け入れることを妨げる結果をもたらしたからです。人種的ユダヤ人に対する彼の判断は、忠実な証人であるパウロの個人的な意見ではありませんでした。それをこの啓示の中で確証するのはイエス・キリストであり、すでに黙示録 2 章 9 節で、スミルナ時代にユダヤ人によって中傷され、ローマ人によって迫害された家臣たちに宛てられたメッセージの中でイエス・キリストでした。人種的ユダヤ人が神の恵みの恩恵を受けるには、アドベンチスト基準でキリスト教の救いを認識する必要があることに注意してください。ユニバーサル アドベンティズムだけが神の光を伝えており、1873 年以来その光の独占的な公式保管所となっています。しかし注意してください。この光、その教義、そしてそのメッセージはイエス・キリストの独占的な財産です。人間も組織も、自分たちの救いを危険にさらさずその進化を拒否することはできません。この聖句の最後で、イエスは「私はあなたを愛しています」と述べています。これは、この祝福の時を経て、彼はもう彼女を愛さなくなるかもしれないということを意味するのでしょうか？はい、これが「ラオデキア」によるメッセージの意味になります。

神の戒めとイエスの信仰

10節：「あなたがわたしのうちに忍耐の言葉を守ってくれたので、私もまた、既知の地上に来る試練の時、地上に住む人々を試すためにあなたを守ります。」

待つという文脈を裏付けています。

」。このテストは、「地球の住民」、つまり「既知の地球」に住む人々、つまり創造主であるイエス・キリストによって認められた人々の信仰に関するものです。それは人間の意志を試し、この節の「既知の土地」をギリシャ語の「オイコメーネ」で指定する「エキュメニカル」陣営の反抗的な精神を暴くためにやってきました。

この約束は、その制度が当初の信仰の質を維持するという唯一の条件でイエスを拘束するだけです。アドベンチストのメッセージがこの聖句で預言されている究極の普遍的な信仰の試練の時まで続くとすれば、それは必ずしも制度的な形になるとは限りません。なぜなら、続く11節のこのメッセージには脅威が漂っているからです。それまでは完全に肯定的で神に祝福されているからです。イエスの約束は、2030年に生き残っていたイエスの子孫に関係するでしょう。その時、1873年に真に選ばれた人々は、黙示録14章13節によれば「主にあって」眠りについたことでしょう。「

そして私は天からこう言う声を聞いた。『書きなさい』
：主にあって死ぬ死者はこれから幸いです！ そうだ、御霊は、彼らがその
労苦から休むことができるように、彼らの業は彼らについて来るからと言
います。 》

したがって、これはイエス・キリストによってこの模範的な選ばれた者に
与えられた二度目の至福です。しかしイエスが祝福されるのは、行ないに
よって示される行動です。

「フィラデルフィア」の継承者たちは、2030年にその働き、信仰、天の神
から与えられた真理の受け入れを、神が与えた最新の形で忠実に再現する
だろう。なぜなら、神の計画が完全に理解される最後まで、彼らは大きな
変化を経験するからです。

イエス・キリストのアドベンチストの約束とその警告

11節：「すぐに来ます。あなたの王冠を誰にも奪われないように、
自分が持っているものをしっかり持ち続けてください。」 》

すぐに来ます」というメッセージはアドベンチスト派のものです。
こうしてイエスは、他のいかなる宗教的告白も放棄することを確認されま
した。彼が栄光のうちに戻ってくるという期待は世の終わりまで続くだろ
うが、これが彼の真の選ばれし者を見極める主要な基準の一つである。し
かし、メッセージの残りの部分は、重大な脅威をもたらします。「誰もあ
なたの王冠を奪わないように、自分の持っているものを控えなさい。」 》
そして、彼の敵以外に誰が彼の王冠を奪うことができるのでしょうか？ した
がって、彼の子孫はまず彼らを特定しなければならないが、彼らがそうし
なかつたため、彼らの人道主義精神の犠牲者として、1966年から彼らと同
盟を結ぶことになる。

12節：「勝利する者は誰でも、わたしはその人をわたしの神の宮の
柱とする。彼は決して出てこない。わたしは彼の上に、わたしの神の名前
、わたしの神の都市の名前、わたしの神のもとから天から下って来る新し
いエルサレム、そしてわたしの新しい名前を書き記す。」 》

勝利者に捧げられた最後の祝福の言葉の中で、イエスは得られた救
いのすべてのイメージを一つにまとめています。

「私の神の神殿の柱」とは、私の議会、つまり選出者において私の真実を
伝えるための堅固な支えを意味します。「...そして出てこない」
もっと見る」：彼の救いは永遠です。「

...;私は彼の上に私の神の名前を書きます」：私はエデンで失われた神の
性格のイメージを彼の中に刻みます。「

...そして私の神の都市の名前」：彼は黙示録21章に記載されている選ば
れた者の栄光にあずかるでしょう。

「...私の神から天から降りてくる新しいエルサレムの、
」：「新しいエルサレム」とは、神の天上の天使のように完全に天上とな
った栄光に満ちた選ばれた人々の集まりの名前です。黙示録 21

章では、地上から救い出された神に対して神が感じている愛の強さを証明する宝石と真珠の象徴的なイメージでそれが説明されています。彼女は新しくなった地球に降り立ち、そこに王座を据えられる神の御前で永遠に生きるのです。

「...そして私の新しい名前」：イエスは自分の名前の変化を、地上の性質から天の性質への移行と関連付けています。救われ、生き続けるか復活する選ばれた者は、同じ経験を生き、栄光と不朽の永遠の天体を受け取ることになる。

この聖句では、神との比較の主張は、イエスご自身がその神聖な側面において選ばれた人々によって見出されているという事実によって正当化されます。

13節：「耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞きなさい。」

選ばれた人は教訓を理解しましたが、それを理解できるのは彼だけです。確かに、このメッセージは彼のためだけに用意されたものだった。このメッセージは、明らかにされた奥義の解釈と理解は、ご自分の僕たちを試し、選ぶ神のみに依存しているという事実を裏付けています。

公式の終末アドベンチスト派は教訓を学んでおらず、イエスによって裁かれておらず、第三のアドベンチスト派の期待のメッセージを拒否したとして吐き出されている。

「すぐに行きます。」あなたの王冠を誰にも奪われないように、自分の持っているものをしっかり持ち続けてください。」残念なことに、当時の公式のアドベンチズムにとって、終わりはまだ遠く、150年後には時の疲れとともに、信仰はもはや同じではないでしょう。イエスの警告は正当でしたが、注目も理解もされませんでした。そして1994年、イエス・キリストの使者エレン・G・ホワイトが著書『最初の著作』の「最初の幻視」の章で預言した最後の「偉大な光」を拒否することにより、アドベンチスト団体は実際にその「王冠」を失うことになる。 、14 および 15 ページ:

以下のテキストはこれらのページからの抜粋です。私はさらに彼について、彼がアドベンチストの活動の運命を預言し、黙示録 3 の 3 つの集会（1843～44 年サルディス、1873 年フィラデルフィア、1994 年ラオデキア）で提示されたすべての教えを自分の中で要約していることを明記します。

アドベンチズムの運命

エレン・G・ホワイトの最初のビジョンで明らかになった

「家族の礼拝で祈っていると、聖霊が私の上にとどまり、私はこの暗闇の世界からますます立ち上がったように思えました。私はこの世に残っているアドベンチストの兄弟たちに会おうと背を向けましたが、見つかることができませんでした。その時、声が私に言いました。「もう一度見てください、しかしもう少し高いところを見てください。」見上げると、この世のはるか上空に陰しく狭い道が見えました。ここは、アドベンチストが聖都に向かって前進した場所です。彼らの後ろ、道の始まりに明るい光があり、それは天使が私に真夜中の叫びだと言いました。この光は、彼らの足がつかずかないように、道全体を照らしました。イエスは彼らの先頭に立って彼らを導きました。そして彼らが彼を見ている限り、彼らは安全でした。

しかし、すぐに彼らの中には疲れて、その街はまだ遠い、もっと早く着くと思っていたと言う人もいた。それからイエスは、その輝かしい右腕を上げて彼らを励まし、その右腕から発せられた光がアドベンチストたちに広がりました。彼らは「ハレルヤ！」と叫びました。しかし、彼らの中には、自分たちを導いたのは神ではないと言って、厚かましくもこの光を拒否する人もいました。やがて背後の光が消え、彼らは深い闇の中にいた。彼らはつかずき、目標もイエスも見失い、そして道から外れ、下にある邪悪な世界に沈んでしまいました。」。

神が若きエレン・グールド＝ハーモンに与えたこの最初の幻の物語は、ダニエルや黙示録の預言と同じくらい価値のある暗号化された預言を構成しています。しかし、その恩恵を受けるには、それを正しく解釈する必要があります。それでは、説明をさせていただきます。

「真夜中の叫び」という表現は、マタイ 25 章 1 節から 13 節までの「十人の処女のたとえ」にある花婿の到来を告げる言葉を指します。1843 年の春にキリストの再臨を待つ試練と、1844 年の秋が最初と 2 番目の成果でした。これら 2 つの期待は共に、イエス・キリストによって祝福された道または道を進んでいた「セブンスデー・アドベンチスト」のグループの「背後」に置かれた物語の「最初の光」を表しています。アドベンチスト派の開拓者たちにとって、1844 年は世界の終わりの日であり、預言の言葉が当時の選民に提案することができた最後の聖書の日付を表していた。この最後の日を過ぎた彼らは、イエスの再臨が差し迫っていると考えて待っていました。しかし、時間が経ってもイエスはまだ戻ってきませんでした。

「彼らはその都市が非常に遠くにあることに気づき、もっと早くそこに到着することを考えていたことに気づいた」という幻が何を呼び起こすのか。つまり、1844 年かその直後のことです。また、1980 年頃まで彼らは落胆し、私とその現場に入り、第 3 のアドベンチスト派の期待を築くこの新しく輝かしい光を受けました。今度はイエスの再臨が 1994 年の秋に予定されています。確かに、このメッセージの宣言は、フランス

のヴァランス・シュル・ローヌにある普遍的なアドベンチズムの縮図にのみ関係していました。フランス南東部にあるこの小さな町に対する神の選択には説明があります。 1799 年に教皇ピウス 6

世が拘留中に亡くなったのもそこでであり、黙示録 13:3

で預言されていた事実が成就しました。さらに、バレンシアは神がフランスの地に最初のアドベンチスト教会を設立した都市でもありました。したがって、彼が神聖な栄光の最後の光をもたらしたのはそこでであり、2020年の終わりに、私はこの文書で提示する彼の最新かつ最も貴重な啓示を常に忠実に彼から受け取ったことを確認します。アドベンチスト派のヴァレンティノスの小宇宙は、私たちの妹エレンのビジョンの最後の輝かしい光に関する部分を達成するための普遍的な舞台として機能しました。この幻は、バレンシアで生きた経験に基づいてイエスが下した判断を私たちに明らかにします。これは、10人の処女のたとえ話の3番目の成就です。イエスは、差し出された光に対する態度によって真のアドベンチストを認識しました。真のアドベンチストは「ハレルヤ！」と喜びを表現します。 »

;御霊の祝福を受けて、彼は器に油を満たしました。逆に、偽アドベンチストは「厚かましくもこの光を拒否」します。この神の光の拒絶は彼らにとって致命的である。神は、その使者に向けた靈感によるメッセージの中で、この否定的な反応に対して警告したからである。ランプの「光」を生み出す油がなくなった空の器になってしまいます。避けられない結末が告げられる。「彼らの後ろにあった光は消えてしまう」。彼らはアドベンチズムの基本的な基盤を否定しています。イエスはご自分の原則を次のように適用されます。「持っている人には与えられ、豊かになるが、持っていない人からは、持っているものさえ取り上げられるからである。」マタイ 25:29。」

「...彼らは最終的に目標とイエスの両方を見失ってしまった」ので、彼らはキリストの再臨を告げるアドベンチストのメッセージに鈍感になったり、まさに「アドベンチスト」という名前に込められたアドベンチスト運動の目標を否定したりする。

「その後、道から外れ、その下に横たわる邪悪な世界に沈みました」が、1995年に彼らはプロテスタント同盟とエキュメニズムに正式にコミットしました。こうして彼らはイエスを失い、アドベンチスト信仰の目標であった天国への入り口を失いました。彼らは、ダニエル 11:29

によれば、イエスがマタイ 24:50 で告げられたように、「偽善者たち」と「大酒飲み」に加わった。作品の冒頭で示されたもの。

今日、これらの預言の言葉は成就します。それらは、最初の光が「背後に位置した」1844年と、フランスのヴァランス・シュル・ローヌの町に設立された最初のアドベンチスト教会によって拒否された偉大な預言の光の日である1994年の間に達成されました。彼のデモンストレーションに使用されました。今日、公式のアドベンチズムは、真理の敵であるプロ

テスタントとカトリック教徒とともにエキュメニズムの「深い闇」の中にあります。

第7^{時代}：ラオデキア

制度的なアドベンチストの終焉 - アドベンチストの第 3 の期待の拒否。

14節：「ラオデキアの会衆の天使に書きなさい。神の創造の始まりについて、忠実で真実の証人であるアーメンはこう言われます。」

ラオデキアは、

7番目で最後の時代の名前です。それは制度的なアドベンチズムの祝福の終わりについてです。この名前には、「裁かれた人々」を意味する「ラオス、ディケイア」という

2つのギリシャ語の語源があります。私より前に、アドベンチスト派は「裁きの民」と訳していましたが、ペテロ第一

4章17節が次のように教えているように、この裁きがそれから始まることを施設は知りませんでした。神。さて、それが私たちから始まるとしたら、神の福音に従わない人々はどうなるのでしょうか？

イエスは自己紹介してこう言われました。「これが、忠実で真実の証人、神の創造の始まりであるアーメンが言うことです。」

「アーメン」という言葉は、ヘブライ語で「真実」を意味します。使徒ヨハネの証言によると、イエスはこの言葉を頻繁に（25回）使用し、最初に2回、発言の前に繰り返しました。しかし、伝統的な宗教慣行では、祈りや声明の終わりに句読点を表す用語になっています。そして、それはカトリックから受け継がれた「それでいい」という意味で解釈されることがよくあります。そして御霊はこの概念を「真実に」用いて、アーメンという言葉に完全に正当な二重の意味を与えます。ラオデキアは、イエスが終わりの時に備えられた預言を完全に照らすために大なる光を差し出す時です。あなたが読んでいる作品がそれを証明しています。イエスとアドベンチストの公式機関との間に亀裂を引き起こす原因となるのは、イエスの光の拒否です。論理的かつ正当な選択として、神は 1980 年から 1994 年にかけて、アドベンチストを模範とした信仰の試みにアドベンチストを課し、その結果、プロテスタントは失われ、アドベンチストの開拓者たちは祝福されました。このテストはすでに、1843 年の春、次に 1844 年の秋に発表されたイエスの再臨への信仰に基づいていました。私の番は、1983

年から、1994 年のイエスの再臨の発表を共有し始めました。黙示録 9:5-10 の「第 5 のラッパ」のメッセージで引用されている「5 か月」。このテーマを1844年のプロテスタントの呪いに帰することで、言及された「

5か月」の期間、つまり実質150年が1994年につながった。この期間の終わりを示すイエス・キリストの再臨のみを見て、神によって部分的に盲目にされた。本文の詳細について、私は神聖な真実であると信じていることを擁護しました。公式警告の後、教育機関は 1991 年 11 月に私の解雇を宣告しました。私の発表を証明し否定するまでにまだ3年が残っている間に、これは行われた。この経験の本当の意味が私に明らかになったのは、さらに後になって、1996

年頃になってからでした。イエスが「ラオデキア」に宛てた手紙の中で述べた言葉はまさに成就し、今や正確な意味を帯びるようになりました。

1991 年までに、生ぬるいアドベンチストは 1873 年ほど真理を愛さなくなりました。また、現代世界も彼らを誘惑し、彼らの心を掴むことによって弱体化させました。

「エフェソス」の時代と同様、公式のアドベンティズムは「初恋」を失いました。そしてイエスは「彼女の燭台と王冠を取り上げ」ます。なぜなら、彼女ももはやそれに値しないからです。これらの事実を踏まえると、メッセージはより明瞭に輝きます。

「アーメン」という言葉は、完全な真実の要求と祝福された関係の終わりを確認します。 「証人」

忠実で真実」は、不誠実で嘘をついた選ばれた者を拒否します。したがって、

「神の創造の原理」、つまり創造主は、創世記の物語に含まれ、隠されている真実に対して、価値のない人々の知性を集団的に閉ざし、自分が選んだ人々の知性を個別に開くようになります。同時に「神の創造原理」を呼び起こすことで、

彼はそれを「アーメン」という言葉から連想しますが、御霊はイエス・キリストの最終的な再臨が非常に近いことを「速やかに」確認します。しかし、1994年から地球人類滅亡の日である2030年までには、まだ36年も経過している。

致命的なぬるさ

15節：「私はあなたの行いを知っています。あなたが寒くも暑くもないことは知っています。寒くても暑くても大丈夫！」

非公式のアドレスは機関に宛てられます。これは父から息子、娘へと受け継がれた宗教の成果であり、そこでは信仰が伝統的、形式主義的、日常的となり、新しいものには恐れを抱きます。イエスが彼女に分ち合う新しい光がたくさんあるにもかかわらず、もはや彼女を祝福できない状態です。

16節：「それで、あなたは生ぬるいし、冷たくも熱くもないので、私はあなたを私の口から吐き出します。」

この見解は、イエスのメッセージを伝えた預言者が公的機関によって排除された1991年11月にイエスによって確立されました。イエスが宣言されたように、1994

年の春にそれは吐き出されます。彼女は、1995年にカトリック教会が組織したエキュメニカル同盟に参加し、反抗的なプロテスタントに加わったことで自らこのことを証明した。

精神的遺産に基づく欺瞞的な幻想

17節：「あなたは、私は金持ちだ、富んでいる、何も必要ないと言うからです。そして、あなたは、自分が惨めで、惨めで、貧しく、盲目で、裸であることを知らないからです。」

「...金持ち」、アドベンチストのエレクトは 1873
年に選ばれ、エレン G.
ホワイトに与えられた数々の啓示は彼女をさらに霊的に豊かにしました。しかし、預言のレベルでは、主の使者の夫ジェームズ・ホワイトが正しく考えていたように、当時の解釈はすぐに時代遅れになりました。生ける神イエス・キリストは、その預言が完全で非の打ち所のない最終的な成就を目指して計画されました。これが、世界に大きな変化をもたらす時間の経過が、受け入れられ教えられた解釈に対する永続的な疑問を正当化する理由です。主の祝福は保留されています。イエスは「わたしの業を最後まで守り続ける者に」と言われました。しかし、1991
年、彼が光を拒否した日、終わりはまだ遠かった。したがって彼女は、主ご自身が選んだ手段によって主が提案されるあらゆる新しい光に注意を払わなければなりません。制度の幻想と、イエスがそれを見て判断する状態との間には何と対照的なことでしょうか。引用されたすべての用語の中で、「裸」という言葉は施設にとって最も深刻である。なぜならそれはイエスとその施設から永遠の正義を撤回したことを意味するからである。それは彼の口にあり、死刑判決と最後の審判の二度目の死である。コリント人への手紙第二5章3節に次のように書かれています。»

忠実で真実の証人のアドバイス

18節：「あなたが金持ちになれるよう、火で試された金と、衣服を着て裸の恥が現れないようにするための白い衣と、あなたの体に油を塗る軟膏を私から買うように勧めます。」あなたが見ることもできる目。»

1991

年の調査結果を受けて、この機関は自らのやり方を修正し、悔い改めの成果を上げるまでにまだ 3
年の猶予が残されていましたが、それは実現しませんでした。それどころか、墮落したプロテスタントとの関係は、1995
年に出版された公式同盟を結ぶまでに強化されました。イエスは、自らを真の信仰の独占的な商人、試練の「火で試される金」として表しています。彼が教会を非難している証拠は、黙示録 3:4
にその開拓者たちが「ふさわしい」とされた「白い衣」が欠如していることに現れています。この比較によって、イエスは、1994年以前に、1843

年と

1844

年以前と同じアドベンチストの期待に「ラオデキア」のアドベンチストを従わせたという事実を示しています。

1844年に「サルディス」のアドベンチストに宛てたメッセージで教えられているように、3つの経験に対する信仰を試すためです。閉鎖的な反抗的な態度の中で、施設はイエスが何を非難しているのか理解できませんでした。彼女はイエスの地上での宣教に参加したパリサイ人たちと同じように「盲目」でした。したがって、彼女は、黙示録 3 章 18 節で明らかにされている、神が要求する永遠の命の基準を示すマタイ 13:45-46 のたとえ話から、「高価な真珠」を購入するようというキリストの招きを理解できませんでした。

慈悲の呼びかけ

19

節：「私は愛する人なら誰でも、叱責し、罰します。ですから、熱心になって悔い改めなさい。」

愛する者たちには、イエスが吐き出すまでの罰が与えられる。悔い改めへの呼びかけという呼びかけは聞き入れられませんでした。そして愛は受け継がれるのではなく、尊厳を通して獲得されます。制度が固まった後、イエスは天の召命の候補者たちに次のように個人的に訴え始めます。

普遍的な魅力

20節：「見よ、私は戸口に立ってノックしています。誰かが私の声を聞いてドアを開けたら、私は彼のところに入って彼と一緒に食事をし、彼も私と一緒に食事をします。」

門」という言葉が黙示録 3:8、ここでは黙示録 3:20、黙示録 4:1、そして黙示録 21:21 に登場します。黙示録 3:8 は、ドアが開閉することを思い出させます。したがって、それらはキリスト、彼の正義、そして恵みへのアクセスを開くか閉じるかの信仰の試練の象徴となります。

扉」という言葉が3

つの異なる、しかし補完的な意味を帯びています。彼はイエスご自身を指してこう言いました。ヨハネ 10:9」。天の扉が開いたのは黙示録 4 章 1 節にあります。「天に扉が開かれました。」

;そしてイエスが愛の証を与えるために、選ばれた者に心を開くよう招くためにたたきに来る人間の心の扉。

彼とその神聖な創造者との間の親密な交わりを可能にするためには、彼の被造物が明らかにされた真実に対して心を開くだけで十分です。夕食は夕方に共有され、夜が来てその日の仕事が終わります。人類はまもなくこのような「誰も働けない」夜に突入するでしょう。(ヨハネ

9:4) 」恵みの時代の終わりは、肉のレベルで平等に責任を負い、厳密に補完し合う人間、男性と女性の最後の宗教的選択を永久に凍結するでしょう。

のメッセージと比較すると、選ばれたメッセージは、イエス・キリストの再臨が差し迫っているラオデキア時代にあります。

「開いたドア」 天にある」は黙示録 4 章 1 節でこのメッセージの続きとして始まります。

御霊の最後の勧告

個々の勝者に対して、イエスはこう宣言します。

21節：「だれでも、私が克服して父とともに王座に座ったように、勝利する者には、私とともに王座に座ることを許します。」 »

こうして彼は、このメッセージに続き、黙示録 4 章のテーマとなる天の裁きの活動を発表しました。しかし、この約束は彼を真に選ばれた勝者に約束するだけです。

22節：「耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞きなさい。」 »

手紙」というテーマは、この新たな制度的失敗をもって終わる。最後の理由は、これから光が靈感を受けた人によって運ばれ、次に小さなグループによって運ばれるからです。それは人から人へ、またインターネットを介して個別に伝達され、イエスご自身が、ご自身の神聖な人格と同じくらい神聖な、最新の真理の普及の源に向けて選ばれた人々を導くことによって指示されます。このようにして、地上のどこにいても、「耳のある者は御霊が集会に言うことを聞きましよう。」 »

次のテーマは、聖人たちによって行われた悪人の裁きの天の千年紀を背景としています。この主題全体は、黙示録 4、11、および 20 に散らばる教えに基づいています。しかし、黙示録 4 は、時系列的に地上の選ばれし者の最後の時代に続くこの活動の天上の文脈を明確に確認しています。

黙示録 4: 天の裁き

1

節:

「この後、私が見ると、見よ、天に扉が開いていました。私が最初に聞いたトランペットの音のような声は、私に語りかけるようにこう言いました。「ここに来なさい。そうすれば、これから何が起こるかを見せてみましょう」。

「私が最初に聞いた声は、トランペットの音のようだった」と言うことで、聖霊はこの「ラオデキア」時代のメッセージを、ヨハネの黙示録

節でヨハネを連れて行った時代のメッセージであると定義しています。主の日に、私の後ろでラッパの音のような大きな声が聞こえました。」したがって、ラオデキアは、「主の日」、つまり主の大いなる栄光の再来によって終わりが示される時代です。

彼の言葉によれば、聖霊はラオデキアのメッセージとともにこの主題を継承するという考えを強く支持しています。この機関は天の裁きの教義を敵対者に証明できていないため、この明確化は重要である。今日、私はこのことの証拠を提供します。これは、黙示録2章と3章の手紙のメッセージに添付された日付の正確な定義によって可能になりました。ラオデキアと黙示録4章の間で、イエスは黙示録11章の「第7のラッパ」で、悪魔と反逆者たちから地上の「世界の王国に対する支配権」を奪いました。黙示録14章の「収穫」をもって、神は選ばれた人々を天に上げ、邪悪な死者たちの過去の地上生活を一緒に裁く任務を彼らに委ねました。そのとき、黙示録2章

節で予告されているように、「勝利する者は鉄の杖で諸国民を支配する」のです。もし迫害者たちが私と同じように、自分たちに与えられた運命を確信していれば、彼らが自らの行動を改めることは間違いありません。しかし、どんな警告も無視したいという彼らの猛烈な願望こそが彼らを最悪の行動に導き、こうして彼らは現在の地球状況では再現できない最悪の懲罰を自分たちで準備しているのです。次に、この第4章の本文に戻りましょう。「トランペットの音のような、私に聞こえた最初の声はこう言いました。「ここに来なさい。そうすればこれから何が起こるかを教えてあげる」。ヨハネは黙示録1章10節に言及しています。「私は主の日に御霊の中にいたのですが、私の後ろでラッパの音のような大きな声を聞きました。」キリストの栄光の再来というテーマはすでに

節で触れられており、次のように書かれています。そして、それを突き刺した者さえも、すべての目でそれを見るでしょう。そして地上のすべての部族は彼のために悲しむでしょう。はい。アーメン! » これら3つのテキストの示唆されたつながりは、選ばれた修練者たちと彼の忠実な天使たちによってミカエルとも呼ばれる主イエスの再臨の日の最後の輝かしい文脈を裏付けています。イエスの声をラッパにたとえるなら、それは、この朗々とした軍隊の楽器のように、イエスが天の天使の軍隊の先頭に立って、戦いを開始するために軍隊を鳴らしているからです。さらに、彼の声はトランペットのように、彼自身が罪と死を征服したように、彼らを征服する準備をするために、彼らに警告するやうにと彼の選ばれた者たちに警告することをやめませんでした。この「ラッパ」という言葉を呼び起こすことによって、イエスはすべての黙示録の中で最も神秘的で重要なテーマを私たちに示しました。そして、彼の最後のしもべにとって、このテ

一マが排除の試練を隠していたことは事実です。ここで、黙示録 4 章 1 節で説明されている場面は、死から救いに来た神が選んだ人々だけを対象としているため、不完全です。これと同じ文脈での悪者の行動は、黙示録 6

章 16 節で次のような暴露的な言葉で説明されます。玉座、そして子羊の怒りの前。彼の怒りの大いなる日が来たのに、誰が耐えられるでしょうか? 》明らかに答えのないこの疑問に対して、神は第 7

章で、抵抗できる人々について示されます。それは、144,000 という数字、つまり 12 の 2 乗、つまり

144で象徴される封印された選民です。しかし、神は生き残った選民だけです。キリストの再臨のとき、そこで行動します。さて、黙示録 4 章のこの文脈では、天国への携挙はアベル以来亡くなった選民にも関係しており、イエスは彼らにも信仰に対して約束された報い、つまり永遠の命を与えるために彼らを復活させます。また、イエスがヨハネにこう言われたときも、「ここに上って来なさい!」

」、聖霊は、このイメージを通して、イエス・キリストの血によって贖われたすべての選ばれた人々が神の日の栄えの王国に向かって上昇することだけを予期しています。この天への上昇は人間の地上的な本性の終わりを示しており、マタイ 22:30

のイエスの教えに従って、選ばれた人々は神の忠実な天使と同じように復活します。肉とその呪いは終わり、彼らは後悔することなく彼らを置き去りにします。人類の歴史におけるこの瞬間は非常に望ましいものであるため、イエスはダニエル以来、啓示の中でこの瞬間を繰り返し思い出しています。人間のせいで呪われた地球のように、真の選ばれた者たちはその解放を切望しています。 2 節は黙示録 1:10

からコピーされたものと思われま。実際、聖霊は、神の計画の歴史における同じ出来事、すなわち黙示録 16:16

で預言された「大いなる日」における神の帰還を指すこの 2 つの関係をより強く裏付けています。

2 節: 節:

「すぐに私は霊の中にいました。そして見よ、天に玉座があり、その玉座に一人が座っていた。」

ヨハネの経験のように、選ばれた人々が「天国」に上がることは「彼らを霊的に喜ばせ」、彼らは人間が永遠にアクセスできない天の次元に投影されるのです。なぜなら、そこには神が君臨し、目に見えるからです。

3節: 「座っている人は碧玉とサードニクスの石のように見えました。そして玉座はエメラルドのような虹に囲まれていました。」

そこで彼らは、唯一の創造主である神が輝かしく座っておられる神の御座に直面していることに気づきます。しかし、この言葉では言い表せない天の栄光は、人々が敏感に反応する宝石によって表現されています。

「碧玉石」は非常に異なる側面と色を帯びており、神の自然の多様性をイメージしています。色が赤い「サルドワーマ」に似ています。

「虹」は常に人々を驚かせてきた自然現象ですが、私たちはその起源をまだ覚えておく必要があります。創世記 9 章 9 節から 17 節によれば、それは神が人類を洪水の水で二度と滅ぼさないと約束した契約のしるしでした。

また、雨が太陽に出会うたびに、神の象徴的な像が現れ、虹は地上の生き物たちを落ち着かせているようです。しかし、ペテロは水の洪水を想起させることによって、「火と硫黄の洪水」が神の計画の中にあることを思い出させます(2ペテロ3:7)。まさに、この絶滅の「火の洪水」を考慮して、神はご自身の天で悪人の裁きを組織し、その裁き人は救い出された選民と彼らの救い主イエスとなります。

4節：「玉座の周りに24の玉座が見え、それらの玉座には白い衣を着て、頭には金の冠をかぶった24人の長老たちが座っていました。」

ここでは、24
人の老人によって象徴され、次の原則に従って明らかにされた 2
つの預言の時代の救い者が示されています。94 年から 1843 年の間、12
使徒の創設。 1843 年から 2030 年の間、「12
部族」の霊的な「アドベンチスト」イスラエルは、アポ 7 年の7
日目の安息日に「神の封印」で封印されました。この構成は、黙示録 21
章の「天から降りてくる新しいエルサレム」が新しくなった地に定住する
という記述で確認されます。「

12の部族」は、12個の「真珠」の形をした「
12の扉」で表されます。裁きのテーマは黙示録 20 章 4
節で次のように定義されています。そしてそこに座っていた人々には裁
く力が与えられました。そして私は、イエスの証言と神の言葉のゆえに斬
首された人々、そして獣もその像も崇拜せず、額や頭に刻印を受けなかつ
た人々の魂を見た。手。彼らは生き返り、キリストとともに千年間統治し
た。」選民の統治は裁判官の統治である。しかし、私たちは誰を判断する
のでしょうか？黙示録 11 章

18節は次のように答えています。そしてあなたの怒りが来て、死者を裁き
、あなたのしもべである預言者、聖人、そして小さな者も大きな者もあな
たの名を恐れる者たちに報い、そして地球を破壊する者たちを滅ぼす時が
来ました。」この聖句の中で、御霊は終末の時に明らかにされた一連の 3
つのテーマを回想しています。「怒っている諸国民」には「第6
のラッパ」、「あなたの怒りが来た」には「最後の七つの災い」の時、そ
して「死者を裁く時が来た」という「千年」の天の裁き。この節の終わり
には、悪者を滅ぼす火と硫黄の湖の最終的な裁きによって達成される最終
プログラムが示されています。第2回には全員参加します 黙示録20 章 5
節によれば、「残りの死者は千年が終わるまで生き返らなかった」と、「
千年」の終わりに復活することを示唆しました。御霊は私たちに悪人の定

義を与えてくれます。「地球を破壊する者たち」です。この行動の背後には、ダニエル書 8:13

で引用されている「壊滅的な、または荒廃させる罪」があります。死と地球の荒廃を引き起こす罪。

538年から1798年にかけて残酷なローマ教皇政権にキリスト教を届けるよう神を導いた人物。

321年3月7日以来、真の7日目の聖なる安息日の違反がこれほど多くの恐ろしく悲劇的な結果をもたらすとは誰も想像していなかったでしょう。

24人の長老たちは、ダニエル書8章14節の法令のレベルでのみ区別されています。なぜなら、彼らはイエス・キリストの同じ血によって救われたという共通点を持っているからです。黙示録 3 章 5 節によれば、彼らはふさわしいと認められ、黙示録 2 章 10 節で信仰の戦いの勝利者に約束された「白い衣」と「命の冠」を身に着けているのはこのためです。王冠の「金」は、ペテロ第一 1:7 によると、試練によって清められた信仰を象徴しています。

「座る」という言葉が3回出てきます。数字の 3 は完全さの象徴であり、聖霊は、次のように書かれているように、7 千年紀の裁きのテーマを征服者の完全な安息のしるしの下に置きます。「私があなたの敵をあなたの足台にするまで、私の右手に座っててください」詩篇 110:1 およびマタイ

22:44。彼と座っている人々は安息しており、このイメージによって、創造以来、私たちの週の7日目の神聖な休息によって偉大な安息日または休息が預言されていたように、聖霊は第7千年紀をよく表しています。

5節：「御座から稲妻、声、雷鳴が起こる。玉座の前で、神の七つの霊である七つの火のランプが燃えます。」

「玉座から現れる」現象は、創造主である神ご自身によるものです。出19:16によれば、これらの現象は、ヘブライ人の恐怖の中に、シナイ山における神の臨在をすでに示していたという。したがって、この示唆は、邪悪な死者を裁くこの行為において神の十戒が果たす役割を思い出させます。この思い出はまた、過去には被造物にとって不可避の死の危険を冒して目に見えなかった神が、ご自身の性質を変えていないことを、救い出されて復活し栄光を受けた選民によって危険なく見られているという事実を思い出させます。注意

！この短い文は現在解釈されており、黙示録という本の構造における目印となるでしょう。この預言が現れるたびに、読者は、この預言がミカエル、イエス・キリストにおける神の直接的かつ目に見える介入によって特徴付けられる、7千年紀の裁きの始まりの文脈を呼び起こしていることを理解する必要があります。このようにして、本全体の構造は、「稲妻、声、雷鳴があった」という重要な表現によって区切られたさまざまなテーマの下で、キリスト教時代の連続的な概要を私たちに提供します。黙示録 8 章 5

節に「地震」がキーに追加されているのがわかります。それは、イエス・キリストの永遠の天のとりなしのテーマをトランペットのテーマから切り離すこととなります。次に、黙示録 11:19 で「強い雹」がキーに追加されます。その説明は黙示録 16 章 21 節に示されており、この「大雹」が神の最後の七つの災いのうちの 7 番目のテーマを締めくくっています。同様に、「地震」は黙示録 16:18 では「大地震」になります。この鍵は、黙示録の教えを管理する方法を学び、その構造の原理を理解するための基礎となります。

5 節に戻ると、今回は「玉座の前」に「7 つの火のともし火が燃えている」ことが示されています。それらは「七つの神の霊」を象徴しています。数字「7」»ここでは聖化、つまり神の御霊の聖化を象徴しています。神がすべての被造物を制御するのは、すべての命を内包する神の霊を通してです。神は彼らの中にいて、彼らを「自分の玉座の前」に置きます。なぜなら、神は彼らを自分の反対側に自由に創造したからです。「7 つの燃えるランプ」のイメージは、神の光の神聖化を象徴しています。その完璧で強烈な光は、暗闇の可能性をすべて排除します。なぜなら、救われた者の永遠の命には暗闇が入る余地はないからです。

6 節「御座の前には水晶のようなガラスの海がまだある。玉座の真ん中と玉座の周りには、前後に目が詰まった四つの生き物がいます。」

御霊は象徴的な言語で私たちに語りかけます。

「その前」とは何ですか？

玉座」は、裁きを支援するものの、裁きには参加しない彼の天上の生き物を指します。多くの場合、これらは海のような外観を呈し、その性質の純粋さは非常に純粋であるため、彼はそれを水晶に例えます。これは、創造主である神に忠実であり続けた天上および地上の生き物の基本的な性質です。次に、聖霊は、玉座の真ん中にいる神と、玉座の周囲の他の世界や他の次元から来た神の天上の生き物たちに関係する別の象徴を呼び起こします。周囲は、玉座に座る神の視線の下に散在する生き物を指します。

「四生物」という表現は、生物の普遍的な基準を指します。目の多さは「多さ」という言葉で正当化され、その「前後」の位置はいくつかのことを象徴しています。まず、これらの生き物に多方向、多次元の外観を与えます。しかし、より霊的に言えば、「前と後ろ」という表現は、シナイ山の 2 つの石のテーブルの 4

つの面に神の指で刻まれた神法を指します。聖霊は宇宙の生命を宇宙の法則と比較します。どちらも、神を理解し愛する被造物の幸福のために、完全な人生の基準を石に、肉に、あるいは霊に刻む神の業である。これらの多数の目は、地球上で何が起きているのかを情熱と思いやりを持って観察し、追いつけています。I コリント 4 章 9 節でパウロは次のように宣言しています。天使たちと人間たちに。」この聖句の「世界」という言葉は、ギリシャ語の「宇宙」です。私が多次元世

界と定義するのはこの宇宙です。地上では、選ばれた人々とその戦いを、イエス・キリストが啓示されたのと同じ神の愛で彼らを愛する目に見えない観客が追いかけます。彼らは喜びを喜び、戦いがあまりにも厳しく苦痛で泣く人たちと一緒に泣きます。しかし、この宇宙はまた、ローマの人々のような不信仰な世界、つまり競技場での忠実なキリスト教徒の殺害の傍観者を示しています。

黙示録 5 章では、天上の観客の 3 つのグループが示されます。4つの生き物、天使、長老たちはすべて勝利を収めており、偉大な創造主である神の愛ある視線の下で永遠に団結しています。

「多数の目」と神の律法を結びつけるのは、神が十戒の律法に対して与えられる「証し」という名前にあります。私たちは、この律法が神のみに限定された「最も聖なる場所」に保管され、「贖罪の日」の祝日を除いて人間の立ち入りを禁じられていることを覚えています。律法は「証し」として神に残され、その「2つの表」は黙示録11章3節で引用されている象徴的な「2人の証人」に第2の意味を与えることとなります。 »

このレッスンでは、「多数の目」は、地上の出来事を目撃した多数の目に見えない証人の存在を明らかにします。神の考えでは、証しという言葉は忠実という言葉から切り離せません。

「殉教者」と訳されるギリシャ語の「マルトウス」がそれを完璧に定義しています。なぜなら、神が要求する忠実さには限界がないからです。そして少なくとも、イエスの「証人」は、神がイエスを比較し裁く際の十戒という神の律法を尊重しなければなりません。

神の法則の預言

ここで、2018年の春に受け取った神の光を呼び起こすために括弧を開けます。それは神の十戒の法則に関するものです。御霊は私に、次の説明の重要性を認識させました。「モーセは戻ってきて、証しの二枚の板を手に持って山から降りました。表は両面に書かれており、一方の面ともう一方の面に書かれていました。テーブルは神の作品であり、文字はテーブルに刻まれた神の文字でした(出32:15-16)。」私が最初に驚いたのは、法律の元の表がその4つの面、つまり「四人の生き物の目」のように「表と裏」に書かれているというこの明確化を誰も考慮したことがなかったということです。前の聖句を勉強しました。このしつこく引用された説明には、御霊が私に発見させてくれた理由がありました。テキスト全体は元々、2つの石のテーブルの 4 つの側面に均等にバランスよく配置されていました。最初の戒めの正面に

は最初の戒めが表示され、2番目の戒めの半分が表示されました。その背中には、2番目の2番目の部分と3番目の全体が穴がありました。 2
番目のテーブルの正面には、第 4
戒めが完全に表示されていました。その裏側には最後の6つの戒めが描かれていました。この構成では、目に見える 2 つの側面が最初の戒めと 2
番目の戒めを半分に示し、4 番目の戒めは 7
日目の神聖な休息に関するものです。これらの事柄を見ると、安息日が回復され神によって要求された 1843 年に聖性のしるしであるこれら 3
つの戒めが浮き彫りになります。この日、プロテスタントは継承されたローマの日曜日の犠牲者となりました。したがって、アドベンチスト派の選択とプロテスタント派の選択の結果は、2 つの表の裏側に表示されます。1843年以來、安息日を尊重することなく、第三の戒めも違反されているようだ。「神の名は無駄に取り上げられる」、文字通り「偽って」、キリストの義なしに、あるいはキリストの義の後にそれを唱える者たちによって

。失いました。このようにして彼らは、神に属するという主張がイエス・キリストによって嘘であることが黙示録3章9節で明らかにされたユダヤ人が犯した罪を改めて主張することになる。」

1843年には、カトリックの後継者であるプロテスタントも同様でした。しかし、第三の戒めの前に、第二の後半では、神が二つの主要な対立陣営に下す裁きが明らかにされています。ローマ・カトリックのプロテスタントの相続人たちに対して、神はこう言われます。「私は嫉妬深い神であり、私を憎む者たちの子供たちに対する父親の咎を、三世代、四世代に至るまで罰するのです。」

」彼にとって残念なことに、1994年に「嘔吐」した公式のアドベンティズムは彼らと運命を共にすることになる。しかし彼は、逆に、1843年から2030年まで聖なる安息日と預言の光を守るであろう聖徒たちにこうも言います。引用された「千」という数字は、永遠に入った選ばれた勝利者の報酬となる黙示録 20 章の 7
千年紀の「千年」を微妙に思い出させます。別の教訓が生まれます。イエス・キリストの聖霊の助けを奪われ、その結果、1843年と1994年に続けて神によって解放されたプロテスタントとアドベンチストは、表2の裏に書かれている最後の6つの戒めを守ることができなくなります。

7日目の神聖な休息に捧げられます。一方、この安息を守る人々は、隣人に対する人間の義務に関するこれらの戒めに従うためにイエス・キリストの助けを得るでしょう。モーセへの律法の表の引き渡しにまで遡る神の働きは、2018年の終わりの時に、予想外であると同時に驚くべき意味、役割、用途を帯びるようになります。そして、安息日の回復のメッセージは、それによって全能の神イエス・キリストによって強められ、確認されるのです。

ここに十戒が現れる形があります。

表 1 – 表面: 処方箋

神はご自身を現します

「わたしはあなたの神ヤハウェであり、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出した者である。」

(罪から救い出され、イエス・キリストによって流された贖いの血によって救われたすべての選ばれた者が含まれます。束縛の家は罪です。悪魔の模倣の果実です)。

第 1 戒め: カトリックでは 538 年以降・プロテスタントでは 1843 年以降、アドベンチストでは 1994 年以降)。

「私の前に他に神はいない。」

第 2 戒め:^{第 1 部} 538 年以降のカトリックの罪。

「自分のために、上には天にあり、下には地にあり、下には水の中にあるものを、どんな彫刻像や表現でも作ってはなりません。彼らにひれ伏したり、仕えたりしてはいけません。」。

表 1 – 戻る: 結果

第二戒: ^{第二部}

「.....というのは、わたし、あなたの神、主は嫉妬深い神であり、わたしを憎む者たちの三代、四代に至るまで、父親の咎を子に罰するからです (カトリック教徒は538年から、プロテスタントは1843年から、アドベンチストは1994年から)

) そして私を愛し、私の戒めを守る人々に千世代にわたって慈悲を与えてくださいます。

(セブンスデー・アドベンチスト、1843年以降、最新のものは1994年以降)

第 3 戒め: カトリック教徒は 538 年から、プロテスタントは 1843 年から、アドベンチストは 1994 年から違反している)。

「あなたの神、主の御名を偽ってはなりません。なぜなら、主は自分の名前を偽る者を罰せずにはおかないからである。」

表 2 – 表面: 処方箋

第 4 の戒め: 321

年以降のキリスト教議会による違反により、ダニエル 8:13

の「壊滅的な罪」となっています 彼は538年以来カトリックの信仰に違反し、1843年以来プロテスタントの信仰に違反しています。しかし、1843年と1873年以来セブンスデー・アドベンチストの信仰によって名誉を与えられています。

「安息日を聖く保つために、安息日を忘れないでください。

6日間働いて、すべての仕事をやり遂げてください。しかし、七日目はあなたの神、主の安息日である。あなたも、あなたの息子も、あなたの娘も

、あなたの男も、あなたの召使も、あなたの家畜も、あなたの戸口にいる見知らぬ人も、仕事をしてはならない。というのは、主は六日間で天、地、海とそこにあるすべてのものを造り、七日目に休まれたからである。それゆえ、主は安息日を祝福し、神聖なものとした。 》

表 2: 逆: 結果: これらの最後の 6 つの戒めは、321年以來キリスト教の信仰によって違反されてきました。

538年以來のカトリック信仰による。

1843年以來プロテスタント信仰によって、そして1994年に「吐き出された」アドベンチスト信仰によって。しかし、彼らは1843年と1873年以來、イエス・キリストの聖霊によって祝福されたセブンスデー・アドベンチスト信仰において尊重されています。 1994 年から 2030年までの「最後のもの」。

第五戒-

「あなたの父と母を敬え。そうすればあなたの神、主があなたに与えてくださる地でああなたの日々が長く続くであろう。」 》

第六戒-

「殺してはならない。殺人を犯さないでください。」
(極悪犯罪による殺人、または偽りの宗教の名による)

第七戒-

「姦淫をしてはいけません。」 》

第八戒-

「盗まないでください。」 》

第九戒-

「あなたの隣人に対して偽りの証言をしてはいけません。」 》

第十戒-

「隣人の家を欲しがってはいけません。隣人の妻、下男、女中、牛、ロバ、その他隣人のものを欲しがってはいけません。」 》

この崇高かつ極めて重要な括弧をここで閉じます。

7節: 「最初の生き物はライオンに似ており、第二の生き物は子牛に似ており、第三の生き物は人の顔をしており、第四の生き物は空を飛ぶ鷲に似ています。」

すぐに言うておきますが、これらは単なる記号です。同じメッセージがエゼキエル人への手紙 1:6
で表現されていますが、説明が異なります。 4
匹の同じ動物がいて、それぞれ 4
つの異なる顔を持っています。ここにはまだ 4
匹の動物がいますが、それぞれの顔は 1 つだけで、4
匹の動物で異なります。したがって、これらの怪物は現実のものではありません

ませんが、その象徴的なメッセージは崇高です。それらのそれぞれは、私たちが見てきたように、神ご自身とその多次元の普遍的被造物に関係する永遠の普遍的な生命の基準を示しています。神聖な完全性、つまり宇宙生命の 4 つの基準を備えて受肉したのはイエス・キリストであり、士師記 14:18

によれば、イエス・キリストの中に王族とライオンの力が見出されます。子牛への犠牲と奉仕の精神。人間の神の像。そして空飛ぶワシの天の最高高度の支配。これら 4 つの基準は、宇宙の永遠の天上の生命全体にわたって見られます。それらは、反逆的な精神によって戦われた神聖なプロジェクトの成功を説明する規範を構成します。そしてイエスは、地上で宣教を続けている間、使徒と弟子たちに完璧なモデルを示しました。弟子たちの足を洗い、その後、自分の体を磔刑の拷問にかけ、彼らの代わりに「子牛」のように、選ばれた者全員の罪を償ったのです。また、誰もが自分自身を吟味して、永遠の命のこの規範を放棄することが自分の性質、願望、願望に合っているかどうかを知りましょう。これは、救いの申し出を把握するか拒否するか基準です。

8節：「

4つの生き物にはそれぞれ6つの翼があり、周りと内側には目がいっぱいあります。彼らは昼も夜も「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、全能の神、主はかつて今も、そして来られる方です」と言い続けるのです。」

天の裁きを背景に、この場面は、神に忠実であり続ける存在によって天と地で永続的に適用される原則を示しています。

他の世界の生き物の天体は、地球次元の法則の影響を受けないため、翼を動かす必要がありません。しかし、聖霊は人間が理解できる地上の象徴を採用します。それらに「

6つの翼」があると考え、彼は私たちに、天のキャラクターと天使の数字となる6という数字の象徴的な価値を明らかにしています。それは罪のないまま残っている世界と、反逆の天使であるサタンが最初に創造された天使たちに関するものです。神は個人的な王室の「印章」として「7」という数字をご自身に割り当てたので、6という数字は彼の人格の「印章」、あるいは悪魔の場合は「印」と考えることができますが、これは共通しています。

6番は、世界は純粋なままで、善も悪も神によって創造されたすべての天使たちです。天使の下には数字が「5」となる男性がいます。これは彼の五感、つまり手の5本の指と足の5本の指によって正当化されます。以下は、北、南、東、西の 4 つの基本点によって指定される普遍的なキャラクターの数字 4 です。その下に完全を表す 3 が続き、次に不完全を表す 2、そして統一または完全な結合を表す 1 が続きます。 4 つの生き物の目は「周囲と内側」、さらには「前と後ろ」にあります。神

霊がその全体を探求するこの天上の多次元宇宙生命の視線から逃れることはできません。なぜなら、その起源は神にあるからです。この教えが役立つのは、今日の地球では、罪と罪人の邪悪さのせいで、人はそれらを「自分の中に」留めておくことで、自分の秘密の考えや邪悪なやり方を他の人から隠すことができるからです。天国の生活ではそのようなことは不可能です。黙示録 12 章 9

節によると、イエスが罪と死に対して勝利を収めた後、悪が悪魔とその邪悪な天使たちとともに地上に投げ落とされたため、天上の命は水晶のように透明です。神の神聖さの宣言は、これらの純粋な世界の住民によって、その完全性（3回：聖なる）で達成されます。しかし、この宣言は言葉によって行われるのではありません。それは、彼らの個人的および集団的な神聖さの完成であり、恒久的な作品において、彼らを創造した神の神聖さの完璧さを宣言するものなのです。神は黙示録 1 章 8 節で引用されている形でご自身の性質と名前を明らかにされます。「わたしはアルファでありオメガである、と主なる神は言われる、今も昔も、そしてこれからも全能者である。」

「今、かつて、そしてこれから来る」という表現は、創造主である神の永遠の性質を完全に定義しています。彼が自ら名乗った「ヤハウエ」という名前を彼を呼ぶことを拒否し、人々は彼を「主」と呼びます。神に名前が必要なかったのは事実です。なぜなら、神は唯一無二であり、神の競争相手がいないからです。存在しない他の神と区別するために名前を必要としません。それにもかかわらず、神はご自分を愛し、愛してくださったモーセの願いに応えることに同意されました。そこで彼は自分自身に「YaHWéH」という名前を付けました。これは、ヘブライ語の不完全形の三人称単数形で活用された動詞「である」という意味です。この「不完全な」時間は、時間の経過に伴う達成、したがって私たちの未来よりも大きな時間を指定しており、「今、かつて、そしてこれからなる」という形は、このヘブライ語の不完全の意味を完全に翻訳しています。したがって、「今いる者、かつていた者、そしてこれから来る者」という式は、神がヘブライ語の名前「YaHWéH」を西洋の言語やヘブライ語以外の言語に適応させなければならないときに、それを翻訳する際の神による方法です。

「そしてどれが来るか」の部分は、1843 年以來ダニエル 8:14 の布告によって神の計画の中で確立された、キリスト教信仰の最後のアドベンチスト段階を示しています。したがって、三重の聖性の宣言は、選出されたアドベンチストの肉体の中にあります。神の願いは達成されました。イエス・キリストの神性についてはしばしば議論がありますが、議論の余地はありません。聖書はこれについてヘブライ 1:8 で次のように述べています。あなたの統治の笏は公平の笏です。

」。そして、イエスに父を見せてほしいと頼むフィリポに、イエスはこう答えます。私を見た者は父を見たのです。

「父を見せてください」とは何と言いますか？（ヨハネ 14:9）」

9-10-

11節：「生者が王座に座っておられる方、永遠に生きておられる方に栄光と名誉と感謝を捧げるとき、二十四人の長老たちは王座に座っておられる方の前にひれ伏して礼拝します。そして、永遠に生きておられる方の前で礼拝し、彼らは王座の前に冠を投げて、こう言いました。「私たちの主、私たちの神よ、あなたは栄光と名誉と力を受けるのにふさわしい方です。なぜなら、あなたは万物を創造したからであり、それらが存在し創造されたのもあなたの意志によるのです。」

第4章は創造主なる神の栄光の場面で終わります。この場面は、黙示録 14 章 7 節の最初の天使のメッセージで表現された、「神を畏れ、神に栄光を帰せ...」という神の要求が、1843

年以降に選ばれた最後に選ばれた者たちに聞き届けられ、よく理解されたことを示しています。しかし何よりも、イエス・キリストの栄光のうちに再臨された時に生き続けた選ばれた人々によって。なぜなら、黙示録の黙示録は、2018

年の春以来、神が選ばれた時に準備され、完全に照らされたのは彼らのためだけだからです。このようにして救われた人々は、崇拝と賛美の中で、イエス・キリストに対する感謝の気持ちをすべて表現します。全能者は彼らを罪と死、つまり彼の報酬から救うために彼らを訪れました。不信仰な人類は、使徒トマスのように目に見えるものだけを信じます。そして神は目に見えないので、神の意志に従って操るおもちゃにしているだけの極度の弱さを無視することを非難されています。彼女には少なくとも、神を知らなかったという言い訳はあるが、それは彼女を正当化するものではないが、サタンにはその言い訳がない。神を知っているのでサタンは神との闘争に参加することを選んだのだ。それはほとんど信じられませんが、真実であり、彼に従った邪悪な天使たちにも関係しています。逆説的ですが、自由選択がもたらす複数の異なった、さらには相反する成果は、神が天上と地上の被造物に与えた真正かつ完全な自由を証明しています。

黙示録 5: 人の子

群衆にイエスを差し出したとき、ピラトは「見よ、その人だ」と言った。

「人間」が自分の心と欲望に従って現れることができるように、神ご自身が来て肉の姿をとらなければなりません。神に対する不従順の罪により、最初の二人の人間は死を迎えました。彼らの新たな恥ずべき状態のしるしとして、神は彼らに肉体的な裸を発見させましたが、それは彼らの内なる霊的な裸の外面的なしるしにすぎませんでした。この初めから、彼らの救いの最初の発表は、彼らに動物の皮で作られた衣服を与えることによって行われました。このようにして人類史上最初に殺された動物は、その象徴性から若い雄羊か子羊であったと考えることができます。

4,000年後、世の罪を取り除く神の子羊は、人類の中から選ばれた人々を贖うために、法的に完全な命を差し出すためにやって来ました。したがって、神によって純粋な恵みによって提供されたこの救いは、イエスの死によって完全に成り立っており、イエスは選ばれた人々はその完全な正義の恩恵を受けることを可能にします。そして同時に、彼の死は、彼が自発的にその責任を負った彼らの罪を償うものである。それ以来、イエス・キリストは地球全体で罪人を救うことができる唯一の名前となり、彼の救いはアダムとイブ以来適用されています。

「人間」の人物像の下に置かれており、彼に捧げられています。イエスは、償いの死を通して選民を救うだけでなく、地上の人生の旅全体を通して彼らを守ることによって彼らを救います。そしてこの目的のために、悪魔が彼らの前に立ちはだかる霊的な危険について警告しているのです。彼の手法は変わっていません。使徒の時代と同じように、イエスはたとえ話で彼らに話します。そのため、世界は聞いていますが、理解していません。しかし、使徒と同様に彼から直接説明を受ける彼の選挙で選ばれた役人には当てはまりません。彼の啓示「黙示録」は、この未翻訳のギリシャ語名で残されており、世界が理解してはいけないこの巨大な寓話です。しかし、神に選ばれた者たちにとって、この預言はまさに神の「啓示」なのです。

1節：「そのとき私は、玉座に座る彼の右手に、内と外に書かれ、七つの封印が施された本があるのを見ました。」

玉座には神が立っており、右手には神の祝福の下に「内と外」に書かれた本があります。

「内」に書かれているのは、神に選ばれた者たちに向けて残された、解読されたメッセージであり、神の敵である世界中の人々によって未だに閉ざされ、誤解されている。

「外側」に書かれているのは暗号化されたテキストであり、目に見えますが、多くの人間には理解できません。黙示録には「七つの封印」が施されています。この明確化の中で、神は「第七の封印」を解くことだけが完全な封印を可能にする、と私たちに告げています。封印されたシールが残っている限り、本を開くことはできません。したがって、本の冒頭全体は、

「第七の封印」というテーマに対して神が定めた時間に依存することになります。それはApo.7で「生ける神の印章」というタイトルで言及され、そこでは7日目の残りの聖安息日が指定され、その修復は1843年の日付に付けられることになり、したがってそれはまた、1843年の日付となる。

「第七の封印」の開放は、この本の教育学に「7つのラッパ」のテーマをもたらします。これは、選ばれた私たちにとって非常に重要です。

2節「そして私は、力強い天使が大声で叫んでいるのを見た、『誰がその本を開いてその封印を解くのにふさわしいだろうか?』」

このシーンは予言のモンタージュの括弧部分です。前の第4章の文脈では、黙示録が開かれるのは天国ではありません。選ばれた人々は悪魔の畏にさらされている間、イエス・キリストの再臨の前にそれを必要としています。力は神の陣営にあり、強力な天使はヤハウエの天使であり、ミカエルという天使の姿をした神です。封印された本は、その封印を解いて開くのに非常に高い威厳を必要とするため、非常に重要で神聖なものです。

3節：「そして、天にも地にも地にも誰もその巻物を開くことも見ることもできませんでした。」

神ご自身によって書かれたこの本は、神の天上の生き物や地上の生き物のいずれも開くことができません。

4節：「そして、その本を開いたり、それを見たりするに値する人が誰もいなかったので、私は大泣きしました。」

ジョンは私たちと同じように地上の生き物であり、彼の涙は悪魔が仕掛けた畏に直面した人類の失望を表しています。彼は私たちに、「啓示がなければ誰が救われるだろうか」と言っているようです。「」。したがって、それはその内容に対する無知の非常に悲劇的な程度と、その致命的な結果である二重の死を明らかにしています。

5節：「すると、老人の一人が私に言った、「泣くな。泣いてはいけない」。見よ、ダビデの根であるユダ族のライオンが、巻物とその七つの封印を解くために勝利した。」

イエスによって地上から救い出された「老人」たちは、すべての生き物の上にイエス・キリストの名を高めるのに適した立場にあります。彼らは、イエスご自身がマタイ 28:18で父と天の存在たちから受けたと宣言された主権をイエスの内に認めています。神がヤコブに靈感を与えたのは、イエスにおける受肉をターゲットにすることでした。ヤコブは息子たちについて預言し、ユダについて次のように言いました。「ユダは若いライオンだ。大虐殺から戻ってきました、息子よ！彼は膝を曲げ、ライオンのように横たわり、雌ライオンのように、誰が彼を立ち上がらせるでしょうか？シロが来て民が彼に従うまで、王笏はユダから離れず、王の杖もその足の間から離れてはならない。彼はロバをブドウの木に結び、ロバの子を最高のブドウの木に結びます。彼は

自分の衣服をワインで洗い、マントをブドウの血で洗います。彼の目はぶどう酒で赤く、歯は乳で白い(創世記49:8~12)。」ブドウの血は、黙示録14章17節から20節で告げられる「収穫」のテーマとなり、イザヤ書63章でも預言されています。「ダビデの根」については、イザヤ書11章1節から5節に記されています。

「すると、エッサイの幹から枝が出て、根から新芽が生まれます。主の御霊が彼の上にとどまります。知恵と理解の御霊、助言と力の御霊、知識と主への畏れの御霊です。彼は主への畏れを息づくだろう。神は外見で判断したり、伝聞で判断したりしません。しかし、彼は貧しい人たちを正義によって裁き、地上の貧しい人たちを正義によって裁くでしょう。彼は言葉で鞭のように地を打ち、唇の息で悪人を殺すでしょう。義は彼のわき腹の帯となり、忠実はその腰の帯となる。」罪と死に対するイエスの勝利、つまり彼の給料は、イエスに黙示録を開く合法的で正当な権利を与え、その結果、イエスが選んだ者たちに警告を与え、悪魔が仕掛けた恐ろしい宗教の罠から守ることができるようにするためである。不信者を誘惑するため。したがって、この本はダニエル

8章14節の法令が発効するとき、つまり1843年の立春の日に完全に開かれることとなります。たとえその不完全な理解が2018年までの時間の経過とともに再検討を必要とするとしても。

6節：「そして、私は、玉座と四匹の生き物の真ん中に、そして長老たちの真ん中に、屠られたかのようにそこにいる小羊を見た。彼には7つの角と7つの目がありましたが、これは全地に遣わされた神の7つの霊です。」

「玉座の真ん中」にある子羊の存在に注目しなければなりません。なぜなら、彼は多様な形で聖化された神であり、唯一無二の創造主である神、大天使ミカエル、神の子羊イエス・キリスト、そして聖なる神であるからです。霊、または「全地に送り出された神の七つの霊」。彼の「7つの角」は彼の力の神聖化を象徴し、彼の「7つの目」は彼の生き物の思考と行動を深く精査する彼の視線の神聖化を象徴しています。

7節：「彼はやって来て、王座に座っていた彼の右手から巻物を取りました。」

この場面は、黙示録1章1節の言葉を表しています。「神がすぐに起こらなければならないことを奴隷たちに示すために与えられたイエス・キリストの啓示であり、神は天使を遣わして奴隷ヨハネにそれを知らせた。」このメッセージは、**黙示録**の内容は父なる神ご自身によって与えられたものであるため、その内容は無限であるということを私たちに伝えることを目的としています。そしてこれは、彼の「右手」によって示される彼の祝福のすべてを彼女に置いたことによるものです。

8節：「彼が巻物を手に取ると、四匹の生き物と二十四人の長老たちが小羊の前にひれ伏し、それぞれが豎琴と、聖徒たちの祈りである香の入った金の小瓶を持っていました。」

この聖句から、「聖徒たちの祈りである香料で満たされた金の杯」という象徴的な鍵を覚えておきましょう。忠実さによって選ばれた天上および地上のすべての生き物は、「子羊」イエス・キリストの前にひれ伏して彼を崇めます。

「ハーブ」は集団的な賛美と崇拜の普遍的な調和を象徴しています。

9節：「そして、彼らは新しい歌を歌い、こう言いました、「あなたは巻物を手に取り、その封印を解くのにふさわしい人です。」あなたは殺され、あなたの血であらゆる部族、言語、民族、国家の人々を神のために贖ったからです。」

この「新しい曲」は、罪からの解放と、反乱の扇動者の一時的な消滅を祝っています。なぜなら、彼らは最後の審判の後、永遠に消えるだけだからです。イエス・キリストによって救われた人々は、あらゆる出身、あらゆる肌の色、人種、「あらゆる部族、言語、民族、国家」から来ています。これは、使徒行伝第 4 章 11-12 節で次のように宣言されているとおり、この救いの計画がイエス・キリストの名によってのみ提案されているということを実証しています。

。それ以外のものには救いはありません。なぜなら、天の下で人間の間に与えられる名前は、それ以外に私たちが救われなければならない名前はないからです。

」。したがって、他のすべての宗教は非合法で極悪非道な幻想的な欺瞞です。偽りの宗教とは異なり、真のキリスト教の信仰は神によって論理的に一貫した方法で組織されています。神は誰にとっても見知らぬ人ではない、と書かれています。彼の要求は彼のすべての生き物に対して同じであり、彼が提供した救いには彼自身が支払う代償がありました。この救いのために苦しんだ彼は、殉教によって恩恵を受けるに値すると判断した人々だけを救います。

10節：「あなたは彼らを私たちの神のための王国および祭司とされました。そして彼らは地上を統治するでしょう。」

イエスが宣べ伝えた天国が形を成しました。「～する権利」を受け取る 裁判官」、黙示録 20:4 によれば、選ばれた人々は王と比較されます。古い契約の活動において、「祭司」は罪の代償として象徴的な動物の犠牲を捧げました。天の裁きの「千年」の間、選ばれた者たちはまた、自らの裁きによって、墮落した天上および地上のすべての生き物を一度に滅ぼす、偉大な普遍的犠牲の最後の犠牲者を準備するでしょう。

「第二の死の火の湖」の火が、審判の日に彼らを滅ぼすでしょう。この破壊の後になって初めて、神によって再生され、新しくなった地球が救い出された選民を受け入れることとなります。そのとき初めて、ヨハネの黙示

節にある王の中の王、主の中の主であるイエス・キリストによって、「彼らは地を統治する」のです。

11節：「私が見ていると、王座の周りの多くの天使、生き物、長老たちの声が聞こえました。その数は何千、何千もでした。」

この聖句は、地上の霊的な戦いを目撃する 3
つのグループの観客を団結させて私たちに示しています。御霊は今回、天使の数が「無数、無数、数千」という非常に多い特定のグループであることを明確に述べています。主の天使たちは現在、至近戦闘員であり、主の救い出された地上の選民に仕え、主の名において彼らを守り、守り、教えています。最前線で、これらの神の最初の証人は、地球上の生命の個人的および集団的な歴史を記録します。

12節：「彼らは大声で言った。『屠られた小羊は、力、富、知恵、強さ、名誉、栄光、賞賛を受けるにふさわしい者です。』」

天使たちは、地上で自らの神聖な力をすべて剥ぎ取り、罪を償うために自らの奉仕の終わりに自発的な犠牲として自らを捧げた完璧な人間となる指導者ミカエルの奉仕を支援しました。役人たち。恵みの提供の終わりに、選ばれた者たちは復活して約束された永遠に入り、天使たちはミカエルの持つすべての属性、すなわち「力、富、知恵、強さ、名誉、栄光」を神の聖なるキリストに回復させました。と褒めます。」

13節：「そして、天と地と地の下と海とそこにあるすべての生き物が、彼らが言うのを聞きました。『王座に座っておられる方と小羊に、賞賛、名誉、栄光、強さを永遠に！』」

神の被造物は一致しています。彼らは皆、イエス・キリストにおける彼の人格の賜物によって示された彼の愛の実証を愛していました。神が計画したプロジェクトは輝かしい成功を収めました。彼の愛する存在の選択は完了しました。この節は、黙示録 14 章 7
節の最初の天使のメッセージの形をとっています。そして天と地と海と水の泉を造られた方の前にひれ伏しなさい。」 1843

年以來行われた最後の選択は、この聖句の理解に基づいています。そして選ばれた人々はこれを聞いて、321年3月7日以來放棄されるまでイエスの使徒や弟子たちによって実践されてきた7日目の安息日の習慣をキリスト教の信仰の中で復活させることで応えました。創造主である神は、次の第4の戒めを尊重することで尊敬されました。彼の心に近い。その結果、ヨハネのすべての被造物が、黙示録 14 章 7
節の最初の天使のメッセージに従ってこう言うという天の栄光の場面が生まれます。 、栄光、そして強さを永遠に！ 」。この言葉は、前の 13
節で天使たちが引用した言葉を逆に繰り返していることに注意してください。イエスは復活して以来、日の栄えの生活、つまり神聖な「力、富、知恵」を取り戻されました。地上では、彼の最後の敵は、創造主なる神として彼に与えられるべき「賞賛、名誉、栄光、強さ」を彼に拒否しました。

「自分の力」を求めて、彼は最終的に彼ら全員を打ち負かし、足元で彼らを粉砕しました。また、愛と感謝に満たされて、神の神聖で純粋な生き物たちは共に、正当に彼の臣民を栄光を取り戻します。

14節：「すると、四匹の生き物は言いました、アーメン！」すると老人たちは前に出てきて頭を下げた。」

純粋な世界の住民は、この償還を承認し、こう言います。それは本当です

！

»

そして、昇華された愛によって救われた地上の選ばれた人々は、イエス・キリストに受肉するために来た全能の創造主である神の前にひれ伏します

。

黙示録6: 役者、天罰 そして西暦の時代の痕跡

聖書第 5 章で与えられた教訓を思い出します。本は「第 7 の封印」が解除された場合にのみ開くことができます。この機会を作るためには、キリストに選ばれた者が、7日目の安息日の実施を絶対に承認しなければなりません。そしてこの霊的な選択によって、彼は自分を承認してくださる神から知恵と霊的かつ預言的な識別力を受け取ることができるのです。したがって、本文自体がそれを特定していなくても、選ばれた者は、黙示録7:2

で引用されている「神の封印」を、依然として黙示録を閉じる「第 7 の封印」と識別し、これらを結びつけることになるでしょう。

2つの「封印」、7日目に神によって安息として聖別されました。信仰は光と闇を分けます。したがって、神聖化された安息日を認めない人にとって、預言は閉じられた、密封された本のままになるでしょう。彼は、特定の明白な主題についてはよく認識するかもしれないが、生と死を分ける重大かつ痛ましい啓示については理解できないだろう。「第 7

の封印」の重要性は黙示録 8:1-2 に現れ、聖霊が「7 つのラッパ」のテーマを開く役割をそれに与えます。さて、まさにこれらの「

7つのラッパ」のメッセージの中で、神の計画が明らかになります。なぜなら、黙示録 8 章と 9 章のトランペットのテーマは、並行して、黙示録 2 章と

3 章の「手紙」の主題で預言された真理を完成させるからです。この神の戦略は、ダニエルに与えられた預言の啓示を組み立てるために彼が用いたものと同じです。神聖な安息日の実践を私が受け入れ、主権者としての選択によってこの職に就く資格を与えられたので、御霊は「第七の封印」を解いて私に黙示録を開いてくださいました。今度はその「アザラシ」の正体を探ってみましょう。

1節「私が見ていると、小羊が七つの封印のうちの一つを開いたとき、四つの生き物のうちの一つが雷の声のように「来なさい」と言っているのが聞こえました。」

士師記 14:18 によると、この最初の「生き物」は黙示録 4:7 の「ライオン」の王権と強さを示しています。この雷の声は神聖なものであり、黙示録

4:5 にある神の御座から来ます。したがって、語られるのは全能の神です。それぞれの「封印」を開けることは、ビジョンのメッセージを見て理解するようにという神からの私への招きです。イエスはすでにフィリポに、自分に従うよう励ますために「来て見なさい」と言われました。

2節：「見ると、見よ、白い馬が現れた。それに乗った人は弓を持っていました。彼に王冠が与えられ、彼は勝利を収めて征服するために出発した。」

白はその完全な純度を示します。ヤコブの手紙 3 章 3 節によれば、馬は馬が導き教える選ばれた民のイメージです。「馬の口にハミを入れて馬を従わせると、馬の体全体も支配することになります。」彼の「弓」は神の言葉の矢を象徴しています。彼の「王冠」は、彼が自発的に受け入れた殉教によって得られた「命の冠」です。彼の勝利は最初の対戦相手を作って以来、断固としていた。この描写が全能の神イエス・キリストの描写であることは疑いありません。彼はすでにゴルゴダで悪魔と罪と死を打ち負かしているのです。彼の最終的な勝利は確実である。ゼカリヤ書

節は、これらのイメージを裏付けるもので、次のように述べています。というのは、万軍の主はご自分の群れであるユダの家を訪れ、彼らを戦いの栄光の馬とされるからである。彼からは角が、彼からは釘が、彼からは**戦争の弓が生まれる**だろう。彼からすべての指導者が集まるだろう。 »

神聖なキリストの勝利は、世界の創造から私たちの週の「**7日目の聖化**」によって宣言されました。安息日は、黙示録 20:4-6-7 で「千年」と呼ばれる「第

7千年」の残りを預言しており、イエスはその勝利を通して、その中に選ばれた者たちを永遠に連れて行くこととなります。地上世界の創設以来の安息日の確立は、「勝利者として始まった」というこの表現を裏付けています。安息日は、罪と悪魔に対する神と人間の勝利を預言的に告げるしるしであり、そのため、神がご自分のものを「聖化」し、悪魔を奪うという計画全体の基礎を安息日に基づいています。

3節：「**彼が第二の封印を開いたとき、私は第二の生き物が『来なさい』**と言うのを聞いた。」

「**第二の生き物**」とは、黙示録 4:7 の犠牲の「子牛」を指します。犠牲の精神がイエス・キリストとその真の弟子たちに活気を与え、イエスはこう宣言されました。

4節「すると、また赤い馬が出てきた。彼に乗った者は地球から平和を取り戻す力を受け取り、人々が互いの喉を殺し合うようになった。そして大きな剣が彼に与えられました。」

「赤」または「燃えるような赤」は、黙示録9:11の「アバドン・アポリオン」のイメージで、サタンである主な破壊者によって奨励された罪を示しています。

「火」は破壊の手段であり象徴です。彼はまた、悪い墮天使と誘惑され操作された地上の力で構成される邪悪な陣営を率いています。彼は神から「人間が殺し合うことができるように地球から平和を取り戻す力」を「受け取る」生き物にすぎません。この行為は、黙示録 18 章 24 節で「大いなる売春婦バビロン」であるローマに帰せられるでしょう。「そして、預言者と聖徒たち、そして地上で**殺されたすべての人々の血が彼女の中に見つかったからです**」。したがって、忠実なキリスト教徒の「破壊者」も、その犠牲者と同様に特定されます。彼が受け取る「剣」は、エゼ書14:21-22 で引用されている4

つの恐ろしい**神罰**の最初のものを示しています。

、野獣や疫病、人間や獣を滅ぼすために、それでも逃げ出す残りの者、そこから出てくる者、息子や娘がいるでしょう...」。

5節：「**彼が第三の封印を解いたとき、私は第三の生き物が「来なさい」**と言うのを聞きました。見ると、そこには黒い馬が現れました。それに乗った者は手に秤を持っていた。」

「**第三の生き物**」とは、黙示録 4 章 7 節の神の似姿に造られた「人間」です。この人物は架空の人物ですが、エ

ゼキエル書 14:20 によれば、彼は罪に対する 2
番目の神の罰を構成します。男の食生活に反して、今回は飢餓についてで
す。私たちの時代には、文字通りにも精神的にもそれが課せられるでしょ
う。どちらの適用においても、それは致命的な結果をもたらしますが、神
の光の剥奪という精神的な意味において、その直接的な結果は、最後の審
判において墮落者に与えられる「第二の死」の死です。この三番目の騎士
のメッセージは次のように要約されます。人間はもはや神の似姿ではなく
、動物の姿になっているので、私は彼から生きるもの、つまり肉的な栄養
と霊的な栄養を奪います。天秤は正義の象徴であり、ここではキリスト教
徒の信仰の業を裁く神の象徴です。

6節「すると、四匹の生き物の真ん中で、『小麦一セアで一デナリ
オン、大麦三セアで一デナリオン』と言う声が聞こえました。ただし、油
とワインには害を与えません。」

この声は、偽信者たちの不貞に軽蔑され、挫折したキリストの声で
す。同じ価格の場合、小麦の量は大麦よりも少ないことがわかります。こ
の大麦の惜しめない捧げ物の背後には、非常に高い霊的レベルのメッセー
ジが隠されています。実際、民数記

5章15節で律法は、夫が妻に対して抱く嫉妬の問題を解決するために「大
麦」の捧げ物を提示しています。したがって、理解したい場合は、12
節から 31

節に記載されているこの手順を詳しく読んでください。その観点から、私
は、議会のイエス・キリストにおける花婿である神ご自身が、その花嫁と
してここに「嫉妬の疑い」を理由に告訴状を提出していると理解しました
。このことは、黙示録 8:11 の「第 3
のラッパ」で引用されている「苦い水」の言及によって確認されます。ナ
ンバー 5

の手順では、女性は無実であれば何の影響もなく粉っぽい水を飲むことにな
っていましたが、有罪であれば苦々しくなり、呪いに見舞われることにな
ります。妻の姦淫は黙示録 2 章 12 節
(ペルガモンという名前で隠蔽されている:違反した結婚) と黙示録 2 章 22
節で非難されており、第3 章 3
のラッパの間に確立されたつながりによって再び確認されることになりま
す。
すでにダニエルでは、同じアプローチにより、ダニエル

⁸は「仮説」として提示されたダニエル 7
の「小さな角」のローマ人の正体を「確認」しました。ダニエル 2 章、7
章、および 8
章のこの類似点は、私がローマ人であることを証明することを可能にした
新規性でした。これはアドベンチズムが存在して以来初めてのことです。
ここ「黙示録」でも、物事は同じように見えます。私は、手紙、印章、ラ
ッパという 3
つの主要なテーマについて、平行したキリスト教時代の概要を示します。

そして黙示録では「ラッパ」のテーマがダニエル書のダニエル8章と同じ役割を果たしています。これら
2
つの要素は証拠を提供し、それがなければ預言はダニエルの研究で私が「仮説」と呼んだ「疑惑」をもたらすだけです。したがって、民数記 5 章 14 節で明らかにされている「嫉妬の疑い」という言葉は、黙示録 1 章から
6
章までの神と集会に当てはまります。そして、黙示録7章のテーマである7日目の安息日と「第7の封印」の特定によって可能となった本が開くと、議会の「姦淫の疑い」は「トランペット」のテーマで「確認」されることになる。それに続く10章から22章。このように、聖霊は第
7
章で、立ち入りの許可を取得しなければならない税関の役割を与えています。黙示録の場合、その権威は全能の神であり聖霊であるイエス・キリストご自身です。アポによれば、アクセスのドアは彼に開かれており、その人は「私の声を聞いて」
、私が彼のドア（心のドア）をノックすると私に開いてくれる、そして私と一緒に食事をする人です」とアポ氏は言う。3:20。

「ワインと油」は、それぞれイエス・キリストによって流された血と神の御霊の象徴です。さらに、両方とも傷を治すために使用されます。

「彼らに害を与えてはならない」という命令は、神が罰を与えることを意味しますが、それでも神は憐れみを交えて罰を与えます。これは、黙示録 16:1
と
14:10
によれば、地上の終わりの日の彼の「怒り」の「最後の七つの災い」には当てはまりません。

7節「イエスが第四の封印を解いたとき、私は第四の生き物がこう言う声を聞いた、『来なさい。』」

「第四の生命体」は最高天上の「鷲」です。彼は神の第四の罰である死の出現を告げます。

8節「私が見ると、見よ、青ざめた馬が現れた。これに乗った者は死と呼ばれ、ハデスも同行した。彼らには、剣、飢餓、死、そして地の野獣によって人類を滅ぼすために、地球の四分の一にわたって力が与えられた。」

この発表は確認されており、それは確かに「死」であるが、状況的な罰によって課せられた死という意味においてである。死は原罪以来全人類に影響を及ぼしますが、ここでは「地球の4分の1」だけが死によって襲われ、伝染病による「剣、飢餓、死」、そして動物と人間の両方の「野獣」に襲われます。この「地球の四分の一」は、不信仰なキリスト教徒のヨーロッパと、16^{世紀}頃にそこから台頭するであろう強大な国々、つまりアメリカの2大陸とオーストラリアをターゲットにしています。

9節：「彼が第五の封印を開いたとき、私は祭壇の下に、神の言葉と彼らが立てた証しのために殺された人々の魂を見た。」

彼らは、偽りのキリスト教信仰の名の下に犯された「獸的」行為の犠牲者です。それは、すでに黙示録 2 章 20 節で象徴されているローマ教皇のカトリック政権によって教えられており、聖霊が召使いたち、または文字通り「彼女の奴隷」を教えるという行為を聖霊によって課せられた女性イゼベルによって教えられています。それらは「下」に配置されます

したがって、キリストの十字架の保護の下にあり、キリストの「永遠の正義」の恩恵を受けることができます（ダニエル書9:24参照）。黙示録 13 章 10 節に示されているように、選ばれた人々は殉教者であり、決して死刑執行人や人間殺害者ではありません。この聖句に関係する選ばれた人々は、イエスに認められ、殉教者として死に至るまでイエスに倣いました。「神の言葉と、彼らが与えた証しのために」。なぜなら、真の信仰は活動的であり、決して単純な誤って安心させるラベルではないからです。彼らの「証し」とは、まさに神の栄光のために命を捨てることにありました。

10節：「彼らは大声で叫んで言った、「聖なる真の主よ、地上に住む者たちに対する私たちの血の復讐と裁きをいつまで遅らせるのですか？」」

このイメージに騙されないでください。創世記 4 章 10 節によると、弟のカインによって殺されたアベルの血のように、神の耳に復讐を叫ぶのは地上に流された彼らの血だけだからです。あなたは何をしましたか？あなたの兄弟の血の声が大地から私に叫びます。

」。死者の本当の状態は伝道 9:5-6-10 に明らかにされています。エノク、モーセ、エリヤ、そしてイエス・キリストの死の時に復活した聖徒たちを除けば、他の人々は「もはや太陽の下で行われるすべてのことに参加しません。なぜなら彼らの思考と記憶が消え去っているからです。」 「地獄には知恵も理解も知識もありません。彼らの記憶は忘れ去られているからだ。」これらは、死に関して神が靈感を与えた基準です。偽りの信者は、ギリシャの哲学者プラトンの異教から受け継いだ偽りの教義の犠牲者であり、プラトンの死についての意見は、真理の神に忠実なキリスト教信仰においては居場所がありません。プラトンに属するものをプラトンに返し、プラトンに属するものを神に返しませう。すべてについての真実です。そして論理的に考えませう。なぜなら、死は生の絶対的な対極であり、新しい存在形態ではないからです。

11節：「彼らにはそれぞれ白い衣が与えられました。そして彼らは、彼らと同じように死刑に処せられる仲間の使用人や兄弟たちの数が全員揃うまで、しばらく安静にしておくように言われた。

「白い衣」は、黙示録 1 章 13 節でイエスが最初に着た殉教者の純潔の象徴です。

「白いローブ」は、宗教迫害の時代における彼の正義のイメージです。殉教者の時代はイエスの時代から 1798 年まで続きます。黙示録 11 章 7

節によると、この期間の終わりには、1793
年のフランス革命とその恐怖の象徴である「深淵から甦る獣」が無神論者
と1794

年、王政とカトリック教皇庁によって組織された迫害に終止符が打たれ、
自らはアポ 13:1

で「海から現れる獣」とされています。革命による虐殺の後、キリスト教
世界では宗教的平和が確立されるでしょう。もう一度読むと、「そして、
彼らは、彼らと同じように死刑に処される仲間の召使や兄弟たちの数が全
員揃うまで、しばらくじっとしているように言われた。

」キリストにおける死者の残りは、彼の最後の栄光の帰還まで続きます。
この「第五の封印」のメッセージが「ティアティラ」時代のカトリック教
皇の異端審問によって迫害されたプロテスタントに宛てられたものである
と仮定すると、間もなく1789年から1789年までの間に起こるフランス革命
行動により、選挙で選ばれた人々を殺害する時代は終わることになる。
1798年、教皇制とフランス君主制の連合による攻撃的な力を破壊した。し
たがって、開かれる「第六の封印」は、黙示録 2 章 22 節と 7 章 14
節で「大患難」と呼ばれているこのフランス革命政権に関係するものにな
ります。プロテスタントの特徴である教義上の不完全さにおいて、プロテ
スタントの信仰もまた、無神論者の革命政権の不寛容の犠牲者となるでし
ょう。彼の行動によって、死刑に処せられるべき人々の数が達成されるだ
ろう。

12節：「彼が第六の封印を開いたとき、私は見ました。そして大地
震が起り、太陽は荒布のように黒くなり、月全体が血のようになりまし
た。

第 6

の封印」の時のしるしとして与えられた「地震」により、行動を^{1755年11月1}
日土曜日の午前10

時頃に行うことができます。その地理的中心は非常にカトリックの都市リ
スボンであり、そこには 120

のカトリック教会がありました。このように神は、この「地震」もまた霊
的イメージにおいて預言されたように、その怒りの対象を示しました。予
言された行動は、1789年にフランス国民が君主制に対して蜂起することで
達成されるだろう。神は彼女とその同盟者であるローマ・カトリック教皇
を有罪とし、二人とも1793年と1794年に死刑を宣告した。

「2つの革命的テロル」の日付。黙示録 11:13

では、フランスの革命活動が「地震」に例えられています。引用された行
動の日付を知ることができれば、預言はより正確になります。 1780 年 5
月 19

日に「...太陽が馬の毛の袋のように黒くなった」と、北米で経験されたこ
の現象は「暗い日」という名前が付けられました。この日は太陽の光が全
くなく、ここで「太陽」に象徴される神の書かれた言葉の光に反してフラ

ンス革命的無神論が実行した行動を預言するものでもあった。聖書はオー
ト・ダ・フェで焼かれました。

「月全体が血のようになった」この暗い一日の終わりに、分厚い雲が月を
はっきりと赤い色で現しました。この像を通して、神は1793年から1794年
にかけて教皇と王立の闇の陣営に残された運命を確認した。彼らの血は革
命的なギロチンの鋭い刃によって大量に流されることになる。

注: 黙示録 8:12 では、「太陽の 3 分の 1、月の 3 分の 1、星の 3
分の 1」を打ち鳴らすことによって、「第 4
のラッパ」のメッセージが革命家の犠牲者であるという事実を確認します
。彼らはイエス・キリストにおいて神に拒絶された真の選ばれし墮落者と
なります。これは、今見た「第 5
の封印」メッセージの意味も裏付けています。無神論の行為を通じて、忠
実な選ばれた人々の最後の殺害が達成されるでしょう。

13節「そして、強風に揺れるイチジクの木が緑のイチジクを投げ飛
ばすように、天の星が地に落ちた。」

この 3 番目の時代のしるしは、今度は天上で、1833 年 11 月 13
日に文字通り実現し、深夜から午前 5
時まで米国全土で見ることができました。しかし、前の兆候と同様に、そ
れは想像を絶する規模の精神的な出来事を予告していました。真夜中から
午前5時まで、空の広がり全体に傘の形で降ったこれらの星の数を誰が数
えたでしょうか？これは、発効したダニエル書第 8 章 14
節の法令の犠牲者となった 1843
年のプロテスタント信者の墮落について、神が私たちに与えてくださった
イメージです。 1828 年から 1873
年にかけて、人間を殺す獣の名前である「虎」川 (ダニエル 10:4)
の活動がダニエル 12:5 から 12
で確認されています。この節では「イチジクの木」のイメージが描かれて
います。ただし、この忠実さは、地上に投げられた「緑のイチジク」のイ
メージによって疑問視されています。同様に、プロテスタントの信仰は留
保と暫定的な条件付きで神に受け入れられましたが、ウィリアム・ミラー
の預言的なメッセージに対する軽蔑と安息日の復活の拒否により、1843年
にその崩壊をもたらしました。「イチジク」が残ったのはこの拒否によっ
てでした。

「緑」は、神の光を受け入れて熟すことを拒否すると、死んでしまいます
。彼女は、2030
年の栄光の帰還の時まで、主の恵みから落ちたこの状態に留まるでしょう
。しかし、最後の光を拒否することによって、1994
年以来、公式のアドベンティズムは「それも」となっていることに注意し
てください。二度死ぬ運命にある「緑のイチジク」。

14節: 「天は巻かれた巻物のように去った。そしてすべての山と島
はその場所から移されました。」

この地震は今回は世界共通です。その栄光の出現の時に、神は地球と、そこに含まれる人間と動物のすべてを揺るがすでしょう。黙示録

16:18

によると、この行為は「神の怒りによる最後の七つの災いのうちの七つ目」の時に起こります。黙示録 20:6

によれば、それは真に選ばれた者にとって、「最初の」復活の時、つまり「祝福された者」の復活の時となるでしょう。

15節：「地の王たち、偉い人たち、軍の指導者たち、金持ち、権力者、すべての奴隷と自由民は、洞窟や山の岩の中に隠れた。」

創造主である神が栄光と力のすべてを持って現れるとき、人間の力は立ち向かうことはできず、敵を神の義の怒りから守る避難所もありません。この聖句はそれを示しています。神の正義は人類のすべての有罪カテゴリーを恐怖に陥れるのです。

16節：「そして彼らは山や岩に向かって言った、「私たちの上に倒れ、王座に座っておられる方の顔と小羊の怒りから私たちを隠してください。」」

神の御座に座っているのは子羊自身ですが、この時、彼らの前に姿を現すのはもはや屠られた子羊ではなく、末日の敵を打ち砕くのは「王の中の王、主の中の主」です。

17節：「主の怒りの大いなる日が来たのに、誰が耐えられるだろうか。」

課題は確かに「生き残る」こと、つまり神の司法介入後に生き残ることです。

「生き残る」ことができるのは、黙示録13章15節で言及されている日曜日の布告の計画に従って死ぬ予定だった人々であり、それによると神の聖なる安息日の観察者は全滅することになっていました。地球。前の節で明らかになった、彼らを殺そうとした人々の恐怖が説明されています。そして、イエス・キリストの栄光の再臨の日に生き残ることができる人々が黙示録

7

章のテーマとなり、その中で神は彼らに関係するご自身の計画の一部を私たちに明らかにしてください。

黙示録 7: セブンスデー・アドベンチズム 神の封印が施された日：安息日

1節：「この後、私は4人の天使が地の四隅に立っているのを見た。彼らは地の四方の風を抑え、地にも海にも木にも風が吹かなくなりました。」

この「四人の天使」は、「地の四隅」に象徴される普遍的な活動に従事する神の天上の天使です。「4つの風」は普遍的な戦争、紛争を象徴しています。したがって、それらは「抑制」され、阻止され、ブロックされ、その結果、普遍的な宗教的平和がもたらされます。カトリックの象徴である「海」と宗教改革の象徴である「地」が調和しています。そしてこの平和は、個人としての人間のイメージである「木」にも関係しています。歴史は、この平和が 1793年から 1799年までの間、フランス国民の無神論によって押しつぶされた教皇権力の弱体化によって押しつけられたことを教えています。この日、教皇ピウス 6世は、私が生まれ住んでいるヴァランス・シュル・ローヌの城塞刑務所で拘留され、亡くなりました。この行為は黙示録 11:7の「深みから上る獣」によるものであると考えられています。黙示録 8:12では「第 4 のラッパ」とも呼ばれています。彼女の後、フランスでは、Apo.8:13 の「鷲」で象徴されるナポレオン 1世の帝国政権が、コンコルダートによって回復されたカトリック宗教に対する権威を維持することになります。

2節：「そして私は、別の天使が生ける神の印章を持って、昇る太陽に向かって昇っていくのを見た。彼は大地と海に害を与える使命を与えられた四人の天使たちに向かって大声で叫び、こう言いました。

「昇る太陽」とは、ルカ 1章78節で神がイエス・キリストにおける地上の群れを訪問することを指します。

「生ける神の印章」はイエス・キリストの天の陣営に現れます。天使は、自分の権威を裏付ける「大きな声」で、神から認可を受けた普遍的な悪魔のような天使の力に対し、「地球」と「海」に「危害を加える」ように、プロテスタントに「害を及ぼす」ように命令を出します。信仰とローマカトリック信仰へ。これらの精神的な解釈は、私たちの創造物の「地球、海、木々

」に関する文字通りの適用を妨げるものではありません。これは、黙示録 9:13 から 21 の「第 6 のラッパ」の時点で核兵器を使用した場合には避けるのが難しいでしょう。

3節：「私たちの神の僕たちの額に封印をするまでは、地も海も木も傷つけてはなりません。」

この詳細により、選ばれた人々の結び固めの活動の始まりを 1843 年の春から 1844 年の秋に置くことができます。最初のアドベンチストであるジョセフ・ベイツ大尉が次のような養子縁組によって結び固められたのは、1844 年 10 月 22

日以降でした。個人的には、7日目の安息日の休み。彼はすぐに、当時のアドベンチスト派の兄弟姉妹全員によって徐々に模倣されるようになりました。封印は 1844 年 10 月 22 日以降に始まり、黙示録 9:5-10 で預言されている「5 か月間」継続されました。エゼ書 4:5-6 の日年コードによると、「5 か月」または 150 実年です。この 150 年間は宗教的平和のために預言されていました。確立された平和は、今日、すべての西側諸国および可能な限りどこでも表明されている「セブンスデー・アドベンチスト」メッセージの宣言と普遍的な発展を促進しました。アドベンチストの使命は普遍的なものであるため、もっぱら神に依存しています。したがって、それが他のキリスト教の告白から受け取るものは何もなく、祝福されるためには、「聖書」の読み方の理解を与える天の頭長であるイエス・キリストから与えられる靈感のみに頼らなければなりません。聖書、黙示録 11:3

で神の「二人の証人」を表す神の書かれた言葉。1844 年に始まり、神によって保証された平和の時代は、黙示録 9 章の研究が示すように 1994 年の秋に終わります。

「神の封印」に関する重要な注意:安息日だけでは、「神の封印」としての役割を正当化するには十分ではありません。封印は、イエスが聖徒のために用意された業、つまり真理への愛と預言的真理、そして第一コリント 13 章に示されている実の証を伴っていることを意味します。これらの基準を満たさずに安息日を守る人の多くは、安息日を実践することによる死の脅威が現れると安息日を放棄するでしょう。安息日は相続されるものではなく、神が選ばれた者に、それが自分のものであるしるしとして与えるの

です。エゼ書

20:12-20

によれば、「わたしはまた、わたしと彼らの間のしるしとして、わたしの安息日を彼らに与えた。それは、わたしが彼らを聖化する主であることを彼らに知らせるためである.../...わたしの安息日を神聖なものにして、彼らが私があなたの神、主であることを知るための、私とあなたとの間のしるし。

」。今言われたことに矛盾することなく、むしろそれを確認するために、私たちはテモテ第二章 2 章 19 節で次のように読みます。彼に;そして、主の名を呼ぶ者は、不法行為から離れなさい。»

4節「そして私は、イスラエルの子らのすべての部族のうち、印を押された者の数を聞いた、十四万四千人であった。」

使徒パウロはローマ

11

章で、改宗した異教徒がユダヤ人が主張する族長アブラハムの根に接ぎ木されていることを、イメージを通して実証しました。彼のように、信仰によって救われたこれらの改宗した異教徒は、イスラエルの 12 部族の精神的な延長です。割礼をしるしとしていた肉のイスラエルは、救世主イエスを拒否したために墮落し、悪魔に引き渡されました。

321年3月7日以来背教に陥ったキリスト教信仰は、その日以来墮落した霊的イスラエルでもあります。ここで、神は私たちに、1843年以来、ご自身によって祝福された本物の霊的イスラエルを示してくださいました。それは、セブンスデー・アドベンチズムの普遍的な使命を担うものです。そしてすでに、引用された「

144,000

」という数字は説明に値します。アブラハムの子孫を「天の星」に喩えると、その数はあまりにも少なすぎるように思われるため、これを文字通りに受け取ることはできません。創造主である神にとって、数字は文字と同じくらい多くのことを物語ります。このとき、私たちは、この聖句の「数」という用語が数値的な量として解釈されるべきではなく、神が祝福し区別する（神聖化する）宗教的行動を指定する精神的な規範として解釈されるべきであることを理解する必要があります。したがって、「 144,000 」は次のように説明されます。144 = 12 x 12、12 = 7、神の数 + 5、人間の数

神と人間の同盟。この数字の立方体は完璧の象徴であり、その平方、つまり表面の象徴です。これらの比率は、霊的規範の黙示録

21:16

に記述されている新しいエルサレムの比率になります。次に続く「千」という言葉は、無数の数を象徴しています。実際、「

144,000人」という数字は、神と契約を結んだ完全に贖われた多数の人々を意味します。イスラエルの部族についてのこの言及は、私たちを驚かせるに値しません。なぜなら、神は人間との同盟の失敗が続いたにもかかわらず、ご自分の計画を放棄しなかったからです。エジプト脱出以来提示されたユダヤ人のモデルは、理由なくキリストにまで拡張されたわけではあ

りません。そして、神は、キリスト教の真理と、特に安息日の戒めを含む神のすべての戒めと、回復された道徳、健康、その他の儀式への敬意を通して、終わりの日の忠実な反抗的アドベンティズムの中に、イスラエルのモデルがその規範に適合していることを見いだされる。理想的。第4戒の本文の中で、神は安息日について選ばれた者たちに次のように述べていることを付け加えましょう。「あなたにはすべての仕事をするのに 6 日の時間が与えられています...しかし 7 日はあなたの神、ヤハウエの日です。」 24 時間の 1 日を 6 つ足すと 144 時間になることがわかります。したがって、証印を押された 144,000 人はこの神の儀式の忠実な観察者であると推測できます。彼らの生活は、世俗の仕事に認められた6日間のこの敬意によって中断されます。しかし、7日目に^{彼ら}はこの戒めの神聖な安息の目的を尊重します。この「アドベンチスト」イスラエルの霊的な性格は、続く5節から8節で明らかにされます。引用されているヘブライ人の族長の名前は、肉欲のイスラエルを構成した人々ではありません。神が選んだ人々は、自分たちの起源を正当化するという隠されたメッセージを伝えるためにそこにいるだけです。「7つの集会」の名前と同様、「12部族」の名前にも二重のメッセージが込められています。最も単純なものは翻訳によって明らかになります。しかし、最も豊かで最も複雑なのは、各母親が子供に名前を付けることを正当化するときに行う宣言に基づいています。

5節：「ユダの部族のうち、一万二千人が封印された。ルベン族のうち、一万二千人。ガド族のうちは一万二千人。」

封印された一万二千人」という数字は、安息日までに封印された神と同盟を結んだ多数の人々を意味します。

ユダ： 主に讚美あれ。創世記 29:35
の母の言葉：「私は主を讚美します」。

ルーベン： 息子を見てください。創世記 29:32
の母の言葉：「主は私の屈辱をご覧になりました」

ガド： 幸せ。創世記 30:11 の母の言葉：「何という幸福でしょう！」

6節：「アシェル族のうち、一万二千人。ナフタリ族の一萬二千人。マナセの部族のうちは一萬二千人。」

封印された一万二千人」という数字は、安息日までに封印された神と同盟を結んだ多数の人々を意味します。

アッシャー： 幸せです。創世記 30 章 13 節からの母の言葉です。」

ナフタリ： 苦闘中： 創世記 30:8 の母の言葉：「私は妹に対して神聖に格闘し、勝利しました。」

マナセ： 忘れること： 創世記 41:51 の父親のような言葉：「神は私にすべての悲しみを忘れさせてくださいました。」

7節：「シメオンの部族のうち、一万二千人。レビ族のうちは一
万二千人。イサカル族のうちは一萬二千人。」
各名前の「封印された一万二千人」という数字は、安息日までに封印され
た神と同盟を結んだ多数の人々を意味します。

シメオン： 創世記 29 章 33 節の母の言葉を聞いてください：
「主は私が愛されていないと聞いた」。

レヴィ： 添付： 創世記 29:34 の母の言葉：
「今度こそ、私の夫は私に執着するでしょう。」

イッサカル： 給与： 創世記 30:18 からの母の言葉：
「神は私に給与を与えてくださった」。

8節：「ゼブルン族のうち、一万二千人。ヨセフの部族のうちは一
万二千人。ベニヤミン族のうち、一万二千人が封印された。」

封印された一万二千人」という数字は、安息日までに封印された神
と同盟を結んだ多数の人々を意味します。

ゼブルン： 住居： 創世記 30:20 の母の言葉：
「今度は夫が私と一緒に住むことになる」。

ジョセフ：彼は削除（または追加）： 創世記 30:23-24 からの母の言葉：
「神は私の非難を取り除いてくださいました... / (...
主が私にもう一人息子を加えてくださいますように)」

ベンジャミン： 右の息子： 創世記 35:18 の母と父の言葉：
「そして、彼女は死にかけているので幽霊をあきらめようとしていたとき
、彼女は彼にベン・オニ（私の悲しみの子）という名前を与えましたが、
父親は彼をベンジャミン（右の息子）と呼びました。

これらの 12
の名前と母性と父性の言葉は、神に選ばれた最後のアドベンチスト集会が
生きた経験を表しています。黙示録 19:7
では、花婿キリストのために「花嫁が準備した」とあります。提示された
「ベンジャミン」という姓の下で、神は、反逆者たちによって死の脅威に
さらされた、選ばれた者の最後の状況を預言します。父であるイスラエル
によって強制された名前の変更は、選ばれた者に有利な神の介入を預言し
ています。彼の輝かしい復帰により状況は逆転する。死を迎えるはずだ
った人々は栄光を受けて天国に引き上げられ、そこで全能で栄光に満ちた創
造主であるイエス・キリストに加わります。

「右の子ら」という表現は、完全に預言的な意味を帯びています。右とは
、選ばれた者、つまり最後の霊的イスラエルと、その息子たち、つまりそ
れを構成する救われた選ばれた者でした。また、これらは主の右に置かれ
た羊です（マタイ25:33）。

9節：「この後、わたしが見ると、見よ、あらゆる国、部族、民族
、言語から来た、誰も数えることのできないほどの大群衆がいた。彼らは
白い衣を着て、手にヤシの枝を持って、玉座の前と小羊の前に立ってい
ました。」

この「誰も数えることのできなかつた大群衆」は、前の節で引用された「144,000人」と「12,000人」という「数字」の靈的にコード化された象徴的な性質を裏付けています。さらに、「誰も彼らに番号を付けることができなかつた」という表現によって、アブラハムの子孫をほのめかしています。神が彼に示した「天の星」については、「あなたの子孫はそのような者になるでしょう」と言われました。彼らの起源はさまざま、あらゆる国、あらゆる部族、あらゆる民族、あらゆる言語、あらゆる時代から来ています。しかし、この章のテーマは特に、神から与えられた普遍性に関する最新のアドベンチストのメッセージを対象としています。彼らが「白いローブ」を着ているのは、黙示録 13:15によると、最後の反逆者たちが公布した法令によって死刑を宣告され、殉教者として死ぬ準備ができていたからです。彼らが手に持っている「手のひら」は、罪人の陣営に対する彼らの勝利を象徴しています。

10節：「すると、彼らは大声で叫んで、『救いは玉座に座しておられる私たちの神と小羊のものである』と言った。」

この行動は、黙示録 6:15-16に記されている反逆者陣営の反応の記述と並行して、イエス・キリストの栄光の再来の文脈を呼び起こします。ここで、救出された選挙で選ばれた役人たちの発言は、反逆者の発言とは全く正反対である。キリストの再臨は彼らを怖がらせるどころか、喜び、安心させ、救います。反乱軍が投げかけた問い「誰が生き残れるか？」

ここで彼の答えを受け取ります。アドベンチストたちは、必要であれば命の危険を冒してでも、神から託された使命を世界の終わりまで忠実に守り続けました。この忠実さは、世界の初めから神によって聖別された聖なる安息日を尊重するという彼らの愛着と、神の預言の言葉に対する彼らの愛に基づいています。安息日が、イエス・キリストの後に勝利を収めて、イエスの名において約束された永遠の命を受け取ることによって、その安息年期に入ることができる7千年紀の大いなる休息を預言していることを彼らは知っているのです、このことはなおさらである。

11節：「そして、天使たちは皆、王座、長老たち、そして四匹の生き物の周りに立っていました。そして彼らは玉座の前、神の前にひれ伏し、

私たちに提示された情景は、神の大いなる天の安息への入り込みを思い起こさせます。このテーマを扱った画像は第 4 章と第 5 章にあります。

12節：「「アーメン！」と言いました。賛美、栄光、知恵、感謝、名誉、力、力が世々限りなく私たちの神にありますように。アーメン！」

地上の救いの経験のこの美しい終わりに満足した天使たちは、私たちの創造主であり、彼らのもの、私たちのものであり、地上で選ばれた人々の罪の贖いに率先して取り組んでくださった善の神に喜びと感謝の意を

表します。

、人間の肉体の弱さの中で転生し、彼の正義によって要求される残虐な死を経験するために来ます。これらの多数の目に見えない目は、この救いの計画のあらゆる段階を追い、神の愛の崇高な実証に驚嘆しました。彼らの最初の言葉は「アーメン！」です。実は！それは本当です

！神は真理の神、まことの神だからです。 2番目の単語は「それは12部族の最初の名前でもありました：「ユダ」＝賛美。

3番目の単語は「

栄光」とあり、神がご自分の栄光に関心を持つのは当然のことです。なぜなら、神はアポ 14:7

でそれを思い出し、唯一の創造主である神の称号において、1843

年以來ご自分の救いを主張してきた人々にそれを要求するからです。 4番目の単語は「知恵」です。

。この文書の研究は、選挙で選ばれたすべての役人に発見してもらうことを目的としています。この神の知恵は私たちの想像を超えています。繊細さ、マインドゲーム、すべてが神聖な形式でそこにあります。

5つ目は「感謝祭」です。それは神聖な言葉と行いによって達成される宗教的な感謝の形です。

6位は「名誉」です。これは反逆者たちが神を最もイライラさせたことです。彼らは、彼の明らかにされた意志に異議を唱え、彼を軽蔑的に扱いました。それどころか、選出された役人たちは、可能な限り彼に正當に与えられる名誉を彼に与えた。 7番目と8番目は「力と強さ」です。これら 2つの拘束力のあるものは、地球の暴君を倒し、まだ地球を支配している間に傲慢な反逆者を鎮圧するために必要でした。この力と強さがなければ、最後に選ばれた者たちは、キリスト教時代の他の多くの殉教者と同じように死んでいたでしょう。

13節：「すると、長老の一人が答えて私に言った、「白い衣を着ている人たちは誰ですか、どこから来たのですか」。」

、黙示録 3 章 4 節の「白い」衣服と、黙示録 19 章 8 節で次のように指定されている「上質亜麻布」に関連した「白いローブ」の象徴の特殊性を私たちに明らかにすることを目的としています。終末の「備えられた花嫁」の聖徒たちの義なる行いによって、忠実な終末のアドベンチズムは天国への引き上げの準備が整います。

14節：「私は彼に言った、「主よ、あなたはそれをご存じです。そして彼は私に言った、「彼らは大患難から来た人々です。彼らは自分たちの衣を洗い、子羊の血で白くしました。」

「白いローブ」を見て、ジーンは実際、そのうちの一人からの返事を期待することができる。そして予想される答えは次のとおりです。「彼らは大患難時代から来た人々です」、つまり、「第5の封印」によって私たちに明らかにされたように、選ばれた人々、宗教戦争と無神論の犠牲者と殉教者です。 黙示録 6 章 9 節から

11節には次のように記されています。そして彼らは、彼らと同じように死刑に処せられる仲間の召使いや兄弟たちの数が全員揃うまで、しばらく安静にしておくように言われた。 » 黙示録 2 章 22 節で、「大患難」とは 1793 年から 1794 年の間に達成されたフランスの無神論革命政権の虐殺を指します。これを確認するために、黙示録 11 章 13 節で次のように書かれています。地震」。

「七」は宗教的、「千」は群衆を意味します。フランス革命は、神の僕達をも殺す地震のようなものです。しかし、この「大患難」はこの成果の最初の形にすぎませんでした。その第 2 の形式は Rev.9 の「第 6 トランペット」によって実現されますが、Rev.11

の編集の微妙な点によってこの事実が明らかになります。第三次世界大戦中には多数の不忠実なキリスト教徒が処刑されることになるが、それは「第6のラッパ」が象徴し、裏付けている。しかし1843年以来、神は神聖化する選民を選び、神が最後に選別した者たちは神の目には滅ぼすにはあまりに貴重なものである。神は彼らに地上の救いの歴史の最後の証言を準備させます。それは、たとえ反乱軍の陣営によって死の脅迫を受けても、7 日目の安息日に忠実であり続けるという忠誠の証しである。神の計画のこの最後の試練は、黙示録 3:10 と黙示録 13:15 (死の命令) で「フィラデルフィア」に届けられたメッセージの中に明らかにされています。神にとって、意図は行動に値するものであり、試練にさらされて死の危険を受け入れる限り、彼らは神によって殉教者のグループに同化され、したがって「白衣」の真の殉教者とみなされるのです。彼らが死を免れるのは、イエス・キリストの救いの介入のおかげです。この最後の試練では、二度目の「大艱難」の後、彼らの忠実さの証によって、彼らは今度は「自分の衣を洗い、子羊の血で白くして」最後まで忠実であり続けるでしょう。彼らは脅されるだろう。この最後の信仰の試練の終わりに、殉教者として死ぬことになっていた人々の数は完了し、「第五の封印」の殉教した聖徒たちの死すべき「安息」は復活とともに終わることになる。

1843年以来、そして特に1994年以来、神によって行われた聖化の働きはそれを無力なものにし、再臨の時とそれに先立つ恵みの時代の終わりまで生きて忠実であった真の選民の死により、それはさらに無価値なものとなった。使い物にならない。

15節「このため、彼らは神の御座の前において、昼も夜も神殿で神に仕えています。玉座に座る者は彼らの上に天幕を張るだろう。 »

私たちは、神にとって、このタイプの選ばれた人々が特に高いエリートを代表することを理解しています。彼は彼に特別な栄誉を与えるだろう。この聖句では、御霊は現在と未来という2つの時制を使っています。「彼らは」と「彼に仕える」という現在形で活用された動詞は、彼らの肉体における彼らの行動の連続性を明らかにしています。それは彼らの中に宿る神の神殿です。そしてこの行為は、彼らがイエス・キリストによって

携挙された後も天国で継続されるでしょう。将来、神は彼らの忠実さに対して答えを与えられます。「王座にある者は彼らの上に天幕を永遠に張るでしょう」。

16節：「彼らはもう飢えず、渇くこともなく、太陽も暑さも彼らに当たることはない。」

これらの言葉は、終末のアドベンチストに選ばれた人々にとって、食べ物を与えられずに「お腹が空いて」、拷問者や看守に水を与えられずに「のどが渇いた」ことを意味します。神の最後の七つの災いの四番目でその「熱」が強まる「太陽の火」が彼らを焼き、苦しませるでしょう。しかし、「第五の封印」の殉教者たちが焼かれたり、拷問を受けたりしたのは、教皇の異端審問の薪の火、別の種類の「熱」によってでもあった。

「熱」という言葉は、第 6

のラッパの文脈で使用される通常兵器および核兵器の発火にも関係します。この最後の紛争の生存者は火の中をくぐり抜けているでしょう。選ばれた者だけが入ることができる永遠の命では、これらのことは二度と起こらないでしょう。

17節：「王座の真ん中にいる小羊は彼らを養い、命の水の泉に導き、神は彼らの目から涙をすべてぬぐってくださるからです。」

「子羊」は実際、愛する羊を牧する良い羊飼いであります。彼の神性はここでも「王座の真ん中」という彼の位置によって確認されています。彼の神聖な力は、選ばれた人々を永遠の命の象徴である「命の水の泉」へと導きます。そして、帰還時に最後に選ばれた者たちが涙を流すという最後の状況をターゲットにして、彼は「彼らの目から涙をすべてぬぐう」だろう。しかし、涙はまた、キリスト教時代の歴史を通じて、多くの場合息を引き取るまで、神に選ばれたすべての人々の虐待と迫害の一部でもありました。

注: 2020

年現在、真の信仰が消え去ったように見える誤解を招くような様子が観察されているにもかかわらず、神は地球上のあらゆる人種、民族、言語の出身の「群衆」の回心と救いを預言しておられます。黙示録 9 章 5-10 節によると、理解と普遍的な宗教的平和の時代が彼によって計画されたのは「

150
」年間だけであることを知ることは、彼が選出された役人たちに与える真の特権です。真の選ばれし者のこの独特の基準は、黙示録17:8

の聖霊のメッセージの中で引用されています。彼女は深淵から昇り、滅びに行かなければなりません。そして、世界の創設以来、命の書にその名前が書かれていなかった地上に住む人々は、その獣を見たとき、それはかつて存在し、もう存在しないので、そしてそれが再び現れることに驚くでしょう。

»真に選ばれた人は、神が預言の言葉を通して彼らに告げたことが実現するのを見ても驚かないでしょう。

黙示録 8: 最初の 4 つのラッパ

神の最初の4つの罰

1 節: 「彼が第 7 の封印を開いたとき、天には約 30 分間沈黙がありました。」

第 7 の封印」の開封は非常に重要です。なぜなら、それは黙示録5:1によれば「

7 つの封印で封印されている」という黙示録の完全な開封を許可するからです。この冒頭を特徴付ける沈黙は、アクションに並外れた厳粛さを与えます。それには 2 つの理由があります。1 つ目は、321 年 3 月 7 日の安息日の放棄によって引き起こされた天と地の関係の断絶という考えです。2 つ目は次のように説明されています。信仰により、私はこの「第

7 の封印」を「私の意見では、これは世界の創設以来神によって聖化された聖なる安息日を指定しています。彼はそれを十戒の

4 番目の主題とすることでその重要性を思い出しました。そしてそこで私は、私たちの崇高な創造者である神にとってそれが極めて重要であることを示す証拠を発見しました。しかし、すでに創世記の記述で、7日目が第2章で別個に示されていることに気づきました。最初の6日間は第1章で扱われます。さらに、7日目は、これまでのように、次の式によって閉じられて

いません。夕方と朝」。この特殊性は、7千年紀の神の救いのプロジェクトにおける預言的な役割によって正当化されます。イエス・キリストの血によって贖われた選ばれた者の永遠のしるしの下に置かれた第7千年紀は、それ自体が終わりのない日のようなものです。これらのことを裏付けるように、ヘブライ語聖書である律法での表現では、第

4 戒の本文が他の戒めから切り離され、その前に敬意を持って沈黙の時間を要求する標識が置かれています。この記号はヘブライ語の文字「Pé」であり、テキストの区切りとして分離されているため、「pétuhot」という名前が付けられています。したがって、7日目の安息日の休みは、神によって特別な方法でマークされるのには十分な正当性があります。

1843年の春以来、それはカトリックの「主日」の継承者である伝統的なプロテスタントの信仰の喪失を引き起こしました。そして、1844

年秋の同じ試練以来、エゼ

20:12-20

が彼に与えているのは、再び神に属することのしるしとなっています。彼らは、私が彼らを聖化するヤハウエであることを知るかもしれませんが.../...

私の安息日を神聖なものにしてください、そしてそれが私とあなたの間のしるしであり、それによって私があなたの神であるヤハウエであることが分かるかもしれません。」

」

彼を通してのみ、選ばれた者は神の秘密に入り込み、彼の明らかにされたプロジェクトの正確なプログラムを発見することができます。

とはいえ、第 8 章では、神は一連の呪いのメッセージを呼び起こします。このことから、私は安息日の真実を、321 年 3 月 7 日以降のキリスト教徒による安息日の放棄がキリスト教時代を通じて連鎖的に生み出してきた呪いという側面から考察することになります。このことは、安息日のテーマを、321 年 3 月 7 日のキリスト教徒の不貞行為に課せられる「七つの神罰」の象徴である「七つのラッパ」に結びつけることで、次の聖句が裏付けるものでもあります。

2節「そして、私は七人の天使が神の前に立っているのを見た。彼らに七つのラッパが与えられた。」

「七つのラッパ」の主題に与えている意味を理解することです。このテーマは、与えられたアプローチの形によって、選ばれた人の知性を完全に開きます。それは、ダニエル書 8:12 で引用されているクリスチャン議会に対する神による「罪」の告発の証拠となるからです。確かに、この罪が存在しなければ、これらの「七つの罰」は神によって課されることはありません。さらに、レビ記 26 章に照らして、これらの刑罰は神の戒めに対する憎しみによって正当化されます。古い契約において、神はすでに同じ原則を採用し、不忠実で墮落した肉のイスラエルの咎を罰していました。創造者であり立法者である神の変化のない神は、私たちにこのことの素晴らしい証拠を与えてくれます。どちらの聖約にも、従順と忠実さという同じ要件が課せられます。

「ラッパ」のテーマにアクセスすると、1843 年以来カトリック、正教、プロテスタント、そして 1994 年以来アドベンティストなど、すべてのキリスト教の宗教が次々と非難されてきたことを実証することが可能になります。また、「第 6 のラッパ」の普遍的な懲罰も明らかになります。試用期間が終了する前に彼らと一緒にストライキさせてください。したがって、その重要性を測ることができます。神の直接の働きであるキリストの再臨に関する「第7のラッパ」は、11章で安息日と同様に別個に扱われ、その後18章と19章で広く展開されます。

321 年以来、より正確には 1709 年以来、過去 17 世紀にわたって、ダニエル 8:14 の法令で 1843 年に予定されている安息日の回復まで、1522 年は安息日の違反によって引き起こされた呪いによって特徴づけられてきました。そして、安息日が修復されたその日から、2030 年のイエス・キリストの再臨まで、わずか 187 年間だけ安息日が祝福を捧げました。したがって、安息日は、より長い間、忠実な選民に良い影響を与えるよりも、不忠実な人々に害をもたらして

きました。呪いが勝つので、このテーマは神の呪いを提示するこの第 8 章にその場所があります。

3節：「すると、別の天使が来て、金の香炉を持って祭壇の上に立った。そして彼らは彼にたくさんの香を与え、彼がすべての聖徒の祈りとともに玉座の前にある金の祭壇にそれを捧げるようにした。」

ダニエル 8:13 では、「荒廃させる罪」を引用した後、ヘブライ 7:23

によれば、幻の聖徒たちはイエス・キリストの「伝えられない「天の」祭司職」に関係する「永遠の」ものを呼び起こしました。地上では、ダニエル書 8:11 によれば、538 年以來、教皇政權がそれを取り上げました。1843年、イエス・キリストとの和解にはその回復が必要でした。これが、この

3節で取り上げるテーマの目的であり、天を開き、イエス・キリストが、選ばれた人々、そして彼らだけの罪のために天の大祭司としての象徴的な役割を果たしている様子を示しています。地球上では、538年から1843年の間、この場面とこの役割は、時を経て次々に後継者となったローマ・カトリック教皇たちの活動によってパロディ化され、篡奪され、その正当な最高主権に対する神を絶えずイライラさせてきたことを心に留めておいてください。

それがこの第 8 章で提示されており、安息日の放棄と同時に停止したため、イエス・キリストのとりなしのこのテーマは、キリスト教徒にとってのこのとりなしの停止の呪いという側面でも私たちに提示されています。異教ローマの「太陽の日」の無意識の犠牲者多数。これは、特に、欺瞞的で魅惑的な名前に変更された後でも、「日曜日」、つまり主の日です。はい、でもどの領主から来たのですか？ああ！下のやつ。

4節「聖徒たちの祈りとともに、神の御前で天使の手から香の煙が立ち上った。」

聖徒たちの祈りに添えられる「香水」は、イエス・キリストの犠牲の心地よい香りを象徴しています。神の愛と忠実さの実証こそが、神に選ばれた人々の祈りを神の裁きに受け入れられるものにするのです。この聖句では、「煙」と「聖徒の祈り」という言葉の関連性の重要性に注意しなければなりません。この詳細は、1843年に確立された新しい状況以來、偽プロテスタントキリスト教徒の祈りを指定するために黙示録9:2で使用されます。

神がこの聖句で呼び起こしているのは、使徒時代から321年3月7日の呪われた日までの間に広がった状況です。安息日が放棄される前に、イエスは選ばれた人々の祈りを受け取り、彼らのためにご自分の名においてとりなされました。これは、神とその選民との垂直的な関係が維持されていることを意味する教えの像です。

321年までイエスの人柄と真理の教えに忠実であると証しする限り、それ

は続くでしょう。1843年、イエスの神権は、選出されたアドベンチストの聖人たちを支持して、その祝福された活動をすべて再開します。しかし、
321 年から 1843
年の間、ティアティラ時代の改革者らは彼の恩赦の恩恵を受けました。

5節「そして、天使は香炉を取り、祭壇の火で満たし、それを地に投げました。そして、声が聞こえ、雷が鳴り、稲妻が起こり、地震が起こりました。」

描写されている行為は明らかに暴力的です。それは、恵みの時が終わるとき、とりなしの働きを終えたイエス・キリストの姿です。

「祭壇」の役割は終わり、イエス・キリストの贖いの死を象徴する「火」が「地に投げ込まれ」、それを過小評価した者たち、一部の者たちに軽蔑された者たちへの罰を要求する。ここでは、神の直接介入によって特徴づけられる世界の終わりが、黙示録 4:5 と出エジプト記 19:16 で明らかにされている重要な公式によって呼び起こされます。キリスト教時代の概観は、この「アドベンチスト」イエス・キリストの降臨で終わります。

安息日と同様に、イエス・キリストの天のとりなしのテーマは、321 年から 1843 年までの裁きの呪いという側面の下で提示されています。ダニエル 8:13 で、それに関して御霊に質問した聖徒たちは、次のような十分な理由がありました。

「永遠の」神権がイエス・キリストに引き継がれる時期を知りたいと思っていました。

注:前の解釈に疑問を持たなくても、2 番目の説明は理にかなっていません。この 2 番目の解釈では、イエス・キリストのとりなしという主題の終わりは、キリスト教徒による安息日の放棄によって神が怒りに陥った瞬間である 321 年 3 月 7 日の日付に関連付けることができますが、この日は西洋の宗教によって鎮められることとなります。キリスト教は、続く6節にある「7つのラッパ」によって語られます。この二重の説明は、安息日の放棄が2030年の世界の終わりまで影響を与えるので、なおさら正当化される。2030年には、イエス・キリストが目に見える栄光の帰還によって、ローマ教皇政権とその最後のアメリカ政府から永久に排除されることになる。プロテスタントの支持、プロテスタントに仕え、代表するという誤った主張。その後、イエスは教皇庁によって奪われた教会の「首長」の称号を再び取得することになります。実際、忠実な選民とは異なり、墮落した異教徒クリスチャンはダニエル 8:14 の布告とその結果を世の終わりまで無視するでしょう。これは、黙示録 6:15-16 の教えに従ってイエスが再臨されるときに彼らの恐怖を正当化します。

2030年までに、最初の6つの「ラッパ」は321年から2029年の間に達成されるでしょう。最終的な絶滅の前の最後の警告罰である「第6のラッパ」によって、神は反逆的なキリスト教徒を非常に厳しく罰します。この6回目の刑罰の後、神は最後の普遍的な信仰の試練の条件を整え、この状況において、明らかにされた光が宣言され、すべての生存者に知られることとなります。選ばれた者と墮落した者は、その自由な選択によって、死の脅威に直面しながらも、最終的な運命である次の運命に向かって前進するという実証された真実に直面して、選ばれた者には永遠の命、決定的かつ絶対的な死が与えられる倒れた人たちのために。

6節：「そして、7つのラッパを吹く準備をしていた7人の天使たち。

»

7つのラッパ」、つまり「罪」が犯された321年3月7日以来、キリスト教時代全体に与えられた「7回の連続した刑罰」をテーマとして、キリスト教時代の新たな概観を私たちに提供しています。正式かつ民事的に設立されました。黙示録

1章のプロローグで、キリストの「声」そのものがすでに「トランペット」の音に喩えられているのを思い出します。イスラエルの人々に警告するために使用されるこの道具には、黙示録の啓示の完全な意味が含まれています。警告は、敵が仕掛けた罠について警告します。

7節：「最初の音が鳴った。そして、雹と血の混じった火が地上に投げ込まれた。そして地球の3分の1が燃え、木の3分の1が燃え、そしてすべての緑の草が燃え尽きました。」

最初の懲罰：それは、いわゆる「野蛮な」人々によるローマ帝国へのさまざまな侵略によって、321年から538年の間に実行されました。私は特に「フン族」の人々のことを覚えています。彼らの指導者アッティラは、まさに自分は「神の災い」であると言いました。ヨーロッパの一部を炎上させた惨劇。ガリア北部、イタリア北部、パannonia（クロアチア、ハンガリー西部）。彼のモットーは、「ああ、なんて有名なんだろう！」でした。「私の馬が通るところには草は生えません。」彼の行動はこの7節に完全に要約されています。何も欠けていません、すべてがそこにあります。

「雹」は農作物の荒廃の象徴であり、「火」は消耗品の破壊の象徴です。そしてもちろん、「地上に流された血」は、人間の命が暴力的に殺されている象徴です。

「投げられた」という動詞は、5節の「祭壇から火を投げた」後の行動を鼓舞し、指示する創造者、立法者、救い主である神の怒りを示しています。

同時に、レビ記 26:14 から 17

には次のように書かれています。あなたが私の戒めをすべて守らず、私の契約を破らないなら、私はあなたにこれをします。私はあなたに恐怖と消耗と熱を送り込み、あなたの目を衰弱させ、あなたの魂を苦しめるでしょう。そしてあなたは無駄に種を蒔くことになり、あなたの敵がそれらを食

い荒らすでしょう。わたしはあなたに顔を向ける、そうすればあなたは敵の前に敗北するだろう。あなたを憎む者たちがあなたを支配し、あなたは追われずに逃げるでしょう。」

8節：「二番目の音が鳴った。そして、火で燃えている大きな山のようなものが海に投げ込まれました。そして海の三分の一は血となった、

第二の罰： これらの画像の鍵はエレミヤ書 51:24-25 にあります。見よ、滅びの山よ、わたしはあなたに敵対する、と全地を滅ぼしたあなた、ヤハウエは言われる！わたしはあなたに手を伸ばし、あなたを岩から転がし、あなたを火の山にしてあげます。」 この8節で、聖霊は「バビロン」という象徴的な名前の下でローマ教皇政権を呼び起こしますが、これは「バビロン」という形で現れます。 黙示録 14:8、17:5、18:2 にある「偉大な」。

「火」は彼女の性格に執着しており、キリストの再臨と最後の審判の際に彼女を焼き尽くすものと同じくらい、彼女を承認し支援する人々、つまりヨーロッパの君主とそのカトリック教徒の人々への憎悪を燃え上がらせるために使用するものを呼び起こします。

ここでもダニエルと同様に、「海」は預言の覆いに関係する人間性を表しています。明らかにキリスト教に改宗したにもかかわらず、本質的には異教のままだった匿名の人々の人間性。 538

年の教皇政権樹立の最初の結果は、人々を武力で改宗させるために攻撃することでした。

「山」という言葉は地理的な困難を意味します。これは、神の敵であるにもかかわらず、神の意志によって呼び覚まされている教皇体制を定義するのにふさわしいものである。これは、不忠実なキリスト教徒の宗教生活を硬化させるためであり、その結果、キリスト教徒や外部のさまざまな宗教の人々に迫害、苦しみ、死をもたらします。宗教の強制は、神の聖なる安息日に対する違反のため、目新しいものです。私たちはカール大帝によって行われた強制改宗という不必要な虐殺と、教皇ウルバヌス2世によって始められたイスラム教徒に対する十字軍の命令に対して、彼のおかげである。すべてはこの「第二のラッパ」で預言されています。

9節「そして、海にいた命のある生き物の三分の一が死に、船の三分の一が死んだ。」

その影響は普遍的であり、世界の終わりまで続きます。

「海」と「船」という言葉は、地中海のイスラム教徒との衝突だけでなく、征服者のカトリック信仰の押し付けが先住民族の恐ろしい虐殺を引き起こすアフリカや南米の人々との衝突でもその意味を見つけるだろう。

同時に、レビ記 26:18 から 20 には次のように書かれています。わたしはあなたの強さの誇りを打ち砕き、あなたの天を鉄のように、あなたの地を青銅のようにします。あなたの力は無駄に尽き、あなたの土地は実を結ばず、地の木々も実を結ばなくな

る。》
この聖句で、神は宗教的強化を発表しており、キリスト教時代にはローマが異教から教皇へ移行することによってそれが達成される。この変化の機会に、ローマの支配が「国会議事堂」を放棄し、まさに「カエリウス」、つまり空の上に位置するラテラノ宮殿に教皇庁を設置したという興味深い点に注目してみましょう。厳しい教皇体制は、予言された宗教の硬化を裏付けるものである。キリスト教の信仰の実が変わります。キリストの優しさは攻撃性と残酷さに取って代わられます。そして、真実への忠誠は、宗教上の偽りに対する不貞と熱意に変わってしまいます。

10節：「三番目の音が鳴った。そして、たいまつのように燃える大きな星が天から落ちました。そしてそれは川の三分の一と水源に落ちました。」

第三の刑：発生した悪は激化し、中世の終わりに向けて頂点に達します。機械印刷の進歩により、聖書の出版が促進されました。選挙で選ばれた役人は、この本を読むことで、その本が教えている真実を発見します。このように彼女は、黙示録

11章3節で神が彼女に与えられた「二人の証人」の役割を正当化しています。「私は二人の証人に、荒布を着て千二百六十日間預言する権限を与えます。」

カトリック信仰は独自の宗教的教義を支持し、その臣民に崇拜させている聖人の名前を正当化するためにのみ聖書に依存しています。なぜなら聖書の所持は聖書によって非難されており、所持者は拷問と死にさらされるからです。この聖句で与えられたイメージを正当化するのは、聖書の真実の発見です。「そして、たいまつのように燃える大きな星が天から落ちた。」今回は「燃える大山」のような「燃えるような大きな星」で象徴されるローマのイメージに火がつき続けています。創世記 1:15 によれば、「星」という言葉は、宗教的に「地を照らす」というその主張を明らかにしています。そしてこれはイエス・キリストの名において行われます。彼女は、イエス・キリストはアポ.21:23で比較される光の担い手である真の「たいまつ」の像であると主張しています。彼女はまだ最初の頃と同じように「素晴らしい」ですが、彼女の迫害の炎は増幅され、「燃えている」状態から「燃えている」状態になりました。説明は簡単で、聖書によって非難されていますが、神に選ばれた者たちに公然と反対せざるを得なくなると、彼女の怒りはさらに大きくなります。黙示録 12:15-16 によれば、これにより、狡猾で欺瞞的な「蛇」の戦略から、公然と迫害する「竜」の戦略への移行が強制されるのです。その敵対者は、平和的で従順な神の選ばれた人々だけではなく、何よりもその前には、宗教的というよりも政治的な偽りのプロテスタンティズムが存在します。なぜなら、それは、イエス・キリストが与えた命令を無視し、武器を取り、人を殺し、殺すからです。カトリック陣営と同じくらい多くの人を虐殺した。

「川の3分の1

」、つまりキリスト教徒のヨーロッパの人口の一部は、「水源」と同様にカトリックの侵略に苦しみました。エレミヤ 2:13

によると、これらの水の泉のモデルは神ご自身です。「私の民は二重の罪を犯しました。彼らは、生きた水の泉である私を捨てて、自分たちのために貯水池、ひびの入った貯水池、水を保持しないもの。」

この聖句では、御霊は「水の泉」によって神の似姿に選ばれた人々を複数形で示しています。ヨハネ

7章38節は、「聖書に書いてあるとおり、わたしを信じる者はその人から生ける水の川が流れ出ます」と確認しています。

この表現は、生まれたときから相談も受けずに、選ばれていない宗教上の目的の対象となる宗教的レッテルを貼られる子どもの洗礼の実践も指している。彼らは成長するにつれて、宗教的な作法でそうすることが求められているため、いつか武器を手に取り、敵を殺すようになるでしょう。聖書は、「信じてバプテスマを受ける者は救われるが、信じない者は罪に定められる（マルコ16:16）」と述べているため、この原則を非難しています

11節：「この星の名前はよもぎです。そして水の三分の一はよもぎに変わり、水が苦くなったために多くの人が水のほとりで命を落とした。」

神の書かれた言葉である聖書を表す純粹で渴きを癒す水とは対照的に、カトリックの教えは苦くて有毒で、さらには致命的な飲み物である「よもぎ」に喩えられます。この教えの最終的な結果は「最後の審判の第二の死」の火であるため、これは正当化されます。人間の一部、つまり「3分の1

」は、カトリックまたは偽りのプロテスタントの教えによって変えられます。「水」は人間であり、聖書の教えでもあります。 16

世紀、プロテスタントの武装勢力が聖書とその教えを悪用し、この聖句に倣って、人々が人間によって、また偽りの宗教的な教えによって殺されました。それは、人間と宗教の教えが苦々しいものになっているからです。神は「水は苦くなった」と宣言することによって、第三の封印の黙示録6章6節以来未解決のままである「ねたみの疑い」の告発に答えを与えます。彼は、書面でそうするようになった時点で、アポのペルガモンと宗教的に名付けられた公認の姦淫の時期に先立つ321年3月7日以来、議会に対して行っている姦淫の告発を確認している（538年2章12節）。

同時に、レビ記 26:21-22
には次のように書かれています。私はあなたに野の獣を送ります。彼らはあなたから子供たちを奪い、あなたの家畜を殺し、あなたを少数にするでしょう。そしてあなたがたの道は人けのないものとなるだろう。」レビ記

26 章と黙示録の第 3

のラッパの並行学習は、宗教改革の時代の初めに神が下される裁きを明らかにします。その真の選ばれた人々は平和を保ち、諦め、真の殉教者とし

て死または捕虜を受け入れます。しかし、その崇高な模範とは別に、彼が目にするのは、ほとんどの場合個人的なプライドから互いに対立し、肉食の野生動物のような凶暴さで人間を殺す残酷な「獣」だけです。この考えは黙示録 13:1 と 11

で具体化されます。それは、苦難の規範の中で、選ばれた者が黙示録 12:6 で「砂漠」 (= 試練) に導かれるときのクライマックスです。14 黙示録 11 章 3 節に書かれた神の「二人の証人」と書かれています。1260年にわたって預言されていた教皇制の不寛容な統治は終わりを迎える

。 12節：「四番目の音が鳴った。そして、太陽の三分の一、月の三分の一、星の三分の一が消え、三分の一が暗くなり、昼はその光の三分の一を失い、夜も同様でした。」

第 4 章の懲罰: 御霊はここで、黙示録 2:22 で発表された「大患難」を描写しています。象徴において、それは私たちにその影響を明らかにします。部分的には、神の光の象徴である「太陽」が打たれています。また、部分的には、1793年に偽善的なカトリック教徒とプロテスタントに関係する闇の宗教陣営の象徴である「月」も打たれました。

「星」のシンボルの下には、地球を啓蒙するために召されたキリスト教徒の一部も個別に描かれています。それでは、誰がこのように真のキリスト教の宗教的光と偽りのキリスト教の宗教的光を当てることができるでしょうか？ 答え:

無神論のイデオロギーは、当時の偉大な光と考えられていました。その光は他の光を覆い隠します。ヴォルテールやモンテスキューなど、この主題に関する本を書いた作家は高く評価され、自ら「啓蒙者」と呼ばれています。しかし、この光はまず人間の命を連鎖的に破壊し、血の流れを流します。ルイ16世の首とその妻マリー・アントワネットの首に続いて、カトリックとプロテスタントの信者の首も革命家の断頭台に置かれました。この神の正義の行為は無神論を正当化するものではありません。しかし目的は手段を正当化し、神はより優れた、より強力で強力な専制政治で彼らに対抗することによってのみ専制君主を打倒することができる。

「力と力」は黙示録 7:12 にある主のものです。

同時に、レビ記 26:23 から 25 には次のように書かれています。私はあなたに対して剣を持って行きます、それは私の契約に復讐するでしょう。あなたたちが自分の都市に集まるとき、私はあなたたちの中に疫病を送り、あなたたちは敵の手に渡されるでしょう。」

「私の同盟に復讐する剣」はまさに、神がフランス国民的無神論政権に対して、精神的な姦淫の罪を犯した首たちを引き渡すという形で、フランス国民に与えた役割である。詩の疫病のように、この無神論政権は、昨日の死刑執行人が明日の犠牲者になるような大量処刑の原則を始めました。こ

の原則によれば、この地獄の体制は全人類を死に飲み込む可能性が高いと
思われます。これが、神が彼のテーマを展開する黙示録 11:7
で彼に「深淵」、つまり「深淵から現れる獣」という名前を与える理由で
す。なぜなら、創世記 1:2
では、この名前は生命も形もなく混沌とした地球を指しており、長期的に
は無神論政権によって行われた組織的破壊が再現されることになるからで
す。一例として、私たちは、カトリック教徒で君主主義者のヴァンデが、
荒廃した無人の土地にする計画を持っていた革命家によって「ヴェンジ」
と改名された運命を見つけます。

13

節「そして、見ていると、一羽の鷲が天の真ん中を飛んでいて、大声で『
災い、災い、地上に住む者たちに災い』と言っているのが聞こえた。三人
の天使のラッパの音が響き渡ったからだ。どれが鳴るでしょう！」

フランス革命はその殺人的な影響をもたらしましたが、神が望んだ
目的を達成しました。これにより宗教的圧政に終止符が打たれ、その後は
寛容が広まりました。黙示録 13:3

によると、これはこの聖句で示されているように、カトリックの「海の獣」
が「瀕死の重傷を負ったが治癒した」ときであり、ナポレオンの「鷲」
は彼を更生させた。彼のコンコルダートを通じて。

「...空の真ん中を飛ぶ鷲」は、皇帝ナポレオン^{1世}の支配の頂点を象徴して
います。彼はヨーロッパ全人民に支配を拡大したが、ロシアに対しては失
敗した。この選択により、出来事の年代測定が非常に正確になり、1800
年から 1814

年の期間が示唆されています。この治世の多大な影響は、1843年ダニエル
書

8章14節の極めて重要な日に到来することを正当化する確固たる基準を構
成している。フランスという国の歴史におけるこの重要な政権は、神にと
って恐ろしい発表を行うことになる。彼の後、普遍的なキリスト教信仰は
、三人の偉大な人物によって神によって打たれる時代に入るだろう。

「不幸」。

3回繰り返すと、それは「不幸」の完成についてです。これは、黙示録 3
章 2 節が教えているように、1843

年に入ると、神はイエス・キリストの救いを主張するキリスト教徒に対し
、ピエール・ヴァルドが聖書の真理を完全に回復した 1170

年以来始まった宗教改革を最終的に完了することを要求しているためです
。作品」。この完全性は黙示録 3:2 とダニエル 8:14

の法令によって要求されています。その適用開始の結果は、ここでは 3

つの主要な「不幸」の形で現れています。これらについては、これから個
別に検討していきます。逆説的に言えば、この宗教的平和の時期を大きな

「不幸」にしているのは、西洋人の心に浸透し、そして世界の終わりまで
浸透し続けるであろうフランス国民的無神論の遺産であることを、私は再

度指摘したいと思います。これは、1843年以降に神が要求した改革を達成するのに役立ちません。しかしすでに、黙示録6章13節の「第6の封印」は、これらの「不幸」の最初のを「流れ星」のイメージによって示していました。緑のイチジク」、したがって、1843年以降に神が要求した完全な霊的成熟を受け入れていませんでした。そして、神の警告の天の兆候は、ビッグ3の発表の提案された時期と同じ1833年11月13日に与えられました。聖句の「不幸」を研究しました。

聖霊は啓示の中で、ビッグスリーの標的となった人間を指すために「地球の住民」という表現を呼び起こします。

「不幸」を予言した。神から切り離され、不信仰と罪によって引き離された彼らを、聖霊は「地」に結び付けます。対照的に、イエスはご自分の真の忠実な選民を「天の国の国民」という表現で指定しています。彼らの故郷は「地」ではなく「天」であり、ヨハネ 14:2-3によれば、イエスは彼らのために「場所を用意した」のです。したがって、この「地球の住民」という表現が黙示録で引用されるたびに、それはイエス・キリストにおいて神から切り離された反逆的な人類を指すことになります。

黙示録 9: 第⁵と第⁶のラッパ 「第一」と「第二の大不幸」

第5のラッパ：「最初の大災い」 プロテスタント(1843年)とアドベンチスト(1994年)

注：最初に読むと、「第5のラッパ」のこのテーマは、1843年の春以来不名誉に陥ったプロテスタントの宗教に対して神が下す裁きを象徴的なイメージで表しています。しかし、それは、人々に与えられた預言的な発表を裏付ける追加の教えをもたらします。セブンスデー・アドベンチストの姉妹、エレン・グールド・ホワイト夫人は、イエスが使者として選んだ人です。彼の預言的な働きは、信仰の最後の最後の試練の時代を特に照らし出しました。彼の予測はこのメッセージで確認されるでしょう。しかし、私たちの姉妹は知らなかったのですが、第3のアドベンチストの期待が、セブンスデーアドベンチスト教会そのものを試すために神によって計画されていたということでした。確かに、この3番目の期待は、前の2つの期待のような公的な展開を引き継いでいませんが、それに付随して新たに明らかになった真実の大きさが、この明らかな弱点を補ってくれます。これが、1983年から1991年にかけてフランスのヴァランス・シュル・ローヌとモーリシャスでイエス・キリストによって試みられ、イエス・キリストが最後の預言の光を拒否した後、公的に制度化されたアドベンティズムの教えが魂の救い主によって「吐き出された」理由です。1994年、この日付は、この第9章の5節と10節の預言的な「5か月」の使用によって構成されています。これが、第2朗読で、プロテスタントの信仰のさまざまな側面に対して主によって下されたこの絵に基づく判決が、次の日に当てはまる理由です。制度的なセブンスデー・アドベンティズムは、神の預言の光を拒否したために背教に陥った。エレン・G・ホワイトがアドベンチストの教師たちに宛てた著書『福音宣教』の「光を否定する」の章で警告したにもかかわらず、これはなおさらである。

1995年、アドベンチストとプロテスタントの公式同盟により、神が預言された正しい裁きが確認されました。二つの転倒の原因は同じであるという事実に注目してください。それは、神がこの任務のために選んだ召し使いによる、神によって提案された預言の言葉に対する拒絶と軽蔑です。

「不幸」とは、イエスとその選ばれた聖徒の敵であるサタンが扇動し、インスピレーションを与える悪の時です。御霊は、イエス・キリストに拒絶されて悪魔に引き渡されたとき、イエス・キリストの弟子がどのようになるのかをイメージで私たちに明らかにしてください。それは本当に大きな「不幸」を意味します。

1 節：「

5 番目の音が鳴った。そして私は天から地に落ちた星を見た。深淵の穴への鍵は彼に与えられた、

「

5 番目」ですが、1844 年以来特別に選ばれたキリストに向けて大きな警告が発せられています。「天から落ちた星」は「星」ではありません。アブサン「」は「落ちなかった」前の章から、「」そこには「地球」ですが、「上」ザ 河川 そして ザ ソース水の」。イエスが「手に七つの星を持っている」と回想されるのは、「サルディス」時代のもので、イエスは自分の「作品」が「不完全」であると宣告されたため、プロテスタントの使者の「星」を地面に投げ捨てました。

アドベンチストの試練は、イエス・キリストの再臨に対する最初の期待が終わった1843年の春に始まりました。この帰還の二度目の待機は1844 年 10 月 22 日に終了しました。神が勝利者に聖なる土曜日の安息日の知識と実践を与えたのは、この二度目の試練の終わりになってからでした。その後、この安息日は、この第 9 章の 4 節で引用されている「神の封印」の役割を果たしました。したがって、その僕たちの封印は、2 回目の試練の終了後、1844 年の秋に始まりました。その考えは次のとおりです。

「倒れた」という表現は、ダニエル書第 8 章 14 節の法令の期間と最初のアドベンチスト裁判の終了である 1843 年春の日付を対象としており、神の封印の開始を示す 1844 年秋の日付とは対照的です。選ばれた勝利者と、この「第5のラッパ」のテーマの主題である。神の目標は、プロテスタントの信仰の崩壊と、預言された「

5 か月」の終わりである1994年以降に神と同盟を結ぶアドベンティズムの信仰の崩壊を明らかにすることである。したがって、このテーマの「5 か月」は 1844 年の秋に始まりますが、本題の結び固めの開始の文脈では、プロテスタントの信仰はこの日より前に「崩壊」していました。1843 年春。次に、神の啓示が既成の歴史的事実をどのように正確に尊重しているかがわかります。1843 年と 1844 年の 2 つの日付には、それぞれ特定の役割が割り当てられています。

黙示録 2 章 24 節で宗教改革の際に改革者自身が非難したカトリックの「井戸」または「サタンの深み」に落ちました。微妙に、聖霊は「地に落ちる」ということで、黙示録 13 章と 10:2 で「海」と呼ばれるカトリックからの出口を想起させる「地」という言葉で象徴されるプロテスタント信仰の正体を確認しています。

「フィラデルフィア」のメッセージの中で、イエスは開いているか閉じている「ドア」を示しています。ここで、鍵は生命の消滅の象徴である「深淵」にアクセスできるようにするため、彼らにまったく異なる道を開きます。今は彼らにとって「光が闇に」「闇が光に」なる時です。彼らは共和主義の哲学的思想の原則を伝統として採用し、イエス・キリストの血によって清められた信仰の真の神聖さを見失ってしまいます。

「彼に与えられた」精度に注目してみましょう。このように、それぞれの行いに応じて与える人は、神の裁き主イエス・キリストです。なぜなら、彼は鍵の番人でもあるからです。黙示録 3:7 によると、1873 年と 1994 年には祝福された選民に「ダビデの鍵」が、1843 年と 1994 年には墮落者に「底なしの穴の鍵」が与えられました。

2節：「そして彼女は深みの穴を開けた。すると井戸からは大きな炉の煙のような煙が出てきました。そして太陽と空気は井戸からの煙で暗くなりました。」

プロテスタントの信仰は主人と運命を変え、その働きも変えます。こうして彼女は、黙示録 19:20 と 20:10 で言及される「第二の死」の「火」による最後の審判の破壊を経験しなければならぬという、うらやましい運命にさらされることとなります。

「火と硫黄の湖」をイメージすると、最後の裁きのこの「火」は、出エジプト記 19:18 によるシナイ山での布告以来、神の戒めを破る者たちを脅かす「大きな炉」となります。

「シナイ山はすべて煙に包まれていました。主が火のただ中に降臨されたからです。この煙はかまどから出る煙のように立ち上り、山全体が激しく揺れました。」

次に、精霊は「フラッシュバック」と呼ばれる映画撮影技術を使用します。フラッシュバックは、墮落した悪魔がまだ生きていた間に作成された作品を明らかにします。ここでの「煙」という言葉には二重の意味があります。それは、黙示録14 章 11

節に記されている「大炉」の火の意味です。そして、獣とその像を崇拜する者たち、そしてその名の刻印を受ける者たちには、昼も夜も休みがありません。」だけでなく、黙示録 5 章8

節によると「聖徒たちの祈り」の刻印も受ける者たちです。偽りの聖者たち。なぜなら、祈りによって表される豊富な宗教活動は、イエスが1843年にサルディスで彼に語った次の言葉を正当化するからです。そしてあなたは死んでしまいました。」示唆された死は「最後の審判」の「二度目の死」であるため、死、そして二度死んだ。この宗教活動は、神とそれが啓発する神に選ばれた人々以外のすべての人を欺きます。この広範な欺瞞は、現代社会で言うところの「デマ」です。そしてまさに、「太陽」を覆い隠すほどに「空気」中に広がる「煙」のイメージを通して聖霊が示唆する酩酊の概念です。後者が真の神の光の象徴であるならば、「空気」のそれは

、エペソ 2:2
で「空気の力の君」と呼ばれ、イエスが「君」と呼んでいる悪魔の留保領域を示しています。ヨハネ 12:31 と 16:11
にある「この世の」。世界では、誤った情報の目的は、秘密にしておくべき真実を隠すことです。宗教的なレベルでもそれは同じで、真実は選ばれた者だけのものです。実際、プロテスタントグループの増加は、セブンスデー・アドベンチストの信仰の存在を隠す効果をもたらしました。これは1995年に彼らが彼女の「大きな不幸」を理由に彼女を仲間に迎え入れるまで続いた。この新たな霊的状况において、彼らは地表を燃える炉に変える第二の死の犠牲者となるでしょう。このメッセージは恐ろしいものであり、なぜ神がそれを明確に提供しなかったのか理解できます。それは、彼らがどのような運命から逃れてきたのかを理解するために、選ばれた人々のために予約されています。

3節：「いなごが煙とともに出てきて、地に散らばりました。そして、地のサソリの力のような力が彼らに与えられました。」

煙で象徴される祈りは墮落したプロテスタントの口と心から発せられ、したがって男性と女性はその数の多さから「イナゴ」で象徴されず。実際、1843年に倒れたのは多数の人間であり、10年前の1833年に、主は11月13日の夜に達成された「星の落下」によってこの群衆についての考えを与えられたことを思い出してください。

歴史的な目撃者の証言によると、1833年の真夜中から午前5時の間。もう一度言いますが、「地上」という表現には、地上の広がりとはプロテスタントのアイデンティティという二重の意味が込められています。破壊的で壊滅的な「イナゴ」が好きな人はいないでしょうか？農民ではなく、神は神を裏切り、敵と協力して神の選民の作物を破壊する信者を高く評価されないため、このシンボルは彼らに適用されます。次に、エゼキエル書 2章、この

10節からなる短い章では、神が「いばら、いばら、さそり」と呼ぶユダヤ人の「反逆者」を指すために、「反逆者」という言葉が6

回引用されています。ここで、この「サソリ」という用語はプロテスタントの反逆者を指します。 3

節では、彼の力に対するほめかしにより、最も重要な微妙なシンボルの使用が準備されています。

「サソリ」の力は、その「尻尾」の針で被害者を致命的に刺すことです。そして、この「尾」という言葉は、イザヤ書 9章 14節で明らかにされた神の思想の中で基本的な意味を持ちます。「嘘を教える預言者は尾である」。動物は「しっぽ」を使って、迷惑なハエやその他の寄生虫を追い払い、鞭で打ちます。ここに偽りの「女預言者イゼベル」の像があります。

神とその欺かれた不忠実な僕たちを非難し、苦しみを与えることに時間を費やす人です。罪を償うために自発的にむち打ちを行う習慣も、カトリッ

ク信仰の教えの一部です。黙示録 11 章 1
 節で、御霊は「葦」という言葉を使ってこの比較を裏付けていますが、鍵
 となるイザヤ書 9 章 14
 節では「尾」という言葉と同じ意味が与えられています。教皇教会のこの
 イメージは、1844年以来、嘘を教える神の預言者、つまり偽預言者となっ
 た墮落したプロテスタント信者にも当てはまります。提案されている「尾
 」という単語は、10節で明確に引用されます。

アドベンチストの期待の構築
 (今回は7日目から)

4節：「彼らは、地の草も、どんな緑のものも、どんな木も傷つけ
 てはいけない、ただし、額に神の印を押していない者だけを傷つけてはな
 らないと言われた。」

これらの「バッタ」は緑を食い荒らすことはありませんが、「神の
 封印」によって保護されていない人間には有害です。この「神の封印」に
 ついての言及は、Rev.7

ですすでに取り上げられている時代の背景を裏付けています。したがって、
 メッセージは並行しており、第 7
 章は選ばれて封印された者に関するものであり、第 9
 章は墮落して放棄された者に関するものである。マタイ 24:24
 によると、本物の選ばれた人を誘惑することは不可能であることを思い出
 してください。したがって、偽預言者たちは互いに騙し合います。

額にある神の印章という正確さは、1844年10月23日に、神の選出
 されたアドベンチスト派の僕たちの封印が始まったことを示している。詳
 細は、預言的な「5か月」という期間の引用の直前に言及されている。次
 の節。この日付に基づく 150 実年の期間。

5

節：「彼らに与えられたのは、殺すことではなく、五か月間苦しめること
 でした。そして、彼らが引き起こした苦しきは、サソリが人を刺したとき
 に引き起こす苦しみに似ていました。」

神のメッセージは、さまざまな時代に達成された行為をそのイメー
 ジの中にまとめています。それは混乱を招き、絵の解釈を困難にします。
 しかし、このテクニックが理解され、受け入れられると、メッセージが非
 常に明確になります。この 5 節は、1994
 年のイエス・キリストの再臨についての私の発表の基礎となっています。
 そこには、1844 年から始まる貴重な預言的な「 5
 か月」があり、これによって 1994
 年の日付を確定することが可能になります。神のおかげで、私はイエス・

キリストの栄光ある再臨をこの日と絶対に結び付けなければなりません。このようにして、私は、この希望を不可能にするであろうテキストの正確さに部分的に盲目になりながらも、創造主が望んだ方向に粘り強く耐えた方法です。実際、本文には「彼らに与えられたのは、殺すためではなく、5か月間苦しめるために与えられた」と明記されています。

「彼らを殺さない」という明確化は、
「第6回」のテーマを許可しませんでした。

「トランペット」、^{第5回}」がカバーした時代の巨大な殺戮戦争
トランペット」；

150実年の時間。しかし、彼の時代、ウィリアム・ミラーはすでに部分的に盲目であり、神が望んでいた行動を達成することができませんでした。

1844

年の秋にキリストが再臨されるという希望を復活させることを可能にする誤りを発見しました。 1843

年の春を確立する最初の計算が今日の最新の計算で確認されているため、誤った誤りです。神の意志と力は主権を有しており、幸いなことに、神に選ばれた者にとっては、何ものも、誰も彼の計画を妨げることはできません。実際のところ、この発表の誤りにより、1991年に公式アドベンチストは、1994年に発表されたイエス・キリストの再臨の希望に対する軽蔑的な態度を示すことになった。そしてアドベンチストにとって最悪なのは、最後の預言の光を奪われたことである。この文書を読むことで誰もが今日の証拠を得ることができるように、ダニエルと黙示録の 34章全体を明らかにしています。そうすることで、彼らはまた、2018年の春以来、神が私に与えてくださった、神の律法や、今わかっている2030年の春に再臨されるキリストの再臨について、神が私に与えてくださった他の新しい光も奪われることとなります。そしてこれは、ダニエルと黙示録の預言的構築から分離された新しい基盤に基づいています。

1982年から1991年の間、私にとってその5か月は、イエス・キリストの再臨まで続く偽預言者の活動と結びついていた。この推論に納得し、さらに正当化された私は、

「殺人」の禁止によって課される時間の制限が理解できませんでした。そして当時、1994年という日付はイエス・キリストの真の誕生の2000年を表していました。私以前に私の間違いの原因を特定した人は誰もいなかったことを付け加えておきます。それは神の意志に沿った成果を裏付けるものです。ここで、「しかし彼らを5か月間苦しめる」という説明に注目しましょう。問題の「苦痛」は預言された「

5か月」の間、犠牲者に耐えられないため、この公式は非常に誤解を招きます。御霊がほのめかしている「苦しみ」は、最後の審判で墮落した者たちに課せられ、それは「火の湖」の焼き討ち、つまり「第二の死」の刑罰によって引き起こされる。この「苦しみ」は、黙示録 14:10-11の第三の天使のメッセージの中で発表されており、前の節では「彼らの苦

しみの煙」を引用することで呼び起こされています。このメッセージは、アドベンチストの普遍的な使命の要素を構成しているため、アドベンチストにとってよく知られています。この公式のアドベンティズムの崩壊を事前に知っていた聖霊は、このメッセージの中で微妙にこう言っています。聖なる天使たちと小羊の前に。」この「彼も」という明確化は、続いてプロテスタントの信仰、そして1994年にイエス・キリストご自身によって拒否された公式の異教徒であるアドベンティズムをターゲットにしています。この日以来、彼の呪いを確証するために、この新たな「反逆者」は、すでに神から切り離されていたカトリック教徒とプロテスタント教徒を結びつけるエキュメニカル同盟に参加した。しかし、公式のアドベンティズムが崩壊する前は、「彼もまた」という公式が墮落したプロテスタントに当てはまっていた。なぜなら、1844年に墮落したプロテスタントは、カトリック教徒、正統派、偽ユダヤ人と運命を共にすることになったからです。実際、「彼も」とは、エキュメニカルな同盟を結び、コンスタンティヌス1世の日曜日と出生時の「太陽の日」（クリスマスの日）の儀式を尊重することによって、ローマのカトリック教会を敬うすべての非カトリック教徒に関係している。

12月25日)。複数形の「彼らも」ではなく、単数形の「彼も」という形を選ぶことによって、聖霊は、宗教の選択は個人の選択であり、人に責任を負わせ、正当化し、あるいは神に対して、個人に対して罪悪感を抱かせるものであることを思い出させてくれます。コミュニティではありません。エゼキエル書 14:18 によると、「息子や娘を救おうとしないノア、ダニエル、ヨブ」のようなものです。

最後の審判の二度目の死の苦しみ

6節：「その時代、人々は死を求めますが、それは見つかりません。彼らは死にたいと願うだろうし、死は彼らから逃げるだろう。」

アイデアは非常に論理的に流れます。

「第二の死の苦しみ」を呼び起こしたばかりの御霊は、この 6節で、「当時」という表現で対象とされる、

7千年紀の終わりに来るであろうその適用の日について預言しています。そして彼は、この極めて恐ろしい最終刑罰の特徴を私たちに明らかにします。

「人は死を求めるが、それは見つからない。彼らは死にたいと願うだろう、そして死は彼らから逃げるだろう。」人間が知らないのは、悪人の復活の体は現在の肉の体とは非常に異なる特徴を持つということです。彼らの最終的な罰として、創造主の神は、彼らの最後の原子が破壊されるまで意識状態を維持できるようにすることで、彼らの人生を再作成します。さらに、苦しみの時間の長さは、個々の有罪に対して宣告される評決に応じて、各個人に個別に適応されます。マルコ 9:47-48

は次の言葉で確証しています。 »

また、プロテスタントの信仰はカトリック教会と多くの誤った宗教的教義

を共有していることにも留意すべきである。日曜日が最初の休息の日であることに加えて、魂の不滅性に対する信仰があり、それがプロテスタントに次のことを信じさせる。カトリック教徒が教える地獄の存在。このように、地獄の地獄というカトリックの脅威は、地獄の地獄で永遠に地獄の責め苦しみに遭い、キリスト教国のすべての君主がその脅威にさらされたが、その脅威には少しの真実もあったが、何よりも多くの虚偽が含まれていた。なぜなら、第一に、神が用意した地獄は、聖徒たちによる悪人に対する天の裁きの「千年」の終わりに初めて形となるからです。そして第二に、現在の地上の状況と比べれば、苦しみは長期化するとしても、永遠に続くわけではありません。死が彼らから逃れるのを見る人々の中には、魂の不滅性に関するギリシャの異教の教義の信奉者や熱烈な擁護者もいるだろう。こうして神は、もし彼らの魂が本当に不滅であったなら、彼らの運命がどうなるかを想像する経験を彼らに提供するでしょう。しかし何よりも、その神性に出会うのは「征服されない太陽の日」の崇拝者たちです。それらを運んできた地球そのものが、火と硫黄のマグマが融合して「太陽」となったのだ。

致命的な欺瞞的な外観

7節：「これらのイナゴは戦いの準備ができた馬のようでした。彼らの頭には金のような冠があり、顔は人間の顔のようでした。」

7節はその象徴とともに、没落したプロテスタント陣営の行動計画を示しています。宗教団体（馬）は霊的な「戦い」のために集められていますが、それは恵みの時の終わりにのみ達成されますが、最終目標はそこにあります。この戦いは黙示録 16:16 で「ハルマゲドン」と呼ばれています。したがって、御霊が物事の現実との比較を主張していることに注目するのは適切です。彼はこれを、「like」という用語を複数使用することで実現しています。これは、関係する宗教関係者の誤った主張を否定する彼の方法です。信仰の征服者に約束された「王冠」も、真実の信仰と「似ている」だけの信仰（金）そのものも、すべては見せかけに過ぎない。これらの偽信者の「顔」は、人間の外見しか残っていないため、それ自体が欺瞞的です。この判断を表明する者は、手綱と心を調べます。彼は人間の秘密の考えを知っており、自分の現実のビジョンを彼が選んだ人々と共有します。

8節：「彼らの髪は女の髪の毛のようで、歯はライオンの歯のようでした。」

1コリント11:15によれば、女性の髪はベールの役割を果たします。そしてベールの役割は、ベールに包まれた主体の顔を隠すことです。この 8節は、その象徴を通して、キリスト教の宗教団体の誤解を招く外観を非難しています。したがって、彼らは教会（エフェソス 5:23-32 では女性）の外見（髪）を持っていますが、彼らの精神は「ライオン」の

凶暴さ（齒）によって活気づけられています。彼らの顔が人間にしか見えない理由がよくわかりました。イエスが彼らをライオンに喩えるのには理由がないわけではありません。したがって、この物語は、最初のキリスト教徒を闘技場でライオンに食べさせたローマの人々の精神状態を思い起こさせます。そして、この比較は正当化されます。なぜなら、彼らは世の終わりに、イエス・キリストの最後の真の選ばれし者を再び死刑にしたいと思うからです。

9節：「彼らは鉄の胸当てのような胸当てをしていて、その翼の音は戦いに向かう多くの馬を乗せた戦車の音のようでした。」

「胸当て」を身に着けたイエス・キリストの真の兵士の総集編の偽造を対象としています（エペソ6:14）が、ここでのこの正義は、すでにローマ帝国の象徴である「鉄」のように硬いものです。ダニエル。

「イナゴ」は活動するときに「羽」で音を立てます。したがって、ここでの比較は行動に関するものです。以下の説明は、「数頭の馬」による戦車競走がローマ人をサーキットで楽しませたローマとのつながりを裏付けています。この画像の「多くの馬」は、ローマの権威を称賛するために、ローマの「戦車」を引くために集まったいくつかの宗教団体を意味します。ローマは、他の宗教指導者を操作して誘惑によって征服する方法を知っていました。スピリットは反乱軍陣営の行動をこう要約している。そして、ローマを支持するこの集会は、日曜日の反対者、神によって聖化された安息日の忠実な観察者、そして無意識のうちに、彼らの守護者であるキリストに向けられた最後の「ハルマゲドンの戦い」に備えることとなります。

10節：「彼らにはサソリのような尾と針があり、その尾には5か月間人間に危害を加える力がありました。」

「サソリの力」というタイトルの下で「尾」という言葉が示唆されていた第 3 節のベールを取り除きます。イザヤ書 9 章 14 節を探さない人にはその意味が明らかではありませんが、この言葉は明確に引用されています。これは私の場合ではないので、この重要な鍵を思い出します。「嘘を教える預言者は尾である」。私はこれらの用語で暗号化されたメッセージを明確にします。これらのグループには、嘘つきの預言者（尾）と反抗的な預言者（サソリ）と嘘つきの舌（刺）がいて、人間に害を及ぼす力はこれらの偽預言者（尾）の中にありました。彼らを誘惑し、神によって保証された宗教的平和の150年間（5か月）ローマの日曜日を尊重するよう説得する。それは、彼らを7千年紀末の最後の審判による「第二の死の苦しみに取り返しのつかないほどさらすことになる。多くの人が休みの日の重要性を理解していないと思うと！もし彼らがこの解読されて明らかになったメッセージを信じたなら、彼らの考えは変わるでしょう。

11節：「彼らはヘブライ語でアバドン、ギリシャ語でアポリオンと名付けられた底なしの穴の天使を王として持っていました。」

より正確に言えば、神の告発は最高潮に達しています。これらの宗教団体は「深淵の天使」であるサタンを王として擁しています。 黙示録 20:3

によれば、誰が「千年」も荒地地に拘束されることになるのです。創世記 1:2

の「深い」という言葉は、生命のわずかな兆候が現れる前の地球を指します。したがって、この用語は、キリストの栄光の再臨によって荒廃し、あらゆる形態の生命が絶滅した地球を指します。彼女は「千年」の間この状態に留まり、唯一の住民はサタンが彼女を捕らえた天使だけです。黙示録 12

章で神が呼んでいるのは「竜」、そして蛇は悪魔です。そしてサタン」は、ここでは「ヘブライ語とギリシャ語、アバドンとアポリオン」という言葉を意味するデストロイヤーという名前が付けられています。御霊は、この天使がどのようにして神の働きと戦っているのかを破壊しようとしているのかを私たちに微妙に教えてくれます。

「ヘブライ語とギリシャ語」

聖書の原文の言語です。したがって、1844年にプロテスタントの信仰が崩壊して以来、この「第5回」のテーマの始まりは、

トランペット」と悪魔は聖書へのよく知られた関心を持って彼女を取り戻しました。しかし、宗教改革の輝かしい始まりとは対照的に、宗教改革は現在、神の計画を破壊するために利用されています。サタンは、抵抗の試練の時に、キリスト自身を墮落させようとして無駄に試みたことを、墮落した宗教改革者の信仰に適用し、今回は成功した。

12節：「最初の災いは過ぎ去った。その後、さらに 2
つの不幸が起こります。」

第

5

回」のこの特別なテーマが終わります。

トランペット。」この瞬間は、人類が通常の時 1994
年に入ったことを示しています。それまでは、すべての一神教の間で宗教的平和が続いていました。宗教的関与という精神的な動機で殺された人は一人もいません。したがって、5節の殺人の禁止は神の宣言どおりに尊重され、成就されました。

しかし、1994年8月3日、GIAによる最初のイスラム教宗教攻撃がアルジェのフランス大使館付近でフランス職員5名を殺害し、続いて1994年12月24日のキリスト教のクリスマス前夜にフランス航空機への攻撃で死者を出した。アルジェにはフランス人を含む3人がいる。翌年の夏、アルジェリアGIAのイスラム武装グループがフランスの首都パリのRERに対して致命的な攻撃を開始した。そして1996年にはアルジェリアのチビリンで7人のフランス人カトリック司祭が斬首された。したがって、これらの証言は、預言された「

5か月」が過ぎているという証拠を提供します。したがって、宗教戦争は再開され、栄光を受けたキリストの再臨によって特徴付けられる世界の終わりまで続く可能性があります。

第6^{トランペット} : 2番目に偉大なトランペット 「不幸」 すべての偽りのキリスト教聖性に対する第6の懲罰

第三次世界大戦

13節：「六番目の音が鳴った。そして神の御前にある黄金の祭壇の四本の角から声が聞こえました。

この6番目の警告罰は、黙示録8章13節で発表された「2番目の」大きな「災い」を構成します。それは集団的および個人的な恵みの時代の終わりに先立ち、2021年から2029年の間に達成されるでしょう。この13節で、「第6の恵み」のテーマに入ります。

「トランペット」は戦争の再開と「殺害」の許可を確認します。この新しいテーマは、「第⁵ 宗教団体」と同じ宗教団体に関するものです。

「トランペット」

前。使用されている記号は同じです。また、物事は次のように説明できます。「第⁵ 世紀の人々」

トランペットは「人を殺さない」ことに慣れており、ヨーロッパや米国の特定の州では死刑を禁止するところまで行っている。彼らは国際貿易を有利に進める方法を見つけ、それによって富を得ました。したがって、彼らはもはや戦争の支持者ではなく、どんな犠牲を払ってでも平和を守る者なのです。したがって、キリスト教徒間の戦争は排除されているように見えますが、残念なことに、第三の一神教はそれほど平和的ではありません。二本足で歩くのがイスラム教です。テロリストの行動と、その殺人行為を賞賛する他の信者の二本足で歩くのです。したがって、この対話者は永続する平和の見通しを不可能にし、創造主である神が文明と宗教の衝突がかなりの致命的な影響をもたらすことを「承認」するよう「打診」するだけで十分です。地球の残りの部分でも、各民族には伝統的な敵、つまり悪魔とその悪魔が地球全体に関して用意した分断が存在するでしょう。

しかし、ここでは、預言は特定の地域、不忠実なキリスト教徒の西部をターゲットにしています。

キリストの再臨に先立つ「最後の七つの災い」の前の最後の罰は、「第6の災い」の名の下に与えられる。

トランペット。」テーマの詳細に入る前に、このテーマが実際にアポ 8:13 でナポレオン帝国の「鷲」によって告げられた「大いなる不幸」の 2 番目であることはすでにわかっています。しかし、この意図を反映したモニタージュでは、Apo.11の予言は、この「第二の災い」という名前を、「深淵から甦る獣」と呼ばれるフランス革命に由来しているとしています。

Rev.8の「第4^{トランペット}」のテーマでもあります。したがって、聖霊は、「第4
回と第 6

回」に関係する出来事の中に密接な関係が存在することを示唆しています

。トランペット。」これらの関係がどのようなものであるかを調べていきま
す。

「 6日」のとき

「ラッパ」が鳴り響き、香壇の前でとりなしをするキリストの声が命令を
表します。

(選ばれた人々の祈りのとりなしとしての将来の天上の役割を預言した地
上の幕屋のイメージによる)。

イエス・キリストの怒りの標的となった西ヨーロッパ

14

節「そして、ラッパを持った第六の天使に言った。「ユーフラテスという
大きな川で縛られている四人の天使を解き放ってください。」»

イエス・キリストはこう宣言されました。「四人の天使を解き放っ
てください」ユーフラテスという大河に縛られた者たち』：ユーフラテ
スの名に象徴されるヨーロッパを中心とした普遍的な悪魔の力を解放する
。黙示録 7:2 によると、1844
年以來保持されている西ヨーロッパとそのアメリカおよびオーストラリア
の拡張地域。これらは、地球と海に害を及ぼす使命を与えられた四人の天
使です。解釈キーはシンプルかつ論理的です。

「ユーフラテス川」はダニエルの古代バビロンを灌漑していた川です。黙
示録 17

章では、「大いなるバビロン」と呼ばれる「娼婦」が、「民族、国家、言
語の象徴」である「多くの水」の上に座っています。

「バビロン」はローマを指しますが、関係する人々はヨーロッパの人々で
す。ヨーロッパを彼の殺人的な怒りの主な標的として指定することによっ
て、キリスト神は、ご自分を裏切り、キリストが痛ましい十字架上で耐え
た苦しみにほとんど注意を払わない人々を罰しようとしておられるので
すが、それは前の聖句が「祭壇」という言葉を引用して思い出したばかりで
す。」と、古い契約の象徴的な儀式の中でそれを預言しました。

ヨーロッパをターゲットにすることで、スピリットは自分に罪を集
中させる 2

つの国に対する復讐を指示します。これは、カトリック信仰、母教会、そ
して初代^{フランク}王クロヴィスによる建国以来、何世紀にもわたってフラン
スを大いに支援してきた長女（彼女がフランスと呼ぶ）についての物語で
す。

最初のリンクは「 4番目」

トランペット」と出てくるが、それはフランス、哲学者、無神論の自由思

想家の著作を広めることによって、地球上のすべてのキリスト教諸国に不信仰の種を蒔いた革命的民族である。しかし、フランス革命が破壊し沈黙させることになったのも教皇ローマである。レビ記 26
章でヘブライ人に提示された警告の刑罰とラッパの比較研究では、4
番目のラッパには「契約を復讐する」神の「剣」の役割が与えられていま
す。今回は「6日までに

トランペット」、イエスは罪を犯した二人の民族とそのヨーロッパの同盟
国を攻撃することによって、自ら同盟に復讐するでしょう。なぜなら、A
po.11

によれば、フランスの無神論は「喜び」、周囲の人々を「喜び」に陥れた
からです。「彼らは互いに贈り物を送り合うだろう」と私たちは

Apo.11:10

で読みました。次に、神聖なキリストは彼らに贈り物をもたらします。そ
れは通常爆弾と原爆です。これらはすべて、2019年末にヨーロッパで出現
した致死性の伝染性ウイルスに先立って行われた。注目すべき贈り物の中
には、フランスからアメリカのニューヨーク市への自由の女神の寄贈があ
ります。このモデルは非常に素晴らしかったので、フランスに続いて他の
ヨーロッパ諸国も共和制になりました。

1917年、ロシアは同じ虐殺を行うモデルを繰り返すだろう。

世界核戦争

15節：「そして、時間、日、月、年に備えて準備をしていた四人の
天使は、人間の三分の一を殺すために解放されました。」

黙示録 7 章 2 節によれば、
「地球と海を傷つける」準備ができており、「人類の 3 分の 1
を殺すために 4

人の天使が解き放たれ」、次の詳細が示されているように、その行動は計
画され、長い間待ち望まれていました。時間、日、月、年の準備ができて
いました。」さて、いつからこの刑罰が必要になったのでしょうか？ 321

年 3 月 7 日は、コンスタンティヌス 1

世によって課された太陽の日の採用が達成された日以来です。黙示録 17
章によれば、テーマは「遊女の裁き」

大いなるバビロン」、17という数字は神の裁きを象徴しています。321年
3月7日からの世紀数を適用すると、この数字は2021年3月7日の17
になります。この日から、神の呪いの最後の9年間により、「第6回」の達成
が可能になります。黙示録9:13のラッパ」。

人類の三分の一」という言及に注目してみましょう。これは、この
破壊的な第三世界の紛争が、恐ろしいものであるにもかかわらず、部分的
(第三の) 警告的な性格を保持していることを思い出させます。したがっ
て、宗教的改宗をもたらし、選出された役人がイエス・キリストに導かれ
たアドベンチストの働きに全面的に専念するよう導くのに有益である。こ

の破壊は、「第5のラッパ」の「5か月」によって預言された「150実年」の宗教的平和の恩恵を受けてきた人類を罰し、悔い改めを招くためにやって来ます。

1914年以来の世界大戦で3度目となるこの刑罰の意味を完全に理解するには、この刑罰を比較し、ユダヤ人の3度目のバビロンへの移送と比較する必要があります。

586年のこの最後の戦争介入で、ネブカドネザル王はイスラエル国家の最後の生き残りであるユダ王国を滅ぼしました。エルサレムとその聖なる神殿は廃墟と化しました。第三次世界大戦によって残された遺跡は、キリスト教同盟がヘブライ人のユダヤ同盟と同じくらい背教したという証拠を提供するだろう。したがって、この実証の後、未信者または宗教的に生き残った人々は、すべての一神教の信者に救いの最後のチャンスを与える最後の普遍的な信仰の試練にさらされることになります。しかし、創造主である神は、イエス・キリストとその聖なる土曜日の安息日、つまり唯一の真の七日目に関する真理を一つだけ教えておられます。

この世界大戦のために発表された虐殺は、「第二の不幸」のもう一つの側面を構成し、それを「第4のラッパ」のフランス革命の無神論と結びつけている。フランス、特にその首都パリは全能の神の照準の中にあります。黙示録 11 章 8

節で、彼は「ソドムとエジプト」という名前を彼に押し付けています。これは、たとえば神によって忘れられない方法で滅ぼされた古代の敵の名前です。一方は天からの火によって、もう一方は神の目のくらむ力によってです。これにより、彼が同じように恐ろしい決定的な方法で彼女に対して行動することが理解できます。私たちは真の信仰が消滅することに対する大きな責任を認識しなければなりません。宗教を憎んだ共和制政権はナポレオン1世の専制君主の手に落ち、ナポレオン1世にとって宗教は個人の栄光を引き立てるための便利な道具でしかなかった。カトリック信仰が、神の真理の原則を破壊する協定の設立によって存続できたのは、彼のプライドとご都合主義のおかげである。

人口統計の正確さ: 戦闘員は2億人

16節「軍の騎兵の数は二万数千、わたしはその数を聞いた。」

16

節は、この紛争に参加する戦闘員の数について重要な説明をしています。

「二無数の無数」、つまり2億人の兵士です。私がこの文書を書いている2021

年まで、これほどの衝突数に達した戦争はありませんでした。しかし、世界人口が 75

億人となった今日、この預言は成就する可能性があります。この聖句が提供する正確さは、この対立を過去の行動に帰するすべての解釈を非難します。

イデオロギー戦争

17節：「そして、私は幻の中で馬と、火、ヒヤシンス、硫黄の色の胸当てをしている馬と、その馬に座っている人々を見た。馬の頭はライオンの頭のようにでした。そして彼らの口からは火と煙と硫黄が出た。」

「ラッパ」の象徴、すなわち集団(馬)とそれらを指揮する者たち(騎手)が見られます。彼らの唯一の正義(胸当て)は火で焼かれる行為、そしてなんとという火だろう！核火災は、地上の地下マグマの火災に匹敵します。聖霊は、詩の終わりの表現の繰り返しの中で煙に相当するヒヤシンスの特徴を彼らに帰属させます。これはすでに前のテーマで聖徒たちの祈りを象徴しており、私たちが覚えておかなければならないのはその香りの特徴であり、そこで私たちはその言及が何を意味するかを理解します。この植物は有毒で、皮膚を刺激し、その匂いは頭痛を引き起こします。この一連の基準は、関与した戦闘員の祈りの基準を定義します。これらの祈りはいずれも創造主である神には受け入れられません。それらは彼に吐き気を催させ、深い嫌悪感を抱かせます。この本質的に宗教的かつイデオロギー的な対立には、宗教だけが関与しており、そこから完全に切り離されているが、それでも主に一神教である、ユダヤ教、カトリック、プロテスタント、正統派、イスラム教が関与していることを理解しなければならない。イザヤ書

9

章

14

節の新しい重要な象徴がここで引用されています。「頭は判事または長老である。」したがって、互いに対立するグループの先頭には、今日では共和国の「大統領」と呼ばれる治安判事があります。そして、これら的大統領は百獣の王でありジャングルの王である「ライオン」の力を授けられています。強さの意味は士師記

14:18

で与えられています。御霊はメッセージの中で、非常に強力な権威主義的で宗教に熱心な国家元首たちによって遠隔操作で進められる好戦的な取り組みが、彼らの「口」から発せられるものであると預言している。

彼らの祈りは「煙」という言葉で表されています。彼らの同じ「口」からは、「火」による破壊、「煙」による祈り、そして多数の殲滅の命令が出され、「硫黄」によってイメージされた核爆弾の使用が命令される。明らかに、聖霊は一人の人間が自由に使えるこの核戦力の重要性を強調したいのです。地球の歴史上、これほどの破壊力が一人の人間の決断に依存したことはありません。このことは確かに注目に値するものであり、強調する価値があります。しかし、この種の政治組織に住んでいる私たちにとって、これらの巨大さはもはや衝撃ですらありません。私たちは皆、ある種の集団的狂気の犠牲者です。

18 節「人間の 3 分の 1 が、口から出た火、煙、硫黄という 3 つの災いによって命を落としました。」

18

節は、「火、煙、硫黄」が神の意志による災いを構成すると述べた前の節

からこの事実を強調しています。この聖句は、人類の3分の1を殺害する命令を復讐するキリストに帰することでそれを裏付けています。

国家元首の核保有力

19節：「馬の力は口と尾にあったからです。彼らの尾は頭のある蛇のようで、それによって悪を行いました。」

馬の力は、彼らの言葉（口）と、見かけ上は欺瞞者（蛇）であった偽預言者（尾）に影響力があったからです。国家元首、治安判事（首長）に対して、彼ら（戦闘員）は彼らを通じて危害を加えた。このように定義された原則は、終わりの時代に今日普及している人々の組織に正確に対応しています。

この第三次世界大戦 誰が来るの
「ラッパ」のテーマを締めくくることが、または罰を警告することは非常に重要であるため、神は最初に古い契約のユダヤ人に、続いてダニエル 11:40-45、エゼキエル 38 章と 39 章でそれを告げられ、次に新しい契約のクリスチャンに告げられました。この契約は、この啓示録では「第六のラッパ」として、恵みの時が終わる前の最後の神の警告として語られています。それでは、ここでこれらの豊富な補完的なレッスンを発見してみましょう。

ダニエル 11:40-45

終わりの時」という表現は、ダニエル書 11:40 から 45 の預言の中で明らかにされ発展したこの最後の諸国家紛争を研究するよう私たちを導きます。私たちはそこにその組織の主要な段階を発見します。もともと、主に西ヨーロッパの領土に定着していたが、「南の王」と呼ばれる攻撃的なイスラム教は、主にカトリック教徒のヨーロッパの人々と衝突した。ダニエル書 11:36 以来、ローマ教皇カトリック信仰が預言の対象となっています。これまで言及してきたローマ教皇の指導者は「彼」という用語で示されています。「王」の称号で、彼は「南の王」であるイスラム教に「衝突」することになる。

「衝突する」という動詞の選択は正確かつ賢明です。なぜなら、同じ領域にいる者だけが互いに「衝突」するからです。そのとき、西ヨーロッパを完全な混乱とパニックに陥れた状況を利用して、「北の王」（または北）が、この獲物を捕らえるために困難を抱えて「嵐のように旋回」するであろうという恩恵を利用するのである。そしてそれを占領します。それは「多くの船」、「戦車」、そして「騎手」にすぎない戦闘機を使い、西ヨーロッパの北部ではなく、ヨーロッパ・アジア大陸の北部に住んでいます。そしてより正確には、41節が「最も美しい国々」と呼んでいることが示唆しているイスラエルの北です。関係するロシアは「騎馬民族」（コサック）であり、イスラエルの歴史的敵対者への馬の

生産者および供給者である。今回、これらすべてのデータに基づいて、この「北の王」を、1054年の公式のキリスト教の宗教分裂以来、西方教皇ローマ主義の東方の宗教的敵対者である強力な正統派ロシアと特定することが容易になります。

私たちは、第三次世界大戦の好戦的な主体の一部を発見したところですが。しかし、ヨーロッパには強力な同盟国があり、新型コロナウイルス感染症（新型コロナウイルス感染症）の出現以来、経済競争が悲惨な状況になっているため、経済競争をやや軽視してきた。無血で経済は生存をかけて戦っており、各国民はますます内向きになっている。しかし、ヨーロッパで紛争が始まると、同盟国であるアメリカは時を待って行動するだろう。

ヨーロッパでは、ロシア軍はほとんど抵抗を受けていない。北のヨーロッパの人々は次々と占領されました。フランスだけが弱い軍事抵抗を示し、ロシア軍は国の北部で食い止められた。南部では、すでにこの地域に多くのイスラム教が定着しており、深刻な問題が発生している。ある種の共通の利益に関する協定がイスラム戦士とロシア人を結びつけている。どちらも略奪品に貪欲で、フランスは豊かな国だが、経済的には破綻している。アラブ人は伝統的な遺産による略奪者です。

イスラエル側の状況は壊滅的であり、国は占領されている。それを取り囲むイスラム教徒のアラブ人、エドム、モアブ、アンモンの子供たち、つまり現在のヨルダンが救われます。

これは、エジプトがアラブ陣営を離脱してイスラエルと同盟を結ぶ1979年以前には達成できなかったことであり、当時の選択は米国の強力な支援を受けてエジプトにとって不利なものとなった。それはロシア人によって占領されています。そして、「彼女は逃げない」と明記することによって、スピリットは1979年に行われた選択の日和見的な性質を明らかにします。当時の最強の側に立つことで、彼女は自分を襲った不幸から逃れられると信じていました。そして不幸は大きく、彼女は占領中のロシア人によって富を剥奪されました。そしてそれだけでは十分ではないかのように、ロシア人に続いてリビア人やエチオピア人も略奪を行っている。

世界紛争の核段階

44

節は状況の大きな変化を示しています。西ヨーロッパ、イスラエル、エジプトを占領している間、ロシア軍は自国のロシア領土に関わる「ニュース」に怯えている。御霊は西ヨーロッパの占領に関して「東」を挙げていますが、イスラエルの占領に関しても「北」を挙げています。ロシアは最初のもの「東」にあり、

2番目のもの「北」にあります。そのニュースは非常に深刻なので、殺人的な狂気を引き起こします。ここで米国は核攻撃でロシア領土を殲滅することを選択して戦いに参戦する。その後、紛争の核段階が始まりました

。各地に猛毒キノコが発生し、全滅させて「絶滅」させる人間と動物の生命の多数」。

「第6のラッパ」の発表に従って「人間の3分の1が殺される」のはこの行動においてである。イスラエルの「山」に押し戻された「北の王」のロシア軍は、わずかな援助も受けられず、「誰も助けに来ることなく」全滅した。

エゼキエル 38 章と 39 章

エゼキエル書 38 章と 39

章も、この歴史最後の紛争を独自の呼び起こしています。この正確さのような興味深い詳細は、ロシア王を引き込み、紛争に巻き込むためにロシア王の「顎にバックルをはめる」という神の意図を明らかにするものである。このイメージは、彼の人々とともに金持ちになるという魅力的な機会を示していますが、彼はそれに抵抗することはできません。

この長い預言の中で、聖霊は基準点としてゴグ、マゴグ、ロシュ（ロシア）、メシェク（モスクワ）、トバル（トボリスク）の名前を与えてくれます。終わりの日の背景は、攻撃された人々に関する詳細によって裏付けられます。

すべて壁のない家に住んでおり、門も扉もありません（エゼキエル書 38:11）。」現代の都市は確かに完全にオープンです。そして、反対勢力は悲劇的に不平等です。御霊はここでダニエルの「北の王」の口に、今度は「来ます」という動詞を入れ、その動詞とイメージによれば大規模で急速な空中攻撃を示唆し、「嵐のように渦巻く」というイメージです。ダン.11:40のかなり離れた場所から。エゼキエルのこの預言には、関係する国々についての謎はありません。ロシアとイスラエルは明確に識別されます。この謎はダニエル書 11:36 から 45 にのみあり、ローマ教皇庁とそのヨーロッパ領土に関するものでした。そして、教皇のカトリックヨーロッパを攻撃しているロシアに「北の王」という名前を与えることによって、神はエゼキエルに与えられた啓示に言及しています。思い出していただきたいのですが、ロシアが「北」に位置するのは主にイスラエルの地理的位置に関係しています。実際、それはローマカトリック教皇の西ヨーロッパの位置の「東」にあります。したがって、聖霊が「東」からの悪い知らせの到着を突き止めるのは、彼らが占領し支配するこの教皇のヨーロッパにおけるロシア軍の位置を確認するためである。

「わたしは彼とその軍隊に火と硫黄の雨を降らせる(エゼキエル書38:22)」
。「私はマゴグに火を送ります」とエゼ書 39:6
にあります。ここに、ダニエル 11:44
の「北の王」を激怒させる悪い知らせの原因があります。ダニエルのように、ロシアの侵略者は追い詰められ、イスラエルの山々で滅ぼされます。
「あなたとあなたのすべての軍隊はイスラエルの山々に倒れます(エゼキ

エル書

39:4)」。しかし、この行動の発端となった米国の正体には謎が隠されています。私はエゼ書 39:9 に非常に興味深い詳細を見つけました。この文章は、この恐ろしい世界的紛争で使用された武器を燃やすことによって「7年間」火が続く可能性を想起させます。木材はもはや現代兵器の原材料ではありませんが、言及された「7年」はこの戦争の激しさと武器の量を反映しています。2021年3月7日の時点で、キリストの再臨まであと9年しかありません。最後の国際紛争が起こる神の呪いの最後の9年間。生命と財産をひどく破壊する戦争。12節によれば、ロシア人の死体は「7か月間」埋葬されるという。

恐ろしく容赦のない神の正義

多くの死体があり、神はエゼキエル書 9章で、彼が組織する野蛮な虐殺のアイデアを私たちに示しています。なぜなら、2021年から2029年の間に予想される第三次世界大戦は、586年にネブカドネザルが古代イスラエルに対して主導した第三次世界大戦の対型だからです。偉大な創造主である神が、エゼク語で民に挫折し軽蔑されながら命じられたことは次のとおりです。9:1～11:

「エゼ

9:1それから彼は私の耳の中で大声で叫びました。『近づきなさい、町を罰する者よ、それぞれが手に破壊の道具を持って来なさい!』

エゼ

9:2すると、見よ、六人の男が北側の上の門からやって来て、それぞれ手に破壊の道具を持っていた。その中には、リネンの服を着て、ベルトに筆記用具を入れた男性がいました。彼らはやって来て、真鍮の祭壇の近くに立った。

エゼキエル

9:3イスラエルの神の栄光が、その上に乗っていたケルブから立ち上がり、家の敷居まで行った。そして彼は亜麻布を着て、ベルトに筆記用具を入れた男を呼びました。

Eze.9:4 主は彼に言われた、「町の真ん中を通り抜け、エルサレムの真ん中を通り抜け、そこで行われているすべての忌まわしい行いのゆえにため息とうめき声を上げている人々の額に跡を残せ。」

エゼ書

9:5

そして私の聞いているところでは、彼は残りの者たちに言った、「彼の後を追って街に入り、撃ちなさい。憐れみを持たず、憐れみを持たないようにしましょう。」

エゼキエル

9:6老人も若者も処女も子供も女も殺して滅ぼせ。ただし、その印のある

人には近づいてはなりません。そして私の聖域から始めましょう！彼らは家の前にいた長老たちから始めました。

エゼ

9:7そこでイエスは彼らに言った、「家を汚し、法廷を殺された者で満たしなさい。出て行け！...彼らは出て行って街を攻撃した。

エゼ

9:8彼らが打ったとき、私はまだ残っていたので、ひれ伏して、「ああ！」と叫びました。主なる神よ、あなたはエルサレムに怒りを注ぎ、イスラエルに残っているものをすべて滅ぼすつもりですか？

エゼ

9:9すると彼は私に言った、「イスラエルとユダの家の咎は大きい、非常に大きい。土地は殺人で満ちており、都市は不正で満ちている、と彼らは言う、「主はこの地を見捨てられた、主は何も見っていない」と。

エゼ

9:10私も憐れみを持ちませんし、憐れみも持ちません。私は彼らの作品を彼らの頭に載せてやろう。

エゼ

9:11すると、見よ、亜麻布を着て、腰帯に筆記用具を入れたその人は、こう答えた。「私はあなたの命令どおりに行いました。」»

宗教上の理由で殺された人全員が信仰への殉教者というわけではありません。このカテゴリーには、おそらく自分たちの宗教のためだけでなく、政治的またはその他のイデオロギーのために命を捧げる準備ができていた狂信者がたくさんいます。信仰の真の殉教者は、第一に、そして専ら、イエス・キリストにあります。そして、その死の前にその時代に明らかにされた要求に適合する人生を送った場合、それは必然的に、その犠牲として捧げられた人生が創造主神のみを喜ばせる選ばれた者となる。

では、「第6回」というテーマで、

「トランペット」は、戦後の時代の道徳的文脈を呼び起こします。

生存者の無念

多くの人が考え、恐れていることとは異なり、核兵器は破壊的ですが、人類を滅ぼすことはありません。なぜなら、紛争が終わっても「生存者」は残るからです。戦争に関して、イエスはマタイ 24:6で次のように言われました。しかし、まだ終わりではありません。»

人類の滅亡は、イエス・キリストとしての栄光の帰還後の創造主の神の行為によるものです。生き残った者は最後の信仰の試みを受けなければならないからです。原子兵器が初めて使用された1945年以来、原子兵器を所有する地上勢力による実験のために2000回以上の爆発が行われた。75年という長い年月にわたって続いてきたことは事実であり、地球は限りあるとはいえ広大であり、人類が地球に与える打撃に耐え、支えています。逆に、来るべき核戦争では、短期間に爆発が多発し、放射能が飛散し、地

地球上の生命の存続は不可能になります。神聖なキリストは再臨することによって、死にゆく反抗的な人類の苦しみに終止符を打つでしょう。

20節：「これらの疫病で命を落とさなかった残りの人たちは、悪霊や、見ることもできない金、銀、青銅、石、木の偶像を崇拜しないよう、自分たちの手の業を悔い改めませんでした」聞くことも歩くこともありません。」

20節で、御霊は生き残った民がかたくなになることを預言しています。

「これらの疫病によって殺されなかった他の人々は、自分たちの手の業を悔い改めませんでした。」帝国の時代に発表された「第二の災い」は確かに神の「疫病」を構成しますが、それは黙示録 15章の猶予期間の終了後に罪を犯した罪人に降りかかる「最後の七つ」に先立ちます。これらの「疫病」はすべて、全能の創造主である神が創造した時の秩序に反したローマの侵略を罰したものであることをここで思い出させる必要があります。

「...彼らは悪魔や、見ることも聞くことも歩くこともできない金、銀、青銅、石、木の偶像を崇拜することをやめませんでした。」

この列挙において、御霊は、この偶像崇拜的な宗教の信者の崇拜の対象であるカトリック信仰のカルト的なイメージを対象としています。これらの彫像は、まず「聖母マリア」を表し、その後ろには多かれ少なかれ匿名の聖人たちが描かれています。これは、誰もが自分の好きな聖人を選ぶ自由が大きいからです。この大規模な市場は 24時間営業しており、あらゆる脇の下に適したパッドをあらゆるスタイルとサイズで提供しています。そして、この種の慣行は、ゴルゴタの十字架で苦しんだ人を特にイライラさせます。また、彼の復讐は恐ろしいものになるだろう。そしてすでに、2018年に選挙で選ばれた役人たちに2030年に向けた力強く輝かしい復帰を知らせた後、2019年からは致死性の伝染性ウイルスで地球の罪人たちを襲った。これはこれから起こる彼の怒りのほんの小さな兆候にすぎませんが、我々はすでに彼に、本家西洋の歴史の中で前例のない経済的破滅を負わせているので、彼はすでに有効性を持っています。そして、それらが滅びると、国々は争い、そして戦い、戦います。

神による非難はますます正当化されます。なぜなら、真の神は、イエス・キリストの出現において、人間の中に肉体をとって来られ、彫刻や成形された偶像とは異なり、人間の一人として「見、聞き、市場に出した」からです。それができないのです。

21節：「そして彼らは、自分たちの殺人も、魔術も、淫行も、窃盗も悔い改めませんでした。」

21節でテーマは終わります。聖霊は「彼らの殺人」を呼び起こすことによって、最終的には神に聖別された聖なる安息日の忠実な観察者の死を要求する致命的な日曜日の律法を描写しています。

「彼らの魔法」を引き合いに出して、主は自分の「日曜日」、この偽りの

主の日、そして正真正銘の異教の「太陽の日」を正当化する人々によって尊敬されているカトリック教徒の大衆をターゲットにしています。聖霊は「彼らの厚かましさを思い出すことによって、黙示録 2:20の偽りの「女預言者イゼベル」のカトリックの「淫行」の後継者としてプロテスタントの信仰を指摘します。そして彼は、「彼らの窃盗」を彼らに帰すことによって、まず、イエス・キリストご自身に対して行われた霊的窃盗を示唆している。ダニエル書 8:11によると、教皇王はイエス・キリストから「永遠の」神権とその正当な称号を奪ったのである。エペソ書 5:23の「議会の長」から正当化される。ダニエル書 7:25 によると、「時とその法」の順序も同様です。これらの高度に精神的な解釈は、通常の文字通りの適用を排除するものではありませんが、神の裁きと有罪の著者に対するその結果においては、それらをはるかに超えています。

黙示録 10:開かれた小さな本

キリストの再臨と反逆者への懲罰

小さな本とその結果

第4回アドベンチストの待ちの終わりにキリストが再臨される

1節：「私はまた別の力強い天使が雲に包まれて天から降りてくるのを見た。彼の頭上には虹があり、顔は太陽のようで、足は火柱のようでした。」

第

10

章は、これまでに確立された霊的状况を簡単に確認します。キリストは神聖同盟の神の姿で、洪水の後にノアとその子孫に与えられた「虹」の姿で現れます。それは、激流によって地上の生命を二度と破壊しないという神の約束のしるしでした。神は約束を守りますが、ペテロの口を通して、地球は今「火のために蓄えられている」と発表されました。火の洪水。この事は、7千年紀の最後の審判の時にのみ達成されるでしょう。しかし、火はまだ神がソドムとゴモラの谷の都市に対して使用した兵器であるため、人々の命を破壊し終えていません。この現在の章では、御霊は「第6回」の後の出来事を簡単に説明します。

トランペット。」この章は、復讐するキリストの栄光ある帰還のイメージで始まります。

予言が完全に解けた

2

節:

「彼は手に開いた小さな本を持っていました。彼は右足を海に置き、左足を地に置きました。」

黙示録

1

章

16

節によると、この本の冒頭から、イエスは神聖な「太陽」の崇拜者たちと戦うためにやって来ます。シンボルの役割はより明確になります：「彼の顔は太陽のようでした」そして彼の敵である「太陽」の崇拜者はどうなるのでしょうか？答え：彼の歩み、そして彼らは災いです！なぜなら「彼の足は火柱のようなもの」だからです。したがって、聖書のこの節は成就します。「わたしがあなたの敵をあなたの足台にするまで、わたしの右に座っていないさい（詩篇110:1、マタイ22:44）」。彼らの罪悪感は、イエスが帰還する前に、黙示録5章1節から7節でまだ閉じられたままになっている「第7の封印」の封印を1844年以来解いて黙示録の「小さな本を開いた」という事実によってさらに増しました。1844年から2030年の間に、この第10

章で論じた文脈の年に、安息日の理解と意味が完全に解明されました。また、この時代の男性には、彼を尊敬しないという選択をする言い訳の余地はありません。その後、

「小さな本」はキリストの聖霊によって「開かれ」ましたが、太陽崇拜者たちはそれとは何の関係もありませんでした。

2節では彼らの運命が描かれています。この聖句に見られる「海と陸」の象徴の意味を理解するには、神がそれらを西暦2000年間に現れる2匹の霊的な「獣」に結び付けている黙示録13章を研究する必要があります。最初の「海から現れる獣」は、君主制とローマ・カトリック教皇という最初の

歴史的形態における、市民権力と宗教権力の連合による非人道的な、したがって獣的な政権を象徴している。これらの君主制は、Dan.7

では「小さな角」、Rev.12、13、17では「7つの頭」によってローマを指定するシンボルと関連付けられた「10本の角」によって象徴されています。この「獣」は、神の価値観の判断に従って、ダニエル 7

章で引用されているシンボル、つまりローマ帝国の前身帝国を、ダニエル 7 章とは逆の順序で表示します: ヒョウ、クマ、ライオン。したがって、「獣」それ自体がダニエル 7:7 のローマの怪物です。しかしここ、黙示録 13

章では、「十本の角」に続く教皇の「小さな角」の象徴が、ローマ人のアイデンティティの「七つの頭」の象徴に置き換えられています。そして御霊は彼に「冒瀆」、つまり宗教上の嘘を押しつけます。

「十本の角」の上にある「王冠」の存在は、ダニエル 7:24 の「十本の角」が統治した時代を示しています。したがって、それは「小さな角」または「別の王」自体が活動する時期でもあります。

「野獣」が特定され、続編がその未来を発表。彼女は「1回、2回、半回」自由に行動します。この表現は、ダニエル 7:25 と黙示録 12:14 では預言的な 3 年半、または実際の 1260 年を示しています。「1260日」- 年の形でわかります または黙示録 11:2-3、12:6、および黙示録 13:5 の預言的な「42 か月」。しかし、この第 13 章の 3 節で、聖霊は、まさに 1789 年から 1798 年の間にフランスの無神論によって、彼女が「まるで死ぬほどの傷を負ったかのように」打たれるだろうと告げています。そして、ナポレオン 1 世の協約のおかげで

「彼女の致命傷は、癒されました。」したがって、神の真理を愛さない人は、魂と体を殺す嘘を尊重し続けることができます。

日々の終わりには、最初の「海から上がってきた獣」の映像が現れます。この新しい獣は、今度は「地から現れる」という事実によって区別されます。

「地」が「海」から出てくるという創世記のイメージに頼って、御霊はこの2番目の「獣」が最初の「獣」から出てきたと微妙に告げ、いわゆるカトリック教会が改革されたことを示しています。プロテスタントの改革派信仰の正確な定義。

2021年現在、中国はすでに地球上で最大の軍事大国となっており、1944～45年に日本とナチス・ドイツに勝利して以来権威となっている。これはもちろんアメリカで、元々は主にプロテスタントでしたが、現在ではヒスパニック系の移民が積極的に受け入れられているため、主にカトリックが主流となっています。聖霊は、

「彼の前で最初の獣崇拜」をしたとして彼を非難することによって、ローマの日曜日の彼の遺産を非難します。これは、宗教的なラベルが誤解を招

くことを示しています。現代のプロテスタントの信仰は、このローマの遺産に深く執着しているため、拘束力のある法律を公布し、当初は商業ボイコット、最終的には死刑という制裁を科せられた上で日曜日の休息を義務付けることまでしようとしている。日曜日は、ローマの「獣」、最初の「獣」の權威の「しるし」として指定されています。そして、「666」という数字は、タイトル「VICARIVS FILII DEI」の文字を足したもので、御霊が「獣の数字」と呼ぶものです。計算してみると、次のような数字が得られます。

ビシビリディ

$$5 + 1 + 100 + 1 + 5 = 112 + 1 + 50 + 1 + 1 = 53 + 500 + 1 = 501$$

$$112 + 53 + 501 = 666$$

重要な説明：マークは、「手」が仕事、行為を象徴し、「額」がそれぞれの生き物の意志にとらわれない個人的な意志を示す限り、「手」または「額」にのみ受け取られます。エゼ 3:8
 が私たちに告げているように、「わたしはあなたの額をかたくなにして、あなたが彼らの額に対抗するようにしよう。」

、正義の神なる裁判官であるイエス・キリストの将来の「足台」が明確に示されています。そして、「右足」と「左足」の優先順位を微妙に示すことによって、御霊はどちらがより有罪であると考えてるかを示します。燃える「右足」はローマ教皇のカトリック信仰のためのものであり、黙示録 18:24

によると、神は「地上で殺されたすべての者」の流した血をその信仰の賜物とされています。したがって、彼が怒りを優先するのは当然のことだ。そして、同様に罪を犯しているのは、カトリックの最初の「獣」の「像」を創造することによって、それを模倣したということであり、「地球」と呼ばれるプロテスタントの信仰は、イエス・キリストの「左足」から火を受けるのです。こうして、彼の救いの介入なしに流されることになっていた、最後に選ばれた聖徒たちの血に復讐するのである。

3節：「そして、ライオンが吠えるように、大声で叫びました。彼が叫ぶと、七つの雷が声を発した。」

「七つの雷の声」によって宣言された、4節から7節に隠され、あるいは封印されていた秘密が今明らかになります。したがって、神の「声」は、神の聖化を象徴する数字「7」に関連付けられた「雷」の音と比較されます。この声は、長い間隠され、人々によって無視されてきたメッセージを宣言します。今年は、私たちの神聖で崇高な主イエス・キリストが栄光のうちに再臨される年です。この日付は2018年に選出された役員らに明らかにされた。これは 2030年の春であり、30年4月3日のイエスの贖いの死以来、神が選民を選ぶために計画した6000年間のうちの2000年間の3分の1が終了します。

4節：「そして、七つの雷が声を発したとき、私は書きに行きました。そして私は天からこう言う声を聞いた、「七つの雷が言ったことを封印し、それを書いてはならない」。」

このシーンでは、神には 2 つの目的があります。第一に、神が本当に世の終わりの時を定められたことを、選ばれた者は知らなければならないということです。それは本当に隠されているわけではありません。それは、私たちが週のうちの6つの冒流的な日によって預言されている6000年の計画に対する私たちの信仰に依存しているからです。

2 番目の目標は、この日付自体が理解への道を開く時まで、この日付の検索を思いとどまらせることです。これは、1843年、1844年、1994年に、イエス・キリストが提供する永遠の正義から恩恵を受けるに値すると思われる選民を選別し選択するのに役立つ3つのアドベンチストのテストのそれぞれで達成されました。

5節「そして、海と地の上に立っているのを私が見た天使は、右手を天に向かって上げた。」

偉大な勝利を収めた裁判官のこの態度において、敵の上に足を置き、イエス・キリストは神聖に彼を縛る厳粛な誓いを立てるでしょう。

6節：「そして、永遠に生き、天とそこにあるもの、地とそこにあるもの、そして海とそこにあるものを創造された方にかけて、「もっと時間があれば」と誓った。」

イエス・キリストの誓いは創造主である神の名においてなされ、黙示録 14:7

の最初の天使の命令を尊重する選ばれた者に向けられています。これは、神の創造行為に栄光を与える神の第四の戒めを守ることによって、彼らの従順を通して神に対する「恐れ」を実証することによってです。

「もう時間はない」という言葉は、神がご自分の計画の中で、1843年、1844年、1994年の3つの無駄なアドベンチスト派の期待を計画していたことを裏付けています。すでに述べたように、これらの無駄な期待はキリスト教信者をふるい分けるのに役立ちました。なぜなら、彼らの結果は空しいものであったとしても、彼らが経験したものにとっては劇的で霊的に死すべきものであり、あるいは選ばれた人々にとっては彼らの祝福と神による聖化の原因となったからである。

黙示録 8 章 13 節に預言された第 3 の大きな不幸の知らせ。

7節：「しかし、第七の天使の声が聞こえる日、彼が（ラッパを）鳴らすとき、神の奥義は、神がその僕たち預言者たちに告げたように達成されるでしょう。」

預言的な年代を構築する時代は終わりました。預言されたデータによって確立されたものは、1843年から1844年にはプロテスタントの信仰を、1994年にはアドベンチストの信仰を次々と試すという役割を果たした。

したがって、今後は、偽りの日付や誤った期待はなくなるだろう。 ;
2018年から始まったニュースは良いものであり、選ばれた人々は救いのた
めに、神の正義のキリストの介入を示す「第7のラッパ」の音を聞くこと
になるでしょう。黙示録 11 章 15
節によれば、「世の王国は私たちの主とそのキリストに引き渡され」、し
たがって悪魔から奪われた時です。

預言の宣教の結果とその時期

8節：「そして、天から聞いた声が再び私に語りかけ、こう言いま
した。「行って、海と地の上に立っている天使の手にある小さな本を開い
てください。」»

8節から11節は、暗号化された預言を平易な言葉で伝える任務を負
った召使の使命の経験を示しています。

9節：「そして、私は天使のところに行き、小さな本をくれるよう
に言いました。そして彼は私に言った、「それを受け取って、飲み込んで
ください。」内側は苦いですが、口に入れると蜂蜜のように甘いです。
」。

まず「腸の痛み」は、反抗的なクリスチャン側の提案された光の拒
否によって引き起こされる苦しみと苦悩を非常によく表しています。これ
らの苦しみは、日曜日律法の時代に信仰の最後の試練として頂点に達し、
そこでは選ばれた人々の命が死の脅威にさらされることとなります。なぜ
なら、光とその寄託者は最後まで、悪魔と彼の天上および地上の悪魔、こ
の「破壊者」、黙示録 9:11
の「アバドンまたはアポリオン」の意識的または無意識的な同盟者たちと
戦うことになるからです。 “の甘さ

ハニー」はまた、真理を渴望する真の選ばれた人々と分かち合う神の神秘
を理解する幸福を完璧にイメージしています。これほど自然な甘さを凝縮
した製品は地球上に他にありません。通常、人間は自分にとって心地よい
この甘い味を評価し、求めます。また、キリストに選ばれた者は、神の指
示だけでなく、愛と平和の甘美な関係を神に求めます。

神の御霊は、ご自身の啓示「黙示録」（＝黙示録）に「蜂蜜の甘さ
」を与えることで、それを「蜂蜜の味」を持ち、古代の砂漠でヘブライ人
を養った「天のマナ」と比較しています。カナン人から奪われた約束の地
に彼らが入る40年前。ヘブライ人がこの「マナ」を消費しなければ生き延
びることができなかったのと同じように、黙示録 9:5-10
で預言されている「 5 か月」の終わりである 1994
年以来、アドベンチストの信仰はこの最後の預言的な霊的「 から養うこ
とによってのみ生き残ることができます。食べ物」（マタイ
24:45）「イエス・キリストの栄光の到来の適切な時に備えて」用意され
たものです。真理の神が私に与えてくださったこの安息日の朝、2021年1

月16日（ただし神にとっては2026年）の第4^{時間}にのみ悟るように教えてくださったこの教えは、ある日、預言の研究について私に尋ねた人に答えるのに役立ったでしょう。」それは私にとって何の役に立つのですか？」
イエスの答えは短くてシンプルです。それは、霊的な死を逃れるための霊的な生活です。もし御霊が「ケーキ」のイメージを取り上げず、「蜂蜜の甘さ」だけを取り上げたとしたら、それはヘブライ人の肉体的な生活がこの「マナ」という食べ物に関係していたからです。黙示録に関して言えば、食べ物は選ばれた者の精神のためだけのものです。しかし、この比較では、それは霊的生活を維持するための条件として、生ける神によって必要であり、不可欠であり、要求されているように見えます。そして、この要求は理にかなっていません。なぜなら、神は終わりの日の神の僕たちに無視され、軽蔑されるようにこの食物を用意したわけではないからです。それは、イエス・キリストの犠牲と聖晩餐の最後の形と最終的な成就以来、最も神聖化された要素を構成します。」イエスは選ばれた人々に食べ物、体、そして預言的な教えを与えました。

10節：「私は天使の手から小さな巻物を取り、飲み込みました。口の中は蜂蜜のように甘かったが、飲み込むと中は苦みで満たされた。」

実体験の中で、召使は孤独の中でイエスが預言されたまばゆい光を発見し、実際に初めて「蜂蜜の甘さ」、つまり蜂蜜の甘い甘さに匹敵する心地良い喜びを発見しました。しかし、私がそれを伝えようとしたアドベンチストの会員や教師たちが示した冷たさは、私の体に大腸炎と呼ばれる本物の腹痛を引き起こしました。それで私はこれらのことが霊的にそして文字通り成就することを証します。

しかし、別の説明は、預言の光が照らされる最後の時代に関するものです。それは平和な時代に始まりますが、戦争と殺人的恐怖の時代に終わります。ダニエル 12:1
はそれを「諸国民の始まり以来この時まで経験したことのないような困難の時」と預言しました。これは「腸の痛み」を引き起こすのに十分です。特にラム 1 章

20節に次のように書かれて以来です。私は反抗的だったので、私の内側は沸騰し、私の心は私の中で動揺しています。外では剣が死の中で大惨事を引き起こした。
»エレミヤ4:19

にもこうあります。私の内面：私は心の中で苦しみ、心臓が高鳴り、沈黙することができません。私の魂よ、ラッパの音、戦争の叫びが聞こえます。
»

「内臓」の苦みは、アドベンチストの最後の使命と預言者エレミヤに託された使命との比較を描いています。どちらの経験でも、選出された役人は当時の反逆的な支配者に対する周囲の敵意の中で働いています。エレミヤと最後の真のアドベンチストは、当時の民間指導者や宗教指導者が犯した罪を非難し、そうすることで、イエス・キリストの栄光の再来によって特

徴付けられる世界の終わりまで、罪を犯した人々の怒りが彼らに向けられます。黙示録 19:16 の「王の中の王、主の中の主」。

黙示録の最初の部分の終わり

この最初の部分では、プロローグと 3 つの並行テーマ、7 つの教会の天使に宛てた手紙、7 つの封印または時代のしるし、そして 6 つのラッパまたは神の憤りによって呼び起こされた警告の罰が見つかりました。

11節：「そして彼らは私に言った、「あなたは多くの民族、国々、
国語、王について再び預言しなければなりません。」」

11 節は、神が準備された 6000 年間の計画のうち、最後の 2000 年の全体の内容を確認しています。イエス・キリストの輝かしい再臨の時期に到着すると、預言の喚起は、第 11 章で別のテーマの下でキリスト教時代の概観を再開します。「あなたは、多くの民族、国家、言語、王について再び預言しなければなりません。」

黙示録の第二部の冒頭

この第 2
部では、キリスト教時代の概観と並行して、聖霊はこの本の第 1
部ですでに述べた重要な出来事を対象としますが、ここ、第 2
部では、聖霊は、次の点についてより発展した方法で私たちに判断を明らか
かにします。それぞれのテーマ。ここでも、各章では異なる、しかし常に
補完的なシンボルと画像が使用されます。これらすべての教えをグループ
化することによって、預言は対象となる主題を特定します。ご覧のとおり
、ダニエル書以来、預言の章を並列させるというこの原則は、啓示の御霊
によって適用されてきました。

黙示録 11、12、13

これら 3
つの章はキリスト教時代を並行して扱い、さまざまな出来事に光を当てて
いますが、常に非常に補完的です。テーマを要約してから詳細に説明しま
す。

黙示録 11

教皇の統治 - 国民の無神論 - 第7 のラッパ

1～2 節: カトリック教皇の偽預言者の 1260 年間の統治: 迫害者。

3 節から 6 節: この不寛容で迫害的な統治の間、神の「二人の証人」
、二つの契約の聖典は、西ヨーロッパの君主国と同盟を結んだローマの宗
教連合である「野獣」によって苦しめられ、迫害されるだろう。。

深淵から甦る獣」、あるいは「フランス革命」と人類史上初めて現
れた国家無神論を主題としています。

第7 のラッパ」の部分展開が主題となります。

教皇統治の役割

1 節: 「そして彼らは、棒のような葦を私に渡して、「立って、神
の宮、祭壇、そしてそこで礼拝する人々を測りなさい。」と言いました。

»

杖」という言葉によって明らかになる刑罰の時間です。この刑罰は
「罪のゆえに」正当化され、民事的には321年以来、宗教的には538年から

復活している。この2回目の日付以降、罪は教皇政権によって課せられており、ここではイサの「嘘を教える偽預言者」を示す「葦」に象徴されている。 9:13-14。このメッセージはダニエル書 8:12

のメッセージをイメージしています。「軍隊は罪のゆえに永久のものとして引き渡された」。この中で「軍隊」とはキリスト教の議会、「永久のもの」、つまりキリスト教会によって剥奪されたイエスの神権を指している。これは、さまざまな側面や象徴で何度も繰り返されたメッセージの繰り返しにすぎません。これは、神がローマ教皇政権の確立に与えた懲罰的な役割を裏付けるものです。動詞「*measure*」は「判断する」という意味です。したがって、罰は「神殿」に対する神の裁きの結果です。

「神の」、キリストの集団集会、彼の犠牲の十字架の象徴である「祭壇」、そして「そこで礼拝する人々」、すなわち彼の救いを主張するキリスト教徒。

2 節「しかし、神殿の外庭は残しておいてください」
屋外で測定しないでください。それは諸国民に与えられたものであり、彼らは四十二か月にわたって聖なる都をその足で踏みにじるであろうからである。」

この聖句で重要な言葉は「外」です。これだけが、ここで「42か月」として示されている1260日年という統治のイメージに関係するローマ・カトリックの表面的な信仰を示しています。

「真の選民のイメージ」である「聖なる都」は、1260年の長い不寛容な治世中にカトリックの「イゼベル」と姦淫を犯した「教皇専制政権と同盟を結んだ国々やヨーロッパ諸国の王たち」によって踏みにじられることになるだろう。この節で神は、ヘブライ語の聖所、すなわちモーセの幕屋とソロモンが建てた神殿の象徴に頼ることによって、真の信仰と偽りの信仰の違いを明らかにしています。どちらの場合も、「神殿の外の中庭」で、犠牲の祭壇と清めの洗面器という肉欲的な宗教儀式が見られます。真の霊的神聖さは寺院の内部で見られます。そこには、7

つのランプが付いた燭台、12

個の聖パンのテーブル、そして最も神聖な場所を隠すベールの前に置かれた香の祭壇、つまり天国の像がある聖なる場所にあります。神は王座に座っておられます。キリスト教の救いを求める志願者の誠実さは神のみぞ知るですが、地上では人類は、ローマ・カトリック信仰がこの時代のキリスト教の歴史の中で最初に代表する「外面的な」宗教に騙されています。

神の言葉である聖書が迫害される

3節：「わたしは二人の証人に、荒布を着て千二百六十日間預言する権限を与えます。」

1260日」という形で確認されているこの長い統治の間、「二人の証人」によって象徴される聖書は、宗教改革の時まで部分的に無視されるこ

とになるが、宗教改革の時は剣で支持する教皇に有利なカトリック同盟によってさえ迫害されることになる。。「荒布を着た」像は、聖書が 1798 年まで続く苦難の状態を示しています。なぜなら、この期間の終わりには、フランスの革命的無神論が公共の場で聖書を焼き払い、完全に消滅させようとするからです。

4節：「これらは地の主の前に立つ二本のオリーブの木と二本の燭台です。」

これらの「

2本のオリーブの木と2本の燭台」は、神が救いの計画の中で組織された2つの連続する同盟の象徴です。聖書とその二つの同盟の文書がその遺産である彼の聖霊を伝える2つの連続した宗教的経緯。二つの同盟の計画は、ゼカエル 4:11 ~ 14 で「燭台の左右に置かれた 2本のオリーブの木」によって預言されました。そしてすでに、3節の「二人の証人」に先立って、神はゼカリヤの証言の中で彼らについて次のように言われました。「これらは全地の主の前に立つ二人の油の子である。」この象徴において、「油」は神の御霊を表します。

「燭台」は、象徴的な燭台がその「燭台」に含まれる油を燃やすことによって光を拡散させるのと同じように、人間の体に御霊の光を聖化 (= 7) でもたらし、その知識を人々に広めるイエス・キリストを預言しています。7つの」花瓶。

注： 「 7

つの」ランプが付いた「燭台」は中央の花瓶の中央にあります。これは、復活祭週の 4 日の週の真ん中のようなもので、イエス・キリストがその償いの死によって「犠牲と供え物」を中止した日であり、ヘブライ語の宗教儀式に従っています。神の計画はダニエル書 9:27 で預言されています。したがって、7つのランプの「燭台」にも預言的なメッセージが込められていました。

5節：「もし誰かが彼らに危害を加えようとするならば、彼らの口から火が出て敵を焼き尽くします。そしてもし誰かが彼らに危害を加えようとするなら、その人はこの方法で殺されなければなりません。」

ここで、黙示録 13:10

にあるように、神は真に選ばれた者に対して、聖書とその大義に対して害を与えたために自らを罰することの禁止を確認しています。それは彼が自分だけのために取っておく行動だ。悪は創造主の神の口から出ます。神は私たちが「神の言葉」と呼ぶ聖書とご自身を同一視しているので、神に危害を加える者は誰でも直接神を攻撃します。

6節：「彼らは空を閉ざす力を持っているので、彼らの預言の日に雨が降らないようにします。そして彼らは、いつでも水を血に変え、あらゆる種類の疫病で地球を襲うことができる力を持っています。」

御霊は聖書に記されている事実を引用しています。彼の時代、預言者エリヤは、神の言葉がなければ雨は降らないということを神から得てい

ました。モーセは彼の前で、水を血に変え、10の災いで地を襲う力を神から受け取りました。黙示録 16
章によれば、終わりの日には、書かれ靈感を受けた神の言葉に対する軽蔑が、同じ種類の疫病によって罰せられるため、これらの聖書の証言はなおさら重要です。

フランス革命の国民的無神論

暗い光

7節：「彼らが証言を終えると、深みから上がってくる獣が彼らと戦い、彼らに打ち勝ち、彼らを殺します。」

御霊はここで私たちに、注目すべき重要なことを明らかにします。

1793

年は聖書の証言の終わりを示しますが、誰のためのもののでしょうか?信仰の支援に関して聖書の神の権威を拒否して聖書を迫害した当時の彼の敵たちのため。すなわち、君主、君主制貴族、ローマ・カトリック教皇政権およびそのすべての聖職者である。この日、神はまた、実際にすでに神の教えを考慮に入れていない偽のプロテスタント信者たちも非難します。ダニエル 11:34 の裁きの中で、神は彼らに「偽善」があると非難しています。

»

これは完成した聖書の証言の最初の部分にすぎません。なぜなら、1843年には、アドベンチストの預言を発見するよう選挙で選ばれた人々を招くことによって、聖書の役割が再び極めて重要になるからです。フランスにおける国民的無神論の確立は聖書を標的にし、それを消滅させようとするでしょう。血みどろの「ギロチン」をふんだんに使用することで、今度は「深淵から甦る」新たな「獣」となる。創世記 1 章 2 節の創造物語から借用したこの用語によって、聖霊は、創造者である神が存在しなければ、地球上に生命は誕生しなかつたらろうということを私たちに思い出させます。

「深淵」とは、住人を奪われ「形もなく空」となった地球の象徴である。

創世記 1 章 2

節によれば、それは「初めに」そうであり、世の終わり、イエス・キリストの栄光の再臨の後、

「千年」にわたって再びそうなるであろう、それがテーマである。これに続くのがこの第 11

章です。政治的混乱と最大の無秩序の中で誕生した共和制政権にとって、元の混乱とのこの比較は当然のことです。なぜなら、反政府勢力は破壊するために団結する方法を知っているが、再建に与えられるべき形式については大きく意見が分かれているからである。この証言は、人類が神から完全に切り離されたときにも実を結ぶことができることを示しています。その有益な作用が奪われます。

しかし、創造主である神の霊は、それに「深淵」という名前を付けることで、私たちの地球の最初の創造の背景と状態も示唆しています。このようにして、この創造の最初の日を対象として、彼は地球が完全な「暗闇」に陥っていることを私たちに示します。その瞬間、神はまだ地球にどの星の光も与えていなかったからです。そしてこの考えは、この「深淵から昇る獣」を、「荒布のように黒い太陽」として描写されている黙示録6章12節の「第四の封印」と霊的に結びつけます。この関係は、黙示録8章12節の「第4のラッパ」とも関係があり、「太陽の3番目、月の3番目、星の3番目の打撃」によって説明されています。これらのイメージを通して、聖霊はそれが特に「暗い」性格であると考えます。しかし、フランスが自由な思想家たちに「啓蒙」という称号を与えて称賛するのは、この側面とこの「暗い」状態においてである。そこで私たちは、マタイ6章23節で引用されているイエス・キリストの言葉を思い出します。「しかし、目が悪くなると、全身が暗闇になります。もしあなたの中にある光が闇であるなら、その闇はどれほど大きいことでしょう。」

このようにして、暗い自由思想が宗教精神と戦争を始め、この新しい自由主義精神は時を経て西洋世界に広がり...キリスト教と呼ばれ、世界の終わりまでその邪悪な影響を保ち続けるでしょう。フランス革命により、「闇」は罪と共に永遠に定着しました。なぜなら、それとともに、自由思想の哲学者によって書かれた本が現れるからです。それはダニエル書2-7-8の預言の中でギリシャを特徴付ける「罪」と結びついています。これらの新しい本は聖書と競合し、かなりの程度まで聖書を抑圧することに成功するでしょう。したがって、非難される「戦争」は何よりもイデオロギー的なものである。革命後、そして第二次世界大戦後、この暗闇は最高のヒューマニズムと対比し、本来の不寛容を打ち破る様相を呈することになるが、イデオロギー的な「戦争」は続いている。西洋人はこの「自由」のためにあらゆるものを犠牲にするでしょう。実際、彼らは自分たちの国と安全を犠牲にし、神の計画された死から逃れることはありません。

8節：「そして、彼らの死体は、霊的な意味でソドムとエジプトと呼ばれる大都市の広場に置かれ、彼らの主が十字架につけられた場所でもある。」

「死体」は、最初の襲撃者も同じ「都市」の「広場」で処刑された「二人の証人」のものである。この「都市」とはパリであり、引用されている「場所」は「ルイ14世広場」、「ルイ15世広場」、「革命広場」と呼ばれ、現在の「コンコルド広場」を指します。無神論は宗教的に何の利益も与えません。ギロチンにかけられた犠牲者は、まさに宗教への所属を理由に殴られています。そして、「第4のラッパ」のメッセージが教えているように、ターゲットは真の光(太陽)、偽りの集合体(月)、そしてあらゆる個人の宗教的メッセンジャー(星)

です。さらに、特定の腐敗した宗教形態は、支配的な無神論の規範に従うという条件で受け入れられています。そのため、一部の司祭は嘲笑されて「聖職者剥奪者」という名前を受け取ります。

『スピリット』はフランスの首都パリを「ソドム」と「エジプト」に例えています。自由の最初の成果は、伝統的な社会や家族の慣習の崩壊を伴う性的行き過ぎでした。この比較は、時間が経つにつれて悲劇的な結果をもたらすでしょう。聖霊は、この都市が「ソドム」の運命と、神にとって罪と神に対する反逆の典型的な象徴となった「エジプト」の運命に苦しむことになると告げています。ダニエル書 2-7-8

で非難された「ギリシャ」哲学の「罪」と上で確立されたつながりは、ここで確認されます。ギリシャの罪に対する神によるこの非難を完全に理解するために、使徒パウロが哲学的な言葉を使ってアテネの住民に福音を伝えようとして失敗し、その場から追われたという事実を考慮してみましょう。これが、哲学的思考が永遠に創造主なる神の敵であり続ける理由です。

。「パリ」と呼ばれるこの都市は、時が経ち、その終わりまで、性的および宗教的罪の象徴であるこの 2
つの名前との正確な比較を維持し、これらの行為を通じて証言するでしょう。

「パリ」という名前の背後には、「パリシイ」の遺産が隠されています。この言葉の起源はケルト語で「大釜のもの」を意味し、劇的に予言的な名前です。ローマ時代、この場所はまさにエジプト人の女神イシスを崇拝する異教の拠点であったが、同時にトロイア王プリアモス老人の息子であるパリスの舞台であり皮肉なイメージでもあった。ギリシャ王メネラウスの妻である美しいヘレナとの不倫の作者である彼は、ギリシャとの戦争の責任を負うこととなります。包囲が失敗に終わった後、ギリシャ軍は海岸に巨大な木馬を残して撤退した。トロイの木馬は、それがギリシャの神であると考え、その馬を街に持ち込みました。そして真夜中、ワインと宴会が終わると、ギリシャ兵が馬から出てきて、黙って戻ってくるギリシャ軍のために門を開けた。そして市の住民は王から最下層の臣民に至るまで虐殺された。このトロイの木馬の行動は、終わりの日にパリの損失を引き起こすでしょう。なぜならパリはその教訓を無視して、植民地化した敵をその領土に定住させるという過ちを繰り返すからです。パリという名前が付く前は、この都市は「臭い沼」を意味する「リュテス」と呼ばれていました。彼の悲しい運命のプログラム全体。

「エジプト」との比較は正当化される。なぜなら、フランスは共和制体制を採用することによって、正式に西側世界で最初の罪深い政権となるからである。この解釈は黙示録 17:3

で、フランスをモデルとして構築された、終わりの日の君主制と共和制の連合をイメージした「獣」の「緋色」の色によって確認されます。聖霊は

「彼らの主が十字架につけられた場所でさえも」と言うことで、フランスの無神論に対するキリスト教の信仰の拒否と、救世主イエス・キリストに対するユダヤ人の国民の拒否を比較しています。なぜなら、この 2 つの状況は同一であり、不敬虔と不正という同じ結果と同じ果実をもたらすからです。この比較は次の節でも続きます。

自分の首都を「エジプト」と呼ぶことで、フランスを、ご自身の意志に反する人間の抵抗の典型的なモデルであるファラオに例えています。それは破壊されるまでこの反抗的な立場を維持するでしょう。彼に悔い改めは決してないだろう。

「悪は善、善は悪」と称して、彼女は神によって許された最悪の罪を犯します。これは、神の権利に反対する「神の人権」を創設した「闇」の思想家たちを「光」と呼ぶことによって行われます。そしてそのモデルは多くの人々によって模倣され、1917年に強大なロシアによって「第6のラッパ」の際に原子爆発で破壊されるだろう。その名前はケルト語で「パリシイ」と予言されていたものである。

「大釜の中の人」を意味する言語。したがって、彼女は、自分を滅ぼすところまで破滅させるであろう試練の中で、最後まで神を見ることができないままになるでしょう。なぜなら、彼は彼女をターゲットにしており、彼女がいなくなるまで彼女を手放さないからです。

9節：「三日半の間、あらゆる民族、部族、国語、諸国民の中から来た人々が自分たちの死体を目にし、その死体を墓に埋めることを許さないであろう。」

フランスでは、国民は 1789 年に革命に参加し、1793 年に国王、次に王妃を処刑し、続いて「ルイ 15 世広場」、「革命広場」、「革命広場」と呼ばれる市の大きな中央広場で公開処刑されました。現在は「コンコルド広場」。破壊行為の時間は「3 日半」であるとされており、この精神には、1792年に革命家たちが祖国のオーストリアを含む共和制フランスを攻撃したヨーロッパ諸国の王党派軍と対峙し、敗北したヴァルミーの戦いが含まれているようだ。王妃マリー・アントワネットの祖先の家系。この憎しみの根源を理解するには、1,260年に及ぶ教皇と王室の連合によるあらゆる種類の虐待が、搾取され、虐待され、迫害され、完全に破滅させられたフランス国民を苛立たせることになったということを心に留めておかなければならない。ルイの最後の2 つの治世注意

！共和国はフランスにとって祝福ではありませんし、今後もそうではありません。彼女は最後まで第五の形態で神の呪いに耐え、自らも破滅の原因となる過ちを犯すことになる。この血に飢えた政権は、その起源から「人権」とヒューマンイズムの国となり、最終的には罪を犯した者を擁護し、その不正義によって被害者を挫折させることになるだろう。彼は敵を歓迎し、敵を自分の領土に配置することさえあり、これまでに見たように、ギリ

シャ人が残した木馬の導入で有名なトロイの木馬の都市の有名な例を最悪の場合にも真似します。

10節：「彼らのおかげで、地の住民は喜び、喜び、互いに贈り物を送り合うでしょう。なぜなら、この二人の預言者が地の住民を苦しめたからです。」»

この聖句では、聖霊は、壊疽や癌のように、フランスの哲学的悪が他の西側諸国で疫病のように伝播し、蔓延する時代をターゲットにしています。それは「第6の封印」で「時代のしるし」をマークします。それは「太陽が馬の毛の袋のように黒くなる」場所です。聖書の光は消え、自由な思想家の哲学書によって覆い隠されます。

霊的読書では、イエスの選民を定義する「天の国の住民」とは異なり、「地上の住民」はアメリカのプロテスタント、より一般的には神とその真理に対して反抗的な人間を指します。ヨーロッパ、さらにはアメリカの王国の人々はフランスに目を向けています。そこでは、ある人々がその君主制とカトリックキリスト教を粉碎し、聖書を読む人々、つまり「二人の証人」をその「地獄」の「苦しみ」で脅かしています。しかし、黙示録 14:10-11

によると、本当の「苦痛」は、自らこの種の脅しを欺いて利用する偽宗教者たちを滅ぼすために、最後の審判のためにのみ残されています。フランス国外で同じ虐待の被害者である外国人も、この取り組みから恩恵を受けることを望んでいる。ルイ16世によって与えられたフランスの支援により、数年前に世界では新生北米アメリカ合衆国が独立を果たし、イングランドの支配から解放されたので、このことはなおさらである。自由は前進しており、間もなく多くの人々を魅了するでしょう。この友情のしるしとして、「彼らはお互いに贈り物を送り合うでしょう。」これらの贈り物の1つは、1886

年にニューヨークの対岸の島に建てられた「自由の女神」のフランスからアメリカ人への贈り物でした。アメリカ人は、パリのエッフェル塔近くのセーヌ川中流の島にある、1889年に建てられたレプリカを彼に提供することでこのしぐさを返した。神は、その霊的法則を無視することを目的とした過剰な自由の呪いを構成する分かち合いと交換を明らかにするこの種の贈り物をターゲットにしています。

11節：「そして三日半後、神からの命の霊が彼らの中に入り、彼らは立ち上がった。そしてそれを見た人々に大きな恐怖が襲いかかりました。」»

1792 年 4 月 20 日、フランスはオーストリアとプロイセンの脅威にさらされ、1792 年 8 月 10 日に国王ルイ 16 世を打倒しました。革命派は 1792 年 9 月 20 日にヴァルミで勝利しました。国王ルイ 16 世は 1793 年 1 月 21 日に断頭台に処されました。独裁者ロベスピエールとその友人たちは、1794 年 7 月 28 日に順番にギロチンにかけられました。「会議」は 1795 年

10月25日に「ディレクトリ」に置き換えられました。1793年と1794年の2つの「テロ」は合わせて1年しか続きませんでした。1792年4月20日から1795年10月25日までの間、預言された「3日半」、または実際の「3

年半」という期間がまさに正確であることがわかります。しかし、その期間にはスピリチュアルなメッセージも含まれていると思います。この期間は一週間の半分に相当し、まさに「預言的な三日半」続き、救世主イエス・キリストの死で終わったイエス・キリストの地上での宣教を暗示しているかもしれません。聖霊はその行動を、パリの革命広場で焼かれる前に行動し、教えた「二人の証人」である聖書の行動と比較します。この比較により、聖書は、この信仰において、黙示録 1 章 7 節に示されているように、その中で再び十字架につけられ「刺し通された」イエス・キリストと同一視されます。流血の洪水はフランス国民を恐怖に陥れた。また、血に飢えた大会の指導者マクシミリアン・ロベスピエールとその友人クーソンとサンジュストを処刑した後、略式および組織的な処刑は中止された。神の御霊は人々の霊的な渇きを目覚めさせ、宗教の実践は再び合法となり、そして何よりも無料になりました。有益な「神への畏れ」が再び現れ、聖書への関心が再び明らかになりましたが、世界の終わりまで、それはギリシャモデルを最前線とする自由思想家によって書かれた哲学書と争われ、競争されるでしょう。そのさまざまな形。

12節：「すると、彼らは天からこう言う声を聞いた。『ここに上って来なさい。ここに来てください。』」。そして彼らは雲に乗って天に昇りました。そして彼らの敵は彼らを見た。」

この神の言葉は、1798年以降の聖書の「二人の証人」に当てはまります。

イエスとの比較は続きます。なぜなら、彼に選ばれた人々が（預言者エリヤに続いて）彼らの視線の前で天に昇るのを見たのはイエスだったからです。しかし、今度は、最後に彼が選んだ者たちが同じように行動するでしょう。彼らの敵もまた、彼らが雲に乗って天に昇っていくのを見るでしょう。そこでイエスは彼らをご自分のもとに引き寄せます。神がご自分の大義に対して与えてくださる支援は、ご自分の選ばれた者であるイエス・キリストにとっても同様であり、フランス革命のこの文脈においては、1798

年以降の聖書でも同様です。「1260日」という預言された期間の終わりを確認するには、1799年、教皇ピウス 6

世はヴァランス・シュル・ローヌで投獄されて亡くなり、これにより、1843年から1844年までと1994年の間、アポ 9 : 5 -10の「5か月」という形で預言されていた 150

年間の長期平和が可能になりました。 。ルイ 16

世の死、王政の停止、囚人教皇の死は、黙示録 13:1-3 の「海から現れる獣」の宗教的不寛容に致命的な打撃を与えています。デ

イレトリのコンコルダートは彼女の傷を癒しますが、彼女はもはや破壊された王室の支援の恩恵を受けません。プロテスタントの不寛容がアポで「地から昇る獣」の名のもとに現れる終末の時まで、彼女はもはや迫害されません。 . 13:11。

13節：「その時、大きな地震が起こり、都市の10分の1が崩壊した。この地震で7,000人が亡くなり、残り的人々は恐れて天の神に栄光を帰しました。」

この時代（この時間）には、アポ 6 章 12 節の「第六の封印」のテーマに関連して、1755 年のリスボンの地震の達成によってすでに預言されていた「地震」が、霊的な形で達成されました。神の御霊によれば、パリ市は人口の「10分の1」を失いました。しかし、ダニエル 7:24 と黙示録 13:1 によると、別の意味は「十の角」、つまりローマ教皇カトリックの支配下にある西方キリスト教王国の 10 番目の部分に関するものである可能性があります。ローマからローマ・カトリック教会の「長女」とみなされていたフランスは無神論に陥り、ローマの支援を剥奪され、その権威を破壊するまでに至った。第 4 のラッパがそれを明らかにしました、「太陽の3分の1がやられている」。「この地震で7,000人が殺された」というメッセージは、この社会政治的地震で多数（千人）の宗教的な「男性」（7人：当時の宗教的神聖化）が殺された、ということでそのことを裏付けている。

14節：「第二の災いは過ぎ去った。見よ、第三の災いはすぐにやってくる」。

こうして、激しい流血によって神への恐れが復活し、「恐怖」は止み、ナポレオン一世の帝国、最後の3つの「ラッパ」、3つの「大きな不幸」を告げる「驚」が代わりに登場した。地球の。この発表が 1789 年から 1798 年にかけてのフランス革命に続いて行われたものであることを考えると、

14 節でその発表に起因するとされている「第二の不幸」は、この発表に直接関係するものではありません。しかし、聖霊にとって、それは、イエス・キリストの栄光のうちに再臨する直前に、フランス革命の新しい形が現れることを私たちに告げる方法なのです。しかし、黙示録 8:13 によると、「第二の災い」は明らかに^{第六の災い}のテーマに関係しています。黙示録 9:13

のラッパは、イエス・キリストが、不倶戴天の敵である最後の反逆者たちを根絶することによって、聖なる忠実な僕たちの不当な非難に復讐するために再臨される前に、正確には「人類の 3 分の1を殺す」であろう。フランス革命家によって引き起こされた虐殺と同様に、神は第三次世界大戦の虐殺、今回は核による虐殺を組織し、地球上の住

民の数を大幅に減少させ、その撲滅を完了させ、地球を元の状態に戻すことができる」と私たちは理解できます。イエス・キリストの最後の破壊的な介入後の、最初の「深淵」の外観。

第二の「災い」という二重の意味は、霊的な理由から第 4 のラッパを第 6 のラッパに結びつけます。黙示録の構造は、キリスト教時代を 2 つの部分に分けています。最初の「不幸」は 1844 年以前に処罰された有罪者を罰し、2 番目の「不幸」は 1844 年以降、つまり世界の終わりの直前に処罰された者を罰します。さて、この 2 つの懲罰行為は、レビ記 26 章 25 節で神が 4 番目の懲罰に与えられている意味を共有しています。「わたしは契約に復讐する剣を送ります。」最初の罰は宗教改革のメッセージ、すなわちイエスが選民のために準備した働きを受け入れなかった人々に課せられ、二番目の罰は 1843 年以降にこの宗教改革を完了するという神の要求に応えなかった人々に課せられた。神がこの永続的な宗教改革を構築することは、恵みの時が終わる時まで示されるでしょう。

1789 年から 1795 年にかけて神がフランス革命の人々のものとされた事柄や行動を取り上げることによって、私たちは神が終わりの日の西洋人たちのものと考えられる事柄や行動を見つけます。私たちは、宗教儀式とそれを教える人々に対して、同じ軽蔑、不敬虔、憎悪を感じています。今回の行動は科学技術の驚異的な発展から生じたものです。長年の平和の間に、無神論と偽りの宗教が西洋世界を引き継ぎました。したがって、神には、このテーマについて私たちに二重の読書を提供する十分な理由があります。

「生存者」の行動が、革命の時代と人類最後の日の科学的時代との間に大きな違いをもたらします。より明確にするために、黙示録 11:11 から 13 によれば、「第 4 のラッパ」に関する第 1 朗読の「生き残った人」は「悔い改めました」が、「第 6 のラッパ」に関する第 2 朗読の「生き残った人」は「悔い改めました」ではありません」と黙示録 9:20-21 によれば。

第三の「大いなる災い」（罪人にとって）：正義者キリストの栄光ある帰還

15 節：「第七の天使が声を上げた。そして、天に大きな声があり、こう言った。「世界の王国は私たちの主とそのキリストに託されています。そして彼は永遠に統治するでしょう。」

この章の最後のテーマは、「第 7 のラッパ」のテーマです。念のため言っておきますが、このラッパは、目に見えない創造主である神が、アポ 1:7 を確認する敵の目にご自身を見えるようにする瞬間を示しています。雲と

すべての目がそれを見るでしょう。それを突き刺した者たちさえも。」イエスを刺した「彼を刺した者たち」は、最後の時代を含むキリスト教時代のあらゆる時代からの敵です。彼らはイエスを突き刺し、彼の忠実な弟子たちを迫害しました。彼はその弟子について次のように言いました。空からは祝賀の大きな声が上がる。これらは、黙示録 12:7 から 12 で「ミカエル」と呼ばれる、勝利したキリストによる悪魔とその悪霊たちの天からの追放を祝うためにすでに表明している天国の住人の人々です。彼らは、喜びに参加しています。イエス・キリストによって選ばれ、解放され、勝利したのです。地上の罪の歴史は、神聖なキリストの口によって滅ぼされる罪人がいないために終わるでしょう。イエスによれば「この世の君主」である悪魔は、神によって滅ぼされた罪深い世界を所有することを失います。彼は、神がこの目的のために復活させられる他のすべての罪人とともに最後の審判で完全に排除されるのを待つ間、誰にも危害を加えることなく荒廃した地球にさらに千年間留まるでしょう。

イエス・キリストの血によって贖われた選民の天上の大いなる幸福
16節：「そして、神の御前に玉座に座っていた二十四人の長老たちは、ひれ伏して神を礼拝した。」

選ばれた人々は神の日の栄えの王国に入り、神の御前で玉座に座り、黙示録 20:4 に従って統治するか、悪人を裁くこととなります。この聖句は、黙示録 4 章にある救い出された者の天的な始まりの文脈を思い出させます。この聖句は、神への真の礼拝が取るべき形を示しています。ひれ伏し、ひざまずき、うつむくのは、神によって正当化された形式です。

17
節：「こう言います。全能の神、主よ、今も昔も、あなたが偉大な力を手に入れ、あなたの王国を所有してくださったことに感謝します。」

救われた者たちは感謝を新たにし、黙示録 1 章 4 節で告げられているように、「全能の神、今も昔も、そして来られた」イエス・キリストの前にひれ伏します。あなたは、選ばれた人々を救うために放棄し、あなたの「子羊」としての奉仕における彼らの罪の代価をあなたの死によって償いました。

「世の罪を取り除く神の小羊」。あなたは「自分の王国を手に入れた」のです。示唆されている文脈は確かに、黙示録 1:10 で聖霊がヨハネを連れ去った箇所です。地上におけるキリストの集会の歴史は過去のもので、現段階では、「7つの議会」が選出された議員の背後にある。選民の信仰の希望の対象であるイエスの統治が現実になりました。

18節：「諸国の民は怒った。そしてあなたの怒りが来て、死者を裁き、あなたのしもべである預言者、聖人、そして小さな者も大きな者もあ

なたの名を恐れる者たちに報い、そして地球を破壊する者たちを滅ぼす時が来ました。 »

この

18

節には、預言された一連の出来事について非常に有益な情報が含まれています。

6番目

トランペットが殺された

男性の3分の1は「国民はイライラしていた」と回答しており、2020年から2021年にかけて、私たちはこのイライラの原因を目の当たりにしている。新型コロナウイルス感染症と引き起こされた経済的破滅、イスラムの侵略、そしてすぐさまロシアの攻撃だ。同盟国とともに。この恐ろしく破壊的な紛争の後、「地の獣」、つまりアメリカとヨーロッパの生存者によるプロテスタントとカトリックの連合によって日曜法が公布された後、神は彼らに「神の怒りによる最後の七つの災い」を注いだ。 Rev.16 に記載されています。

7番目の時点で、イエスは選ばれた人々を救い、倒れた人々を滅ぼすために現れました。次に、

7千年紀の「千年」に向けて準備された計画が始まります。黙示録 4 章 1 節によれば、天では悪人の裁きが行われます。「そして死者を裁く時が来た。」聖徒たちはその報いとして、イエス・キリストによって選ばれた者たちに約束された永遠の命を獲得します。彼らはずいに明けの明星と、信仰の戦いで勝利を収めた選ばれた者に約束された王冠を手に入れます。神はここで、あらゆる時代（ペテロ第二 1:19 によれば）、特に終わりの日における預言の重要性を思い出しておられます。「聖徒たちとあなたの御名を恐れる者たち」とは、黙示録 14:7 から 13

の三人の天使のメッセージに積極的に反応した人々です。その最初のもの、神を畏れ、神に従い、神の戒めに異議を唱えないことから成る知恵を思い出させ、創造主なる神の側面において、「神の裁きの時が来たからである、『神を畏れ、神に栄光を帰せよ』」と言う。そして天と海と地と水の泉を造られた方を崇拝しなさい。」

19節：「そして、天にある神の神殿が開かれ、神の契約の箱が神殿に現れました。そして、稲妻、声、雷鳴、地震、そして大規模なひょうが起きました。 »

この黙示録で呼び起こされるすべてのテーマは、私たちの神なる主イエス・キリストの偉大な栄光の再臨というこの歴史的瞬間に向けて収束します。この節は、次のテーマが満たされ、結論づけられる文脈を対象としています。

Rev.1: アドベンチズム:

4節：「ヨハネ、アジアにある7つの教会へ。今おられる方、かつておられた方、これから来る方、そして御座の前にいる七つの霊から恵みと平安がありますように。」

7節：「見よ、彼は雲に乗って来る。そして、それを突き刺した者さえも、すべての目でそれを見るでしょう。そして地上のすべての部族は彼のために悲しむでしょう。はい。アーメン！」

8節：「私はアルファでありオメガであると、全能者である主なる神は言われます。これまで、そしてかつて、そしてこれから来られる方です。」

10節：「主の日、私は御霊の中にいた。すると、後ろからラッパの音のような大きな声が聞こえた。」

Apo.3: 第 7 回集会: 「ラオデキア」時代の終わり (= 裁かれた人々)。

黙示録 6:17: 反抗的な人間に対する神の怒りの大いなる日、「神の怒りの大いなる日が来たからである。誰が耐えられるだろうか？」»

Apo.13: 「地から昇る獣」（プロテスタントとカトリックの連合）とその日曜法。

15節：「そして彼に与えられたのは、獣の像に命を吹き込み、その獣の像が話すようにすることであり、また、獣の像を崇拜しない者はすべて殺されることだった。」

収穫

(世界の終わりと選ばれた者の歓喜)と「ヴィンテージ」
(誘惑され騙された信者による偽羊飼いの虐殺)の2つのテーマ。

黙示録 16 章: 16 節: 「ハルマゲドンの戦いの大いなる日」

黙示録 4 章 5 節と 8 章 5 節で既に引用されている、「稲妻、声、雷鳴、地震があった」という神の直接的かつ目に見える介入の重要な公式が示されています。しかし、ここで御霊は「そして激しい雹」を付け加えます。黙示録 16:21 の「最後の七つの災い」の7番目のテーマが終わる「雹」。

したがって、イエス・キリストの再臨の背景は、今回は2030年の春に、イエス・キリストが流した血によって得られた、選ばれた人々に提供される真の救いをもたらす最後のアドベンチストのテーマによって特徴づけられます。それは、ローマの日曜日を拒否し、神の世界創造の最初の週から神によって聖別された安息日への忠誠を守る彼が選んだ者たちを殺す準備をしている反逆者たちとの彼の対決の時です。黙示録 6 章の「第

6の封印」は、祝福され最愛の選ばれた人々の意図的な虐殺行為で主に捕らえられた反逆者たちの行動と狼狽を示しています。意見の相違の主題は、この 19 節で提起されています。それは、幕屋とヘブライ語の「神殿」の最も聖な

る場所にある「あかしの箱」に保存されている神の律法に関するものです。箱舟がその威信と非常に高い聖性を負っているのは、その中に、神の忠実な僕であるモーセの御前で、神ご自身の指によって刻まれた律法の表が収められているからにほかなりません。聖書を読めば、イエス・キリストの再臨の際に反逆者たちが恐怖を抱く原因が何であるかを理解できます。というのは、詩篇 50 篇 1 節から 6 節にはこう宣言されているからです。

「アサフの詩篇。神、神、YaHWéHは、太陽が昇るときから日が沈むまで、語りかけ、地球を呼びます。完璧な美であるシオンから、神は輝きます。私たちの神よ、彼は来られます。彼は沈黙を保っていません。彼の前には焼き尽くす火があり、彼の周りには激しい嵐があります。彼は天と地に向かって、自分の民を裁くように叫びます。犠牲によって私と契約を結んだ私の忠実な者たちを私のもとに集めてください！
-
そして、天は彼の正義を宣言するでしょう、それは裁くのは神だからです。
。 »

恐怖の状況下で、反逆者たちは神の十戒の第4条のテキストが火の文字で空に表示されるのを見ることになる。そして、この神の行為を通して、彼らは神が彼らに第一と「第二の死」を宣告していることを知るでしょう。

第

7

のラッパ」テーマのこの最後の詩は、反抗的な偽キリスト教によって異議を唱えられる神の律法に神が与えられる重要性を明らかにし、確認しています。神の法は、法と恵みの反対という口実で軽視されてきました。この誤りは、使徒パウロが手紙の中で述べた言葉の読み間違いに起因します。そこで、ここでは明確かつ簡単な説明を提供することで疑問を払拭します。ローマ 6 章でパウロは、新しい契約が始まる当時の状況を理由に、「律法の下」の人々と「恵みの下」の人々を対比させています。

「律法の下で」という表現によって、彼はイエス・キリストの完全な正義に基づく新しい契約を拒否する古い契約のユダヤ人を指定しています。そして彼は、この新しい同盟を結ぶ選挙で選ばれた役人を、「法に従って」という式によって指名した。なぜなら、これは恵みによってもたらされる恩恵であり、イエス・キリストはその名において、聖霊によって選ばれた者を助け、聖なる神の律法を愛し、従うことを彼に教えられるからです。従うことによって、その人は「律法に従って」おり、「恵みの下に」いるのですが、「律法の下に」いるわけでもありません。パウロが神の律法について「神聖であり、戒めは正しくて良いものである」と言っていることをもう一度思い出します。イエス・キリストにおいて私が彼と分かち合っていること。パウロが罪を非難し、キリストのうちにある間はもう罪を犯してはいけないと読者に納得させようとしているが、現代の反逆者たちは、自分たちが主張するイエス・キリストを確立された「罪の大臣」に仕立て上げることでパウロの文章を利用してパウロに矛盾している。 321 年 3 月 7 日。パウロはガラテヤ 2:17

で次のように宣言しました。「しかし、私たちがキリストによって義とされることを求めている一方で、私たち自身も罪人であることが判明した場合、キリストは罪の奉仕者となるでしょうか？ それからは程遠い！」精度の重要性に注意しましょう。「精度からはほど遠い」これは、偽りの現代キリスト教の反逆的な信仰という宗教的概念を非難しており、これは異教のローマ皇帝コンスタンティヌス¹世の權威によってローマの「罪」が西洋と東洋のキリスト教信仰に侵入した321年3月7日以来のものである。

この「第7のラッパ」の文脈において、神が地上の選民を選ぶために取っておかれた最初の6,000年間は、7,000年間にわたる神の計画全体の中で終わりを迎えます。次に、黙示録20章の7千年紀、つまり「千年」が始まり、イエス・キリストによって救われた選ばれた者による反逆者に対する天の審判、つまり黙示録4章のテーマが捧げられます。

黙示録 12: 大中央計画

その女 - ローマの侵略者 - 砂漠の女 - 括弧：天国での戦い - 砂漠の女 -
宗教改革 - 無神論 -
アドベンチスト派の残りの者

勝利の女性、キリストの花嫁、神の子羊

1

節「大きなしるしが天に現れました。太陽に包まれ、足の下に月があり、頭には12の星の冠をかぶった女性が現れました。」

ここでも、いくつかの絵画やシーンでいくつかのテーマが連続しています。最初の表は、エペソ 5:23
によると、その唯一の首長であるイエス・キリストの勝利から恩恵を受けることになる選ばれた議会を示しています。キリストの「花嫁」は「女性」の象徴の下で、マル 4:2
に預言されている「義の太陽」に包まれています。二重適用では、闇の象徴である「月」が「足元」にあります。これらの敵は、歴史的かつ年代順に、古い契約のユダヤ人であり、新しい契約の墮落したキリスト教徒、カトリック教徒、正教会、プロテスタント、およびアドベンチストです。彼の頭にある「12の星の冠」は、神である7と人間である5、つまり12という数字の意味との同盟における彼の勝利を象徴しています。

最終勝利の前に迫害された女性

2節：「彼女は子供を連れていましたが、陣痛と陣痛で叫びました。」

2

節の「産みの苦しみ」は、天上の栄光の時代に先立って行われた地上の迫害を思い出させます。このイメージは、ヨハネ 16:21-22
でイエスによって使用されました。しかし、子供を産んだとき、人間がこの世に生まれたという事実喜びを感じたため、彼女はもうその苦しみを覚えていません。したがって、あなたも今悲しみの中にいます。しかし、私は再びあなたに会います、そしてあなたの心は喜びます、そして誰もあなたの喜びをあなたから奪うことはありません。」

異教の女性迫害者: 偉大な帝国都市ローマ

3節：「そして、さらに別のしるしが天に現れた。そして見よ、それは7つの頭と10本の角を持ち、頭には7つの冠をもつ大きな赤い竜だった。」

3

節では、彼の迫害者、つまり悪魔が特定されています。もちろん悪魔ですが、彼は自分の意志に従って選民を迫害する肉体的な地上の力を通して行動します。彼の行動において、彼は 2 つの連続した戦略を使用します。「龍」のそれと「蛇」のそれ。
1つ目は「ドラゴン」のもので、異教の帝国ローマが採用した公然とした攻撃である。したがって、ローマが「10本の角」を持つ4番目の怪物の姿で現れたダニエル7:7ですで見られた

シンボルが見つかります。異教の文脈は、ここではApo.17によるローマ都市の象徴である「七つの頭」の上に置かれた「王冠」の存在によって裏付けられています。この正確さは、私たちが最大限の注意を払う価値がある。なぜなら、この画像が提示されるたびに、「ティアラ」の位置、つまり預言された歴史的背景が私たちに示されるからである。

女性に対する宗教的迫害: 教皇カトリックローマ

4節: 「彼の尾は空の星の3分の1を引きずり、それらを地に投げました。龍は出産を控えた女性の前に立ちほだかり、出産の際にその子供を食い荒らそうとした。」

杖」の称号の下で「42か月間聖都を足で踏みにじる」権限を神から与えられています。

ローマ帝国の「十の角」は教皇の「小さな角」に引き継がれることになっていました(538年から1798年まで)。この継承はここ黙示録12章4節で確認されています。

偽りをターゲットにした用語「尾」_女預言者 黙示録 2 章 20節の「イゼベル」は、この偽りのキリスト教教皇による宗教的ローマの連続を例証しています。ダニエル書 8:10

で引用された非難はここで新たに述べられています。創世記の「蛇」にふさわしい、彼の策略と誘惑の犠牲者は、「天の星」の象徴の下、あるいはイエスが弟子たちに与えた「天の国の国民」という称号の下で踏みにじられます。

「第三者は墮落に巻き込まれる。」
3番目は文字通りの意味として引用されているのではなく、預言のどこにでもあるように、テストされたクリスチャンの総数の重要な部分として引用されています。犠牲者はこの割合を文字通り 3 分の 1 上回ることさえあります。

5節: 「彼女は息子を産んだ。その息子は鉄の杖ですべての国々を統治するはずだった。そして彼女の子供は神とその王座に捕らえられました。」

この預言は、二重の適用において、悪魔がメシアの誕生から勝利の死に至るまで、どのようにしてメシアの大義と戦ったかを思い出させます。しかし、この勝利は長子の勝利であり、その後、彼が選んだすべての者が成功し、最終的な勝利が得られるまで同じ戦いを続けることとなります。その瞬間、彼らは天体を受け取り、その悪人に対する裁きを共に分かち合い、そこで一緒に「彼らは鉄の杖で諸国民を牧する」ことになり、それによって「人々の苦しみ」の判決が下されることになる。最後の審判の「第二の死」。キリストの経験とキリストに選ばれた者の経験は一つの共通の経験に融合し、

「神とその王座に上げられた子」、したがって天に召された子供というイメージは、選ばれた者の地上の「救出」のイメージとなる。それは2030年、復讐するキリストの再臨の時に達成されるだろう。彼らは「苦しみ」か

ら解放されるでしょう。

出産。」この子供は、成功し勝利を収めた本物のキリスト教の改宗の象徴です。

6節：「そして、女は荒野に逃げました。そこには、千二百六十日間そこで養われるように、神が用意してくださった場所がありました。」

迫害されている議会は平和で武装解除されており、唯一の武器は聖書、神の言葉、御霊の剣であり、侵略者の前から逃げることはできません。6節は、預言的な「1260日」、つまりエゼ書 4:5-6の法典によれば実際の1260年にわたる迫害中の教皇統治の時代を思い出させます。今はキリスト教信仰にとって、「砂漠」という言葉が「神に導かれている」という言葉が示唆しているように、つらい試練の時である。したがって、彼女は黙示録 11:3 の「二人の証人」の苦しみを共有しています。ダニエル 8:12では、この神の言葉は次のように定式化されています。「軍隊は罪のために永久に引き渡された」。

321年3月7日以来、安息日の尊重を放棄したことによって犯された罪。

括弧の開き：空の戦い

7節：「そして天では戦争があった。マイケルと彼の天使たちはドラゴンと戦いました。そしてドラゴンと彼の天使たちは戦いました、

発表された聖徒たちの携挙は、御霊が一種の括弧の中に入れて私たちに示してくださったという説明を受けるに値します。これは、イエス・キリストが罪と死に勝利されたことによって可能になります。この勝利は彼の復活後に確認されましたが、聖霊はここで、この瞬間まで悪霊やサタン自身と肩を並べてきた天の住人たちにそれがもたらした結果を私たちに明らかにしています。

非常に重要：人間の目には見えなかったこの天の争いは、イエスが地上にいたときに話した謎めいた言葉の意味を明らかにします。ヨハネ 14:1-3

でイエスはこう言われました。「心を騒がせてはいけません。神を信じてください、そして私を信じてください。私の父の家にはたくさんの豪邸があります。そうでなかったら、私はあなたに言っただろう。あなたの為に場所を用意します。そして、私が行ってあなたのために場所を準備するとき、私は再び来て、あなたを自分自身のところに連れて行きます、それは私がいる場所にあなたもいることができるようにするためです。

»この「場所」の「準備」に与えられた意味は、次の聖句に現れます。

8節：「しかし、彼らは強くなかったので、彼らの居場所はもはや天にはありませんでした。」

この天上の戦争は私たちの地上の戦争と何の共通点もありません。それはすぐに死者を引き起こすわけではなく、対立する2つの陣営は同等ではありません。大天使「ミカエル」の謙虚で兄弟的な側

面でご自身を現される偉大な創造主なる神は、すべて同じ全能の神であり、彼のすべての被造物はその前にひれ伏して従うべきです。サタンとその配下の悪霊は反抗的な生き物であり、強要された場合にのみ服従しますが、最終的には偉大な神がその全能性によって彼らを天から追い出すと、抵抗できなくなり服従せざるを得なくなります。地上での宣教中、イエスは彼に従っていた邪悪な天使たちに恐れられ、自分がまさに神の計画の「神の子」であると証言し、そうしてイエスと名付けました。

この聖句の中で御霊は、「彼らの居場所はもはや天には見つからなかった」と述べています。神の王国の中で天の反逆者たちが占領していたこの「場所」は、この天の王国が「清め」られ、キリストの来臨の際に地上の反逆者と最後に戦う日にキリストの選民を受け入れる「備え」ができるように解放されなければならなかった。栄光の中で。そのとき、選ばれた人々を連れて、「彼がどこにいても、彼らは常に彼と一緒にいます」、または浄化された空で、このようにして彼らを受け入れる「準備ができています」のです。そのとき、地球の一部は、創世記 1:2 以来「深い」という言葉によって預言されていたタイプの荒廃となるでしょう。この戦いに照らして、神の救いのプロジェクトが明らかになり、彼の計画の各キーワードがその意味を明らかにします。これはヘブライ 9:23 で引用されている次の聖句に当てはまります。

天にあるものは、それ自体が犠牲によってこれらよりも優れているかどうかにかかわらず、この方法で浄化されることになっていました。 》
したがって、必要な「より優れた犠牲」は、選ばれた人々の罪を償うために捧げられたイエスという名の救世主の自発的な死であったが、何よりも彼の被造物と彼自身のために有罪を宣告する正当な法的権利を獲得するために提供された。天上と地上の反逆者を死に追いやった。このようにして、「神の天の聖所」はまず「清められ」、その後、勝利したキリストの再臨の際に、地球はキリストの「足台」ではなく「足台」と指定されることになるでしょう。イザヤ書 66:1-2 の「聖所」：
「主はこう言われる。天はわたしの王座、地はわたしの足台である。私のためにどんな家を建てて、どんな場所に住まわせてくれるのでしょうか？これらすべてのものは私の手によって造られ、すべてが誕生した、とヤハウエは言われます。わたしが目を向けるのはこの人だ。苦しんでいる霊の弱い人、わたしの言葉を恐れる者。 》 ;あるいは、エゼキエル 9章4節によれば、「忌まわしい罪を犯したためにため息をつき、うめき声をあげる者たち」についてです。

9節：「そして、全地を惑わす悪魔、サタンと呼ばれた昔の蛇である大きな竜が追放されました。彼は地に追放され、彼の天使たちも彼と一緒に追放されました。 》

天上の存在たちは、勝利したキリストによって行われた霊的浄化の恩恵を最初に受けました。神は地上で二千年間「放り出された」悪魔とその天使のような悪魔たちを天から追い出しました。したがって、悪魔は、

自分自身とその悪魔たちが、選ばれた聖徒と神の真理に対して行動するために残された「時」を知っています。

注:

イエスは神の性質を人類に明らかにしただけでなく、古い契約ではほとんど語られておらず、ほとんど無視されていた悪魔であるこの恐るべき性質も示しました。イエスが悪魔に対して勝利して以来、悪魔が監禁されているために、両陣営の間の戦いは激化しました。悪魔は、今や地上の人間の間、そして空の惑星や星々を含む地上の次元全体に、目に見えない形で住んでいます。これらは私たちの地球次元に存在する唯一の地球外生命体です。

ここで思い出さなければならないのは、神が計画されたプログラムの全体的な救いのプロジェクトを正しく理解することは、神に選ばれた者だけに与えられた特別な特権であるということです。なぜなら、偽りの信仰は、そのプロジェクトの解釈が常に間違っているという点で認識されているからです。これは、神が霊的な解放のみを計画していたのに対し、メシアに肉体的な解放をもたらす役割を聖書の中で預言したユダヤ人以来、証明されています。罪のこと。同様に、今日、偽りのキリスト教信仰は、イエス・キリストの再臨、彼の王国と地上における彼の権力の確立を待っています。それは、預言者である黙示録が私たちに教えているように、神がご自身の計画に入れていない事柄です。それどころか、神の輝かしい到来は、彼らの罪と神に対するすべての罪悪感を負い続ける彼らの人生に終止符を打つことになるでしょう。

キリストに選ばれた者は、自由な生活が天で始まり、彼の愛と正義を完全に証明するために地上での括弧が必要になった後、創造主である神が天と地で忠実であり続ける被造物の命を延ばすであろうことを知っています。永遠に天の姿で。そのとき、天上と地上の反逆者たちは裁かれ、滅ぼされ、滅ぼされるでしょう。

天の御国が解放される

10節：「すると、天で大きな声がこう言うのを聞きました。『今、救いと力と私たちの神の国とキリストの権威が来た。というのは、私たちの兄弟たちを告発した者は、昼も夜も私たちの神の前で彼らを告発したので、打ち倒されたからである。』」

この「今」は、イエスが十字架を受け入れて悪魔と罪と死を打ち破った4月3日水曜日の次の週の最初の日、4月7日30日を対象としています。週の最初の日、彼はメアリーにこう言いました。私はまだ父のもとに昇っていません。」彼の勝利はまだ天国で公式に発表される必要があり、それ以来、彼のすべての神聖な力で、天使のような名前「マイケル」が再発見され、彼は悪魔とその悪魔を天国から追い出しました。

「私たちの兄弟を告発する者、昼も夜も神の前で彼らを告発した者」という言葉に注目しなければなりません。それは、神の陣営が反逆陣営を拒絶

することを地上の選民と分かち合う、計り知れない普遍的な兄弟愛を私たちに明らかにします。この「兄弟」とは誰ですか？天上の人々と地上の人々、たとえば自分の「告発」が根拠がないことを悪魔に証明するために部分的に悪魔に引き渡されたヨブ。

11節：「彼らは小羊の血と自分たちのあかしの言葉のゆえに彼に打ち勝ちましたが、死を恐れるほど自分の命を愛しませんでした。」

この聖句で議論されているパターンは「スミルナ」時代のメッセージに見られ、このメッセージは、イエス・キリストが栄光の再来に至るまで、預言されたすべての時代に求められる信仰の基準を示しています。

ミカエル」の勝利は、マタイ 28:18 から 20 での彼の厳粛な宣言を正当化します。地球上で。それゆえ、行って、すべての国の弟子を作り、彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、わたしがあなたに命じたすべてのことを守るように教えなさい。そして見よ、わたしは世の終わりまで、いつもあなたとともにいます。」

このように、最初の契約の基礎として、神はモーセに私たちの地上次元の起源の歴史を明らかにされましたが、人類の終わりの日を生きる私たちにのみ、その全体的な救いのプロジェクトの理解を次のように明らかにされました。

6,000年続くであろう地上の罪の経験の括弧を閉じます。したがって私たちは、天上と地上のすべての忠実な選ばれた者たちが永遠に再会するという期待を神と共有しています。したがって、私たちの注意を空とその住民に集中させることは、選ばれた特権なのです。彼らとしては、第一コリント 4 章 9 節に次のように書かれているように、選ばれた人々の運命と、天地創造から世の終わりに至るまでの私たちの地上の歴史に関心を持ち続けています。私たちは世にとって、天使にとって、そして人間にとって見世物であったため、最後の人間である使徒である私たちをある意味死刑に処しました。」

地球の状況は悪化する

12節「だから、天よ、天に住む者よ、喜べ。大地と海に災いあれ！悪魔が、自分に時間が少ないことを知り、激しい怒りをもって、あなたのところに下ってきたからです。」

「天に住む人々

」はキリストの勝利を最初に「喜んだ」のです。しかし、この喜びの裏返しは、

「地球の住人」にとっての「不幸」の激化です。なぜなら、悪魔は自分が仮釈放中に死刑を宣告されていること、そして自分の救いの計画に反して行動する時間が「ほとんどない」ことを知っているからです。地球上に閉じ込められた悪魔の陣営によって2000年にわたって行われた行為はすべて、イエス・キリストの黙示録または黙示録の中で明らかにされています。

これが私があなたのために書いているこの作品の主題です。そして2018年
以来、イエス・キリストに選ばれた人々は、悪魔が誘惑の働きのために用
意していた時代の終わりについての知識を共有してきました。それは2030
年の春、彼らの神聖なマスターの輝かしい帰還とともに終わるでしょう。
この主題の括弧は12節で終わります。

空の戦いの括弧を閉じる

女性の運転テーマの再開 砂漠で

13節「竜は自分が地に投げ飛ばされたのを見て、男の子を産んだ女
を追った。」

この括弧のおかげで、聖霊は 6
節から教皇の統治というテーマを取り上げることができます。この節の「
ドラゴン」という用語は依然として悪魔、サタンそのものを指します。し
かし、「女性」に対する彼の戦いは、ローマ帝国、そして教皇の行動を通
じて行われます。

14

節「そして、大鷲の両翼は女に与えられました。それは、女が荒野に飛ん
で自分の場所に行くためでした。そこで、彼女は、遠く離れた場所で、何
度も、そして半分の間、養われます。」蛇の顔。」

ダニエル

7:25

ですすでに使用されている「三年半」、「一時期、一時期、半時期」という
形で教皇の治世の期間を示してメッセージを再開しています。この再開で
は、出来事の時系列順に新しい詳細が明らかになります。 1

つの詳細に注意する必要があります。 3

節の「龍」が「尾」に置き換えられたのと同じように、4
節の「龍」が「蛇」に置き換えられています。

「蛇と尾」という用語は、
「大鷲」である神が悪魔とその悪霊たちに靈感を与えた、積極的な戦術の
変化を私たちに明らかにしています。

「ドラゴン」のあからさまな攻撃の後、
「蛇」の策略と宗教的嘘が続き、それは預言された1260年の教皇統治によ
って成就します。

「蛇」について言及することで、神は私たちに原罪の状況との比較を示唆
することができます。ちょうど、イブが悪魔が語る「蛇」に誘惑されたの
と同じです。キリストの「女性」、「花嫁」は、悪魔がローマ・カトリッ
ク教皇の代理人の「口」を通して彼女に提示する嘘の言葉の試練にさらさ
れます。

15節：「へびは、女の上に水を川のように、口から吐き出して、女
を川のとりに引きずり込んだ。」

15

節は、不忠実なキリスト教信仰が受けるカトリックの迫害を示しています。手の届く範囲にあるすべてのものを「運び去る」

「川の水」のように。ローマ・カトリック教皇の「口」は、宗教上の敵対者に対して、狂信的で残酷なカトリック同盟を開始しました。この行動の完璧な成果は、ル・テリエ司教の助言を受けたルイ14世による「ドラゴン」の軍団の創設です。プロテスタントの平和的抵抗を追求するために創設されたこの軍事組織は、キリストに選ばれた弱く柔和な者たち全員をその教義に合わせて「訓練」することを目的としており、カトリックに改宗するか、監禁されるか、ひどい虐待の末に死ぬかの二者択一を強制することによって行われた。そして拷問。

16

節「すると、土は女を助けました。すると、土は口を開いて、龍が口から吐き出した川を飲み込みました。」

御霊は、この一節について、二つの重ね合わせた解釈を私たちに提供しています。ここで「女性」と「地球」は 2つの異なる実体であり、「地球」はプロテスタントの信仰、または文字通りの地球、つまり地球の土壌を象徴している可能性があることに注意してください。これにより、この節には、神の啓示において年代順に相互に続く2つの解釈が与えられることになります。

最初のメッセージ:

偽りの獣的プロテスタント主義:年代順に、最初に、「女性」は、公式の「口」 (1517

年のマルティン・ルターの口)がカトリック教徒の罪を非難した宗教改革の平和的なプロテスタントの絵画的描写に対応します。それは彼らの名前を正当化しました。「プロテスタント」とは、神に対して罪を犯し、神の真の僕を殺すカトリックの宗教的不正義に抗議する人々です。

「地球」という言葉に象徴されるプロテスタントのもう一つの偽善的な構成要素も、カトリック信仰を非難するために「口」を開いたが、武器を取り、その暴力的な打撃でカトリック連盟の戦闘員のかなりの部分が「飲み込まれた」。

「土地」という言葉は、ここでは有名な「ユグノー」、セヴェンヌのプロテスタント戦士、そして、この二つのグループの人々が神に仕えることも敬意を払うこともなかった「宗教戦争」中のラ・ロシェルのような軍事拠点の戦士たちを象徴している。戦闘員。

2

番目のメッセージ:

フランス国民の無神論への復讐の剣。二度目に読むと、年代順に読むと、この第 16

節は、フランス革命がどのようにしてカトリック君主国に対する教皇の侵略を完全に飲み込んでしまうかを明らかにしています。これがこの聖句の主なメッセージです。そしてそれは神が「

4番目」の役割を与えたものである。黙示録8:12の「ラッパ」、黙示録 11:7の「深淵から現れる獣」は、レビ記 26:25との類推で、神は言われる、「剣のように、私の同盟に復讐するために来る」
 反逆的なカトリックの罪人によって裏切られました。このイメージは、民数記 16 章 32節にある反逆者「コラ」の懲罰に基づいています。「地は口を開いて、彼らとその家を、コラのすべての人々とそのすべての財産とともに飲み込んだ。」神の啓示と歴史的偉業と完全に調和したこの比較画像は、両方の状況における反逆者による神の法の拒否を思い出させます。

ドラゴンの最後の敵:アドベンチストの女性の残骸

17節：「すると、竜は女に腹を立てて、神の戒めを守り、イエスの証しを持っている彼女の子孫の残りの者たちと戦いに行きました。」

第5のラッパ」のテーマである神の呪いに打たれたプロテスタントの150年間の活動を沈黙のうちに過ぎ去りながら、聖霊は悪魔とその天上および地上の子分の地上での最後の戦いを呼び起こし、私たちに目標を示します。彼らの共通の憎しみ。これらの最後の標的は、黙示録 3:10に従ってこの最後の試練が発表された 1873年のアドベンチスト開拓者たちの最後の子孫および後継者である選ばれた者たちとなります。同じ神の祝福を携え、その使命を完遂する開拓者たち。彼らは、イエスが彼らに託した仕事をしっかりと忠実にサポートしなければならない。ローマの日曜日にはいかなる形であれ「獣の刻印」を尊重することを拒否し、土曜日にはどんな犠牲を払っても安息日の休みの習慣を忠実に守ることによって、週の真の7日目、偉大かつ全能の創造主である神によって組織され確立された時間。この真理は、この聖句の「女の子孫の残りの者」の説明に現れています。「神の戒めを守る者たち」、それは九つではなく十つです。

「そして、イエスの証しを保持している人たちは、誰にもそれを奪わせないからです。

「龍」でも「蛇」でもない。そして、この「イエスの証し」は最も貴重なものです。なぜなら、黙示録 19 章 10節によれば、「イエスの証しは預言の霊である」からです。マタイ 24:24が次のように教えているように、この預言的な証言こそが、真理の神であるキリストの「悪魔が真の選民を欺くことは不可能」にするのです。彼らは、可能であれば、選ばれた人々さえも誘惑するところまで、偉大な驚異と奇跡を行うでしょう。」。

サタンのほぼ...完全な勝利

18節：「そして彼は海の砂の上に立った。」

その権威の下に保持しているキリスト教の宗教組織のすべてを、墮落と死の宣告の中で持ち込むことに成功した勝利の悪魔を示しています。

イザヤ書 10:22
で神は次のように宣言されています。「イスラエルよ、あなたの民は海の砂のようだが、残りの者だけが戻ってくる。破壊が解決されれば、正義が溢れ出すだろう。」

したがって、この預言によると、世界の終わりには、「女性の残りの者」、「選ばれた者、キリストの花嫁」、そして神の霊的な「イスラエル」を構成する反体制派アドベンチストだけがこの地に逃げます。悪魔の支配。私は、聖霊が「アドベンチスト」という名前の下で、1843年以来選ばれた最後選ばれた人々の救いのための信仰の基準を定義していることを思い出します。

2020年には、それは宗教的行為ではありますが、1994年に神が裁き、非難し、拒否した（「嘔吐した」）制度ではなくなりました。

黙示録 13: キリスト教の偽りの兄弟たち

海の獣-大地の獣

迷信深い偶像崇拝者にとって、13という数字は、それぞれの人の意見や国に応じて幸運のお守りまたは不運のお守りを表します。ここで、神は輝かしい啓示の中で、1 から 7 までの数字とそのさまざまな組み合わせに基づいた、ご自身の数字の暗号を私たちに明らかにされました。 13

という数字は、天使サタンの数字「6」と神の数字、つまりイエス・キリストにおいて創造主である神に与えられた正当な宗教の数字「7」を足したものです。したがって、私たちはこの章で、「キリスト教の偽りの兄弟」であるが、真に選ばれた人々の本当の不倶戴天の敵を見つけることにな

ります。この「タール」は、この章で明らかにされる誤解を招く宗教的な外観の下で「良い穀物」の真ん中に隠れています。

最初の獣：海から現れる サーペントドラゴンの初陣

1

節「そのとき、わたしは、十本の角と七つの頭と、角には十個の冠と、頭にある獣が海から上がってくるのを見た」冒涇的な名前。

私たちの時代のいわゆるクリスチャンの「獣」が 2
匹います。最初の「海から昇る」は、ダニエル 7:2
にあるように、カトリックの信仰と、預言的な「42 か月」、つまり 1260
実年に及ぶその迫害統治に関係しています。ダニエル 7
でそれに先立つ帝国の象徴を取り上げると、ダニエル 7:24 によれば、
「十本の角」が王国を獲得した後に現れることになっていた「小さな角」
の統治が分かります。「

10本の角」に置かれた「ティアラ」は、この歴史的背景がターゲットである
ことを示しています。ここでは、教皇ローマは二重の意味でローマを特
に特徴づける「七つの頭」で象徴されています。最も文字通りのものは、
黙示録 17:9

によるとローマが建てられた「七つの丘」です。もう一方の、より精神的
なものが優先されます。

「七つの頭」という表現は判事の聖化を表しており、イザヤ書 9:14
では「七」は聖化の数であり、「頭」は判事または長老を示しています。
この優れた治安判事は教皇ローマに帰せられる。ローマが教皇を首長とす
る文民的にも宗教的にも独立国家の形態をとっているからである。御霊は
「そして彼の頭には冒涇の名が記されている」と述べています。

「冒涇」という言葉は単数形なので、「冒涇」という言葉の意味に従って
「嘘の名前」と訳さなければなりません。イエス・キリストは、その「嘘」
はローマ教皇政権のせいだと言いました。したがって、彼はヨハネ 8 章
44

節で悪魔、サタン自身を指定した「偽りの父」という称号を自分に帰して
います。彼は最初から殺人者であり、彼の中に真実がないので、彼は真実
に立っていません。彼が嘘をつくとき、彼は自分の心から話します。なぜ
なら彼は嘘つきであり、嘘の父よ。」

2節：「私が見た獣はヒョウのようでした。彼の足は熊のようで、
口はライオンの口のようにでした。ドラゴンは彼に力と王座と偉大な権威を
与えました。」

ダニエル

7:7

の「恐ろしく、恐ろしく、並外れて強い」と言われている「第 4
の獣」については、ここでより正確に説明します。実際、この文書だけが

、カルデア帝国以来、それに先立つ 3 つの帝国の基準を示しています。

「ヒョウ」の俊敏性、

「クマ」の圧倒的なパワー、そして「ライオン」の残忍な肉食性の強さを併せ持つ。黙示録 12:3 では、「七つの頭」の上に「王冠」があった3節の「竜」は、初期キリスト教徒を迫害する異教の帝国時代のローマを表しています。したがって、ダニエル 7:8-24 の「小さな角」がダニエル 8:9 の「小さな角」に続くのと同じように、ここでは教皇権がローマ帝国から権力を受けています。この歴史は、533 年（書面）と 538 年（申請）のユスティニアヌス 1

世による勅令によって確認されています。でも気をつけてください！

「竜」は黙示録 12 章 9 節で「悪魔」にも言及しており、教皇庁がその権力、「その力、その王座、その偉大な権威」を悪魔自身から受け取っていることを意味します。前の節で神がこの2つの存在を「嘘の父」とした理由がわかります。

注:

軍事レベルでは、ヨーロッパ王立軍隊がローマに奉仕し、その決定を満たしているため、教皇ローマは帝国の形態の強さと権力を保持しています。

ダニエル書第 8 章 23 節から 25 節が教えているように、その強さは「策略の成功」にかかっており、その策略は、地上で神を代表していると主張し、それによって提案された永遠の命へのアクセスを開閉できるかどうかにかかっています。キリストの福音:

「彼らの支配が終わり、罪人たちが焼き尽くされる時、厚かましい、巧みな王が現れる。彼の力は増大しますが、それは彼自身の力によるものではありません。彼は信じられないほどの大混乱を引き起こし、自分の事業を成功させ、権力者と聖徒たちを滅ぼすでしょう。彼の繁栄と策略の成功のために、彼は心の中に傲慢さを持ち、平和に暮らしていた多くの人々を滅ぼし、支配者の長たちに対して立ち上がるでしょう。しかし、それは誰の手で努力しなくても壊れてしまいます。」

1260 年代の終わりに、フランス革命の無神論により、538 年以來確立されてきた専制権力に終止符が打たれました。

3 節: 「そして、私は彼の頭の 1 つが死ぬほど傷ついているのを見ました。しかし彼の致命傷は癒されました。そして全地がその獣の背後に畏怖の念を抱いた。」

その歴史全体を通じて一度も悔い改めなかったのが、教皇の政務官は制約によってその迫害権力を放棄しなければならないことになる。これは、君主制とその軍事的支援がフランスの無神論によって打倒され、斬首された1792年から達成されるだろう。黙示録 2 章 22 節で発表されているように、この無神論者の「大患難」は「女性イゼベル」のローマの宗教的権力を破壊することを望んでおり、その標的は「彼女

と姦淫を犯した者たち」です。君主、君主主義者、そしてカトリックの司祭。こうやって彼女は「瀕死の重傷を負った」のだろう。しかし、ご都合主義的な理由から、皇帝ナポレオン 1 世は1801年にコンコルダートの名の下にそれを再設立しました。彼女は二度と直接迫害することはありません。しかし、その魅惑的な力は、イエス・キリストが栄光のうちに再臨するまで、その嘘と見せかけを信じる大勢のカトリック信者たちに続きます。「そして、全地が獣の後ろに感嘆した」。

「全地球が獣に従った」という言葉ですが、この地球という言葉は、二重の意味で地球に関するものですが、そこから生まれた改革プロテスタントの信仰にも関係しています。それ以来行われたエキュメニカルな同盟（ギリシャ語で=地上の）は、この発表を裏付けています。もし聖霊がこのメッセージを明確な言葉で表現したいと望んでいたなら、私たちは次のように読むでしょう、「プロテスタントの宗教全体がその教えに従った」

不寛容なカトリック宗教。この言葉は、この第 13 章の 11 節にある、今度は「地から出てくる」2

番目の「獣」の研究によって確認されます。

4節：「そして彼らは竜を崇拜した。竜が獣に権威を与えたからである。彼らはその獣を崇拜して言った、「誰がその獣に似ていて、誰が彼と戦えるだろうか？」」

黙示録 12 章 9

節によれば、帝政ローマだけでなくサタンも指定されており、ドラゴン、つまり悪魔そのものが教皇政権を敬う人々によって崇拜されています。

「自分の力を獣に与えた」のは彼だからです。したがって、ダニエル 8:24 で預言された教皇の「事業の成功」は歴史によって確認されています。彼女はその宗教的力によって王たちの上に君臨し、その絶対的な方法で長い間異論の余地がなかった。ダニエル書 11:39

に次のように記されているように、彼女は自分に仕える者たちに、報酬を与えるために土地と栄誉を称号で割り当てます。そして彼を認める者たちを名誉で満たし、彼らを多くの支配者とし、報酬として彼らに土地を分配するだろう。」このことは、1494年に教皇アレクサンドル6世ボルジア（悪名高き暗殺者）がこの土地を分割し、ブラジルとインドの東の先進地であるポルトガルと、新たに発見された残りのすべてのスペインに割り当てられたとき、文字通りよく知られた方法で達成された。土地。御霊は主張します。イエス・キリストに選ばれた者は、カトリックの信仰が極悪非道であり、そのすべての攻撃的または人道主義的な行動が神と選民の敵対者であるサタンによって指示されていることを完全に確信しなければなりません。彼がダニエル 8:25

で「彼の事業の成功と彼の策略の成功」を預言しているので、この強調は正当です。ヨーロッパの王や権力者、キリスト教徒から認められた宗教的権威は、信頼に基づいた威信を与えているが、それゆえに現実には極めて脆弱である。しかし、神と悪魔が懲罰のために協力すると、群衆、人間の

大衆は、追跡され、そして何よりも押し付けられた偽の道を従順にに従います。地球上では、人々は力があると感じたがるため、力が力を呼びます。この領域では、神を代表すると主張する教皇政権がこのジャンルの達人です。

Rev.6

と同様に、このテーマは「誰が野獣に似ていて、誰が野獣と戦えるのか？」という疑問を投げかけています。」。第 11 章と第 12 章では、その答えが示されています。キリストのうちにある神が、1793 年にフランス革命的な無神論を引き起こし、フランスを血祭りに上げることになるのです。しかし、この「復讐の剣」(レビ記 26:25 の第 4 の刑罰に与えられる役割) が現れるまで、武装したプロテスタントはすでにそれと戦っていましたが、倒すことはできませんでした。男性、プロテスタント、フランス人、ドイツ人、そして英国国教会の人々は皆、彼女と同じくらいタフであり、彼らの信仰は何よりも政治的なものであるため、

16世紀から彼女と戦い、彼女に致命的な打撃を与えます。

5節：「そして彼には、傲慢な言葉と冒瀆を話す口が与えられました。そして彼には42か月間行動する権限が与えられた。」

ヨーロッパ王国の「十本の角」の後にそびえるローマ教皇の「小さな角」に関するものと同じです。ここに彼の「傲慢さ」が見られますが、ここで聖霊は「冒瀆」、つまり偽りの見せかけ、そして「彼の成功」の基盤となった宗教的な嘘を加えます。神は、エゼ書 4:5-6 の「1年に1日」という暗号に従って、聖書の預言の形式「42か月」で示されている実際の「1260」年の統治を確認しています。

6節：「そして彼女は口を開いて神に対する冒瀆を言い、神の名、神の幕屋、そして天に住む者たちを冒瀆した。」

「冒瀆」または侮辱という言葉に与えている共通の意味に注意を向けなければなりません。この概念は誤解を招きます。なぜなら、嘘、つまり「冒瀆」を指定することは、侮辱の側面をまったくとっておらず、神が教皇ローマに課したものについては、逆に、偽りの欺瞞的な神聖さの外観を持っているからです。

教皇の口は「神に対する冒瀆を述べている」。これはダニエル 11:36

で彼の身元を裏付けています。彼は自分自身を高め、すべての神々に勝って栄光をもたらし、神々の神に対して信じられないことを言うでしょう。怒りが完了するまで、それは繁栄するだろう、なぜなら、決定されたことは達成されるからである。»

聖霊は、教皇政権のすべての宗教教義を特徴づける嘘、つまり「冒瀆」を非難します。

「神に逆らって、神の名を冒瀆するために」彼女は神の名を無駄に利用し、神の性格を歪曲し、彼の残忍な極悪非道な行為を神のせいに行っている。

「彼の幕屋」、つまり彼の精神的な聖域、つまり彼の議会、彼の選出者です。なぜなら、この作品は天国とその住民を欺瞞的な方法で描写し、その

教義の中で、彼らを地上、樂園、そして煉獄に位置づけたギリシャ人の遺産である天上の地獄を想起させるからである。純粹で聖なる「天国の住人」たちは、地上の悪魔の陣営によって人々の中に触発された邪悪さと残酷さのモデルが不当に彼らに帰せられているという事実に苦しみ、憤慨しています。

7節：「そして、聖徒たちと戦い、彼らに勝つことが彼に与えられた。そして彼はあらゆる部族、民族、言語、国家を支配する権威を与えられました。」

この聖句はダニエル

7:21

のメッセージを裏付けています。「私はこの角が聖徒たちと戦い、彼らに勝利するのを見た。」ローマ・カトリック信仰は事実上、市民的に独立した「部族、民族、言語、および国家」から構成されるすべてのヨーロッパの人々に押し付けられたため、ヨーロッパおよび世界のキリスト教がまさにその標的となっている。彼女の「あらゆる部族、民族、言語、国民に対する権威」は、彼女の「多くの水の上に座っている」姿を描いた黙示録

17

章

1

節の「大いなる売春婦バビロン」としての彼女のイメージを裏付けています。黙示録

17:15

によれば、

「水」は「人々、群衆、国民、言語」を象徴しています。この第 17 章には「部族」という言葉が存在しないことに興味深いことに注目できます。その理由は、部族の形態がさまざまな国家の形態に置き換えられたヨーロッパと西方キリスト教に関係する、対象となった時代の最終的な文脈です。

一方、教皇政権の確立の始まりの文脈では、ヨーロッパの人口は本質的にローマのガリアのような「部族」に組織され、異なる「言語」と方言によって分裂し、共有されました。歴史的に見て、ヨーロッパには「部族」が居住し、次に王に従属する「人民」が居住し、最後に 18^{世紀}には、北米アメリカ合衆国のような共和制の「国家」が居住し、その重要な発展を構成しました。

「人民」の憲法は、ローマ教皇体制への服従によるものである。なぜなら、フランク王国の初代王クロヴィス以来、キリスト教ヨーロッパの王の権威を認め確立しているのはローマ教皇だからである。

8節「そして、地に住む者はみな、屠られた小羊のいのちの書に、世の初めからその名が記されていなかった方を崇拜するであろう。」

地球」という記号がプロテスタントの信仰を示す終末において、このメッセージは正確な意味を持ちます。すべてのプロテスタントはカトリックの信仰を崇拜するでしょう。聖霊が微妙に次の定義を与えている選民を除いて、すべてです。

そして、ここで思い出していただきたいのですが、その選出された代表者は「地上の住民」である反逆者とは対照的に、「天の国の国民」です。事実は、神の御霊によって定式化されたこの預言の発表が真実であることを

証明しています。なぜなら、宗教改革が始まって以来、1170年のピエール・ヴァルドの場合を除いて、プロテスタントは321年3月7日以来異教の皇帝コンスタンティヌス1世から受け継いだ「日曜日」を尊重することでカトリック信仰を崇拝してきたからである。この告発は、カトリック教会の主題を準備するものである。2番目の「獣」は11節にあります。

9節：「耳のある人は、聞いてください。」»

耳を持つ人は、御霊によって提案されたメッセージを理解するでしょう。

フランス国民無神論への復讐の剣による処刑発表

10節：「もし誰かが捕らわれの身になるなら、彼は捕らわれの身になるでしょう。誰かが剣で殺すなら、彼は剣で殺されなければなりません。これが聖徒たちの忍耐と信仰です。」»

イエス・キリストは、選ばれた者たちに常に求められる平和的な従順さを思い出されます。最初の殉教者たちと同様に、残酷な教皇統治の選挙で選ばれた役人たちは、神が彼らのために用意された運命を受け入れなければなりません。しかし彼は、やがて王や教皇、そしてその聖職者の宗教的要求を罰する彼の正義が何であるかを発表する。選挙で選ばれた役人たちを「誘導」して捕虜にした後、彼ら自身もフランス革命家の刑務所に送られることになる。そして、イエスが愛した選ばれた人々を「剣で殺した」ので、彼ら自身も神の復讐の「剣」によって殺され、その役割は同じフランス革命家の断頭台によって達成されるでしょう。黙示録 6 章 10 節にある殉教者の血によって表現された復讐の願望に神が応えてくださるのは、フランス革命を通してです。地上に住む人々を裁き、私たちの血に対して復讐するためでしょうか？」。そして、黙示録 2 章 22 節で発表されているように、革命的なギロチンは君主制と教皇ローマの聖職者の「カトリックの子供たちを打ち殺す」でしょう。しかし、その犠牲者の中には、信仰と市民の政治的意見を混同し、「剣」を手に個人的な意見や宗教的・物質的伝統を擁護した偽善的なプロテスタントも見つかるでしょう。この行為はジョン・カルビンとジュネーブの邪悪で血なまぐさい協力者たちの行為であった。

1793年と1794年に達成された行動を想起させるこの預言は、黙示録9章5-10節の預言的な「5か月」によって預言された「150」年間にわたって確立された長い宗教的平和の文脈に私たちを導きます。しかし、この時代が終わった1994年以降、1995年からは宗教上の理由で「殺害」する権利が再び確立されました。その後、2021年から2029年の間に「第三次世界大戦」につながる好戦的な延長が行われるまで、潜在的な敵は明らかにイスラム教となる。2030年の春に予想されるキリストの再臨の少し前に、2番目の「獣」が現れるだろう。この第13章で。

第二の獣：地から現れるもの

ドラゴン・ラムの最後の抵抗

11節：「すると、また別の獣が地から出てくるのが見えました。それは子羊のような二本の角を持ち、龍のように話しました。」

地」という言葉を識別するための鍵は、創世記 1 章 9-10 節にあります。「神はこう言われました。天の下にある水を一箇所に集め、乾いた土地を出現させましょう。」そしてその通りでした。神は乾いた土地を地と呼び、水の塊を海と呼びました。神はそれが良いことだにご覧になりました。」

したがって、地上の創造の二日目に乾いた「陸地」が「海」から出てきたのと同じように、この二番目の「獣」も最初の日から出てきました。この最初の「獣」はカトリックの宗教を示しており、そこから出てくる二番目の「獣」はプロテスタントの宗教、つまり改革派教会に関係しています。この驚くべき啓示は、もはや私たちを驚かせるものではありません。なぜなら、これまでの章の研究によって、神が神の裁きにおいてこのプロテスタント宗教に与えられる霊的地位が、補完的な形で明らかになったからです。行われた改革を完了することに同意しませんでした。しかし、この完了はダニエル 8:14 の布告によって要求されており、彼女は黙示録 3:1

の神のメッセージに感謝しています。そしてあなたは死んでしまいました。」この霊的な死は彼女を悪魔の手に投げ込み、悪魔は地上の罪の最後の時である黙示録

16:16

の「ハルマゲドンの戦い」の靈感によって彼女を準備させます。この最後の信仰の試練の時こそ、フィラデルフィアで当時アドベンチスト派の奉仕者たちに宛てられたメッセージの中で預言されており、彼女は自分を「地から這い上がる獣」にするような不寛容な取り組みを行うことになる。彼女には「

2本の角」があり、次の12節でそれが正当化され、特定されます。エキュメニカルな同盟で団結するため、プロテスタントとカトリックの宗教は、正真正銘の週の7日目に神によって神聖化された休息日との戦いで団結している。ユダヤ人の土曜日または安息日だけでなく、アダム、ノア、モーセ、そして反抗的なユダヤ人によってイエスに対してもたらされた安息日違反の告発には根拠がなかったため、地上での奉仕と教えの間、それを疑問に思わなかったイエス・キリストの土曜日または安息日でもあった。そして不当です。意図的に安息日に奇跡を行うことで、神の安息日の休みの真の概念を再定義することが彼の動機でした。

「世の罪を取り除く子羊」によって救いが得られると主張するこれら 2 つの宗教は、その説明基準として、「龍のように話す子羊」のイメージが与えられるに値します。安息日遵守者に対しては不寛容を唱え、死刑まで宣告するのだから、まさに開戦、再び現れる「竜」の策略である。

12節：「彼女は自分の前で最初の獣の権威をすべて行使し、地球とその住民に致命傷が癒された最初の獣を崇拜させました。」

私たちは、カトリックの信仰がもはや支配的ではなく、かつての権威がプロテスタントに与えられるという、一種のリレーを目撃しています。これは、このプロテスタントの宗教が正式には地球上で最も強力な国、つまり北米アメリカ合衆国の宗教であるためです。ヨーロッパとアメリカのプロテスタント宗教の融合は、アドベンチスト機関を含めてすでに達成されています。地球の新しい「バベル」は、さまざまな宗教告白の移民を受け入れることによって建設されているため、宗教の混合を余儀なくされています。もし人間が、表面的な心や宗教的無関心のせいで、これらのことが普通だと思えば、その人間の側として、変わらない創造主の神は、自分の考えも変えず、聖書で証言されている歴史的教訓を無視するこの不従順を罰するでしょう。

。コンスタンティヌス1世が定めた安息日であるローマの最初の日曜日を順番に擁護することで、

²番目のプロテスタントの「獣」が「カトリックの最初の獣」崇拝を行い、それを正式な宗教的地位として認め、その名前を付けました。

「日曜日」は誤解を招きます。御霊は、プロテスタントとカトリック教徒の間のこの最新の同盟が可能になったのは、「深淵から昇る獣」によって負わされた「致命傷」が「癒された」からであることを思い出させてくれます。二番目の獣には治癒のチャンスがないため、彼は彼を呼び戻します。それはイエス・キリストの栄光の到来によって滅ぼされます。

13節：「彼女は人々の目の前で天から地に火を降らせるなど、大きな不思議を行いました。」

1945年の日本に対する勝利以来、プロテスタントのアメリカは地球上で最初の核保有国となった。その非常に高い技術は常に模倣されますが、決して匹敵するものではありません。常に競合他社や敵対者よりも一歩先を行っています。この優位性は、ダニエル書 11 章 44 節によると、この預言にある「北の王」の国である敵であるロシアを破壊する「第三次世界大戦」の文脈で確認されるでしょう。そのとき彼の威信は計り知れないものとなり、紛争の生存者たちは啞然としながらも感嘆しながら自分の命を彼に託し、全人類に対する彼の権威を認めることになるだろう。

「天からの火」は神のみのものでしたが、1945年以来アメリカがそれを所有し、管理しています。彼女は勝利と現在の威信すべてを彼に負っており、来るべき核戦争での勝利によってさらに高まることになるだろう。

14節：「そして彼女は、獣の前で行うように与えられたしるしによって、地上に住む人々を欺き、剣の傷を負った獣の像を作るように地上に住む人々に言いました」そして生きていた人。」

技術的な「天才」は数え切れないほどいます。

「地球の住人」は、自分たちの生活と思考を吸収するすべての発明に依存するようになりました。アメリカが、麻薬中毒者のように、彼らの魂を占拠しているこれらの道具を自分たちから奪うように要求しない限り、「地

球の人々

」は、「非常に小さなグループ」、「女性の残存者」に対する宗教的不寛容を正当化する用意ができています。 黙示録 12:17。

「...獣の像を作る」には、カトリック宗教の行為をコピーし、プロテスタントの権威の下で再現することが含まれます。この厳格な精神への回帰は2 つの行動に基づいています。

「生き残った人たちは恐ろしい戦争行為を生き延び、神は黙示録 16章に記述されている「神の怒りによる最後の七つの災い」を継続的かつ徐々に彼らに襲いかかります。

日曜日の死刑宣告

15節：「そして、獣の像に命を吹き込むこと、獣の像が話すこと、そして獣の像を拝まない者は殺されることが彼に与えられた。」

神の靈感を受けた悪魔の計画は形を成し、達成されます。御霊は「最後の七つの災い」の6番目に取りられる極端な措置の形を明らかにします。地球上で生き残っているすべての反乱軍が受け入れた公式の布告により、春先から2030年4月3日までの間に、最後に残った7日目の安息日を守るアドベンチストが殺害されることが決定される。論理的には、この日付はイエス・キリストが栄光のうちに再臨された年を記念します。今年2030年の春は必然的に、彼が選んだ人々に対して反乱軍の悲惨な計画が実行されるのを阻止するために彼が介入し、彼らの「大きな苦しみ」の「日を短縮」する瞬間である（マタイ24章）。:22)。

16節：「そして彼女は、小さい者も大きい者も、裕福な者も貧しい者も、自由な者も奴隷も、すべての人に右手か額に刻印を与えました。」

採用された措置は、当時の生存者を2つの陣営に分けるものでした。反逆者のそれは、321年3月7日^{以来}、その崇拝者の一人であるローマ皇帝コンスタンティヌス1世によって課された古代の「征服されない太陽の日」であるカトリックの「日曜日」を指定する人間の権威の「マーク」によって識別されます。「しるし」が「手」に受けられるのは、それがイエスが裁き、非難する人間の「業」を構成するからです。それはまた、創造主である神の正当な裁きの下で責任を全うするすべての人間の個人的な意志を象徴する「額」にも受け取られます。この「手」と「額」の象徴性の解釈を聖書から証明するために、申命記 6 章 8 節に次の聖句があります。神はそこでご自分の戒めについて次のように述べています。 、目の間の前髪のようなものになります。 》

過去の報復

17節：

そして、その獣のマーク、名前、またはその名前の番号がなければ、誰も売買することはできませんでした。」

この「人」という言葉の背後には、神によって聖化された安息日に忠実であり続けたアドベンチストの聖徒たちの陣営があります。なぜなら、異教の最初の日の残りの日曜日である「しるし」を尊重することを拒否したため、それらは脇に置かれるからです。当初、彼らは、抵抗する反対者に対するアメリカの措置でよく知られている「ボイコット」の犠牲者でした。取引する権利を持つためには、プロテスタントに関する日曜日の「マーク」、カトリック教徒に関する「獣の名前」、カトリック教徒に関する「神の御子の代理」、または「彼の番号」を尊重しなければなりません。名前」、または番号 666。

18節：「これは知恵です。理解のある者には獣の数を計算させてください。それは男の番号であり、その番号は六百六十六だからである。」

人間の知恵だけでは神の御霊のメッセージを理解するのに十分ではありません。ソロモンの場合のように、その知恵は全人類の知恵を上回り、その名声を全世界に知らしめたように、それは彼から受け継がれなければなりません。アラビア数字が採用される前、ヘブライ人、ギリシャ人、ローマ人の間では、アルファベットの文字にも暗号の価値があり、単語を構成する文字の値の加算によってその数が決まりました。聖句で指定されているように、私たちはそれを「計算」によって取得します。

「...彼の名前の数字」は「 666 」、つまり彼のラテン名「VICARIVS FILII DEI」に含まれるローマ字の数値を足した数字です。10章の研究で何かが実証されました。この名前自体が彼の主張の最大の「冒涇」または「嘘」を構成します。なぜなら、イエスは決して自分自身に「代わり」、つまり「牧師」という言葉の意味を与えなかったからです。

黙示録 14 章: セブンスデー アドベンチズムの時代

3人の天使のメッセージ – 収穫 – ヴィンテージ

これは 1843 年から 2030 年までを対象とした章です。

1843年、ダニエル書第8章14節の預言が特別に用いられたことにより、「アドベンチスト」たちはその日の春に定められたイエス・キリストの再臨を待つようになりました。これは一連の信仰の試みの始まりであり、預言の精神、すなわち黙示録 19 章 10 節によると「イエスの証し」に対する関心が、イエスの救いを信じていると主張するクリスチャンによって個別に証明されることとなります。複数の宗教的ラベルの下にあるキリスト。実演された「作品」単体でもお選びいただけます。これらの作業は、受け取った光とその神聖な要件を受け入れるか拒否するという2つの可能な選択肢に要約できます。

1844年の秋に新たな期待が設定された後、イエスは、世界の創造以来神によって聖化された安息日の習慣の回復から始まる宗教改革の働きを完了するという使命に向かって選ばれた人々を導きます。

。これは「神聖さ」の最も重要な主題であり、1844年にこの違反が召使いたちの注意を引いたときから「正当化」されました。ダニエル書 8:14

この翻訳は、私の宣教までに「二千三百夜の朝と聖所は清められる」と訳されており、ヘブライ語の原文に忠実に一致しており、「二千三百夜の朝と聖所は清められる」となっている。神聖さは正当化されるでしょう。

321

年以來の神の安息日の違反には、使徒の時代に神によって確立された教義的真理の他の数多くの放棄が伴っていることは、誰でも気づくことができます。

1260年にわたる嘘の統治、破壊的な信仰の後継者たちの後、教皇は真理の神にとって耐えられない多くの嘘をプロテスタントの教義に残しました。

これが、この第 14

章で御霊が3つの主要なテーマを連続して提示する理由です。世の終わりの「収穫」、選ばれた者の選別と携挙、怒りのブドウの「ブドウの収穫」、偽の羊飼、キリスト教の偽の宗教教師に対する最終的な罰。

神の怒りから選ばれた人々を守るために1844年以来教えられてきたこの最後の試練は、明らかにされた神の意志と、最も完全な背教に陥った反抗的な人間の要求との間に位置するために人類に与えられた時間の極限の終わりのために予約されています。しかし、下された選択は、1844年以降に亡くなったすべての人々に影響を及ぼします。13節の教えに従って「主にあって死ぬ」のは、啓発された忠実な選ばれた人々だけであり、そこで彼らは「祝福された」と宣言されています。つまり、神の恵みの受益者です。キリストは、「フィラデルフィア」の天使に宛てられた彼らに関するメッセージの中で、すでにそのすべての祝福を確認しています。なぜなら、「アドベンチスト」としてバプテスマを受けるだけでは、神に選ばれた者とみなされるだけでは十分ではないからです。

一方、放棄の詳細がまだ解明されていない場合は、7節から11節の「三人の天使のメッセージ」の形で御霊によって重要な点が強調され、要約されます。これらのメッセージは次のように続きます。結果の連続。

私はここでそれを思い出します。この作品の 2
ページの表紙の注記の後、これらの3つのメッセージは、ダニエル書の第 7 章と第 8 章の象徴的なイメージですすでに明らかにされている 3
つのメッセージを強調しています。この黙示録 14 章での思い出です。
、神が彼らに与える極めて重要なことを強調し、確認します。

救われたアドベンチストは勝利を収めた

1節：「わたしが見ると、見よ、小羊がシオンの山の上に立っていました。小羊とともに十四万四千人がおり、彼らの額には小羊の名と父の名が書かれていました。」

「シオンの山」とは、イスラエルにあるエルサレムが建てられた場所を指します。それは救いの希望と、地上と天上の信仰の試練の終わりにこの救いがどのような形をとるかを象徴しています。この計画は、黙示録 21:1

に従って、地と空に関する万物が新しくなるときに完全に達成されます。
「

144,000人」は、1843年から2030年の間に選ばれたキリストの選民、すなわちイエス・キリストによって試され、証明され、承認され、その判断が集団的にも個人的にも適用されるアドベンチストのクリスチャンを象徴しています。集団的な判断は組織を判断し、個別の判断は各生き物に関係します。「

144,000人」は、アドベンチスト信仰の信者の中からイエス・キリストによって選ばれた人々を表しています。この数は厳密に象徴的なものであり、選ばれた人の実際の数には神によって知られ守られている秘密です。提案されたイメージの定義から、彼らが選択した理由がわかります。彼らの額には、彼らの意志と思考の象徴である「子羊の名前」、イエス、そして古い同盟で明らかにされた神、

「父の名前」が刻まれています。これは、創造主である神が罪の前に最初

の人間を形作り命を与えたときに与えた神の像を彼らが見つけて再現したことを意味します。そしてこのイメージは彼のキャラクターです。それらは、神がイエス・キリストにおいて唯一忠実に選ばれた者の罪を贖うことによって得ようとされた果実を構成します。選ばれた人の額には、彼らの精神の中に、彼らの思想と意志、黙示録 7:3 の神の印章、または十戒の第 4

戒めの安息日と切り離せない性格が見られるようです。子羊イエス・キリストと、父なる創造主なる神としての古い契約における彼の啓示について。したがって、真のキリスト教の信仰は、ローマの日曜日の信奉者たちが、言葉ではないにしても、少なくとも行動で主張するように、御子と御父に付随する宗教的規範に反対するものではありません。

2節：「そして、私は天から、多くの水の音のような、大きな雷の音のような声を聞きました。そして私が聞いた声は、ハープ奏者がハープを演奏しているような声でした。」

この聖句で言及されている矛盾した性格は、実際には補完的です。「大きな水」は、自分自身を表現するときに「大きな雷」の外観をとる多数の生き物を象徴しています。それどころか、神は「ハープ」のイメージを通して、勝利した被造物を団結させる完璧な調和を明らかにします。

3節：「そして、彼らは玉座と四匹の生き物と長老たちの前で新しい歌を歌いました。そして、地上から救い出された14万4千人を除いて、誰もその歌を学ぶことができませんでした。」

神はここで、1843年から1844年にかけて確立された「アドベンチスト」信仰の非常に高度な神聖化を確認し、強調しています。選出された代表者は他の象徴的なグループとは区別されます。

「玉座、四匹の生き物、そして長老たち」。後者は、地上に住んでいた経験から救われたすべての人を指します。しかし、黙示録と呼ばれる神の啓示は、ダニエル 8:14 の布告が 2 つの連続する段階に分かれている 2,000 年間のキリスト教信仰のみを対象としています。

1843年から1844年まで、選出者は黙示録4章4節で引用されている「24人」のうちの12人の「長老」によって象徴されていました。他の 12人の「長老」は、1843年から1844年の黙示録 7:3-8 に「封印された」アドベンチストの「12部族」です。

4節：「これらの人たちは、女に対して身を汚さなかったのです。彼らは処女だからです。彼らは子羊が行くところはどこへでもついていきます。彼らは神と小羊の初穂として人間の中から贖われました。」

この聖句の言葉は霊的な意味でのみ当てはまります。

「女性」という言葉は、ローマ・カトリック信仰など、その起源以来背教に陥ったキリスト教会、または1843年から1844年以降はプロテスタント信仰、1994年以降はアドベンチストの制度的信仰を指します。ローマ 6:23によれば、言及されている「汚れ」は神の律法への違反から生じる罪を対象としており、その罪の「報酬は死」です。イエス・キリストが象徴的な

「

144,000人」を除いて神聖なものとしたのは、彼らを罪の実践から救うためです。彼らの「処女性」も霊的なものであり、彼らを、イエス・キリストが彼らに代わって流した血によってその正義が白化された「純粋な」存在であることを示しています。アダムとイブのすべての子孫と同様、罪とその汚れの相続人は、イエス・キリストによって認められた信仰によって完全に「清められ」ました。しかし、この信仰がイエス・キリストによって効果的に認められるためには、この浄化が現実のものであり、彼らの「働き」の中で具体化されなければなりません。したがって、これは、偽りのキリスト教やユダヤ教、あるいはより広義には一神教から受け継いだ罪を放棄することを意味します。そして、神は預言的な啓示の中で、地球とその天体系の創造の最初の週から定めた時間の順序を尊重しなかったことを特にターゲットにしています。

新曲を歌う」というイメージの裏には、封印された「14万4千人」だけが体験する具体的な体験がある。罪の象徴であるエジプトからの輝かしい脱出を祝った「モーセの歌」に続いて、「144,000人」の選ばれた人々の「歌」は、彼らがダニエル8:14の法令に従い、彼らの活動に協力したため、罪からの解放を祝います。

1843年から1844年にかけて、神は聖化を望み、さらには要求しました。この日、天の幻は、ゴルゴタの十字架でイエス・キリストの死によって達成された罪の清めを思い出させました。このメッセージは、ローマの日曜日やその他の偽りの罪の継承者であるある種のプロテスタント信者に対して神が示した非難であると同時に教えでもありました。ヘブライ語の儀式の種類学では、この「罪の清め」は秋の宗教的な祭りであり、その間に殺されたヤギの血が、このアクセスできない場所に置かれた慈悲の座の上の最も神聖な場所に運ばれ、残りの方々には禁じられていました。年、時期。罪の象徴であるこのヤギの血は、彼らが受けるべき罰を彼らに代わって償うために、自ら選ばれた人々の罪の担い手となったイエス・キリストの血を預言しました。イエスご自身が罪とされました。この儀式では、ヤギは罪を表すのではなく、罪を負うキリストを表します。この聖句が「彼らは小羊の行くところどこへでもついて行く」と述べているのは、許可された聖所からその年の残りの間、禁じられた至聖所へ大祭司が肉体的に移動することを暗示している。

1844年10月23日の幻の中でこの場面を思い出すことによって、キリストの御霊は、ご自分が選んだ無意識の相続人たちに、教義の誤り、つまり罪の禁止を思い出させました。このようにして、1844

年以降、ローマの日曜日の場合に見られる自発的な起源の罪が実践されるようになり、神との関係は不可能になり、罪が放棄されたことで、関係する選ばれた者を完全な聖化へと導くこの関係の拡大が可能になりました。明らかにされた神聖な真理を受け入れ、理解し、実行することです。

それらは「神と小羊のための初穂」と考えられており、神が地上で選ばれた人々の中で見つけた最良のものを構成します。ヘブライ語の儀式では、「初穂」は「聖なる」と宣言されました。これらの動物や野菜の初穂の捧げ物は、神を讃え、神の善良さと寛大さに対する人間の感謝の気持ちを示すために、神のために取っておかれました。実際、「聖なる初穂」のもう一つの理由は、彼らに啓示された神の光をその全体として受け入れることです。なぜなら、彼らは啓示された光がその頂点、霊的頂点に達する終末の時代に生きているからです。

5節：「そして、彼らの口には嘘は見られませんでした。彼らには何の罪もないからです。」

真に選ばれた者、新しく生まれ変わることによって真実から生まれた者は、何の喜びも感じない「嘘」を憎むことしかできません。嘘は有害な結果をもたらし、善良な人々を苦しめるだけなので、忌まわしいものです。

「嘘」を信じた人は、失望の痛み、だまされた苦しみを経験します。キリストに選ばれた人は誰も、同胞を誘惑したり騙したりすることを喜ぶことはできません。その一方で、真理は安心感を与え、真の兄弟との関係を積極的に構築しますが、何よりもまず、ご自分の名を「真理の神」と主張し称賛する私たちの救いの創造者であり救い主である神との関係を築きます。したがって、もはや教義上の罪を実践するのではなく、明らかにされた真理に従うことによって、選ばれた人は真理の神ご自身によって「とがめられない」と判断されるのです。

最初の天使からのメッセージ

6節：「私は、別の天使が永遠の福音を持って天の真ん中を飛んで、地上に住む人々、すべての国、すべての部族、すべての言語、すべての民にそれを宣べ伝えるのを見た。」

「別の天使」または別の使者は、「空の真ん中」または太陽の天頂に象徴される完全な神聖な光を宣言します。この光は、イエス・キリストによってもたらされた救いの「福音」または「良い知らせ」に関係しています。それは、そのメッセージが本物であり、時間が経っても変わらないため、

「永遠」と呼ばれます。このようにして、神はそれがイエス・キリストの使徒たちに教えられたものと一致していることを証明します。この真実への回帰は、ローマ

カトリック信仰から受け継がれた数多くの歪曲を経て、1843

年から始まりました。この宣言は、アドベンチストの働きの神の祝福を明らかにするダニエル

12:12

に示されているメッセージと同様に普遍的です。

「永遠の福音」は、ダニエル 8 章 14 節の布告によって明らかにされた神の要求に従って、信仰の真の成果とい

う側面の下でここで言及されています。預言の言葉への関心は、次の規範の正当な成果です。「永遠の福音」。

7節：「彼は大声で言った。『神を畏れ、神に栄光を帰せよ。神の裁きの時が来たからだ。神に栄光を帰せよ。』そして天と地と海と水の泉を造られた方を崇拝しなさい。」

7

節で、最初の天使は、神の十章で創造主の神の栄光を讃える安息日の違反を非難します。したがって、彼は1844年10月からの修復を要求しましたが、1843年の春以来、自分の違反をプロテスタントのせいに行いました。

第二の天使からのメッセージ

8節：「そして、もう一人、第二の天使が続いて言った、「大いなるバビロンは倒れた、彼女はすべての国々に自分の淫行の怒りのぶどう酒を飲ませた。」

ラテン語のモンタージュの「主の日」の翻訳にちなんで改名することによって、人々を誘惑し欺いてきたローマ教皇カトリック教会の多大な罪を明らかにしています。「日曜日」の由来は、「des dominica」です。

「大いなるバビロンは倒れた、倒れた」という表現が二度繰り返され、彼女と彼女を継承する人々にとって神の忍耐の時間が決定的に終わったことを裏付けています。個人的に回心することは依然として可能ですが、その代償として、悔い改めの実、つまり「業」を生み出すだけです。

注意：「崩壊した」とは、都市が敵の手に落ち、真理の神によって占領され敗北することを意味します。彼は、1843 年以降、1844 年から1873

年の間、セブンスデー

アドベンチストの忠実な僕たちのために、黙示録17:5
で特徴付けられている「奥義」を提起し、照らし出しました。彼の嘘による誘惑は効果を失います。

8

節では、これまでのメッセージで下された判断が確認され、悲惨な警告が示されています。コンスタンティヌス1世が1844年以来、321年に定めた安息日を意識的かつ自発的に選択したことにより、それを正当化する反逆者たちは、最後の審判の第二の死という苦しみに対する神の非難を受動的なものとしている。神は日曜日に対する告発を隠すために、ご自身の神聖な「印章」に対抗する悪名高い「印」の名の下にそれを隠しました。人間の權威のこのしるしは、時の秩序に疑問を投げかけており、神によって罰せられるに値する甚大な暴挙である。そして、発表された懲罰は実際、恐ろしいものになるだろう。「彼は火と硫黄で苦しめられるだろう」。それは反乱軍を滅ぼすであろうが、それは最後の審判の瞬間に限られる。

第三の天使からのメッセージ

9節：「そして、別の、第三の天使が彼らに続いて、大声で言いました、もし誰かがその獣とその像を崇拜し（ひれ伏し）、その額や手に刻印を受けたら、」

they Following」という式で指定されます。「大きな声」は、それを宣言する人の非常に高い神聖な権威を裏付けます。

。地から湧き出る獣」の支配を支持し承認し、日曜日にその従順を通じて、黙示録13章に引用されているその権威の「印」を採用し、称える人間の反逆者たちに向けられている。 : 16

人、これは現在のキリスト教徒の人口全体です。

印」と「神の封印」、つまり初日の日曜日から7日目の安息日までの正反対は、両方が「正面」、つまり王の座席で受け取られるという事実によって確認されます。黙示録 7:3 と 13:16によれば、そうなるでしょう。黙示録 7:3 の「神の印章」が黙示録 14:1では「小羊の名とその父の名」になることに注意してください。

「手に」受け取ることは、申命記 6:4 から 9までの次の聖句によって明らかにされています。

「聞いてください、イスラエル！私たちの神であるヤハウェは唯一のヤハウェです。あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くしてあなたの神エホバを愛さなければならない。そして、私が今日あなたに与えるこれらの戒めは、あなたの心の中にあるでしょう。あなたはそれを自分の子供たちに教え込み、家にいるとき、旅行に行くとき、横になるとき、そして起きるときに彼らのことを話さなければなりません。あなたはそれらをしるしとして手に結び、それらをあなたの目の間に前立てとして置くべきである。あなたはそれをあなたの家の柱とドアに書きなさい。」

「手」は行動、実践を表し、「前」は思考の意志を表します。この聖句の中で、御霊はこう言います。「あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くしてあなたの神ヤハウェを愛さなければならない」。イエスがマタイ 22:37

で引用し、「最初で最大の戒め」として提示したものを。したがって、「神の印」を押して選出された役人は、次の 3

つの基準を満たさなければなりません。「心から神を愛すること」。それを実践することによって、聖なる7日目の安息日の休みを尊重すること。

そして心の中には「小羊の名「イエス・キリスト」と父の名「ヤハウェ」があった。御霊は「と父の御名」を明示することによって、神の十戒と、古い契約の中で選ばれた者の聖さを促進する戒律と儀式に従う必要性を確認します。使徒ヨハネは当時でさえ、ヨハネ第一 5章3節から4節で次のように述べてこれらのことを確認しました。

「神の愛は、神の戒めを守ることだからです。そして、神の戒めは悲惨なものではありません。なぜなら、神から生まれたものはすべて世に勝つからです。そして世界に勝利する勝利は私たちの信仰です。」

10節：「彼はまた、神の怒りの杯に混じりなく注がれた神の怒りのぶどう酒を飲み、聖なる天使たちの前と小羊の前で火と硫黄で責め苦を受けることになる。」

「獣の刻印」を受けた人々はイエス・キリストの義を主張しながら人間の罪を尊重するので、神の怒りは十分に正当化されるでしょう。黙示録6:15-17

では、聖霊は、イエス・キリストの破壊的な正義の怒りとの最終的な対決の結果を描写しました。

非常に重要な注意:

この神の怒りをよりよく理解するには、なぜ聖なる安息日の無視が神の怒りをこれほど引き起こすのかを理解する必要があります。小罪は存在しますが、聖書は聖霊に反して犯された罪に対して警告し、神の許しを得るための犠牲はもはや存在しないと告げています。使徒たちの時代、この種の罪の唯一の例は、改宗したクリスチャンによるキリストの拒絶でした。しかし、これは単なる例にすぎません。実際には、聖霊に対する冒瀆は、神の御霊によって与えられた証言を否定し、拒否することからなるからです。人間を説得し、教えるために、聖霊は聖書の聖典に靈感を与えました。したがって、聖書の御霊によって与えられた証言に異議を唱える者は、すでに神の御霊に対する冒瀆を犯しているのです。神は、召された人々を聖書とその書物に導くこと以上に、ご自身の意志を知らせることができるでしょうか。彼は自分の意志、考え、主権的判断をもっと明確に表現できるだろうか？

16世紀の戦争を仕掛けた聖書に対するこの軽蔑は、ローマ・カトリックに対する神の忍耐の決定的な終わりを示した。彼が決して認識していなかった教義に対する彼の忍耐の限界。そして1843年、この預言の言葉に対する軽蔑は、ローマの主日、つまり「獣の刻印」の継承者であるプロテスタントの信仰を、さまざまな形で受け入れることの終わりを示しました。そして最後に、アドベンティズムは、イエスが私が受肉した謙虚な僕を通して示された究極の預言的啓示を拒否することで、聖霊に対する冒瀆を犯しました。この冒瀆は、1995年以来、日曜監視員たちとの同盟によって確認され、さらに増幅されてきた。聖霊に対する冒瀆は、そのたびに神からそれに値する正当な反応を受ける。この 10節で確認された、最初と「第二の死」に対する正当な有罪判決。

11節：「そして、彼らの苦しみの煙は永遠に立ち上ります。そして彼らには昼も夜も休むことがなく、獣とその像、そしてその名の刻印を受ける者を崇拜します。」

「煙」は最後の審判の時、つまり黙示録19:20 と 20:14の「火の湖」の反逆者が「火と硫黄の中で苦しめられる」時だけである。これは7千年紀の終わりのことです。しかし、この恐ろしい瞬間が訪れる前に、イエス・キリストの輝かしい再臨の時が彼らの最終的な運命を確定させるでしょう。この聖句のメッセージは「休息」というテーマに触れて

います。一方、選民は神によって聖別された休息の時間に注意を払っていますが、一方で墮落した人々は同様の関心を持っていません。なぜなら彼らは神の宣言に彼らにふさわしい重要性和真剣さを与えていないからです。したがって、彼らの軽蔑に応えて、神は彼らの最後の懲罰の時にも、彼らの苦しみを和らげるための休息を与えません。

12節：「これは神の戒めとイエスの信仰を守る聖徒たちの忍耐です。」

忍耐または忍耐」という言葉は、1843年から1844年までの栄光の再臨までの神聖なる救世主イエスの真の聖徒たちを特徴づけます。この節では、1節の「父の御名」が「神の戒め」となり、「小羊の名」が「イエスの信仰」に置き換わります。優先順位も変更されます。この聖句の中で、御霊は最初に「神の戒め」、次に「イエスの信仰」を挙げています。それは歴史的にも価値のレベルにおいても、救いの計画において神によって承認された秩序です。

1節では「～の名前」が優先されました。「子羊」は、選ばれた「144,000人」をキリスト教の信仰に結びつけます。

13

節「すると、天からこう言う声が聞こえました。「主にあって死ぬ死者は今から幸いである、と書きなさい！」と書きなさい。そうだ、御霊は、彼らとその労苦から休むことができるように、彼らの業は彼らについて来るからと言います。」

これから」という表現は非常に重要なので詳しく説明する必要があります。なぜなら、それは、それぞれダニエル書8章14節の法令が発効し、ウィリアム・ミラーによって組織された2つのアドベンチスト裁判が終結する1843年の春と1844年の秋の日付を対象としているからである。

今」という言葉の意味を見失いました。アドベンチスト信仰の先駆的創設者だけが、1843年以降の神の安息日の要求の結果を理解していました。この7日目の習慣を採用するために、彼らはそれまで行われていた日曜日が神によって呪われていたことに気づくように導かれました。その後、受け継がれたアドベンティズムは伝統的かつ形式主義的なものとなり、圧倒的多数の信者や教師にとって、日曜日と安息日は不当に平等のレベルに置かれました。この神聖さと真の神聖さの感覚の喪失により、預言の言葉と、私が1983年から1994年にかけて伝えた3回目のアドベンチストのメッセージに対する無関心が生じました。この軽蔑がフランスのアドベンチストに現れたため、アドベンチスト世界という団体は、アドベンチスト世界と同盟を結びました。1995年にエキュメニカル一族がその最大の呪いのために、10節の「苦しみ」の脅威は、「彼も酒を飲むだろう」という表現の暗示によって、今度は彼女に関係します。

1994年以来、プロテスタントの信仰に倣い、制度的なアドベンティズムが1843年から裁かれ、非難されている。

この聖句が示唆しているように、ダニエル8章14節の布告により、1843年のプロテスタントのキリスト教徒はアドベンチスト派を含む2つの陣営に分離され、「主にあって死ぬ死者はこれから幸いである！」と宣言された至福の恩恵を受けました。言うまでもなく、イエスが「ラオデキア」でそれを「吐く」つもりであると発表したこと、アドベンチスト機関、キリストの公式の使者である1991年、「裸」と呼ばれる光を公式に拒否した日は、もはや利益を得ることができませんこの至福から。

収穫時期

14節：「見ていると、見よ、白い雲があり、その雲の上に人の子のような人が座っていて、頭には金の冠をかぶせ、手には鋭い鎌を持っていました。」

この描写は、栄光の帰還の瞬間のイエス・キリストを思い起こさせます。

「白い雲」は、二千年前に経験した出発と天への上昇の状況を思い出させます。

「白い雲」は彼の純粋さを表し、「金の冠」は彼の勝利した信仰を象徴し、「鋭い鎌」はヘブル書 4:12の「神の手」によって実行された神の「切る言葉」をイメージしています。

15節：「すると、別の天使が神殿から出てきて、雲の上に座っている者に向かって大声で叫びました。「鎌を振り出して、刈り取りなさい。」収穫の 때가来た、地球の収穫は熟しているからです。」

「収穫」という側面において、「小麦ともみがら」を決定的に分ける時が来ることを思い出されました。ヨハネの黙示録を通して、彼は私たちに、この二つの陣営を分けるこの主題、つまり選ばれた者の安息日と墮落した者の日曜日を発見させます。なぜなら、この宗教名の背後には、異教の太陽神の崇拝と権威が隠されているからです。そして、人間の時間の進化にもかかわらず、神は人間にとって人間の本当の姿を見つめ続けます。人間のさまざまな意見は彼の判断に影響を与えません。時間の流れから言えば、初日は冒流的なものであり、決して神の聖性を帯びることはありません。これは、永久地球時間の始まりから刻まれた時間の順序における神聖化された 7 日目のみ関連付けられています。これは 6000 太陽年続きます。

16節「そして、雲の上に座っていた者は、鎌を地に投げ捨てた。そして土地は刈り取られました。」

御霊は「地の収穫」が将来成就することを確証します。救い主であり復讐者であるキリストは、マタイ 13 章 30 節から 43

節で使徒たちにたとえ話でなされた発表に従って、それを見守り、それを成し遂げてくださいます。「収穫」は主に、生き残った選ばれた聖徒たちの天国への携挙に関するものです。創造主なる神に忠実です。

収穫の時（そして復讐）

17節：「また、天にある神殿から、同じく鋭い鎌を持った別の天使が出てきました。」

前の「天使」が選ばれた者に有利な使命を持っていた場合、この「他の天使」は逆に、倒れた反逆者に対する懲罰的な使命を持っています。この
2
番目の「鎌」もまた、収穫とは異なり、ブドウの収穫には「神の手に」という表現がないため、神の意志によって実行される「神の切断の言葉」を象徴していますが、神の手によってではありません。したがって、懲罰的行動は神の意志を実行する代理人に委ねられることになる。実際、彼の誘惑の犠牲者です。

18節：「そして、火を司る権威を持つ別の天使が祭壇から出てきて、鋭い鎌を持っている者に大声で言いました、「あなたの鋭い鎌を打ち払って、ブドウを集めなさい。」地のぶどうの木。地のブドウは熟しているからです。」

ブドウの収穫」の瞬間がやって来ます。イザヤ 63:1 から 6
では、御霊はこの象徴的な用語の対象となる行動を展開します。聖書では、赤ぶどうジュースが人間の血液に例えられています。イエスが聖晩餐でこの言葉を使用したことは、この考えを裏付けています。しかし、「ヴィンテージ」は「神の怒り」と結びついており、キリストが自発的に流した血は数々の裏切りに値しないため、神の僕たちを装って不当に働いた人々に関わることになるだろう。なぜなら、イエスは、その実践を中止するために自分の命を捧げ、苦しみを負った罪を正当化する点までご自分の救いの計画を歪める人々に裏切られたと感じる可能性があるからです。したがって、神の律法を意図的に違反する者は、神に応じなければなりません。彼らは盲目的な狂気の中で、1843年から1844年以来神聖化され、神によって要求されてきた7日目の安息日の習慣を地球上から根絶するために、真の選民を死刑にしたいとさえ思うだろう。選ばれた人々は、宗教上の敵に対して武力を行使する神の許可を持っていませんでした。神はこの行動をご自身のためだけに留保しておられました。

「復讐は私のもの、報復は私のものである」と彼は選挙で選ばれた役人たちに宣言し、この復讐を実行する時が来た。

この14章の17節から20節は、この「収穫」のテーマを思い起こさせます。罪深いブドウは、その働きによってその真の性質を完全に示したので、熟したと宣言されます。ブドウ狩りの人たちの足で踏まれると、彼らの血はブドウの果汁のように容器に流れ込みます。

19節「そして、天使は鎌を地に投げ捨てた。そして彼は地のぶどうの木を集め、そのヴィンテージを神の怒りの大きなぶどう搾り場に投げ入れました。」

このシーンによって明らかにされるこのアナウンスによって、アクションが証明されます。神はカトリックとプロテスタントの傲慢に対する罰を確実に預言しています。彼らは神の怒りの結果に苦しむこととなります。これは、収穫されたブドウが粉碎機の足で粉碎される大桶によって示されています。

20節：「そして、ぶどう搾り場は街から踏みにじられました。そして血は桶から出て、馬の手綱にまで千六百スタディアルの距離にわたって流れ出た。」

63:3 は次のように述べています。誰も私と一緒にいませんでした...」。このヴィンテージは黙示録 16:19 にある大なる都市バビロンの懲罰を成就します。彼女はその杯を神の怒りで満たしており、これからそれを残骸に飲まなければなりません。

「ぶどう搾り場は市の外で踏まれていた」、つまりすでに天に上げられた選民の臨在なしで。エルサレムでは、死刑を宣告された人々の処刑は、聖都を汚さないように城壁の外で行われました。これはイエス・キリストの十字架の場合に当てはまり、このメッセージを通して、ご自身の死を過小評価した人々が支払うべき代償を思い出させます。彼の敵が多くを償うために今度は血を流す時が来ました。

「そして血が桶から出て馬の噛みつきにまで達した。」怒りの対象はキリスト教の宗教教師であり、神は彼らを指示するために乗り手が「馬の口」に入れる「ハミ」のイメージで彼らを指します。このイメージはヤコブ 3 章 3 節で提案されており、そのテーマはまさに「宗教教師」です。ヤコブは第 3

章の冒頭でこう述べています。「兄弟たちよ、あなた方のうちで多くの人が教え始めないようにしましょう。私たちがもっと厳しく裁かれることをあなた方は知っているからです。」

「収穫」の行為は、この賢明な警告を正当化します。

「馬の噛みつきまで」と明記することによって、聖霊は、その大桶が第一に「大なるバビロン」のローマ・カトリック聖職者に関係しているが、それが1843年以来、宗教を「破壊的」に利用しているプロテスタントの教師たちにも及ぶことを示唆している。黙示録 9 章 11 節の御霊による告発による聖書。ここに、黙示録 14 章 10 節に与えられた警告が当てはまります。「彼はまた、神の怒りの杯に混ぜ物なく注がれた神の怒りのぶどう酒を飲むでしょう...」。

1,600スタディアルの範囲にわたって」というメッセージについては、前のメッセージと同様に、罰は1600という数字が暗示している16^{世紀}以来の宗教改革派の信仰にまで及びます。

1517

年にマルティン・ルーサーがカトリック信仰に対する告発を正式に行ったのもこの時期でした。しかし、イエス・キリストが禁じた暴力と剣を正当化する「偽キリスト」と偽キリスト教徒に関するプロテスタントの教義が形成されたのもこの

16^{世紀}でした。

。黙示録は独自の解釈の鍵を提供しており、この 16^{世紀}は黙示録 2:18 ~ 29 で「テアティラ」という象徴的な時代名で指定されています。

「スタジアム」という言葉は、彼らの宗教活動、勝者に約束された勝利の冠を賭けたレースへの参加を表しています。これは、Iコリント 9 章 24 節でのパウロの教えです。勝てるように走ってください。」したがって、天上の召命という賞は、いかなる方法でも勝ち得られるものではありません。忠実さと従順の忍耐が、信仰の戦いで勝利する唯一の方法です。彼はフィリピ

3:14

でこう述べています。「私はキリスト・イエスにおける神の上への召しという賞を得るために、目標に向かって邁進しています。」

「収穫」の時には、次のイエスの言葉が証明されます。「召される者は多いが、選ばれる者は少ないからである（マタイ22:14）」。

黙示録 15: 保護観察の終わり

「収穫とヴィンテージ」が達成される前に、恐ろしい瞬間、恵みの時代の終わりがやって来ます。人間の選択が時の石に刻まれ、その選択を覆すことは不可能です。その時点で、キリストにおける救いの提供は終わります。これが、イエス・キリストの黙示録のこの非常に短い第 15 章のテーマです。恵みの時の終わりは、8章と9章の最初の6つの「ラッパ」の後、および16章の「神の最後の七つの災い」の前に起こります。言うまでもなく、それは神が選択された道の最後の選択に従うものです。人間にやらせる。黙示録 13 章 11 節から 18 節の「地から昇る獣」の権威ある保護の下で、最後の 2 つの道は、1 つは神の聖なる土曜日または安息日へ、もう 1 つはローマ教皇の権威のある日曜日へ通じています。

。生と善、死と悪の間の選択がこれほど明確になったことはかつてありません。人間が最も恐れているのは誰でしょうか？神ですか、それとも人間ですか？これは状況から見て当然のことです。しかし、こうも言えます。人間は誰を一番愛しているのでしょうか？神か人間か？選ばれた者はどちらの場合にも反応するだろう：神は、預言の啓示を通してご自分の計画の終わりの詳細を知っている。そうすれば永遠の命は非常に近くなり、手の届くところに来るでしょう。

1節：「それから、私は天に、偉大で素晴らしいもう一つのしるしを見た。それは、七人の天使が最後の七つの災いを抱えていることであった。彼らの中で神の怒りが成就したからである。」»

は、ローマの日曜日を選んだ偽信者たちを襲う「最後の七つの災い」を示しています。この章のテーマは、試用期間の終わりであり、「神の怒りによる最後の七つの災い」の時代が始まります。

2節：

「そして、私は、それが火と混ざり合ったガラスの海であるかのように、そして獣に打ち勝った者たちとその像とその名前の数字がガラスの海の上に立っているのを見ました。神のハープ。」»

次に主は、ご自分の僕たち、ご自分に選ばれた者たちを励ますために、預言の他の箇所から取られたさまざまなイメージを通して、差し迫った勝利を呼び起こす場面を提示されます。

「火と混ざり合ったガラスの海の上に、彼らは立っている」というのは、彼らは（火と混ざり合って）迫害された信仰の試練を経て、勝利を収めたからです。 「ガラスの海」とは、黙示録 4:1

にあるように、選ばれた人々の純粋さを指します。

3節：「そして彼らは神のしもべモーセの歌と小羊の歌を歌い、こう言った、「全能の神、主よ、あなたの行いは偉大で素晴らしいです。諸国民の王よ、あなたのやり方は正しくて真実です！」

「モーセの歌」は、罪の典型的な象徴であるエジプトからのイスラエルの輝かしい脱出を祝いました。

40年後に続いた地上のカナンへの参入は、最後の選ばれた者が天上のカナンに入る前兆となっていました。次に、「子羊」であるイエスは、選ばれた人々の罪を償うために命を捧げた後、栄光と天の神力を受けて天に昇られました。イエスの最後の忠実な証人、つまり信仰と働きによるすべてのアドベンチストは、イエスが彼らを救うために再臨される時、順番に天への昇天を経験します。選ばれた者は、自らの「偉大で賞賛に値する業」を称賛し、イエス・キリストに自らの価値観、つまり完全な「正義」と「真実」を受肉させた創造主である神に栄光を帰します。

「真」という言葉の喚起は、行動の文脈を、彼が自分自身を「アーメンであり真である」と表現した「ラオデキア」時代の終わりに結び付けます。

そしてそれは、黙示録 12:2

の「出産する女」の時代の終わりを示す「救出」の時です。

「幼子」は、イエス・キリストのうちに、またイエス・キリストを通して明らかにされる天の性質の純粋さという形でこの世に生まれます。選ばれた人は神の「全能」の状態を称賛することができます。なぜなら、彼らはこの神の力のおかげで彼らの救いと解放を負っているからです。イエス・キリストは、地上のすべての国民の中から自分の贖われた者を集めて選び、まさに「諸国民の王」です。彼と彼が選んだ役人に反対した人々はない。

4節：「主よ、だれが恐れず、あなたの御名を讃えないでしょうか。あなただけが神聖なのです。そして、あなたの裁きが明らかになったので、すべての国々が来てあなたを崇拝するでしょう。」

簡単に言えば、これは次のことを意味します。創造主なる神よ、あなたを恐れることを拒否し、あなたの聖なる七日目の安息日を尊重することを拒否して、あなたの正当な栄光を敢えて騙そうとする人がいるでしょうか？あなただけが**聖であり**、あなたは自分の七日目とそれを与えた人々を、彼らの承認とあなたの神聖さへの帰属のしるしとして神聖なものとしたのです。実際、御霊は「神の恐れ」を呼び起こすことによって、黙示録 14

7節の最初の「天使」のメッセージを暗示しています。そして天と地と海と水の泉を造られた方を崇拝（ひれ伏し）しなさい。」神の計画では、滅ぼされた反逆の国々は二重の目的のために復活します。それは、神の前にへりくだって神に栄光を与えること、もう一つは、彼らを「火の湖」で決定的に滅ぼす神の正義の最後の罰を受けることです。最後の審判の「硫黄」は、黙示録 14:10

の「第三の天使」のメッセージで発表されました。これらのことが達成さ

れる前に、選ばれた人々は、最初の節で告げられた「七つの災い」の働きによって明らかにされる神の裁きの時を経験しなければなりません。

5節：「この後、私が見ると、あかしの幕屋の神殿が天に開かれていました。」

この天の「神殿」の開きは、救いの呼びかけの時間が終わりつつあるため、イエス・キリストのとりなしが中止されたことを示しています。

「証し」とは、聖箱に置かれた神の十戒を指します。したがって、この瞬間から、選ばれた者と失われた者の間の分離は最終的になります。地球上では、反乱軍は、ローマ皇帝、コンスタンティノス 1世、そしてヴィギリウス1世を皇帝にしたユスティニアヌス 1世によって民事的かつ宗教的に確立された初日の毎週の休息を尊重する義務を法令により決定したところである。

538年に初代教皇、普遍的キリスト教信仰、すなわちカトリックの一時的指導者となった。最後の死の布告は黙示録13章15節から17節で預言され、ヨーロッパのカトリック信仰に支えられたアメリカのプロテスタント信仰の支配的な行動の下に置かれた。

6節：

「そして、七つの災いに罹った七人の天使たちは、清く明るい亜麻布を着て、胸に金の帯を締めて神殿から出て行きました。」

預言の象徴において、「七人の天使」はイエス・キリスト単独、またはイエス・キリストと同様に彼の陣営に忠実な「七人の天使」を表しています。「上質で純粹で明るい亜麻布」は、黙示録 19:8の「聖徒たちの義なる行い」をイメージしています。したがって、心臓の高さにある「胸の周りの金の帯」は、黙示録 1 章 13節に示されているキリストの像の中ですでに引用されている真理への愛を呼び起こします。真実の神は嘘の陣営を罰する準備をしています。このことを思い出させることによって、御霊は「大災難」を示唆しており、その姿は「力強く輝く太陽」と比較してその顔によって明らかにされています。イエス・キリストと異教の太陽崇拝の反逆者との最後の対決の時が来た。

7節：「そして、四つの生き物のうちの一つは、永遠に生きる神の怒りが満ちた七つの黄金の鉢を七人の天使に与えました。」

「四つの生き物」によってイメージされたモデルでした。彼はまた、「永遠に生きておられる神」を「怒らせた」のです。したがって、彼の神性は彼にすべての役割を与えます：創造主、救い主、仲裁者、そして永久に裁判官であり、その後彼の執り成しに終止符を打つと、彼は正義の神となり、反抗的な敵対者を攻撃し、死で罰します。彼の正義の「怒り」の杯」。

「杯」は今や満たされており、この怒りは「最後の7つの」罰という形をとり、神の慈悲はもはやその場所を持たないでしょう。

8節：「そして、神の栄光と神の力のために、神殿は煙で満たされました。そして、七人の天使による七つの災いが終わるまでは、誰も神殿に入ることができませんでした。」

神の存在のせいで煙で満たされた神殿」のイメージを提示しています。

「そして、七人の天使の七つの災いが成就するまで、誰も神殿に入ることができなかった」と彼は述べています。このように神は、ご自分の選んだ者たちに、彼らが神の怒りによる「最後の七つの災い」の時期に地上に残ることになると警告しています。最後に選ばれた者たちは、反逆的なエジプトを襲った「十の災い」当時のヘブライ人の経験を追体験することになる。疫病は彼らのためのものではなく、神の怒りの標的である反逆者のためのものです。しかし、「最後の七つの災い」の終わりから、彼らが「神殿」に入る差し迫ったことがこのように確認され、その可能性が与えられるでしょう。

黙示録 16: 最後の七つの災い 神の怒りの

「神の怒り」が表現される「最後の七つの災い」が降り注ぐ様子が描かれています。

「神の怒り」の標的は、最初の6つの「ラッパ」の罰によって打たれた人々と同一であることに注意しなければなりません。このように、御霊は、「最後の七つの災い」の罰と「七つのラッパ」の罰は同じ罪、すなわち「七日目の安息日の違反」を罰することを明らかにしています。世界の初めから神によって「聖化された」のです。

遅ればせながらここで括弧を開けておきます。神聖な「ラッパ」と「疫病または疫病」を特徴づける違いに注目してください。

「ラッパ」はすべて人間によって行われるが、神によって命じられた人間の殺害であり、5番目は霊的な性質のものです。

「疫病」とは、神の生きた創造物の自然な手段を通じて神が直接課した不快な行為です。黙示録 16

章は「最後の七つの災い」を私たちに示していますが、これは、それらの災いの前に、霊的に「時」を 2

つの部分に分ける恵みの時代が終わる前に、人々が苦しんだ他の「災い」があったことを暗示しています。ダニエル書 11:40

に引用されている「終わりの終わり」。第一に、この目的は国家の時代の目的であり、第二に、米国の監督と主導のもとに組織された普遍世界政府の時代の目的である。 2021 年 12 月 18

日の安息日に実施されたこの更新では、2020

年の初め以来、全人類が伝染性ウイルスである Covid-Coronavirus

によって経済的破滅に見舞われているため、この説明を確認できます。中国で。グローバリズム的な交流と知識の文脈で、その実際の影響が精神的に増幅され、パニックに陥った国民の指導者たちは、西ヨーロッパとアメリカの経済全体の発展と継続的な成長を止めてしまった。パンデミックを不当にみなし、いつか死を克服できると考えていた西側諸国は狼狽し、取り乱している。パニックに陥った神を持たない人々は、それに代わる新しい宗教、つまり全能の医学に身も魂も明け渡しました。そして、地球上で最も裕福な詐欺師の国は、その機会を利用して、人々を虜にし、診断、ワクチン、治療法、企業の決定の奴隷にしました。同時に、フランスでは、控えめに言っても逆説的だが、次のように要約する。「アパートを換気し、保護マスクを何時間も着用することが賢明です。その場合、着用者は窒息します。」フランスや他の模倣国の若い指導者の「常識」を強調します。私たちは、この破壊的行為を主導した国が最初にイスラエルであったこ

とに興味深く注目します。宗教史上、神に呪われた最初の国。マスクの着用は、マスクが入手できないときには禁止されていましたが、その後、呼吸器系に影響を与える病気を防ぐために義務化されました。神の呪いは予期せぬ、しかし破壊的に非常に効果的な成果をもたらします。私は、2021年から「第6のラッパ」の開始までの間に、第三次世界大戦、その他の「神の災い」が地球上のさまざまな場所、特に西洋で罪深い人類を襲うと確信しています。

「飢餓」などの「疫病」や、ペストやコレラとしてすでに知られているその他の実際の世界的なパンデミック。神はエゼ書でこの種の懲罰を主張しています。 14:21:

「そうです、主よ、主はこう仰せられます。たとえわたしがエルサレムに対して四つの恐ろしい懲罰、剣、飢餓、野獣、疫病を送っても、人間と人間を絶滅させるためです。」 獣。このリストはすべてを網羅したものではないことに注意してください。現代では、がん、エイズ、チクングニア熱、アルツハイマー病など、神からの罰は複数の形をとるからです。また、地球温暖化による恐怖の出現にも注目します。人類の多くは、氷が溶けて、その結果起こる可能性のある洪水のことを考えて恐怖し、パニックに陥っています。これもまた、人間の心を襲い、分離と憎しみの壁を築く神の呪いの果実です。この括弧を閉じて、「神の怒りによる最後の七つの災い」を特徴づける恵みの終了後の文脈での研究を再開します。

ターゲットの選択を正当化するもう 1 つの理由があります。

「最後の七つの災い」は世界の終わりに創造物の破壊を成し遂げる。創造主である神にとって、その働きが破壊される時が来ました。したがって、彼は創造のプロセスに従いますが、創造する代わりに破壊します。

「最後の七番目の疫病」により、地上では人間の命が消滅し、それを残して、地球は再び混沌とした状態の「深淵」となり、唯一の住人は罪の作者であるサタンとなります。黙示録20章によれば、彼と他のすべての反逆者が滅ぼされる最後の審判まで、荒涼とした土地は「千年」彼の牢獄となるだろう。

1

節「すると、神殿から大きな声が聞こえました。『行って、神の怒りの七つの鉢を地上に注ぎなさい』と七人の天使たちに言いました。」

この「神殿から発せられた大きな声」は、創造主である神の最も正当な権利を挫折させられた声です。創造主である神としての彼の権威は最高の性格を持っており、その目的のために神が「神聖化」した安息の日を観察することによって崇められ、栄光を受けたいという彼の願望に異議を唱えることは正義でも賢明でもありません。神は、その偉大で神聖な知恵によって、ご自分の権利と権威に挑戦する者は誰でも、全能の神に対する非道の代償を「第二の死」で償う前に、ご自分の最も重要な秘密を無視することを保証されました。

2節：「最初の人に行って、自分の鉢を地に注ぎました。そして、悪性の痛みを伴う潰瘍が、獣の刻印を持ち、その像を崇拜していた人々を襲った。」

最後の反乱の支配力と指導的権威であるため、この文脈における優先目標は、墮落したプロテスタント信仰の象徴である「地球」です。

最初の災難は「悪性潰瘍」で、男性が課した休息日を守ることを選んだ反逆者の身体に肉体的苦痛をもたらす。標的となるのは、核戦争の初日であるローマの日曜日というこの選択により、「獣の刻印。」

3節：「二番目の人は、鉢を海に注ぎました。すると、それは死んだ人の血のようになりました。そしてすべての生き物、海にいたものすべてが死んだ。」

「二番目」は「海」を打ち、モーセの時代にエジプトのナイル川がそうであったように、それは「血」に変わります。地中海を対象とするローマカトリックの象徴「海」。その瞬間、神は「海」のすべての動物を絶滅させます。それは創造のプロセスを逆行し、最終的には「地球」は再び「形のない空」になります。元の「深淵」な状態に戻ります。

4節：「三人目はその器を川と泉に注ぎました。そしてそれらは血になった。」

「第三」は「川や泉」の新鮮な「水」にぶつかり、それが突然「血」となります。喉の渇きを潤すためにさらに水を補給します。彼らは選ばれた者の「血」を流す準備をしていたのだから、その刑罰は厳しく当然だ。この懲罰は、神がモーセの鞭を通して、多くの人々が死んだ過酷な奴隷制度で動物のように扱われていたヘブライ人の「血を飲む者」であるエジプト人に課した最初の刑罰でした。

5節：「そして私は、水の天使がこう言うのを聞きました。『今も昔も、あなたは義人です。あなたはこの判断を行ったので神聖です。』」

すでにこの聖句の「義」と「聖」という用語に注目してください。
これはダニエル

8:14

の法令の本文の私の正しい翻訳を裏付けるものです。

「聖さ」とは、神が聖とされるすべてのものを包含します。この最後の文脈において、彼の「神聖な」安息日に対する攻撃は、飲む「水」を「血」に変える神の裁きに値するのは当然です。

「水」という言葉は、人間の大衆と宗教の教えを象徴的かつ二重に示しています。ローマ教皇によって倒錯され、黙示録

8:11

では両方とも「よもぎ」に変更されました。

「あなたは正義です...あなたがこの裁きを行使したからです」ということで、天使は神だけが達成できる真の完全な正義に必要な措置を正当化します。微妙に、そして非常に正確に、聖霊は「そして誰が来るか」という形を神の名から消し去ります。なぜなら神は来られたからです。そして彼の出現は、彼と彼の贖われた者たちにとって、忘れることなく、純粹であり

続けた世界と彼に忠実であり続けた聖なる天使たちへの永遠の贈り物を開くことになる。

6節：「彼らは聖徒や預言者の血を流しましたが、あなたは彼らにその血を飲ませてくださったのです。彼らはふさわしいのです。」»

反逆者たちは、イエスの介入によってのみ救われる義務がある選民を殺す準備ができており、神はまた、彼らが犯そうとしている犯罪を彼らに押し付けます。したがって、同じ理由から、彼らは出エジプトのエジプト人のように扱われます。神が「彼らは価値がある」と言われるのはこれが二度目です。この最終段階では、アドベンチスト選民の攻撃者として、イエスが「あなたは生きていると思われているが、あなたは死んでいる」と言われたサルデイスからの使者が登場します。しかし同時に、彼は1843年から1844年に選出された役人について、「彼らは価値があるので、白い服を着て私と一緒に歩くだらう」とも述べた。このように、人はそれぞれ、信仰の行いに応じて与えられる尊厳を持っています。忠実な選民には「白い衣」が、墮落した不忠実な反逆者には「血」が飲まれます。

7節：「そして、私は祭壇から別の天使がこう言っているのを聞きました。「そうです、全能の神、主よ、あなたの裁きは真実で義です。」»

ある「祭壇」から聞こえるこの声は、十字架につけられたキリストの声であり、この判決を承認する特別な理由があります。なぜなら、現時点で彼が罰している人々は、人の命令に従うことを選んで凶悪な罪を正当化しながらも、敢えて彼の救いを要求したからである。これは聖書の警告にもかかわらず、イザヤ書 29:13 で「主はこう言われました。この民がわたしに近づくと、彼らは口と唇でわたしを敬います。彼らはわたしを敬います。」しかし、彼の心は私から遠く離れており、彼が私に対して抱いている恐怖は人間の伝統にすぎません。マタイ 15:19: 「彼らは人間の戒めである戒めを教えながら、無駄に私を尊敬しています。」»

8節：「四人目は小瓶を太陽に注いだ。そして彼には、人を火で燃やすことが与えられました。」»

4つ目は「太陽に」作用して、通常よりも熱くなります。反乱軍の肉体はこの激しい熱によって「焼け」ます。

「神聖さ」の罪を罰した後、神は今度はコンスタンティノス¹世から受け継いだ「太陽の日」の偶像崇拝を罰します。多くの人々が知らず知らずのうちに崇めている「太陽」が、今、反逆者の皮膚を「焼き」始めている。神は偶像を偶像礼拝者に敵対させます。これはRev.1 で発表された「大厄災」の頂点です。「太陽」を司る者が、それを用いて崇拝者を懲らしめる瞬間。

9節：「そして人々は激しい火傷を負い、これらの災いを治める權威を持つ神の御名を冒瀆し、神に栄光を帰さなかったことを悔い改めた。

»

彼らが到達した厳しさのレベルにおいて、反逆者たちは自らの過ちを悔い改めず、神の前で恥をかかず、神の「名」を「冒瀆」することで神を侮辱している。それはすでに本質的に彼らの習慣的な行動であり、表面的な信者の間で見られます。彼らは彼の真実を知ろうともせず、彼の軽蔑的な沈黙を自分たちに有利に解釈しようとはしません。そして困難が起こると、彼らは彼の「名前」を呪います。

「悔い改める」ことができないということは、黙示録 9:20-21 の「第6のラッパ」の「生き残った人」という文脈を裏付けています。反逆的な不信者とは、信心深いかどうかにかかわらず、全能の創造主である神を信じない人々のことです。彼らの目は彼らにとって死の罠だった。

10節：「五人目は獣の王座に小瓶を注ぎました。そして彼の王国は闇に覆われました。そして男性は痛みのために舌を噛んだ、

「第五」は、その具体的なターゲットとして「獣の玉座」、つまりバチカンが位置するローマの地域、サン・ピエトロ大聖堂が建つ小さな教皇国家である。しかし、これまで見てきたように、教皇の真の「玉座」は古代ローマ、世界中のすべての教会の母教会である聖ヨハネ・ラテラノ大聖堂のカエリウス山にあります。神は彼を真っ黒な「暗闇」に陥れ、目の見えるすべての人を盲人と同じ状況に置きます。その影響はひどく痛ましいものであるが、唯一の神の光の名のもとに、そしてイエス・キリストの名の下に提示された宗教的嘘のこの出発点にとって、それは完全に当然であり、正当化されるものである。

「悔い改め」はもはや不可能ですが、神は生きている対象者の心をかたくなにすることを強調されます。

11節：「そして彼らは、痛みや腫れ物のために天の神を冒瀆し、自分たちの行いを悔い改めませんでした。」

この聖句を読むと、疫病はさらに増えて止まらないことが分かります。しかし、御霊は「悔い改め」の不在と「冒瀆」の継続を主張することによって、反逆者の怒りと邪悪さが増すばかりであることを私たちに理解させます。それは神が求めた目標であり、彼らを極限まで追い詰め、選ばれた者の死を宣告するのである。

12節：「

6人目は、ユーフラテスという大きな川にボウルを注ぎました。そしてその水は枯れ、東から来る王たちの道が整えられるようになった。」

「

6番目」はヨーロッパをターゲットにしており、「ユーフラテス川」という象徴的な名前指定されており、黙示録17:1-15のイメージに照らして、カトリック教皇の「売春婦大バビロン」を崇拜

する人々を示しています。ローマ。

「水の枯渇」はその個体群の絶滅を示唆している可能性があり、確かにそれは差し迫っているが、そうするにはまだ時期尚早である。実際、メディア王ダレイオスがカルデアの「バビロン」を占領したのは「ユーフラテス川」の部分的な干上がりを通じてであったため、このことは歴史を思い出させます。したがって、御霊のメッセージは、ローマ・カトリックの「バビロン」がまだ支持者と擁護者を維持しているが、短期間ではあるが、差し迫った完全な敗北が差し迫っているという知らせである。

「大いなるバビロン」は今度こそ真に「崩壊」し、全能の神イエス・キリストによって打ち負かされます。

三不浄霊の相談

13節：「そして、私は、竜の口から、獣の口から、偽預言者の口から、カエルのような三つの汚れた霊が出てくるのを見た。」

「ハルマゲドンの戦い」の準備を示しており、創造主である神に妥協することなく忠実な反抗的な安息日の守り人たちを死刑にする決定を象徴しています。もともと、悪魔はスピリチュアリズムを通じて、イエス・キリストを模倣して、反逆者たちに日曜日の選択が正当であると説得したようです。そこで彼は、安息日を重んじる忠実な抵抗戦士の命を奪うよう彼らに勧めた。したがって、悪魔のトリオは、悪魔、カトリックの信仰、プロテスタントの信仰、すなわち「ドラゴン、獣、偽預言者」を同じ戦いに結集させます。ここで、黙示録 9:7-9 に記されている「戦い」が達成されます。

「口」への言及は、真に選出された者の殺害の命令につながる協議での口頭のやりとりを裏付けるものである。彼らが無視したり、完全に異議を唱えたりするもの。神にとって「カエル」は間違いなく不浄に分類される動物ですが、このメッセージの中で聖霊はこの動物が成し遂げられる大きな飛躍についてほめかしています。ヨーロッパの「獣」とアメリカの「偽預言者」の間には広大な大西洋があり、両者の出会いは大きな飛躍を伴う。イギリス人とアメリカ人の中で、フランス人は「カエル」「カエルを食べる人」として風刺されています。不純なものはフランスの名物だが、自由を何よりも優先した1789年の革命以来、フランスの道徳的価値観は時間の経過とともに崩壊してきた。このトリオを活気づける不純な精神は、「神も主も望まない」自由の精神です。彼らは皆、神の意志と権威に抵抗してきたので、この問題では団結しています。似ているから集まってくるのです。

14節：「というのは、彼らは悪霊の霊であり、不思議なことを行い、全能の神の大いなる日の戦いのために彼らを集めるために全地の王たちのところにやって来るからです。」

ダニエル

8:14

の布告の呪い以来、悪霊の霊がイギリスとアメリカで大成功を収めて現れ

ました。当時はスピリチュアリズムが流行しており、男性は目に見えないが活動的な霊とのこの種の関係に慣れてきました。プロテスタントの信仰では、多くの宗教団体が悪魔との関係を維持しており、悪魔はイエスやその天使たちと関係があると信じています。悪霊は、神に拒絶されたキリスト教徒を騙すのが非常に簡単であることに気づき、それでも、安息日を守る敬虔なキリスト教徒とユダヤ人を最後の一人まで殺すために集まるように簡単に説得することができます。両方のグループに死を脅かすこの極端な措置は、イエス・キリストの祝福によって彼らを団結させるでしょう。神にとって、この集会は「全能神の大いなる日の戦いのために」反逆者たちを集めることが目的である。この集会の目的は、反政府勢力に殺害の意図を与え、宗教上の嘘に誘惑され騙された人々の手によって彼ら自身が死に苦しむに値するものにするることである。戦いが始まった主な理由は、正確に言えば、休息日の選択でしたが、聖霊は、提案された休息日が同じではないことを微妙に指摘しています。神聖な安息日に関するものは、その性質上、「全能の神の大いなる日」にはほかならないからである。日々は平等ではないし、対立する勢力も平等ではない。悪魔とその悪霊たちを天から追放するとき、イエス・キリストは力強い「ミカエル」で敵に勝利を課すでしょう。

15節「見よ、わたしは盗人として来た。裸で歩いたり、恥をさらされたりしないように、服を着続けている人は幸いです。」

神の安息日を守る人々と戦う陣営は、イエスが黙示録3章3節でこう言われたプロテスタントの信者を含む不忠実な偽クリスチャンの陣営です。あなたが見ていないなら、私は泥棒のように来ます、そしてあなたは私がいつあなたに来るかわかりません。」対照的に、聖霊は、「ラオデキア」の最後の時代にその完全な預言の光から恩恵を受けるアドベンチスト派の選ばれた人々に次のように宣言します。

「彼が裸で歩かないように、そして私たちが彼の恥を見ないように！」とも言います。

「裸」と宣告され、放置されたまま、キリストが再臨される時、彼女は恥と拒絶の陣営に置かれることになる（Ⅱコリント5章2-3節）

。少なくとも私たちが**裸ではなく服を着て発見されれば。**」

16節：「彼らはヘブライ語でハルマゲドンと呼ばれる場所に彼らを集めました。」

問題の「集会」は地理的な場所とは関係ありません。なぜならそれは、死すべき計画において神の敵の陣営を一つに集める霊的な「集会」だからです。さらに、「ハール」という言葉は山を意味し、イスラエルには確かにメギドの谷は存在するが、その名前の山は存在しないことが判明した。

「ハルマゲドン」という名前は「貴重な山」を意味し、イエス・キリスト、その議会、選ばれた者全員を集める選ばれた者を表す名前です。そして

節は、「ハルマゲドン」の戦いが何についてのものであるかをほぼ明確に私たちに明らかにしています。反逆者にとって、標的は神の安息日とその観察者である。しかし神にとって、標的は忠実に選ばれた人々の敵なのです。

この「貴重な山」は同時に、神がエジプト脱出後初めてイスラエルに律法を宣布した「シナイ山」を指します。なぜなら、反逆者の標的は、第四戒によって神聖化された七日目の安息日と、その忠実な観察者たちの両方だからである。神にとって、この「山」の「貴重な」性質は議論の余地のないものです。なぜなら、この山には人類史上これに匹敵するものがないからです。人間の偶像崇拝からそれを守るために、神は人々がその本当の位置を無視することを許可しました。伝統ではエジプト半島の南に位置すると誤って認識されていますが、実際には、モーセの妻「ゼフォラ」の父「エテロ」が住んでいた「ミディアン」の北東にあります。現在のサウジアラビアの北部。その住民は、本物のシナイ山に「法」を意味する「アル・ロウズ」という名前を付けています。モーセによって書かれた聖書の記述を支持する正当な名前。しかし、反逆者たちが栄光に満ちた神聖な勝者キリストと対峙するのは、この地理的な「場所」ではありません。なぜなら、この「場所」という言葉は誤解を招くものであり、実際には、選ばれた人々はまだ地球全体に散らばっているため、実際には普遍的な側面を帯びているからです。生きている選ばれた人々と復活した人々は、イエス・キリストの善良な天使たちによって「集められ」、天の雲の上でイエスに加わります。

17節：「七人目は小瓶を空に注ぎました。すると神殿から、玉座から、「終わった！」という大きな声が聞こえた。」

空中に注がれた第七の災い」の予兆の下、反逆者たちが犯罪計画を実行する前に、真のイエス・キリストが、無数の天使たちを従え、比類のない天の栄光の中で全能かつ栄光に満ちて現れます。黙示録 11 章 15 節によれば、全能の神イエス・キリストが悪魔から世界の王国を奪う「**第七のラッパ**」の瞬間が分かります。エフェソス 2:2 でパウロはサタンを「**空中の力の君**」と呼んでいます。

「空気」は地上の人類すべてが共有する要素であり、イエス・キリストの栄光の再来まで支配されます。彼の輝かしい到来の瞬間は、彼の神聖な力が人間に対するこの支配と権力を悪魔から奪い取り、それに終止符を打つ時です。

「終わった！」と言う瞬間を6000年間待ち続けた神の忍耐を実感してください。 »

そして、不忠実な生き物たちに残された自由がなくなるこの瞬間の到来を預言する「聖化された7日目」に彼が与えている価値を理解してください。反抗的な生き物たちは滅ぼされるので、彼をいらいらさせ、イライラさせ、軽蔑し、不名誉にすることをやめるでしょう。ダニエル書 12:1 で、聖霊はこの輝かしい到来を預言し、彼はそれをイエス・キリストの天

の天使の名「ミカエル」によるものだと考えています。そしてそれは、国家が存在して以来、それまで経験したことのないような困難な時代となるだろう。その時、その本に書かれているのが見つかったあなたの民は救われるでしょう。」神はご自身の救いの計画の理解を容易にされません。なぜなら、聖書はメシアを指す「イエス」という名前に言及しておらず、メシアの隠された神性を明らかにする象徴的な名前を彼に与えているからです。

「それゆえ、主ご自身があなたにしるしを与えられます。見よ、少女は妊娠して男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶでしょう。」

;イザヤ書

9:5の「永遠の父」：彼は素晴らしい、相談者、力強い神、永遠の父、平和の君と呼ばれるでしょう。」

18節：「そして、稲妻と声と雷鳴があり、人類が地上に存在して以来、かつてないほど大きな地震が起こりました。」

ここでは、黙示録 4:5 の重要な参照節のフレーズが黙示録 8:5 で更新されています。神は、不忠実な信者も不信者も、目に見えないところから出て来られましたが、また、選ばれた忠実なアドベンチストたちも、再臨の栄光のうちに創造主なる神イエス・キリストを見ることが出来ます。黙示録 6 章と 7 章は、この恐ろしくも輝かしい状況における 2 つの陣営の対立する行動を私たちに明らかにしました。

そして、強力な地震を経験し、彼らは恐怖の中で、黙示録 20 章 5 節によれば、キリストの選民に与えられた最初の復活と、イエスと合流する天国への引き上げを目撃します。テサロニケ第一 4:15-17 **4:15-17** で予告されていたとおりのことが起こっています。亡くなった人より先に。なぜなら、主ご自身が命令と大天使の声と神のラッパとともに天から降り、キリストにある死者たちが最初によりみがえるからである。そのとき、生きていて残っている私たちも、彼らと一緒に雲に引き上げられ、空中で主にお会いすることになるので、私たちは常に主とともにいることとなります。」私はこの聖句を利用して、「死者」の状態についての使徒的な概念を強調しています。

亡くなった人たちよ。」パウロとその同時代人たちは、今日の偽キリスト教徒のように、「死んだ」選民がキリストの御前にいるとは考えていませんでした。なぜなら、パウロの考察によると、逆に、「生きている」選民が「死者」よりも先に天国に入るだろうと皆が考えていたからです。

19節：「そして、大都市は三つの部分に分けられ、諸国民の都市は陥落した。そして神は大いなるバビロンを思い出し、その激しい怒りのぶどう酒の杯を彼女に与えられた。」

「三つの部分」は、この章の 13 節に集められている「竜、獣、偽預言者」に関するものです。 2 番目の解釈は、Zac.11:8

の次のテキストに基づいています。私の魂は彼らに対してイライラしてい

ました、そして彼らの魂もまた私に嫌悪感を抱いていました。」この場合、「三人の牧師」は、イスラエルの人々を構成する王、聖職者、預言者の3

つの構成要素を表しています。プロテスタントの信仰とカトリックの信仰が同盟し統一されるという最終的な文脈を考慮すると、「3つの部分」は次のように識別されます。「ドラゴン」= 悪魔。「獣」= 誘惑されたカトリックとプロテスタントの人々。「偽預言者」= カトリックおよびプロテスタントの聖職者。

敗北した陣営では、「大都市は三つの部分に分かれていた」という理解は途絶えます。騙され、誘惑された犠牲者、獣と偽預言者の陣営の間では、憎しみと憤りが、救いを失った責任のある欺瞞的な誘惑者に対する復讐を引き起こします。そのとき、「収穫」のテーマは、論理的にも正義的にも宗教教師を主な標的とする多数の血なまぐさい決着によって実現される。ヤコブ 3 章 1 節のこの警告は、「兄弟たち、あなた方のうちで教え始める人が多くないようにしましょう。私たちがもっと厳しく裁かれることをあなた方は知っているからです。」という警告の完全な意味を持ちます。この「疫病」の時代において、この行動は次の引用によって呼び起こされます。「そして神は大いなるバビロンを思い出し、その激しい怒りのワインの杯を彼女に与えた。」 Apo.18

は、不敬な宗教者に対するこの懲罰の喚起に全面的に捧げられます。

20節「そして、島々はみな逃げ、山々は見つからなかった。」

形のない」、そしてすぐに「空っぽ」または「荒廃した」

、普遍的な混沌の様相を呈する地球の変化を要約しています。それは「罪」の結果、結果です。「荒廃させる者」はダニエル 8:13 で非難され、その最終的な罰はダニエル 9:27 で預言されています。

21節：「そして、ひょう石の重さは1タラントにもなる大きな雹が天から人々の上に降った。そして人々は雹の災いのせいで神を冒瀆した、なぜならその災難は非常に大きかったからである。」

彼らの邪悪な任務が達成されると、今度は地球の住民が、逃れることが不可能な災難によって滅ぼされます。つまり、「雹」の石が彼らの上に降り注ぐのです。御霊は彼らに「

1タラント」の重さ、つまり44.8kgを課します。しかし、この「才能」という言葉は、むしろ「才能のたとえ」に基づいた霊的な反応です。このようにして、彼は、たとえ話の中で神が彼らに与えた「才能」、つまり賜物を実らせなかった人々の役割を墮落者に押し付けています。そして、この悪い行為は最終的に彼らの命を犠牲にすることになります。1回目と2回目は、真に選ばれた人だけがアクセスできました。彼らは息を引き取るまで、自分たちを罰する天の「神」を「冒瀆」（侮辱）し続けるのです。

タラントのたとえ」は文字通り成就したことになります。神は、その信仰の業のあかしに応じて、各人に与えられます。不忠実なクリスチャ

ンたちに、彼は死を与え、彼らが彼を考え、裁いたのと同じくらい厳しく残酷な自分自身を示すでしょう。そして、忠実に選ばれた者たちには、イエス・キリストにおいて彼らが高められた完全な愛と忠実さに彼らが置いた信仰に応じて、神は永遠の命を与えてくださるでしょう。これらすべては、イエスがマタイ 8 章 13 節で引用した「あなたの信仰どおりに行われますように」という原則に従っています。

この最後の災いの後、地球は荒廃し、あらゆる形態の人間の生命が奪われます。したがって、創世記 1:2 の「深淵」の特徴が見出されます。

第17章:売春婦の正体が暴かれ特定される

1節：「すると、7つの鉢を持った7人の天使のうちの1人が来て、私にこう言いました、「さあ、多くの水の上に座っている大娼婦の裁きを見せてみましょう。」」

「大売春婦」の「裁き」を示しています。それは「多くの水の上に座している」、あるいは15節によれば、「人々、群衆、国家と言語」を支配しており、「ユーフラテス」のシンボルの下で、すでにヨーロッパとその惑星のキリスト教の広がり指定しています。黙示録 9:14 の「第6のラッパ」:

アメリカ、南アメリカ、アフリカ、オーストラリア。裁きの働きは、前の第16章で「7人の天使」によって注がれた「

7つの最後の災い」、または「

7つの小瓶」の文脈にリンクされています。

「裁き」は全能の神によってもたらされるものであり、天と地のすべての被造物が責任を負っており、今後も責任を負います。これは、この章が重要かどうかを示します。 14 章の第

3^{天使}のメッセージで、この同一化が永遠の命か死をもたらすことを見ました。したがって、この「裁き」の文脈は、第 13 章の「地から昇る獣」の文脈です。

歴史的および預言的な警告にもかかわらず、1843年のプロテスタントの信仰と1994年の公式のアドベンチストの信仰は、イエス・キリストが提供する救いに値しないと神によって裁かれました。この判決を確認するために、両グループの先駆者たちはその極悪非道な性質を非難していたが、両グループはローマ・カトリック信仰によって提案されたエキュメニカ

ルな同盟を結んだ。この間違いを避けるために、選ばれた者は、イエス・キリストの主な敵の正体、つまり異教と教皇の歴史のすべてにおけるローマの正体を絶対に確信していなければなりません。プロテスタントとアドベンチストの宗教の罪は、両宗教の先駆者たちがローマ・カトリックのこの悪魔的な性質を非難し、教えていたため、なおさら大きい。両者のこの心変わりには、唯一の救い主であり偉大な裁判官であるイエス・キリストに対する裏切り行為となります。どのようにしてこれが可能になったのでしょうか?どちらの宗教も、地上の平和と人間間の良好な理解を重視するだけでした。また、カトリック信仰がもはや迫害されなくなると、彼らにとって、カトリック信仰は頻繁に、あるいはさらによく言えば、協定を結んだり同盟を結んだりするほど親密なものになります。このようにして、明らかにされた神の意見と正しい裁きは軽蔑され、踏みにじられます。間違いは、神が本質的に人々の間の平和を求めていると信じることであった。実際、神はご自身の人に対して、その律法に対して、そして儀式で明らかにされた善の原則に対して行われた悪を非難しているからである。イエスが

マタイ 10 章 34 節から 36

節で次のように述べて、この問題について非常に明確にご自身を表明されたため、この事実はさらに深刻です。私は平和をもたらすために来たのではなく、剣をもたらすために来たのです。なぜなら、私は男性とその父親、娘とその母親、そして嫁とその義母の間に区別を付けるために来たからです。そして人の敵は自分の家族の者たちになるだろう。」一方、公認のアドベンティズム派は、1843年から1873年までの7日目の安息日の復活を通じて、

3月の設立以来「獣の刻印」と呼んできたローマの日曜日を示した神の霊の声を聞くことはなかった。 7, 321.

制度的なアドベンティズムの使命は、時が経つにつれてローマの日曜日に対するその裁きが友好的で友愛的なものになり、常に同じままである神の裁きとは異なり、太陽の異教から受け継いだキリスト教の日曜日が彼の怒りの主な原因となったため失敗した。

。重要な唯一の裁きは神の裁きであり、神の預言的な黙示録は私たちを神の裁きと結び付けることを目的としています。その結果、平和は生ける神の正当な苛立ちを覆い隠してはなりません。そして私たちも、神が判断するように判断し、神の神のまなざしに従って民間政権や宗教政権を特定しなければなりません。このアプローチの結果、たとえ偽りの平和の時代であっても、私たちは「野獣」とその行動を見ることとなります。

2節：「地上の王たちは彼女と淫行を犯し、彼女の淫行のぶどう酒で地上の住民は酔った。」

淫行（または放蕩）のぶどう酒を召使いたちに飲ませたとしてイエス・キリストによって非難された「女イゼベル」の行動との関連性が確立されています。黙示録 18:3

で確認されたこと。これらの行為はまた、「売春婦」を黙示録8:10-11

の「よもぎの星」に結びつけます。よもぎは彼の有毒なワインであり、聖霊は彼のローマカトリックの宗教的教えをそれに喩えます。

この聖句では、カトリック宗教に対する神の非難は、非難された過ちが神の神の権威を攻撃するものであるため、平和な現代においても正当化されると述べています。その「二人の証人」を構成する聖書の記述は、このローマの宗教の誤った宗教的教えに対して証言しています。しかし、彼の誤った教えが誘惑された犠牲者に最悪の結果をもたらすことは事実です。それは永遠の死です。それは黙示録 14:18 ~ 20 の「収穫」という彼らの復讐行為を正当化するでしょう。

3節：「彼は私を霊のまま荒野に連れて行きました。そして私は、7つの頭と10本の角を持つ、冒涇の名前でいっぱい**の緋色の獣**の上に座っている女性を見た。」

「

...砂漠で」、信仰の試練の象徴であると同時に、私たちの「終わりの時（ダニエル11:40）」という文脈の「乾燥した」霊的気候の象徴でもあり、今回は地上の最後の信仰の試練です。歴史を振り返ると、聖霊はこの最終的な文脈で蔓延する霊的状况をイメージします。

「女は**緋色の獣**を支配する」。このイメージでは、ローマは、コンスタンティヌス¹世から受け継いだ安息日を課すことによってカトリック教徒に「**獣の刻印を崇拝**」させた瞬間に、プロテスタントの米国を指す「**地から昇る獣**」を支配しています。この最後の文脈では、宗教的なローマの「七つの頭」にも、この場合彼女が操作するヨーロッパと世界のキリスト教徒の市民的支配者の象徴である「**十本の角**」にも、もはや王冠はありません。しかし、この連想全体は罪の色、「**緋色**」に関連しています。

黙示録

13:3には次のように書かれています。しかし彼の致命傷は癒されました。そして全地がその獣の背後に畏怖の念を抱いた。」私たちは、この治癒がナポレオン¹

^世の協定によるものであることを知っています。この瞬間から、ローマ・カトリック教皇はもはや迫害しなくなりましたが、重要なことに、神はそれを「**獣**」と呼び続けていることに注意してください。

「そして全地が**獣の後ろで賞賛に包まれた**」。これは上記の説明を裏付けます。神の律法に対する彼女の罪は、戦争時も平和な時も絶えることがないので、神の敵は依然として神の敵である。したがって、神の敵は、平時でも戦争時でも、神の忠実な選民の敵でもあります。

節「女は紫と緋色の服を着て、金や宝石や真珠で身を飾っていました。彼女は手に、忌まわしいものと売春の不純物で満たされた金の杯を持っていました。」

ここでもまた、提示された説明は霊的な教義上の誤りを対象としています。神は彼の宗教的儀式を非難します。彼女の大衆とその忌まわしい

聖体、そして何よりもまず、王、貴族、そして地上のすべての富裕層が望む妥協に彼女を導く贅沢と富に対する彼女の好み。

「売春婦」は「客」や恋人を満足させなければなりません。

「緋色」の由来は、「娼婦」自身の「紫と緋色」にあります。エペソ

5:23 によると、「女性」という用語は「教会」、つまり宗教集会を指しますが、この章の18

節で教えられているように「地上の王たちに王権を持つ大都市」も指します。要約すると、私たちはローマバチカンの「枢機卿と司教」の制服の色を認識することができます。神はカトリックの大衆を、アルコール入りのワインがイエス・キリストの血を表すとされる「黄金の」聖杯を使って描いています。しかし、主はそれについてどう思われますか？彼は私たちに、自分の救いの血の代わりに、「売春の忌まわしいものと不純物」だけを見ていると語ります。ダニエル 11:38

では、聖霊が「要塞の神」に帰属させる彼の教会の装飾品として「金」が言及されています。

5節：「彼女の額には、謎である名前が書かれていました。大いなるバビロン、不品行と地上の忌まわしい者の母です。」

この聖句で引用されている「奥義」は、イエス・キリストの御霊が啓いていない人たちにとってのみの「奥義」です。残念なことに、それらは最も数が多いものでもあります。なぜなら、ダニエル 8:24-25 以来発表された教皇政権の「策略の成功と成功」は、世の終わりの彼の裁きの時まで確認されるからです。神にとって、それは「不法の奥義」であり、テサロニケ第二

2章7節によれば、使徒の時代に悪魔によって告知され、すでに実行されていたものです。まだ彼を引き留めている人がいなくなっていればいいのです。」

「謎」は「バビロン」という名前そのものに関係していますが、その名前の古代都市はもう存在しないので、それは当然のことです。しかし、ペテロはすでにペテロ第一

5章13節で霊的にローマにこの名前を付けていますが、騙された群衆にとって残念なことに、聖書が提供するこの正確さに注意を払うのは選ばれた人だけです。ここでプロテスタントの服従も意味する「土地」という言葉の二重の意味に注意してください。カトリックの信仰が統一されているのと同じくらい、プロテスタントの信仰は複数であり、カトリック教徒の娘である「売春婦」と呼ばれるからです。お母さん「

」少女たちは「母親」の「忌まわしいこと」を共有している。そして、これらの「忌まわしいこと」の主なものはいくつかあり、日曜日に付けられた宗教的権威の「しるし」です。

「土地」という言葉の文字通りの意味も正当化されます。地球上の人々をその従順に改宗させるよう王たちを扇動することで、キリスト教の信

仰を汚し、憎むようにしました。しかし力を失った後も、神が呪う者を祝福し、祝福する者を呪うという彼の「忌まわしい行為」は続いた。彼女の異教的な本性は、イエス・キリストを最も小さな預言者の一人として信仰するイスラム教徒を「兄弟」と呼ぶことから明らかです。

6節「そして私は、その女が聖徒たちの血とイエスの証人の血に酔っているのを見た。そして、彼女を見て、私は大きな驚きに襲われました。」

この聖句はダニエル書 7:21からの引用を取り上げており、ここで彼女が戦い支配する「聖徒たち」がまさに「イエスの証人」とであると明記しています。これにより「大いなるバビロン」の謎が大きく解明されることになる。ローマの宗教は、選民の「血」を酩酊するまで飲みます。現代の教皇庁ローマのようなキリスト教会が、「イエスの証人によって流された血に酔わされた」この「売春婦」であると誰が疑うだろうか？選出された役人、ただし彼らだけです。なぜなら、御霊は預言を通して、敵の残忍な計画を彼らに知らせたからです。この邪悪で残酷な性質への回帰は、恵みの時代の終わりの目に見える結果となるでしょう。しかし、この邪悪さは、何よりもさらに驚くべき形で、この世界の終わりの時代の支配的なプロテスタント信仰の性質となるでしょう。御霊は「聖徒」と「イエスの証人」を別々に引用しています。最初の「聖人」たちは異教のローマ共和党と帝国の迫害に苦しみました。

「イエスの証人」は帝国と教皇の異教のローマに衝撃を与えられる。というのは、娼婦にとっては都市である、ローマである。ダニエル書 8:9によると、63

年にユダヤにイスラエルに到着して以来、「地上の王たちに王権を持つ大都市」、「最も美しい国々」とあります。救いの歴史は、「イエスの証人」が現れ、この表現を正当化するために行動する信仰の試みで終わります。こうして彼らは、計画された死から自分たちを救うために神に介入する十分な理由を与えることになるだろう。当時、ヨハネがローマ市に関する「謎」に驚かされるのには十分な理由がありました。彼が彼女を知っていたのは、彼をパトモス島に拘留した彼女の厳しく容赦のない異教の帝國的な側面だけでした。したがって、「売春婦」が持つ「金の杯」のような宗教的象徴が彼を驚かせるのは当然だろう。

7節：「そして天使は私に言った、「なぜ驚いているのですか？」この女性と、それを運ぶ7つの頭と10本の角を持つ獣の謎をお話しします。」

「謎」は永遠に続くことを意図したものではなく、7節から聖霊は、ヨハネと私たちが「謎」を解き明かし、ローマの都市とローマのイメージにおけるその役割を明確に識別できるようにする詳細を与えます。3節にその象徴が再び引用されています。

「女性」とは、教皇ローマの宗教的性格、つまり「子羊の妻」イエス・キリストであるというローマの主張を表しています。しかし神は彼女を「売春婦」と呼んでこの主張を否定しました。

「それを運ぶ獣」は、その宗教的主張を認め、正当化する政権と人々を表しています。ダニエル 7:24
に示されている図によれば、それらの歴史的起源は、帝国ローマの支配から解放された後にヨーロッパで形成された王国の「十角」にあります。彼らは「四匹目」の帝政ローマを継承する。そして、これらの関係地域は最後まで変わりません。国境は移動し、政権は変化し、君主制から共和制へと移行するが、偽りのローマ法王キリスト教の規範がそれらを悪い方向に結びつける。20世紀を通じて、ローマの保護下にあるこの連合は、1957年3月25日と2004年の「ローマ条約」で設立された欧州連合によって具体化されました。

8節：「あなたが見た獣は、今も昔もいません。彼女は深淵から昇り、滅びに行かなければなりません。そして、世界の初めから命の書に名前が書かれていなかった地上に住む人々は、その獣を見たとき、彼はかつて存在し、もういないので、そしてそれが再び現れることに驚くでしょう。」

「あなたが見た野獣は、今も昔もいません。」翻訳：
キリスト教の宗教的不寛容は538年からあり、1798年からはもうありません。聖霊はダニエル書第7章25節以来、不寛容な教皇の統治についてさまざまな形で預言されてきた期間を示唆しています。42ヶ月。1260日。」その不寛容は、黙示録 11 章 7 節でフランス革命とその国民的無神論に言及している「深みから現れる獣」の行為によって終結しましたが、ここでは「深み」という用語が、生命を破壊し地球を人間性を奪う悪魔、「破壊者」であり、黙示録 9 章 11 節では「深淵の天使」と呼ばれています。黙示録 20:1 は説明を与えます。「悪魔」は「深淵」と呼ばれる非人間化された地球に「千年間」拘束されるでしょう。神は、その起源を「深淵」に帰することによって、この都市が決して神と関係がなかったことを明らかにしています。彼の異教の支配の間、それは非常に論理的ですが、また、彼の教皇の宗教活動の間中、騙された多数の人間が自分たちの破滅を信じていることに反して、彼らはそれを共有するので、ここで彼の最後の「滅び」が明らかになりました。預言の言葉を軽蔑してきたローマの誘惑の犠牲者は、この最終的な発表と暴露の中で宗教的不寛容が「再び」現れるため、驚くでしょう。このように神は、「世界の創設」以来、選ばれた人々の名前を知っていたことを私たちに思い出させます。彼らの「名前」は「小羊の命の書」イエス・キリストに記されました。そして彼らを救うために、イエスは聖書の預言の神秘に彼らの心を開かせました。

「深淵」という言葉に関するこの聖句の第二の分析を提案します。この考察では、3節の「緋色の獣」についての聖霊の記述に従って、聖霊が

対象とした最後の文脈を考慮します。私たちはそれを見てきました。

「十本の角」と「」に「王冠」がないことです。 *seven heads*
「」はそれを「終わりの時」に置きます。私たちの時代のこと。私は長い間、「愚か者」という概念は不寛容で専制的な行動に関係するものであり、したがってそれは普遍的な信仰の最後の試練を特徴とする終わりの日の不寛容な体制に起因するものとしか考えられないと考えてきました。しかし実際には、2020

年の冬の終わり、神聖な時期に、別のアイデアが私にインスピレーションを受けました。実際、

「獣」は絶えず人間の魂を殺し続けており、その誇張的で法外な人道主義の教えの犠牲者の数は、その不寛容の犠牲者よりもはるかに多いのです。この新たな魅惑的で欺瞞的なヒューマニスト的行動はどこから来るのでしょうか？それは、黙示録 11 章 7

節で「深淵からよみがえる獣」の名の下に神が標的としている革命的哲学者たちからの自由な思想の遺産の成果です。この章の 3

節から、現代の「獣」に付けられた「緋色」の色は、人間が自らに与えた過剰な自由によって生じた罪を非難しています。彼女は誰を代表しているのでしょうか？キリスト教起源の西側支配勢力、その宗教的基盤はヨーロッパのカトリックから受け継がれています。アメリカとヨーロッパは完全にカトリックの宗教に誘惑されています。神が私たちに示される「獣」は、「第五のラッパ」のメッセージで預言されている行為の最終結果です。平和化されたカトリック信仰に誘惑されたプロテスタント信仰は、黙示録 9:7-9

の「ハルマゲドン」の「戦いの準備」のために、1994年に公式の制度的アドベンティズムと結合して、神に呪われたプロテスタントとカトリックを結び付けます。黙示録 16:16 によれば、彼らは「第六のラッパ」の後、安息日を守り実践する神の最後の忠実な僕たちに対して先導するために一緒に行動します。

7日目の休息は十戒の4番目によって命じられました。平和な時代には、彼らのスピーチは兄弟愛と良心の自由を称賛します。しかし、リバタリアンにされたこの法外で偽りの自由は、西側世界に住む多数の人々に「第二の死」をもたらします。それは、部分的には無神論、部分的には無関心によって特徴づけられ、またより小さな部分では、宗教的取り組みが無価値になったことによって特徴づけられます。その理由は、宗教的取り組みは、偽りの宗教的教えのせいで神によって非難されているためです。このように、この人文主義的な「獣」は、聖霊がこの聖句で明らかにしているように、キリスト教が人文主義的思想のイメージと応用となったという意味で、その起源は「深淵」にあるのである。哲学者、ギリシャ人、フランス人、あるいは外国の革命家。ユダがイエスにキスしたように、

平時の魅惑的な偽の人道主義的愛は、剣よりも多くの人を殺す。私たちの平時の「獣」もまた、創世記 1 章 2 節で「深い」という言葉が与えている「闇」の性質を受け継いでいます。

神は水の上に移動しました。そして、キリスト教起源の社会のこの「闇」の性質自体が、逆説的に、フランスの革命的自由思想家に与えられた名前である「啓蒙」から受け継がれているのです。

この統合を提案することによって、聖霊は、その忠実な僕たちに、西洋世界に対する自らの裁きと、それに対する非難を明らかにするという目的を達成するのである。こうして彼は、自分の多くの罪と、その行動が名誉を傷つける唯一の救い主であるイエス・キリストに対する裏切りを非難します。

9節：「これは知恵を伴う理解です。7つの頭は7つの山であり、そこに女性が座っています。」

この聖句は、ローマが長い間「七つの丘の都市ローマ」と呼ばれていた表現を裏付けています。この名前が 1958年の古い学校の地理地図帳に引用されているのを見つけました。しかし、このことについては議論の余地はありません。

「セブン」「丘」と呼ばれる山々には、カピトリーノ、パラティーノ、カエリウス、アヴェンティーノ、ヴィミナル、エスクイリネ、クイリナーレの名前が付けられ、今でも残っています。異教の段階では、これらの丘「高き場所」はすべて、神によって非難された神聖な偶像を祀る神殿を支えていました。そして、「要塞の神」を讃えるために、カトリック信仰はローマに従って「天国」を指すカエリウスに大聖堂を建てました。

「頭」である国会議事堂には、司法の民事的側面である市庁舎の宮殿がそびえ立っています。終わりの日の同盟国であるアメリカも、ワシントンにある「国会議事堂」から支配していることを指摘しましょう。ここでもまた、「頭」のシンボルは、ローマに取って代わり、今度は黙示録 13:12によると「その前で」地球の住民を支配するこの高位の判事によって正当化されます。

10節：「また、7人の王がいます。5人は倒れ、1人は倒れ、もう1人はまだ来ていません。彼が来たとき、彼はしばらく留まるでしょう。」

7人の王」という表現によって、聖霊はローマに「7つの」統治体制があったとしています。最初の6つは次のとおりです。753年から510年までの君主制。共和国、領事館、独裁政権、三頭政治、オクタウィアヌス以来の帝国、イエスが誕生したシーザー・アウグストゥス、そして284年から324年の間に第7位に位置する四分統治制（関連する4人の皇帝）であり、これは「彼は長続きしなければならない」という正確さを裏付けるものである。短い時間；実に30年。新しい皇帝コンスタンティヌス^{1世}はすぐにローマを離れ、東方のビザンティウム（コンスタンティノープルはトルコ人によってイスタンブールと改名された）に定住することになる。しかし 476年以降、西ローマ帝国は崩壊し、ダニエルとアポカリプスの「十角」は西ヨーロッパの王国を形成して独立を獲得しました。

476年以来、ローマは東ゴート族の蛮族の占領下にあったが、東方のコンスタンティノープルに住んでいた皇帝ユスティニアヌスが軍隊とともに派遣したベリサリウス将軍によって538年に東ゴート族の蛮族から解放された。

11節：「そして、かつて、そして今はいないその獣は、彼自身が8番目の王であり、7人の王の一人であり、滅びようとしています。」

にユスティニアヌス¹

世の好意的な勅令によって確立された教皇の宗教統治です。そこで彼は、元「売春婦」だった妻テオドラからの要請に応え、彼女の友人の一人であるヴィジルに代わって介入した。

11節に明記されているように、教皇政権は、ダニエルが「異なる」王であると示唆した、新しい前例のない形態を構成しながら、言及された「7つの」統治の時代に現れます。先代「7人」の王の時代よりも古いものは、ローマの宗教指導者の称号であり、その起源以来、すでに皇帝に与えられていたものである。「教皇マキシムス」は、ラテン語で「主権者教皇」と訳される表現であり、それ以降も同様である。

538年、ローマ・カトリック教皇の正式な称号。ヨハネが幻を受け取った時点で存在していたローマ政権は帝国であり、6番目のローマ統治です。そして彼の時代には、「主権教皇」の称号は皇帝自身が着用していました。

。が当時の偽りのキリスト教信仰に「改宗」したことによるものです。つまり、コンスタンティヌス1世に従い、

³²¹年3月7日以来すでに神の呪いに見舞われていたローマ・カトリックへのことである。帝国による支配の後、ローマは大規模な移住でやって来た異民族によって侵略され、支配された。異なる言語と文化の誤解は、ローマの統一と強さを破壊した不安と内部闘争の基礎となっています。この行動は今日ヨーロッパにおいて神によって適用され、ヨーロッパを弱め、敵に引き渡します。このように、「バベルの塔」の経験の呪いは、人類を不幸に導くその影響と有効性を何世紀、何千年にもわたって保持し続けています。最後にローマに関しては、ビザンチン皇帝が支援したローマ・カトリック信仰に教義的に反対するアリウス派東ゴート族の支配下に置かれた。したがって、538

年のローマ教皇政権の樹立をその地で可能にするために、この支配から解放されなければなりませんでした。ダニエル 7:8-20

によると、これを達成するには、「3

本の角」教皇（小さな角）の前に引きずり出されました。ローマ司教のローマ・カトリックに敵対する人々であり、続いて476年にヘルリ族、534年にヴァンダル族、そして538年7月10日には「吹雪により」将軍によって東ゴート族の占領から解放された。ユスティニアヌス 1

世がベリサリウスを派遣したことでローマは、最初の教皇である陰謀家ヴィギリウスの要請に応じて、この皇帝によって設立された、排他的で支

配的かつ不寛容な教皇体制に入ることができました。この瞬間から、ローマは「地上の王たちに対して王権を持つ大都市」となりました（18節以降）。ここで8節の後に聖霊が二度目に指定しているように、それは「滅び」に進みます。

、彼に称号と宗教的権威を与えたビザンチン皇帝ユスティニアヌス1世の法令に遡るのです。したがって、日曜日は 321 年 3 月 7 日にローマ皇帝コンスタンティヌス 1 世によって命じられ、それを正当化する教皇庁は538 年にビザンチン皇帝ユスティニアヌス 1 世によって設置されました。全人類にとって最も恐ろしい結果をもたらす二つの日付。ローマ司教が初めて教皇の称号を得たのも 538 年でした。

12節：「あなたが見た十本の角は十人の王であり、まだ王国を受けていないが、獣とともに一時間だけ王としての権威を受けています。」

ここではダニエル 7:24 とは異なり、メッセージは「終わりの時」の終わりに位置する非常に短い時間を対象としています。

ダニエルの時代と同様に、ヨハネの時代でも、ローマ帝国の「十角」はまだ独立を獲得しておらず、回復していませんでした。しかし、この第 17 章で対象としている文脈は世の終わりの文脈であり、以下の聖句で確認できるように、聖霊によって呼び起こされるまさにこの文脈において「十本の角」が果たす役割です。預言された「時」とは、黙示録 3章10節で1873年にセブンスデー・アドベンチストの忠実な先駆者たちに告げられた最後の信仰の試練の時を指します。そのメッセージは、彼らの後継者であるアドベンチストの忠実な私たちに向けられたものでした。2020年にイエス・キリストが選ばれた者たちに与えた光。

預言者エゼキエルに与えられた預言の暗号（エゼキエル 4:5-6）によると、預言的な「日」は実際の「年」に相当し、したがって、預言的な「時間」は実際の 15 日に相当します。第 18 章で「一時間に」という表現が 3 回引用されている御霊のメッセージが強く主張していることから、この「時間」は「最後の七つの災い」のうちの 6 番目の災いが始まるまでの間の時間を対象としているのではないかと推測できます。そして、選ばれた者たちをプログラムされた死から救い出すために、大天使「ミカエル」の栄光の中で戻ってこられた私たちの神聖な主イエスの栄光の帰還です。したがって、この「時間」は「ハルマゲドンの戦い」が続く時間です。

13節：「彼らには一つの目的があり、自分たちの力と権威を獣に与えます。」

この最後の試練の時を狙って、御霊は「十本の角」についてこう言います。「彼らには目的が一つあり、彼らは自分たちの力と権威を獣に与

えています。」彼らが共有するこの目標は、第三次核世界大戦の生存者全員が日曜日の休みを尊重することを保証することで構成されています。破滅は古代ヨーロッパ諸国の軍事力を大きく低下させた。しかし、紛争の勝者であるアメリカのプロテスタントは、生存者から主権の完全な放棄を得ました。その動機は極悪非道なものだが、墮落した者たちはそのことに気づいておらず、サタンに引き渡された彼らの魂はサタンの意志を遂行することしかできない。

竜」と「獣」と「偽預言者」の連合によってのみ、

「十角」はその権威を「獣」に明け渡した。そしてこの放棄は、神の鞭打ちが彼らに与える苦しみの激しさによって引き起こされます。死の布告の宣言とその適用の間に、安息日の観察者には「獣の刻印」、つまり異教の太陽崇拝によって汚されたローマの「日曜日」を採用するための15日間の期間が与えられる。イエス・キリストの再臨は2030年4月3日の前の春に予定されているが、「時」という用語の解釈に誤りがない限り、死刑宣告はこの日、あるいはその日とその日の間にある日に公布されるべきである。現在の通常のカレンダーの2030年春のことです。

最終的な状況がどのようになるかを完全に理解するには、次の事実を考慮してください。恵みの時代の終わりを特定できるのは、それを日曜日法の公布と結びつける選挙で選ばれた役人だけです。より正確には、彼女の後には。まだ生きている不信仰で反抗的な人々の集まりにとって、日曜日法の公布は、彼らに影響を与えることなく、一般の関心を引く手段としてのみ見えます。そして、最初の5つの災いを経験した後でのみ、彼らは復讐に燃える怒りによって、天罰の責任者として提示された人々を「殺す」という決定を完全に承認するようになります。

14節：「彼らは小羊と戦いますが、小羊は彼らに打ち勝ちます。彼は主の中の主、王の中の王だからです。また、彼とともにいる召されて選ばれた忠実な人々も彼らに勝つでしょう。」

「彼らは小羊と戦い、小羊は彼らに勝つでしょう…」なぜなら、彼はどんな力も抵抗できない全能の神だからです。

「王の中の王、そして主の中の主」は、地球の最も強力な王と主に神聖な力を課します。そして、これを理解する選ばれた者たちは彼とともに克服するでしょう。聖霊はここで、神が救い、救いの道に身を投じた人々に対して、神が要求する3つの基準を思い出させます。救いの道は、彼らにとって「召された」という霊的状态から始まり、その後、この場合には、次のように変えられます。

「選ばれた」地位は、創造主なる神とその聖書のすべての光に対して示された「忠実さ」によって決まります。言及されている戦いは、黙示録16:16

の「ハルマゲドン」の戦いです。

「選ばれた」「呼ばれた」者の「忠実さ」が試される「その時」。黙示録9:7-9

で、御霊はこの霊的な「戦い」に対するプロテスタントの信仰の準備を明

らかにしました。安息日への忠実さのゆえに死刑を宣告された選民は、神によって預言された約束に対する信頼を証し、彼になされたこの証しは、彼が最初の天使のメッセージで要求する「栄光」を彼に与える。の黙示録14:7。義務化された日曜日の擁護者と支持者は、この経験の中で、イエス・キリストに選ばれた者に与える準備ができてい死を知ることになるでしょう。ここで私は、神が安息の日をそれほど重要視されていることに懐疑的で疑っている人たちに、神が地上の園の「二本の木」に与えた重要性のせいで、私たちの人類は永遠を失ってしまったということを思い出させてください。

「ハルマゲドン」は、今日の「善悪の知識の日」である日曜日と、「神聖な命の日」である安息日または土曜日である「二本の木」を置き換える同じ原理に基づいています。

15節：「そして彼は私に言った、「あなたが見た、遊女が座っている水には、人々がいて、群衆がいて、国民がいて、異国語が住んでいます。」」

「娼婦が座っている」「水」、つまり「キリスト教徒」と呼ばれる、しかし何よりも誤って欺瞞的に「キリスト教徒」と呼ばれるヨーロッパの人々のアイデンティティを帰することを可能にする鍵を与えています。ヨーロッパには、異なる「言語」を話す人々が集まるという特徴があります。それは形成された労働組合や同盟を弱体化させます。しかし最近では、英語が架け橋となって国際交流を促進しています。人間への広範な教育は神の呪いという武器の有効性を低下させ、その創造主の設計に反します。したがって、彼の反応はさらに恐ろしいものになるでしょう：戦争による死、そして最終的には彼の輝かしい降臨の素晴らしさによる死です。

16節：「あなたが見た十本の角と獣は、遊女を憎み、彼女の服をはぎ、裸にし、その肉を食べ、火で焼き尽くすでしょう。」

16節は次の第18章のプログラムを告げています。彼は「十角」の逆転を確認した

そして、彼女を支持し承認した後、最終的には「売春婦」を破壊することになる「野獣」。ここで思い出しますが、「獣」とは市民権と宗教権の連合体であり、この文脈では正式にプロテスタントであるアメリカ国民とカトリックおよびプロテスタントのヨーロッパ国民の権力を指すのに対し、「売春婦」は「売春婦」を指すのです。聖職者、つまりカトリックの宗教権力の指導者、つまり修道士、司祭、司教、枢機卿、教皇です。このようにして、反転して、ローマの嘘の犠牲者であるカトリックのヨーロッパ国民とプロテスタントのアメリカ国民が、ローマ教皇カトリックの聖職者に対抗することになる。そして、イエスがその輝かしい介入を通して、悪魔的で欺瞞的な誘惑の仮面を剥がされるとき、彼らは「彼女を火で焼き尽くす」でしょう。彼女は贅沢に暮らしていたので、

「十本の角」が「彼女を剥ぎ、裸にさらす」だろうし、彼女は神聖な外見を身に着けていたので、精神的な恥辱の中で、何もせずに「裸」に見える

だろう。天の義がそれを覆うのです。

「彼らは彼の肉を食べるだろう」という正確な言葉は、彼の懲罰の血なまぐさい凶暴さを表現しています。この聖句は、黙示録 14:18 ~ 20 の「ヴィンテージ」のテーマを裏付けています。「怒りのぶどうには災いあれ！」

17節「神は、神の御言葉が成就するまで、ご自分の目的を遂行し、ただ一つの目的を遂行し、彼らの王国を獣に与えることを彼らの心に定められたからです。」

17

節は、裁きの数の下に、人間が軽蔑したり無関心に扱ったりするのは間違っているという天の神の重要な考えを私たちに明らかにしています。神はここで、ご自分に選ばれた者たちに納得してもらうために、予定された時期に開始される「恐ろしいゲーム」の唯一のマスターであると主張しています。このプログラムは悪魔によって設計されたのではなく、神ご自身によって設計されました。ダニエルと黙示録に關係する偉大で崇高な黙示録で彼が発表したことはすべて、すでに達成されているか、まだ達成されていないかのどちらかです。そして、伝道

7:8

によると「物事の終わりは始まりよりも優れている」ため、神は私たちにターゲットにされ、この忠実さの最後の試練が私たちに偽クリスチャンから引き離し、私たちを神の日の栄えの永遠に入るのにふさわしい者にするのです。第三次世界大戦の核による破壊。したがって、地球上で組織されるすべてのものは神ご自身によって設計された「計画」であるため、私たちは自信を持って待つだけで済みます。そして、もし神が私たちの味方であるなら、その殺人的な「計画」が彼らに敵対する人々でなければ、誰が私たちに敵対するでしょうか？

神の言葉が成就するまで」とはどのような意味ですか？聖霊は、すでにダニエル書

7:11

で預言されているように、教皇の「小さな角」に残された最終的な運命について言及しています。そして私が見ている間に、その動物は殺され、その体は破壊され、火に送られて焼かれていました。」ダニエル書 7:26:

「そのとき、裁きが来て、彼の支配は彼から奪われ、それは滅ぼされ、永遠に滅ぼされるであろう。」ダニエル

8:25:

「彼の繁栄と策略の成功のゆえに、彼は心に傲慢さを抱き、平和に暮らしていた多くの人々を滅ぼし、首長たちの長に対して反乱を起こすだろう。しかし、それは誰の手で努力しなくても壊れてしまいます。」ローマの終わりに關する残りの「神の言葉」は、黙示録 18 章、19 章、20 章に示されています。

18節：「そして、あなたが見た女性は、地上の王たちを支配する大都市です。」

大都市」が確かにローマであるという最も説得力のある証拠を示しています。天使は個人的にジョンに話しかけているということを確認しま

しょう。また、ヨハネは、「**あなた**が見た女性は、**地上の王たちに王権をもつ偉大な都市**です」と言うことで、天使が「七つの丘の都市」であるローマのことを話しているのだと理解させられます。当時、その巨大な植民地帝国全体のさまざまな王国を帝國的に支配していました。帝國的な側面においては、すでに「**地上の王たちに対する王権**」を有しており、今後もそれを教皇の支配下に置くことになる。

キリスト教の「何世紀にもわたる悲劇」の敵である「売春婦」を私たちが確実に特定できるようにして下さったことがわかります。こうして彼は、17番に自分の判断力の真の意味を与えている。この観察こそが、私たちがこの2020年に経験した321年3月7日（公式の日付ではあるが神にとっては320日である）の太陽の日の採用を構成する罪の創設1700周年の記念日を大切に作るきっかけとなったのだ。それは今は過ぎてしまいました。第二次世界大戦よりも悲惨な世界経済崩壊を引き起こした、キリスト教時代の歴史の中で前例のない呪い（新型コロナウイルス感染症）を神が確かに印付けされたことがわかります。神の正義の裁きの他の呪いが次に来ます、私たちはそれらを日々発見します。

黙示録 18: 売春婦は罰を受ける

「ハルマゲドンの戦い」の終わりという非常に特殊な状況に私たちを導きます。言葉はその内容を明らかにしています。「**地上の娼婦の母である大いなるバビロンの懲罰の時**」。血なまぐさい「**収穫**」の時。

1節：「この後、私は、大きな権威を持った別の天使が天から降りてくるのを見た。そして地は彼の栄光で照らされました。」

偉大な権威を持った天使は神の側におり、実際には神ご自身です。天使の長であるミカエルは、イエス・キリストが地上で宣教される前に天で付けられた別の名前です。この名のもとに、そして聖なる天使たちに認められた権威によって、彼は十字架での勝利の後、悪魔とその悪霊たちを天から追放しました。したがって、彼はこの二つの名前の中で、父の栄光の中で地上に戻り、貴重な選ばれた人々を地上から撤退させます。彼らは忠実であり、この試された忠実さが実証されているため、貴重です。ヨハネの黙示録 14 章 7 節に従って、1844年以來彼が要求していた「**栄光**」を与えることによって賢明に従った人々

を、彼は忠実さをもって讃えるのはこの文脈においてです。安息日を守ることによって、彼の選ばれた人々は、彼が天上と地上の生命を創造して以来、彼だけが合法的に所有している創造主の神として彼を讃美しました。

2節：「彼は大声で叫んで言った、『大いなるバビロンは倒れた、バビロンも倒れた！』そこは悪霊の住処となり、あらゆる不浄な霊の巣窟となり、あらゆる不浄で憎むべき鳥の巣窟となってしまった。」

「彼女は *倒れた、倒れた、大いなるバビロン！*」この2節には黙示録14章8節からの引用が見られますが、今回はそれが預言的に語られるのではなく、彼女の欺瞞的な魅惑的な活動のこの最後の瞬間に、生き残った人間たちに彼の墮落の証拠が与えられるからです。ローマ教皇バビロンの聖性の仮面も崩れ落ちます。実際、そこは「悪霊の住処、あらゆる不純な霊の巣窟、あらゆる不純で忌まわしい鳥の巣窟」なのです。

「鳥」についての言及は、地上の行動の背後に、サタンの陣営から来た悪い天使たち、彼らの指導者であり、神が創造された最初の反逆者たちの天上の靈感があることを思い出させます。

3節「それは、すべての国々が彼女の淫行の怒りのぶどう酒を飲み、地上の王たちが彼女と淫行を犯し、地上の商人たちがその贅沢の力で富を得たからです。」

「...すべての国が彼の淫行の怒りのぶどう酒を飲んだから...」宗教的攻撃は、イエス・キリストに奉仕していると主張し、イエス・キリストの行動教訓に対する完全な軽蔑を示したローマ・カトリック教皇権力の扇動によって現れた。地上で弟子たちと使徒たちを教えました。優しさに満ちたイエス、激怒に満ちた教皇たち。謙虚さの模範であるイエス、虚栄心と誇りの模範である教皇たち、物質的な貧困の中で暮らすイエス、贅沢と富の中で生きる教皇たち。イエスは命を救いましたが、教皇たちは不当かつ不必要に数え切れないほどの人命を殺害しました。したがって、このローマ教皇のカトリックキリスト教は、イエスが模範として与えた信仰とはまったく似ていませんでした。神はダニエル書の中で「ご自分の策略が成功する」と預言されましたが、なぜこの成功が達成されたのでしょうか。答えは簡単です。神が彼にそれを与えたからです。なぜなら、ヨハネの黙示録8章8節の「第二のラッパ」の懲罰の名のもとに、彼は321年3月7日以来放棄された安息日の違反を罰するためにこの残酷で厳しい体制を引き起こしたことを覚えておかなければならないからです。神の戒めに対する不忠実なイスラエルを襲うであろう疫病について研究し、レビ記 26:19で神はこう言われました。「わたしはあなたの強さの誇りを打ち砕き、あなたの天国を回復します」 *鉄とあなたの土地のように真鍮のように*。」新しい契約では、教皇政権はこれらと同じ呪いを成就するために立ち上げられた。彼のプロジェクトにおいて、神は愛の法則と完全な正義の要件を満たすために、犠牲者であると同時に裁判官でもあり、死刑執行者でもあります。

321年以来、安息日の違反は人類に多大な犠牲をもたらし、不必要な戦争や虐殺、そして創造主である神が作り出した壊滅的な致死性の伝染病でその代償を支払った。この節の「淫行」（または「放蕩」）は霊的なものであり、ふさわしくない宗教的行為を表しています。

「ワイン」は、キリストの名において、彼女のせいで攻撃の犠牲者や侵略者となったすべての人々の「怒り」と極悪非道な憎悪を蒸留する彼女の教えを象徴しています。

カトリックの教えの罪は、ほとんどすべての人類がイエス・キリストによって高められた価値観を共有していない全人類の罪を隠すものであってはなりません。地上の王たちが「バビロン」の「淫行のワイン」（放蕩）を飲んだとすれば、それは「売春婦」としての彼女の唯一の関心は客を喜ばせることだけだったからである。それがルールです。顧客が満足しなければ、戻ってきません。そしてカトリックは、犯罪に至るまでの最高レベルの貪欲と、富と贅沢な生活への愛を称賛しました。イエスが教えたように、群れるように。邪悪で高慢な男たちは、彼女がいてもいなくても、いずれにしても道に迷っていたでしょう。思い出してください：地球の歴史の初めから、兄弟アベルを殺したカインを通して悪が人間の生活に入り込みました。

「地球の商人はその贅沢の力によって富を得てきました。」これはローマ・カトリック教皇政権の成功を説明しています。地球の商人はお金だけを信じており、宗教的な狂信者ではありませんが、宗教が彼らを豊かにしてくれるなら、それは受け入れられ、さらには評価できるパートナーになります。テーマの最後の文脈は、この土地がプロテスタントの信仰を精神的に示すものであるため、主にアメリカのプロテスタント商人を特定することにつながります。

16^{世紀以来}、本質的にプロテスタントを起源とする北米はヒスパニック系カトリック教徒を歓迎し、それ以来、カトリック信仰はプロテスタント信仰と同じように代表されるようになりました。

「ビジネス」のみが重要なこの国では、宗教の違いはもはや問題ではありません。ジュネーブの改革者ジョン・カルバンが奨励した金持ちになる喜びに勝ったプロテスタントの商人たちは、元のプロテスタントの規範では提供できなかった金持ちになる手段をカトリックの信仰の中に見出しました。プロテスタントの寺院には何もなく、壁がむき出しになっている一方、カトリック教会には、金、銀、象牙など、この主題が 12節に挙げられているすべての素材など、貴重な素材で作られた遺物があふれています。したがって、カトリック礼拝の富は、主なる神にとって、アメリカのプロテスタント信仰の弱体化の説明。新しい拝金であるドルが心の中で神に取って代わるようになり、教義の主題はまったく興味を失った。野党は存在しますが、それは政治的な形でのみ存在します。

4節：「すると、また天からこう言う声が聞こえました。『私の民よ、彼女の中から出て来なさい。あなたがたは彼女の罪にあずからず、また彼女の災いにあずからないように。』」

4

節は最後の別れの瞬間を思い出させます。「私の民よ、彼女の中から出て行きなさい」。それは、選ばれた人々がイエスに会うために天に引き上げられる時です。この聖句が示しているのは、黙示録 14 章 14 節から 16 節のテーマである「収穫」の時です。それはローマ教皇とその聖職者を襲うことになるだろう。しかし、本文では、連れ去られる選ばれた者の一員となるためには、「自分の罪に加担」してはいけないと明記されています。そして主な罪は日曜日の休息であり、カトリック教徒とプロテスタント教徒が信仰の最後の試練として称える「獣の刻印」であるため、これら二大宗教団体の信者は選民の携挙に参加することができない。

「バビロンから出て来る」必要性は常にありますが、この聖句では、聖霊は、日曜日の律法の宣言が恵みの時代の終わりを示すものであるため、神のこの命令に従う最後の機会が訪れる瞬間をターゲットにしています。この宣言は、創造主なる神の見守る中で自らの選択を可能にする「第 6 のラッパ」（第三次世界大戦）の生存者全員の認識を促進します。

5節：「彼女の罪は天にまで積み重なり、神は彼女の咎を覚えておられたからです。」

彼の言葉の中で、聖霊は「バビロン」の名前に由来する「バベルの塔」のイメージを示唆しています。321年と538年以来、「売春婦」がその「玉座」、538年以来「聖なる」教皇の座を置く「大都市」ローマは、神に対する罪を増大させてきた。彼は天国から 1709 年間 (321 年以來) 蓄積された罪を数え続け、記録しました。イエスは栄光の帰還によって教皇体制の覆いを暴き、ローマとその偽りの神聖さにとって、罪を償う時が来た。

6節：「彼女が支払ったとおりに彼女に返済し、彼女の行いに応じて倍額を彼女に返済してください。彼女が注いだカップに、彼女のダブルを注ぎます。」

Rev.14

のテーマの進行に続き、収穫後にはヴィンテージが始まります。そして、神はカトリックの嘘の被害者であるカトリックとプロテスタントの中で最も邪悪な人々に対して、「彼女が支払ったとおりに彼女に支払い、彼女の行いに応じて倍にして返しなさい」という言葉を語りかけます。私たちは歴史から、彼の作品が彼の異端審問法廷の賭けと拷問であったことを覚えていますが、したがって、可能であれば、カトリックの宗教教師はこの種の運命に二倍苦しむこととなります。同じメッセージが「彼女が注いだカップに、彼女の倍量を注ぎなさい」という形で繰り返されます。イエスは、この杯のイメージを用いて、ゴルゴダの丘のふもとにローマによってすで

に建てられた十字架上で最後の苦しみに至るまで、自分の体が受けるであろう拷問を指定した。この意味で、イエスは、カトリック信仰が自分が耐えることに同意した苦しみに対して忌まわしい軽蔑を示していたことを思い出し、今度は自分が苦しみを経験する番であると語った。この時点で、古いことわざが真価を発揮します。「他人にしてほしくないことは、決して他人にしてはいけない」ということです。この行動において、神は報復の法則を成就します。目には目を、歯には歯を。彼は完全に公正な法律であり、個人的な使用を留保しました。しかし、集団レベルでは、その適用は人間に許可されていたにもかかわらず、人間はそれを非難し、自分たちは神よりも正義で善になれると考えていました。その結果は悲惨なものであり、悪とその反抗的な精神は悪化し、キリスト教起源の西洋人を支配することになりました。

黙示録

17:5

では、「大いなるバビロン」、「娼婦」は、「その忌まわしい行いでいっぱい金の杯を持っていた」とあります。この明確化は、彼の宗教活動と聖体杯の特別な使用法を対象としています。イエス・キリストによって教えられ神聖化されたこの神聖な儀式を無視したため、彼は同様に特別な罰を受けました。愛の神は正義の神に道を譲り、神の裁きの考えが人間にはつきりと明らかになります。

7節：「彼女が自分を美化して贅沢に浸ったのと同じくらい、彼女に苦しみと悲しみを与えてください。なぜなら、彼女は心の中でこう言っているからです。「私は女王として座っている、私は未亡人ではない、そして私は悲しむことはありません！」」

7

節で、御霊は生と死の対立を強調しています。死の不幸にさらされない人生は、新しい楽しみを求めて、陽気で、気楽で、軽薄です。ローマ教皇の「バビロン」は贅沢な暮らしを買う富を求めました。そして、権力者や王たちからそれを得るために、彼女はイエス・キリストの名を利用して、罪の赦しを「免罪符」として売りつけました。これは、彼女が心理的、肉体的に償わなければならない神の裁きの天秤の中で非常に重くのしかかる詳細である。この富と贅沢に対する非難は、イエスと使徒たちが必要なもので満足して貧しい暮らしをしていたという事実に基づいています。したがって、ローマ教皇のカトリック聖職者の「富と贅沢」が「苦痛」と「追悼」に取って代わられるのです。

彼女の欺瞞的な活動の間、バビロンは心の中で「私は女王として座っている」と言いました。これは黙示録 17:18 の「地の王たちに対する彼の王権」を裏付けるものです。そして黙示録 2:7 と 20 によれば、彼の「五座」はローマのバチカン（バチカン＝預言）にあります。

「私は未亡人ではありません」。彼女の妻であると彼女が主張する夫のキリストは生きている。

「そして、私は悲しみを見ることはありません。」教会の外に救いはない、と彼女は反対者全員に言いました。彼女はそれを何度も繰り返したので、結局それを信じてしまいました。そして彼女は自分の統治が永遠に続くこと心から確信している。彼女がそこに住んで以来、ローマには「永遠の都」という名前が与えられたのではないか？さらに、地球の西洋列強の支援を受けて、彼女は自分が人間的には不可触で不死身であると信じる十分な理由がありました。また、彼女は神に仕え、地上で神を代表すると主張したため、神の力を恐れることもありませんでした。

8節「このため、一日のうちに彼女に疫病、死、悲しみ、飢餓が襲い、彼女は火で焼き尽くされるでしょう。彼女を裁いた主なる神は力強いからである。」

この詩は彼のすべての幻想に終止符を打ちます。「このせいで、一日のうちに」。イエスが栄光のうちに戻ってくる場所、「彼の災いが来る」、あるいは神による罰が来る。

「死、弔い、飢餓」実際には、物事が達成される順序は逆です。私たちは一日で飢えで死ぬことはありません。したがって、第一に、霊的な「飢餓」は、キリスト教の宗教的信仰の基礎である命のパンを失うことです。そして、家族の感情を共有する身近な人の死を記念して「喪」が着られます。そして最後に、「死」が罪を犯した罪人を襲います。ローマ 6:23によれば、

「罪の対価は死である」からです。ダニエル書と黙示録で繰り返された預言的な発表によれば、

「そしてそれは火で焼き尽くされるでしょう」。彼女自身、非常に多くの生き物を不当にも薪の上で燃やしたので、彼女自身が火の中で死ぬのは完全な神の正義です。

「彼女を裁いた主は力あるからです」。カトリック信仰は、その魅惑的な活動の間、腕に抱いた幼子の姿でしか現れなかったイエスの母マリアを崇拝しました。この側面は、感傷的になりやすい人間の心に訴えかけました。女性、さらには母親として、宗教がどれほど心強いものになったことでしょう。しかし、今は真実の時であり、それを裁いたキリストが全能の神の栄光の中で現れたばかりです。そして、その覆いを暴いたイエス・キリストの神聖な力がそれを破壊し、騙された犠牲者の復讐の怒りにそれを引き渡します。

9節：「そして、彼女と性的不品行と贅沢を行った地上のすべての王たちは、彼女が燃える煙を見ると、彼女のせいで泣き叫ぶでしょう。」

淫行と贅沢に身を委ねた地上の王たち」の行動を明らかにしています。その中には、カトリック信仰の成功と活動を促進し、最後の試練において安息日の守り人を殺害する決定を承認した国王、大統領、独裁者、国家のすべての指導者が含まれます。彼らは「彼女が燃える煙を見ると、彼女のせいで泣き叫びます。」明らかに、地球の王たちは状況が自分たちから遠ざかっていくのを見えています。彼らはもはや誰を導くこともなく、た

だ騙された犠牲者、つまり神の復讐の実行手段によって点火されたローマの火に注目するだけである。彼らの涙と嘆きは、彼らを最高権力に導いた世界の価値観が突然崩壊しつつあるという事実によって正当化されます。

10節：「彼らは彼の苦しみを恐れて、離れて立っていると言うだろう、「悲惨だ！」不幸だ！大いなる都市、バビロン、強大な都市！たった一時間であなたの判断は下されるのです！」

「永遠の都」は死に、燃え上がり、地上の王たちはローマから遠ざかります。彼らは今、彼と運命を共にしなければならないことを恐れています。起こっていることは彼らにとって非常に大きな不幸を意味します。不幸だ！

「大いなる都市、バビロン」という悲惨な言葉が「彼女は倒れた、倒れた、大いなるバビロン」と二度繰り返される。「強大な都市よ！」；彼女はキリスト教国家の指導者に対する影響力によって世界を支配するほど強力でした。聖霊が告げたように、ルイ16世とオーストリア人の妻マリー・アントワネット、そして彼らの支持者たちも「大患難」の犠牲者として断頭台に上がったのは、まさに神によって非難されたこのつながりのゆえにであった。黙示録 2:22-23 にあります。

「あと一時間であなたの判決が下る！」；イエスの再臨は世界の終わりの時を告げます。最後の試練は黙示録 3 章 10

節で預言されている象徴的な「時間」を示しましたが、現在の状況全体を逆転させるにはイエス・キリストが現れるだけで十分であり、今回は文字通りの意味での「一時間」になります。この驚くべき変化を得るには十分です。

11節：「そして、地上の商人たちは彼女のせいで泣き、嘆きます。もう誰も彼らの荷物を買わないからです。」

今回の聖霊は「地球の商人」をターゲットにしており、特に前の第 17

章の研究で述べたように、地球全体の生存者が採用しているアメリカの商人精神をターゲットにしています。彼らもまた、「彼女のせいで泣いて嘆くのです。もう誰も彼らの荷物を買ってくれないからです。」

...”。この聖句は、彼が追悼しているカトリック信仰に対するプロテスタントの愛情の罪を強調しており、経済的利益からプロテスタントがカトリック信仰に個人的に執着していることを証明しています。そして、それとは全く逆に、ローマ教皇によるカトリックの罪を非難し、理解されている真理を回復するために、神によって宗教改革の取り組みが提起されたということです。ピエール・ヴァルド、ジョン・ウィクレフ、マーティン・ルーサーなどの真の改革者が当時行ったこと。商人たちもまた、自分たちが愛する価値観が目の前で崩れ去るのを悲しみながら見えています。なぜなら、彼らは商業活動を通じて自分を豊かにする喜びだけを求めて生きているからです。ビジネスを行うことは、彼らの存在の喜びを要約します。

12節：「金、銀、宝石、真珠、亜麻布、紫、絹、緋色、あらゆる種類の甘木、あらゆる種類の物品、象牙、あらゆる種類の物品の積荷」非常に貴重な木、真鍮、鉄、大理石で作られた物品、

ローマ・カトリックの偶像崇拝的宗教の基礎となっているさまざまな資料を列挙する前に、私はここで、イエス・キリストによって教えられた真の信仰のこの特定の点を思い出します。イエスはサマリア人の女性にこう宣言しました。「女性よ、信じてください。あなたが父を崇拝するのは、この山でもエルサレムでもなくなる時が来ています。あなたは自分が知らないものを崇拝します。救いはユダヤ人から来るので、私たちは自分の知っているものを崇拝します。しかし、真の崇拝者たちが霊と真理をもって御父を礼拝する時は来ていますし、すでに来ています。これらは父が求めておられる崇拝者たちだからです。神は霊であり、神を崇拝する者は霊と真実において神を崇拝しなければなりません。」（ヨハネ 4:21-23）」

したがって、真の信仰は心の状態のみに基づいているため、物質や物質は必要ありません。したがって、この真の信仰は、貪欲で盗賊の世界にとってはほとんど関心がありません。なぜなら、この真の信仰は、霊的に選ばれた人以外は誰も豊かにしないからです。選民は霊において神を崇拝し、したがって自分の考えにおいても、また真実においても神を崇拝します。これは、彼らの考えが神によって示された基準に基づいて構築されなければならないことを意味します。この基準から外れたものはすべて、真の神が偶像として奉仕される偶像崇拝的異教の一形態です。征服中、共和政ローマは敗戦国の宗教を採用した。そして、その宗教的教義の多くは、古代最初の偉大な文明であるギリシャ起源のものでした。私たちの時代では、教皇の形で、このすべての遺産が主の12使徒から始まる新しい「キリスト教の」「聖人」に結合されていることがわかります。しかし、この偶像崇拝の習慣を非難する神の第二戒を抑圧することまで行ったカトリック信仰は、彫刻されたり、描かれた像、あるいは悪魔の幻影に現れるものへの崇拝を永続させています。したがって、形を作るために材料を必要とするこれらの彫刻された偶像は、そのカルトの儀式の中にあります。神ご自身がそのリストを提示されている資料です。

...金、銀、宝石、真珠、上質の亜麻布、紫、絹、緋色、あらゆる種類の甘木、あらゆる種類の象牙、非常に貴重な木材、真鍮、鉄、大理石で作られたあらゆる種類の品物の積荷...

」ダンの教皇王の「金、銀、宝石、高価な物品」「要塞の神に敬意を表する」11:38。次に、「紫と緋色」は黙示録 17:4

で売春婦の大いなるバビロンに着せられています。

「金、宝石、真珠」が彼女の装飾品です。黙示録 19 章 8 節によれば、「亜麻布」とは聖性に対する彼の主張を示しています。「亜麻布は聖徒たちの義にかなった作品だからです。」引用されている他の材料は、彼女が彫刻した偶像を作った材料です。これらの贅沢な素材は、偶像崇拝的なカトリック崇拝者の高いレベルの献身を表現しています。

13節：「桂皮、香辛料、香水、没薬、乳香、ワイン、油、小麦粉、小麦、牛、羊、馬、戦車、肉体、そして人の魂。」

「香水、没薬、乳香、ワイン、油の成分」と引用されており、その宗教的儀式を示唆しています。他のものは、列王記上 4:20 ～ 28 によれば、神のために建てられた最初の神殿の建設者であるダビデの子ソロモンの統治を暗示する栄養素や物品です。このようにして、御霊は彼の試みが不当であることを非難します。黙示録 13:6
で「冒瀆」し、ダニエル 8:11
で「打倒」する「神の神殿」の建設を再現します。

「人間の身体と魂」に関する詩の最後の正確さは、彼女が不法にこの世の権力を共有している君主たちとの協力を非難している。彼女はキリストの名において、奴隷制、拷問、神の被造物の殺害などの忌まわしい行為を宗教的に正当化した。宗教の領域において神がご自身のために留保しておかれるもの。このことは、彼が自分の行動を次のような言葉で要約している点にまであります。この章の18節で、

「地球上で殺されたすべての人々の血が彼女の中で見つかった」。「人間の魂」を引用して、神は彼のものであると考えています。悪魔の活動と偽りの宗教的ふりによって悪魔に与えられた「魂」の喪失。

注意:

聖書と神の思想では、「魂」という言葉は、肉体と精神的思考、精神的思考、知性と感情など、あらゆる面で人のことを指します。

「魂」を生命の要素として提示し、死ぬと肉体から離れて生き残るという理論は、純粹にギリシャの異教起源です。古い契約の中で、神は人間や動物の「魂は血とともにある」と特定しています。レビ記 17:14:

「すべての肉の魂は、その中にあるその血だからです。そこでわたしはイスラエルの子らに言った、「あなたがたはいかなる肉の血も食べてはならない。すべての肉の魂はその血であるから、それを食べる者は誰でも断ち切られるであろう。」

」。したがって、彼は将来のギリシャ理論とは反対の見方をし、異教の人々の間に生まれるであろう哲学的思想に対する聖書のパレードを準備します。人間や動物の生命は血液の働きに依存しています。血液がこぼれたり、窒息によって汚れたりすると、思考を支える脳を含む身体の要素に酸素を供給できなくなります。そして、後者が酸素を供給されなければ、思考の原理は停止し、この最終段階の後は何も生き残ることはできません。それは、神の将来の「復活」を見据えた、死んだ「魂」の構成の記憶ではないにしても、いつそれを「蘇生」させるのか、あるいはいつ「再び蘇らせる」のか、によると、永遠の命か、それとも「第二の死」による決定的な破壊か。

14節：「あなたの魂が望んだ果実は、あなたから遠く離れてしまいました。そして繊細で美しいものはすべてあなたから失われ、二度とそれらを見つけることはできません。」

前の聖句で説明されたことの確認として、聖霊は教皇ローマの「願望」をその「魂」、つまり魅惑的で欺瞞的な性格に帰属させます。ギリシヤ哲学の継承者であるカトリック信仰は、新天地で発見された動物や人間への魂の帰属について最初に疑問を投げかけました。実際、この質問には答えがあります。それは正しい助動詞の選択に基づいています。人間には魂がありません。なぜなら、彼は魂だからです。

聖霊は、伝道 9:5-6-10
で確立し明らかにした真の死の結果を要約しています。これらの詳細は、新しい同盟の文書で更新されることはありません。したがって、私たちは聖書全体を研究することの重要性を理解しています。破壊された「バビロン」は、彼女の魂が望んだ果実や、彼女が感謝し求めていた「繊細で壮大なものすべて」を永遠に「失って」しまうでしょう。しかし、御霊はまた、「あなたのために」とも指定します。なぜなら、選ばれた人々は、彼女とは異なり、神が彼らに分かち合ってくださいる奇跡の感謝を永遠に広げることができるからです。

15節：「これらのものの商人たちは、それで富を得ていますが、その苦しみを恐れて、自分たちを遠ざけます。彼らは泣いて嘆くだろう。」

15 節から 19
節で、御霊は「御霊によって富を得た商人」をターゲットにしています。繰り返しては、この章で 3 回繰り返された「たった 1 時間で」という表現と、「悲惨だ！」という叫び声が強調されていることがわかります。不幸だ！

」。数字の3は完璧を象徴します。したがって、神は、預言の発表の取り消し不可能な性質を肯定するよう主張します。この罰は神聖な完璧さの中で遂行されるでしょう。「ひどい！」という叫び声。不幸だ！
」という商人たちの叫び声は、黙示録 14 章 8 節で選ばれた者たちが発した警告の叫びを反映しています。彼女が落ちました

！大いなるバビロン。」これらの商人たちは、「その苦痛を恐れて」その破壊を遠くから見守っています。そして、彼らが生ける神の正当な怒りの果実を恐れるのは当然である。なぜなら、その破壊を後悔することによって彼らは自らを神の陣営に置き、今度は宗教的欺瞞の慰められない犠牲者たちの残忍な人間の怒りによって滅ぼされることになるからである。この聖句は、ローマ・カトリック教会の成功に対する商業的利益の重大な責任を私たちに気づかせます。

「商人」たちは、純粋に経済的、物質的な富を得たいという欲求から、売春婦と彼女の最悪の残酷で横暴な決断を支持しました。彼らは彼の非常に忌まわしい虐待すべてに目をつぶっており、彼の最終的な運命を共にする権利がある。歴史的な例としては、フランソワ 1

世の時代とその後の宗教改革の初期から、改革派の信仰に対してカトリックの側に立ったパリ市民が挙げられます。

16

節：「そして、こう言うだろう、「ああ、ああ、ああ！」不幸だ！この偉大な都市は、紫や緋色の上質な亜麻布で身を包み、金や貴石や真珠で飾られていました。たった一時間で、これほど多くの富が破壊されたのです！

»

この聖句は目標を裏付けています。

「紫と緋色の上質亜麻布を着た大いなるバビロン」。王たちのマントの色。嘲笑するローマ兵がイエスの肩を「紫」のマントで覆ったのはこのためです。彼らは、神が自分たちの行為に与えた意味を想像することができませんでした。イエスは、償いの犠牲者として、深紅や紫などの色で示される選ばれた人々の罪を担うことになりました。 イザヤ書 1:18
によると。選ばれた人々の死を防ぐために来られたイエス・キリストが栄光のうちに戻ってきた後、ローマ、その教皇、そしてその聖職者たちを破壊するには「一時間」で十分だろう。この最後の試練では、彼らの忠実さがすべての違いを生むので、神が彼らの信仰と、彼らが神に置くことに慣れるべき絶対的な信頼を強化することを特に強調される理由が理解できません。長い間、人は「一時間で」そのような破壊は奇跡であり、したがってソドムとゴモラの場合のように神の直接介入であるとしか確信できませんでした。人類が核火災を習得した現代では、これはそれほど驚くべきことではありません。

17節「そして、水先案内人たち、この場所に航海する者たち、水夫たち、そして海で働く者たちは皆、遠くに立っていました。」

この聖句は特に、「海を開拓する者たち、水先案内人、この場所に航海する船員たち、すべて遠くから遠ざけられている者たち」をターゲットにしています。国王たちの富を求める欲望を利用して、教皇教会自体が豊かになったのです。彼女は、カトリックの召使いたちがイエス・キリストの名の下に住民の恐ろしい虐殺を行ったことが発見されるまで、人類に知られていなかった土地の征服を支持し、正当化した。これは主に南米とコルテス将軍率いる血なまぐさい遠征の場合であった。これらの領土から抽出された金はヨーロッパに戻り、カトリックの国王と共謀した教皇庁を富ませました。さらに、海洋の側面へのこだわりは、「海から現れる獣」の体制として、彼と「船員」とのつながりが共通の豊かさのために強化されたことを思い出させます。

18節：「そして彼らは、その燃える煙を見て叫んだ、「大都市に似た都市はどこにあるだろうか？」»

「どの都市が大都市に似ていましたか？」

»

「大火災の煙」を見た船員たちは叫びます。答えは簡単で簡単です。「なし」です。なぜなら、帝国都市ほど市民的でありながら、538年以降は宗教的にもこれほど多くの権力を集中させた都市は存在しないからである。

カトリックは、東方正教がカトリックを拒否したロシアを除いて、地球上のすべての土地に輸出されてきた。中国も彼を歓迎した後、彼と戦い、迫害した。しかし今日でも、それは西側全域とその突出地域であるアメリカ、アフリカ、オーストラリアを支配しています。世界初の宗教観光地として世界中から観光客が集まります。

「古代遺跡」を見に来る人もいれば、教皇とその枢機卿が住んでいる場所を見るためにそこに行く人もいます。

19節：「そして、彼らは頭に塵をかぶって、泣き、悲しみ、叫んで、「悲惨だ！」と言った。不幸だ！海上に船を所有するすべての人々がその豊かさで豊かになったこの大都市は、たった一時間で破壊された！」

これは 3

回目の繰り返しで、これまでのすべての表現がまとめられ、「1時間で破壊された」という説明も含まれています。

「海に船を持っているすべての人々がその豊かさによって豊かになった大都市。」この告発は非常に明白であり、海運船主が世界の富をローマにもたらして裕福になったのは確かに教皇政権の贅沢によるものである。ローマは、その永遠の同盟国である民政君主権力、武装勢力によって殺害された敵対者の財産を分かち合うことでその富を得ている。歴史的な例として、「 Templar 騎士団」の死があります。Templar 騎士団の財産はフィリップ・ル・ベルの王冠とローマ・カトリック聖職者との間で分割されました。後にこれは「プロテスタント」の場合にも当てはまります。

20節：「天よ、彼女のことを喜んでください。そして、聖徒、使徒、預言者の皆さんも、喜んでください。神は彼女を裁く際に、あなたに対して正義を行ったからです。」

御霊は天の住民と地上の真の聖徒、使徒、預言者たちに、ローマのバビロンの滅びを喜ぶよう招いています。したがって、喜びは、神聖化された安息日に忠実な最後に選ばれた者たちに関して、彼女が真理の神の僕たちに耐えさせようとした、あるいは耐えさせようとした苦痛や苦しみに見合うものとなるでしょう。

21節：「そのとき、力強い天使が大きな石臼のような石を取り、海に投げ込み、こう言いました。「こうすれば、大いなる都バビロンは暴力によって打ち倒され、もはや見つからないだろう。」」

石」に例えると、 3

つの考えが示唆されます。第一に、教皇はダニエル 2:34
で自身が「石」によって象徴されているイエス・キリストと競い合っています。イメージして、粉々に砕きました。聖書の他の節でも、ザカ書 4:7
でこの「石」のシンボルは彼のものとされています。詩篇 118:22
の「主要な隅」。マタイ 21:42;使徒 4:11:
「イエスは、建てるあなたがたに捨てられ、隅の親玉となった石です。」

2

番目のアイデアは、使徒「ペテロ」の後継者であるという教皇の主張をほ

のめかしたものです。

「彼の事業の成功と彼の策略の成功」の主な原因は、ダニエル書 8:25で神によって非難された事柄です。この称号はイエス・キリストご自身に与えられたものであるため、使徒ペテロは決してキリスト教会の長ではなかったので、このことはなおさらです。したがって、教皇の「策略」も「嘘」です。

3番目の提案は、教皇の宗教的拠点である「ローマの聖ペテロ」と名付けられた権威ある大聖堂の名前に関するもので、その非常に高価な建設により「免罪符」が販売され、改革派修士マルティン・ルターの目にはその正体が暴露された。この説明は依然として 2番目のアイデアと密接に関連しています。バチカン市国は墓地として機能していましたが、主の使徒ペテロの墓と推定されていたのは、実際にはアスクレピオスという名の蛇神の崇拝者で祭司である「魔術師シモン・ペテロ」の墓でした。

私たちの時代に戻ると、聖霊はローマの「バビロン」に対して預言します。彼はその将来の破壊を、「天使」が海に投げ込む「石」の「大きな石臼」のイメージに例えています。このたとえによって、彼はマタイ 18:6

で特定された非難をローマに対して提起しています：**そしてそれを海の底に投げます。**そして彼の場合、彼女は彼を信じるこれらの小さな人たちのうちの一人だけをスキャンダルにしたのではなく、大勢の人をスキャンダルにしました。 1

つ確かなことは、「一度破壊されたものは二度と見つからない」ということです。彼女はもう誰も傷つけることはありません。

22節：「そして、ハープ、音楽家、フルート、ラッパの音はあなたたちの間でもはや聞こえなくなり、あなたたちの中に職人は一人も見出されなくなります。「あなたの家の石臼の音はもはや聞こえなくなります。」

その後、聖霊はローマの住民の気楽さと喜びを表現する音楽を呼び起こします。破壊されると、そこでは聞こえなくなります。霊的な意味では、それは「フルートやトランペット奏者」の音楽と同じ効果でその言葉が聞かれた神の使者を暗示しています。マタイ 11:17のたとえ話で与えられたイメージ。彼はまた、仕事の注文で多忙を極めた職人たちが発する「騒音」についても言及している。なぜなら、古代都市からは、穀物を挽く、あるいは研ぐために回転する「石臼の音」など、専門的な活動の「騒音」しか聞こえてこなかったからである。鎌や鎌、ナイフや剣などの切断器具。エレ 25:10によると、これはすでに古代カルデアのバビロンにありました。

23節：「ともしびの光はもうあなたたちの間で輝かず、花婿と妻の声もあなたたちの間で聞こえなくなります。なぜならあなたの商人たちは

地上の偉大な者たちであり、すべての国々は彼らだったからです」あなたの魔法に誘惑されて、

「ランプの光はもうあなたの家の中で輝かなくなります。」
霊的な言葉で、聖霊はローマに、聖書の光はもはや、神に従って真理を知るために啓発される機会を提供することはない、と警告します。エレ

25:10

の映像が繰り返されますが、「花婿と花嫁の歌」は、ここでは「もはやあなたの家で聞かれない花婿と花嫁の声」になります。霊的には、それらはキリストとその選ばれた議会が、失われた魂たちに回心して救われるよう呼びかける声です。この可能性は、その破壊の後、永久に失われるでしょう。

「あなたの商人たちは地上の偉大な商人だったからです。」ローマは地球上の偉大な人々を誘惑することによって、カトリックの宗教を地球上の多くの人々に広めることができました。彼女は彼らを自分の宗教ビジネスの代表者として利用しました。その結果は、「すべての国々があなたの魔法に騙された」ということです。ここで神は、カトリックの大衆を、邪悪な魔術師や魔女の異教崇拝を特徴づける「魔法」として描写しています。確かに、カトリック宗教は形式主義的な公式、無駄な繰り返しを繰り返すことによって、創造主である神がご自身を表現する余地をほとんど残していません。彼はそうしようとしません。なぜなら、彼はダニエル 11:39 で彼女を「外国の神」だと考えており、彼女をしもべとして認めなかったからです。したがって、教皇の称号である「神の子の代理者」は教皇の代理者ではない。次の聖句がその理由を示しています。

24節：「そして、預言者たち、聖徒たち、そして地上で殺されたすべての人々の血が彼女の中から見つかったからです。」

「...そしてその中には預言者、聖徒の血が検出されたからです。」
：歴史を通じて厳しく、柔軟性が無く、鈍感で残酷なローマは、犠牲者の血によって道を歩んできました。これは異教のローマにも当てはまりましたが、教皇ローマにも当てはまり、王たちにその敵対者、つまりその極悪非道な本性を敢えて非難した神によって啓発された召使たちを殺害させました。ヴァルド、ウィクリフ、ルターのように神に守られた人もいれば、そうではなく、杭、ブロック、さらし台、または絞首台の上で信仰の殉教者として生涯を終えた人もいます。その活動が決定的に止まるという預言的な見通しは、天の住民と地上の真の聖徒たちを喜ばせることしかできません。

「...そして地上で殺されたすべての人々について」：この判断を下す人は誰でも、自分が何を言っているのか知っています。なぜなら、彼は紀元前747年の建国以来ローマの行動を追ってきたからです。終わりの日の世界情勢は、地球上の他の民族を征服し支配していた西側諸国がもたらした最後の果実です。君主制、その後共和制をとったローマは、征服した地球上の人々を食い尽くしました。この社会のモデルは、2000

年にわたる真のキリスト教と偽のキリスト教のモデルのままです。その後、異教のローマ、教皇のローマはキリストの平和のイメージを破壊し、人々に幸福をもたらすであろうモデルを人類から奪い去った。イエス・キリストの真の子羊の弟子たちの虐殺を正当化することで、人類を恐ろしい虐殺的な第三次世界大戦へと導く宗教衝突への道を開いたのです。喉を切る行為がイスラム武装勢力によって公に行われるのには理由がないわけではありません。このイスラムに対する憎しみは、1095年11月27日にクレルモン
フェランのウルバヌス 2世によって開始された十字軍戦争に対する後発の反応です。

黙示録 19: 戦いイエス・キリストのハルマゲドン

1節：「この後、私は天で大群衆の大きな声がこう言っているのを聞いた。『アレルヤ！』救い、栄光、力は私たちの神のものです。」

前の第

18

章からの続きで、救い出されて救われた選ばれた人々は、自分たちが天国で、彼らの新しい天上の性質を示す「新しい名前」を持っていることに気づきます。喜びと喜びが支配し、忠実な天の天使たちが救い主である神を讃えます。この「群衆」「数多くの」とは、黙示録 7:9 に引用されている「誰も数えることのできない群衆」とは異なります。これは、神の「栄光」を称賛する神の聖なる天の天使たちの集まりを表して

います。なぜなら、4節で、「
24人の長老」に象徴される地上の選ばれた人々が、
「アーメン！」と言って、発言への遵守を確認するからです。 》
つまり、本当に！

救い、栄光、力」という言葉の順序には論理があります。
「救い」は地上の選民と、創造主である神に「栄光」を与えた聖天使たちに与えられ、創造主は彼らを救うために共通の敵を滅ぼす神の「力」を呼び求めた。

2節：「彼の裁きは真実であり、正しいからです。なぜなら、彼はその淫行によって地球を墮落させた大娼婦を裁き、彼女の手下に血を要求することによって彼女の召使いたちの血に復讐したからである。」

真実と真の正義への渴望を共通に持っていた選挙で選ばれた役人たちは、今では完全に満足し、満たされています。神から切り離された人類は、その盲目的な狂気の中で、正義の基準を和らげることで最後の民族に幸福をもたらすことができると考えた。悪だけがこの選択を利用し、壊疽のように人類の全身に侵入しました。善良で慈悲深い神は、「大いなるバビロン」に対する裁きの中で、死を与える者は死を被らなければならないことを示しています。これは悪意のある行為ではなく、正義の行為です。したがって、犯罪者を罰する方法がわからなくなると、正義は不正義になります。

3節：「そして彼らは二度目に言いました、ハレルヤ！
...そしてその煙は永遠に立ち上ります。」

煙」は、ローマの破壊後に消えるため、このイメージは誤解を招きます。

「永劫の時代」とは、天上および地上の普遍的な試練の勝者のみに関係する永遠の原則を指します。この表現では、「煙」という言葉は破壊を示唆し、「何世紀にもわたる」という表現はそれに永遠の効果、つまり決定的な破壊を与えます。彼女は二度と起きないだろう。実際、最悪の場合、血なまぐさい敵ローマに対して神が成し遂げた輝かしい神の行為の記憶として、生者の心に「煙」が立ち上るかもしれない。

4節：「そして、二十四人の長老と四匹の生き物はひれ伏し、玉座に座っておられる神を礼拝して、「アーメン！」と言いました。ハレルヤ！ 》

実は！主に賛美を！
...救われた地球と純粋なままの世界を一緒に言いましょう。神への礼拝はひれ伏すことによって特徴付けられます。それ専用予約された合法的な形式。

5節：「すると、御座から声が聞こえてこう言った。『小さい者も大きい者も、神を恐れるすべての神の僕たちよ、わたしたちの神を讃えよ！』 》

ミカエル」、イエス・キリストの声であり、神が被造物たちに御自身を明らかにする天上と地上の二つの表現です。イエスは「彼を恐れたあなたगत」と言い、黙示録 14:7 の最初の天使のメッセージで求められていた神の「恐れ」を思い出させます。

「神への恐れ」は、生と死を支配する創造者に対する被造物の知的な態度を要約するものにすぎません。聖書がヨハネ第一 4:17-18 で教えているように、「完全な愛は恐れを追い出す」です。判断の。愛の中には恐れはありませんが、完全な愛は恐れを追い出します。なぜなら、恐れには罰が伴うからであり、恐れる者は愛において完全ではないからである。」したがって、選ばれた人は神を愛せば愛するほど、神に従い、神を恐れる理由が少なくなります。選ばれた者は、使徒や謙虚な弟子のような小さな者の中からだけでなく、偉大な王ネブカドネザルのような偉大な者の中からも神によって選ばれます。この当時の王の中の王は、たとえ人間の中でどれほど偉大な人物であっても、全能の創造主である神の前では王は弱い生き物に過ぎないという完璧な例です。

6節：「そして、私は大群衆の声のように、多くの水の音のように、そして大きな雷の音のように、『アレルヤ！』と言うのを聞いた。」全能の私たちの神、主が御国に入ってくださいましたからです。」

この節には、すでに見られた表現がまとめられています。

「多くの群衆」を「多くの水の音」と比較して、その創造者は黙示録 1:15 で表現しています。自分自身を表現する「声」は、地響き、つまり「騒音」としか比較できないほど「多数」です。雷。」

「ハレルヤ！全能の私たちの神、主が御国に入ってくださいましたからです。」このメッセージは、黙示録 11 章 17 節の「第 7 のラッパ」の行動を特徴づけています。」

7節：「私たちは喜び、喜び、彼に栄光を帰しましょう。小羊の結婚が到来し、彼の花嫁は準備を整えたからです。

戦い」の時は過ぎたので、

「喜び」や「喜び」は十分に正当化されます。天の「栄光」、「花嫁」、地上の救われた選ばれた者の集会は、その「花婿」であるキリスト、生ける神「ミカエル」、ヤハウエに加わりました。天の友人たち全員の前で、救われた者とイエス・キリストは、彼らを結びつける「結婚式」の祝宴を祝います。カトリックの信仰がキリスト教の信仰のバージョンで消失させたすべての神聖な真理を回復することによって、

「花嫁は自分自身を準備しました」。

「準備」は長く、17世紀にわたる宗教史の中で築かれてきましたが、特に1843年以来、不可欠となったさまざまな修復、すなわち迫害されたプロテスタント改革者によって修復されなかったすべての真理に対する神の要求が始まった日です。

。この準備の完了は、最後まで、そして私とその光のこのバージョンを書

いている

2021

年の初めまで、神の承認とイエスから与えられた光を守り続けた最後の反体制派セブンスデーアドベンチストによって達成されました。

8節：「そして彼には、明るく清らかな亜麻布を着ることが与えられました。上質の亜麻布は聖徒たちの義にかなった作品だからである。」

「上質亜麻布」は「“真の最後の”聖徒たちの義なる行い」を表します。神が「正義」と呼ぶこれらの「業」は、1843年と1994年以来連続的にもたらされた神の啓示の成果です。この作品は、2018年以来神が愛し祝福する人々に与えられた神の靈感を明らかにし、そのために「備える」最新の成果です。この聖句で言及されているのは「結婚式」です。神が真の「聖徒」の「正しい行い」を祝福するなら、逆に、神は「行い」が「不正」だった偽聖徒の陣営を呪い、滅ぼすまで戦ったのである。

9節：「そして、天使は私に言った、「小羊の結婚の晩餐に召された人々は幸いであると書きなさい！」と書きなさい。そして彼は私にこう言いました、「これらの言葉は神の本当の言葉です」

この至福の言葉は、イエス・キリストの血によって贖われた聖徒たちに与えられます。その開拓者たちはダニエル 12:12 (1335日まで待つ人々は幸いです)

の開拓者たちに関心を持っていました。彼らはまさに「144,000人」または「144,000人」によって象徴されるでしょう。Apo.7の12 X 12 X

1000。永遠に天国に入るということは、まさに大きな幸福の理由であり、この機会を持つ人は神聖に「幸せ」になるでしょう。この特権の恩恵を受ける唯一の要素は幸運ではありませんが、救いの申し出は、原罪の継承と有罪判決後の「二度目のチャンス」として神によって私たちに提供されます。救いと将来の天の喜びの約束は、神がその約束を永久に守るため、私たちの信仰に値する神の口頭での約束であることが証明されています。終わりの日の試練には、もはや疑いの余地のない確信が必要となるでしょう。選ばれた人は、書かれていることはすでに語られているので、明らかにされた神の約束に基づいて築かれた信仰に頼らなければなりません。これが、聖書、聖書が「神の言葉」と呼ばれる理由です。

10節：「そして私は彼の足元にひれ伏して彼を拝みました。しかし彼は私にこう言いました。「そんなことはしないように気をつけなさい！」私はあなたの仲間の僕であり、イエスの証を持つあなたの兄弟の僕です。神を崇拝する。イエスの証しは預言の霊だからです。」

神はヨハネの誤りを利用して、信者にこの種の被造物への崇拝を教えているカトリック信仰に対する非難を私たちに明らかにされました。しかし、それはまた、ローマから受け継いだ異教の「太陽の日」を尊重することでこの過ちを犯しているプロテスタントの信仰も標的にしています。彼に話しかける天使は間違いなく、ダニエルとイエスの「代理」母マリア

にすでに現れた、神に近い神聖な宣教指導者「ガブリエル」です。

「ガブリエル」は高い地位にありながら、イエスと同じ謙虚さを示しています。彼がヨハネの「奉仕の同伴者」という称号を主張するのは、終わりの時に反対派のアドベンチストが最後に選出されるまでだけです。

1843年以来、選出された人々は「イエスの証し」を携えており、この聖句によれば、それは「預言の精神」を示しています。アドベンチストたちは、自分たちの損失として、この「預言の精神」を、1843年から1915年の間に主の使者エレン・G・ホワイトが成し遂げた働きに限定してしまいました。このようにして、彼ら自身が、イエスが与えた光に限界を設けてしまったのです。しかし、「預言の霊」は、イエスと弟子たちの間の真の関係から生じる永続的な賜物であり、何よりも、神性の全権をもって選んだ僕に使命を委ねるというイエスの決断に基づいています。この作品は

、「預言の霊」が今でも非常に活発であり、世界の終わりまで続く可能性があることを証明しています。

11

節：「すると、天が開いて、見よ、白い馬が現れた。彼に乗った者は忠実で真実と呼ばれ、義をもって裁き、戦います。」

この場面では、御霊は私たちを「大いなるバビロン」の最終的な勝利と滅びの前の地上に連れ戻します。御霊は、栄光に満ちたキリストが帰還の際、地上の反逆者たちと対峙する瞬間を描いています。栄光を受けたイエス・キリストにおいて、神は目に見えないところから現れ、「天国は開かれている」のです。彼は黙示録 6 章 2 節の「最初の封印」のイメージの中で、純粹さと神聖さによって特徴づけられたキャンプのイメージの「白い馬」に乗って「勝利者として、そして征服するために」出発するライダー、リーダーとして登場します。

。この場面で彼が自分に付けた「忠実で真実」という名前は、黙示録 3 章 14

節で「ラオデキア」という名前によって預言された前回の延長線上にこの行動を位置づけています。この名前は「裁かれる人々」を意味し、ここでは「彼は裁く」という正確さによって裏付けられます。

「正義をもって戦う」と明記することによって、御霊は黙示録 16:16 の「ハルマゲドンの戦い」の瞬間を思い起こさせます。そこで彼は悪魔によって率いられ、正義に与えられた名誉によって団結した不正の陣営と戦います。

「太陽の日」はコンスタンティヌス1世とローマ・カトリック教皇たちから受け継がれています。

12節：「彼の目は炎のようでした。彼女の頭にはいくつかの王冠がありました。彼は書かれた名前を持っていましたが、彼自身以外には誰も知りませんでした。」

場面の文脈を知ると、「彼の目」が「火の炎」と比較して、彼の怒りの対象、つまり黙示録 9:7-9 以来「戦闘の準備をした」統一反逆者たちを見ていることが理解できます。

1843年。「彼の頭に」かぶられた「いくつかの王冠」の意味は、この章の16節で与えられます。彼は「王の中の王であり、主の中の主」です。彼の「彼自身以外誰も知らない書かれた名前」は、彼の永遠の神性を示しています。

13節「そして、彼は血で染まった衣を着ていた。彼の名前は神の言葉です。」

この「血に染まった衣服」は 2 つのことを示しています。一つ目は、選ばれた人々の救いのために自らの「血」を流すことによって得た彼の正義である。しかし、彼が選んだ人々を救うために自発的に行ったこの犠牲には、侵略者と迫害者の死が必要です。彼の「衣」は再び「血」で覆われますが、今度はイザヤ書63章と黙示録14:17-20によれば、

「神の怒りのぶどう搾り場で踏まれた」敵の衣となるでしょう。この「神の言葉」という名前は、イエスの地上での宣教と、復活後に地上と天から次々に与えられたイエスの啓示のきわめて重要性を明らかにしています。私たちの救い主は、地上の姿に隠された神ご自身でした。彼が選出した役人たちが受けた彼の永続的な教えは、救われた陣営と失われた陣営の間に大きな違いを生むでしょう。

14節：「天の軍隊は、白く清らかな亜麻布を着た白い馬に乗ってイエスを追った。」

そのイメージは輝かしく、純粹さの「白」は神の陣営と忠実であり続けた大勢の天使たちの神聖さを特徴づけています。

「上質な亜麻布」は彼らの「正義の」純粹な働きを明らかにします。

15節：「彼の口からは国々を襲う鋭い剣が出た。彼は鉄の棒で彼らを牧するだろう。そうすれば彼は全能の神の激しい怒りのぶどう搾り場を踏むことになるだろう。」

「神の言葉」とは、選ばれた者を神聖な真理に導く教えをまとめた聖なる「言葉」である聖書を指します。彼が帰還する日、「神の言葉」は、反抗的で抗議し屁理屈を言う敵を殺すための「鋭い剣」のようにやって来て、最後に選ばれた者たちの血を流す用意ができています。敵の滅ぼしは、「彼は鉄の棒で彼らを支配する」という表現を明らかにしており、黙示録

2 章 27 節に従って勝利する選ばれた者によって実行される裁きの働きも示しています。黙示録 14 章 17 節から 20 節で「ヴィンテージ」と呼ばれる神の復讐の計画がここでも確認されています。このテーマはイザヤ書 63 章で発展しており、そこでは神は誰も同行せず単独で行動することが聖

霊によって明示されています。その理由は、すでに天国に召された選挙で選ばれた役人たちは、反乱軍を襲うドラマを目撃していないからだ。

16節：「彼はその衣服と太ももに、王の中の王、主の中の主という名前が書かれていました。」

「衣服」は生き物の作品を表し、「太もも」は彼の強さと力を示唆しています。重要な詳細であるため、彼はライダーとして現れ、馬の上に立つための「太もも」の筋肉、ほとんどの人間は、行動が可能かどうかを試されます。騎手としての彼のイメージは、戦士の戦士がとった外見であったため、過去において重要でした。今日、私たちはこのイメージの象徴性を残しています。それは、騎手が「馬」に象徴される人間の集団を支配する教師であることを教えてくれます。イエスが昇天されるのは、現在地球中に散らばっているご自身の選ばれた人々に関するものです。彼の名前「王の中の王、そして主の中の主」は、地球の王や主の不当な命令にさらされている彼の最愛の選ばれた人々にとって真の慰めの主題を構成します。この主題は明確にする価値があります。地上の王権のモデルは、神によって承認された原則に基づいて設計されたものではありません。確かに神は、ご自分の要求に従って、当時存在していた「他の異教の国々と同じように」王によって地上で統治されることをイスラエルに与えたと私は引用しています。神は彼らの邪悪な心の要求にのみ応えました。なぜなら、地上では最高の王は「自分が蒞りなかつた場所で刈り取る」「忌まわしい」存在に過ぎず、神を知る者は自らを改革する前に民によって打倒されるのを待たないからである。イエスが提示したモデルは、愚かで無知で邪悪な人々によって世代から世代へと地上に伝えられたモデルを非難します。神の日の栄えの世界では、指導者は民の僕であり、自分の栄光はすべて民から得ています。完璧な幸福への鍵はそこにあります。なぜなら、仲間のせいで苦しむ生き物はいないからです。イエスは輝かしい帰還の中で、邪悪な王や領主たち、そして彼らの統治は神の権利であると主張して彼らの邪悪さを滅ぼすために来られます。イエスは彼らに、そうではないことを教えるでしょう。彼らだけでなく、彼らの不正義を正当化する人類大衆に対しても。これが「才能のたとえ」の説明であり、それが成就され、適用されます。

対決の後

17節「そして、私は天使が太陽の中に立っているのを見た。そして彼は大声で叫び、空の真ん中を飛んでいるすべての鳥たちに言いました、「さあ、神の素晴らしい晚餐のために集まってください。」

イエス・キリスト「ミカエル」は、コンスタンティヌス¹世皇帝の休日変更を正当化する太陽神崇拝者たちと戦う偽キリスト教徒と戦うため、神の光の象徴である太陽の姿をして登場します。神であるキリストと対峙する中で、彼らは生ける神が太陽神よりも恐るべき存在であることに気づくでしょう。イエス・キリストは大声で猛禽類の群れを呼び集めます。

注：反逆者たちは意識的かつ自発的な方法で太陽の神性を崇拝することを望んでいるのではなく、神にとって毎週の休みとして尊重する最初の日が異教の穢れを保持しているという事実を過小評価していることをここでもう一度明記しなければなりません。過去形の使用。同様に、彼らの選択は、彼が地球の創造の初めから確立した時間の秩序に対する大きな軽蔑を明らかにしています。神は地球の自転によって記される日を数えます。民イスラエルへの介入の際、彼は「安息日」と呼ばれる7日目に名前を付けて示し、週の順番を思い出しました。多くの人々は、自分の誠実さゆえに神に義と認められると信じています。神が明確に示した真理に異議を唱える者にとっては、誠実さも信念も何の価値もありません。その真理は、イエス・キリストの自発的な犠牲への信仰を通じて和解を可能にする唯一の基準です。個人的な意見は創造主である神に聞かれず、認められません。聖書はイザヤ書 8 章 20 節の次の聖句でこの原則を確認しています。私たちがこのように語らなければ、人々に夜明けはありません。」

二つの「ごちそう」が神によって用意されています。それは「子羊の婚宴」です。そのゲストは、集合的に「花嫁」を表すため、選ばれた者自身です。

2番目の「饗宴」は不気味なタイプのもので、その恩恵を受けるのは獲物の「鳥」、ハゲワシ、コンドル、トビ、およびこのジャンルの他の種だけです。

18節「王の肉、軍司令官の肉、有力者の肉、馬とそれに乗る者の肉、自由で絆のある者、小さい者も偉大な者も、すべての者の肉を食べること。」»

全人類が滅亡した後は、遺体を土の下に置く者はいなくなり、エレミヤ書 16:4 によれば、「遺体は糞便のように地にまき散らされる」とあります。神が呪う者たちに定められた運命を教えている聖句全体を見つけてみましょう。彼らには涙も埋葬も与えられない。彼らは地球上の糞のようになるでしょう。彼らは剣と飢餓によって滅びます。そして彼らの死骸は空の鳥や地の獣の餌となるだろう。」この 18

節で聖霊によって提示された列挙によれば、死を免れる人は誰もいません。ヤコブの手紙 3 章 3 節にあるように、「馬」は民間指導者や宗教指導者に率いられた人々を象徴していることを思い出します。»

19節：「そして、わたしは、その獣と、地の王たちと、その軍隊が、馬に乗っている者とその軍勢に対して戦争をするために集まっているのを見た。」»

「ハルマゲドンの戦い」は霊的なものであり、地上ではその側面がイエス・キリストの最後の真の奴隷全員の死を宣告することで構成されていたことを見てきました。この決定はイエス・キリストの再臨前に行われ、

反逆者たちは自分たちの選択を確信していました。しかし、その適用が始まると、空が開き、神の復讐をするキリストとその天使の軍隊が現れました。したがって、もはや戦闘は不可能です。神が現れるとき、誰も神に逆らうことはできず、その結果は黙示録

6:15-17

が私たちに明らかにしたとおりです。自由民たちは洞窟や山の岩の中に隠れました。そして彼らは山や岩に向かって言った、「私たちの上に倒れ、王座に座っておられる方の顔と小羊の怒りから私たちを隠してください。」彼の怒りの大いなる日が来たのに、誰が耐えられるのでしょうか？ 最後の質問に対する答えは次のとおりです。反政府勢力によって殺される予定だった選挙で選ばれた役人たち。すべての敵と救い出された人々に対するイエスの勝利を預言した聖なる安息日への忠実さによって聖別された選ばれた人々。

20節：「そして、獣と、その前にしるしを行った偽預言者も連れて行かれた。その獣の刻印を受けて獣の像を崇拜する者たちを、それによって欺いていたのである。」二人は生きてまま、火と硫黄で燃え上がる湖に投げ込まれました。」

注意

！聖霊は、神が「獣と偽預言者」、つまりカトリック信仰とプロテスタント信仰に1994年以来偽アドベンチストが加わったもののために準備された最後の審判の最終的な運命を私たちに明らかにします。硫黄は、最後の審判の後、決定的に罪人を破壊し、全滅させるために、7千年紀の終わりにのみ地球を覆います。この聖句は、私たちの創造主である神の完全な正義の素晴らしい感覚を私たちに明らかにしています。それは、真の加害者と、だまされても自分の選択に責任があるため有罪となる被害者との違いを確立します。宗教的支配者たちが「生きてまま火の湖に投げ込まれた」のは、黙示録

14章9節によれば、彼らが地上の男女に、その刑罰が発表された「獣の刻印」を尊重するよう扇動したためである。

21節：「そして、残りの者たちは、馬に座っていた者の口から出た剣で殺された。そしてすべての鳥は自分たちの肉に満足しました。」

これらの「他者」とは、国際運動に従い、キリスト教の宗教的反逆者が行った行動に個人的に関与することなく一般命令に従った非キリスト教徒または非信者の人間を指します。イエス・キリストが流した血の義に覆われていないため、彼らはキリストの再臨後に生き残ることはできませんが、それでも「口から出た剣」に象徴されるキリストの言葉によって殺されます。真の神の出現の目撃者であるこれらの墮落した存在たちは、最後の審判を受けることとなりますが、反乱で活動した偉大な宗教的犯罪者のために用意された「火の湖」の長期にわたる死の苦しみに苦しむことはありません。偉大なる創造主なる神、偉大な裁判官の栄光の前に、彼らは突如として滅ぼされることになる。

黙示録 20:

7千年紀の千年 そして最後の審判

悪魔の罰

1節「その時、私は天使が天から降りてくるのを見た。手には底なしの穴への鍵と大きな鎖を持っていた。」

「天使」または神の使者が「天から」地上に降り立ち、地上、人間、動物のあらゆる形態を奪われ、創世記 1 章 2 節でそれを示している「深淵」という名前がここで取り上げられます。

「鍵」はこの荒涼とした土地へのアクセスを開閉します。そして、「彼の手」に握られた「大きな鎖」は、生き物がその牢獄となる荒れ果てた大地に鎖でつながれることを理解させます。

2節：「彼は悪魔でありサタンである古代の蛇である竜を捕らえ、千年間彼を縛り付けました。」

黙示録

12:9

で反逆の天使である「サタン」を指す表現がここでも引用されています。これらは、彼の反抗的な性格によって引き起こされた苦しみに対する彼の非常に大きな責任を私たちに思い出させます。彼のインスピレーションや影響を受ける支配者たちが、彼と同じくらい悪かったために人間に課した肉体的、道徳的な苦痛と痛み。彼は「竜」として異教の帝国ローマを導き、「蛇」として教皇のキリスト教ローマを率いましたが、宗教改革の際には仮面を剥がされ、カトリックとプロテスタントの武装同盟と「竜兵団」に仕える「竜」として再び振る舞いました。ルイ14世の言葉。悪魔の天使の陣営から唯一生き残ったのは「サタン」であり、最後の審判での償いの死を待つ間、彼はさらに「千年」の間、いかなる生物とも接触することなく隔離されたまま、地球上で生き続けることになる。形のない砂漠の刑務所となり、人や動物の腐乱した死体と骨だけが住んでいるため空っぽになります。

荒れ果てた地球上の深淵の天使：黙示録9:11の破壊者。

3節：「彼は彼を底なしの穴に投げ込み、彼の上の入り口を閉じて封印しました。それは、千年が終わるまで彼がもはや国々を欺くことがないようにするためです。その後、彼は少しの間ほどかれる必要があります。」

与えられたイメージは正確であり、サタンは天国へのアクセスを妨げる覆いの下で荒れ果てた地上に置かれています。そのため、彼は、自分が引き起こした、または奨励した損失によって、人間の規範の制限にさらされていることに気づきます。他の生き物たち、天の天使たち、そして順番に天使になった人間たちはイエス・キリストの罪と死に対する勝利以来

、イエス・キリストがもはやアクセスできない天国にいて、彼の上にあります。しかし、彼にはもう仲間も天使も人間もいないので、彼の状況はさらに悪化しました。天には「諸国民」があり、この聖句では「地の」という言及なしで引用されています。なぜなら、これらの国々の贖われた人々は皆、神の国の天国にいるからです。こうして「チェーン」の役割が明らかになります。それは彼に地球上で孤立し、孤立した状態に留まることを強めます。神聖なプログラムでは、悪魔は「千年」の間囚人のままであり、その終わりに解放され、最後の者の「第二の死」のために、第二の復活で復活した邪悪な死者たちと接触し接触することができます。その後、一時的に再び人口が増えるであろう地球上での裁き。彼は再び、罪に定められた反逆国家を征服するだろうが、救われた聖天使たちや偉大な裁判官イエス・キリストと戦う無駄な試みが行われるだろう。

救われた悪人の裁判官

4節：「そして私は玉座を見た。そしてそこに座っていた人々には裁く力が与えられました。そして私は、イエスの証言と神の言葉のゆえに斬首された人々、そして獣もその像も崇拜せず、額や頭に刻印を受けなかった人々の魂を見た。手。彼らは生き返り、キリストとともに千年間統治した。」

「玉座に座る者」は王による裁きの「権力」を持っています。これは神が「王」という言葉に与えた意味を理解するための重要な鍵です。今、神の王国、イエス・キリスト「ミカエル」において、神は地上から救い出されたすべての人間とその裁きを分かち合っています。地上と天上の邪悪な者に対する裁きは集団的に行われ、神と共有されるでしょう。これが、救われた選民の王権の唯一の側面です。支配は一部の選ばれた者だけのものではなく、すべての人に与えられます。聖霊は、これまで地球上で起こった時代に、最初の恐ろしい殺人的迫害があったことを私たちに思い出させます。その迫害は、次のように引用されています。「首を切られた人々の魂は、イエスの証しと神の言葉のゆえに」。ポールもその一人でした。こうして聖霊は、ローマの異教主義と西暦 30 年から 1843 年の間に活動した不寛容なローマ教皇信仰の犠牲となったキリスト教徒を呼び起こします。そして、アポの「地から昇る獣」によって死の脅威にさらされた最後に選ばれた者たちをターゲットにします。13 : 11 - 15、地球時間の最後の時間。 2029 年から 2030 年の過越祭に先立つ春の初日まで。

第

7

のラッパ」の発表に従って、「死者を裁く時が来た」とあり、これがこの節

4

で引用されている「千年」の時間の有用性です。それは神の日の栄えの永遠に入った救われた者の職業である。彼らは邪悪な人々と墮落した天の天使を「裁く」必要があります。パウロは第一コリント 6 章 3

節で次のように述べています。ましてや、私たちはこの世の物事を裁いてはいけないのでしょうか？」

倒れた反乱軍の二度目の復活

5節：「残りの死者は、千年が終わるまで再び生き返ることはなかった。初めての復活です。」

畏に気をつけろ！

「千年が完了するまで、他の死者たちは生き返らなかった」というフレーズは括弧を構成し、それに続く「それは最初の復活である」という表現は、復活したキリストにおける最初の死者に関するものです。千年』を引用。この括弧は、名前を付けずに、最後の審判と「火と硫黄の湖」の死刑のために「千年」の終わりに復活する邪悪な死者のために予約された第二の「復活」の告知を想起させます。それは「第二の死」を遂げる。

6節：「最初の復活にあずかる人々は幸いであり、聖です。第二の死は彼らに対して何の力もありません。しかし、彼らは神とキリストの祭司となり、千年間キリストとともに統治するであろう。」

この聖句は、神の明らかにされた正しい裁きを非常に簡単に要約しています。至福の言葉は、「千年」の初めに「キリストにおける死者の復活」に参加する真の選ばれた人々に向けられています。彼らは裁きを受けに来るのではなく、「千年」の間、天で神によって組織された裁きの裁判官となるのです。発表された「千年」という「治世」は裁判官活動の「治世」に過ぎず、この「千年」に限定される。永遠に入った選ばれた人々は、「第二の死」を恐れたり苦しむ必要はありません。それどころか、裁かれる邪悪な死者たちにそれを苦しませるのは彼らだからです。そして私たちは、彼らが最も偉大で邪悪で残酷で殺人的な宗教犯罪者であることを知っています。選出された裁判官は、現在の地上での最初の死と何の共通点も持たない「第二の死」を破壊する過程で、裁かれる各存在が個別に経験しなければならぬ苦しみの期間を決定する必要があります。

。なぜなら、火にその破壊的な行為の形を与えるのは創造主である神だからです。ダニエル 3 章でダニエルの 3 人の仲間の経験が証明しているように、火は神に守られた天体や地上の体に対しては効果がありません。最後の審判では、復活の体は現在の地上の体とは異なる反応をします。マルコ 9 章 48 節でイエスは、「そこでは彼らの虫が死なず、火が消えないところでは」と言って、ご自分の特殊性を私たちに明らかにしています。ミミズの体の輪が個々に生き続けるのと同じように、呪われた者の体は最後の原子に至るまで生命を持っています。したがって、それらの消費の速度は、聖なる裁判官とイエス・キリストによって決定された苦しみの時間の長さに依存します。

最後の対決

7節：「千年が終わると、サタンは牢獄から解放されます。」

「千年」の終わりに、短い間、彼は再び仲間を見つけるでしょう。これは地上の反逆者たちに与えられた二度目の「復活」の瞬間です。

8節：「そして、彼は地の**四隅**にある諸国民、ゴグとマゴグを欺くために出て行って、戦争のために彼らを集めます。その数は海の砂のようだ。」

この会社は、

「**四隅**」の公式が示すように、地球上に復活した「**国家**」の会社です。地球の」、またはアクションに普遍的な特徴を与える 4
つの基本的なポイント。このような集会は、戦争戦略のレベルにおいて、黙示録 9:13 の「第 6
のラッパ」の第三次世界大戦の紛争に似ていることを除けば、比較するものは何也没有ありません。この比較により、神は最後の審判に集まった人々に「ゴグとマゴグ」という名前をもともとエゼキエル書 38:2
で引用されており、その前に創世記 10:2
で「マゴグ」はヤペテの次男であるとされています。

;しかし、小さな詳細は、この喚起の比較的な側面のみを明らかにします、なぜなら、エゼキエル書ではマゴグはゴグの国であり、第三次世界大戦中に史上最大の兵士を投入するロシアを指しているからです。戦争の歴史。これは、その巨大な拡大と西ヨーロッパ大陸の土地の急速な征服を正当化します。

聖霊は彼らを「海の砂」に例え、最後の審判の犠牲者の数の重要性を強調しています。これは、黙示録 12 章 18 節または 13 章 1 節 (聖書のバージョンに応じて)

で明らかにされた、悪魔とその人間の手先に対する彼らの服従をほのめかしたのもでもあります。「ドラゴン」について言えば、次のように書かれています。「そして彼は砂の上に立った」海の。」

救いようのない反逆者であるサタンは、神の軍隊を倒すことができると再び望み始め、他の有罪判決を受けた人々に神とその選ばれた者たちと戦うよう説得して誘惑します。

9節：「そして彼らは地の面に上って行き、聖徒たちの陣営と愛する都を取り囲んだ。しかし、空から火が降りてきて、彼らを焼き尽くしました。」

しかし、敵が触れられなくなったために敵を捕らえることができない場合、地上の征服はもはや何の意味も持ちません。ダニエルの仲間たちと同じように、火も他のものも彼らを傷つけることはできません。そしてそれどころか、「天からの火」は「聖徒たちの陣営」にさえ彼らを襲い、それは何の影響も与えません。しかし、この火は神とその選民の敵を「焼き尽くし」ます。ゼカリヤ書 14 章で、御霊は「千年」を隔てた 2
つの戦争を預言しています。

「第6のラッパ」に先立ち、それによって達成されることは1節から3節に

示されており、残りは最後の審判の時に行われる第2次戦争と、その後、新しい地球に確立される宇宙秩序に関するものである。4節では、この預言は次のような言葉でキリストとその選民の地上への降臨を思い起こさせます。オリーブの山は中央で東と西に分かれ、非常に大きな谷が形成されます。山の半分は北に向かって後退し、半分は南に向かって後退します。»

このようにして、最後の審判の聖徒たちの陣営が特定され、位置が特定される。イエスの「足」が地上、すなわち「エルサレムの反対側、東側にあるオリーブの山」に「置かれる」のは、天の「千年」の終わりになって初めてであることに注意しましょう。

。この聖句は誤解されて、「千年王国」におけるイエス・キリストの地上の統治についての誤った信念を引き起こしました。

10節：「そして、彼らを欺いた悪魔は、獣と偽預言者がいる火と硫黄の湖に投げ込まれました。そして彼らは永遠に昼も夜も苦しめられることになる。」»

黙示録

19:20

で明らかにされた宗教的反逆者の裁きを実行する時が来しました。この聖句の発表によれば、「悪魔、獣、偽預言者」は一緒になって、

「天からの火」の作用により「生きたまま火と硫黄の湖に投げ込まれ」ます。これは、地球の地殻の亀裂によって地球の表面全体に放出された、地下の溶けたマグマです。その後、地球は「太陽」の外観を帯び、その「火」が反逆者の肉体を焼き尽くします。反逆者たちは、神によって創造された太陽の崇拝者（無意識ではありますが、有罪です）です。この行為において、地上と天上の犯人は、黙示録

9:5-6

以来預言されている「第二の死」の「苦しみ」に苦しむのです。偽りの休息日に対する不当な支援がこの悲惨な結末を引き起こした。なぜなら、有罪判決を受けた人にとって幸運なことに、たとえそれがどれほど長くても、「第二の死」にも終わりがあるからです。そして、「永遠に永遠に」という表現は、

「苦しみ」自体には当てはまりませんが、それを引き起こす「火」の破壊的な結果に当てはまります。なぜなら、これらは決定的で永遠に続く結果だからです。

最後の審判の原則

11節：「すると、わたしは大きな白い玉座と、そこに座っておられる方を見た。大地も空も彼の顔から逃げ去り、彼らの居場所は見つからなかった。」

「白」、その「偉大な玉座」は、すべての生命と万物の創造主である神の完全に純粋で神聖な性格のイメージです。その完璧さは、最後の審判が与えた荒廃し消耗した様相を呈する「地球」の存在を容認することはできません。さらに、あらゆる起源の悪役は滅ぼされ、シンボルの時代は

終わり、天の宇宙とその数十億の星にはもはや存在する理由がありません。したがって、私たちの地上次元の「空」とそこに含まれるすべてのものは排除され、虚無の中に消え去ります。永遠の日の中で永遠の命を得る時が来ました。

12節：「そして私は、大小問わず死者たちが玉座の前に立っているのを見た。本が開かれました。そしてもう一つの本が開かれました、それは命の本です。そして死者たちはその行いに応じて、これらの本に書かれていることに従って裁かれた。」

「死者」は最終判決のために復活した。神は誰にも例外を設けず、その公正な裁きは「偉い人」も「小さな人」も、金持ちも貧乏人も影響を受け、彼らに人生で初めて、平等な同じ運命、つまり死を課すのです。

続くこれらの聖句は、最後の審判の行動について詳しく述べています。ダニエル書 7:10

ですすでに預言されているように、天使たちの証言の「書」は「公開」されており、これらの目に見えない証人たちは、有罪判決を受けた者たちと、選ばれた者とイエス・キリストによるそれぞれの事件の裁きの後に犯した罪と罪を指摘しました。取り消し不可能な最終判決が全会一致で採択された。最終判決の時点で、宣告された判決は執行されます。

13節：「海はその中にいた死者を放棄し、死と地獄はその中にいた死者を放棄した。そしてそれぞれの行いに応じて裁かれた。」

この聖句で定義されている原則は両方の復活に当てはまります。

「死者」は「海」または「陸」に消えます。この聖句で指定されているのは、これら 2 つの可能性です。「地球」という実体が呼び起こされる「had

」という形式に注目してみましょう。実際、この名前は正当なものであり、神は創世記 3 章 19 節で「あなたは塵であり、塵に帰るであろう」と罪深い人間に宣言されています。したがって、

「持っていた」は「地球」の「塵」です。死は時として人間を火で焼き尽くし、そのため通常の埋葬儀式によれば「塵に還る」ことはありません。これが、この場合を除外することなく、御霊が「死」そのものが、どんな形であれ、自分が打った者たちを打ち返すだろうと規定している理由である。完全に崩壊した人体の痕跡を残さない核火災によって引き起こされる崩壊を理解することによって。

14節「そして死と地獄は火の湖に投げ込まれた。これは第二の死、火の湖です。」

「死」は生の原則に絶対的に反対する原則であり、その目的は、人生経験が神によって裁かれ非難された生き物を排除することでした。人生の唯一の目的は、永遠の友を選ぶ新しい候補者を神に提示することです。この選択が行われ、邪悪な者たちが滅ぼされたので、「死」と「地球」には「死者が存在」し、もはや存在する理由がなくなりました。これら 2

つのものの破壊原理自体が神によって破壊されます。

「火の湖」の後、生命とその生き物を照らす神の光のための余地が作られます。

15節：「いのちの書に記されていなかった者は、火の湖に投げ込まれた。」»

この聖句はそれを裏付けており、神は本当に人間の前に 2 つの道、2 つの選択、2 つの運命、2 つの運命だけを与えました (申命記 30:19)。選ばれた人々の名前は、世界の創設時から、あるいはさらにその先、自由で独立した生き物を仲間に提供することを目的とした神のプロジェクトの計画から、神によって知られていました。この選択は彼に生身の体でひどい苦しみをもたらすことになるが、恐怖よりも愛への欲求の方が大きかったので、彼はプロジェクトを立ち上げ、天上の生命と地上の生命の物語が詳細に成就することを事前に知っていた。彼は、最初の生き物がいつか致命的な敵になることを知っていました。しかし、彼はそれを知っていたにもかかわらず、プロジェクトを放棄するあらゆる機会を彼に与えました。彼はそれが不可能であることを知っていましたが、それを実現させました。したがって、彼は選ばれた人々の名前、彼らの行動、彼らの人生全体の証言を知っており、それぞれの時代と時代に彼らを導き、導きました。神にとって不可能なことはただ一つ、それは驚きです。

彼はまた、人間の生殖の過程で生み出された、無関心で反抗的で偶像崇拝的な多数の人間の生き物の名前も知っていました。黙示録 19:19-20 で明らかにされた神の裁きの違いは、神のすべての被造物に当てはまりません。罪の軽い彼らの中には、キリスト教徒とユダヤ教の宗教的犯罪者のみを対象とした「第二の死の火の苦しみ」を経験することなく、

「神の言葉」によって殺される人もいます。しかし、2番目の「復活」は、地上に生まれたすべての人間と天に創造された天使に関係しており、神はローマ14章11節で次のように宣言されています。そうすれば、すべての舌は神に栄光を帰すでしょう。」

黙示録 21:象徴される栄光の新エルサレム

「そのとき、私は新しい天と新しい地を見た。なぜなら、最初の天と最初の地は過ぎ去ってしまい、海はもうなくなったからです。」

聖霊は、7千年紀の終わり以降の新しい多次元秩序の確立によって触発された感情を私たちと共有しています

。この瞬間から、時間はもはやカウントされなくなり、生きているすべてのものは無限の永遠に入ります。すべてが新しく、正確に言えばリニューアルされます。罪の時代の「天と地」は消滅し、「死」の象徴である「海」も存在しません。創造主として神は地球の外観を変え、そこに住む人々にとってリスクや危険を表すすべてのものを消滅させました。したがって、海もなくなり、険しい岩峰のある山もなくなりました。それは、すべてが栄光と平和である最初の「エデン」のような大きな庭園になりました。これは Rev.22 で確認されます。

2節：「そして私は、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように準備されて、神のもとから天から下りてくるのを見た。」

「新しいエルサレム」のように、この聖句で「夫」であるイエス・キリストの「花嫁」である「聖都」と名付けられた土地から、選ばれた救い出された聖徒たちの集会を歓迎します。彼女は「天から降りてきて」、救い主の栄光の帰還の際に入った神の国から来ました。そして、天上の「千年」の終わりに、最後の審判のために初めて地上に降り立った。その後、彼女は天に戻り、「新しい天と新しい地」が彼女を受け入れる準備が整うまで待ちました。

「天」という言葉が単数形であることに注意してください。これは、創世記 1:1 で天上の存在が 2つの対立する陣営に分かれることを示唆した複数形の「天」とは対照的に、完全な統一を想起させるからです。

3節：「すると、御座から大きな声がこう言うのを聞いた。『見よ、人間と共にある神の幕屋だ!』神は彼らとともに住み、彼らは神の民となり、神ご自身が彼らとともにおられる。」

「新しい地球」は著名なゲストを歓迎します。なぜなら「神ご自身」が古代の天の王座を捨てて、悪魔と罪と死を打ち負かした地上に新しい王座を据えるために来られるからです。

「神の幕屋」とは、神の天体であるイエス・キリスト「ミカエル」（=神のような方）を指します。しかし、それはまた、イエス・キリストの御霊が統治する選民の議会の象徴でもあります。

「幕屋、神殿、シナゴグ、教会」、これらすべての用語は、人間によって建てられた建物である前に、救われた聖徒たちの象徴です。それらのそれぞれは、神聖なプロジェクトの進行における段階を示しています。そして第一に、「幕屋」は、神聖な天幕の上に柱のように降り注ぐ雲によって目に見える形で示された、神によって導かれ砂漠に導かれたヘブライ人の

エジプトからの出口を示しています。そのとき彼はすでに「男性と一緒に」いました。これは、この節でこの用語を使用することを正当化します。そして「神殿」は「幕屋」の堅固な構造を示しています。ソロモン王の下で命令され実行された仕事。ヘブライ語では、「シナゴグ」という言葉はもっぱら「集会」を意味します。黙示録 2:9 と 3:9 で、キリストの御霊は反逆的なユダヤ国民を「サタンの会堂」と呼んでいます。最後の「教会」という言葉は、ギリシャ語で集会（エクレシア）を指します。キリスト教の聖書の教えを広める言語。イエスは「自分の」と比較しました。体は「エルサレム」の「神殿」にあり、エペソ 5:23 によれば、議会、つまり彼の「教会」は「彼の体」です。教会の頭であり、それが彼の体であり、彼は救い主です。私たちは、イエスが使徒たちを残して天に昇られたときに彼らが経験した悲しみを覚えています。今回、「私の夫は私と一緒に生きています」は、「新しい地球」での彼女のインスタレーションにおける選ばれし者と言えます。この文脈において、黙示録 7 章の「12 部族」の 12 の名前前のメッセージは、勝利の純粋な喜びと幸福を表現することができます。

4節：「神は彼らの目からすべての涙をぬぐい去ってくださいます。そうすれば死はなくなり、悲しみも叫びも痛みもなくなります。以前のもは過ぎ去ったからです。」

黙示録 7 章 17 節との関連性は、黙示録 7 章の終わりにある「神は彼らの目からすべての涙をぬぐい去るであろう」という神の約束をここで見つけることによって確認されます。泣くことを治すのは喜びと喜びです。私たちは神の約束が守られ、成就されるときについて話します。この素晴らしい未来を注意深く見てください。なぜなら、私たちの前には「死、悲しみ、叫び、痛み」が予定されているからです。それはもはや、私たちの崇高で素晴らしい創造主である神による万物の刷新ではありません。これらの恐ろしい出来事は、「千年」の終わりに達成される最後の審判の後にのみ消滅することを私は明記します。選ばれた者たちだけが、全能の神、主の栄光の中に戻ってくるとき、悪の影響は止まります。

5節：「そして、王座に座っていた者は、「見よ、わたしはすべてのものを新しくする」と言った。そして彼はこう言いました。これらの言葉は確かに真実だからです。」

見よ、わたしはすべてのものを新しくする」という預言の言葉を証します。神が何を備えておられるのかを理解しようとして地上のニュースの画像を探しても意味がありません。何が新しいのかを説明することはできないからです。そしてその時まで、神は私たちに、それらがもはや「新しい地と新しい空」には存在しないと告げることによって、私たちの時代の痛みを伴う事柄を思い出させただけであり、そのため、その神秘と驚きはすべて保たれています。天使はこの言葉にこう付け加えています。「こ

これらの言葉は確かで真実だからです。」イエス・キリストにおける神の恵みの呼びかけには、神の約束の報いを得るために揺るぎない信仰が必要です。それは世界の常識に反する困難な道です。それには、主人に服従する奴隷の謙虚さの中に、偉大な犠牲の精神と自己否定の精神が必要です。したがって、私たちの自信を強めようとする神の努力は十分に正当化されます。「明らかにされ表現された真理の確信」が真の信仰の基準です。

6節：「そして彼は私に言った、「終わった！」私はアルファでありオメガであり、始まりであり終わりです。渇いている者には、命の水の泉から惜しみなく与えましょう。」

創造主である神イエス・キリストは「すべてを新しいもの」として創造されます。「終わった！」 》 ;詩篇 33:9: 「彼がこう言ったので、事は実現した。彼が命令すると、それは存在する。」彼の創造的な言葉は、その言葉が口から出た瞬間に完成します。西暦30年以来、ダニエル書と黙示録で明らかにされたキリスト教時代の計画は、細部に至るまで実現してきました。神は私たちに、ご自分の選民のために用意された将来をもう一度見つめるよう勧めておられます。発表されたことは、同じ方法で完全に確実に達成されます。イエスは黙示録 1 章 8 節にあるように、「わたしはアルファでありオメガであり、始まりであり終わりである」と言われます。

「始まりと終わり」という考えは、罪人と死の滅び後の7千年紀の「終わり」に完全に終わる地上の罪の経験においてのみ意味を持ちます。商業地に散らばっている神の子たちに、イエスは「命の水の泉から」を「無償で」差し出します。彼こそが、永遠の命を象徴するこの「命の水」の「源」なのです。神の賜物は無償であり、この明確化は、教皇庁から代償を払って得られる恩赦を意味するローマ・カトリックの「免罪符」の販売を非難するものである。

7節：「勝利する者はこれらのものを受け継ぐでしょう。私は彼の神になり、彼は私の息子になります。」

神の選民はイエス・キリストとの共同相続人です。第一に、イエスとはご自身の「勝利」を通じて、天上のすべての被造物が認める王の栄光を「受け継いだ」のです。彼の後に選ばれた者たちも「勝利者」ですが、彼の「勝利」を通して、彼らのために神が特別に創造された「これらの新しいものを受け継ぐこととなります」。イエスはヨハネ 14 章 9 節で使徒フィリポに自分が神であることを確認しました。私を見た者は父を見たのです。「父を見せてください」とは何と言いますか? 》 この男メシアは自分を「永遠の父」であると表明し、イザヤ書 9:6 (または 5) で預言されていた彼に関係する発表を裏付けました。したがって、イエス・キリストは、彼らの兄弟であり、父であるご自分の選民のためのものなのです。そして彼ら自身も彼の兄弟であり息子です。しかし、その呼びかけは個人的なものであるため、「手紙」のテーマの7つの時代の終わりの

ように、御霊は「勝利する者に」「彼は私の息子になるだろう」と言います。生ける神の「子」の地位から恩恵を受けるには、罪に対する勝利が必要です。

8節「しかし、臆病な者、不信仰な者、忌まわしい者、殺人者、性的に不道徳な者、魔術師、偶像崇拜者、そしてすべての嘘をつく者、彼らの分は火と硫黄で燃える湖の中にあり、それは第二の死である」。

人間の性格に関するこれらの基準は、異教の人類全体に見られますが、ここでは聖霊は偽りのキリスト教の成果をターゲットにしています。ユダヤ教の非難は、黙示録 2:9 と 3:9 でイエスによって明確に表現され、明らかにされました。

黙示録 19:20
によると、「...火と硫黄で燃える湖」は、最後の審判の時には、「獣と偽預言者」、つまりカトリック信仰とプロテスタント信仰のために取っておかれた部分となります。偽りのキリスト教の宗教は、偽りのユダヤ人の宗教と何ら変わりません。彼の優先価値観は神の価値観とは正反対です。したがって、ユダヤ人のパリサイ人は、食事の前に手を洗わなかったイエスの弟子たちを非難しましたが（マタイ

15:2）、イエスは彼らにそのような非難を一度もされたことがなく、マタイ 15:17 から 20
でこう言われました。口に入ったものはすべてお腹に入り、その後秘密の場所に放り込まれるということが理解できませんか？しかし、口から出たものは心から出たものであり、これが人を汚すものです。というのは、邪悪な考え、殺人、姦淫、淫行、窃盗、偽りの証言、中傷などが心から出てくるからです。これらは人間を汚すものです。しかし手を洗わずに食事をすることは人を汚すものではありません」。同様に、偽りのキリスト教宗教は、主に肉の罪を非難することによって、御霊に対する罪を覆い隠します。イエスはマタイ 21:3

でユダヤ人たちにこう告げてご自分の意見を述べられました。「徴税人や遊女たちはあなたたちより先に天国に入るでしょう」。明らかに、すべての人が悔い改めて神とその純粹さに改宗することが条件です。イエスがマタイ 23:24

で非難している「盲目の案内人」を「ブヨを濾し取り、ラクダを飲み込んだ」こと、あるいは「隣人の目を見ずに隣人の目にわらを見ている」として非難しているのは偽りの宗教である。ルカ 6:42 およびマタイ 7:3 ~ 5
によると、

イエスが挙げたこれらの性格基準すべてに当てはまる人には、ほとんど希望はありません。自分の性質に当てはまるものが 1
つかない場合、それと戦って欠点を克服する必要があります。信仰の最初の戦いは自分自身との戦いです。そしてそれは克服するのが最も難しい逆境です。

この列挙の中で、偉大な神の裁判官であるイエス・キリストは、その霊的意味を支持して、教皇ローマ・カトリック教のタイプの偽りのキリスト教信仰で非難される欠点を挙げています。イエスは「臆病者」をターゲットにすることで、信仰の戦いで勝利することを拒否する人々を指定しています。なぜなら、神の約束はすべて「勝利する者に」留保されているからです。しかし、戦うことを拒否する者に勝利はありません。

「忠実な証人」は勇気を持っていなければなりません。卑怯者から出て行け。

「信仰がなければ神を喜ばせることは不可能です」(ヘブル11:6)。出て行け、「不信者」。そして、見倣うべき模範として与えられたイエスの信仰に従わない信仰は、単なる不信仰です。

「忌まわしいもの」は神にとって忌まわしいものであり、異教徒の産物であり続けます。出て行け、「忌まわしいもの」。これは、黙示録 17:4-5によれば、

「大いなるバビロン、売春婦と地の忌まわしいものの母」によるとされる漏洩です。

「殺人者」は第六戒に違反します。出て、「殺人者」。ダニエル書 11:34によれば、この殺人は「偽善者」たちのカトリック信仰とプロテスタント信仰に起因するとされています。

「節度のない人」は、行動を変えて悪を克服することができます。

「恥知らずな者」から出てください。しかし、

「売春婦」と比較されたカトリック信仰に起因する精神的な「不潔さ」は、カトリックにとって天国への扉を完全に閉ざしています。さらに神は、霊的な「姦淫」

、つまり悪魔との取引につながる彼女の「不貞」を非難します。

「魔術師」とは、カトリックの司祭およびプロテスタントの悪魔的心霊主義の信者です。出て、「魔術師」。この行為は黙示録 18:23の「大いなるバビロン」によるものとされています。

「偶像崇拜者」はまた、カトリック信仰、その彫刻された偶像を崇拜と祈りの対象として指定します。出口、「偶像崇拜者」。そして最後にイエスは、ヨハネ

8章44節によれば、霊的な父として「初めから嘘つきであり殺人者であり、嘘の父である悪魔」を持つ「嘘つきたち」を挙げられます。

「嘘つき」を終了します。

9節：「すると、最後の七つの災いを収めた七つの小瓶を持った七人の天使のうち一人がやって来て、私にこう言いました、「さあ、小羊の妻である花嫁を見せましょう」。」

この聖句では、御霊は神の「最後の七つの災い」の悲劇的で恐ろしい時代を勝利を収めて乗り越える選ばれた人々に励ましのメッセージを送っています。彼らの報酬は、罪の国のこの最後の歴史的段階において、「

花嫁、子羊の妻」イエス・キリストを構成し、代表する勝利した選ばれた者たちに残された栄光を見ること（「私はあなたに見せます」）です。..

「最後の七つの災いが入った七つの小瓶を持った七人の天使」は、前の節で引用した偽キリスト教の基準を満たす人間をターゲットにしています。これらの「最後の七つの災い」は、神が間もなく崩壊した陣営に与えることになる部分でした。彼はこれから、勝利を収めて救われた選ばれた者に与えられる部分を、象徴的な映像で私たちに示してくださるでしょう。神が彼らに対して抱いている感情を明らかにする象徴として、天使は選ばれた人々の集会を集合的に「子羊の花嫁」と表現します。御霊は、「小羊の妻」と特定することによって、エペソ人への手紙 5 章 22 節から 32

節で与えられた教えを裏付けています。使徒パウロは、理想的な夫婦関係について述べていますが、残念ながら、その関係は、選ばれた者とキリストとの関係においてのみ実現されます。

。そして私たちは、すべての生命の創造者であり、その完璧な価値観の輝かしい発明者である生ける神の御霊によって与えられたこの教訓に照らして、創世記の物語を読み直すことを学ばなければなりません。

「女性」という言葉は、キリストの「花嫁」、「選ばれた者」と黙示録 12 章に示されている「女性」のイメージを結びつけます。

栄光に選ばれた者の概要

10節：「そして、彼は私を霊のまま大きく高い山に連れて行きました。そして彼は、神の栄光を受けて神のもとから天から下りてきた聖都エルサレムを私に見せてくれました。」

7千年紀の「千年」の天の裁きの後にイエス・キリストとその選ばれた人々が天から降臨する瞬間に連れて行かれます。黙示録 14:1 では、キリスト教の霊的「十二部族」のうち「封印された」アドベンチストの「144,000 人」が「シオンの山」に示されています。

「千年」を経て、預言されたことは「新しい地」の現実として成就します。イエス・キリストの再臨以来、選ばれた人々は神から永遠とされた栄光の天体を受け取りました。したがって、それらは「神の栄光」を反映しています。この変化は使徒パウロによって第一コリント 15 章 40 節から 44 節で次のように宣言されています。しかし、天体の明るさは異なり、地球の明るさは異なります。一つは太陽の明るさ、もう一つは月の明るさ、そしてもう一つは星の明るさです。星であっても、他の星とは明るさが異なります。死者の復活も同様です。体には腐敗しやすいものが蒔かれています。彼は朽ちることなく立ち上がる。それは卑劣な種を蒔かれ、それは栄光に輝きます。彼は弱りながら蒔かれ、力に満ちて立ち上がる。彼は動物の体として蒔かれ、霊的な体として復活します。動物の体があるなら、霊的な体もある。」

節「その輝きは、非常に貴重な石、水晶のように透明な碧玉のようなものでした。」

前の聖句で引用されているように、「碧玉の石」は黙示録4:3の「王座に座っておられる方」の側面も示しているため、それを特徴づける「神の栄光」が確認されます。黙示録 4章では、裁きの文脈において、神を象徴するこの「碧玉の石」が「サードニクス」の外観を持っているため、この 2つの聖句の間に違いが見られます。ここでは、罪の問題が解決され、選ばれし者は「水晶のように透明な」完全な純粹さの姿を現します。

12節：「そこには大きくて高い壁があった。そこには12の扉があり、その扉には12人の天使と、イスラエルの子らの12部族の名前が書かれていました。」

イエス・キリストの御霊によって提案されたイメージは、「**神殿**」の象徴性に基づいています。エペソ 2:20 から 22で言及されている「**聖なる**」**霊的な言葉**。彼の中で、建物全体がうまく調整されて、主にある**聖なる神殿として立ち上がります**。あなたも彼の内に、御霊における神の住まいとして建てられつつあります。

しかし、この定義は使徒時代の選民にのみ関係していました。「高い壁」は、1830 年から 1843年までのキリスト教信仰の進化をイメージしています。この日まで、使徒たちが理解し、教えた真理の基準は変わっていないことに注意してください。これが、321年に制定された安息日の変更が、イエス・キリストの血によって神と結ばれた神聖な契約を**破ることになる理由です**。この預言の啓示の真の受信者に関しては、1843年以來神によって定められたアドベンチストの信仰をイメージするシンボルは、「フィラデルフィア」の選出された役人の前に「開いた」「12の扉」によってイメージされています（黙示録3 : 7）そして、「サルディス」の倒れた「生ける死者」の前で「閉じられ」ました（黙示録3:1）。彼らは黙示録 7 章で「**神の印章で封印された 12部族の名前を持っている**」。

13節「東に三つの門、北に三つの門、南に三つの門、西に三つの門。」

4

つの基本点に対する「ドア」のこの方向は、その普遍的な性質を示しています。これは、ギリシャ語の語源「カトリコス」または「カトリック」によって翻訳される普遍主義を主張する宗教を非難し、非合法化します。したがって、1843年以來、神にとってアドベンティズムは、地球上の人々を教えるという普遍的な使命のために神が「**永遠の福音**」(黙示録14:6)を託した**唯一のキリスト教宗教です**。彼が世界の終わりまで霊的に選ばれた者たちに明かす**真実を除けば、救いはありません**。アドベンチズムは、1843

年の春に初めて予想されたイエス・キリストの再臨の発表によって動機付けられた宗教復興運動の形で生まれました。そして、2030年の春に予定されているイエス・キリストの真の最終再臨まで、この性格を維持しなければなりません。「運動」は絶えず進化する活動であるため、そうでなければそれはもはや「運動」ではなく、「ブロックされた」死んだ制度です。伝統と宗教的形式主義を支持します。あるいは、神が憎み非難するすべてのもの。そして反抗的なユダヤ人、つまり最初の不信者の間ですでに非難されています。

時系列で詳しく解説

キリスト教の信仰の基本

14節：「都の城壁には十二の土台があり、その上には子羊の十二使徒の十二の名前が刻まれていました。」

この聖句は、これまで見てきたように、30年から1843年までの期間をカバーし、その教えは321年と538年にローマによって歪曲された使徒的キリスト教の信仰をイメージしています。「高い壁」は何世紀にもわたる議会によって形成されています。1ピエ

2:4-5によると「生きた石」のこと。そしてあなた自身も、生きた石として、イエス・キリストを通して神に受け入れられる霊的な犠牲者を提供するために、霊的な家、聖なる神権を形成するために自分自身を築き上げてください。

15節：「私に話しかけた人は、町とその門と城壁を測るための物差しとして金の葦を持っていました。」

栄光に満ちた選民の価値、アドベンチスト時代（12の門）、そして使徒の信仰（土台と城壁）について「測定する」か、あるいは判断を下すかという問題です。

）。黙示録 11 章 1節の「葦」が懲罰の道具である「棒のようなもの」であるとすれば、その逆で、この節の「葦」は「金の葦」です。ペテロ第一1章7節によると、「金」は「試練によって清められた信仰」の象徴です。「朽ちる金（ただし、火で試される）よりも貴重な信仰の試みが、賞賛をもたらすためです。イエス・キリストが現れるとき、栄光と名誉が与えられます。したがって、信仰は神の裁きの基準となります。

16節「その町は正方形で、その長さは幅と同じでした。彼は葦で都市を測ったところ、一万二千スタディアであった。長さ、幅、高さは同じでした。」

「正方形」は表面積においては完璧な理想的な形状です。それはもともと、モーセの時代に建てられた幕屋の「至聖所」または「至聖所」の側面に見られました。

「正方形」の形は知的関与の証拠であり、自然には完璧な「正方形」は存在しません。神の知性は、3

つの「正方形」を並べて形成されたヘブライ語の聖域の寸法に現れます。2つは「聖所」に使用され、3つ目は「至聖所の聖所」または「最も聖なる場所」に使用されました。そこはもっぱら神の臨在のために予約されていたため、罪のイメージである「ベール」によって隔てられていました。イエスはその時に償ってくださるでしょう。この3分の3という割合は、神が計画された救いのプロジェクトにおける選民の選択に費やされた6000年、または2000年の3倍を表したものでした。この選択の終わりに、選ばれた者たちは、救いのプロジェクトの結果を預言した「最も聖なる場所」の「広場」によってイメージされます。キリストにおける契約によってもたらされた和解のおかげで、この霊的な場所にアクセスできるようになりました。そして、このように説明された神殿の霊的な「広場」は、救い主イエス・キリストの自発的な贖いの死によって救いが始まった30年4月3日にその基礎が築かれました。

「正方形」のイメージだけでは、この真の完璧の定義を完璧にするのに十分ではありません。その象徴的な数字は「3」です。そして、私たちに提示されるのは「立方体」のそれです。

「長さ、幅、高さ」が同じであるため、今度は、イエス・キリストによって救われた選ばれた者の集まりの、完全な「立方体」の完璧さを表す「3」のシンボルが表示されます。

2030年には、「正方形の都市（さらには立方体であり、その高さ）、その基礎、そして12の門」の建設が完了します。聖霊は、それに立方体の形を与えることによって、大勢がそれに与えている「都市」の文字通りの解釈を禁止します。

12,000 スタディア」という数字は、Rev.7 の「12,000 シール」と同じ意味を持ちます。注意: $5 + 7 \times 1000$ 、つまり人間 (5) + 神 (7) \times 多数 (1000) です。「競技場」という言葉は、フィリピ 3:14 のパウロの教えによれば、「天からの召しの賞を勝ち取る」ことを目標とするレースへの参加を示唆しています。イエス・キリストにおける神の天からの召命。

» ;
1コリント9:24にはこう書かれています。「**競技場**で走る人は皆走って、賞を得るのは一人だけだということを知らないのですか。勝つために走ってください。」

»
勝利した選ばれし者は立候補し、イエス・キリストにおいて神から与えられた賞を獲得しました。

21節:「そして彼が壁を測ったところ、百四十四キュビトであった。これは人間の尺度であり、それは天使の尺度であった。」

「キュビト」の背後で、神は私たちに裁きを明らかにし、神と同盟を結んだのは数字「5」で象徴される人間だけであることを明らかにしています、その数字は「7」です。これら 2

つの数字の合計は「12」となり、「二乗」すると「144」という数字になります。正確な「人間の尺度」は、イエス・キリストによって流された血によって贖われた、選ばれた「人間」の裁きを裏付けるものです。したがって、「12」という数字は、神と締結された聖なる同盟のプロジェクトのすべての段階に存在します。12人のヘブライ族の族長、12人のイエス・キリストの使徒、そして1843年から1844年にかけて確立されたアドベンチストの信仰をイメージする12の部族です。

18

節「城壁は碧玉でできており、街は純金で、まるで純度の高いガラスでした。」

これらのシンボルを通して、神は 1843年までご自分の選ばれた人々が示した信仰に対する感謝を明らかにしています。彼らには光がほとんどなかったことがよくありましたが、神への彼らの証しがそれを補い、愛で満たされました。この聖句の「純金と純ガラス」は彼らの魂の純粋さを表しています。彼らは、イエス・キリストを通して明らかにされた神の約束を信頼するために、しばしば自分の命を捨ててきました。彼に寄せられた信頼は裏切られることはなく、彼自身が2030年の春に彼らを真の「キリストにある死者」の「最初の復活」に迎えるだろう。

使徒財団

19

節「都の城壁の基礎はあらゆる種類の宝石で飾られていました。最初の基礎は碧玉、二番目はサファイア、三番目は玉髄、四番目はエメラルドでした。」

20節：「サードニクスの5番目、サードニクスの6番目、クリソライトの7番目、ベリルの8番目、トパーズの9番目、クリソプレーズの10番目、ヒヤシンスの11番目、アメジストの12番目。」

神は、宝石をカットしたり磨いたりするとき、その美しさを賞賛する人間の思いや感情をご存知です。これらのものを手に入れるために、身を滅ぼしてまで大金を費やす人もいますが、それがそれらに対する愛情なのです。同じ過程で、神はこの人間の感情を用いて、ご自分の愛する祝福された選民に対する感情を表現されます。

これらのさまざまな「宝石」は、選ばれたものが同一のクローンではないことを私たちに教えてくれます。なぜなら、各人は明らかに物理的レベルで、しかし特に精神的レベル、性格のレベルで独自の個性を持っているからです。イエスの「十二使徒」が挙げた例は、この考えを裏付けています。ジャンとピエールの間には、なんと大きな違いがあるのでしょうか！しかし、イエスは、違いを含めて彼らを愛されました。神によって創造された人生の真の豊かさは、心と魂のすべてにおいて神を第一に考えることができる多様な個性の中にあります。

アドベンチズム

21節：「十二の門は十二の真珠でした。それぞれのドアは一粒の真珠でできていました。街の広場は透明なガラスのような純金でした。」

1843年以来、選ばれた人々は救い主判事の裁きにおいて先任者以上の信仰を示していない。

「一粒の真珠」のシンボルは、祝福されたアドベンティズムが神の救いの計画を完全に理解できるようになったことによるものです。神にとって、1843年以来、選ばれたアドベンチスト派の選ばれた人々は、神の光をすべて受け取るにふさわしい者であることを示してきました。しかし、これは継続的な成長の中で実現され、最後の完全な形の預言的説明を受け取るのは、最後の反体制派アドベンチストだけです。私が言いたいのは、最後に選ばれたアドベンチスト派は、使徒時代から救われた他のアドベンチスト派よりも価値があるわけではないということです。

「真珠」は、神によって始められた救いのプロジェクトの頂点を示します。それは、ローマ教皇によるカトリック信仰と背教に陥ったプロテスタント信仰によって歪められ、攻撃されたすべての教義の真理を回復することからなる、具体的な経験を明らかにしています。そして最後に、それは神が1843年春のダニエル書8章14節の法令の適用開始に非常に重要であることを私たちに明らかにしています。「夕方二千三百まで、聖性は正当化されるであろう」。

「真珠」はこの「正当化された神聖性」のイメージであり、他の宝石とは異なり、その美しさを明らかにするためにカットしてはならないものです。この最後の文脈では、聖別された選民の集会は調和がとれていて、黙示録

14:5
によれば「とがめられない」ように見え、神にふさわしいすべての栄光を神に与えています。預言的な安息日と、それによって預言された第7千年紀は一体となり、偉大な創造主である神によって構想された救いの計画の完全性によって達成されます。マタイ 13:45-46
の彼の「高価な真珠」は、彼が与えたかったすべての輝きを表現しています。

新しいエルサレムの大きな変化

聖霊は次のように述べています。「町の広場は、透明なガラスのような純金でできていました。」

この「純金の場所」または純粋な信仰を引用することによって、彼は黙示録 11:8
で「ソドムとエジプト」という名前を受け取り、罪のイメージを帯びたパリの場所との比較を示唆しています。

22節：「市内には神殿は見当たりませんでした。全能の神、主が小羊と同様に彼の神殿だからである。」

象徴の時代は過ぎ、選ばれた者たちは神の救いのプロジェクトの真の達成に着手しました。今日地上で私たちが理解しているように、集まりの「神殿」はもはや何の役にも立たないでしょう。永遠と現実に入ると、コロサイ 2:16-17 に預言されている「影」が無用になります。：それは来るべきものの影でしたが、体はキリストのうちにあります。」
注意

！この節の「安息日の」という表現は、宗教的な祭りによって開催される「安息日」に関するものであり、世界の創造から 7 日目に神によって定められ神聖化された「毎週の安息日」ではありません。キリストの初臨によって、古い契約でキリストを預言していた祝祭の儀式が無価値になったのと同じように、永遠の到来によって地上の象徴は時代遅れとなり、選ばれた者たちが「子羊よ、イエス・キリストよ、その者よ」を見聞きし従うことができるようになるだろう。真の神聖な「神殿」は、永遠に創造的な霊の目に見える表現となるでしょう。

23節：「街を照らすのに太陽も月も必要ありません。神の栄光が彼を照らし、小羊が彼の灯火だからである。」

神聖な永遠において、選ばれた者たちは、現在の太陽のような光源のない永久的な光の中で生きており、その存在は「昼と夜」の交替によってのみ正当化される。

「夜または暗闇」は罪のために正当化されます。罪が解決され消えたので、創世記 1 章 4 節で神が「良い」と宣言された「光」が入る余地だけが残されています。

神の霊は目に見えないままであり、イエス・キリストはその被造物たちが見ることができる側面です。このような理由から、彼は目に見えない神の「たいまつ」として示されています。

しかし、霊的な解釈によって大きな変化が明らかになります。天国に入ると、選ばれた人々はイエスによって直接教えられるでしょう。そのとき、彼らはもはや新しい同盟の象徴である「太陽」も、古いユダヤ同盟の象徴である「月」も必要なくなります。聖書の黙示録 11 章 3 節によると、どちらも聖書の神の「二人の証人」であり、神の救いの計画を発見し理解する際に人々を啓発するのに役立ちます。要約すると、選民はもはや聖書を必要としなくなる。

24節「諸国民はその光の中を歩み、地の王たちはその光の中に栄光をもたらずでしょう。」

「国家」とは、天的な、または天的となった「国家」です。

「新しい地」は新しい神の王国でもあり、あらゆる生き物が創造主である神を見つけることができるのです。選ばれた者を構成する「地の王たち」は、「新しい地」に据えられたこの永遠の命の中で、魂の純粹さの「栄光をもたらず」でしょう。この「地の王たち」という表現は、ほとんどの場

合、反抗的な地上の権威を軽蔑的にターゲットにしていますが、黙示録 4 章 4 節と 20 章 4 節では、微妙な方法で選ばれた人々を指しており、彼らは「玉座」に「座っている」と示されています。同様に、黙示録 5 章 10 節には、「あなたは彼らを私たちの神の王国および祭司とされました。そして彼らは地上で統治するでしょう。」とあります。

25節：「そこには夜がないので、彼女の門は日中閉ざされてはなりません。」

このメッセージは、現在の不安が解消されることを強調しています。終わりのない永遠の日の光の下では、平和と安全が完全になります。生命の歴史の中で、神の「光」と悪魔の陣営の「闇」の戦いによって、地球上にのみ闇のイメージが生み出されました。

26節「諸国民の栄光と栄誉がそこにもたらされる。」

6000年にわたり、人類は自らを部族、民族、国家に組織してきました。キリスト教時代、西洋では人々が王国を国家に変え、イエス・キリストにおいて神に与えた「栄光と名誉」を理由にキリスト教徒の選民がその中から選ばれました。

27節：「汚れたものが彼女の中に入ってはならず、また、忌まわしいことや偽りを行う者も入ってはならない。小羊のいのちの書に記されている者だけが入ることができる。」

神はそれを確認しており、救いは神の側の大きな要求の主題です。永遠の命に選ばれるのは、神聖な真理への愛を示す完全に純粋な魂だけです。聖霊は再び、黙示録3章4節の「サルデス」のメッセージにおける墮落したプロテスタントの信仰を指す「汚れた」ものと、その信者が「忌まわしい行為と宗教的および社会的嘘に身を委ねる」カトリックの信仰に対する拒否を新たにします。

。なぜなら、神に属さない人々は、悪魔とその悪霊に操られることを許してしまうからです。

もう一度御霊が私たちに思い出させますが、驚くべきことは人間だけのものです。なぜなら神は世界の創世以来、ご自分の選ばれた人々の名前を「命の書に書かれている」から知っているからです。そして神は「子羊のいのちの書に」と明記することによって、キリスト教以外の宗教をご自身の救いの計画から除外されます。ヨハネの黙示録で偽りのキリスト教宗教の排除を明らかにしたので、イエスがマタイ 7:13-14 で次のように宣言されたように、救いへの道は「狭くて狭い」ように見えます。滅びに至る門は広く、その道も広く、そこから入る者が多いからである。しかし、いのちに至る門も道も狭く、それを見つける人はほとんどいません。」

黙示録 22: 終わりのない永遠の日

神の選択による地上の時間の完成は、Apo.21: 7 x 3
で終わりました。22

という数字は、本書ではそのエピローグを構成していますが、逆説的に歴史の始まりを示しています。神によれば、この刷新は「すべて」に関係しており、どちらも永遠である「新しい地と新しい天」に結びついています。

1節：「そして彼は、神と小羊の御座から流れ出る、水晶のように澄んだ命の水の川を見せてくれました。」

「命の水の川」によってイメージされる永遠となった選民の集會が創造物であり、その臨在が目に見えるキリストにおいて靈的に再創造された神の御業であることを私たちに思い出させます。彼の「王位」によって示唆されています。そしてこれは、

「子羊」イエス・キリストの犠牲によってです。永遠とは、この犠牲が選ばれた者たちに生み出した新たな誕生の果実である。

「川」は大量の淡水の流れです。彼は、自分と同じように絶えず活動している生命をイメージしています。淡水は私たちの地上の人間の体の75%を占めています。これは、真水が彼にとって不可欠であることを意味し、これが、神が永遠の命を得るために不可欠であるのと同様に、神の言葉をアポ書 7:17 によれば「命の水の源」と比較する理由です。エレミヤ 2:13 によると「生きた水の源」。彼の黙示録では、黙示録 17:15

で「水」が「人々」を象徴していることが分かりました。ここでの「川」は、救われた選ばれた者が永遠になることの象徴です。

2節：「市の広場の真ん中と川の両岸に命の木があり、12回実を結び、毎月実を結び、その葉は諸国民の癒しのためでした。」

この
2
番目のイメージでは、イエス・キリストである「生命の木」が、集会の「広場」で彼の周りに集まった選出された人々の「真ん中」に見られます。彼は彼らの「真ん中」にいただけでなく、「川の両岸」で表される彼らの側にもいます。イエス・キリストの神聖な霊が遍在しているからです。どこにでも、誰の中にでも存在します。この「木」の果実は「命」であり、地上の一年の「12か月」ごとに「その果実」が得られるので、絶えず更新されます。これも永遠の命の美しい絵であり、それが神の意志によって永遠に保たれていることを思い出させます。

イエスはよく人間を果物の「木」に例え、「私たちはその実によって判断する」のです。彼は、創世記 2 章 9 節の初めから、「生命の木」の象徴的なイメージを自分自身に帰しました。しかし、木は「葉」の装飾を「衣服」として持っています。イエスにとって、彼の「衣」は彼の義なる行いを象徴し、したがってイエスに救いの義務がある選ばれた人々の罪からの救いを象徴しています。したがって、「木」の「葉」が病気を治すのと同じように、イエス・キリストによって達成された義の業は、アダムとイブ以来、木の「葉」を使って肉体を覆い続けた選民が受け継いできた原罪という致命的な病気を「治す」のです。そして罪の経験によって発見された霊的な裸体。

3 節：
「もはや呪われることはありません。神と小羊の御座は都市にあります。彼の家臣たちは彼に仕え、彼の顔を見るでしょう。」

この聖句から、聖霊は自らを未来形で表現し、キリストが再臨して罪が地上から除去されるまで、悪とその結果と闘わなければならない選ばれた人々に励ましの意味をメッセージに与えています。

それは、神を人間の目に見えなくしたイブとアダムが犯した罪の呪い「アナテマ」である。古い契約によるイスラエルの創造は何も変わっていませんでした。罪が依然として神を見えなくしていたからです。彼は依然として、日中は雲のように見え、夜になると華やかになるために隠れなければなりません。聖域の最も神聖な場所は、犯罪者には死刑が科せられ、彼専用で確保されていた。しかし、こうした地上の状況はもうありません。新しい地では、神はすべての僕たちに見えます。彼らがどのような奉仕をするのかはまだ謎のままですが、使徒たちがイエス・キリストと肩をこすり合わせ、会話するように、彼らは神と接触するでしょう。面と向かって。

4節：「そして彼の名は彼らの額に刻まれるでしょう。」

神の御名は、真の「生ける神の印」を構成します。安息日の休息は、このことの外的な「しるし」にすぎません。なぜなら、神の「名前」は神の性格を示しており、それは「ライオン、子牛、人間、鷲」という「四匹の動物」の顔によって象徴されており、神の性格の調和のとれたコントラストを完璧に示しているからです。

王族で強いが、犠牲をいとわない、外見は人間的だが性質は天性。イエスの言葉は成就しました。同じような者が集まる。また、神の価値観を共有する人々は、永遠の命のために神によって選ばれ、神のもとに集められています。

「額」には人間の脳があり、思考と人格の運動中枢が置かれています。そして、この生き生きとした脳は、神が脳を救うために提示した真理の基準を研究し、反映し、承認または拒否します。選ばれた人々の頭脳は、神がイエス・キリストにおいて組織した愛の実証を愛し、確立された規則に従って、神の助けを得て悪を克服し、神とともに生きる権利を獲得するために戦った。

最終的には、イエス・キリストによって明らかにされた神の性質を共有する人は皆、永遠に神とともに仕えることとなります。

「彼らの額に書かれた」神の「名前」の存在が彼らの勝利を説明しています。そしてこれは特に、アドベンチスト信仰の最後の試練において、人々は「自分の額」、「神の名」、あるいは反抗的な「獣」の名前を刻むかどうかを選択することができました。

5節：「もう夜はありません。主なる神が彼らに光を与えてくださるので、彼らにはランプも光も必要ありません。そして彼らは永遠に統治するでしょう。」

創世記

1

章

5

節によれば、「夜」という言葉の背後には、罪と悪の象徴である「闇」という言葉が存在します。

「ランプ」は聖書を指します。聖書は、「神の光」、つまり善と善の基準を明らかにする神の聖なる言葉です。それはもはや役に立たなくなり、選ばれた人々はその神聖なインスピレーションに直接アクセスできるようになります。現在、罪の地球上で、それだけで永遠の命につながる重要な「照らす」役割を保持しています。

6節：「そして彼は私に言った、「この言葉は確かで真実です。」そして預言者の霊の神である主は、何がすぐに起こらなければならないかをご自分の僕たちに示すために天使を遣わされました。」。

私たちは二度目に、「これらの言葉は確かで真実である」という神聖な断言を見つけます。神は読者に預言を納得させようと努めます。ご自身の選択には永遠の命がかかっているからです。神聖な肯定に直面すると、人間は創造主が与えた五感によって条件付けられます。誘惑は複数あり

、彼を靈性から遠ざけるのに効果的です。したがって、神の主張は完全に正当化されます。魂に対する危険は現実であり、常に存在します。

この預言には珍しい文字通りの特徴が表れているこの聖句の解釈を更新するのは適切です。この聖句には何の象徴もありませんが、神は聖書の本を書いた預言者の靈感であり、最後の啓示としてヨハネに「ガブリエル」を送り、それによってヨハネに次のことを映像で明らかにしたという断言です。

2020

年には、大部分が「速やかに」実現されるか、すでに達成されています

。しかし、2020

年から

2030

年の間に、最も恐ろしい時代を越えなければなりません。死、核による破壊、そして恐ろしい「神の怒りによる最後の七つの災い」によって特徴づけられた恐ろしい時代。人間も自然も消滅するまでひどく苦しむことになるだろう。

7節：「見よ、わたしはすぐに来る。この本の預言の言葉を守る人は幸いです。」

「この本の黙示録の預言の言葉を最後まで「守り続ける」限りにおいてです。

副詞「速やかに」は、時間は加速も減速もせずに規則正しく経過するため、キリストが再臨の際に突然現れることを意味します。ダニエル 8

19

章 19節以来、神は私たちに次のように思い出させています。「終わりには時が定められている」

それが介入できるのは、神が選民を選ぶために計画した6000年の終わり、つまり2030年4月3日より前の立春の日だけである。

8節：「私はヨハネです。これらのことを聞いたり見たりしました。そして、私が聞いたり見たりしたとき、私はそれらを私に示した天使の足もとにひれ伏し、彼を崇拜し、彼の前にひれ伏しました。」

御霊は二度目に来て、私たちに警告を送ります。ギリシャ語の原文では、動詞「proskuneo」は「前にひれ伏す」と訳されています。

「崇拜する」という動詞は、「ウルガタ訳」と呼ばれるラテン語版の名残です。明らかに、この悪い翻訳は、マルコ

11:25

のギリシャ語動詞「イテミ」の別の誤った翻訳のせいで、背教したキリスト教の宗教的実践において、「立って」祈るという点に至るまで、身体的なひれ伏しさを放棄する道を開いたようです。本文中では「stékété」という形は「しっかりし続ける、あるいは耐え忍ぶ」という意味ですが、L.セゴン版で使用されているオルトラマーレ訳では、文字通りの意味で「立っている」を意味する「静止」と訳されています。このように、聖書の誤った翻訳は、真に神聖なものに対する感覚を失った人々の、偉大な創造主である全能者に対するふさわしくない傲慢で法外な態度を、欺瞞的に正当化することになります。そして、これが唯一ではありません...これが、特に黙示録9:11で神が書かれた聖書の「破壊的な」使用（アバドン-

アポリオン) を明らかにしているため、聖書の翻訳に対する私たちの態度が疑い深く慎重でなければならない理由です。

「ヘブライ語とギリシャ語で」。真実はヘブライ語で保存されている原文の中にのみ見出されますが、失われ、新しい契約のギリシャ語の文書に置き換えられました。そしてそこで、「立って」の祈りがプロテスタント信者の間で現れ、

「*という神の言葉の標的となったことを認識しなければなりません。5番目のラッパ。*」なぜなら、逆説的ですが、カトリック教徒の間ではひざまずいて祈りが長く続いています、驚くべきことではありません。なぜなら、悪魔が信者やその犠牲者たちを導き、神の十戒の第二戒で禁じられている彫像の前にひれ伏すのがこのカトリックの宗教だからです。この戒めはカトリック教徒が無視しています。ローマバージョンでは削除され、置き換えられているからです。

9節：「しかし、彼は私に言った、「そんなことをしないように気をつけなさい!」。私はあなたの仲間の僕であり、あなたの兄弟である預言者たち、そしてこの書の言葉を守る者たちの僕です。礼拝神の前にひれ伏しなさい。」

ヨハネが犯した過ちは、神がご自分の選民に向けた警告として提案されたもので、「偶像崇拝に陥らないように気をつけなさい!」というものです。これが、イエス・キリストにおいて神によって拒絶されたキリスト教諸宗教の主な欠点を構成しています。彼は、使徒たちに逮捕の時間の間武器をとるよう命令するという前回のレッスンを構成したのと同じ方法でこの場面を構成しました。いざというとき、彼は彼らにそれを使うことを禁じた。レッスンが行われ、彼女はこう言いました。「そうしないように注意してください。」この節でヨハネは、「私はあなたの仲間の僕です」という説明を受けています。

「ガブリエル」を含む「天使」は、人間と同様、創造主である神の被造物であり、創造主は十戒の第二項で、被造物や彫像、あるいは描かれた像の前にひれ伏すことを禁じています。アイドルが取り得るあらゆる姿。したがって、私たちは天使たちの反対の行動に注目することによってこの聖句から学ぶことができます。ここで、ミカエルに次いで最もふさわしい天上の生き物であるガブリエルは、彼の前にひれ伏すことを禁じています。一方、サタンは、「聖母」を装った魅惑的な姿で、彼女を崇拝し奉仕するための記念碑や礼拝所の建設を要求します...暗闇の光るマスクが落ちます。

天使はさらに、「そしてあなたの兄弟、預言者、そしてこの本の言葉を守る人々のこと」を特定します。この文と黙示録 1 章 3 節の文の間には、解読の始まりである 1980 年と現在のバージョンである 2020 年との間で経過した時間による違いに注目します。これら 2 つの日付の間に、「読む人は」他の神の子たちに解読された光を共有させ、彼らは今度は「預言者」の働きに入った。この増加により、明らかにさ

れた真実を聞き、それを具体的に実践することによって、さらに多くの他の召命された人々が選挙にアクセスできるようになります。

10節：「そして彼は私に言った、「この本の預言の言葉を封印しないでください。」時間が近づいているからです。」

黙示録 1 章 10

節によれば、このメッセージは、この本の冒頭から神が私たちの最後の時代に移送されたヨハネに宛てられたものであるため、誤解を招きます。また、本の文言を封印しないでくださいという命令は、本が完全に解かれた時点で私に直接宛てられたものであることを理解しなければなりません。

それはその後、黙示録 10:5

の「開かれた小さな本」になります。そして、神の助けと許可によってそれが「開かれる」とき、それを「封印」で閉じるという問題はもはやありません。そしてこれは、「その時が近づいているから」です。 2021

年の春、主なる神イエス・キリストの栄光の再来まであと9年あります。

しかし、「小さな本」の最初の公開はダニエル 8:14

の布告の後、つまり 1843 年と 1844

年以降に始まりました。なぜなら、最新のアドベンチスト派の信仰の試みの主題の重要な理解は、イエス・キリストご自身、あるいはその天使が宣教中に私たちの妹のエレン・G・ホワイトに直接与えた啓示によるものだからです。

11

節：「不正な者は再び不正になり、汚れた者は再び汚れるようにしましょう。そして義人はなおも義を實踐し、聖なる者はなお自らを聖別しなさい。」

最初に読むと、この聖句はダニエル 8:14

の法令の適用の開始を確認します。

1843年から1844年にかけて神によって選ばれたアドベンチスト派の分離は、「サルディス」のメッセージを裏付けるものであり、プロテスタントは「生きている」が霊的には「死んで」おり、霊的には「汚されている」ことがわかり、アドベンチストの先駆者たちはこの聖句で「白人にふさわしい」と呼びかけられている。義と聖化」。しかし、「小さな本」の冒頭は

、「夜明けから頂点まで、日の光のように成長し続ける義人の道」のように進歩的です。そして、「第5のラッパ」の研究が私たちに明らかにしたように、先駆的なアドベンチスト派は、1991年から1994年の間に信仰の試みが彼らをふるいにかけることになるとは知りませんでした。その結果、この聖句の別の読み方も可能になります。

黙示録 7 章 3

節に次のように記されているように、封印の時は間もなく終わります。」

土地、海、木々に害を及ぼす許可をどこに置くべきですか? 2

つの可能性が存在します。

「第六のラッパ」の前ですか、それとも「最後の七つの災い」の前ですか？

「第六のラッパ」は、神が地上の罪人に与えた第六の警告懲罰を構成しており、この場合、第二の可能性を保持するのが論理的であると私には思われます。なぜなら、「神の怒りによる最後の七つの災い」は、プロテスタントの「大地」とカトリックの「海」を標的にしているからです。

「第六のラッパ」によって達成された破壊は、イエス・キリストの血によって贖われた召された選民の回心を妨げるものではなく、促進するものであることを考えてみましょう。

したがって、「第六のラッパ」の後、「最後の7つの災い」の直前、そして集団的および個人的な恵みの時代の終わりを示す封印の停止の時に、私たちはまだそこからの言葉を置くことができます。この聖句は次のとおりです。「不正な者は再び不正になり、汚れた者は再び汚れるようにしましょう。そして義人はなおも義を實踐し、聖なる者はなお自らを聖別しなさい。」
» 誰もがここで、ダニエル 8 章 14 節である「アドベンチスト」の基本的な聖句に対して私が提示した良い翻訳を御霊がこの聖句でどのように確認するかを見ることができるでしょう。

「義と聖」という言葉は強く支持されており、したがって神によって確証されています。したがって、このメッセージは猶予期間の終了時期を予測していますが、別の説明は次のとおりです。本の終わりに達すると、完全に解読された本が「開かれた小さな本」になる時を聖霊はターゲットにしており、この瞬間から、それを受け入れるか拒否するかが「正しい者と自分を汚す者」の違いを生みます。そして私たちの主は「聖人に自分自身をさらに聖化する」よう勧めておられます。

「サルデス」メッセージの中で「穢れ」がプロテスタントに起因するとされたことを再び思い出します。御霊はその言葉でこのプロテスタントと、エキュメニカル同盟に参加してプロテスタントに加わった1994年以来その呪いを共有してきた制度的なアドベンティズムをターゲットにしています。したがって、この本の解読されたメッセージを受け入れることは、マル 3:18

によれば、「もう一度、しかし最後に、神に仕える人と仕えない人の違いを生む」でしょう。

そこでこの聖句の教訓を要約します。第一に、この文書は、1843年から1844年にかけてアドベンチストがプロテスタントから分離したことを確認している。第二読目では、1994年以降にプロテスタントとエキュメニカルの同盟に戻った公式のアドベンチストに対して適用される。そして私は、アドベンチストの時代の終わりに適用される第三読本を提案する。イエス・キリストの再臨前の2029年の恵みは、2030年の過ぎ越しの祭りの4月3日の前に来る春の始まりに固定されています。

を経て、イエス・キリストがラオデキアに宛てたメッセージの中でアドベンティズムを「吐露」させた制度的アドベンティズムの崩壊の原因は、1994年の彼の再臨を信じることを拒否したことではなく、ダニエル 8:14

の真の翻訳を照らすようになった光の貢献を考慮することを拒否したこと。この光は、ヘブライ語聖書の原文そのものによって、議論の余地のない方法で示されています。この罪を非難できるのは、有罪を無罪とは考えない正義の神だけです。

12節：「見よ、わたしは急いで来ます。わたしの報酬はわたしとともにあり、すべての人にその働きに応じて与えるものです。」

9年後、イエスは言葉では言い表せない神の栄光のうちに戻って来られます。黙示録 16 章から 20 章で、神は不当で不寛容な反抗的なカトリック教徒、プロテスタント教徒、アドベンチスト教会の罪人に対して留保される神の報復の性質を私たちに明らかにされました。また、イエスは、忠実を保ち、預言の言葉と聖なる七日目の安息日を守る、選出されたアドベンチストのために取っておかれた分を黙示録 7 章、14 章、21 章、22 章で私たちに提示されました。

「神の働き」とは何なのか、罪を犯した者がキリストの目に自分を正当化する余地はほとんどありません。過去の選択の誤りを変えるには手遅れになるため、自己正当化する言葉は役に立たなくなります。

13節：「私はアルファでありオメガであり、最初であり最後であり、始まりであり終わりです。」

始まりがあるものには終わりもあります。この原則は、神が選ばれた者を選ぶために与えられた地上の時間の長さに当てはまります。アルファとオメガの間には6000年が経過します。西暦30年4月3日、イエス・キリストの自発的な償いの死は、2000年にわたるキリスト教同盟のアルファタイムをマークすることになる。2030年の春は、本格的なオメガタイムを迎えます。

しかし、アルファは 1844 年であり、そのオメガは 1994 年です。そして最後に、アルファは私と最後に選出された役人のためのものであり、1995年とそのオメガは2030年です。

14

節「神の戒めを守る人は幸いです（そうでない人は幸いです）」
~~ローブを洗ってください~~

、命の木への権利、そして門を通過して街に入る権利を得るために！」

「大患難」の第二の形態は、多数の死を伴う当然の結果として私たちの前にあります。したがって、イエス・キリストを通して神の保護と助けを得ることが緊急に必要になります。画像が示すように、罪人は「戒めを守らなければなりません」

；神のものと、「神の子羊」であるイエスのそれは、罪がとり得るあらゆる形を放棄しなければならないことを意味します。現在の聖書に保存さ

れているこの聖句のベールに包まれた翻訳は、バチカン主導のローマカトリック教によるものです。他の写本は最も古く、したがってより忠実であるが、「戒めを守る者は幸いである」と提案している。そして、罪は法律の違反であるため、そのメッセージは歪曲され、必要不可欠な従順をキリスト教徒への帰属の単純な主張に置き換えています。犯罪によって誰が利益を得るのでしょうか？イエス・キリストの栄光の再臨まで安息日を戦う人々へ。本当のメッセージは次のように要約されます。「創造者に従う者は幸いである。」このメッセージは、黙示録 12:17 と 14:12 で引用されている内容、つまり「神の戒めとイエスの信仰を守る者たち」を繰り返しているだけです。彼らはイエスが送った最後のメッセージの受信者です。得られた結果を判断するのはイエス・キリストご自身であり、イエス・キリストの要求は殉教の際に受けた苦しみと同等です。選ばれた人には非常に大きな報酬が与えられます。彼らは不死を獲得し、象徴的な「新しいエルサレム」の「12の門」に象徴されるアドベンチストの道を通して永遠の命に入ります。

15節：「犬、魔術師、売春婦、殺人者、偶像崇拜者、そして嘘を愛し、それを実践するすべての人たちと出て行け！」

イエスがこのように名付けた人々とは誰でしょうか。この隠された告発は、背教したキリスト教信仰全体に関係しています。カトリック信仰、1994年以来同盟を結んだアドベンチスト信仰を含む多様なプロテスタント信仰。アドベンチスト派の信仰は、その生涯の初めに彼によって非常に豊かに祝福されましたが、解散を余儀なくされた彼の最後の代表者に関してはさらに祝福されました。

「犬」は異教徒であるだけでなく、何よりも彼の兄弟であると主張し、彼を裏切る人々でもあります。この「犬」という用語は、逆説的ですが、現代の西洋人にとっては忠誠の象徴として捉えられている動物ですが、東洋人にとってはまさに排泄のイメージです。そしてここで、イエスは彼らの人間性にさえ異議を唱え、彼らを信頼できない動物であるとみなしています。他の条項もこの判断を裏付けています。イエスは黙示録 21:8 で述べられた言葉を確認しており、ここで「犬」という用語を追加することでイエスの個人的な判断を表しています。彼が人々に与えた崇高な愛の証明の後、彼と彼の犠牲に属すると主張する人々によって裏切られることほど恐ろしいことはありません。

そして、イエスは彼らを「魔術師」と呼びました。これは、彼らが悪い天使と取引したこと、スピリチュアリズムが最初に「聖母マリア」の出現によってカトリック信仰を誘惑したこと、聖書的には不可能なことだったためです。しかし、悪霊たちが行った奇跡は、ファラオの「魔術師」がモーセとアロンの前で行ったものと似ています。

「不貞」と呼ぶことで、道徳の解放、特に神の預言者によって悪魔のしもべとして非難されたカトリック信仰とプロテスタント教会が結ぶ不自

然な宗教的同盟を非難した。彼らは、黙示録 17:5
で非難されている「売春婦の母親である大いなるバビロン」の「淫行」を
「娘として」再現しています。

背教者は「殺人者」でもあり、イエスはその輝かしい降臨によって
彼らを阻止するために介入しなければ、イエスの選民を殺す準備をするで
しょう。

彼らは「偶像崇拜者」です。なぜなら、彼は霊的な生活よりも物質
的な生活に興味を持っているからです。神が彼らに光を差し伸べても、彼
らは無関心なままであり、彼らは神の真の使者を悪者にすることで厚かま
しくも拒否します。

そしてこの聖句を締めくくるために、彼は次のように述べています
。 》
そうすることで、彼は、本質的に嘘に執着する人々を、真実に対してまっ
たく鈍感であるという点まで非難します。味や色については議論できない
とされています。それは真実を愛することも嘘を愛することも同じです
。しかし、神は永遠にわたって、人間の生殖によって生み出される被造物
の中で、この真理への愛を持つ者だけを選びます。

神の救いの計画の最終的な結末は恐ろしいものです。次々に追い出
されるのは、古代の頑固な悔い改めない罪人たち、古代の不信仰なユダヤ
人同盟、忌まわしいローマ教皇のカトリック信仰、偶像崇拜の正教信仰、
カルビン主義プロテスタント信仰、そして最後に、制度的なアドベンチス
ト信仰であり、神の精神の最後の犠牲者である。以前のものも同様に支持
されてきたという伝統。

ダニエル書 9:24 から 27
で告げられたメシアの初臨を信じることを拒否したために墮落したユダヤ
人にとって致命的な結果をもたらしました。第二に、全員が同じ意見を持
つイエスによって追い出されたクリスチャンたちです。再臨を告げる最新
の「アドベンチスト」メッセージに無関心を示した罪悪感。真実に対する
愛の欠如は彼らにとって致命的です。

2020年現在、これらの主要な公認宗教はすべて、イエスが1843年に黙示録
3章1節で「サルディス」時代のプロテスタントに向けて語ったこの恐ろし
いメッセージを共有しています。「あなた方は生きていると言われている
が、あなた方は死んでいる」。

16節：「私、イエスは、教会でこれらのことをあなたに証言するた
めに天使を送りました。私はダビデの根であり種であり、明るい明けの明
星です。」 》

イエスは御使いガブリエルをヨハネに遣わし、ヨハネを通して終わ
りの日の忠実な僕たちである私たちに遣わされました。なぜなら、この完
全に解読されたメッセージによって、彼が7つの時代、あるいは7つの議會
の僕や弟子たちに宛てたメッセージを理解できるようになるのは今日にな
ってからだ。イエスは、Apo.5「ダビデのルーツと子孫」を象徴的に呼び

起こすことについての疑念を取り除きました。彼は「明るい明けの明星」と付け加えた。この星は太陽ですが、彼はそれを象徴としてのみ認識しています。なぜなら、イエス・キリストを犠牲として愛する誠実な存在たちは、無意識のうちに、異教徒によって神格化されたこの星である私たちの太陽を敬っているからです。多くの人がそれに気づいていなければ、多くの方は、この問題について啓発されていても、この異教の偶像崇拜行為の深刻さを理解する準備ができておらず、理解する能力もありません。人間は自分自身を忘れて、神の立場に身を置く必要があります。神の立場に立つと、人間の心はすでにほぼ6000年にわたって人間の行動を追ってきたため、物事の見え方が全く異なります。これは、各アクションが実際に何を表しているのかを識別します。これは、主に肉欲や世俗的な欲望を満たすことに主として短い人生を費やしている男性には当てはまりませんが、精神的で非常に宗教的で、父親の敬意の伝統から遮断されたままになっている人にも当てはまります。

ディアティラのメッセージの最後に、御霊は「勝利する者」にこう言いました。「そして私は彼に明けの明星を与えます。」ここでイエスはご自身を「明けの明星」として表しています。したがって、勝者はイエスと、彼の中に源を持つすべての命の光を彼とともに得るでしょう。この用語を思い出させることは、真の最後の「アドベンティスト」がペテロ第一2:19-20-21

の次の節に最大限の注意を払っていることを示唆しています。夜が明けて明けの明星があなたの心に昇るまで、暗い場所で輝くランプに注意を払ってください。まず第一に、聖書のいかなる預言も個人的な解釈の対象になり得ないことを知ってください。なぜなら、預言は人間の意志によってもたらされたものではなく、人間が神から語った聖霊によって動かされるからです。»

これ以上の言葉はありません。これらの言葉を聞いた後、選ばれた者はそれをイエス・キリストによって考慮された作品に変えます。

17節：「すると、御霊と花嫁は言いました、「来なさい」。そして聞く者はこう言わせなさい、「来なさい。」渴いている者は来なさい。望む者は命の水を自由に摂取することができる。」

イエスは地上での宣教の初めから、「来なさい」という呼びかけを始められました。しかし、「渴き」をイメージすることで、「渴いていない人」は飲みに来ないことが分かります。神の呼びかけは、神の完全な正義が神の恩寵のみによって私たちに与えてくれる永遠の命を二度目のチャンスとして「渴望する」者たちだけが聞くことができるでしょう。イエスだけが代価を支払ったのです。したがって、彼はそれを「無料」で提供します。カトリックや神の「免罪符」はお金で得ることを許しません。この普遍的な呼びかけは、あらゆる国、あらゆる出身地から選出された役人の集会を準備します。

「来なさい」という呼びかけが、終わりの日の信仰の試みによって生み出

される、この選ばれた人々のグループ分けの鍵となります。しかし、彼らは地上に散らばる試練を経験し、イエス・キリストが栄光のうちに戻ってきて罪の地から彼らを取り除くときに初めて再会するでしょう。

18節：「この本の預言の言葉を聞くすべての人に宣言します。誰かがそれに何かを加えるなら、神はこの本に描かれている災いでその人を襲うでしょう。」

黙示録は普通の聖書の本ではありません。それは聖書の言葉で神聖にコード化された文学作品であり、聖書全体を最初から最後まで調べた人ならそれを認識できるでしょう。繰り返し読むことで表現が慣れてきます。そして、「聖書の一致」により、同様の表現を見つけることが可能になります。しかし、まさにそのコードが非常に正確であるため、翻訳者や転写者は次のように警告されています。「誰かがそれに何かを追加すると、神はこの本で説明されている疫病でその人を襲うでしょう。」

19

節「そして、もし誰かがこの預言の書の言葉から何かを取り去るなら、神はこの本に記されている命の木と聖なる都からその人の分を取り去られるでしょう。」

この預言の書の言葉から何かを取り除く」者を脅します。この危険を冒す者には、「この本に描かれているように、神は命の木と聖なる都から自分の分を切り捨てるであろう」という警告も与えられます。したがって、記載された変更は、変更を加えた者にとって恐ろしい結果をもたらすこととなります。

この教訓に注目してください。この理解できない暗号化された本の
2
改変が、これらの
2
つの厳格な方法でイエス・キリストによって罰されるとしたら、その完全に理解できる解読されたメッセージを拒否する人々にとって、それはどうなるのでしょうか？

神がこの警告を明確に提示する十分な理由があります。なぜなら、その言葉が神によって選ばれたこの啓示は、「石板に指で刻まれた」神の「十戒」の本文と同じ価値があるからです。さて、ダニエル 7:25
で、彼は自分の王室の「法」が「時代」とともに「変更」されるだろうと預言しました。我々が見てきたように、この行為はローマの権威によって達成され、321年にはローマ帝国、その後538年にはローマ教皇が「傲慢」と判断したこの行為は死刑に処せられ、神は私たちに再現しないよう勧告している。預言に対して、この種の誤りを彼は断固として非難します。

神の働きは、それが行われる時期に関係なく、神の働きであり続ける。彼の予言を解読することは彼の指導なしには不可能です。これは、復号化された著作物が暗号化された著作物と同じ価値を持つことを意味します。したがって、神の思いが明確に明らかにされたこの作品は、非常に高い「神聖さ」を持っていることを認識してください。これは、神が最後の反体制派セブンスデー・アドベンチストの僕たちに宛てた究極の「イエス

の証し」を構成します。そして同時に、真の土曜安息日の実践により、1843年にダニエル書第8章14節の法令が発効して以来予定されている最後の「正当化された聖性」が2021年に予定されている。

20節：「これらのことを証言する人はこう言います。はい、すぐに行きます。」アーメン！主イエスよ、来てください！」

イエス・キリストが弟子たちに語った最後の言葉が記されているため、この黙示録は非常に神聖なものです。私たちは彼の中に、神の指で刻まれモーセに与えられた律法の表に相当するものを見出します。イエスは証言します。誰がこの神の証明にあえて異議を唱えるだろうか？すべてが語られ、すべてが明らかになり、彼は「はい、すぐに行きます」という以外に何も言いません。彼の神聖な人格全体を伴う単純な「はい」は、彼が「すぐに来ます」という約束を新たにするので、彼の到来が確実であることを意味します。「すぐに」 完全な意味を持つ日付は、2030年の春です。そして彼は「アーメン」と言って自分の宣言を確認します。つまり、「本当のところ」という意味です。

それでは誰が「主イエスよ、来てください」と言うのでしょうか？この章の17節によれば、彼らは「御霊と花嫁」です。

21節：「主イエスの恵みがすべての聖徒たちとともにありますように！」

「主イエスの恵み」を呼び起こしてこの本を閉じています。これは、キリスト教議会の初めにこの法律にしばしば反対されたテーマです。当時、キリストの申し出を拒否した人々には、法律に反して恵みを強制することができました。ユダヤ人が律法を受け継いだということは、ユダヤ人が律法を通してのみ神の正義を見ることを意味していました。イエスは彼らを律法への従順から排除することを望まれましたが、動物の犠牲がご自分に預言したことを「成就する」ために来られました。これが、彼が
5:17
で次のように言った理由です。私は廃止するために来たのではなく、成就するために来たのです。」

最も驚くべきことは、キリスト教徒が法と恵みに反対しているのを聞いたことです。なぜなら、使徒パウロが説明しているように、恵みは人間が律法を全うするのを助けることを目的としており、イエスがヨハネ
15:5

で次のように宣言されているからです。私のうちに留まる者、そして私が留まる者は多くの実を結びます、なぜなら私なしではあなたは何もできないからです。」彼はどのような「やるべきこと」について話しており、それはどのような「成果」なのでしょう？聖霊の助けのおかげで神の恵みによって可能となる律法を尊重すること。

「主イエスの恵みが」あり、「すべてにおいて」そのように作用できたなら、それは望ましく、有益だっただろう。しかし、この歪んだ詩は実現不可能な願いを表現しているだけです。我々はすでに、それらが非常に

多く存在することを期待しましょう。できるだけ多く;私たちの尊敬すべき神、創造主、救い主はそれに値します。彼はそれに最高にふさわしい人だ。 「 *with all the Saints* 」と指定することで、原文から曖昧さがなくなります。主の恵みは、「ご自分の真理によって神聖なものとされた人たち」(ヨハネ17:17)だけに恩恵をもたらすことができるのです。そして、イエス・キリストが主張する道を歩むことによって永遠の命を達成しようと考えている人たちに、ヨハネ 14:6 によれば、「道」と「命」の間には本質的な「真理」があることを思い出してください。この聖句の祝福を主張する反逆者たちに悪気はありませんが、1843年以来、主の恵みは土曜日の聖安息日の復活によって神聖化された人々にのみ恩恵をもたらしてきました。この行動こそが、その「真理」に対する愛の証しと結びついており、選ばれた者たちを当該の恵みに値する聖徒とするのである。したがって、恵みを「すべて」に捧げることはできません。ですから、聖書の悪い、誤解を招く翻訳には気をつけてください。聖書に頼って不幸を招いた人たちにひどい最終的な幻滅をもたらすのです。

この著作で提示された神の啓示は、創世記の物語の中で預言されている教訓を裏付けており、その極めて重要な点に私たちは注目することができました。この研究の終わりに、これらの主要な教訓を思い出すことは役立つと思われます。これは正当なことであり、現代世界では、ローマ・カトリックのカルト的遺産のせいで、キリスト教の信仰がかなり歪んだ形で提示されているということも指摘しておきたいと思えます。神が要求された真理は、イエス・キリストの最初の使徒たちが理解した単純かつ論理的な状態のままでしたが、無視されることが多かったこの単純さは、その少数派の性質により、初心者にとっては複雑になります。実際、イエス・キリストの後の末日聖徒と黙示録の霊的構造を特定するには、ダニエル 8章14節の法令が不可欠です。しかし、この法令を特定するには、ダニエル書全体の研究とその預言の解説も不可欠です。これらのことが理解されたので、黙示録はその秘密を私たちに明らかにします。これらの必要な研究は、現代の西洋、特にフランスで不信者を説得しようとするときに遭遇する困難を説明しています。

イエスは、ご自分を導いてくださる父以外には誰もご自分のところに来ることはできないと言い、またご自分の選民について、彼らは水と御霊から生まれなければならないとも言いました。これら 2 つの教えは、神がすべての被造物の中で選ばれた者の霊的性質を神が知っていることを補完的に意味します。したがって、それらのそれぞれは、それぞれの性質に従って反応します。また、ユダヤ人がすでに安息日を実践していることについて好意的な偏見を持っている人は、1843年以来安息日が神によって要求されているということを示す預言の啓示を、それほど困難なく受け入れるでしょう。逆に、安息日について不利な偏見を持ってい

る人は、聖書が提示するすべての議論を拒否するでしょう。彼は自分の拒否を正当化する正当な理由を見つけるでしょう。この原則を理解すれば、キリストの真理を伝える相手に幻滅を感じることはなくなります。この預言は、神の思想の真実を明らかにすることによって、イエスの弟子たちが「世の終わりまで諸国民を教え」なければならないという「永遠の福音」にその力のすべてを与えています。

黙示録の「獣」

年代順に、そして神に選ばれた者たちの敵は「獣」の姿で現れました。

最初のもは、黙示録 12:3 の「王冠をかぶった 10 本の角と 7 つの頭を持つ竜」によってイメージされた帝国ローマを指します。黙示録 2:6 の「ニコライ人」。黙示録 2:10 の「悪魔」。

王冠をかぶった10本の角と7つの頭を持つ、海から現れる獣によってイメージされる教皇カトリックローマに関するものです。黙示録 2:13 の「サタンの王座」。黙示録 2:20 の「女イゼベル」。黙示録6:12の「血で染まった月」。黙示録 8:12 の「第 4 のラッパ」の「月に打たれた第 3 度」。黙示録 10:2 の「海」。黙示録 11:1 の「棒のような葦」。黙示録 12:4 の「竜」の「尾」。黙示録 12:14 の「蛇」。そして13節、16節、17節の「龍」。黙示録 14:8 と 17:5 の「大いなるバビロン」。

第三は、黙示録 11:7 の「深淵から昇る獣」によってイメージされるフランス革命的無神論を対象としています。黙示録 2:22 の「大患難」。黙示録 8:12 の「第 4 のラッパ」。黙示録 12:16 にある、カトリック教徒を象徴する「川を飲み込む口」。これは、黙示録 11:14

で引用されている「第二の災い」の最初の形態に関するものです。その第 2 の形態は、Apo.8:13 によると、「第 2 の災い」のタイトルの下、2021 年 3 月 7 日から 2029 年までの間、世界の現実の様相の下で、Apo.9 :13 の「第

6のラッパ」によって達成されます。第三次世界大戦は核戦争で終わる。地球（深淵）の人口を減らす人類大量虐殺は、「第 4 のラッパ」と「第 6 のラッパ」の間に確立されたつながりです。この戦争の展開の詳細はダニエル書 11:40 ~ 45 に明らかにされています。

4番目の「獣」は、地上の歴史における最後の信仰の試練において、プロテスタントの信仰とその同盟者であるカトリックの信仰を示しています。彼女は黙示録 13:11

で「地から上って来ます」。それは彼女自身が、「海」に象徴されるカトリック信仰から出てきたことを意味します。圧倒的に、宗教改革の時代には、背教を特徴とするさまざまな側面を持つプロテスタントの宗教が確立され、ジョン・カルビンの著作の中で好戦的で、過酷で、残酷で、迫害的

な性格であることが証明されました。ダニエル第 8 章 14 節の法令の発効により、1843

年の春から世界中でそれが非難されました。

制度的なアドベンチスト信仰は、1843年から1844年のプロテスタントの信仰の試練から生き返ったものの、1994年の秋以来後退し、プロテスタントの信仰とその神の呪いの地位に戻った。これは、1991年のこの著作で明らかにされた神の預言の光が公式に拒否されたためです。この制度的形態の霊的な死は、黙示録 3 章 16 節で預言されています。「わたしはあなたを口から吐き出すだろう」。

預言の最終的な成就が私たちの前にあり、すべての人の信仰が試されるでしょう。主イエス・キリストは、すべての人間の中で、ご自分に属する人々、神の愛の実である主の重要な啓示を喜びと感謝に満ちた忠実さをもって歓迎する人々を認められます。

最後の選択の時、選ばれた者はなぜ墮落したのかを知るという事実によって区別されるだろう、神の啓示はこうして救われた者と失われた者の違いを生むであろう。使徒時代の「エフェソス」からアポに2:5、神は、「だから、あなたがどこから落ちたかを思い出しなさい」と言われました。そして、「サルディス」時代の 1843 年、彼は黙示録3:3でプロテスタントにもこう言いました。そして守って悔い改めなさい。これは1994年以来墮落したアドベンチストにも当てはまります。彼らは安息日の遵守者ではありますが、イエスから黙示録3章19節の次のメッセージを受け取りました。ですから熱心になって悔い改めなさい。」

この預言的な啓示を準備する際に、イエス・キリストという人格に出会った創造主なる神は、ご自分の選んだ者たちが自分たちの敵を明確に認識できるようにするという目標を自ら設定されました。物事は完了し、神の目的は達成されます。このように霊的に豊かになった彼女の選ばれた者は、「子羊の結婚の晩餐のために準備された花嫁」となります。彼は黙示録 19:7で「聖徒たちの正しい行いである上質な白い亜麻布を彼女に着せました」。この作品の内容を読んだ皆さん、もしあなたがその中に入る機会と祝福があるなら、神の真実に基づいて「あなたの神に会う備えをしなさい」(アモス4:12)!

たちに知られていますが、ルカ 18 章 8 節に引用されているイエス・キリストのこの質問には、いささか憂慮すべき疑問が残ります。彼らにすぐに正義をもたらすだろう。しかし、**人の子が来たとき、地上で信仰を見出すでしょうか?**

」。なぜなら、真理に関する知的知識が豊富であっても、この信仰の質の弱さを補うことはできないからです。イエス・キリストの再臨に直面する人類は、あらゆる形態の利己主義が強く奨励される環境の中で発展してきました。個人の成功は、たとえ隣人を打ち負かしてでも達成すべき目標となったが、これは70年以上にわたる長期にわたる世界平和の期間において

である。イエス・キリストが提案した天国の価値観が現代のこの規範に絶対的に反対していることを知ると、彼の質問は悲劇的に正当化されているように見えます。なぜなら、それは自分が「選ばれた」と信じている人々に関係する可能性があるからです、それは彼らの不幸のために残るだけだからです「呼び出された」もの。なぜなら、イエスは彼らのうちに、ご自分の恵みに値するために必要な信仰の特質を見出されなかつたらうからである。

手紙は人を殺すが、御霊は命を与える

この最後の章で黙示録の解説が完了します。確かに、私は神が預言の中で使用する象徴を特定することを可能にする聖書の暗号を提示しましたが、その目的は1843年から1844年以来の安息日の復活に対する神の要求を明らかにすることですが、安息日という言葉は現れません。ダニエル書または黙示録のこれらの預言書の中で一度だけです。それは常に示唆されていますが、明確に引用されていません。明確に名前を付けない理由は、安息日の実践が使徒的キリスト教信仰の基本的な正常性であるためであり、安息日の主題がユダヤ人と最初の使徒、つまりユダヤ人の弟子たちとの間で決して論争の対象ではなかったことは誰でもわかるからです。イエス・キリスト。しかし、悪魔は彼への攻撃をやめず、まずユダヤ人を扇動して彼を「汚す」ようにさせ、次にキリスト教徒を扇動して彼を完全に「無視」させました。この結果を達成するために、彼は彼に言及した原文の誤った翻訳を引き起こしました。また、神の真理のこの提示は、これらの忌まわしい悪行の告発なしには完成しないであろう。その犠牲者は、まずイエス・キリストにおける神であり、次に彼の贖いの死によって永遠の命を与えられたであろう人々である。

私は神の前に、新旧の契約の文書、つまり聖書全体の中に、十戒の第四番目から安息日の地位が変わることを教えている節は存在しないことを断言します。さらに、私たちの地上世界の創造の初めから神によって聖化されました。

1843年の春にダニエル書8章14節の法令が発効したことによるプロテスタントの背教以来、今日に至るまで、聖書を読むと人が殺されます。意図的に人を殺しているのは聖書ではなく、「ヘブライ語とギリシャ語」の原文の翻訳版に見られる翻訳ミスに基づいて聖書が使用されているということを指摘したいと思います。しかし何よりも、悪い解釈による問題でもあります。神ご自身が、黙示録 9 章 11 節でこのことを映像で確認しています。

彼らはヘブライ語でアバドン、ギリシャ語でアポリオンと名付けられた深淵の天使を王として彼らの上に置きました。」。ここで私はこの聖句に隠されたメッセージを思い出します。「アバドンとアポリオン」は「ヘブライ語とギリシャ語で」「破壊者」を意味します。

「深淵の天使」は、黙示録 11:3 の聖書の「二人の証人」を使って信仰を破壊します。

また、1843年以来、偽信者は聖書の歴史的証言を読む際に2つの間違いを犯しています。 1

1つ目は、イエス・キリストの死よりも誕生を重視したということであり、 2

2つ目は、イエスの死よりも復活を重視することで、この間違いを強化しています。この二重の誤りは彼らに不利な証拠となる。なぜなら、神の被造物に対する神の愛の実証は、本質的に、選ばれた人々の救いのためにキリストにあって自分の命を捧げる神の自発的な決断に基づいているからである。イエスの復活を優先することは、神の救いの計画を歪めることであり、これは罪を犯した者たちに、自らを神から切り離し、神聖で公正で善良な神の同盟を破るという結果をもたらす。キリストの勝利は死の受け入れにかかっており、彼の復活は彼の神聖な完全性の幸福で正当な結果にすぎません。

コロサイ 2:16-17:

「ですから、食べること、飲むこと、あるいは祭り、新月、安息日について、だれもあなたがたを裁いてはなりません。これらは来るべきものの影でした。しかし、体はキリストのうちにあります。」

「安息日」の習慣を中止することを正当化するためによく使われます。この選択を非難する 2 つの理由があります。1つ目は、「安息日」という表現は、レビ記23章で神が定めた毎年恒例の宗教的な「祭り」によって開催される「安息日」を指しているということです。これらは、宗教的な「祭り」の最初に、時には最後に置かれる移動的な「安息日」です。

”。それらは「その日は卑屈な仕事をしてはならない」という表現によって呼び起こされます。彼らは、「やめる、休む」という意味の「安息日」という名前以外、毎週の「安息日」とは何の関係もありません。これは創世記 2 章 2 節で初めて「神は休まれた」という意味で現れます。また、第四戒のヘブライ語本文で引用されている「安息日」という言葉は、L.セゴンド訳では登場せず、「安息日」または「7日目」という名前でのみ登場していることにも注意してください。しかし、その語源は、創世記 2:2 で引用されている動詞「休息」または「安息日」に由来しており、JNDarby 版聖書では明確にその名前が付けられています。

2番目の理由はこれです。パウロは「祝日と安息日」について、それらは「来るべきものの影」、つまり、かつてあった、あるいは将来そうなる現実を預言するものであると述べました。この聖句に「七日目の安息日」が関係していると仮定すると、この聖句が預言している七千年紀の到来まで「来るべき影」が残ります。イエス・キリストの死は、「七日目の安息日」の意味を明らかにしました。この安息日は、罪と死に対するイエスの勝利のゆえに、キリストの選ばれた者たちが墮落した地上と天上の死者を裁く天の「千年」を預言しています。

この聖句では、「祝日、新月」とその「安息日」が、古い契約イスラエルの国家形態の存在と結びついています。イエス・キリストは、ご自分の死を通して新しい契約を確立することによって、これらの預言を無力なものにされました。それらは、イエスが地上で成し遂げられた奉仕の現実の前で消え去る「影」のように、立ち止まり、消え去らなければなりません。一方、毎週の「安息日」は、預言された現実遭遇し、その有用性を失うために、7千年紀の到来を待っています。

パウロは「飲食」についても言及しています。忠実な僕として、彼は神がレビ記 11 章と申命記 14 章でこれらのことについて語られ、許可される純粋な食品と禁止される不純な食品を規定していることを知っています。パウロの発言は、これらの神の儀式に異議を唱えることを意図したものではなく、この主題に関して表明された人間の意見（誰も...）にすぎません。ローマ人への手紙 14 章とコリント第一 8 章で彼の考えがより明確に示されています。この主題は、偶像や偽りの神に犠牲として捧げられた食べ物に関するものです。イエスは、神の霊的イスラエルを形成する選ばれた人々に、神に対する義務を思い出させ、1コリント10章31節でこう述べています。「食べるにしても、飲むにしても、あるいは他の何をするにしても、神の栄光のためにすべてをしなさい。」これらの問題に関して明らかにされた神の儀式を無視し軽蔑する人々によって神は栄光を受けるでしょうか。

使徒

15:19-20-21

で、割礼の問題について使徒たちを代表して語っているのはイエスの兄弟ヤコブです。神よ、偶像の汚れ、淫行、絞められたもの、そして血を避けるように彼らに書き送ってください。というのは、モーセは古代の時代から、あらゆる都市に自分の説教をする人々を抱えており、安息日ごとに会堂で朗読されているからである。」

安息日に対する異教改宗者の自由を正当化するためによく使われるこれらの聖句は、逆に、使徒たちによって奨励され教えられた安息日の実践の最良の証拠となっています。実際、ジャックは、彼らに割礼を課すことは有益ではないと考えており、彼らが「安息日ごとに」**地元**のユダヤ教のシナゴグに行くと、深い宗教の教えが彼らに与えられるため、重要な原則を要約しています。

食品の純粹と不純な分類の中止を正当化するために使用されるもう一つの口実は、使徒 10 章でペテロに与えられた幻です。彼の説明は使徒 11

章で展開され、そこで彼は幻の「汚れた動物」を異教の「人間」と同一視しています。ローマの百人隊長「コルネリウス」のところに行くように祈りに来ました。この幻の中で神は、神に仕えず偽りの神々に仕える異教徒の不純な本性を描写しています。しかし、イエス・キリストの死と復活は彼らに大きな変化をもたらしました。なぜなら、イエス・キリストの贖いの犠牲への信仰を通して恵みの扉が彼らに開かれたからです。この幻を通して、神はペテロにこの新しいことを教えます。したがって、神がレビ記 11

章で定めた清らかで不浄の分類は残り、世の終わりまで続きます。ただし、1843 年以來、ダニエル 8:14 の布告により、人間の食事は創世記 1:29 で確立され命令された本来の「聖化」の規範を採用しています。わたしは全地の表面にある種を生むすべての植物と、種を生む実のあるすべての木を与えた。これはあなたの食べ物になります。」

イエスは選民を救うために肉体的、精神的な拷問を受けて命を捧げました。この情熱的な死が、救った者からの見返りに要求する非常に高いレベルの神聖さを疑ってはなりません。実は！

イエス・キリストの地上の時代

2021年3月20日の安息日の真珠

宣教を始めた当初から、私は「イエスは春にお生まれになった」と確信し、歌いました。

2021年3月20日のこの安息日、春分点は霊的な集会の開始時刻である午前10時37分に位置しました。それから御霊は、それまで単なる信仰の確信にすぎなかったものの証拠を探すように私を導いてくれました。ユダヤ暦により、私たちはその年の春分の時刻を、キリスト教の公式の救い主誕生の6日前、つまり3月21日の「安息日」に置くことができました。

なぜ6年目なのか？

なぜなら、イエス・キリストの誕生に関する私たちの公式の年代測定は、2つの間違いに基づいて行われたからです。カトリックの修道士ディオニュシオス一世が暦の確立に着手したのは、西暦6世紀に入ってからのことです。聖書的または歴史的詳細が欠如しているため、彼はこの誕生をヘロデ王の死の日付とし、ローマ建国の753年とした。それ以来、歴史家は彼の計算に
4
年の誤りがあることを確認しました。これはヘロデの死をローマ建国から749年としている。しかし、イエスはヘロデ王の死より前に生まれており、
、マタイ

2:16は、怒ったヘロデ王が命じた「無実の人の虐殺」当時のイエスの年齢を「
2
歳」と推定する正確さを与えています。彼は苦しみ、権力の享受から引き離される死の到来を感じていた。本文には「彼が賢者たちに注意深く尋ねた日付によると、2年」と明記されているため、詳細は重要である。前回の誤りの
4
年に加えて、ローマ建国
6
年、つまり
747
年が聖書的に確立されました。

今年の春分の日 - 6

この年の安息日、聖書には、天使が「羊の群れを見守っていた羊飼いたち」に姿を現したことが記されています。安息日は貿易を禁止しますが、動物の飼育や世話は禁止しません。イエスはこのことを次のように言われて確認されました。「あなたたちの中で、穴に落ちた羊を飼っていて、安息日になっても助けに来ない人はいますか。？」
」。このようにして、天使によって、人間の羊の救い主であり導き手である「善き羊飼い」の誕生が、まず動物の羊の守護者であり保護者である人間の羊飼いに告げられました。天使はこう明らかにしました。「
... 今日、ダビデの町で、あなた方に救い主、それが主なるキリストがお生

まれになったのです。」したがって、この「今日」は安息日であり、その発表は夜に行われ、イエスの誕生は安息日の始まりである午後6時と、天使が羊飼いたちに告げる夜の時間の間に行われました。私たちは今、イスラエルの時計の時計がその年の春分の日、つまり 6
を迎えた正確な時刻を確立しなければなりません。しかし、この期間に関する情報がないため、これはまだ不可能です。

安息日のイエスの誕生は、神の救いの計画を輝かしく、完全に論理的なものにします。イエスはご自身を「人の子」、「安息日の主」と宣言されました。なぜなら、安息日は一時的なものであり、その有用性は、今度は力強く輝かしい再臨の日まで続くからです。イエスは、罪と死に対する勝利によって、選ばれた者だけが勝ち取った残りの7千年紀を預言したので、安息日にその完全な意味を与えています。

「12歳」で成人になったことを記念して、イエスは宗教者たちに霊的に介入し、聖書の中で告げられているメシアについて質問します。3日間捜索してくれた両親から引き離された彼は、自分の神聖な独立性と、地上の人間のために自分の使命を認識していることを証言した。

そして、地上での彼の積極的で正式な奉仕の時が来ます。ダニエル
9 章 27

節の教えは、それを「契約」の形で示しています。「週」は、秋26日から秋33日までの7年間を象徴します。これら2つの秋の間には、春と30年の過越の祭りが中心にあり、そこでは「復活祭週の真ん中、水曜日の午後3時」となります。 30年4月3日

イエス・キリストは、選ばれた者だけの罪を償うために自らの命を捧げることによって、ヘブライ語の儀式における動物の「いけにえと捧げ物」を廃止させました。死の日、イエスは35歳と13日でした。罪と死に勝利して死んだイエスは、「すべては終わった」と言って、自分の霊を神に委ねることができました。死に対する彼の勝利は、後に復活によって確認されました。使徒言行録 1 章 1 節から 11

節に記されている証言によれば、イエスは使徒や弟子たちが見守る中、ペンテコステの祝日の前に天に昇るまで、彼らに同行し、指導したのです。「ガリラヤの人たちよ、なぜここに立って天を向いているのですか。」あなたから天に上げられたこのイエスは、あなたが天に入るのを見たのと同じように来られます。

」。ペンテコステのとき、彼は「聖霊」の日の栄えの奉仕を始めました。これにより、彼は同時に、地上に散在する選ばれた者たち一人一人の霊において、世の終わりまで行動できるようになります。

そのとき、イザヤ書 7:14、8:8、およびマタイ 1:23
で預言された彼の名前、「神が私たちと共におられる」を意味する「インマヌエル」が、さらにその真の意味を帯びるようになります。

この文書に記載されている詳細は、信仰の表明に対する感謝のしるしとして、イエスが選ばれた人々に与える報酬を構成しています。このようにして、私たちは彼の死の日付によって、2030年の春の初日に予定されていた彼の最後の輝かしい帰還のを知り、共有することができるのです。つまり、30年4月3日に十字架につけられた春から2000年後である。

神聖さと聖化

聖さと聖化は切り離すことのできないものであり、神がイエス・キリストにおいて与えてくださる救いの条件です。パウロはヘブライ 12:14でこのことを思い出しています。「すべての者との平和と聖さを追い求めなさい。それなしでは誰も主を見ることができません。」

この「**聖化**」という神聖な概念は完全に理解されなければなりません。なぜなら、それは「神に属するものすべて」に関するものであり、すべての所有者と同様に、それを剥奪することを敢えてする者に何らかの結果をもたらすことなしにそれを剥奪することはできないからです。さて、彼のものを特定してリストを作成する必要はありません。生命の創造者とその中に存在するすべてのもの、すべては彼のものです。したがって、神はすべての生き物に対して生と死の権利を持っています。しかし、彼とともに生きるか、彼なしで死ぬ権利をすべての人に残し、彼が選んだ者たちは、自由で自発的な選択によって永遠に彼に属するために彼に加わります。この彼との和解により、彼が選んだ者たちが彼の所有物となる。神が歓迎し認めた人々は、地球上の生命が従うすべての法則にすでに関係する彼の**聖化の概念に入ります**。したがって、聖化とは、神によって確立され、したがって承認された物理的および道徳的法則に従うことに同意することで構成されます。安息日と十戒がこの神の聖化を具体的に表現しているのは、この二重の理由のためであり、その違反にはメシアであるイエスの死が必要となります。

この聖化の概念は非常に基本的なものであるため、神は創世記 2 章 3 節で聖書の冒頭で 7 日目を聖化することで定義するのが適切であると判断されました。したがって、この数字の 7 が聖書全体、特に黙示録 7:2 でその「王の印章」となっているのは驚くべきことではありません。**生ける神のもの。彼は大地と海に害を与える使命を与えられた四人の天使たちに向かって大声で叫び、こう言いました。神の微妙な御霊の暗示を聞く耳のある人は、この「生ける神の印章」が黙示録のこの「7章」で引用されていることに気づくでしょう。**

私たちの救い主イエス・キリストの死の記念日である2021年4月3日の過越の祭りと安息日、神の御霊は私の思いをヘブライ語のモーセの聖所とソロモン王がエルサレムに建てた神殿に向けました。私は、この聖域について私が与えた解釈を強く裏付ける詳細をそこに記しました。すなわち、神によって贖われた選民のために用意された大いなる救いのプロジェクトの預言的な役割です。

1948年以来、ユダヤ人はイエス・キリストを神から遣わされた「メシア」として認めることを拒否したため、依然として神の呪いを抱えながら、祖国を取り戻しました。それ以来、彼らは、エルサレム神殿の再建という一つの考え、一つの考えに取り憑かれました。彼らにとって悲しいことに、このようなことは決して起こらないでしょう。なぜなら、神にはそれを阻止する十分な理由があるからです。彼の役割はイエス・キリストの死と復活によって終わりました。神殿の神聖さは、「メシア」の魂において、その肉と霊において、完全に何の汚れもなく、その完全な成就を見出しました。イエスは、ヨハネ 2章14節でご自分の体について次のように述べ、この教訓を明らかにされました。

神殿の有用性の終わりは、いくつかの方法で神によって確認されました。まず、ダニエル 9 章 26 節で預言されているように、彼は紀元 70 年にティトゥスのローマ軍によってそれを破壊させました。その後、ユダヤ人を追放した後、彼は寺院の敷地をイスラム教に引き渡し、イスラム教はそこに 2 つのモスクを建てました。最古の「アル・アクサ」と岩のドーム。したがって、イスラエルには神殿を再建する可能性も許可も神から与えられていません。なぜなら、この再建は彼の預言された救いの計画を歪めることになるからです。

エルサレム神殿の有効期限は、その建設の形で刻まれました。しかし、より明確に見るためには、神聖さを伝えるこの宗教的な建物の明らかになった詳細をすでに調べておく必要があります。神殿はダビデ王によって建設される予定であり、ダビデ王はその願望を表明し、それを歓迎するためにエルサレムを選んだことに注目しましょう。神は同意されました。

これを行うために、彼はアブラハムの時代から「エバス」と呼ばれるこの古代都市を装飾し、強化しました。このようにして、ダビデと「ダビデの子」「メシア」との間には「千年」が経過しました。しかし神は彼がそうすることを許さず、その理由を彼に知らせました。彼は、後にソロモン王の母となる妻「バト・シェバ」を奪うために忠実な僕「ヒッタイト人ウリヤ」を殺して血の人になったのです。こうしてダビデは自分の罪の代償を負い、バト・シェバから生まれた長男の死という罰を受け、その後、神の命令なしに民を数えたために罰を受け、神は彼に罰を3つの選択肢から選ぶようにと提案しました。サム下 24:15 によると、彼は 3 日間で 70,000 人の犠牲者を出した疫病の死亡率を選択しました。

列王記上

6

章には、ソロモンによって建てられた神殿の記述があります。彼はそこに「ヤハウエの家」という名前を付けました。この「家」という言葉は、家族団欒の場を連想させます。建てられた家は、救いの創造主である神の家族を預言します。それは聖域と神殿という 2 つの連続した要素で構成されています。

地球上では、人間に許可された領域で行われる宗教儀式が行われます。ソロモンはそれを「神殿」と呼びました。彼が聖域と呼び、ベールによってのみ隔てられている最も聖なる場所の延長として、神殿の部屋の長さは 40 キュビト、つまり聖域の 2 倍の大きさです。したがって、神殿は家全体の 2/3 を占めています。

ユダヤ契約はモーセの時代の後半に成立しましたが、アダム以来 3 千年紀の初めに神とアブラハムの間で結ばれた契約の完全な傘下にありません。

「メシアは2000年後の5千年紀の初めにユダヤ人に姿を現します。しかし、神が地球に選ばれた者を選ぶために割り当てられた時間は6000年です。したがって、時間については、主の家の $\frac{2}{3}$ + $\frac{1}{3}$ の割合がわかります。そしてこの比較では、アブラハムの契約の $\frac{2}{3}$ は、分離の幕で終わるヤハウエの家の $\frac{2}{3}$ に対応します。このベールは地上から天上への移行を示すものであるため、主要な役割を果たします。これは、この変化が地上の神殿の預言的役割の完了を示すものであることを知っているからです。これらの概念は、アダムとイブ以来、完全な天上の神を不完全で罪深い地上の人間から分離する罪の意味を分離のベールに与えます。分離するベールは二重の性質を持っています。なぜなら、それは、接続された 2 つの部分の天上の完全性と地上的な不完全性を一致させなければならないからです。そのとき、メシアの役割が現れるのは、彼がこの特性を完全に体現しているからです。イエス・キリストは、神聖な完全さの中で、ご自分の選ばれた人々を彼らの代わりに担いで罪を償い、死すべき代価を支払うことによって罪となられました。

この分析により、私たちは聖所の中に、2000年ごとにマークされる偉大な霊的段階の預言的な連続のイメージを見ることができます。アダムによって捧げられた最初の犠牲
—
モリヤ山でアブラハムによって捧げられた犠牲、将来の^{ゴルゴタ}
麓でのキリストの犠牲ゴルゴタの丘
—
ミカエルにおける救い主イエス・キリストの栄光の再来によって阻止された最後の選ばれた者の犠牲。

一日は千年のようであり、千年は一日のようである」（詩篇 90:4 も参照）神にとって、地上の計画は神のイメージに基づいて構築されています。週に 2 日 + 2 日 + 2 日を連続して実行します。そしてその継承の裏で、永遠の「7日目」が幕を開ける。

聖なる家の2つの部屋の内容は非常に明らかです。

聖域または最も神聖な場所

翼を広げた二匹のケルビム

至聖所と呼ばれる聖所は長さ20キュビト、幅20キュビトあります。完全な正方形ですね。そしてその高さも20キュビトです。それは立方体になります。完璧の三重のイメージ (= 3 : L = l = H);これは黙示録 20章の「神のもとから天から下って来る新しいエルサレム」の記述と同じです。この最も神聖な場所は、神によって人間の立ち入りが禁止されており、死刑に処せられます。理由は単純かつ論理的です。この場所が神を迎えることができるのは、この場所が天国を象徴し、神の天上の性質をイメージしているからです。彼の考えには、この聖域に設置されたすべての象徴的な要素がそれぞれの役割を果たす救いの計画があります。現実は天の次元の神の中にあり、地上では神はシンボルを通してこの現実を説明します。こうして、私はこの過越祭 2021
のこの具体的な発見という主題にたどり着きました。列王記上 6:23 から 27

には次のように書かれています。ケルビムの一つの二つの翼はそれぞれ5キュビトで、一方の翼の先端からもう一方の翼の先端までは10キュビトでした。

2番目のケルビムも10キュビトを持っていました。両方のケルビムの寸法と形状は同じでした。二人のケルビムの高さはそれぞれ十キュビトであった。ソロモンはケルビムを家の真ん中、家の中に置きました。彼らの翼は広げられ、最初の翼は壁の一方に触れ、二番目の翼はもう一方の壁に触れた。そしてもう片方の翼は家の真ん中で最後にぶつかりました。」

これらのケルビムはモーセの幕屋には存在しませんでした。神はそれらをソロモンの神殿に置くことによって、この最も聖なる場所の意味を明らかにしました。この作品は、幅方向に 2 つのケルビムの 2

対の翼が交差しており、地上にのみ住む人間には事実上アクセスできない天の基準を与えています。私はこの機会を利用して、「ミケランジェロ」のような有名な画家たちが、異教の神秘的な錯乱の中で、羽の生えた赤ん坊が楽器を演奏したり、手で矢を射ているように見せかけたこれらのケルビムに関する真実を非難し、再確立したいと思います。天国には赤ちゃんはいません。そして神のために、詩篇 51 章 5 節または 7 節によれば、「見よ、私は不法のうちに生まれ、母は罪のうちに私を身ごもった」、そしてローマ 3 章 23 節には「すべての人は罪を犯し、栄光を奪われているからである」とあります。

「神のもの」では、人間はアダム以来、相続によって罪人として生まれてきたため、無実の、純粋な赤ん坊などというものは存在しません。アダムが地上にいたのと同じように、天の天使たちは皆若い男性として創造されました。それらは老化することはなく、永遠に同じままです。ローマ 6:23 によると、老年は地上特有の特徴であり、罪と死の結果であり、その最終的な報酬です。

神聖同盟の箱舟

列王上 8:9: 「箱舟の中には石の板が 2

つだけありました。主がイスラエルの子らがエジプトの地から出てきたときに彼らと契約を結んだとき、モーセはホレブのそこに置きました。」

したがって、聖域または最も神聖な場所には、翼を広げた2つの巨大なケルビムがあり、活発な天の性質の象徴であるだけでなく、何よりも、2つの大きなケルビムの間の部屋の中央に置かれる契約の箱があります。家を建てるのはそれを守るためだからです。神がモーセに実行しなければならぬ宗教的な事柄を提示する順序では、最初に契約の箱が見出されます。しかし、この容器はその中身ほど貴重ではありません。それは、神が指で十戒という超神聖な律法を刻んだ二つの石の台です。それは彼の考え方、彼の規範、彼の不変の性格を反映しています。別の研究（2018年から2030年、究極のアドベンチストの予想）で、私はすでにキリスト教時代の預言的性格を実証しました。聖所では、私たちは神の秘密の考えを読みます。そこには、彼に好意を持ち、彼との交わりを可能にする要素が見出されます。十戒に故意に違反し続ける罪人は、自分が救いを主張できると信じているなら、自分自身を欺いている、と言うだけで十分でしょう。この関係は、この最も神聖な場所に見られる象徴的な現実に対する信仰のみに基づいています。神は十戒に、ご自身の姿に似せて造られた人間に定められた生活基準を要約しています。それは、神ご自身がご自身の戒めを尊重し、実行することを意味します。人間に与えられた命は、これらの戒めの尊重に基づいています。そして、彼らの違反は、罪を犯した者の死によって罰せられる罪を引き起こします。そしてアダムとイブ以来、不従順に

よって全人類がこの死すべき状態に置かれてきました。したがって、死は治療法のない病気のように人間に降りかかりました。

慈悲の席

聖所では、神の小羊が犠牲にされる祭壇の象徴的な像である救世主の上に、他の2人の小さな天使が祭壇を見つめ、その翼が中央で交わっています。このイメージの中で、神は、イエス・キリストの贖いの死を基礎とする救いの計画に忠実な天使たちが寄せる関心を示しています。というのは、イエスは人間の赤ん坊の姿をとって天から降りてこられたからです。ゴルゴタの十字架で命を捧げたのは、最初に彼らの天上の友人「ミカエル」であり、天使の長であり、創造主である神の霊の目に見える天上の表現であり、天使たちは当然のことながら、自分たちを神に選ばれた「仲間の僕」であると考えています。

最も神聖な場所では、慈悲の座で覆われた箱舟が、大きくて小さいケルビムの翼の下に置かれます。この画像には、マル4:2の次の聖句のイラストが見られます。あなたは外に出て、馬小屋の子牛のように飛び跳ねるでしょう。」イエスが磔刑に処せられた十字架を象徴する象徴である慈悲の座は、罪という致命的な病気に対して確かに癒しをもたらします。イエスは罪から救うために死に、悔い改めない反抗的な罪人たちの邪悪な手から選ばれた人々を救い出すために復活されました。箱舟に含まれていた律法の違反は、地球上のすべての人間に死をもたらしました。そして、キリストにあって神に選ばれた者たちに、彼らだけのために、違反した律法を収めた箱の上に置かれた憐れみの座が永遠の命の勝利をもたらし、彼らは最初の復活の時にその中に入ることになる。この憐れみの座でイエス・キリストが流した血によって救われた聖徒たちのことです。そのとき、彼らの死からの癒しは完了します。マル4:2によると、ケルビムは天の霊神の像であり、黙示録4章では「四つの生き物」の象徴として示されています。なぜなら、慈悲の座に取り付けられた癒しは、2つの大きなケルビムの2つの中央の翼の下にうまく配置されているからです。

毎年恒例のヘブライ語の「贖罪の日」の儀式で、ヤギの動物の血が東に向かって正面と慈悲の席に振りかけられたのと同じように、イエス・キリストの血が実際に彼にも流れる必要がありました。この同じ慈悲の席で。この目的のために、神は人間の祭司の奉仕を求めませんでした。彼は、箱舟と聖なる物を、預言者エレミヤの時代の至聖所と聖地から、ゴルゴダの丘の麓の岩場の地下にある洞窟に運ぶことで、すべてを事前に計画し、組織していました。深さ6メートルの地面、50センチメートル立方の空洞のすぐ下にある岩の表面に掘られた場所で、ローマ兵はそこにイエスが磔刑に処せられた十字架を建てた。聖書に記されている地震によって生じた長くて深い断層を通して、彼の血は文字通り慈悲の座の左側、つまり十字架につけられたキリストの右側に流れました。したがって、マタイ

27:51

がこれらのことを証言しているのは理由がないわけではありません。「見よ、神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂け、地が揺れ、岩が引き裂かれ、...

1982年、科学的検査により、ロン・ワイアットが採取した乾燥した血液は、23本のX染色体と1本のY染色体で異常に構成されていることが明らかになった。神の創造主は、彼の神聖な性質の証拠を彼の後に残したいと考え、聖骸布に加えられた。彼の顔と体のイメージがネガティブに表示されます。このようにして、箱舟に納められた罪を犯した律法は、救い主イエス・キリストのすべての罪から出た真に純粋な血をその祭壇で受けることで、完全な償いを得たのです。なぜなら、神はロン・ワイアットにこれらのことを明らかにする際に、人間の好奇心を満たすことを求めておらず、イエス・キリストにおけるご自身の神性の神聖化の教義を強化することを望んでおられたからです。他の人間とは異なる血を持っているため、彼はあらゆる形態の罪から解放された完全で純粋な性質を信じる理由を与えます。したがって、彼は、パウロがIコリント

15:45

で述べているように、新しい、あるいは「最後のアダム」を体現するために来たことを確認しています。なぜなら、彼は私たちと同じような肉の体で見られ、聞かれ、殺されたにもかかわらず、遺伝的なつながりがなかったからです。人間という種とともに。救いの計画を達成する際のこのような細部への配慮は、神がご自身の教えの象徴に与えられる重要性を明らかにしています。そして、モーセがホレブの岩を二度叩いてこの神聖な救いの計画を歪めたとして罰せられた理由がよくわかりました。

2度目は、神が与えた命令に従って、水を手に入れるために彼に話しかけるだけで済みました。

モーセの杖、マナ、モーセの巻物

民数記

17:10:

「主はモーセに言われた、『アロンの杖を証言の前に持ち帰って、反逆の子らへのしるしとして保管しておいてください。そうすれば、あなたはわたしの前で彼らのつぶやきをやめさせ、彼らもそうするでしょう』死なない期間。」

出エジプト記

16:33-

34: モーセはアロンに言った、「器を取り、その中にマナをいっぱい入れたオメルを入れて、あなたの子孫のために保存するために、それを主の前に置きなさい。」主がモーセに与えた命令に従って、アロンはそれを保存するために、それを証言の前に置きました。」

申命記

31:26:

「この律法の書を取り、あなたの神、主の契約の箱の傍らに置きなさい。そうすれば、それはあなたに対する証拠としてそこにあるでしょう。」

これらの聖句に基づいて、ヘブライ 9:3-4
で、使徒パウロが箱舟の中にこれらの要素をその横や前ではなく配置した
誤りを許しましょう。至聖所と呼ばれる幕屋の、
~~そこには香のための黄金の祭壇と、全体が金で覆われた契約の箱が収めら~~
~~れていました。箱舟の前にはマナの入った黄金の器、芽が出たアロンの杖~~
~~、そして契約のテーブルがありました。~~同様に、香の祭壇は聖域内ではな
く、神殿側のベールの前にありました。しかし、箱舟の横に置かれた要素
は、自由で責任ある国家イスラエルとなったヘブライ人のために神が成し
遂げた奇跡を証言するためにそこにありました。

箱の隣にあるモーセとアロンの杖は、神の真の預言者への信頼を求
めています。申命記 8:3
によると、マナはイエスの前に選ばれた者たちに、「人はパンと水だけで
生きるものではなく、主の口から出る一つ一つの言葉によって生きるもの
である」ことを思い出させます。そしてこの言葉は、神の命令に従ってモ
ーセによって書かれた巻物の形でもそこに表現されています。箱舟の上
にある救世主の祭壇は、イエス・キリストの命の進んでの犠牲への信仰がな
ければ、神とのつながりは不可能であると教えています。この一連の事柄
は、イエス・キリストによって流された人間の血の上に確立された新しい
契約の神学的基礎を構成します。そして非常に論理的には、彼の中で神の
計画が達成され達成された日、それを預言した「ヨム・キプール」または
「償いの日」の象徴と祭りの役割は時代遅れで役に立たなくなりました。
現実に直面すると影は薄れます。だからこそ、預言の儀式が行われた神殿
は消滅し、二度と現れることはなかったのです。イエスが教えたように、
神の崇拜者は「霊と真理において神を崇拜し、イエス・キリストの仲介
を通じて神の天の御霊に「自由にアクセス」できる必要があります。そし
てこの崇拜は、サマリアでもエルサレムでも、さらにはローマ、サンティ
アゴ・デ・コンポステーラ、ルルド、メッカなど、地上のいかなる場所
にも執着していません。

信仰は地上の場所に結びついてはいませんが、神が地上に住んでい
る間に神の選民のために事前に準備しておいた行いによって実証されます
。聖域の象徴性は、4,000 年間の罪の後、5
千年紀の初めに終わりました。そして、もし神の計画が4000年かけて構築
されていたとしたら、選ばれた人々は毎週の安息日までに預言された神の
安息の中に入ることができただろう。しかし、これは事実ではありません
でした。なぜなら、ゼカリヤ以来、神は二つの同盟を預言してきたからで
す。彼は 2 番目について詳しく説明し、ザカ 2:11
で次のように述べています。わたしはあなたがたの間に住み、あなたは万
軍の主がわたしをあなたのもとに遣わされたことを知るだろう。 » 2
つの同盟は、ザカ 4:11 ~ 14
の「2本のオリーブの木」によって例証されています。私はもう一度話し
、彼に言いました。金が流れる2本の金色の導管の近くにある2本のオリー

ブの枝は何を意味しますか？彼は私にこう答えました。「意味が分からないのですか？」私は言います：いいえ、閣下。そして彼は言った、「この二人は全地の主の前に立つ油そそがれた二人である。」これらの聖句を読むと、聖書の言葉にインスピレーションを与えた創造主である聖霊の崇高な繊細さを発見します。ゼカリヤは神にとって「二本のオリーブの木」が何を意味するのかを二度尋ねて答えることを余儀なくされます。これは、神聖な同盟のプロジェクトは2

つの連続した段階を経験することになりますが、第 2
段階は最初の段階の教訓によって教えられるからです。それらは 2
つありますが、2 番目は最初の頂点にすぎないため、実際には 1
つだけです。実際、メシアであるイエスの贖いの死がなければ、古い契約に何の価値があるのでしょうか。修道士マルティン・ルターが言ったような、何も、梨の尾さえありません。そしてこれが、今日でも国民的ユダヤ人に影響を与えている悲劇の原因です。これらの聖句の中で、神はまた、「それが何を意味するのか分からないのか」という質問に対するゼカリヤの答えによって、彼らが新しい契約を拒否することを預言しています。私は言います：いいえ、閣下。なぜなら実際、国民的ユダヤ人は、イエス・キリストの再臨に先立って、自分たちの存在を犠牲にして回心するか拒否を確認する最後の試練の瞬間まで、この意味を無視するからである。

明らかに、異教の人々のキリスト教への改宗は、神の計画が確かにイエス・キリストという人格において達成されたことを証明しており、これは神が依然として国民ユダヤ人に神聖な同盟に留まるよう提供している唯一のしるしである。このように確認されたように、この第二の、つまり新しい契約は、地上の罪の時代の6000年間の最後の3分の1に及ぶことになっていました。そして、イエス・キリストが第二の契約の完成の時を示すのは、その最後の栄光の帰還によってのみです。なぜなら、私たちは神の輝かしい再臨の時期、つまり2030年の春の初めについて神に知る義務があるので、この再臨まで、象徴によって預言された教えは、神が準備された計画全体を理解するのに有用であり続けるからです。神は選ばれた者たちに対して、ヘブライ語の聖所とソロモンの神殿の象徴に刻まれた教訓を活用されます。彼は、321年3月7日以来コンスタンティヌス帝から受け継がれてきたカトリックの日曜日の罪を非難し、新たな「聖域の浄化」の必要性を示唆しており、それは十字架につけられ復活したイエス・キリストにおいてきっぱりと真に達成された。実際、神は「ローマの日曜日」に対するご自身の非難をより明確に非難するために、1844年まで待っていました。なぜなら、ダニエル書第 8 章 12 節に与えられた告知に従って、その採用により、もともと純粋なキリスト教信仰が神との関係を断ち切る罪の呪いの下に置かれたからです。

したがって、聖化は必然的に、神が地球システムを創造した最初の週の終わりから神によって聖化された聖なる安息日への敬意を意味します。特にそれは、イエスの勝利によって得られる安息への選ばれた者が入る

ことを預言しており、最も聖なる場所、聖所、神の象徴であるあかしの箱に含まれている神の十戒の4番目に存在しているからです。天の神の御霊は三度聖であり、父、子、聖霊という三つの連続する役割を完成させた神聖なものです。そこにあるものはすべて神の心にとって大切なものであり、神の選民、子供たち、神の「家」の人々の思いや心にとっても同様に大切なものでなければなりません。このようにして、選ばれた者の真の聖性の選択が確立され、識別されます。

神の計画の推進に合わせて修正されるモーセの律法とは異なり、石に刻まれたものは世の終わりまで永遠の価値を持ちます。そしてこれは十戒の場合にも当てはまり、教皇ローマが十戒の第二番目についてあえてそうしたように、そのどれも変更することはできず、ましてや削除することはできない。候補者を永遠に欺こうとする悪魔の意図は、10という数字を守るための戒めの追加に現れている。しかし、生き物、彫像、または表現物にひれ伏すことに対する神の禁止は確かに取り除かれました。私たちはこの種のことを後悔することがありますが、それでも、誤った信仰を明らかにすることができます。理解しようとせず、論理的に表面的なことに留まる人は、自分の行動の結果に苦しみます。彼は神からの有罪判決が下されるまで、自分の裁きの条件を無視します。

神社とか聖地とか

天から見た宗教的な天上の側面を離れて、宗教的な神聖さが地上に与えるものの下でそれを見てみましょう。私たちはそれを「ヤハウエの家」の「神殿」部分に配置された要素の中に見出します。モーセの時代の幕屋では、この部屋が会見の天幕でした。これらの要素は 3 つあり、それらはショブレットのテーブル、7 本の管と 7 つのランプを備えた燭台、そして部屋の中央のベールのすぐ前に置かれた香の祭壇に関係しています。外から見て、パンの台は左側の北にあり、燭台は右側の南にあります。これらのシンボルは、イエス・キリストによって流された血によって贖われた選ばれた者の人生の中で形を成す現実のシンボルです。それらは完全に補完的であり、切り離すことはできません。

7つのランプが付いた金色の燭台

出26:35:

「幕屋の南側、幕屋の外にテーブルを置き、テーブルの反対側に燭台を置きなさい。そしてテーブルを北側に置くようにしてください。」

寺院内では、左側の南側に置かれています。シンボルは時間の経過とともに南から北に読み取られます。燭台は古い契約の初めからの神の御霊と光をイメージしています。聖なる同盟はすでに、*過越*の「神の子羊」の犠牲に基づいており、アダム以来、犠牲として捧げられた子羊や若い雄羊が象徴され、それに先立って行われてきました。黙示録 5:6 では、燭台のシンボルがそれに取り付けられています。「*全地に遣わされ*

指導者の利益のために転用されます。神は魂を失ったご自分の僕たちを失います。その神聖な完全性において、キリストにおける神だけが彼のとりなしを正当化できるのです。なぜなら、神はとりなしをする人々への身代金として、愛と正義を同時に代表する神の裁判官にとって心地よい香りをもたらす自発的な同情の犠牲を差し出すからです。時間も彼のとりなしは自動的なものではなく、嘆願者がそれに値するかどうかに応じて、それを実行するかしないかに応じて行われます。イエス・キリストのとりなしは、選ばれた人々の生来の肉の弱さに対する彼の同情によって動機づけられています。誰も彼を欺くことはできず、正義と義をもって裁き、戦い、真の崇拜者と奴隷を認識します。彼の本当の弟子とは何なのか。儀式において、香水はイエスの心地よい香りを象徴しており、イエスは神に心地よい香りで忠実な聖徒たちの祈りを捧げることができます。原理は、食べる料理に味付けをするのと似ています。勝利を収めたキリスト、地上の大祭司の預言的なイメージは時代遅れとなり、彼が宗教的儀式を実践する神殿とともに消滅するに違いありません。この後もとりなしの原則は残ります。なぜなら、聖人たちによって神に向けられた祈りは、天のとりなし手であるイエス・キリストの御名と功績によって、同時に満ち溢れる神によって提示されるからです。

シューブレットのテーブル

寺院内では、右側の北側に置かれています。シューブレットは、イエス・キリストの命を構成する霊的栄養、選ばれた者に与えられる真の天のマナを表しています。完全に神 (= 7) で完全に人間 (= 5) であるイエス・キリストにおいて達成された神と人間の同盟には 12 の部族があるのと同じように、12 のパンがあります。12という数字は神と人間との間のこの同盟の数字であり、イエス・キリストはその応用であり、完璧なモデルです。神が12人の族長、イエスの12使徒、黙示録7章に封印された12部族に基づいて同盟を築くのは彼にかかっています。

「神殿」の北への向きを読むと、このテーブルは新しい契約の側、そして聖所の左側に置かれた大きなケルブの側にあります。

広場

犠牲の祭壇

黙示録

11

章

2

節で、聖霊は聖所の「中庭」に特別な運命があるとしています。「しかし、神殿の外庭はそのままにしておいてください。」

屋外で測定しないでください。それは諸国民に与えられたものであり、彼らは四十二ヶ月にわたって聖都を足で踏みにじるであろう。」

「中庭」とは、聖地または屋根付き神殿の入り口の前にある外の中庭を指します。そこには、人間の肉体的な側面に関わる宗教的儀式の要素が見ら

れます。まず、犠牲の動物が焼かれる犠牲の祭壇があります。完全な犠牲を行うために来られたイエス・キリストが来られて以来、この儀式は廃れ、ダン 9:27 の預言に従って終わりました。彼は犠牲と捧げ物をやめさせます。破壊者は破滅と解決されたものが破壊者に降りかかるまで、最も忌まわしいことを犯すだろう。」ヘブライ人への手紙 10:6 から 9 で、そのことは次のように確認されています。「あなたは罪のために全焼のいけにえや犠牲を受け入れていません。それから私は言いました：見よ、私は来ます（本の巻物の中で私について語られています）おお神よ、あなたのご意志を行うために。最初にこう言った後、「いけにえといけにえはあなたが望まず、受け入れなかった。全焼のいけにえも罪のいけにえ（律法に従ってささげられる）もだめだ。見よ、わたしはあなたのご意志を行うために来た。」と言いました。したがって、彼は最初のものを廃止して、二番目のものを確立します。この意志のおかげで、私たちはイエス・キリストの体を捧げることによって、きっぱりと聖化されるのです。」

「ヘブライ人への手紙」の著者とされるパウロは、イエス・キリストの口述筆記を受けてこの手紙を書いたようです。これは、その計り知れない光と比類のない精度を正当化します。確かに、イエス・キリストだけが直接彼にこう言うことができました。「（巻物の中でそれは私のことです）」。しかし、詩篇 40 篇の本文の 8 節には、「巻物が私のために書かれた」とあります。したがって、この修正は、聖霊によって直接準備され、指示され、アラビアで3年間孤立していたパウロに対するキリストの個人的な行為によって正当化されます。そして、これは神の命令に従ってモーセが書いた巻物にすでに当てはまっているということを思い出してください。

海、お清めのタンク

広場の

2

番目の要素は、洗礼の儀式の前兆である清めのタンクです。神はその名前に「海」という言葉を与えました。人間の経験において、海は「死」と同義です。彼女は洪水でアンティルヴィア人を飲み込み、モーセとそのヘブライ人を追撃していたファラオの騎兵隊をすべて溺死させた。洗礼では、必然的に完全な水浸しで、罪深い老人は死んで、完全な正義を彼に押し付けるイエス・キリストによって贖われ、再生された新しい生き物として水から現れることになっています。しかし、これは理論上の原則にすぎず、その適用は自己主張する候補者の性質によって異なります。彼は洗礼を受けるイエスのように、神のご意志を行うために来るのでしょうか？反応は人それぞれであり、イエスは場合に応じて自分の正しさを非難するか、非難しません。確かなことは、自分の意志を実行したい人は、その違反が罪となる聖なる神の律法を喜びと感謝の気持ちを持って尊重するということ

です。もし彼がバプテスマの水の中で死ななければならぬとしても、人間の肉の弱さのため偶然でない限り、彼がキリストに仕えるために生まれ変わることに疑問の余地はありません。

このようにして、罪が清められ、古い契約の祭司のようにイエス・キリストの帰属された義を身に着けたクリスチャン選民は、聖所や神殿に入り、イエス・キリストにあって神に仕えることができます。したがって、真の神聖な宗教の道は、この絵の構造によって明らかにされます。なぜなら、これらは単なる象徴であり、現実には、義とされた選民が人々、天使、そして創造主である神の前にもたらす作品の中に現れるからです。

神の計画は映像で預言される

神はご計画の中で、聖所、つまり至聖所の贖罪の座に運ばれたイエス・キリストの血を通して、選ばれた人々の罪を取り除きました。1982年までエルサレムのゴルゴタ山の遺跡で例外的な発掘許可が与えられていたアドベンチストの看護師考古学者ロン・ワイアットは、十字架の下6メートルの地下洞窟にある救世主の座の左側にイエスの血が実際に流れていたことを明らかにした。キリストの十字架のこと。ゴルゴダの丘の麓で起きた出来事。司祭の儀式では、聖なる場所に置かれた司祭は、最も聖なる場所である聖所に設置された慈悲の座と天的なものに面します。したがって、人間の左側にあるものは神の右側にあります。同様に、ヘブライ語は人間の右から左に書かれ、南北の方向、つまり神の左から右に書かれます。したがって、二つの契約の計画は、この最も神聖な場所を人間の右から左に読んで書かれています。あるいは神にとってはその逆。古い契約のユダヤ人は、右側の聖所にあるケルビムの象徴的な像の下で神に仕えました。彼らの同盟中、「償いの日」に殺されたヤギの血が正面と慈悲の席に振りかけられました。東に向かって大祭司が指で七回振りかけた。古い同盟が彼の貯蓄プロジェクトの東段階であったことは事実です。赦されるべき罪人たち自身も東のエルサレムにいました。イエスが血を流した日、それはこの同じ慈悲の座に落ち、彼の血と彼の正義に基づいて確立された新しい契約が、左側の南側にある2番目のケルブのしるしの下で始まりました。したがって、神から見て、この進行は、詩篇 110 篇 1 節に次のように書かれているように、神の左側から「右側」、つまり神の祝福の側に向かって起こりました。詩篇。主への主の言葉：
わたしがあなたの敵をあなたの足台にするまで、わたしの右に座れ。そしてヘブライ 7:17 の 4 節から 7 節を確認すると、次のように述べられています。主はあなたの右におられ、その怒りの日に王たちを打ち砕かれます。彼は国々の間で正義を行使します。すべてが死体でいっぱいです。彼は国中で頭を痛めています。彼は歩きながら小川の水を飲みます。それが彼が頭を上げている理由です。」このように、柔和だが公正なイエス・キリストは、あざける者や反逆者た

ちに、救い出された選民に対する同情心に満ちた愛の崇高な証しに対する軽蔑の代償を払わせているのである。

ヘブライ人が宮廷や神殿に入るとき、地球上のさまざまな場所で異教徒が時代を超えて崇拝していた「昇る太陽」に背を向けるように、神は聖域がその全長に沿って東方に建設されることを望んだ。西軸。したがって、至聖所の幅において、右の壁は「北」側に位置し、左の壁は「南」側に位置しました。

マタイ

23:37

で、イエスはご自身に「翼の下で雛を守るめんどり」のイメージを与えられました。鶏が羽の下に雛を集めるように、子供たちを集めなさい。でもあなたはその気がなかったのです！

」。これは、2つの連続する同盟のそれぞれについて、2

人のケルビムの広げられた翼が教えていることです。出エジプト記 19:4によると、神はご自身を「鷲」に例えられます。「あなたは、わたしがエジプトにしたこと、そしてわたしがあなたを鷲の翼に乗せてわたしのもとに連れて行ったことをご覧になったでしょう。」黙示録 12 章 14 節で、彼は「大鷲」について次のように述べています。そして半分は蛇の顔から遠く離れたところにありました。」これらの画像は、同じ現実を示しています。つまり、イエス・キリストの前と後の2回の連続した同盟において、神はご自分を愛しているため、ご自分の愛する人たちを守っておられるのです。

最後に、象徴的に、ヘブライ神殿はキリストの体、選ばれた者の体、そして集合的にキリストの花嫁、彼の選ばれた者、選ばれた者の集会を表しました。これらすべての理由から、神は神殿のさまざまな形式が神聖化され尊重されるように、衛生的な食事の規則を定められました。

1コリント6:19:

「あなたがたは、自分の内におられる聖霊の神殿であり、神から与えられたものであり、自分自身のものではないことを知らないのですか。」

ゴールド、ゴールド以外の何ものでもない

また、この基準の重要性にも注意しなければなりません。すべての家具や道具、ケルビム、そして内壁自体が金で作られているか、打ち出された金で覆われています。金の特徴は、その不変性です。これが神が与える唯一の価値です。彼が金を完全な信仰の象徴とし、その唯一かつ完全なモデルがイエス・キリストであったことは驚くべきことではありません。神殿と聖域の内部は、聖化によって宿ったイエス・キリストの霊の内面、つまり神の聖霊の純粹さをイメージしています。彼の性格は変えることができず、これが彼の罪と死に対する勝利の原因でした。イエスが示した模範は、神が選ばれた者全員が見倣うべき模範として神によって提示されたものです。これがその要件であり、永遠の天上の命、勝者の給与と報酬と個人的および集団的に両立するための唯一の条件です。ヨハネ第一 2 章 6 節に書かれているように、彼が持っていた価値観は私たちのものにならな

ければなりません。私たちはクローンのように彼に似なければなりません。「自分のうちにとどまると言う者は、彼が歩いたように歩まなければなりません。同じです」。金の意味は、ペテロ第一 1 章 7 節で私たちに与えられています。「朽ちる金（ただし、火によって試される）よりも貴重な信仰の試みが、賞賛、栄光、栄誉をもたらすかもしれない」イエス・キリストが現れるとき。神は選ばれた人々の信仰を試みます。金は変えることはできませんが、微量の不純物が含まれている可能性があります。それを除去するには加熱して溶かす必要があります。その後、スラグや不純物が表面に浮き上がり、除去することができます。それは、キリストが悪を根絶し、彼らを清め、さまざまな試練にさらす、救われた弟子たちの地上生活の経験のイメージです。そして、彼らの人生の終わりに彼らの永遠の運命が偉大な裁判官イエス・キリストによって決定されるのは、試練での勝利という条件の下でのみです。この勝利は、ヨハネ 15:5-6 と

10-14 で彼が次のように宣言されたように、彼の支持と助けによってのみ獲得できます。私のうちに留まる者、そして私が留まる者は多くの実を結びます。なぜなら、私なしではあなたは何もできないからです。誰かが私の中に留まらないなら、その人は枝のように投げ捨てられ、枯れてしまいます。それから枝を集めて火の中に投げ込むと燃えます。」神の戒めに従うことが求められます。「もしあなたが私の戒めを守るなら、私が父の戒めを守り、神の愛の中に留まるのと同じように、あなたも私の愛の中に留まるでしょう。」

」。友人のために死ぬことは、昇華された愛の規範の完璧な頂点となる。「これが私の戒めである。私があなただけを愛したように、互いに愛し合いなさい。」友人のために命を捨てることほど大きな愛はありません。」しかし、イエスによるこの承認には条件付きです。「わたしの命令を守るなら、あなたたちはわたしの友達です。」

ちなみに、7

つのランプが付いた燭台は純金で作られていました。そのとき、彼はイエス・キリストの完全性を象徴することしかできませんでした。その後、ローマ・カトリック教会で発見された金は、その誤った信仰の主張を反映しています。対照的に、プロテスタントの寺院からはあらゆる装飾が取り除かれ、質素で厳格なものになったのはこのためです。聖所と神殿の象徴において、金の存在は、聖所が神聖なイエス・キリストのみを表現できることを証明しています。しかし、それを拡張して、エペソ 5:23-24 では、彼は頭であり、彼の体である教会の頭であると書かれています。「キリストが教会の頭であるように、夫も妻の頭だからです」それは彼の体であり、彼はその肉体の救い主です。

さて、教会がキリストに従うのと同じように、妻もすべてのことにおいて夫に従わなければなりません。 >

しかしその後、聖霊は次のように指定します。「夫たちよ、キリストが教

会を愛し、この教会を作るために水のバプテスマによって彼女を清めた後、言葉によって彼女を聖別するために彼女のためにご自身を捧げられたように、妻を愛してください。」彼の前では、シミやしわなどはなく、神聖で非の打ちどころのない栄光に満ちた姿で現れます。」。ここに、真のキリスト教の宗教が何で構成されているかが明確に表現されています。それはすべての現実で実践されているため、その基準は理論的なものだけではありません。彼の明らかにされた「言葉」の基準への同意が必要です。それには神の戒めと儀式を守り、神の聖書預言の中で明らかにされている奥義を知ることが含まれます。選ばれた者の「とがめられない、またはとがめられない」というこの基準は、黙示録 14:5 で思い出され、確認されており、そこではそれがキリストの真の最終再臨の「アドベンチスト」聖徒たちのものであるとされています。これらは、Rev.7 の「神の封印」で封印された「 144,000 」のシンボルによって指定されています。彼らの経験は全体の経験です。聖化。この研究は、幕屋、聖所、神殿、そしてそれらのすべての象徴が神の偉大な救いの計画を預言していたことを示しています。彼らは人類に啓示されたイエス・キリストの地上での宣教の現れの中に自分たちの目的と成就を見出しました。したがって、選ばれた者が彼と維持する関係は、預言的な性質と性格を持っています。無知な人間は、すべてを知っている創造主である神に身を委ねます。自分の未来を築き、それを明らかにしてくれる人。

ソロモン王によって建てられた神殿の研究は、人間がアクセスできる「神殿」の部分と、天の神のみに予約されている「聖域」を混同してはならないことを示しました。この結果、ダニエル書 8 章 14 節で「聖さ」という言葉の代わりに使われた「聖所」という言葉は、今回は正当性をまったく失います。なぜなら、それは 1843 年に清めの必要のない天上の場所に関するものだからです。そしてその逆です。

「聖性」という言葉は、聖化されるために、あるいは神によって選ばれるために、地上での罪の実践から決別しなければならない聖徒たちに関係しています。

イエス・キリストの死により、「神殿」と「聖所」を隔てるベールは神によって引き裂かれましたが、聖徒たちの祈りだけが、イエスが彼らのために執り成してくれる天の聖所に靈的にアクセスできるようになりました。神殿の部分は、地上の選ばれた人々の集会所としての役割を継続することになっていました。1843 年にも同様であり、原則は更新されました。聖徒たちの「神殿」は地上に残り、天上のみの「聖所」では、選ばれたアドベンチストの選出者のみを支持して、キリストのとりなしが正式に再開されます。したがって、新しい同盟には、そのシンボルが消える「聖域」はもはや地球上にありません。残っているのは、救われた選ばれた者の靈的な「神殿」だけです。

浄化を必要とする唯一の汚れは、地上の人間の罪でした。彼らの罪はどれも天を汚すものではなかったからです。悪魔とその反抗的な悪霊たちの存在だけがこれを行うことができました。だからこそ、イエス・キリストはミカエルにおいて勝利を収めて、彼らを天から追放し、死ぬまでそこにいなければならない罪の地に投げ込まれたのです。

神聖さの象徴性について議論した後、理解すべきことがもう 1 つあります。これらのシンボルは神聖ですが、単なる物質的なものにすぎません。真の聖さは生きている者の中にあります。そのため、イエス・キリストは、地上の罪人によって傷つけられた神の律法、神の性格のイメージ、そして神の正義を守るためだけに存在した神殿以上のものでした。神がモーセとその働き者たちにこれらのことを達成させたという、ご自分の選ばれた人々の教えの裏付けとしてのみ機能します。

1982年に神は、偶像崇拝的な行為を避けるために、その僕ロン・ワイアットという男に、自分の証の箱を見つけて触れることを許可しました。なぜなら、「預言の霊である」

「イエスの証」の方がはるかに優れているからです。それは彼にとって、地上で選ばれた者たちのために用意された救いのプロジェクトの意味を明らかにするために自ら来てから、さらに有益なものとなりました。ロン・ワイアットは、天使によって箱舟から取り出された十戒を撮影することを許可されましたが、フィルムを保管することを拒否しました。これらの事実は、神がその拒否を事前に知っていたことを証明していますが、この選択は、そのような録音がより弱い立場にある選民の一部に生じた可能性のある偶像崇拝から私たちを守ってくれます。この現実には私たちに明らかにされたので、私たちはそれを愛の神から与えられた素晴らしい特権として心の中に留めておきます。

創世記の分離

この書の研究により、ダニエルと黙示録の預言に隠された秘密が明らかになりましたが、今度は、「始まり」を意味する言葉である創世記の中で明らかにされた預言を発見できるように手助けしなければなりません。

注意

!!! 創世記のこの研究で私たちが注目する証言は、それを神の僕モーセに口述筆記した神の口から直接出たものです。この物語を信じないことは、神に対して直接できる最大の非道であり、天国への扉を決定的に閉ざす非道である。なぜなら、それは「信仰がなければ、神に喜ばれることは不可能である」ことを明らかにするからである。ヘブライ人への手紙 11:6。

イエスは、黙示録のプロローグでこの表現を強く主張しました。「わたしはアルファでありオメガであり、始まりであり、終わりである。」
黙示録 22:13

の黙示録の最後で再び引用されています。私たちは創世記の預言的性格、特に 7,000 年を預言する 7 日の週についてすでに述べました。ここでは、これから見るように、この創世記を特に特徴づける「分離」というテーマの側面からこの創世記にアプローチします。

創世記 1

1日目

創世記 1:1: 「初めに神は天と地を創造した」

「始まり」という言葉が示すように、「地球」は確かに、それ以前の天上の生命の形態と並行して、新しい次元の中心および基礎として神によって創造されました。画家のイメージで言えば、彼にとってそれは新しい絵画の創造と創造を実行することです。しかし、「天と地」はその起源から分離されているということをすでに述べておきます。

「天」は空で暗く無限の星間宇宙を指します。そして、「地球」は水で覆われたボールの形で現れます。

「地球」は、この特定の地球次元の創造の始まりまたは「始まり」に創造されるため、創造の週以前には存在しませんでした。それは無から生まれ、最初の創造物が天で犯した罪の根源である自由のために必要となった役割を果たすために、神の命令によって形を作ります。イザヤ書 14 章 12 節で「明けの明星」と「夜明けの子」という名前で示されている人は、神の権威に挑戦して以来サタンとなっています。それ以来、彼は既存の天界の反乱軍陣営と将来の地上の陣営のリーダーとなっています。

創世記

1:2:

「地には形がなく、空っぽでした。深みの面には闇があり、神の霊が水の上を動いていました。」

画家がキャンバスに背景レイヤーを適用することから始めると、神はすでに創造された天上の生活とこれから創造される地上の生活に蔓延する状況を提示します。したがって、彼は自分の承認が得られないものすべてを「闇」という言葉で指定し、絶対的な反対として「光」と名づけます。この聖句が、その側面が複数であるため常に複数形である「闇」という言葉と、生命の形を持たない地球を指す「深淵」という言葉との間に確立されているつながりに注目してみましょう。神はこのシンボルを用いてご自分の敵を指定しました。黙示録 11:7
では「神を知らない」革命家と自由思想家、黙示録 17:8
では教皇カトリックの反逆者たちです。しかし、反抗的なプロテスタントは1843年に彼らに加わり、次々と黙示録9章11節の「深淵の天使」であるサタンの支配下に置かれました。

1995年に不忠実なアドベンチティズムがそれに加わりました。

この聖句で示されているイメージでは、「闇」が「神の霊」を「水」から隔てていることがわかります。水は、ダニエルと黙示録で、象徴の下に「民族、国家、異言」の大衆を象徴的に預言します。ダニエル 7:2-3と黙示録13:1 では「海」、黙示録 8:10、9:14、16:12、17:1-15では「川」の項の下にあります。この別れはやがて、イブとアダムが犯した原初の「罪」が原因であることが判明するでしょう。与えられたイメージのように、神は神の権威に挑戦するというサタンの選択に従う反逆的な天使たちに付随する闇の世界と肩を並べます。

創世記 1:3: 「神は言われた、「光あれ！」そして光は

ご自身の主権的な判断に従って「善」の基準を定められます。この「善」という選択肢は、誰にでも目に見えるその輝かしい側面から「光」という言葉にリンクされており、善は悪を遂行するために人を隠す「恥」を生じさせないため、機能します。この「恥」は、創世記 2 章 25 節と比較して、創世記 3 章によれば、罪を犯した後にアダムが感じることになります。

創世記

1:4:

「神は光が良いものであることをご覧になりました。そして神は光と闇を分けました。」

これが神によって示された最初の裁きです。彼は「光」という言葉によって呼び起こされる善を選択し、「闇」という言葉によって示される悪を非難することを明らかにします。

神は私たちに、ご自身の地上の創造の目的、したがって神の計画が達成する最終結果、つまり神の「光」を愛する人々と「闇」を好む人々の決定的な分離を明らかにしておられます。

「光と闇」は、神がすべての天上および地上の被造物に与えようとした自

由の原則によって可能になった 2 つの選択です。これら 2 つの対立する陣営には、最終的には 2 人の指導者がいます。イエス・キリストは「光」、サタンは「闇」を表します。そして、これら 2 つの対立する陣営も、地球の 2 つの極と同様に、2 つの異なる絶対的な目的を持つこととなります。黙示録 21:23 によれば、選ばれた人は神の光の中で永遠に生きるでしょう。そしてキリストの再臨によって滅ぼされると、反逆者たちは荒廃した地球上の「塵」となって終わり、再び創世記 1:2 の「深淵」となります。裁きのために復活した彼らは、黙示録 20:15 によれば、

「第二の死」の「火の湖」で焼き尽くされて決定的に滅ぼされます。

創世記 1:5:

「神は光を昼と呼び、闇を夜と呼びました。それで夕方があり、朝がありました。それが最初の日でした。」

この「初日」は、イエス・キリストの最終的な勝利と創造の再生まで、地上で互いに対峙する「光と闇」の選択によって形成される2つの陣営の決定的な分離に捧げられます。このように、

「最初の日」は、一週間全体で預言されている「7,000」年の間、神が反逆者たちに神と戦う許可を与えることによって「特徴づけられ」ます。したがって、それは、6000年にわたって不忠実な異教やユダヤ人の中で見られた偽りの神への崇拝のしるし、または「しるし」となるのに理想的であるが、特に「不征服者の日」が採用されて以来、キリスト教時代に見られた。321年3月7日、コンスタンティヌス1世の帝国権威によって課せられた毎週の休息日として「太陽」が定められました。このようにして、この日以来、現在の「キリスト教の」日曜日は「獣の刻印」となり、宗教的支援が続けられてきました。明らかに、創世記の「アルファ」は、「オメガ」の時代のイエス・キリストの忠実な僕たちに多くを提供するものがありました。そして、まだ終わっていないのです。

2日目

創世記 1:6:

「神は言われた、「水の間を広がりがあり、水と水とを隔てよ。」

「水と水」の分離の問題です。この行為は、

「水」によって象徴される神の被造物の分離を預言しています。この聖句は、天上の命と地上の命の自然な分離、そしてその両方において「神の子たち」と「悪魔の子ら」の分離が、それにもかかわらず、イエス・キリストの死によって示される裁きまで共に生きるよう求められていることを確認しています。反逆的な邪悪な天使たち、そして地球人のためにイエス・

キリストが栄光のうちに戻ってくるまで。この**分離**は、人間が天の次元にアクセスできないため、天の天使よりも少し劣って創造されるという事実を正当化するでしょう。地球の歴史は終焉に至るまでの長い選別の歴史となるでしょう。罪は無秩序を確立しましたが、神は選択的な選別を通じてこの無秩序を組織します。

創世記

1:7:

「そして神は大空を造り、その大空の下にある水を大空の上にある水から分けた。そして、その通りでした。」

与えられたイメージは、

「下にある水」によって預言されている地上の生命を、
「大空の上にある」天上の生命から**分離**します。

創世記

1:8:

「神はその広がりをもて天と呼ばれました。それで夕方があり、朝がありました。これは二日目でした。」

この空は、水を構成する 2 つのガス (水素と酸素) から形成され、地球の表面全体を取り囲み、人間が自然にアクセスできない大気層を指します。神はそれを目に見えない天上の生命の存在と結び付けていますが、これは悪魔自身がエペソ2:2で「空中の力の君」という名前を受け取ることになるためです。**空気の力の君主、反逆の息子**たちに今働いている**精神**によると、この世界のやり方。」彼が天界ですでに持っていた態度。

3日目

創世記

1:9:

「神は言われた、「天の下にある水を一箇所に集め、乾いた地を出現せよ。」そして、その通りでした。」

この時まで、「水」は地球全体を覆っていましたが、そこにはまだ、5^目に誕生する海洋動物の形は含まれていませんでした。この正確さ

は、創世記

6

章の洪水の作用にすべての信憑性を与え、水没した地球上に動物海洋生物の形態を広げることができるでしょう。そうすれば、そこで海洋の化石や貝殻を見つけることが正当化されるでしょう。

創世記

1:10:

「神は乾いた土地を地と呼び、水塊を海と呼びました。神はそれが良いことだとわかったのです。」

この新たな**分離**が神によって「良い」と判断されたのは、海と大陸を越えて、神はこの「海と陸」という二つの言葉に、それぞれカトリックキリスト教会とキリスト教プロテスタント教会を表す二つのシンボルの役割を与えているからである。改革派教会の。したがって、1170年から1843年の間に行われた彼らの**分離**は神によって「良い」と判断されました。そ

して、宗教改革の時代の忠実な僕たちに対するイエスの励ましは、黙示録
2 章 18 節から 29
節に明らかにされています。これらの聖句には、一時的な例外的な状況を
証言する 24 節と 25
節の重要な明確化が含まれています。この教義を受け入れず、彼らがサタ
ンと呼ぶところの深みを知らないテアティラの他のすべての人たちに、私
はあなたたちに言います。私はあなたたちにこれ以上の重荷を課していま
せん。

私があるまで、持っているものだけ持っていてください。」この再編成を
通じて、神は再び、反逆的な天使と人間の霊によって生み出された無秩序
に秩序をもたらします。このもう 1
つの教えに注意してください。「地球」は地球全体にその名前を与えます
。なぜなら、「乾燥した」環境は、この創造物が神によって造られた人間
の生活のための自然環境として準備されているからです。海洋表面は乾燥
した地球の表面よりも4倍大きいため、この惑星は「海」という名前を採
用するのが当然であったかもしれませんが、神の計画では正当化されませ
んでした。この「ことわざ」の言葉、「鳥は群がり、羽毛の鳥は群がる」
は、これらのグループに見られます。このようにして、1170年から1843年
の間、忠実で平和的なプロテスタントは、真の7日目の土曜日の安息日へ
の従順なしに、例外的に彼らに課せられたキリストの正義によって救われ
ました。そしてダニエル書第 8 章 14
節によれば、この安息の要求こそが、「地」を 1843
年以來の偽りのキリスト教信仰の象徴としているのです。この神の裁きの
証拠は黙示録 10 章 5
節に現れています。イエスが「海と地」の上に「自分の足」を置き、怒り
でそれらを押しつぶされたからです。

創世記 1:11:

「それから神は言われた、「地は緑を生み、草は種を生み、果樹は種類に
応じて実を生み、その種を地に宿らせませうように。」そしてその通りにな
った。」

神が乾燥した土地に与えた優先順位が確認されています。まず、乾
燥した土地は、

「緑、種を生む草、種類に応じて実を結ぶ果樹」を「生産」する力を受け
取ります。すべてのものは、第一に人間の必要のために、第二に人間を取
り囲む陸生および天上の動物のために生産されます。地球のこれらの産物
は、神によってご自分の僕たちに教訓を明らかにするための象徴的なイメ
ージとして使用されます。人間は「木」と同じように、良くも悪くも実を
結びます。

創世記 1:12:

「地は緑を生み、草はその種類に応じて種を生み、木々はその種類に応じ

て実を結びその中に種を生みました。神はそれが良いことだご覧になりました。」

この

3

日^目には、神が創造した作品に何の欠点もありません。自然は完璧であり、「良い」と見なされます。大気と地球の完全な純粹さの中で、地球はその生産物を倍増させます。果物は地球に住むことになる人間、つまり人間や動物を対象としており、彼らはそれぞれの個性に応じて果物を生産します。

創世記

1:13:

「こうして夕方があり、朝があった。それは三日目であった。」

4日目

創世記

1:14:

「神は言われた、「空に光を灯して、昼と夜を分けなさい。それらを時、日、年を示すしるしにしましょう。」

「昼から夜」という新たな分離が現れます。この4日目まで、天体から日光が得られることはありませんでした。昼と夜の区別は、神が創造した仮想的な形で存在していました。神の創造物を神の存在から独立させるために、神は4日目に天の星を創造し、人間が星間宇宙におけるこれらの星の位置に基づいて暦を確立できるようにします。したがって、黄道帯の兆候は、その時代以前の占星術ですが、それに付属している現在の占い、つまり天文学なしで表示されます。

創世記

1:15:

「そして、それらを天の広がり¹の光とし、地に光を与えましょう。そして、その通りでした。」

「地球」は「夜」だけでなく「昼」によっても照らされなければなりません。なぜなら、「昼」の「光」は「夜」の「光」を超えなければなりません。なぜなら、それは万物の創造主である真理の神の象徴的なイメージだからです。それは生きている。そして、「夜、昼」の順序の継承は、彼の最愛で祝福された選民の敵でもあるすべての敵に対する彼の最終的な勝利を預言しています。

「地球を照らす」というこの役割は、これらの星に、創造主の神の名の下に提示された真実か嘘かを教える宗教行為の象徴的な意味を与えるでしょう。

創世記

1:16:

「神は

2

つの大きな光を創造されました。より大きな光は昼を支配し、より小さな光は夜を支配します。彼はスターも作りしました。」

この詳細に注意してください。「太陽」と「月」、「二人の偉大な発光者」を呼び起こすことによって、神は太陽を「最も偉大な」という表現で指定し、日食がそれを証明し、2つの太陽と月の円盤が私たちの前に現れます。同じサイズの下で、一方が他方を相互に覆います。しかし、それを創造した神は、その小さく見えるのは地球からの距離、つまり太陽は月の400倍大きいものの400倍遠いためであることを人間の前に知っています。この正確さによって、彼は創造主である神という最高の称号を確認し、肯定します。さらに、霊的なレベルでは、夜と闇の象徴である月の小ささとは比べものにならないほどの「偉大さ」を現します。これらの象徴的な役割の適用は、ヨハネ 1 章 9 節で「光」と名付けられたイエス・キリストに関係します。「この光は、世に来てすべての人を照らす真の光でした。」太陰暦に基づいて築かれた肉欲的なユダヤ人の古代の同盟は、「暗黒の」時代の兆候の下に置かれたことを指摘しましょう。これはキリストの初臨と再臨までです。ちょうど、消えゆく月が見えなくなる「新月の祝日」の祝いがキリストの太陽時代の到来を預言したのと同じように、マル 4:2 はそれを「義の太陽」に喩えています。わたしの名を恐れる者には、正義の太陽が昇り、癒しがその翼の下にあるでしょう。あなたは外に出て、馬小屋から子牛のように飛び降りるだろう...」。旧ユダヤ同盟の後、「月」は偽りのキリスト教信仰の象徴となり、321年と538年からカトリック、1843年からプロテスタント、1994年からは制度的なアドベンチストとなった。

この聖句には「星」についても言及されています。彼らの光は弱いですが、非常に多いので、それでも地上の夜空を照らします。したがって、

「星」は、1833年11月13日に星の降下が選ばれた人々に預言されるようになった黙示録6:13の「第6の封印」のしるしのように、立ったまま、または落ちる宗教的使者の象徴となります。この崩壊は、キリストの使者たち、すなわち「サルディス」からのメッセージの受信者にも関係しており、イエスは「あなたたちは生きてるとみなされ、あなたたちは死んでいる」と宣言されました。この墮落は黙示録 9 章 1 節で次のように回想されています。そして私は天から地に落ちた星を見た。深淵の穴への鍵は彼に与えられた。」プロテスタントが崩壊する前、黙示録 8 章 10 節と 11 節は、神によって決定的に非難されたカトリック教のそれを思い出させます。そして、たいまつのように燃える大きな星が天から落ちました。そしてそれは川の三分の一と水源に落ちました。 》 11 節には「よもぎ」という名前が付けられています。「この星の名前はよもぎです。そして水の三分の一はよもぎに変わり、多くの人が水のほとりて命を落とした。水が苦くなったからである。」このことは黙示録 12 章 4 節で確認されています。「彼の尾は空の星の 3 分の 1

を引きずり、それらを地に投げました。龍は出産を控えた女性の前に立ち
はだかり、出産した我が子を喰らおうとした。宗教の使者たちはその後、
黙示録8 章 12
節にあるフランス革命家の処刑の犠牲者になります。そして太陽の三分の
一、月の三分の一、星の三分の一が消え、三分の一が暗くなり、昼はそ
の光の三分の一を失い、夜も同様に消えた。あらゆる形態の宗教に敵対す
る自由思想の革命家の標的も、常に部分的に（第三に）「太陽」と「月」
です。

創世記 15 章 5
節で、「星」はアブラハムに約束した「種」を象徴しています。そして彼
は彼に言った、「これがあなたの種になります。」注意
！このメッセージは多くの量を示していますが、マタイ 22:14
によれば、神は「召された者は多いが選ばれた者は少ない」というこの群
衆の信仰の質については何も述べていません。「星」はダニエル 12:3
で再び選ばれた人々を象徴しています。「知的な人々は空の輝きのように
輝き、多くの人に正義を教える人々は星のように永遠に輝きます。」

創世記 1:17:
「神は地に光を与えるために、それらを空の広がり置いた。」
私たちはここで、「地球を照らす」という星の役割に対する神の主張に、
霊的な理由があることがわかります。

創世記 1:18:
「昼と夜を支配し、光と闇を分けるため。神はそれが良いことだとわかっ
たのです。」

、一方では「昼と光」、もう一方では「夜と闇」を結びつけること
によって、これらの星の霊的象徴的な役割を確認しています。

創世記 1:19:
「こうして夕方があり、朝があった。それは四日目だった。」
地球は光と太陽熱の恩恵を受けて、肥沃さと植物性食物の生産を確
保できるようになりました。しかし、太陽の役割は、イブとアダムが犯し
た罪の後で初めて重要になります。この悲劇的な瞬間までの人生は、神の
創造力の奇跡の力にかかっています。地上の生活は、罪があらゆる呪いと
ともに地球を襲うこの時期に備えて、神によって組織されています。

5日目

創世記 1:20:
「神は言われた、『水が生き物を豊かに生み出し、鳥が地を飛び、大空に
飛べるように』。』」

この 5
日目^目に、神は「水」に、現代科学ではすべてを列挙するのが難しいほど数
多く、多様な「生きた動物」を「豊富に生み出す」力を与えます。真つ暗

闇の深淵の底で、私たちは、光を点滅させ、光の強さや色さえも変化させる蛍光性の小さな動物の未知の生命体を発見しました。同様に、空の広がりには「鳥」の飛行のアニメーションを受け取ります。ここには、翼のある肉欲動物が空中を移動できるようにする「翼」のシンボルが表示されます。地上および天体の物理法則の影響を受けないため、シンボルを必要としない天霊にはシンボルが付けられます。そして、地球の翼のある種の中で、神はすべての鳥や空を飛ぶ動物の中で最も高度を上昇する「ワシ」のイメージをご自身に帰属させます。「鷲」は、ダニエル書 7:4 ではネブカドネザル王の帝国の象徴にもなり、黙示録8:13^{では}ナポレオン1世の象徴にもなっています。大きな声で、「災い、災い、地上に住む者たちにとって災い、今にも鳴り響く三人の天使のラッパの音のせいで！」この帝国政権の出現は、アポの最後の3つの「ラッパ」の象徴の下で西側諸国の住民を襲うことになる3つの大きな「不幸」を予言した。ダニエル 8:14 の法令が発効した 1843 年からの図 9 と 11。

「鷲」とは別に、他の「空の鳥」は天上の天使、善と悪を象徴します。

創世記

1:21:

「神は大きな魚と、動くすべての生き物を創造されました。水はそれらの種類に応じて豊かにそれらを生み出しました。彼はまた、翼のあるあらゆる鳥をその種類に応じて創造しました。神はそれが良いことだとわかったのです。」

神は海洋生物を罪の状態、つまり「最大の魚」が最小の食物を作る時代に備えます。これが計画された運命であり、各種の豊富な魚の有用性です。

「翼のある鳥」も食べ物を求めて殺し合うため、この原則から逃れることはできません。しかし、罪の前では、海の動物も鳥も他人に害を及ぼすことはなく、生命はそれらすべてに生命を与え、完全な調和の中で一緒に暮らしています。だからこそ神はその状況を「良い」と判断するのです。海の「動物」と「鳥」は罪の後に象徴的な役割を果たします。種間の死闘は、神がヘブライ人の司祭の沐浴の儀式で与えた「死」の意味を「海」に与えることになる。この目的で使用される容器には、キリスト教の洗礼を予感させる「紅海」の横断を記念して「海」という名前が付けられます。したがって、黙示録 13 章 1

節で神はそれに「海から現れる獣」という名前を与えることによって、ローマ・カトリックの宗教と、それを支持する王政が、魚のように隣人を殺して貪り食う「死者」の集合体であることを明らかにしています。

「海」から。同様に、ワシ、タカ、タカは、イブとアダム、そしてキリストの栄光のうちに戻ってくるまで、さらに多くの人間の子孫の罪のせいで、ハトとハトを食い荒らすでしょう。

創世記

1:22:

「神は彼らを祝福して言われた、「産めよ、増えよ、海の水を満たせ」。そして鳥が地上に増えますように。

神の祝福は、この文脈では海洋動物や鳥の増殖によって実現されますが、すぐに人間の増殖によっても実現されます。キリスト教会も信者の数を増やすよう求められています。そこでは神の祝福だけでは十分ではありません。なぜなら、神は呼びかけてはいるものの、救いの申し出に応じるように誰かを強制するものではないからです。

創世記

1:23:

「こうして夕方があり、朝があった。それは五日目だった。」

海洋生物は5日目に創造され、このように陸上生物の創造から切り離されていることに注意してください。これは、その呪われた背教的なキリスト教の最初の形態に関係する精神的な象徴性によるものです。321年3月7日以来、ローマのカトリック宗教が何を表すことになるのか。この日は、偽りの異教の安息日、最初の日であり「太陽の日」が採用された日であり、その後、日曜日、主の日と改名された。この説明は、5千年紀にローマカトリックが出現し、6千年紀にプロテスタントが出現したことで確認されています。

6日目

創世記

1:24:

「神は言われた、「地はその種類に応じて生きた動物、家畜、はうもの、そして地の動物をその種類に応じて生み出ささい。」そして、その通りでした。」

6日^目は陸生生物の創造によって特徴づけられ、それが海の後に「生きた動物を生み出す」種類に応じて、牛、匍匐性のもの、陸上動物の種類に応じて。「神はこれらすべての生き物の繁殖のプロセスを開始します。それらは地表全体に広がります。

創世記

1:25:

「神は、種類に応じて地の獣を、種類に応じて牛を、種類に応じて地を這うすべてのものを造られた。神はそれが良いことだとわかったのです。」

この聖句は、前の聖句で命じられた行動を確認します。今回は、神が地球上で生み出されたこの陸生動物の創造者であり監督であることに注目しましょう。海の動物と同様に、陸上の動物も人間の罪が終わるまでは調和して生きます。神は、象徴的な役割が創造されるこの動物の創造物を「良い」と考え、罪が確立された後、預言のメッセージの中でそれらを使用するでしょう。爬虫類の中でも「蛇」は悪魔が罪を煽る媒介として主役となります。罪を犯した後、地球の動物は種に対して種を滅ぼし合うこととなります。そして、この攻撃性は、黙示録13:11で、真の帰還によって正当化されるアドベンチスト信仰の究極の試練とい

う文脈において、プロテスタント宗教が神によって呪われた最後の状態にあることを示す「地から昇る獣」という名前を正当化するでしょう。ただし、プロテスタントは1843年以来、群衆に無視されてきたこの呪いを引き継いでいることに注意してください。

創世記

1:26:

「そこで神は言われた、『わたしたちに似せて、わたしたちの姿に似せて人間を造ろう。そしてその人に、海の魚、空の鳥、牛、そして世界を支配させようではないか』全地、そして地を這うすべてのものの上に。」

やってみましょう」と言うことで、神はその創造的な仕事に、彼の行動を目撃し、熱意に満ちて彼を取り囲む忠実な天使の世界を関連付けます。分離のテーマの下で、ここで、6日目にグループ化されている、陸上動物の創造物とこの節26で言及されている人間の創造物、神の名前の数字、ヘブライ語の4文字「ヨッド」を加えた数字に注目してください。 = 10 +, Hé = 5 +, Wav = 6 +, Hé = 5 = 26”；彼の名前を構成する文字は「YaHWéH」と音訳されています。

「神の似姿に造られた」「人間」アダムは、地上の創造物においてキリストの似姿として象徴的に彼を表すようになるので、この選択はなおさら正当化されます。神は彼に肉体的および精神的な側面、つまり善悪を判断する能力を与え、それが彼に責任を与えます。動物たちと同じ日に創造された「人間」は、神か動物、「獣」かという「似姿」の選択を受けることとなります。しかし、エバとアダムは、「動物」、「蛇」に誘惑されることにより、神から切り離され、「らしさ」を失うこととなります。神は人間に「地を這う爬虫類」に対する支配権を与えることによって、人間に「蛇」に対する支配権を持ち、したがって蛇に教えられないようにと招かれています。人類にとって悲しいことですが、エバは誘惑され、不従順の罪を犯されたため、アダムから孤立し、引き離されることとなります。

神は、地上で創造されたすべてのものと、そこに含まれ、海、地、空で生み出される命を人間に委ねます。

創世記

1:27:

「神はご自分に似せて人間を創造されました。神に似せて男と女を創造されました。」

6

日^目は他の日と同様に

24

時間続き、男性と女性の創作物は、彼らの創作物を要約するという教育目的でここにグループ化されているようです。実際、Gen.2

は、おそらく数日間かけて達成された多くの行為を明らかにすることによって、この人間の創造を取り上げています。したがって、この第 1

章の物語は、神が週の最初の 6

日間に与えたかった象徴的な価値観を明らかにする規範的な性格を帯びています。

今週は神の救いのプロジェクトをイメージしているため、さらに象徴的な価値があります。

「男」はキリストを象徴し預言し、「女」はキリストから立ち上げられる「選ばれた教会」を象徴します。さらに、罪を犯す前は、完全な状態では時間はカウントされず、人類の最初の罪が記録された最初の春に「6000年」のカウントダウンが始まるため、現実の時間は問題ではありません。完全な規則性で、12 時間の夜と 12 時間の昼が継続的に続きます。この聖句の中で、神はご自身の像に従って創造された人間の類似性を強調しています。アダムは弱いのではなく、力に満ちており、悪魔の誘惑に抵抗できるように創造されました。

創世記 1:28:

「そして神は彼らを祝福した。そして神は彼らに言われた、「産め、増え、地に満ち、地を従わせよ。」そして海の魚、空の鳥、そして地上を動くあらゆる生き物を支配せよ。」

このメッセージは、アダムとイブを原型とする神から全人類に宛てられたものです。動物と同様に、彼らも祝福され、人間を増やすために子孫を残すよう奨励されています。人間は神から動物に対する支配権を得ていますが、それは感傷や感傷的な弱さから動物に支配されることを許してはいけないことを意味します。彼らを傷つけてはならず、彼らと調和して生きなければなりません。これは、罪の呪いに先立つ文脈でのことです。

創世記 1:29:

「そして神は言われた、「見よ、わたしは全地の表面にある種を生むすべての草木と、その中に実を結ぶ、種を生み出すすべての木をあなたに与える。それがあなたの食物となるだろう。」

神は植物を創造する際に、植物、果樹、穀物、ハーブ、野菜の各種の種子の数を増やすことによって、ご自身の善良さと寛大さをすべて明らかにされます。神は、アダムの時代と同様に今日においても、生物全体と人間の魂にとって好ましい肉体的および精神的健康を促進する完全な栄養のモデルを人間に提供しています。この主題は 1843 年以来、神が選ばれた者たちの要求として神によって提示されており、食品が化学薬品、肥料、殺虫剤など、生命を促進するどころか破壊するものによって犠牲になっている終わりの日においては、さらに重要性を増しています。

創世記 1:30:

「そして、地のすべての獣、空のすべての鳥、そして命の息吹を持って地上を動くすべてのものに、わたしはあらゆる緑の草を食物として与えます。そして、その通りでした。」

この聖句は、この調和のとれた生活の可能性を正当化する鍵を示しています。すべての生き物はビーガンなので、自分自身を傷つける理由はありません。罪を犯した後、動物たちは食物を求めて互いに攻撃することが多く、その後何らかの形で死が動物たちを襲います。

創世記

1:31:

「神はご自分の造られたすべてのものをご覧になり、見よ、それはとても良かった。それで夕方があり、朝がありました。それは6日目でした。」

^目の終わりに、神は自分の創造物に満足し、地上に人間が存在したことにより、5^目の終わりには「良い」に過ぎなかったのに対し、今回は「非常に**良い**」と評価されました。

週の最初の6日を7日から**分離**するという神の意図は、この創世記

1章でそれらがグループ化されていることによって示されています。このようにして、彼はエジプトの奴隷状態から救出されたヘブライ人に当時の時代に提示する神の律法の第4^戒の構造を準備します。アダム以来、人間は毎週、地上での仕事をするのに週6日を与えられてきました。アダムにとって、物事は順調に始まりましたが、彼から創造された後、神から与えられた「助け手」である女性が、第3世代が明らかにするように、地上の創造物に罪をもたらすでしょう。アダムは妻への愛から禁断の果実を食べ、夫婦全員が罪の呪いに見舞われることとなります。この行動の中で、アダムは、彼の愛する選ばれた教会の罪を自分の代わりに分かち合い、償ってくれるキリストを預言します。ゴルゴタの山のふもとでの十字架上の彼の死は、犯した罪を償い、罪と死の征服者であるイエス・キリストは、ご自分の選ばれた者たちに完全な正義の恩恵をもたらす権利を獲得されます。こうして神は、アダムとイブ以来失われた永遠の命を彼らに提供することができるのです。選ばれた人々は、7^{千年紀}の初めに同時にこの永遠の命に入るでしょう。その時、安息日の預言的な役割が果たされます。したがって、この7日^{目の休息というテーマが、創世記の第2章で、第1章にまとめられた最初の6日間とは別に提示されている理由が理解できます。}

創世記 2

7日目

創世記 2:1: 「天と地とその全軍はこうして完成した。」

最初の6日間は「

7日目」から分けられます。これは、神による地と天の創造の働きが終わるからです。これは、最初の週に創造された生命の基礎を築く場合には当てはまりましたが、預言された7000年間についてはさらに当てはまります。最初の6日間は、神が6000年間悪魔の陣営とその破壊的な行為に直面する逆境の中で働くことを告げる。彼の仕事は、全人類の中から選ばれた者たちを自分に引き寄せることです。神は彼らに自分の愛のさまざまな証拠を与え、彼のすべての側面、すべての分野で彼を愛し、承認する人々を引き留めます。そうしない者は呪われ

た悪魔の陣営に加わることになるからです。引用された「軍隊」とは、「地」と「空の星」が象徴する「天」で互に対立し戦うことになる二つの陣営の生きた軍隊を指します。そしてこの選抜の戦いは6000年も続くだろう。

創世記

2:2:

「七日目に、神は自分が行った働きを終えた。そして七日目には、自分が行ったすべての働きを終えて休んだ。」

地上の歴史の最初の週の終わりに、神の休息は最初の教訓を教えます。アダムとエバはまだ罪を犯していません。これは神が真の安息を経験する可能性を説明しています。したがって、神の安息は、神の被造物に罪がないことが条件となります。

神によって計画された偉大な救いのプロジェクトの「**7番目**」千年紀のイメージであるこの「**7日目**」の預言的な側面に隠されています。

千年」と呼ばれる「**第**

7千年紀」への突入は、選ばれた者の選択の完了を示します。そして、神とその選ばれた者たちは生きて救われるか復活しますが、全員が栄光を受けて得られる残りは、イエス・キリストにおける神のすべての敵に対する神の勝利の結果です。ヘブライ語本文では、動詞「休む」は「安息日」と同じ語源からの「シャヴァト」です。

創世記

2:3:

「神は七日目を祝福し、それを神聖なものとされました。なぜなら、神は七日目に、そのために創造したすべての業を休んだからです。」

安息日という言葉は言及されていませんが、そのイメージはすでに「

7日目」の聖化の中に見られます。したがって、神によるこの聖化の原因をよく理解してください。彼女は、イエス・キリストにおける自分の犠牲が最終的な報いを受ける瞬間を預言する。それは、当時、殉教、苦しみ、剥奪の中で、多くの場合「死に至るまで」忠誠を証ししてくれた、彼女が選んだ人々全員に囲まれる幸福だ。そして「**第**

」**千年紀**の初めには、彼らは皆生きており、もはや死を恐れる必要はなくなります。神とその忠実な陣営にとって、これ以上に大きな「安息」の原因を想像できるでしょうか。神は、ご自分を愛する人々が苦しむのをもはや見ることはなく、彼らの苦しみを分かち合う必要もなくなり、私たちの永遠の週のそれぞれの「**第7安息日**」を神が祝うのはこの「休息」なのです。この最終的な勝利の果実は、イエス・キリストが罪と死に対して勝利したことによって得られるでしょう。彼は自分自身において、地上において、そして他の人間の間で、かろうじて信憑性の高い働きを行った。彼は自分の死を引き受けて自分の選んだ民を創造し、安息日はアダムから人類に、自分の義と永遠の命を彼らに提供するために罪を征服することを告げた。神を愛し、忠実に仕える者たち。黙示録

6

章

2

節が次のように宣言し、確認していることです。「私が見ると、見よ、白い馬が現れた。それに乗った人は弓を持っていました。彼に王冠が与えられ、彼は勝利を収めて征服するために出発した。」

7

千年紀への突入は、選ばれた者が神の永遠に参入することを示しています。そのため、この神聖な物語では、7

日目が「夕方があった、朝があった、朝があった」という表現で閉じられていません。

... 日。」ヨハネに与えられた黙示録の中で、キリストはこの第7千年紀を呼び起こし、それがそれに先立つ最初の6千年と同様、黙示録20:2-4によれば「千年」から構成されることを明らかにします。それは選ばれた者たちが呪われた陣営の死者を裁かなければならない天の裁きの時となるだろう。したがって、罪の記憶は、毎週末に預言される大いなる安息日の最後の「千年」の間、維持されることとなります。最後の審判だけが、7千年紀の終わりに、すべての墮落者が「第二の死の火の湖」で滅ぼされるとき、罪の考えに終止符を打つでしょう。

神は地上での創造について説明を与える

警告: 見当違いの人々は、創世記 2 章のこの部分を、創世記 1 章の物語と矛盾する第 2 章の証言として提示することで、疑念を植え付けます。これらの人々は、神が用いられた物語の手法を理解していません。彼は創世記 1 章で、創造の最初の 6 日間の全体を示しています。次に、創世記 2:4 からは、創世記 1 章で説明されていない特定の主題についての追加の詳細を提供するために戻ってきます。

創世記 2:4: 「これらは、天と地が創造されたときの起源である。」

罪というテーマはそれ自体で説明を受けなければならないため、これらの追加の説明は絶対に必要です。そして、これまで見てきたように、この罪というテーマは、神が地上と天上の業績に与えた形の中に遍在しています。週 7 日制の構造自体には多くの謎があり、それは時間がたてばキリストの選民に明らかになるでしょう。

創世記 2:5:

「主なる神が地と天を造られたとき、まだ地には野の低木も、野の草も芽を出していなかった。主なる神が地に雨を降らせなかったからである。地面を耕す人もいなかった。

YaHWéH

」という名前の出現に注目してください。モーセはこの啓示を、彼が「ヤハウエ」と呼ぶ神の命令に従って書きました。ここでの神の啓示は、エジ

プトからの出エジプトとイスラエル国家の創設を歴史的に参照しています。

これらの一見非常に論理的な詳細の背後には、予言されたアイデアが隠されています。神は「野原の低木や草本」という植物の成長を想起させ、そこに「雨」と「土を耕す」「人間」の存在を加えます。アダムの罪後の 1656 年、創世記 7 章 11 節では、「洪水」の「雨」が植物、「野の低木や草本」、さらには「人間」とその「作物」を破壊します。罪の激化。

創世記 2:6:

「しかし、地から蒸気が立ち上り、地表全体に水を与えた。」

神は何かを破壊する前に、罪を犯す前に、「地球はその表面全体に蒸気で水を注がれます」。その行為は穏やかで効果的であり、罪のない輝かしい完全に純粋な人生に適しています。罪を犯した後、天はその呪いのしるしとして破壊的な嵐と豪雨を送ります。

人間の形成

創世記 2:7:

「神ヤハウエは土の塵から人を造り、その鼻に命の息を吹き込まれた。すると人は生き物となった。」

人間の創造は、新たな分離に基づいています。つまり、「地球の塵」の一部が、神の似姿に造られた生命を形成するために取られます。この行動の中で、神は地上出身の選ばれた人々を獲得し、最終的に選び、その人々を永遠のものとするというご計画を明らかにされます。

神が人間を創造するとき、人間は創造主から特別な注意を払われる対象となります。彼は「地球の塵」から彼を「形成」しており、この単一の起源が彼の罪、彼の死、そして「塵」の状態への帰還を預言していることに注意してください。この神聖な行為は、「土の器」を形づくる「陶工」の行為に匹敵します。神がエレミヤ 18:6 とローマ 9:21 で主張するその像。さらに、「人間」の命は、神がその「鼻」に吹き込む「息」にかかっています。したがって、それは確かに肺の「呼吸」であり、多くの人が考える霊の呼吸ではありません。これらすべての詳細は、人間の命がいかにもろいものであるかを思い出させ、その寿命を延ばすために神に依存していることを私たちに思い出させます。それは永遠の奇跡の成果であり続けます。なぜなら、命は神の中でのみ、そして神のみの中に見出されるからです。

「人間はこうなった」のは神聖な意志によるものでした。生き物だ。」善人でも悪人でも寿命が延びるのは、ただ神がそれを許しているからです。そして死が彼を襲ったとき、依然として問題となるのは彼の決断です。

罪を犯す前、アダムは完全で罪のないものとして創造され、強力な生命力を持ち、永遠のものに囲まれて永遠の命に入りました。彼の創造物の形だけが彼の恐ろしい運命を予言しています。

創世記

2:8:

「それから神、主はエデンの東側に園を植え、そこに自分が造った人を置いた。」

庭園は人間にとって理想的な場所のイメージであり、そこには魅惑的な栄養的要素と視覚的要素がすべて集まっています。色あせず、無限に広がる心地よい香りの香りを失うことのない壮大な花。園で提供されるこの食べ物は、罪の前に食べ物に依存しない人生を構築するものではありません。したがって、人間は食べ物を唯一の楽しみのために消費します。

「神が庭を植えた」という正確さは、彼の生き物に対する彼の愛を証明しています。彼は人間にこの素晴らしい住む場所を提供するために庭師になります。

エデンという言葉は「喜びの園」を意味し、イスラエルを中心点として神はこのエデンをイスラエルの東に位置させます。人間はその「喜び」のために、創造主である神によってこのおいしい園に置かれています。

創世記

2:9:

「主よ」

神は地から生えるあらゆる種類の木を造られ、目にも美しく、食べ物にも適し、園の真ん中に生命の木、そして善悪の知識の木を造られたのです。

庭園の特徴は、複数の柔らかく甘い風味を持つ果物を構成する「すぐに食べられる」果物を提供する果樹の存在です。それらはすべて、まだ孤独なアダムの唯一の楽しみのためにそこにいます。

庭には、正反対の性格を持つ2本の木もあります。「庭の真ん中」の中央の場所を占める「生命の木」です。このようにして、庭園とその豊かな供物は完全にそれに結びついています。彼の近くには「善悪の知識の木」があります。すでにその名称の中で、「悪」という言葉は罪への接近を預言しています。そして、これらの二本の木は、罪の地で互いに対峙することになる二つの陣営のイメージであることが理解できます。すなわち、「命の木」によってイメージされるイエス・キリストの陣営と、その名の通り悪魔の陣営との対比です。

「木」は、その創造から「悪」がその創造主に対して反乱を起こさせる日まで、継続的に「善」を知っていた、または経験してきたことを示します。神が「神に対する罪」と呼ぶもの。これらの「善と悪」の原則は、

「生き物の完全な自由が生み出す2つの選択肢、または考えられる2つの極端な反対の結果であることを思い出してください。もし最初の天使がそうしなかったら、人間の行動に関する地上の経験がすでに証明しているように、他の天使たちは依然として反乱を起こしていたでしょう。

、人間の忠実さを試すためにそこにある「善悪の知識」の木がある。神にとって「知る」という動詞は、従順または不従順の行為に基づく「善悪」を経験するという極端な意味を持つため、この「知識」という用語はよく理解されなければなりません。庭の木は従順の試練を物質的に支えるだけであり、その実は悪を伝播するだけである。なぜなら、神が禁止事

項として木にこの役割を与えたからである。罪は果物にあるのではなく、神が果物を禁じていることを知りながら食べることにあります。

創世記

2:10:

「川はエデンから出て園に水を与え、そこから四つの支流に分かれた。」

エデンの園から出てくる川が「

4本の腕」に分かれるように、新たな**分離**のメッセージが提示され、このイメージは人類の誕生を予言しており、その子孫は4つの枢機卿の地点、または天からの4つの風のいずれかに普遍的に広がります。地球。

「川」は民族の象徴であり、水は人の命の象徴です。この「4つの腕」に分けることによって、エデンから出てくる川はその命の水が地球全体に広がります。この考えは、神の知識を地球の表面全体に広めたいという神の願望を預言しています。彼の計画は、創世記 10章によれば、大洪水が終わった後、ノアと彼の 3人の息子が分離することによって達成されます。これらの洪水の目撃者は、恐ろしい天罰の記憶を世代から世代へと伝えることになるでしょう。

洪水前の地球の視覚的な外観はわかりませんが、人々が分離する前、人の住む地球は、エデンの園から湧き出たこの水源によってのみ潤されている単一の大陸として見えたに違いありません。現在の内海は存在せず、1年間地球全体を覆った洪水の結果です。洪水が起こるまで、大陸全体はこれら 4

つの川によって灌漑され、その支流によって乾燥した地球の表面全体に真水が供給されていました。洪水の間に、ジブラルタル海峡と紅海が崩壊し、海洋からの塩水が侵入した地中海と紅海の形成が準備されました。神がご自分の王国を確立される新しい地には、黙示録 21:1によれば、死がなくなるのと同じように、海は存在しないことを知ってください。分裂は罪の結果であり、その最も激しい形態は破壊的な洪水によって罰せられます。このメッセージを読むと、その預言的な側面だけでも、川の「4本の腕」は人類を特徴づける4つの民族を示しています。

創世記

2:11:

「最初の名前はピションです。それはハビラの国全体を取り囲むものであり、そこで金が発見されます。」

ピションまたはフィソンという名前の最初の川の名前は、「豊富な水」を意味します。神が植えたエデンの園があった地域は、現在のチグリス川とユーフラテス川の源流がある場所だったに違いありません。ユーフラテス川からアララト山まで、チグリス川からおうし座まで。トルコの東と中央には、膨大な淡水の貯留を構成する巨大なヴァン湖がまだあります。神の祝福により、豊富な水は神の園の極度の肥沃度を促進しました。黄金で有名なハビラという国は、ある人によると現在のトルコの北東部に位置していました。現在のジョージア州の海岸まで広がっていました。しかし、創世記 10章 7節によれば、「ハビラ」は「クシュの息子」であり、彼自身が「クシュの

息子」であるため、この解釈には問題が生じます。

「ハムの息子」とは、エジプトの南に位置するエチオピアを指します。このことから、私はこの「ハビラ」という国がエチオピアかイエメンにあることを突き止めました。そこにはシバの女王がソロモン王に提供した金鉱があったのです。

創世記

2:12:

「この国の金は純粋です。ブデリウムやオニキス石もそこで見つかります。

「金」は信仰の象徴であり、エチオピアにとって神は純粋な信仰を預言しています。ソロモン王のもとに滞在した後、シバの女王の宗教的遺産を保存している世界で唯一の国となるでしょう。また、その利益のために付け加えておきたいのは、「キリスト教」西ヨーロッパの人々を特徴づけた宗教的闇の何世紀にもわたって独立が保たれていた中で、エチオピア人はキリスト教の信仰を守り、ソロモンの出会いによって受けた真の安息日を実践していたことである。使徒フィリポは、使徒 8:27-39 で明らかにされているように、最初のエチオピア人クリスチャンに洗礼を授けました。彼はキャンディス女王の宦官であり、国民全体が彼の宗教の教えを受けました。別の詳細は、この人々の祝福を証明しています。神は、有名な航海士バスコ・ダ・ガマによって行われ、自主的に決定された好戦的な行動によって、彼らを敵から守らせました。

エチオピアの皮膚の黒色を確認すると、「オニキス石」は色が「黒」で、二酸化ケイ素で構成されています。この国に更なる富を。なぜなら、今日ではトランジスタの製造にその用途が特に高く評価されているからです。

創世記

2:13:

「第二の川の名前はギホンです。それはクシュの地全体を取り囲むものである。」

「川」のことは忘れて、その代わりに川が象徴する人々を置きましょう。この2番目の人々は「クシュの地を取り囲んでいます」、つまりエチオピアです。セムの子孫はアラビアの地からペルシャにまで発展します。実際にはエチオピアの領土を取り囲んでいるため、「川」「ギホン」という名前で象徴され参照されます。末日において、この取り巻きはアラビアとペルシャの「イスラム教」です。したがって、創造の始まりの形状が、時間の終わりに再現されます。

創世記

2:14:

「三人目の名前はヒデケルです。それはアッシリアの東に流れる川です。4番目の川はユーフラテス川です。」

「ヒデケル」は「虎の川」を指し、指定される人物は「ベンガルトラ」に象徴されるインドでしょう。したがって、アジアとその東方文明は「黄色人種」として誤って指定されており、預言され、懸念されており、実際にそれは「アッシリアの東」に位置しています。第 12

節で、神はこの人食い「川」「虎」の象徴を用いて、1828年から1873年にかけて多数の霊的死を引き起こしたアドベンチストの試練を説明しました。

ユーフラテス」という名前は、花の咲く、実り豊かなという意味です。黙示録の預言では、「ユーフラテス川」は西ヨーロッパとその派生、アメリカ大陸とオーストラリアを象徴しており、神はその都市を「大いなるバビロン」と名付けたローマ教皇の宗教政権が支配していると示されています。このノアの子孫は、西はギリシャとヨーロッパに、北はロシアに広がるヤペテの子孫になります。ヨーロッパは、イスラエル国家の崩壊後、キリスト教信仰が良い面も悪い面もすべて経験した土壌でした。

「花の多い、実り豊かな」という形容詞は正当であり、前兆によれば、愛されていない女性レアの息子の数は、ヤコブが愛した妻ラケルの息子よりも多くなるでしょう。

このメッセージの中に、最終的な宗教的分裂にもかかわらず、これらの
4
つのタイプの地上文明には、その存在を正当化するために父と同じ創造主なる神がいたということ思い出させてくれるのは良いことです。

創世記 2:15:

「神である主はその人を取り、エデンの園に置き、それを耕し、保つようにされた。」

庭を「耕し、手入れする」という職業を与えます。この修煉の形式は私たちには分かりませんが、罪の前には疲れることなく行われていました。同様に、創造物全体にいかなる形の攻撃性もなく、彼の防御は極端に単純化されました。しかし、この警備員の役割は、すぐに現実的で正確な側面を持つことになる危険の存在を暗示していました。それは、この同じ庭園における人間の思考の悪魔的な誘惑です。

創世記 2:16:

「神である主は人間に次の命令を与えました。あなたは園のすべての木から取って食べてもよい。」

多数の果樹がアダムに自由に利用できるようにされています。神は、味や香りを変えることで食物の欲求を満たすという欲求を超えて、人間を満たしてください。神の申し出は素晴らしいものですが、それは神がアダムに与える「命令」の最初の部分にすぎません。この「命令」の2番目の部分は次に続きます。

創世記 2:17:

「しかし、善悪の知識の木の実を食べてはなりません。それを食べる日に、あなたは死ぬことになるからです。」

神の「命令」において、この部分は非常に深刻です。なぜなら、罪の結果である不従順が完了し、達成されるとすぐに、提示された脅威が容赦なく適用されるからです。そして、人類全体の罪の清算という計画が達成されるためには、アダムが墮落する必要があることを忘れないでください

い。これから何が起こるのかをよりよく理解するために、神が「善悪の知識の木」の実を食べてはいけない、あるいは、*善悪の知識の木*から養われてはいけないという「命令」を示して警告されたとき、アダムはまだ孤独であることを思い出しましょう。悪魔の考え。さらに、永遠の命という文脈において、神は「死ぬ」ということが何を意味するのかを彼に説明しなければなりません。なぜなら、この「あなたは死ぬ」という脅威がそこにあるからです。要約すると、神はアダムに森を提供しましたが、彼に一本の木を植えることを禁じました。そして、人によっては、この禁止だけでも耐えられない、ことわざにあるように、木が森を隠すときです。

「*善悪の知識の木*」の実を食べるということは、神とその正義に対する反逆の精神によってすでに動かされている悪魔の教えを食べることを意味します。なぜなら、

「*生命の木*」がイエス・キリストのイメージであるのと同じように、庭に置かれた禁断の「木」は彼の人物像だからです。

創世記

2:18:

「神ヤハウェはこう言われました。人間が一人であるのは良くない。私は彼が彼を好きになれるよう助けます。」

神はご自身の善性と悪魔の邪悪さを明らかにするために地球と人間を創造されました。彼の節約プロジェクトは、以下の事柄で私たちに明らかにされます。理解するには、人間は、自分自身が考え、行動し、話すのと同じように、人間に考え、行動させ、語らせる神の役割を自ら演じていることを知ってください。この最初のアダムは、パウロが新しいアダムとして提示するキリストの預言的な像です。

悪魔の邪悪さと神の善性を明らかにするには、アダムが罪を犯して地球が悪魔に支配され、彼の邪悪な行いが広く明らかにされる必要があります。夫婦という概念は、罪のために創造された地球上にのみ存在します。なぜなら、このようにして形成された二人組は、神聖なキリストと、その選ばれた者を指名する配偶者との関係を預言する霊的な理由によるものだからです。選ばれた者は、自分が神によって計画された救いの計画の犠牲者であると同時に受益者であることを知らなければなりません。彼女は神が悪魔を最終的に有罪にするために必要とされた罪の犠牲者であり、罪の存在に対する責任を認識して神自ら罪の代価を支払うため、神の救いの恵みの受益者である。イエス・キリストにおける罪。ですから、最初、神は孤独は良くないと考え、愛が非常に必要であるため、愛を得るために高い代償を払うことをいとわなかったのです。この会社、この対面、分かち合いを可能にするものを神は「助け」と呼び、人間は対応する人間の女性を呼び起こすときにこの言葉を使います。援助という点では、彼女は愛ゆえに彼を墮落させ、罪に導くでしょう。しかし、アダムのイブに対するこの愛は、永遠の死に値する選ばれた罪人に対するキリストの愛のイメージの中にあります。

創世記

2:19:

「神である主は、野のすべての獣と空のすべての鳥を地から造り、それを人間のもとに持って来て、神がそれらを何と呼ぶかを見るため、またすべての生き物がその名を持つことができるようにされた。」男はそれを与えるだろう。

自分より劣っているものに名前を付けるのは上司です。神はご自身にその名前を与え、アダムにこの権利を与えることによって、地上に住むすべてのものに対する人間の支配を確認しました。この地上の創造の最初の形態では、野の動物と空の鳥の種類が減り、洪水の前についでノアに彼らを導いたように、神はそれらをアダムのところに連れて行きます。

創世記

2:20:

「そして、その人はすべての牛、空の鳥、野のすべての獣に名前を付けました。しかし人間にとって、彼ほど助けとなる者はいなかった。」いわゆる先史時代の怪物は、海を含む地球全体を襲う神の呪いの結果を強化するために、罪の後に創造されました。無邪気な時代には、動物の生命は人間に有用な「牛」、「鳥」で構成されています。

「空の動物たち」と「野の動物たち」がより独立したものになります。しかし、このプレゼンテーションでは、彼はまだ存在していないため、人間の対応者を見つけていません。

創世記

2:21:

「それから神、主はその人に深い眠りを与えられたので、彼は眠りました。彼は肋骨の1本を取り、その場所で肉を閉じました。」

この外科手術に与えられた形態は、節約プロジェクトをさらに明らかにします。ミカエルでは、神は自分自身を天から消し去り、自分を善良な天使たちから離れて引き離します。これは、アダムが陥る「深い眠り」の標準です。肉体として生まれたイエス・キリストにおいては、神聖な肋骨が取られ、その死と復活の後、12人の使徒たちに「助け」を創造し、そこから肉の側面と罪を取り除き、誰に「聖なる助け」を与えるのか。精神"。この「助け」という言葉の霊的意義は大きい。なぜなら、この言葉が、救いの計画の実現と罪と罪人の運命の世界的な解決において「助け」の役割を教会、つまり選ばれた者たちに与えるからである。

創世記

2:22:

「神である主は、男から取った肋骨から女を造り、彼女を男のところに連れて来られた。」

したがって、女性の形成はキリストの選民の形成を預言しています。なぜなら、神は肉となって来ることによって、肉の本性の犠牲となり、ご自身の忠実な教会を形成されるからです。選ばれた人々を肉から救うために、神は肉の形をとらなければなりません。そしてまた、自分のうちに永遠の命を持っていたので、それを選ばれた者たちと分かち合うようになりました。

創世記

2:23:

「そして男は言った、「見よ、今度は、私の骨の骨、私の肉の肉である彼女を！」彼女は男性から取られたものであるため、女性と呼ばれるでしょう。」

「女性」という名前を付けた女性の対応者について言ったことと同じことを、ご自分の選ばれた者について言えるようにするためです。ヘブライ語ではこのことはより明白です。なぜなら、男性語である **man** は「ish」であり、女性語である **women** を表す「isha」になるからです。この行動で、彼は彼女に対する自分の支配を確認します。しかし、彼から奪われたこの「女」は、あたかも彼の体から奪われた「肋骨」が彼の元に戻ってきて、その代わりをしようとするかのように、彼にとってなくてはならない存在となる。このユニークな体験の中で、アダムは、母親が自分を胎内に宿して産んだ子供に対して抱く感情と同じように、妻に対して感じるようになるでしょう。そして、この経験も神によって生きられます。なぜなら、神が彼の周りに創造した生き物は神から出た子供たちだからです。それが彼を父親であると同時に母親にしているのです。

創世記

2:24:

「それゆえ、人は父と母を離れ、妻に固く結ばれ、二人は一体となる。」

この聖句の中で、神は、神に祝福された選ばれた者と絆を結ぶために、しばしば肉欲的な家族関係を断ち切らなければならないご自身の選ばれた者たちに対するご計画を表現しています。そして忘れてはいけないのは、第一に、イエス・キリストにあって、マイケルは天の父としての地位を捨てて地上に来て、選ばれた弟子たちの愛を勝ち取ったことです。これは、彼が罪と悪魔と戦うために神聖な力を使うことを放棄した程度のものでした。ここで私たちは、**分離と交わり**というテーマが切り離せないものであることを理解します。地上では、選ばれた人々は、霊的な**交わり**に入り、キリストと彼のすべての選ばれた人々、そして彼の忠実な善なる天使たちと「一つ」になるために、愛する人々から肉的に**分けられなければなりません**。

「肋骨」が元の場所に戻りたいという欲求は、人間の性的結合、つまり男性と女性が物理的に一つの肉体を形成する肉と精神の行為にその意味を見いだします。

創世記

2:25:

「男も妻も裸でしたが、恥ずかしがることはありませんでした。」

身体的なヌードは誰もが気にするものではありません。ナチュラルリズムのファンがいます。そして人類の歴史の初めには、身体の裸は「恥」を引き起こすものではありませんでした。

「恥」の出現は罪の結果であり、あたかも「**善悪の知識の木**」の実を食べると人間の心がこれまで知られていなかった影響に開かれ、無視される可能性があるのと同じです。実際には、禁断の木の実はこの変化の作者では

なく、手段にすぎません。なぜなら、物事の価値観と良心を変えるのは神であり、彼だけだからです。罪深いカップルが、責任のない肉体的な裸について心の中で感じる「恥」の感情を呼び起こすのは彼です。なぜなら、その過失は道徳的なものであり、神によって指摘された、実行された不従順にのみ関係するからである。

創世記 2 章の教えを要約する際に、神はまず 7 日目の休息または安息日の聖化を私たちに示されました。これは、7 千年紀に神とその忠実な選民の両方に与えられる大いなる休息を預言しています。しかし、この安息は、神がイエス・キリストにおいて受肉することによって、罪と悪魔に対して繰り広げられる地上の戦いによって勝ち取られなければなりません。アダムの地上での経験は、神が計画されたこの救いの計画を示しています。キリストにおいて、彼は最終的に天使と同様の天体を受け取ることになる、自分が選んだ肉の者を創造するために肉となりました。

創世記 3

罪からの分離

創世記 3:1:
「蛇は、神、主が造られたすべての野の獣の中で最も狡猾でした。そして彼は女に言いました、「神は本当に、あなたがたは園のどの木も食べてはならないと言ったのか？」」

哀れな「蛇」は、神が創造した天使の中で最も「狡猾な」天使たちによって媒体として利用されるという不幸を経験しました。

「へび」などの爬虫類が言葉を話さない動物。言語は人間に与えられた神のイメージの特殊性でした。良い点を指摘してください。悪魔は、夫から離れているときに、女性に話しかけさせます。アダムの存在下では悪魔が人間を神の命令に従わないように導くのはもっと困難だっただろうから、この孤立は彼にとって致命的となるだろう。

「初めから偽りの父であり殺人者である」と述べて悪魔の存在を明らかにされました。彼の言葉は人間の確信を揺るがすことを目的としており、神が要求する「イエスカノー」に、真実に力を与える確信を取り除く「しかし」または「かもしれない」を加えます。神が与えた命令はアダムに受け取られ、アダムはそれを妻に伝えましたが、彼女は命令を与えた神の声を聞きませんでした。また、彼女の疑いは夫にあります。「彼は神の言われたことを理解しましたか？」

創世記

3:2:

「女は蛇に答えた。「私たちは園の木の実を食べます。」

証拠は悪魔の言葉を裏付けているようです。彼は論理的に考えて、知的に話します。

「女性」は、話す「蛇」に反応することで最初の間違いを犯します。それは正常ではありません。第一に、それは、禁止されている木を除くすべての木の实を食べる可能性を彼らに与えた神の善意を正当化します。

創世記

3:3:

「しかし、園の真ん中にある木の実は、あなたがたは死んではいけないので、食べてはならない、触れてはならない、と神は言われた。」

「死なないように」というフレーズに現れています。神はアダムに「それを食べたその日、あなたは死ぬだろう」と言われたので、これらは神が言った言葉そのものではありません。神の言葉が弱まると、罪の消耗が促進されます。「恐怖」を理由に神への従順を正当化することで、

「女」は悪魔にこの「恐怖」を確認する可能性を提供するが、悪魔によればそれは正当化されない。

創世記

3:4:

「すると、蛇は女に言った、『あなたは死んではなりません。』

そして、嘘つきの首謀者は、「あなたは死ぬことはない」という神の言葉に矛盾するこの声明で明らかになります。

創世記

3:5:

「しかし神は、あなたがそれを食べる日には目が開かれ、神のように善悪を知るようになるということをご存じです。」

彼は今、邪悪で利己的な考えによる神が与えた命令を正当化しなければなりません。神はあなたを卑劣で劣等な立場に置いておきたいのです。彼はあなたが彼のようにならないように利己的に望んでいます。彼は善悪の知識を、神が自分だけのために保持しておきたい利点として提示しています。しかし、善を知ることには利点があるとしたら、悪を知ることには利点があるのでしょうか?善と悪は、昼と夜、光と闇のように絶対的な対極であり、神にとっての知識は経験すること、または行動を起こすことによって構成されます。実際には、神はすでに園の木々を許可し、

「善と悪」を表す木を禁止することによって、善悪についての知的知識を人間に与えていました。なぜなら、彼は創造者に反逆して「善」、「悪」を次々と具体的に経験した悪魔の象徴的なイメージだからです。

創世記

3:6:

「女は、その木が食べ物に良く、見た目にも美しく、心を開くのに貴重なものであることに気づきました。彼女はその実を取って食べました。彼女は一緒にいた夫にも一部をあげ、夫はそれを食べました。」

蛇から発せられた言葉には効果があり、疑いは消え、女性は蛇が真実を語ったという確信をますます深めます。彼女にとってその果実は見た目にも美味しそうですが、何よりも「知性を開くために貴重なもの」だと

考えています。悪魔は望む結果を手に入れました、彼はちょうど彼の反抗的な態度の支持者を採用しただけです。そして禁断の果実を食べたことにより、彼女自身も悪の知識の樹となる。アダムは、別居を受け入れる準備ができていない妻への愛に満たされ、神が自分に死刑を課すことを知っているため、悲惨な運命を共有することを好みます。そして禁断の果実を順番に食べると、カップル全員が悪魔の圧政に苦しむことになる。それにもかかわらず、逆説的ですが、この情熱的な愛は、キリストが選ばれた者のために経験するであろう愛をイメージしており、キリストは彼女のために死ぬことにも同意しています。また、神はアダムを理解することができます。

創世記

3:7:

「二人の目は開かれ、自分たちが裸であることがわかり、イチジクの葉を縫い合わせて自分たちの帯を作りました。」

人間夫婦の罪が清算されたこの瞬間、神が計画した6000年のカウントダウンが始まった。まず、彼らの意識は神によって変えられます。

「目に心地よい」果物への欲求を担っていた目は、物事に対する新たな判断の犠牲者です。そして、それまで自分に対しても神に対しても何の問題も引き起こさなかった自分の裸について、彼らは「恥」を感じるので、期待され、求められていた利点は欠点に変わります。発見された肉体的な裸は、不従順な夫婦が発見した霊的な裸の肉面的側面にすぎませんでした。この霊的な裸体は彼らから神の正義を奪い、死の制裁が彼らに与えられたので、彼らの裸体の発見は神が与えた死の最初の影響であった。したがって、死は悪についての経験的な知識の結果でした。パウロはローマ 6 章 23

節で次のように教えています。「罪の対価は死だからです」。反抗的な配偶者たちは、自分たちの裸を隠すために、

「イチジクの葉を縫って」「ベルト」を作るという人為的な取り組みに訴えました。この行為は、自己を正当化しようとする人間の試みを霊的に表しています。

「帯」はエペソ6:14で「真理」の象徴となります。したがって、アダムによって作られた「イチジクの葉」で作られた「ベルト」は反対であり、罪人が自分を安心させるためにその後ろに避難する嘘の象徴です。

創世記

3:8:

「そのとき、夕方近くに園を通る神の主の声が聞こえたので、男とその妻は主なる神の御前から園の木々の間に身を隠した。」

腎臓と心臓を調べる人は、今何が起こったのか、そしてそれが彼の救済プロジェクトと一致しているのかを知っています。これは悪魔に自分の考えと邪悪な本性を明らかにするための最初のステップにすぎません。しかし、彼には伝えたいことがたくさんあるので、その男に会わなければなりません。今、人は神、父、創造者に会うために急いでいませんが、今はただ逃げようとしているだけであり、彼の非難を聞くことを非常に恐れ

ています。そして、神の視線からこの庭園のどこに隠れるべきでしょうか？繰り返しますが、「園の木々」が自分の顔を隠してくれると信じていることは、アダムが罪人になって以来陥った精神状態を証明しています。

創世記 3:9:

「しかし、主なる神はその人を呼んで言われた、「あなたはどこにいるのか」。」

どこにいるの？」と尋ねます。 »

救いの手を差し伸べ、彼を自分の過ちの告白に引き寄せるためです。

創世記 3:10:

「そして彼は言った、「庭であなたの声が聞こえました。私は裸だったので怖くなって身を隠しました。」

アダムが与えた反応はそれ自体が彼の不従順の告白であり、神は彼の言葉を利用して罪の経験を表現する方法を獲得するでしょう。

創世記 3:11:

「そして主なる神は言われた、『あなたが裸だなんて誰が言ったのですか。』私が食べることを禁じた木から取ったものを食べましたか？」

神はアダムから自分の過ちの告白を引き出したいと考えています。推理から推理に至るまで、彼は最終的に彼女に明確な質問をしました。「あなたは私が食べることを禁じていた木から食べましたか？」」。

創世記 3:12:

「男は言った、『あなたが私と一緒にしてくれた女が私に木から取ってくれたので、私は食べました。』」

真実ではありますが、アダムの反応は輝かしいものではありません。彼は自分の中に悪魔の刻印を負っており、もはやイエスかノーで答える方法を知りませんが、サタンと同じように、自分自身の計り知れない罪を簡単に認めないように遠回しに答えます。彼は、最初の犯人である妻を神に与えたのだから、この経験における自分の役割を神に思い出させるまでで、自分自身よりも先に考えます。この物語の最も良い部分は、すべてが真実であり、罪は彼の計画に必要であったため、神はそれに気づいていないということです。しかし、彼が間違っているのは、その女性の例に倣うことで、神に不利益をもたらすまで彼女に対する好意を示したことであり、これが彼の最大の欠点でした。なぜなら、最初から神の要求は、あらゆるもの、すべての人を超えて愛されることであったからです。

創世記 3:13:

「そして神である主は女に言われた、『なぜそんなことをしたのか』。女性は答えました、「蛇が私を騙したので、私はそれを食べました。」

その後、偉大な判事は男性によって告発された女性に向き直りますが、そこでも女性の反応は事実と一致しています。「へどが私を誘惑したので、私はそれを食べました」。それで彼女は誘惑されるのを許したのですが、それが彼女の致命的な欠点です。

創世記

3:14:

「そして神である主は蛇に言われた、『あなたがこのようなことをしたので、あなたはすべての牛や野のすべての獣の上に呪われるであろう、あなたの人生の日々。』」

今回、神は「蛇」になぜそのようなことをしたのか尋ねませんでした。なぜなら、神は彼が悪魔であるサタンによって媒介として利用されたことを知っているからです。神が「蛇」に与えた運命は、実は悪魔自身に関係しています。

「蛇」にとって、その適用は即時でしたが、悪魔にとって、それは罪と死に対するイエス・キリストの勝利の後に成就する単なる預言にすぎませんでした。黙示録

12:9

によると、この適用の最初の形式は、彼の陣営からの邪悪な天使たちと同様に、天の王国からの追放でした。彼らは死ぬまで決して離れることのない地上に投げ込まれ、荒涼とした大地に孤立して千年の間、サタンは自分と彼が自由を悪用したために死んだ人々を歓迎する塵の中を這うことになるだろう。神に呪われた地上では、彼らはイエス・キリストに敗れ、敵となった男から逃げたため、恐れと用心深く蛇のように振る舞うことになる。彼らは、天体の目に見えないところに隠れている人々を互いに戦わせることによって害を与えます。

創世記

3:15:

「わたしはあなたとその女との間に、またあなたの子孫とその子孫との間に敵意を置きます。彼女はあなたの頭を打ち、あなたは彼女のかかとを傷つけるでしょう。」

この文を「蛇」に当てはめると、経験し観察された現実が裏付けられます。悪魔への適用はより微妙です。彼の側と人類との間の敵意は確認され、認められています。

「頭を打ち砕く女の種」は、キリストとその忠実な選ばれた者の種となるでしょう。彼女は最終的に彼を滅ぼすことになるが、その前に、悪霊たちは、まずキリストに選ばれた者である「女性」の「かかと」を、まずこの「かかと」によって傷つける可能性を永久に持っていたであろう。なぜなら、「隅の石」が神の霊的な神殿が建てられる石であるのと同じように、「かかと」は人体の支点だからです。

創世記

3:16:

「イエスは女に言った。『わたしはあなたの出産にさらに苦しみを与えます。あなたは苦しみながら子どもを産むでしょう。あなたの望みは夫に向けられるでしょう。しかし、夫はあなたを支配するでしょう。』」

女性は死によって出産するまでに「妊娠中に苦しむ」必要がある。彼女は「痛みを伴いながら出産する」ことになり、すべてのことが文字通り達成され、注目されました。しかしここでも、この画像の預言的な意味に注目する必要があります。ヨハネ 16:21 と黙示録 12:2

の「出産の苦しみにある女」は、キリスト教時代のローマ帝国時代とその後の教皇による迫害におけるキリスト教会を象徴しています。

創世記 3:17:

「そして彼はその人に言った、『あなたは妻の声に従い、わたしがあなたに命じたその木の実を食べたのですから、それを食べてはいけません。』あなたのせいで地面は呪われるでしょう。労働のおかげで、あなたは生涯を通じてそこから栄養を得ることができます。」

人間の元に戻ると、神は人間が恥ずべきことに隠そうとしていた自分の状況の本当の説明を人間に提示する。彼の罪は完全に完了しており、アダムはまた、彼を引き渡す前に、一部の人が生より死を好むようになる一連の呪いが彼の死に先立って起こることを発見します。地面の呪いは恐ろしいもので、アダムはそれを苦勞して学ぶこととなります。

創世記 3:18:

「彼はあなたのためにいばらととげを生み出し、あなたは野の草を食べるでしょう。」

エデンの園の簡単な栽培はなくなり、代わりに、クワックグラス、「茨、とげ」、そして地球の土壤に繁殖する雑草との絶え間ない戦いが行われます。科学の「進歩」に伴い、終わりの日の人間は雑草や害虫を排除するために作物の土壤に化学毒を入れて自らを毒殺するため、この土壤の呪いは人類の死を早めることになるので、なおさらである。豊富で簡単に手に入る食べ物は、彼と彼の愛する神の妻と同様に、そこから追い出される園の外ではもはや入手できなくなります。

創世記 3:19:

「あなたは顔に汗をかいてパンを食べ、それが取り去られた地に帰るまで続きます。あなたは塵であり、塵に戻るからです。」

人間に降りかかるこの運命は、神が「地の塵」から自らの創造と形成を正確に明らかにした形を正当化します。アダムは、神が呼び起こす死がどのようなものであるかを、自分の犠牲と私たちの犠牲で学びます。死んだ人間は単なる「塵」であり、この「塵」の外には、この死体から出てくる生きた霊が残っていないことに注意しましょう。 Eccl.9 およびその他の引用により、この致命的な状況が確認されています。

創世記 3:20:

「アダムは妻をイブと名付けました。彼女はすべての生き物の母だったからです。」

ここでもアダムは、彼女に「イブ」または「ライフ」という名前を付けることで、「女性」に対する自分の支配を示しています。人類の歴史の基本的な現実として正当化される名前。私たちは皆、死の呪いが伝わったアダムの誘惑された妻イブから生まれた遠い子孫であり、2030年の早春にイエス・キリストが栄光のうちに再臨されるまで、その子孫です。

創世記 3:21: 「主よ、

神はアダムとその妻のために皮で服を作り、それを着せました。

神は、地上の配偶者の罪が神の救いの計画の一部であったことを忘れておられず、それはこれから実証的な形をとるでしょう。罪を犯した後、ローマの兵士によって犠牲となり十字架につけられるキリストの名において、神の許しが得られるようになります。この行為において、あらゆる罪から自由な無実の存在は、自分の唯一の忠実な選ばれし者の罪を代わりに死ぬために死ぬことに同意することになる。最初から、罪のない動物たちは、アダムとイブの裸をその「皮」で覆うために神によって殺されました。この行動において、彼は人間が想像する「正義」を、彼の救いの計画が信仰を通じて人間に課す正義と置き換えます。人間が想像した「正義」は欺瞞的な嘘にすぎず、その代わりに、神は「神の真の正義」を象徴する「衣」、つまりキリストと神の自発的な犠牲に基づく「神の真実の帯」を彼らに押しつけます。彼を忠実に愛する人々の救いのために自分の命を捧げる。

創世記 3:22: 「主よ、神はこう言われました、「見よ、人間は善悪を知るために私たちの一員となったのだ。」今こそ、彼が手を出して命の木を奪い、食べて永遠に生きるのを阻止しましょう。」

ミカエルの中で、神は地球上で起きたばかりのドラマを目撃している善良な天使たちに語りかけます。彼は彼らに言った、「見よ、人間は善悪を知るために、私たちと同じようになったのです。」イエス・キリストは死の前日、自分を信心深いユダヤ人に引き渡し、その後ローマ人に引き渡して十字架につけさせようとしていた裏切り者のユダに関して、同じ表現を用います。これはヨハネ 6:70 にあります。「イエスは彼らに答えられた。あなたたち12人を選んだのは私ではないのですか？そして、そのうちの1人は悪魔です！」。この節の「私たち」は文脈が異なるため「あなた」になりますが、神のアプローチは同じです。

「私たちのうちの一人」という表現は、地上の創造の初めに創造されたすべての天使の中で、神の天の王国に今でも自由にアクセスして移動できるサタンを指します。

「命の木」の実を食べることを防ぐ必要性は、イエスがローマの総督ポンテオ・ピラトに宛てた言葉の中で証しするようになった真理の要件でした。

「命の木」は救い主キリストの像であり、それを食べることは、キリストの教えとすべての霊的人格で自分自身を養い、キリストを身代わりの個人的な救い主として受け入れることを意味しました。これが、この「生命の木」の消費を正当化できる唯一の条件でした。命の力は木にあるのではなく、その木が象徴するキリストにありました。さらに、この木は永遠の命を条件付けていましたが、原罪の後、この永遠の命は、キリストとミカエルにおける神の最終的な再臨まで永久に失われました。したがって、「命の木」や他の木々も、神の園と同様に消滅する可能性があります。

創世記

3:23:

「そして神、主は彼をエデンの園から追い出された。それは、彼が奪われた土地を耕すためである。」

創造主に残された唯一のことは、最初のアダム（人間の種を表す言葉：赤＝楽観派）から形成され、不従順によって自分たちに価値がないことを示した人間のカップルを、素晴らしい庭園から追放することだけです。そして庭の外では、心身ともに衰弱した体での苦しい生活が始まることになる。厳しく反抗的になった土地への帰還は、人類に自らの起源が「塵」であることを思い出させるでしょう。

創世記

3:24:

「こうして神はアダムを追い出した。そして彼はエデンの園の東に、命の木の道を守るために、炎の剣を振るうケルビムを置いた。」

園を守るのはもはやアダムではなく、彼が園に入ることを妨げるのは天使たちです。この庭園は、イブとアダムの罪以来、1656年に発生した洪水の少し前に最終的に消滅します。

この聖句には、エデンの園の場所を特定するための有益な説明があります。守護天使は「庭園の東」に配置されており、したがって庭園自体はアダムとイブが引退した場所の西にあります。この章の冒頭で示された推定地域は、この説明と一致しています。アダムとイブはアララト山の南の土地に退却し、禁断の庭園はヴァン湖近くのトルコの「豊かな水」地域にあります。彼らの位置の西側にあります。

創世記 4

死別

この第

4

章を読むと、なぜ神がサタンとその反抗的な悪霊たちに、彼らの悪の程度を明らかにする実証実験室を提供する必要があったのかをよりよく理解できるようになります。

天国では、天上の存在には互いに殺し合う力がないため、悪には限界がありました。なぜなら、それらはすべて一時的に不滅だったからです。したがって、この状況により、神は敵が持つ可能性のある高度な邪悪さと残酷さを明らかにすることができませんでした。したがって、地球は、サタンのような存在の心が想像できる最も残酷な形での死を承認する目的で創造されました。

したがって、この第 4 章は、普遍性を意味するこの数字 4 の象徴的な意味の下に置かれており、地上人類の最初の死の状況を呼び起

こします。死は、神によって造られたすべての創造物の中で、その特別かつユニークな普遍的性質です。アダムとイブの罪の後、地上の生活は、第一コリント 4 章 9 節にあるように、「世と天使にとっての見世物」でした。靈感を受けた忠実な証人パウロ、元サウロはタルソスの最初の迫害者でした。キリストの教会。

創世記 4:1:

「アダムは妻のエバを知っていました。彼女は身ごもってカインを産み、「私は主の助けによって人間を形成しました」と言いました。

知る」という動詞に与える意味を私たちに明らかにしています。この点は、ヨハネ 17 章 3 節に次のように書かれているように、信仰による義認の原則において極めて重要です。

、唯一の真の神、そしてあなたが遣わしたイエス・キリストです。神を知るということは、神との愛の関係、この場合は霊的な関係、アダムとイブの場合は肉体的な関係を築くことを意味します。再び最初のカップルのこのモデルに従って、この肉欲的な愛から「子供」が生まれました。そうですね、「子供」もまた、神と経験した霊的な愛の関係の中で生まれ変わらなければなりません。神についての真の「知識」によるこの新たな誕生は、黙示録12 章 2-5 節で明らかにされています。...彼女は息子を産んだが、その息子は鉄の杖ですべての国々を統治することになる。そして彼女の子供は神とその王座に捕らえられたのです。」神から生まれた子供は父の性質を再現しなければなりません、人間から生まれた長男の場合はそうではありませんでした。

カインという名前は獲得を意味します。この名前は、彼の弟アベルとは対照的な、肉欲的でこの世的な運命を予言しています。

人類の歴史のこの始まりにおいて、出産する母親は、この新しい命の創造が偉大な創造主神ヤハウエが行った奇跡の結果であることを知っているため、この出産に神を関連付けていることに注目しましょう。私たちの終わりの日には、このようなことはもはや起こらないか、ほとんどありません。

創世記 4:2:

「彼女は再び弟のアベルを産んだ。アベルは羊飼いで、カインは耕作者でした。」

アベルとは息という意味です。カインよりも子供のアベルは、神から肺の息を最初に受け取ったアダムのコピーとして提示されます。実際、兄弟に殺された彼の死は、神の真の御子であり、自らの血で贖う選民の救い主であるイエス・キリストの姿を表しているのです。

二人の兄弟の職業は、彼らの正反対の性質を裏付けています。キリストのように「アベルは羊飼いで、地上の唯物論者不信者のように「カインは耕作者」でした。人類史上最初の子供たちは、神によって預言

された運命を告げます。そして彼らは彼の貯蓄プロジェクトの詳細を提供しに来ます。

創世記 4:3: 「しばらくして、カインは地の実りを主に捧げました。

»

カインは神の存在を知っており、神を敬いたいと思っていることを示すために、神を「地の果実の捧げ物」、つまり自分の活動が生み出したものにしました。この役で彼は、神が自分たちに何を愛し、何を期待しているかを知り、理解しようとすることを心配することなく、自分たちの良い行いを強調するユダヤ人、キリスト教徒、またはイスラム教徒の大勢の宗教的な人々のイメージを取り入れています。贈り物は、受け取る人に感謝されてこそ意味があります。

創世記

4:4:

「そしてアベルは、自分の側として、彼女を自分の群れとその肥えた者の初子の一人とした。主はアベルとその捧げ物を好意的に見ておられました。」

アベルは兄に倣い、羊飼いと職業のため、「羊の初子とその脂肪から」神に捧げ物をします。これは神にとって喜ばしいことです。なぜなら、神はこれらの「初子」の犠牲の中に、イエス・キリストにおけるご自身の犠牲の予期され預言された姿を見るからです。黙示録1 章 5 節には次のように書かれています。私たちが愛し、その血によって私たちが罪から救い出してくださった方に.....」。神はアベルの申し出の中に自分の救いの計画を見て、それを喜ばしいとしか思えません。

創世記

4:5:

「しかし、彼はカインとその捧げ物を好意的に見ていませんでした。カインはとても怒り、顔を伏せました。」

アベルの申し出と比較すると、論理的には同様に失望し悲しむだけのカインの申し出に神がほとんど関心を示さないのは当然である。

「彼の顔は伏し目がち」ですが、イライラのあまり「非常にイライラする」ようになることに注意してください。この反応は失望したプライドの結果であるため、これは正常ではありません。イライラとプライドはすぐに、より深刻な結果を生みます。それは、彼の嫉妬の対象である弟アベルの殺害です。

創世記

4:6:

「そして主はカインに言われた、『なぜ怒っているのか、なぜ顔を伏せているのか』。」

アベルの申し出を好む理由は神だけが知っています。カインは神の反応が不公平だとしか思えませんが、怒るのではなく、この明らかに不公平な選択の理由を理解してもらえるように神に懇願すべきです。神は、無意識のうちにマタイ

24:48-49

の邪悪な僕の役割を自分のために演じているカインの性質をよくご存じです。彼は酔っぱらいと一緒に飲食すると、仲間を殴り始めます...

」。神はカインに答えを完全に知っている質問をしますが、そうすることで再びカインに苦しみの原因を分かち合う機会を与えます。これらの質問はカインには答えられないままであるため、神は彼を捕らえる悪に対して警告します。

創世記

4:7:

「確かに、あなたが善を行うなら、あなたは顔を上げます。そして、あなたが悪を行うなら、罪は戸口に横たわっており、その欲望はあなたにあります。しかし、あなたはそれを支配しています。」

善と悪を知った」ことで悪魔の地位を獲得した後、彼は再び現れてカインに弟のアベルを殺すよう迫る。彼の前には「善」と「悪」という二つの選択が迫られている。

「良いこと」は、たとえ理解できなくても、自分自身をあきらめ、神の選択を受け入れるように導くでしょう。しかし、「悪」を選択すると、彼は第六の戒め「殺人を犯してはならない」に違反することになり、神に対して罪を犯すこととなります。いや、翻訳者が提示したように「汝、殺してはいけない」である。神の戒めは犯罪を非難するものであり、神がそれを命じることによって合法とした有罪の犯罪者の殺害を非難するものではありません。この場合、イエス・キリストの到来は神のこの正義の裁きにおいて何も変わりませんでした。

罪」について、あたかも女性について話しているかのように語られる形式に注目してください。それに従って、神は創世記 3:16 でエバに次のように言いました。あなた」。神にとって、「罪の」誘惑は、夫を誘惑したい女性の誘惑に似ており、夫や夫に自分が「支配」されることを許してはなりません。このように、神は人間に、女性に代表される「罪」に誘惑されないようにとの命令を与えられました。

創世記

4:8:

「しかし、カインは弟のアベルに話しました。しかし、彼らが野原にいるとき、カインは弟のアベルに倒れ込み、彼を殺しました。」

この神の警告にもかかわらず、カインの性質は実を結びます。アベルと言葉を交わした後、霊的な父親である悪魔と同じように、最初から彼の霊において殺人者であったカインは、「弟のアベルに身を投げて殺した」のです。この経験は、多くの場合世俗的または宗教的な嫉妬から、世界の終わりまで兄弟が兄弟を殺す人類の運命を予言しています。

創世記

4:9:

「主はカインに言われた、『あなたの兄弟アベルはどこにいるのか』。彼はこう答えた。「分かりません。」私は兄の番人ですか？」

彼が隠れていたアダムに言ったように、「どこにいるの？神はカインに「あなたの兄弟アベルはどこですか？」と言いました。

」、常に彼に自分の非を告白する機会を与えるためです。しかし愚かなことに、彼は神が自分を殺したことを知っていることを無視できないので、

厚かましくも「知りません」と答え、信じられないほど傲慢な態度で今度は神に質問します。「私は兄弟の後見人ですか？」»

創世記

4:10:

「そして神は言われた、『あなたは何をしたのか』。あなたの兄弟の血の
声が大地から私に叫びます。」

神は彼に答えを与えます。それは、あなたが彼の殺人者であるため、あなたは彼の番人ではないことを意味します。神は自分が何をしたかをよく知っており、それを絵で示します。「あなたの兄弟の血の声が地から私に向かって叫びます」。流された血に神への叫びの声を与えるこの絵の式は、Apo.6

で「第

5

の封印」、つまりローマ教皇によるカトリック宗教の迫害によって殺された殉教者の叫びを呼び起こすために使用されます: Apo. 6:9-10:

「彼が第五の封印を開いたとき、私は祭壇の下に、神の言葉と彼らが与えた証言のゆえに殺された人々の魂を見ました。

彼らは大声で叫び、こう言いました。「おお、聖なる真の主よ、あなたはいつまで裁きを遅らせ、地上に住む者たちに私たちの血の復讐をするのを遅らせるのですか？」

」。したがって、不当に流された血は、罪を犯した者への復讐を要求します。この正当な復讐は必ず起こりますが、それは神がご自身のために独占的に留保しておられるものです。彼は申命記

32:35

でこう宣言しています。「彼らの足がつかずくとき、復讐と報復は私のものです。彼らの破滅の日は近づいており、彼らを待っているものは遅れることはないからです。」イザヤ書

61:2

では、「恵みの年」とともに「復讐の日」が救世主イエス・キリストの計画の中にあります。「...彼は私を遣わされました...恵みの年を宣言するために...主よ、そして私たちの神からの復讐の日。すべての苦しんでいる人々を慰めるために。

...”。この「恵みの年」の「出版」が「復讐の日」から2000年も離れていなければならないとは誰も理解できなかったでしょう。

したがって、死者は、記憶が無限である神の記憶の中でのみ叫ぶことができます。

カインが犯した犯罪は正当な罰を受けるに値する。

創世記

4:11:

「今、あなたは、あなたの手からあなたの兄弟の血を受け取るために口を開いた大地によって呪われるでしょう。」»

カインは地から呪われ、殺されることはありません。この神の寛大さを正当化するには、この最初の犯罪には前例がなかったことを認めなければなりません。カインは人を殺すことが何を意味するのかを知らなかった。そして、すべての理性を盲目にした怒りが彼を致命的な残虐行為に導いたのです。兄が死んだ今、人類は死が何であるかを知らなかったとは言えなくなるだろう。そのとき、出エジプト記 21 章 12

節で神によって定められた律法が発効します。「人を致命的に打った者は死刑に処せられる。」

この聖句には、「あなたの兄弟の血をあなたの手から受け取るために口を開いた大地」という表現もあります。神は、その上に流された血を吸収する口を地球に与えることで、地球を擬人化します。そしてこの口は彼女に語りかけ、彼女を汚した死すべき行為を思い出させます。このイメージは申命記

26:10

で取り上げられます。「**地は口を開け**、コラとともに彼らを飲み込んだ。そのとき、**集まっていた人々は死に**、火は二百五十人を焼き尽くした。彼らは警告の民に仕えた」”。そしてそれは黙示録

12:16

にあります。「そして、**地は女を助け**、**地は口を開いて**、龍が口から吐き出した川を飲み込んだ。」

「川」はフランスのカトリック君主同盟を象徴しており、その特別に創設された「ドラゴン」の軍団が忠実なプロテスタントを迫害し、国の山々に追い込んだ。この聖句には二重の意味があります。プロテスタントの武装抵抗、そして血なまぐさいフランス革命です。どちらの場合も、「**大地が口を開いた**」という表現は、大地が多数の人々の血を歓迎していることを表しています。

創世記

4:12:

「あなたが土地を耕しても、それはもはやあなたに富を与えません。あなたは地上で放浪者、放浪者となるでしょう。」

カインの罰は、彼が人間の血を流して最初に汚した地球に限定されます。もともと神の似姿に創造された人間のこと。罪以来、それは神からの特徴を保っていますが、もはや完全な純粋さは持っていません。人間の活動は主に土地を耕して食料を生産することで構成されていました。したがって、カインは養われる他の方法を見つけなければなりません。

創世記

4:13:

「カインは主にこう言いました。『私の懲罰は耐えられないほど大きい』。』

つまり、このような状況では自殺した方が良いということです。

創世記

4:14:

「見よ、あなたは今日、わたしをこの地から追放されました。私はあなたの顔から隠され、地球上で放浪者、放浪者となり、私を見つけた者は誰でも私を殺します。」

ここで彼はとても饒舌になり、自分の状況を死刑宣告であると要約しています。

創世記

4:15:

「主は彼に言われた、もし誰かがカインを殺したら、カインは七度復讐されるであろう。」そして主はカインに、彼を見つけた者が彼を殺さないようにするしを置いた。」

復讐」され、「七倍」で償われるだろうと彼に告げました。そして彼は自分を守る「しるし」について言及する。この点で、神は安息日を表す「7」という数字の象徴的価値と、週の終わりに預言された安息の神聖化を預言し、救いの計画の7000年目に完全に成就するであろう。安息日はエゼキエル書20:14-

20で創造主なる神に属するしるしとなります。そして、エゼキエル書 9章では、神の罰の時に殺されないように、神に属する人々に「しるし」が置かれています。最後に、この保護された分離の原則を確認するために、黙示録 7章では、「しるし」、「生ける神の印章」が神の僕たちの「額を封印」するようになり、この「封印と印」は彼の七日目の安息日。

創世記 4:16:

「それからカインは主の御前を離れ、エデンの東のノドの地に住んだ。」

アダムとイブが神の園から追放された後、撤退したのはすでにエデンの東でした。この土地には、苦しみを意味するノッドという名前が付けられています。このように、カインの人生は、精神的、肉体的な苦しみによって特徴づけられることとなります。なぜなら、神の御顔から遠く離れて拒絶されたことは、13節で神を恐れてこう言ったカインの頑なな心にも痕跡を残すからです。顔」。

創世記 4:17:

「カインは自分の妻を知っていました。彼女は妊娠してエノクを産んだ。それから彼は都市を建設し、その都市に自分の息子エノクの名前を付けました。」

カインは都市の住民の族長となり、その長男にエノクという名前を付けます。エノクとは、物事を始める、教える、訓練する、使い始めるという意味です。この名前は、これらの動詞が表すすべてを要約しており、カインとその子孫が世界の終わりまで続く神のいないタイプの社会を発足させるため、この名前は適切です。

創世記 4:18:

「エノクはイラドを生み、イラドはメフヤエルを生み、メフヤエルはメトウシャエルを生み、メトウシャエルはレメクを生みました。」

この短い系図は、意図的にレメクという名前の人物で止まっています。その正確な意味はまだ不明ですが、この語源に由来する言葉は、エノクという名前のような教えと、権力の概念にも関係しています。

創世記 4:19:

「レメクは二人の妻をめぐりました。一人の名はアダ、もう一人の名はツィラでした。」

人は父と母を離れて妻と結ばれ、二人は一体となる」という神との決別の最初のしるしが見られます（創世記 2:24参照）。しかし、『レメク』では男は二人の女に執着し、三人は一体となる。明らかに、神から完全に離れることとなります。

創世記

4:20:

「アダはヤバルを産んだ。彼は天幕や羊のそばに住む人々の父であった。」

ジャバルは、今日でも一部のアラブ民族と同じように、遊牧民の羊飼いの族長です。

創世記

4:21:

「彼の兄弟の名前はユバルでした。彼は豎琴と笛吹奏者すべての父でした。」

ジュバルは、文化、知識、芸術家が現代社会の基礎となっている今日でも、神のいない文明において重要な位置を占めているすべての音楽家の祖でした。

創世記

4:22:

「ジラは、真鍮と鉄のあらゆる楽器を鍛造したトバル・カインを産みました。トバル・カインの妹はナーマでした。」

この聖句は、鉄器時代の前に青銅器時代があったと仮定する歴史家の公式の教えと矛盾しています。実のところ、神によると、最初の人類は鉄を鍛造する方法を知っており、聖典にはトバル・カインについて彼が鉄を鍛造する人々の父であるとは書かれていないため、おそらくアダム自身以来かもしれません。しかし、これらの明らかにされた詳細は、文明が最初の人類以来存在していたことを理解するために私たちに与えられています。彼らの神を信じない文化は、今日の私たちの文化と同じくらい洗練されていました。

創世記

4:23:

「レメクは妻たちに言った、『アダとツィラ、私の声を聞いてください！』レメクの女たちよ、私の言葉を聞いてください！私は自分の傷のせいで男性を殺し、打撲のせいで若者を殺しました。」

レメクは二人の妻に、自分が人を殺したことを自慢しており、そのことが神の裁きで彼を傷つけました。しかし、彼は傲慢と嘲笑を込めて、自分も若い男を殺した、と付け加えた。それが神の裁きにおいて彼の立場をさらに悪化させ、彼を正真正銘の「殺人者」にして再犯者にしたのだ。

創世記

4:24:

「カインは七回、レメクは七十七回復讐されるでしょう。」

そして彼は神がカインに対して示した寛大さを嘲笑します。人を殺した後、カインの死は「7回」復讐されることになっていたため、男性と若者を殺した後、レメクは神によって「77回」復讐されることとなります。私たちはそのような忌まわしい発言を想像することはできません。そして神は、第二世代の最初の代表者であるカインから第七世代であるレメクまでが最高の不敬度のレベルに達していたことを人類に明らかにしたいと思われました。そしてこれは、彼から離れることの結果の彼の実証です。

創世記

4:25:

「アダムはまだ妻を知っていました。彼女は息子を産み、その名をセスと

名付けた。なぜなら、カインが殺したアベルの代わりに、神が私に別の種を与えてくれたからだと言った。」

ヘブライ語で「チェス」と発音するセスという名前は、人体の基礎を示しています。これを「同等または賠償」と訳す人もいますが、私はヘブライ語でこの命題を正当化する根拠を見つけることができませんでした。したがって、私は「体の基礎」を保持します。なぜなら、セスは、第6世代が「神の子たち」という表現で指定する忠実な血統の根または基本的な基礎となり、その血統の反逆的な子孫である「女性」に残されるからです。「男の娘」という呼称に対抗して、彼らを欺くカイン。

種を蒔き育てます。創世記 5 章 21 節から 24 節では、その 7 番目の子孫である別のエノクが例として挙げられています。神は、死後、死を経ることなく、生きたまま天国に入る特権を持っていました。365年間の地上生活は、創造主である神に忠実に生きてきました。このエノクは、カインの家系の息子であるレメクの息子である彼の同名とは異なり、彼の「教育」が神の栄光に向けられたものであったため、その名にふさわしい人物でした。そして、反逆者レメクと義人エノクの両者は、彼らの血統の「7番目」の子孫でした。

創世記

4:26:

「セスにも息子がいて、その名はエノシュといました。人々がヤハウエの名を呼び始めたのはその時でした。」

エノシュとは、人間、定命の者、邪悪な者を意味します。この名前は、人々がヤハウエの名前を呼び始めた瞬間に関連しています。この二つのことを結び付けて神が私たちに伝えたいことは、忠実な血統の人が、さらには死すべき運命にある自分の本性の邪悪さに気づいたということです。そしてこの認識により、彼は自分を讃え、自分に喜ばれる崇拝を忠実に捧げてくれる創造者を求めるようになりました。

創世記 5

聖化による分離

この5章で、神はご自身に忠実であった血統を集めました。私は、アダムと有名なノアの間をカバーするこの列挙の理由を理解することを可能にする最初の聖句のみの詳細な研究を紹介します。

創世記

5:1:

「これはアダムの子孫の書である。神が人間を創造したとき、神に似せて人間を創造しました。」

この節は、引用された男性の名前のリストの基準を定めています。すべては、「神が人間を創造したとき、神に似せて人間を創造した」とい

うこの思い出に基づいています。したがって、このリストに入るには、人は自分の「**神の似姿**」を保たなければならないことを理解する必要があります。したがって、カインと同じくらい重要な名前がこのリストに載っていない理由が理解できます。なぜなら、それは身体的な類似性の問題ではなく、性格の類似性の問題であり、第4章でカインとその子孫の類似性が示されたばかりだからです。

創世記 5:2:
「神は男と女を創造し、祝福し、造られたとき彼らを男という名で呼んだ。」

ここでもまた、男性と女性に対する神の祝福を思い出させるということは、これから引用される名前が神によって祝福されたことを意味します。彼らが神によって創造されたという主張は、安息日のしるしによって、その僕達をすべての週から7日目に守られる安息日によって区別し、聖別する創造主である神として認められることの重要性を強調している。安息日の聖化と神の性質の類似による神の祝福を維持することは、人間が「**人間**」と呼ばれるに値し続けるために神が要求する条件である。これらの果実を除けば、人間は他の種よりも発達し、教育を受けた「**動物**」であると判断します。

創世記 5:3:
「アダムは百三十歳で、自分に似せた息子を生み、その名をセトと名づけた。」

アダムとセツの間には、明らかに、カイン（忠実な血統ではない）とアベル（子孫を残すことなく亡くなった）という2つの名前が欠けています。祝福された選択の基準がこのように証明されています。言及されている他のすべての名前にも同じことが当てはまります。

創世記 5:4: 「セトの誕生後のアダムの日々は 800年でした。そして彼は息子と娘をもうけた。」

「セト」の誕生前とその後「息子や娘を生んだ」が、それらは父親の信仰や「セト」の信仰を表わしたものではなかったということです。彼らは生ける神に対して不誠実で無礼な「**動物人間**」に加わりました。したがって、アベルの死後、彼に生まれたすべての人の中で、「セト」は、地上の父を創造し形成した神ヤハウエへの信仰と忠実さによって最初に際立った人物となりました。彼の後の他の人々は、匿名のまま彼の例に倣ったかもしれませんが、神によって選ばれたリストは、提示された各子孫の最初の忠実な人々の継承に基づいて構築されているため、匿名のままです。この説明により、アダムの息子「セト」が生まれたとき、アダムの「130歳」というすでに高い年齢が理解できます。そして、この原則は、ノアにとどまる長いリストの中で言及されている選ばれた人々のそれぞれに当てはまります。なぜなら、ノアの3人の息子、セム、ハム、ヤペテは、ノアの霊的な類似ではないため、選ばれないからです。

創世記 5:5:
「アダムが生きた日々は九百三十年でした。それから彼は亡くなりました。」

私は直接、七番目に選ばれた者、その名はエノクのところへ行きます。カインの息子エノクとは性格が正反対のエノク。

創世記 5:21: 「エノクは65歳で、メトセラの父となった。」

創世記 5:22:
「エノクはメトセラの誕生後、三百年間神とともに歩みました。そして彼は息子と娘をもうけた。」

創世記 5:23: 「エノクの生涯は三百六十五年であった。」

創世記 5:24:
「エノクは神と共に歩みました。神が彼を連れ去ったので、彼はもういなくなった」。

エノク事件のこの特定の表現によって、神はそれを私たちに明らかにしています。古代人たちもまた、死を経ることなく「エリヤ」を天国に連れて行かれました。確かに、この聖句の定型は、アダムの生涯について「そして彼は死んだ」という言葉で終わる他の聖句とは異なります。

次に登場するのは、地球上で最も長生きした969歳の男、メトウシエラです。次に、この系統の別のレメクが神に祝福されました。

創世記 5:28: 「レメクは百八十二歳で男の子を産んだ」

創世記 5:29:
「彼は自分の名をノアと呼び、こう言った。『この人は、主が呪われたこの地から来た私たちの疲れと手の重労働を慰めてくれるだろう。』」

この聖句の意味を理解するには、ノアという名前が「休息」を意味することを知らなければなりません。レメクは確かに、自分の言葉がどの程度実現するか想像していなかった。なぜなら彼は「呪われた地球」を「私たちの疲労と私たちの手の苦痛な仕事」という角度からしか見ていなかったからである、と彼は語った。しかし、ノアの時代には、創世記 6章が理解できるように、神はそれを担っている人々の邪悪さのためにそれを滅ぼします。しかし、ノアの父であるレメクは選ばれた者であり、当時の少数の選ばれた者たちと同様に、周囲の人々の邪悪さが増大するのを見て残念に思ったに違いありません。

創世記 5:30:
「レメクはノアの誕生後、五百九十五年間生きました。そして彼は息子と娘を生んだ」

創世記 5:31:
「レメクの全日々は七百七十七年であった。それから彼は亡くなりました」

創世記 5:32: 「ノア、五百歳、セム、ハム、ヤペテを生んだ」

創世記 6

分離に失敗する

創世記

6:1:

「人間が地の面で増え始め、娘たちが彼らに生まれたとき、」

以前に学んだ教訓によれば、この人間の群衆は神を軽蔑する動物の規範であり、したがって神も彼らを拒絶する十分な理由があるのです。アダムの妻イブによる誘惑は人類全体に再現されており、肉体的にはそれが正常です。女の子は男性を誘惑し、男性から望むものを手に入れます。

創世記

6:2:

「神の子たちは人の娘たちが美しいのを見て、自分で選んだすべての中から妻をめぐらした。」

ここが難しいところです。聖化された人々と無宗教の不信者の間の**分離**は最終的には消えます。ここで論理的に「神の子」と呼ばれる聖化された人々は、

「人の娘」、あるいは「動物的な」人間集団の誘惑に陥ります。このように、結婚による同盟は、神が望み、求めていた**分離**を崩壊させる原因となります。この忘れられない経験が、後に彼がイスラエルの息子たちに外国人女性を妻として迎えることを禁じるきっかけとなった。その結果起こる洪水は、この禁止事項がどれほど守られるべきかを示しています。すべての規則には例外があります。なぜなら、ルツのようなユダヤ人の夫とともに真の神を受け入れた女性もいるからです。危険なのは、その女性が外国人であるということではなく、「神の子」を、その起源である伝統的な異教を信仰させて異教への背教に導くことである。さらに、その逆も禁止されています。なぜなら、「神の娘」である女性は、「人の子」「動物」や偽りの宗教と結婚することによって、自らを致命的な危険にさらすことになり、それは彼女にとってさらに危険だからです。なぜなら、すべての「女性」または「少女」が「女性」であるのは、地上で生きている間だけであり、その中の選ばれた者は、男性と同様に、神の天使に似た無性の天体を受け取ることになるからです。エタニティはユニセックスであり、完璧な神のモデルであるイエス・キリストの性格をイメージしています。

結婚問題は依然として存在する。なぜなら、自分の宗教に属さない人と結婚する人は、それが正しいか間違っているかにかかわらず、自分の信仰に反する証言をすることになるからです。さらに、この行動は宗教に対する無関心、ひいては神ご自身に対する無関心を示しています。選ばれた人が選挙に値するためには、何よりも神を愛さなければなりません。しかし、外国人との同盟は彼にとって不快なものであり、それを結んだ選挙で選ばれた役人は選挙に値しなくなり、彼の信仰は傲慢になり、その幻想はひどい幻滅に終わるだろう。最終的な控除が残っています。もし結婚が

依然としてこの問題を引き起こすとすれば、それは現代の人間社会がノアの時代と同じ不道徳な状態に陥っているからである。したがって、このメッセージは、嘘が人間の心を支配し、神の「真実」に対して完全に閉ざされてしまう最後の時代のためのものです。

それは私たちの「終わりの時」にとって重要であるため、神は私に、この創世記の記述で明らかにされたこのメッセージを最後に展開するように導かれました。なぜなら、古代選民の経験は、幸福な「始まり」と、背教と忌まわしい行為による悲劇的な「終わり」によって要約されるからである。しかし、この経験はまた、公式的かつ歴史的には 1863年に祝福されたが、霊的には 1873年に祝福された、その「始まり」として、黙示録 3:7の「フィラデルフィア」において、その制度的形態「セブンスデー・アドベンチスト」における最後の教会の経験を要約している。1994年の「ラオデキア」で、イエス・キリストは形式主義的なぬるぬるさ、そして1995年のエキュメニカルな敵陣営との同盟のため、彼の「最期」に、黙示録3章14節で「嘔吐」した。したがって、このキリスト教の宗教制度に対する神の承認は、「始まりと終わり」によって決定されます。しかし、ユダヤ人の契約がイエスに選ばれた十二使徒によって継続されたのと同じように、アドベンチストの働きは私と、この預言の証しを受け入れ、神がもともと1843年と1843年のアドベンチストの先駆者たちに祝福した信仰の業を再現するすべての人々によって継続されています。

1844年。私は、神が彼らの信仰の動機を祝福したのではなく、後に疑問視されることになる彼らの預言的解釈の基準を祝福したのではないと明記します。安息日の実践はおそらく形式主義的かつ伝統的になりつつあり、神の裁きの篩は、もはや選ばれた者が「最初から最後まで」、あるいはキリストの真の栄光ある再臨まで、真理への愛以外の何物も祝福しない。前回は2030年の春。

は、黙示録 1:8
でご自身を「アルファとオメガ」として表現することによって、聖書全体を通して私たちに明らかにしている構造と側面を理解するための鍵、つまりご自分の「裁き」を明らかにしています。人生、同盟、教会の「始まり」の状況と「終わり」に現れる状況の観察について。この原則はダン 5に現れ、神によって壁に書かれた「番号が付けられ、番号が付けられ」、その後「秤量され、分割された」という言葉が、ベルシャザル王の人生の「始まり」とその「終わり」の時を表しています。このようにして、神はご自身の裁きが裁かれる対象の永続的な支配に基づいていることを確認します。彼は「始まり」つまり「アルファ」から「終わり」つまり「オメガ」まで彼の観察下にありました。

黙示録と「七つの教会」に宛てられた手紙のテーマでは、同じ原則が関係するすべての「教会」の「始まりと終わり」を定めています。第一に、使徒教会の輝かしい「始まり」は「エフェソス」に届けられたメッセ

ージの中で思い出され、その「終わり」は熱心さの欠如のために神の御霊が退くという脅威にさらされていることがわかります。幸いなことに、30

3
年以前に「スミルナ」で伝えられたメッセージは、キリストの悔い改めへの呼びかけが神の栄光のために聞かれたことを証言しています。その後、ローマ教皇カトリック教会は 538

年の「ペルガモン」に始まり、プロテスタントの宗教改革の頃の「ティアティア」で終わりますが、特に公式には、私の街バレンシアの刑務所に収監されている教皇ピオ 6

世の死によって終わります。次に、プロテスタント信仰の場合が来ますが、プロテスタント信仰もまた、神の承認には時間が限られています。その「始まり」は『ティアティア』で言及され、その「終わり」はローマの宗教から受け継がれた日曜日の習慣のため、1843年の『サルデス』で明らかにされています。イエスは、「あなたは死んだ」というメッセージが混乱を招くことはない、これ以上に明確に述べています。そして 3

番目の「フィラデルフィアとラオデキア」では、以前に見た制度的なアドベンチズムの事例によって、「 7
つの教会」に宛てられたメッセージと、それらが象徴する時代の時代が幕を閉じます。

初めから」すでに達成された事柄をどのように判断されたかを私たちに明らかにすることによって、事実と現代の教会をどのように判断されるかを理解する鍵を私たちに与えてくださいます。したがって、私たちの研究から出てくる「裁き」には、その神性の御霊の「刻印」が施されています。

創世記

6:3:

「そのとき主は言われた、『わたしの霊は永遠に人の中にとどまることはない。人は肉であり、その寿命は百二十年だからである。』」

キリストの再臨まで10年も経っていない今日、このメッセージは驚くべき話題性を帯びています。神が与えてくださった命の霊は、「人間の中に永遠に残ることはない。人間は肉であり、その寿命は百二十九年だからである。」実際、これは神がご自分の言葉に与えた意味ではありませんでした。私を理解してください、そして神を理解してください。神は、選民を招集し選出するという6000年にわたるプロジェクトを放棄していません。彼の問題は、930歳で亡くなったアダム以来、彼が先住民たちに与えた膨大な長寿にあり、彼の後には別のメトウスケラが969歳まで生きることになる。それが930年の忠誠であれば、それは耐えられるものであり、神に喜ばれることですらありますが、それが傲慢で忌まわしいレメクであれば、平均120年の忍耐で十分すぎると神は見積もっておられます。この解釈は歴史によって裏付けられています。洪水が終わって以来、現代では人間の寿命が平均 80 年に短縮されているからです。

創世記

6:4:

「当時、神の子たちが人の娘のところに来て子供を産んだ後も、巨人たちは地上にいました。これらは古代に有名な英雄たちです。」

メッセージの意味が変わってしまうため、ヘブライ語のテキストから精度「そしてまた」を追加する必要がありました。神は私たちに、彼の最初の古代の創造物が巨大な標準のものであったことを明らかにしており、アダム自身の高さは約4～5メートルであったに違いありません。地球表面の管理は変化し、縮小されます。これらの「巨人」の一步は私たちの一步の価値に匹敵し、彼は今日の人間の5倍の食糧を地球から得なければなりません。したがって、元の土地にはすぐに人口が集中し、その表面全体に人が住み始めました。この正確さ「そしてまた」は、この「巨人」の基準が、聖化された者と拒絶された者、「神の子」と「人の娘」の同盟によって修正されていないことを教えてくれます。したがって、ノア自身も子供たちとその妻たちも同様に4～5メートルの巨人でした。モーセの時代、これらの古代の規範はまだカナンの地に見られ、その地に送り込まれたヘブライ人のスパイを恐怖させたのはこれらの巨人、「アナキム」でした。

創世記

6:5:

「主は、地上では人間の邪悪がはびこっており、彼らの心のすべての思いが日々悪にのみ向けられているのをご覧になった。」

このような観察を見ると、彼の決定は理解できます。神は天上と地上の被造物の考えの中に隠されたこの邪悪を明らかにするために地球と人間を創造されたことを思い出してください。したがって、「彼らの心のすべての考えが毎日悪にのみ向けられていた」ため、望ましい実証が得られました。

創世記

6:6:

「主は自分が地上に人を造ったことを悔い改め、心の中で悲しんだ。」

何が起こるかを事前に知っていることと、それが実現するのを経験することは別のことです。そして、悪が支配する現実と直面すると、この道徳的災難に直面した神の苦しみがあまりにも大きいため、悔い改め、あるいはより正確には後悔の念が瞬間的に神の心に湧き上がることがあります。

創世記

6:7:

「そして主は言われた、『わたしは、わたしが創造した人間を、人間から家畜、はうもの、空の鳥に至るまで、地の面から滅ぼす。私はそれらを行ったことを悔い改めているからです。』」

洪水の直前に、神はサタンとその悪霊が地上とその住民に勝利したことに注目されました。彼にとって、その試練はひどいものであったが、彼は得たかったデモンストレーションを手に入れた。残っているのは、人間が長生きしすぎ、巨大なサイズで強力すぎるこの最初の生命形態を破壊

することだけです。家畜、爬虫類、空の鳥など、人間に近い陸上動物は人間とともに永遠に消え去らなければなりません。

創世記 6:8: 「しかし、ノアは恵みを見つけた」 主の目には。」

そして、エゼ14によれば、神の前に恵みを得たのは彼だけであり、彼の子供たちとその妻たちは救われるに値しませんでした。

創世記

6:9:

「これらはノアの子孫です。ノアは当時、公正で正しい人でした。ノアは神と共に歩みました。」

ヨブと同様に、ノアも神によって「正しくて正しい」と判断されます。そして、彼の前の正義のエノクと同じように、神は彼に彼と一緒に「歩く」ことを義務付けています。

創世記

6:10:

「ノアにはセム、ハム、ヤペテという三人の息子が生まれた。」

創世記 5 章 22 節によれば、年齢は 500 歳で、「ノアは 3 人の息子、セム、ハム、ヤペテをもうけた」とされています。この息子たちは成長して男性となり、妻を娶るでしょう。したがって、ノアが箱舟を建てなければならないとき、ノアは息子たちに助けられ、助けられることになります。彼らの誕生から洪水までには100年の歳月が流れます。これは、3

節の「120

年」が、建設を完了するために彼に与えられた期間に関するものではないことを証明しています。

創世記 6:11: 「地は神の前に腐敗し、地は暴力に満ちていた。」

腐敗は必ずしも暴力的なものではありませんが、暴力がそれを特徴づけるとき、愛に満ちた神の苦しみは激しく耐え難いものになります。頂点に達したこの暴力は、レメクが創世記 4 章 23 節で「私は自分の傷のために人を殺し、打ち傷のために若者を殺しました。」と誇ったタイプのものです。

創世記

6:12:

「そして神は地をご覧になった。見よ、それは腐敗していた。すべての肉なるものが地上でその道を誤ってしまったからである。」

10年も経たないうちに、神は再び地球を見て、洪水の時と同じ状態、つまり「すべての肉なる者がその道を汚す」と同じ状態であることに気づくでしょう。しかし、神が腐敗について語る時、それが何を意味するのかを理解する必要があります。なぜなら、この言葉の参照先が人間であれば、その主題に関する意見と同じくらい答えは無数にあるからです。創造主である神にとって、答えは単純かつ正確です。彼は、自分が確立した秩序や規則に対して男女によってもたらされるあらゆる倒錯を腐敗と呼んでいます。腐敗においては、男性はもはや男性としての役割を引き受けず、女性も女性としての役割を引き受けません。カインの子孫で重婚者のレメクの場合はその一例である。なぜなら、神の規範が彼にこう告げているからである。「男は父と母を離れて妻にしがみつ়くことになる」。体の

構造の外観から、男性と女性の役割が明らかになります。しかし、アダムに「助け」として与えられたものの役割をより深く理解するには、キリストの教会の象徴的なイメージが答えを与えてくれます。教会はキリストにどのような「助け」を与えることができるでしょうか？彼の役割は、選ばれて救われる人々の数を増やし、彼のために苦しむことに同意することで構成されています。アダムに与えられた女性も同様です。アダムのような筋力を持たない彼の役割は、創世記 1 章 28

節で神が命じた命令に従って、子供たちを産み、子供たちが家族を見つけ、そして地球に人が住むまで育てることです。彼らを祝福すると、神は彼らに言われた、「産めよ、増えよ、地に満ちよ、そしてそれを征服せよ。」現代生活はその倒錯において、この規範に背を向けています。集中した都市生活と産業雇用が相まって、お金の需要はますます増大しています。このため、女性は母親としての役割を放棄し、工場や店舗で働くようになりました。育て方が不十分なため、子供たちは気まぐれで要求が厳しくなり、2021年には暴力の実を結んでいます。これらの記述は、テモテ第2

3章1節から9節でパウロがテモテに与えた描写と完全に一致しています。ぜひ時間をかけて読んでください。彼らが受けるに値するすべての注目を込めて、彼がテモテに宛てた2つの手紙の全文を、これらの手紙の中に神が定めた基準を見つけるために、最初から、神は変わらないし、神が戻ってくるまで変わらないことを知っていました。2030年春の栄光。

創世記 6:13:

「それから神はノアに言った、『すべての肉の終わりはわたしによって決まる。彼らは地球を暴力で満たしたからです。見よ、わたしは彼らを土とともに滅ぼすだろう。』」

悪が不可逆的に定着した今、神ができる唯一のことは地球の住民を滅ぼすことだけです。神は彼の決断が下され、決定的に決定されたので、彼の唯一の地上の友人に彼の恐ろしい計画を知らせます。私たちは、死を通過することなく永遠に入る唯一の人であるエノクと、絶滅する洪水を生き残るに値することが判明した唯一の人であるノアに、神が与えた特別な運命に注目しなければなりません。なぜなら、神はその言葉の中で「**彼らは...を持っている**」そして「**私は彼らを滅ぼす**」と言っているからです。ノアは忠実であったため、神の決定に影響されませんでした。

創世記 6:14:

「針葉樹の箱舟を作りなさい。あなたはこの箱舟をセルに配置し、内側と外側をピッチで覆うでしょう。」

神は、彼のプロジェクトの選択の6000年が終わるまで、彼の被造物の命が続くことを望んでいるからです。洪水の際に選ばれた生命を守るためには、浮かぶ箱船を建造する必要があります。神はノアに指示を与えま

す。耐水性の針葉樹が使用され、アーチは松やモミから採取した樹脂であるピッチのコーティングによって防水されます。彼は、船上の動物たちにストレスのかかる衝突を避けるために、それぞれの種が別々に暮らすことができる細胞を構築するつもりだ。箱舟での滞在は一年続きますが、その仕事は神によって指示されており、神にとって不可能なことは何もありません。

創世記 6:15:

「あなたはこうして作るでしょう。箱舟は長さ三百キュビト、幅五十キュビト、高さ三十キュビトになります。」

もし「キュビト」が巨人のそれであれば、それはヘブライ人の約55センチメートルの5倍になる可能性があります。神はこれらの次元を、神からこの説明を受けたヘブライ人とモーセが知っている標準の中で明らかにしました。したがって、建設されたアーチは長さ 165 メートル、幅 27.5 メートル、高さ 16.5 メートルでした。したがって、長方形の箱の形をしたアーチは印象的な大きさでしたが、それはその大きさに関連した男性によって建てられました。なぜなら、その高さから、身長が 4 ~ 5 メートルの男性にとって、約 5 メートルの3つのフロアが存在することがわかります。

創世記 6:16:

「あなたは箱舟のための窓を作り、その上部を一キュビトに縮小しなければならない。あなたは箱舟の側面に扉を設けなければならない。そして、下の階、2階、3階を建てます。」

この説明によると、箱舟の唯一の「扉」は、一階レベルの「箱舟の側面」に設置されていました。創世記 8 章 6 節によると、箱舟は完全に閉じられ、3 階の屋根の下に高さと幅が 55 cm の窓が 1 つ、洪水が終わるまで閉じられたままになっていました。箱舟の住人たちは洪水の間中、暗闇とオイルランプの人工的な光の中で暮らしていました。

創世記 6:17:

「そして、わたしは地に洪水をもたらし、天の下で命の息を持つすべての肉を滅ぼす。地球上のすべては滅びます。」

神はこの破壊とともに、洪水の後、そして6000年にわたる神の計画の終わりにイエス・キリストが栄光のうちに戻ってくるまで、地球に再び住むことになる人々への警告のメッセージを残したいと考えています。すべての生命は、その以前の標準に従って消滅します。なぜなら、洪水の後、神は人間や動物などの生き物のサイズをアフリカのピグミーのサイズまで徐々に縮小するからです。

創世記 6:18:

「しかし、わたしはあなたと契約を結びます。あなたは、あなたとあなた

の息子たち、あなたの妻、そしてあなたの息子たちの妻たちと一緒に箱舟に入るでしょう。」

来たるべき洪水から生き残った人は8人いますが、そのうちの7人はノアの特別で個人的な祝福から特別な恩恵を受けています。その証拠はエゼ書 14:19-20 にあり、そこで神は次のように述べられています。ダニエルとヨブ、私は生きています！主ヤハウエは言われる、**彼らは息子や娘を救うのではなく、義によって自分の魂を救うだろう。**」彼らは地球の再人口には役立ちますが、ノアの霊的レベルではなく、悪い実を結ぶまでにそれほど時間はかからない不完全さを新世界にもたらしめます。

創世記 6:19:

「すべての生き物、すべての肉を、あなたがたと一緒に生かしておくために、それぞれ二匹ずつ箱舟に入れなければなりません。雄と雌が一匹ずつになるようにします。」

「生きているすべてのもの」ごとに 1
つのカップルがいるのは、繁殖に必要な標準にすぎず、陸生動物属の中で生き残るのはこれらだけです。

創世記 6:20:

「鳥は種類に応じて、牛は種類に応じて、地を這うものは種類に応じて、あらゆる種類の二匹があなたのところに来て、あなたがそれを保存するであろう」彼らの人生。」

この聖句では、神は列挙の中で野生動物について言及していませんが、創世記 7:14 で箱舟に乗せられる動物として言及されます。

創世記 6:21:

「そして、あなたがたは、食べたすべての食物を取り、あなたと彼らの食物となるように、自分のもとに蓄えなさい。」

食料は8人を養う必要があり、1年間船に乗せられたすべての動物は箱船の大きな場所を占めなければなりませんでした。

創世記 6:22:

「これがノアのしたことです。彼は神が命じたことをすべて実行しました。」

ノアとその息子たちは、神に忠実に支えられ、神から与えられた使命を遂行しました。そしてここで、地球は川と川によってのみ灌漑されている単一の大陸であることを覚えておく必要があります。ノアとその息子たちが住んでいるアララト山の地域には、平野しかなく、海はありません。したがって、ノアが海のない大陸の真ん中に浮かぶ建造物を建設しているのを、彼の同時代人は見ています。そして神に祝福された少数の人々に浴びせなければならなかった侮辱。しかし、あざける者たちはすぐに選ばれた者をあざけるのをやめ、彼らは信じたくなかった洪水の水に溺れるでしょう。

創世記 7

洪水の最後の分離

創世記

7:1:

「主はノアに言われた、『あなたとあなたの家族全員、箱舟に乗りなさい。というのは、私はこの世代の中であなたを目の前で見たことがあります。』」

真実の瞬間が到来し、創造物の最終的な**分離**が達成されます。

「箱舟に入る」ことによって、ノアとその家族の命は救われます。

「箱舟」という言葉と、神がノアに課した「義」の間には関連性があります。このつながりは、神の「正義」を収めた神聖な箱となる将来の「証しの箱」を通過し、神の指で「十戒」を刻む2つの表の形で表現されます。この比較では、神の正確さによって示されるように、この神法と同一視されるに値するのはノアだけであるとしても、ノアとその仲間たちは、箱舟に入る際の救助から全員が平等に恩恵を受けていることが示されています。。そうですよ。

」したがって、ノアは、古代の僕たちに原則としてすでに教えられていた神の律法に完全に準拠していました。

創世記

7:2:

「あなたは、すべての清い動物、雄と雌を七対持って行かなければなりません。純粋ではない一対の動物、オスとメス。」

純粋か不純か」に分類される動物の区別を呼び起こします。したがって、この基準は地球の創造と同じくらい古いものであり、レビ記 11章では、神は初めから定めたこれらの基準を思い出ただけです。したがって、神には、「安息日」と同様に、現代において、人間に対して定められた神の秩序を称賛するものに対する敬意を、ご自分の選民に要求する十分な理由があるのです。単一の「不純物」に対して「7人の純粋なカップル」を選択することにより、神は、地上の計画の時の聖化の数字「7」である「印章」で印を付ける純度を好むことを示しています。

創世記

7:3:

「空の鳥も

7

つがい、雄と雌で、全地で種族を存続させるためである。」

天使のような天上の生命のイメージから、「空の鳥」の「7つがい」も保存されています。

創世記

7:4:

「あと七日間、わたしは四十日四十夜、地に雨を降らせ、わたしが造ったすべての生き物を地の表から滅ぼす。」

7

」という数字は、動物や人間が箱舟に入る瞬間から最初の滝までを分ける

「**7日間**」を表すために今でも言及されています。神は「**40日40夜**」の間、絶え間なく雨を降らせませす。この「**40**」という数字がテストの数字です。それは、ヘブライ人のスパイをカナンの地に送った「**40日間**」と、巨人が住む土地への侵入を拒否した結果、砂漠で生と死を経験した「

40年間」に関するものとなる。そして、地上での宣教に入るとき、イエスは「

40日40夜」の断食の後、悪魔の誘惑に引き渡されることとなります。また、キリストの復活からペンテコステの聖霊の注ぎまでには「

40日」あります。

神にとって、今回の豪雨の目的は「**自らが造った存在**」を滅ぼすことである。このようにして彼は、創造主である神として、すべての被造物の命は神のものであり、それらを救うか滅ぼすかであることを思い出します。彼は、将来の世代に忘れてはならない苦い教訓を与えたいと考えています。

創世記 7:5: 「**ノアは主が命じられたことをすべて実行した。**」

忠実で従順なノアは神を失望させず、神が命じたすべてを実行しました。

創世記 7:6: 「**大洪水が地上に起こったとき、ノアは600歳**でした。

»

時期に関するその他の詳細は後述しますが、すでにこの節で洪水がノアの生涯の **600** 年目にあるとされています。**500**年目に長男が誕生してから**100**年が経ちました。

創世記

7:7:

「**ノアは洪水から逃れるために、息子たち、妻、息子たちの妻たちとともに箱舟に入った。**」

洪水から逃れられるのはたったの**8**人だけだ。

創世記

7:8:

「**清い獣と清くない獣、鳥と地の上を動くすべてのものとの間**」

神は肯定的です。箱舟に入り、救われるべき「**地球上を動くすべてのもの**」のカップル。しかし、大洪水前と後、どちらの「**地球**」なのでしょう？動詞「**動く**」の現在形は、神が物語の中で語りかけているモーセの時代の滅亡後の地球を暗示しています。この微妙な点は、もしそれらが洪水前に存在していたならば、再人口が増えた地球上では望ましくない特定の怪物種を放棄し、完全に絶滅させることを正当化する可能性がある。

創世記

7:9:

「**彼は、神がノアに命じられたとおり、男と女、二人ずつノアと一緒に箱舟に入った。**」

この原則は動物に関係していますが、彼の **3**
人の息子とその妻によって形成された **3**
組の人間のカップル、そして彼と彼の妻に関係する彼自身のカップルにも

関係しています。カップルのみを選択するという神の選択は、神がカップルに与える役割、つまり、再生産し、増やすことを私たちに明らかにします。

創世記 7:10: 「七日後、洪水の水が地上に現れた。」

ノアの生涯600^{年目}の第2の月の10日、つまり、続く11節に示されている17日の7日前に行われました。この第7章の16節に引用されている正確さによれば、神ご自身がすべての居住者に対して箱舟の「扉」を閉めたのは、この10日目のことでした。

創世記

7:11:

「ノアの生涯六百年、第二の月の十七日、その日、大いなる深みのすべての泉が湧き出て、天の水門が注ぎ出された。 . 開いた」

ノア紀元600^年の「第2の月17日」を「天の窓を開ける」日として選びました。 **17**
という数字は、聖書とその預言の数字暗号における裁きを象徴しています。

第

6

世代の選出者らの後継者によって確立された計算では、洪水はイブとアダムの罪以来 1656 年、つまり 2001 年に達成される世界の終わりの 6001 年の春の 4345 年前とされています。私たちの通常の暦は 2030 年の春であり、誤った誤解を招く人間の暦の 30 年 4 月 3 日に起こったイエス・キリストの贖いの死の 2345 年前です。

以下の説明は創世記

8:2

で更新されます。この聖句で神は、「深みの源」の補完的な役割を呼び起こすことによって、洪水は空から降る雨だけによって引き起こされたものではないことを私たちに明らかにしています。

「深淵」とは創造の初日から完全に水で覆われた地球を指すことを知っており、その「源」は海そのものによって引き起こされる水位の上昇を示唆しています。この現象は、海底のレベルが変化して上昇し、初日に地球全体を覆うレベルに達するまで水位が上昇することによって得られます。

3日^目に乾いた土地が水面から現れたのは海の深淵の沈下によってであり、乾いた土地が洪水の水で覆われたのはその逆の作用によってであった。

「天の水門」と呼ばれる雨は、罰が天から、天の神から来たことを示すためにのみ役立ちました。後に、このイメージ「天の鍵」は、同じ天の神から来る祝福の反対の役割を担うこととなります。

創世記 7:12: 「雨は四十日四十夜、地に降った。」

この現象は、信じていない罪人たちを驚かせたに違いありません。特にこの洪水の前には雨は存在しませんでした。古代の土地は、小川によって灌漑され、水が供給されていました。したがって雨は必要なく、代わりに朝露が降りました。そしてこれは、ノアが乾いた地に箱舟を建てて以来、不信者たちが言葉と行為の両方でノアによって告げられた大洪水を信じるのが難しかった理由を説明しています。

40日40泊」の時間は試練の時間を対象としています。次に、エジプトを出たばかりの肉のイスラエルは、この期間中神によって守られていたモーセの不在中に試されることとなります。その結果は、モーセの肉欲の兄弟アロンの同意のもとに溶かされた「金の子牛」となります。その後、カナンの地を「

40日40夜」探検することになりますが、その結果、そこに住む巨人のせいでも人々はカナンへの立ち入りを拒否することとなります。イエスは今度は「

40日40夜」試練を受けることになるが、今度はこの長い断食で弱りながらも誘惑する悪魔に抵抗し、結局勝利を得ることなくイエスのもとを去ることになる。イエスにとって、それは地上での宣教を可能にし、正当なものにしたのです。

創世記

7:13:

「その日、ノアの息子であるノア、セム、ハム、ヤペテと、ノアの妻、そして彼らと一緒に息子たちの三人の妻が箱舟に入った。」

この聖句は、地上の人間の男女の選択を強調しています。人間の男性にはそれぞれ「助手」と呼ばれる女性、「妻」と呼ばれる女性が同行します。このようにして、各カップルは、キリストとその教会、「彼の助け」、彼が救おうとしている選ばれた人に似せて自分自身を表現します。なぜなら、「箱舟」のシェルターは、それが人間に明らかにする最初の救いのイメージだからです。

創世記

7:14:

「彼らと、その種類のすべての獣、その種類のすべての牛、その種類のすべての地を這うすべての生き物、その種類のすべての鳥、すべての小鳥、翼を持つすべてのもの。」

種」という言葉を強調することによって、神は、人類は最後の時代において、動物、さらには人類のために争い、違反し、疑問を呈することに喜びを感じるというご自身の本性の法則を思い出させます。彼ほど種の純粋性を擁護する人はいないでしょう。そして彼は、彼のオリジナルの創造物の完璧さはこの純粋さと種のこの絶対的な分離にあるため、この主題について彼の神聖な意見を共有することを彼の選出者に要求します。

有翼種を強く強調することによって、神は罪の大地と空気を悪魔の支配下にある王国として示唆しており、神自身はエペソ書で「空気力の君」と呼ばれています。2:2。

創世記

7:15:

「彼らは、命の息を持つすべての肉の者たちから二人ずつ、ノアのもとへ箱舟に入った。」

神によって選ばれたそれぞれの夫婦は、洪水の後もその命が続くように、同類の夫婦から別れます。この決定的な分離において、神は人間の自由な選択の前に定めた

2

つの道の原則、つまり善の道は命につながり、悪の道は死につながります。

創世記 7:16:

「そして、神がノアに命じたとおりに、男も女もすべて肉なる者たちが入ってきた。それから主は彼に扉を閉められました。」

「種」の生殖の目的は、

「雄と雌」という言及によってここで確認されます。

この経験にすべての重要性を与え、神の恵みの時代の終わりの預言的な性格を与える行動は次のとおりです。「それから主は彼に扉を閉められた」。それは、生の運命と死の運命が変わることなく分かれる瞬間です。最後通牒によれば、それは2029年にも同様であり、そのとき生き残った人々は、神とその7日目の安息日、つまり土曜日を敬うか、ローマとその初日の日曜日を敬うかの選択をすることになるだろう。反逆的な人類による法令の形で。ここでもまた、「恵みの扉」は、黙示録 3:7によれば、「開く者も閉じる者」神によって閉じられます。

創世記 7:17:

「洪水は地上で四十日間続いた。水は増して箱舟を押し上げ、箱舟は地の上に上がった。」

アーチが上がっています。

創世記 7:18:

「水は地の上でますます増え、箱舟は水の表面に浮かんだ。」

箱舟が浮かびます。

創世記 7:19:

「水はますます増えて、全天の下にある高い山々がすべて覆われました。」

乾いた土は水に浸ると普遍的に消えます。

創世記 7:20: 「水は山の上に 15

キュビトも上がり、山は覆われました。」

当時の最高峰は約8メートルの水に覆われていた。

創世記 7:21:

「鳥も牛も動物も、地を這うすべてのものとすべての人間も、地の上を動くものはすべて滅びました。」

空気を呼吸する動物はすべて溺れます。洪水はサタンのような天上の存在が地上の存在とともに滅ぼされるという最後の審判の預言的なイメージであるため、鳥に関する正確さはなおさら興味深い。

創世記 7:22:

「息があるもの、鼻の穴に命の息があるもの、そして乾いた地にあったものはすべて死んだ。」

人間のように創造され、その命が呼吸に依存しているすべての生き物は溺死します。これが洪水の刑罰を覆す唯一の影である。なぜなら、罪はあくまでも人間にあり、どこかで罪のない動物の死は不当だからである

。しかし、反逆的な人類を完全に沈めるために、神は彼らと同じように地球の大気中の空気を吸う動物たちを彼らと一緒に滅ぼすことを余儀なくされました。最後に、この決定を理解するために、神が地球を創造したのは、ご自身に似せて造られた人間のためであり、神を困らせ、神に同行し、家畜の場合は神に仕えるために造られた動物のためではないということを考慮してください。

創世記

7:23:

「地表にいたすべての生き物は、人間も牛も、はうものも、空の鳥も断ち切られました。彼らは地から切り離されました。残ったのはノアと、箱舟の中にノアと一緒にいた人々だけだった。」

。彼らは皆、「自分に何があったのか」ということに思いを馳せ、関心を持っています。箱舟の中で。」

創世記 7:24: 「水は百五十日間、地上で大水でした。」

「百五十日」は、洪水を引き起こした40日40晩の絶え間ない雨の後に始まりました。最高高さ「

15キュビト」、つまり当時の「最も高い山」から約8メートルに達した後も、水位は「

150日間」安定したままでした。その後、神の望む枯渇するまで徐々に減少していきます。

注:

神は古代の人間と動物に関する巨大な基準に基づいて生命を創造しました。しかし、洪水の後、彼のプロジェクトは、すべての生き物のサイズを比例的に縮小することを目的としているため、生命はポストディルヴィアン標準で誕生します。カナンに入ったとき、ヘブライ人のスパイは、自分たちの目で、それを運ぶのに同じくらいの大きさの人が2人かかったほど大きなブドウの房を見た、と証言した。したがって、サイズの縮小は必然的に樹木、果物、野菜にも関係します。このように、創造主は決して創造をやめることはありません。なぜなら、時間の経過とともに、創造主は地上の創造物を修正し、新たに生じる生活条件に適応させるからです。彼は、太陽光線が

90

度で地球に当たる、地球の熱帯および赤道地域で強い太陽放射線にさらされて暮らす人間の皮膚の黒い色素沈着を作成しました。他の肌の色は、日光の量に応じて、多かれ少なかれ白または青白く、多かれ少なかれ銅色になります。しかし、血によるアダムの基本的な赤（レッド）は、すべての人間の中にあります。

聖書は古代に生きていた動物種の詳細な名前を明記していません。神はこの主題を謎のままにしており、特別な啓示もなく、誰もが物事を自由に想像できます。しかし、私は、この最初の陸上生命体に完璧な性格を与えなかったため、神は当時、科学研究者によって今日地球の土壌からその骨が発見されている先史時代の怪物を創造しなかったのではないかとい

う仮説を立てました。地球。また、私は彼らが洪水後に神によって創造された可能性を主張しました。その目的は、すぐに再び神から離れてしまう人間に対する地球の呪いを強化するためです。神から切り離されることによって、彼らは知性と、神がアダムからノアに与えた偉大な知識を失うこととなります。これは、地球上の特定の場所では、人間が凶暴な動物に攻撃され脅迫される「穴居人」の墮落した状態に陥ることになるが、それでも人間は自然の貴重な助けを借りて動物を破壊することができるだろう。悪天候と神の憐れみ深い善意。

創世記 8

箱舟の住人たちの一瞬の別れ

創世記

8:1:

「神はノアと、彼と一緒に箱舟の中にいたすべての動物とすべての牛のことを覚えておられました。そして神は地の上に風を起し、水は静まりました。」

安心してください、彼はそれを決して忘れていませんでしたが、浮かぶ箱船に閉じ込められたこのユニークな生命の集まりが、人類と動物種に神に見捨てられたように見えるほど劣化した外観を与えているのは事実です。実は、この命は神様が宝物として見守ってくださっているのです、全く安全なのです。それらは最も貴重なものであり、地球に再び生息し、その表面に広がる最初の果実です。

創世記

8:2:

「深みの泉と天の窓は閉まり、天から雨はもう降らなかった。」

神は必要に応じて洪水の水を創造します。彼らはどこから来たのか？天からですが、何よりも神の創造力からです。彼は鍵番のイメージを持って、象徴的な天の水門を開けましたが、再び閉じる時が来ます。

「深みの源」の補完的な役割を呼び起こすことによって、洪水は空から降る雨だけによって引き起こされたものではないことを私たちに明らかにしています。

「深淵」とは創造の初日から完全に水で覆われた地球を指すことを知っており、その「源」は海そのものによって引き起こされる水位の上昇を示唆しています。この現象は、海底のレベルが変化して上昇し、初日に地球全体を覆うレベルに達するまで水位が上昇することによって得られます。

3日^目に乾いた土地が水面から現れたのは海の深淵の沈下によってであり

、乾いた土地が洪水の水で覆われたのはその逆の作用によってであった。

「天の水門」と呼ばれる雨は、罰が天から、天の神から来たことを示すた

めにのみ役立ちました。後に、このイメージ「天の鍵」は、同じ天の神から来る祝福の反対の役割を担うことになります。

創造主である神は、意志のままに、瞬く間に洪水を生み出すことができたはずですが、それにもかかわらず、彼はすでに作成した作品に徐々に取り組むことを好みました。このようにして神は、自然が彼の手の中にある強力な武器であり、それが善に歩むか悪に歩むかに応じて祝福を与えるか呪いを与えるために操作する強力な手段であることを人類に示します。

創世記 8:3:

「水は地から出て、どんどん遠ざかり、百五十日の終わりに水は減りました。」

40日40晩の絶え間ない雨の後、最高水位での安定が150日間続いた後、景気後退が始まります。ゆっくりと海の深淵のレベルは下がっていきませんが、洪水前ほど深くは上がりません。

創世記 8:4: 「第 7 の月の 17 日に、箱舟はアララトの山の上に置かれました。」

5か月の終わり、つまり「第7の月の17日」の日まで、箱舟は浮かぶのをやめます。アララト山の最高峰にあります。この「17」という数字は、神の裁きの行為の終わりを確認します。この解明から、洪水の間、箱舟はノアとその息子たちによって建てられた地域から遠く離れなかったことがわかります。そして神は、ロシアとトルコ当局によって立ち入りが禁止され、今も立ち入りが禁止され続けている同じアララト山の頂上で、この洪水の証拠が世界の終わりまで目に見えるままであることを望んでいた。しかし神が選んだその時に、神は氷と雪に挟まれた箱舟の一部の存在を確認する航空写真の撮影を好まれました。今日、衛星観測によってこの存在が強力に確認される可能性があります。しかし、地上の権威者たちは創造主である神を讃美しようとしているわけではありません。彼らは神に対して敵として振る舞っており、公平に見て、神は疫病とテロ攻撃で彼らを攻撃することで彼らに報いるのです。

創世記 8:5:

「水は十の月まで減り続けた。十月の一日、山の頂上が現れた。」

洪水後の水位は古代の地球の水位よりも高くなるため、水の削減には限界があります。古代の溪谷は水没したままになり、地中海、カスピ海、紅海、黒海などの現在の内海の外観を帯びることになります。

創世記 8:6:

「四十日の終わりに、ノアは箱舟のために作った窓を開けた。」

150日間の安定と40日間の待機の後、ノアは初めて小さな窓を開けます。 1 キュビトまたは 55 cm という小さなサイズは、その唯一の用途が鳥を放ち、命の箱舟から逃げ出すことだったため、正当化されました。

創世記

8:7:

「神はカラスを放すと、それは出て行ったり戻ったりした。ついには地の水が枯れた。」

、創造の始まりにおける「闇と光」あるいは「夜と昼」の順序に従って呼び起こされます。また、第一発見者として送り込まれたのは、

「夜」のような「黒い」羽を持つ、不純な「鴉」である。彼は神に選ばれた者であるノアに対して自由に独立して行動します。したがって、それは神との関係なしに活動する暗黒の宗教を象徴しています。

より正確には、それは、神がカラスの出入りなど、何度も預言者を送り、ご自分の民を罪の習慣から救おうとした古い契約の肉欲のイスラエルを象徴しています。

「カラス」のように、最終的に神に拒絶されたこのイスラエルは、神から切り離されて歴史を続けました。

創世記

8:8:

「彼はまた、地表から水が減ったかどうかを見るために、鳩を放した。」

同じ命令で、雪のような「白い」羽を持つ純粋な「鳩」が偵察に送られます。

「日と光」のサインの下に置かれています。そのため、彼女はイエス・キリストが流した血に基づいて新しい契約を預言します。

創世記

8:9:

「しかし、鳩は足の裏を置く場所を見つけられず、箱舟の中に戻って行きました。全地の表面には水があったからです。彼は手を出してそれを取り、箱舟の中に持ち込んだ。」

独立した黒い「カラス」とは異なり、白い「鳩」はノアと密接な関係にあり、ノアは「彼女を連れて箱舟に連れて行くために手を」差し出します。選ばれた者と天の神とを繋ぐ絆をイメージしています。

「鳩」は、いつかイエス・キリストが洗礼者ヨハネの前に現れて洗礼を受けるとき、その上に着陸します。

これら

2

つの聖書の引用を比較することをお勧めします。この聖句の「しかし、鳩は足の裏を休める場所を見つけられなかった」というマタイ

8:20

の聖句です。「イエスは彼に答えられた。キツネには巣があり、空の鳥には巣がある。しかし、人の子には頭を置く場所がありません。」そして、

ヨハネ

1:5

と

11

のこれらの節では、命の神聖な「光」の化身であるキリストについて、次のように述べています。彼女自身の人々に向けられましたが、彼女自身の人々は彼女を受け入れませんでした。」

「鳩」がノアに連れ去られて「手」に抱かれて復活したように、救い主イエス・キリストは天の父としての神性に向かって天に昇り、地上にメッセージを残されました。選ばれた人々の救いについて、黙示録

14:6

で「永遠の福音」と呼ばれる彼の良い知らせ。そして黙示録 1 章 20

節では、

「七つの教会」によって預言された「七つの時代」において、神はそれらを「手に」保持し、そこで神が「七つの燭台」によってイメージされる神の「光」を神の聖化において分かち合うようにさせます。

創世記 8:10: 「そして彼はさらに 7
日間待って、再び箱舟から鳩を放した。」

この「七日間」の二重の思い出は、ノアにとっても、今日の私たちと同様に、人生は「七日間」の一週間の統一、また「七千年」の象徴的な統一にも神によって確立され、秩序づけられたことを教えてくれます。彼の偉大な節約プロジェクトについて。この「7」という数字についての言及を強く求めることによって、私たちは神がこの数字に与えた重要性を理解することができます。それは、地上の支配に終止符を打つキリストの栄光の再来まで、彼が特に悪魔に攻撃されることを正当化するでしょう。

創世記 8:11:
「夕方、鳩が彼のところに戻ってきました。すると、見よ、引き裂かれたオリーブの葉がそのくちばしにくわえられていた。それでノアは地球から水が減ったことを知りました。

夕べ」という言葉によって告げられる長い「暗闇」を経て、救いの希望と罪からの解放の喜びが「オリーブの木」のイメージの下に、古いもの、新しいものへと続いて現れます。ノアが「オリーブの葉」を通して、期待され期待されていた地球が彼を歓迎する準備ができていることを知ったように、「神の子たち」は天の王国が神の使者によって自分たちに開かれたことを学び、理解するでしょう。天国のイエス・キリスト。

この「オリーブの葉」はノアに木の発芽と成長が再び可能になったことを証明しました。

創世記 8:12: 「そして彼はさらに 7
日間待った。そして彼は鳩を放しました。しかし、彼女は決して彼のところに戻ってきませんでした。」

この兆候は決定的でした。なぜなら、それは「ハト」が再び餌を提供してくれる自然の中に留まる選択をしたことを証明したからです。

「鳩」が希望のメッセージを伝えた後に消えるのと同じように、選民を償還するために地上で命を捧げた後、「平和の君」イエス・キリストは地球と弟子たちを自由に独立させて去ります。彼の最後の栄光の帰還まで彼らの人生を送ります。

創世記 8:13:
「六百一年の第一月の一日に、地の水は枯れた。ノアが箱舟の覆いを外して見ると、地の表面は乾いていました。

地球の乾燥はまだ部分的ではありますが、有望であるため、ノアは箱舟の屋根を開けて外側を見始め、それがアララト山の頂上に座礁していることを知り、彼の視界は非常に遠くまで広がりました。地平線の彼方ま

で広く。洪水体験では、箱舟が孵化した卵をイメージします。孵化すると、ヒナ自身が自分を包んでいた殻を破ります。ノアも同じことをします。彼は「箱舟から覆いを取り除きます」が、それはもはや箱舟を豪雨から守るのに役に立たなくなります。神は自ら閉じた箱舟の扉を開けるために来たのではないことに注意してください。これは、救いと天国への扉が常に閉ざされている地上の反逆者に対して、イエスが疑問を抱いたり、判断基準を変更したりしないことを意味します。

創世記 8:14: 「第二の月の二十七日、地は乾いた。」

地球は、船に乗り出して神が扉を閉めた日から
377
日間箱舟に完全に閉じ込められた後、再び居住可能になります。

創世記 8:15: 「すると、神はノアにこう言われた。」

創世記

8:16:

「あなたとあなたの妻、あなたの息子たちとあなたの息子の妻たちと一緒に箱舟から出て行きなさい。」

「箱舟」の出口の合図をするのは再び神であり、洪水の前にその居住者に対して唯一の「扉」を閉めておられたのは神です。

創世記

8:17:

「あなたと一緒にいるすべての肉の生き物、鳥も牛も、地を這うすべてのものを連れ出しなさい。子を産んで、地に増えなさい。」

この場面は創造週の5日目の場面に似ていますが、洪水後の地球の再人口は地球の歴史の最初の6000年間に預言されたプロジェクトの一段階であるため、これは新たな創造の問題ではありません。

。神はこの段階が恐ろしく、人々を思いとどまらせるようなものになることを望んでおられました。彼は人類に神の裁きの影響についての致命的な証拠を与えました。その証拠は、ペテロ第二

3章5節から8節で思い出されます。「実際、彼らは、水から取られて水によって形成された地と同じように、天がかつて神の言葉によって存在していたことを無視したいのです。これらのことによって、当時の世界は滅び、水に沈みましたが、同じ言葉によって、今の天と地は、不敬虔な人々の裁きと破滅の日のために、火のために保たれ、保管されています。しかし、愛する人よ、あなたがたが知ってはいけないことが一つあります、それは、主にとっては一日は千年のようであり、千年は一日のようであるということです。

」予測された火の洪水は、7千年紀の終わり、最後の審判の際に、地球の表面全体を覆う地下のマグマの火の源が開くことによって達成されます。

黙示録

20:14-15

で引用されているこの「火の湖」は、不忠実で反逆的な住民たちと、示された神の愛を軽蔑して特権を与えようとした彼らの行いによって地表を焼き尽くします。そして、この7千年紀は週の7日目によって預言されました。これは、「一日は千年のようであり、千年は一日のようである」という定義に従っています。

創世記

8:18:

「そしてノアは息子たち、妻、そして息子たちの妻たちとともに出て行った。」

動物たちが解放されると、新しい人類の代表が順番に箱舟から現れます。彼らは、377昼夜、狭くて暗い密閉空間に閉じ込められた後、太陽の光と、自然が与えてくれる広大でほぼ無限の空間を発見する。

創世記

8:19:

「すべての動物、すべての這うもの、すべての鳥、地の上を動くすべてのものは、その種類に応じて箱舟から出てきた。」

箱舟の出口は、選ばれた者が天国に入る事を預言していますが、そこに入るのは神によって純粋であると判断された者だけです。ノアの時代にはまだそうではありません。純粋なものと不純なものが同じ地球上に一緒に住み、世界の終わりまで互いに戦います。

創世記

8:20:

「ノアは主のために祭壇を築きました。彼はすべての清い獣とすべての清い鳥を取り上げ、祭壇に燔祭をささげた。」

全焼のいけにえは、選ばれたノアが神に感謝を示す行為です。無実の犠牲者、この場合は動物の死は、創造主である神に、イエス・キリストにあって選ばれた人々の魂を救い出す手段を思い出させます。純粋な動物は、魂、体、精神全体において完全な純粋さを体現するキリストの犠牲をイメージするのにふさわしいものです。

創世記

8:21:

「主は心地よい香りを嗅ぎ、主は心の中で言われた。『わたしはもう人間のために地を呪わない。人間の心の思いは初めから邪悪なものだからである。』そして私はこれまでのようにあらゆる生き物を打ち倒すことはもうしません。」

ノアが捧げた全焼のいけにえは、本物の信仰の行為であり、従順な信仰の行為です。なぜなら、もし彼が神に犠牲を捧げるなら、それはエジプトから出てきたヘブライ人にそれを教えるずっと前に、神が彼に命じた犠牲の儀式に応じたものだからです。

「心地よい香り」という表現は、神の嗅覚に関するものではなく、忠実な選民の従順と、この儀式がイエス・キリストにおける将来の慈悲深い犠牲に与える預言的なビジョンの両方を高く評価するその神聖な霊に関係しています。

最後の審判が下されるまで、これ以上破壊的な洪水は起こらないでしょう。イエスがマタイ

7:11

で使徒たちについて次のように言われたように、人間は生来、遺伝的に肉体的に「邪悪」であることが経験によって証明されています。まして、天におられるあなたがたの父は、求める者たちにどれほど良い賜物を与えてくださることでしょう。」したがって、神はこの「邪悪な」「動物」を飼いならす必要があるが、これはパウロも I コリント 2 章 14 節で共有して

いる意見であり、彼らに対する神の愛の力をイエス・キリストにあって実証することによって、

「**邪悪**」と呼ばれる人々の中には、選ばれた忠実で従順な人間。

創世記

8:22:

「**地が続く限り、種まきと収穫、寒さと暑さ、夏と冬、昼と夜は止まることはありません。**」

この第

8

章は、天地創造の初日以来、地上の生活の状態を支配する絶対的な対立の交替を思い出させるところで終わります。創造の初日において、神はその構成「夜と昼」によって、「闇」と「闇」との間の地上の戦いを明らかにしました。それはイエス・キリストを通して最終的に克服される光です。この聖句の中で彼は、罪自体に起因するこれらの極端な交代を列挙していますが、それは罪自体が、神を愛し仕えるか、あるいは神を憎むまでに拒絶するかのものであるこれらの天上および地上の生物に与えられた自由選択の結果であると述べています。しかし、この自由の結果は、ちょうど洪水が示したように、善の党派には命があり、悪の党派には死と滅亡がもたらされるだろう。

引用された主題はすべて、精神的なメッセージを伝えています。

「**種まきと収穫**」：福音宣教の始まりと世界の終わりを暗示します。イエス・キリストがたとえ話の中で、特にマタイ 13 章 37 節から 39 節で取り上げたイメージを次のように述べています。フィールドは世界です。良い種は王国の子らです。毒麦は邪悪な者の子らです。それを蒔いた敵は悪魔です。**収穫は世界の終わりです。収穫者は天使です。**」

「**寒さと熱**」：「**熱**」は黙示録

7:16

で引用されています。」。しかし、まったく逆に、「**寒さ**」は罪の呪いの結果でもあります。

「**夏と冬**」：これらは極端な

2

つの季節であり、どちらも過剰な点で他の季節と同様に不快です。

「**昼と夜**」：神は人間が与える順序でそれらを引用します。なぜなら、彼の計画において、キリストにおいては昼の時、つまり神の恵みに入ろうとする呼びかけの時があるからですが、この時が過ぎた後には「」の時間が来るからです。ヨハネ 9 章 4 節によれば、「**誰も働くことができない夜**」、つまり、**恵みの時の終わりから生か死に決定的に定められているので、自分の運命を変えること**です。

創世記 9

日常生活からの離脱

創世記

9:1:

「そして神はノアとその息子たちを祝福し、彼らに言われた、「産めよ、増えよ、地に満ちよ」。」

これは、人間が建てた箱船によって選ばれ救われた生き物たち、つまりノアとその3人の息子たちに神が与える最初の役割となる。

創世記

9:2:

「あなたは、地のすべての獣、空のすべての鳥、地上を動くすべての生き物、海のすべての魚たちに恐れと狼狽を与えるだろう。彼らは救われるだろう」あなたの手に。」

動物が生き残れるのは人間のおかげであり、だからこそ人間は洪水前以上に動物を支配できるようになるのです。恐怖やイライラによって動物が自制心を失う場合を除いて、原則として、すべての動物は人間を恐れ、人間に遭遇すると逃げようとします。

創世記

9:3:

「動くもの、命のあるものはすべて、あなたの食物となる。わたしはこれらすべてを緑の草としてあなたに与える。」

この食生活の変化にはいくつかの正当性があります。提示された順序をあまり重要視せずに、まず、洪水で植物性食物が枯渇し、部分的に不毛になった塩水に覆われた地球が完全かつ完全な肥沃さと生産性を徐々に回復するだけであることを挙げます。さらに、ヘブライ語の犠牲の儀式の確立には、その時が来て、聖晩餐の預言的なビジョンの中で犠牲となった犠牲者の肉を消費することが必要となるでしょう。そこでは、パンがイエス・キリストの体の象徴として食べられます。彼の血の象徴として飲まれたブドウジュース。

3番目の理由は、あまり容認できないが、同様に真実である。それは、神が人間の寿命を縮めたいと望んでいるということである。そして、それ自体を腐敗させ、生命を破壊する要素を人体にもたらす肉の消費は、人の欲望と決断の成功の基礎となるでしょう。ベジタリアンまたはビーガンの食事の経験のみが個人的な確証を与えます。この考えを強化するために、たとえそれらが人間の健康に有害であるとしても、神は人間が不純な動物を食べることを禁じていないことに注意してください。

創世記

9:4:

「ただ、あなただけが、その魂や血とともに肉を食べてはならない。」

レビ記

17:10-11

によると、この禁止事項は古い契約の中で有効であり続けます。血を流し、私は彼を彼の民の中から断ち切る。

「そして、ニュースでは、使徒15:19から21によれば、次のように書かれています。「したがって、私たちは、神に改宗する異邦人たちに困難をもたらすのではなく、偶像の汚れを避けるように彼らに手紙を書くべきであると私は考えています」

、淫行から、首を絞められたものから、そして血から。モーセは安息日ごとにシナゴグで読まれているので、何世代にもわたって、モーセを説教する人々があらゆる都市にいたからです。」

、肉の体と完全に肉に依存する霊からなる被造物全体を「魂」と呼びます。この肉体において、運動器官は血液そのものから供給される脳であり、血液は呼吸するたびに肺から吸い込まれる酸素によって浄化されます。生きている状態では、脳は思考と記憶を生成する電気信号を生成し、肉体を構成する他のすべての肉の器官の機能を管理します。さらに、ゲノムによって各生きている魂に固有の「血液」の役割は、体全体で生成される老廃物や不純物を運ぶため、またスピリチュアルな理由から、健康上の理由から消費してはなりません。神は、ご自身の宗教的教えのために、キリストの血を飲むという原則を絶対的な排他的な方法で留保しましたが、それはブドウの果汁という象徴的な形でのみでした。いのちが血の中にあるとすれば、キリストの血を飲む人は、体は養われるものでできているという真の原理に従って、キリストの聖なる完全な本性に再構築されます。

創世記

9:5:

「これも知っておいてください。私はあなたがたの魂の血を要求します。私はすべての動物の血を要求します。そして私は人間から、彼の兄弟である人間から、人間の魂を要求します。」

命は、それを創造した創造主にとって最も大切なものです。私たちは、この犯罪が奪われた命の真の所有者である彼に対する非道な行為であることを理解するために、彼の話の聞かなければなりません。したがって、命を奪う命令を正当化できるのは彼だけです。前の節で、神は人間が動物の命をとって食料にすることを許可されましたが、ここではそれは犯罪、つまり人間の命を決定的に終わらせる殺人の問題です。この取り去られた人生には、もはや神に近づく機会も、それまで神の救いの基準に適合していなかった行動の変化を目撃する機会もありません。ここで神は、「目には目を、歯には歯を、命には命を」という報復の法則の基礎を築いておられます。動物は人間の殺害の代償を自らの死で支払うことになり、カイン型人間は自分の血を分けたアベル型の「兄弟」を殺した場合に殺されることになる。

創世記

9:6:

「もし誰かが人の血を流すなら、その血は人によって流されるでしょう。神は人間をご自分の姿に似せて造られたからである。」

神は死者の数を増やそうとはなさらない。なぜなら、逆に、殺人者の死刑を認めることによって抑止効果を期待しており、またリスクを負うからこそ、最も多くの人間が死刑を学ぶことを期待しているからである。死に値する暗殺者にならないように、彼らの行動や攻撃性をコントロールしてください。

真の真の信仰によって生かされている人だけが、「神が人間を自分の姿に似せて造った」ということが何を意味するのかを理解することがで

きます。特に、今日の西洋世界や地球上のあらゆる場所で科学的知識に誘惑されているように、人類が怪物的で忌まわしいものになるときはなおさらです。

創世記 9:7:

「そして、あなたは子を生み、増え、地に広がり、地で増えなさい。」

神は本当にこの増加を望んでおり、それには正当な理由があり、選ばれた者の数は、途中で落ちる召された人々と比較しても非常に少ないため、神の被造物の数が多ければ多いほど、神は彼らの間でより多くのことができるでしょう。自分の選出者を見つけて選ぶこと。なぜなら、ダニエル 7:9 に記されている正確さによれば、その割合は、100億のコールに対して 100 万が選ばれる、つまり 10,000 に対して 1 であるからです。

創世記 9:8: 「神は再びノアとその息子たちにこう言われました。」

神が四人の男たちに呼びかけるのは、人類の代表である男性に支配権を与えると、彼らとその権威の下に置かれた女性や子供たちに許した行為に対して責任を負うことになるからである。支配は神が人間に与えた自信のしるしですが、それによって人間は神の面前と神の裁きに対して全責任を負います。

創世記 9:9:

「見よ、わたしはあなたと、そしてあなたの後の子孫と契約を結びます。」

今日私たちが重要なことは、私たちが神との間に「契約」を結ばれた「種」であることを認識することです。現代の生活とその魅力的な発明は、私たち人間の起源を何も変えません。私たちは、恐ろしい洪水の後、神が人類に与えた新たな始まりの相続人です。ノアとその3人の息子たちとの間に結ばれた契約は具体的です。それは神に、もはや洪水で全人類を滅ぼさないことを約束します。その後、神がアブラハムとの同盟を確立することになります。この同盟は、文字通り時間的にも霊的にも、イエス・キリストの救いの働きに焦点を当てた、連続する 2 つの側面で実現されます。この同盟は、問題となっている救いの地位と同様に、基本的に個人的なものとなるでしょう。初臨に先立つ16世紀の間に、神はヘブライ人に命じられた宗教儀式を通して救いの計画を明らかにします。そして、イエス・キリストにおけるこの計画の達成があらゆる光の中で明らかにされた後、さらに約16世紀の間、不貞が忠実に続き、1260年間、最も暗い闇がローマ教皇の庇護の下に君臨することになる。 1170年、ピョートル・ヴァルドが真の安息日の遵守を含めて純粋で忠実なキリスト教信仰を再び実践できるようになったときから、彼の後は、あまり啓発されていない選挙で選ばれた役人が宗教改革の活動に選ばれましたが、従事していましたが完了していませんでした。また、神が二度の信仰の試みを通じて、アドベンチズムの先駆者の中に忠実な選ばれた者を見つける

ことができたのは、1843年になってからでした。しかし、彼の預言で明らかにされた謎を完全に理解するにはまだ時期尚早でした。神との同盟のしるしは、常に神の光をもたらし、受け取ることである。だからこそ、私が神の名で書いている、神に選ばれた人々を啓蒙するための作品が、「イエスの証し」、つまり神の最後の形となるのである。それは彼の同盟が非常に現実的で確証されたものであることを示しています。

創世記 9:10:

「あなたと一緒にいるすべての生き物、家禽と牛、そして地のすべての獣、箱舟から出てきたすべてのもの、または地のすべての獣とともに。」

神が示した同盟は、動物、地球上に生き、これから増えていくすべてのものにも関係します。

創世記 9:11:

「わたしはあなたと契約を結びます。これ以上、肉が洪水によって滅ぼされることはなく、また、地を滅ぼす洪水がこれ以上起こらないことです。」

洪水が与えた教訓は特別なものであり続けなければなりません。神は、選ばれた人々の心を征服することが彼の目標であるため、これから接近戦に突入します。

創世記 9:12:

「そして神は言われた、『これは私とあなた、そしてあなたと共にいるすべての生き物との間に、代々続く契約のしるしである。』」

神が与えるこのしるしは、純粹でも不純でも、生きているすべてのものに関係しています。それはまだ、七日目の安息日とその人の所有物であるというしるしではありません。このしるしは、生き物たちに、二度と洪水で生き物を滅ぼさないという神が誓った約束を思い出させます。それが限界です。

創世記 9:13:

「わたしは弓を雲の中に置いた。それはわたしと地との間の契約のしるしとなるだろう。」

科学は虹の存在の物理的原因を説明するでしょう。これは、薄い水の層または高湿度に当たる太陽光の光スペクトルの内訳です。雨が降って太陽が光を放つと虹が現れることに誰もが気づいたことがあるでしょう。雨が洪水を思い出させ、日光が目に見えて有益で心を落ち着かせる神の光のイメージであるという事実は変わりません。

創世記 9:14:

「わたしが地の上に雲を集めると、弓は雲の中に現れます。」

したがって、雲は洪水の後にのみ、そして虹の原理と同時に雨を降らせるために神によって発明されました。しかし、私たちの忌まわしい時代に、不敬虔な男と女たちは、この神聖な同盟の象徴を取り上げて、性的倒錯者の集まりの頭字語および象徴にすることで、この虹の主題を歪め、汚しました。神はこのことに、ご自身と人類に対するこの忌まわしく無礼

な人類を攻撃する正当な理由を見いださなければなりません。彼の怒りの最後の兆候はすぐに現れ、火のように燃え上がり、死のように破壊的になります。

創世記

9:15:

「そして、わたしは、わたしとあなた、そしてあらゆる肉の生き物との間で交わした契約を思い出します。そうすれば、水はもはや洪水となつてすべての肉を滅ぼすことはありません。」

神の口から出たこれらの親切な言葉を読みながら、私は、古代人のレベルに達した人間の倒錯のゆえに今日神が言える言葉を考えることによってその矛盾を測ります。

神はその言葉を守ります。もう水の洪水はありませんが、すべての反逆者のために、火の洪水は裁きの日のために確保されています。使徒ペテロはペテロ第二

3章7節でこのことを私たちに思い出させました。しかし、この最後の審判の前、そしてキリストの再臨の前に、第三次世界大戦の核の火、つまり黙示録9:13から21の「第6の^{ラッパ}」が、複数の邪悪な致死性の「キノコ」の形でやって来ます。

、首都であるかどうかにかかわらず、地球上の大都市が不平等の避難所となっているものを取り除きます。

創世記

9:16:

「弓は雲の中にあります。そして私はそれを見て、神とすべての生き物、さらには地上のすべての肉との間の永遠の契約を思い出すつもりです。」

その時は遠く離れており、人類の新たな代表者たちは、先人たちが犯した過ちを回避するという大きな希望を残すことになるかもしれない。しかし今日では、古代の成果が私たちの至る所に現れているため、希望はもはや許されていません。

創世記

9:17:

「そして神はノアに言われた、『これはわたしと地上のすべての肉との間にわたしが定める契約のしるしである。』」

神は、「すべての肉」との間に確立されるこの契約の性質を強調されます。これは常に人類全体に関わる同盟です。

創世記

9:18:

「箱舟から出てきたノアの息子たちは、セム、ハム、ヤペテでした。ハムはカナンの子供でした。」

ハムはカナンの子供であった」という説明が与えられています。ノアとその息子たちは皆、古代人の大きさを保った巨人であることを覚えておいてください。このように、巨人は特に「カナン」の地で増殖し続けるだろう。エジプトを出たヘブライ人はその地で彼らを不幸な目に遭わせることになるだろう。なぜなら、その大きさによる恐怖から彼らは40年間砂漠をさまようことを余儀なくされるからである。そしてそこで死ぬ。

創世記

9:19:

「これらはノアの三人の息子であり、彼らの子孫は全地に住んでいた。」

もともと、古代ディルヴィア人はすべて、その起源として一人の男性、アダムを持っていたことに注意してください。新しい崩壊後の生活は、セム、チャム、ジャフェットの 3 人に基づいて構築されます。したがって、彼らの子孫の民族は**分離され、分裂することになります**。新しく誕生する人はそれぞれ、族長セム、ハム、またはヤペテと結びついています。分断の精神は、これらの異なる起源に依存して、祖先の伝統に執着する人々を互いに戦わせるでしょう。

創世記 9:20: 「ノアは土地を耕し始め、ブドウの木を植えた。」

この活動は、全体としては正常の範囲内であるにもかかわらず、深刻な結果をもたらすでしょう。ノアは栽培の最後にブドウを収穫し、その搾り汁が酸化したため、アルコールを飲んでいました。

創世記

9:21:

「彼はぶどう酒を飲んで酔って、天幕の真ん中で裸になった。」

ノエは自分の行動をコントロールできなくなることで、自分は孤独だと思い込み、自分自身をさらけ出し、完全に裸になります。

創世記

9:22:

「カナン之父ハムは父親の裸を見て、外で二人の兄弟に報告した。」

当時、人間の心は、罪深いアダムによって発見されたこの裸体に対してまだ非常に敏感でした。そしてチャムは、面白がって、確かに少し嘲笑しながら、自分の視覚体験を二人の兄弟に報告するという悪い考えを思いつきました。

創世記

9:23:

「それから、セムとヤペテはマントを取り、肩に掛け、後ろ向きに歩き、父親の裸を覆いました。彼らは顔を背けていたので、父親の裸は見えませんでした。」

二人の兄弟は必要なあらゆる予防策を講じて、父親の裸の体を覆いました。

創世記

9:24:

「ノアはワインから目覚めたとき、次の息子が自分にしたことを聞いた。」

そこで二人の兄弟が彼に教えなければなりませんでした。そしてこの非難は、父親としての名誉が侵害されたと感じるノアを興奮させるでしょう。彼は自発的にアルコールを飲んだわけではなく、時間が経つと酸化して糖分がアルコールに変化するブドウジュースの自然反応の被害者だった。

創世記

9:25:

「そして彼は言った、「カナンは呪われよ！」彼を兄弟の奴隷の奴隷にしましょう！」

実際、この経験は、創造主である神がノアの息子たちの子孫について預言する口実としてのみ機能します。カナン自身は父ハムの行動とは何の関係もなかったからだ。したがって、彼は自分の過失については無罪でした。そしてノアは何もしなかった彼を呪った。確立された状況は、出エジプト記 20 章 5 節にある神の十戒の 2 番目に現れる神の裁きの原則を私たちに明らかにし始めます。というのは、わたし、あなたの神、主はねたむ神であり、わたしを憎む者たちの三世代、四世代に至るまでの子供たちに対する父親の咎を責めているからである。」この明らかな不公平の中に、神の知恵のすべてが隠されています。なぜなら、考えてみてください、息子と父親の間には自然な絆があり、息子は攻撃されたときは常に父親の側につくからです。まれな例外を除いて。もし神が父親を打てば、息子は彼を憎み、父親を守りましょう。ノアは息子のカナンを呪い、子孫の成功を心配する父親ハムを罰します。そしてカナンは、ハムの息子であることの結果を彼とともに負うこととなります。したがって、彼はノアと彼が祝福した二人の息子、セムとヤペテに対して永続的な憤りを感じるようになります。私たちはすでに、カナンの子孫が神によって滅ぼされ、エジプトの奴隷状態から解放された神の民イスラエル（ハムのもう一人の息子：ミツライム）に国家領土を提供することを知っています。

創世記

9:26:

「そして彼は再び言った、「セムの神、主に祝福あれ。カナンが彼らの奴隷となりますように！」」

ノアは息子たちに対して、神が彼ら一人一人に対して持っている計画を預言します。したがって、カナンの子孫はセムの子孫の奴隷となるでしょう。チャムは南に向かって拡大し、現在のイスラエルの土地までアフリカ大陸に人が住み着くでしょう。セムは東と南東に向かって拡大し、現在のアラブ・イスラム諸国に人口が集中するだろう。アブラハムはカルデア、現在のイラクから純粋なセム人として生まれます。歴史がそれを裏付けていますが、カナンのアフリカは確かにセムの子孫であるアラブ人の奴隷でした。

創世記

9:27:

「神がヤペテの所有物を拡張し、彼をセムの天幕に住ませ、カナンを彼らの奴隷とさせてくださいますように。」

ヤペテは北、東、西に拡大します。長い間、北部が南部を支配することになる。北のキリスト教化された国々は、南のアラブ諸国を搾取し、カナンの子孫であるアフリカの人々を奴隷にすることを可能にする技術的および科学的発展を経験するでしょう。

創世記 9:28: 「ノアは洪水の後三百五十年生きた。」

ノアは

350

年にわたり、同時代の人々に洪水の証しをし、先人の過ちについて警告することができました。

創世記

9:29:

「ノアの生涯は九百五十年であった。それから彼は亡くなりました。」

アダムの洪水が起こった1656年にノアは600歳だったので、アダムの罪以来2006年に950歳で亡くなりました。創世記 10 章 25 節によると、1757

年に「ペレグ」が誕生したとき、ニムロデ王の反逆とバベルの塔の経験により、神によって「地球は分割された」そうです。この分裂、つまり分離は、神が諸民族に与えた異なる言語の結果であり、その結果、諸民族は分離し、神の顔と御旨の前に一つの塊を形成しなくなるのである。したがって、ノアはその出来事を経験し、その時彼は757歳でした。

ノアが死んだとき、アブラムはすでに生まれていました（イエス・キリストの死の2052年前の1948年、私たちの一般的な偽暦の30年に位置します）が、彼はカルデアのウルにいて、ノアの北に住んでいたのです。アラト山。

1948年に父テラハが70歳で生まれたアブラムは、2006年のノアの死から17年後の2023年に75歳となり、神の命令に応えるべくハランを離れた。同盟の霊的中継は次のとおりである。したがって、確実かつ達成されます。

2048

年、100

歳になったアブラムはアイザックの父親になります。彼は2123年に175歳で亡くなりました。

創世記 25:26 によると、イサクは 2108 年に 60 歳になり、双子のエサウとヤコブの父親になりました。

創世記 10 章

民族の分離

この章では、ノアの 3 人の息子の子孫を紹介します。神は預言の中で常に関係する地域の元の名前に言及するため、この啓示は有益です。これらの名前の中には、主なルーツが残っているため、現在の名前であると簡単に識別できるものもあります。例:メデの「マダイ」、トボリスクの「トゥバル」、モスクワの「メシエク」。

創世記

10:1:

「これらはノアの息子、セム、ハム、ヤペテの子孫である。洪水の後、彼らの間に息子たちが生まれました。」

ヤペテの息子たち

創世記 10:2:
「ヤペテの息子たちは、ゴメル、マゴグ、マダイ、ヤワン、トバル、メシエク、ティラスでした。」

「 *Madai* 」はメディアです。 「ジャワン」、ギリシャ。
「トウバル」、トボリスク、「メシエク」、モスクワ。

創世記 10:3:
「ゴメルの息子：アシュケナズ、リファト、トガルマ。」

創世記 10:4:
「ヤワンの息子たち：エリシャ、タルシシュ、キツティム、ドダニム。」
「タルシシュ」とはタルススを意味します。
「キティム」、キプロス。

創世記 10:5:
「彼らによって、諸国民の島々は、その土地に応じて、言語に応じて、家族に応じて、国民に応じて人口が定まった。」

国々の島々

上という表現は、現在のヨーロッパの西側諸国と、アメリカ大陸やオーストラリアなどのその広大な範囲を指します。

各人の言語による正確さは、
Gen.11で明らかになったバベルの塔の経験で説明されます。

ハムの息子たち

創世記 10:6:
「ハムの息子はクシュ、ミツライム、プト、カナンであった。」

クシュはエチオピアを指定する。 「ミツライム」、エジプト。
「プース」、リビア。そして「カナン」、現在のイスラエルまたは古代パレスチナ。

創世記 10:7:
「クシュの息子たち：シバ、ハビラ、サブタ、ラエマ、サブテカ。ラエマの息子：セバとデダン。」

創世記 10:8:
「クシュはまたニムロデを生みました。地上で力を持ち始めたのは彼でした。」

この王「ニムロド」は、創世記11章によれば、人間を民族や国家に分離し孤立させる神による言語分離の原因となる「バベルの塔」の建設者となります。

創世記 10:9:
「彼は主の前で勇敢な狩人でした。したがって、こう言われます：ニムロデのように、主の前で勇敢な狩人。」

創世記 10:10:
「彼は最初、シナルの地にあるバベル、エルク、アカド、カルネを治めました。」

「バベル」は古代バビロンを指します。
「アッカド」、古代アッカディアと現在の都市バグダッド。
「シャイニア」、イラク。

創世記 10:11:
「その地からアシュルが来た。彼はニネベ、レホボテ・ヒル、カラを建てた。」

「アッシュール」とはアッシリアを指します。
「ニネベ」は現在のモスルとなった。

創世記 10:12: 「ニネベとカラの間のレセン。それは大都市です。」
これら 3
つの都市は、現在のイラクの北部、「タイガー」川沿いに位置していました。

創世記 10:13:
「ミツライムはルディム、アナミム、レハビム、ナフツヒムを生んだ。」

創世記 10:14:
「ペリシテ人の出身であるパトルシム人、カスルヒム人、およびカフトリム人。」

「ペリシテ人」とは、旧同盟と同様にイスラエルと依然として戦争状態にある現在のパレスチナ人を指します。彼らは、エジプトが1979年にイスラエルと同盟を結ぶまで、イスラエルの歴史のもう一つの敵であったエジプトの息子たちです。

創世記 10:15: 「カナンは長子シドンとヘトを生んだ。」

創世記 10:16: 「エブス人、アモリ人、ギルガシ人」

「エブス」はエルサレムを指します。

「アモリ人」は神がイスラエルに与えた領土の最初の住民でした。彼らは巨大な規範の中に留まりましたが、神はその場所を解放するために、ご自分の民の目の前で彼らを殺し、有毒なスズメバチで彼らを一掃しました。

創世記 10:17: 「ヒビ人、アルカイ人、シニ人」

「罪」とは中国を指します。

創世記 10:18:
「アルヴァド人、ゼマリヤ人、ハマト人。そのとき、カナン人の家族は散り散りになりました。」

創世記 10:19:
「カナン人の境界は、ゲラル側のシドンからガザまで、ソドム、ゴモラ、アドマ、ゼボイム側からレシャまででした。」

これらの古代の名前は、イスラエルの土地を、現在のガザがまだ位置するシドンがある北から西側と、その場所にソドムとゴモラが設置されたことから南から東側に境界を定めています。ゼボイムが位置する北にある「死海」。

創世記

10:20:

「これらは、その家族に従って、その言語に従って、その国に従って、その国民に従って、ハムの子らです。」

セムの息子たち

創世記

10:21:

「ヘベルのすべての息子たちの父であり、長老ヤペテの兄弟であるセムにも息子たちが生まれました。」

創世記

10:22:

「セムの息子はエラム、アシュル、アルパクシャド、ルド、アラムであった。」

「エラム」とは、現在のイランに住む古代ペルシア人、およびインド北部のアーリア人を指します。

「アッシュール」、古代アッシリア、現在のイラク。

「ルド」、おそらくイスラエルのロッド。

「アラム」、シリアのアラム人。

創世記 10:23: 「アラムの子らはウズ、フル、ゲテル、マシュ。」

創世記

10:24:

「アルパクシャドはシェラクを生んだ。そしてシェラクはヘベルを生んだ。」

創世記

10:25:

「ヘベルには二人の息子が生まれました。一人の名前はペレグでした。彼の時代、土地は分割されていたからです。そして彼の兄弟の名前はヨクタンでした。」

彼の時代に地球は分かれていたからです」という正確さがわかります。私たちは彼のおかげで、アダムが罪を犯した1757年に、バベルの塔の建設による反逆的な統一の試みから生じた言語の分離を年代測定する可能性を与えられました。したがって、それはニムロデ王の治世の時代です。

創世記

10:26:

「ヨクタンはアルモダド、シェレフ、ハザルマベト、エラを生んだ」

創世記 10:27: 「ハドラム、ウザル、ディクラ」

創世記 10:28: 「オバル、アビマエル、シバ」

創世記

10:29:

「オフィル、ハビラ、ヨバブ。これらは皆ヨクタンの息子でした。」

創世記

10:30:

「彼らはセファルの側のメシャから東の山にまで住んでいた。」

創世記

10:31:

「これらは、その家族による、その言語による、彼らの国による、彼らの国民による、セムの子らである。」

創世記

10:32:

「これらは、世代、国民に応じた、ノアの息子たちの家族です。そして彼らから国々が生まれ、洪水後に地球上に広がりました。」

創世記 11 章

言語による分離

創世記 11:1: 「全地には1つの言語と同じ言葉がありました。」

神はここで、すべての人類は一組のカップル、アダムとイブの子孫であるという事実の論理的帰結を思い出されます。したがって、話し言葉はすべての子孫に伝えられました。

創世記

11:2:

「彼らは東から出発したとき、シナルの地に平原を見つけ、そこに住んだ。」

現在のイラクにある「シニア」という国の「東」には、現在のイランがありました。高地を離れた人々は、「ユーフラテス川とチグリス川」（ヘブライ語でプラット川とヒデケル川）という二大川からの豊かな水が流れ肥沃な平地に集まります。アブラハムの甥であるロトも、彼の時代、叔父と別居する際にこの場所を選んで定住しました。大平原は、世界の終わりまで有名であり続ける大都市「バベル」の建設に有利になります。

創世記

11:3:

「彼らは互いに言い合った、『来なさい!』レンガを作って火で焼きましょ。そしてレンガは石として機能し、アスファルトはセメントとして機能しました。」

集まった人々はもはやテントに住んでいるわけではなく、恒久的な住宅建設を可能にする焼成レンガの製造を発見した。この発見はすべての都市の起源です。エジプトでの奴隷生活中に、ファラオのためにラムセスを建てるためにこれらのレンガを製造したことが、ヘブライ人の苦しみの原因となるでしょう。違いは、レンガが火で焼かれるのではなく、土とわらで作られ、エジプトの灼熱の太陽で乾燥されることです。

創世記

11:4:

「そして彼らは再び言った、『行こう!』我らは自ら都を築き、その頂が天に届く塔を築き、全地に散り散りにならないように名を上げようではないか。」

ノアの息子たちとその子孫は遊牧民として地球上に散らばって暮らし、常に旅に適したテントで暮らしていました。神はこの啓示の中で、人類史上初めて、人間が定住することを決意し、最初の定住型の人々を構成する瞬間を標的とされています。そして、この最初の集まりは、議論、戦

い、そして死を引き起こす**分離**から逃れようとして彼らを団結させます。彼らはノアから古代人の邪悪さと暴力を学びました。神が彼らを滅ぼさなければならぬほどに。そして、同じ間違いを再び犯すリスクをより適切に制御するために、彼らは一か所に密集することでこの暴力を回避することができると考えています。

「数は力なり」という格言があります。バベルの時代以来、すべての偉大な支配者と偉大な支配は、その力の基礎を団結と集合に基づいてきました。前の章では、バベルとその塔を建設することによって、明らかに当時の人類の最初の統一指導者となったニムロド王について言及しました。

テキストには「**頂上**が空に**触れる塔**」と明記されています。この「天国に触れる」という考えは、天国で神に加わり、人間は神なしでもやっていけること、そして問題を自分たちで回避して解決する考えがあることを神に示すという意図を示しています。それは創造主なる神への挑戦に他なりません。

創世記

11:5:

「主は都と人の子らが建てている塔を見るために下って来た。」

それは、神が反抗的な考えによって再び動かされる人類の計画を知っていることを私たちに明らかにする画像にすぎません。

創世記

11:6:

「そして主は言われた、「見よ、彼らは一つの民であり、みな一つの言語を持っている。これが彼らが行ったことである。今では、彼らが計画したことすべてを実行するのを妨げるものは何もありません。」

バベルの時代の状況は、単一の民族を形成し、単一の言語を話すという理想を夢見る現代の普遍主義者たちにとって羨望の的である。そして、ニムロデが集めた人々と同じように、私たちの普遍主義者たちは、この問題について神が何を考えているかなど気にしません。しかし、アダムが罪を犯して以来、1747年に神は語り、ご自分の意見を表明されました。彼の言葉が示すように、人間のプロジェクトという考えは彼を喜ばせず、イライラさせます。しかし、再び彼らを殲滅することに疑問の余地はありません。しかし、神は反逆的な人類のアプローチの有効性について異議を唱えていないことに注意しましょう。彼女には一つだけ欠点があり、それは彼にとっても同じだった。集まれば集まるほど、彼らはますます彼を拒絶し、もはや彼に仕えなくなり、さらに悪いことに、彼の面前で偽りの神に仕えることになる。

創世記

11:7:

「さあ！私たちは下に行き、そこで彼らの言語を混乱させて、彼らがお互いの言語を聞こえないようにしてみましょう。」

神は解決策を持っています。「彼らの言語を混乱させて、お互いの言語が聞こえないようにしてみましょう。」この行動は神聖な奇跡を起こすことを目的としています。瞬時に、男たちは異なる言語で自分の考えを表現し、お互いを理解できなくなり、お互いから離れることを余儀なくさ

れました。目的のユニットが壊れています。この研究のテーマである男性の分離は依然として存在しており、よく達成されています。

創世記

11:8:

「そして主は彼らをそこから全地の表面に散らされた。そして彼らは都市建設をやめた。」

同じ言語を話す人々はグループを作り、他の人々から遠ざかります。したがって、この「言語」の経験の後、人々はさまざまな場所に定住し、そこで石やレンガでできた都市を見つけることとなります。国々が形成され、その過ちを罰するために、神は国々を互いに敵対させることができるでしょう。世界平和を確立しようとする「バベル」の試みは失敗に終わりました。

創世記

11:9:

「したがって、彼らの名前はバベルと呼ばれた。主がそこで全地の言語を混乱させ、そこから主が彼らを全地の表面に散らしたからである。」

「混乱」を意味する「バベル」という名前は知られるに値します。なぜなら、それは人類が万国一致を目指す試みである「言語の混乱」に神がどのように反応したかを証言しているからです。この教訓は、世の終わりまで人類に警告することを目的としたものでした。なぜなら、神はモーセに口述筆記してこの経験を証言の中で明らかにしたかったからです。モーセはこうして聖書の最初の本を書き、それが今日も読まれています。したがって、神は当時の反逆者に対して暴力を振るう必要はありませんでした。しかし、それは、神によって非難されたこの普遍的な集會を再現し、第三次世界大戦後に最後に生き残った反逆者たちがイエス・キリストの栄光の再臨によって滅ぼされる世界の終わりには、同じではないでしょう。さらに、彼らは神が世界を創造して以来、神の神聖な安息日に忠実であり続けるため、神が最後に選んだ者たちを殺害する決断を下したことで、「神の怒り」に対処しなければならないことになる。神が与えた教訓は人類によって決して守られることはなく、神が他の民族や大規模な致死性の伝染病によって破壊されるまで、地球上に常に大きな都市が形成されてきました。

セムの子孫

信者と現在の一神教の父アブラハムに向かって

創世記

11:10:

「これらはセムの種です。百歳のセムは、洪水の二年後にアルパツァドの父親となった。

セムの息子、アルパクシャドは 1658 年に生まれました (1656 + 2)

創世記

11:11:

「セムはアルパツァドの誕生後

500

年生きた。そして彼は息子と娘をもうけた。」

セムは 2158 年に 600 歳 (100 + 500) で亡くなりました。

創世記 11:12: 「アルパッカド、三十五歳、シェラクの父となった。」

」

アルパクシャドの息子、シェラッハは 1693 年 (1658 + 35) に生まれました。

創世記 11:13: 「アルパッカドはシェラクの誕生後 403 年生きました。そして彼は息子と娘をもうけた。」

アルパクシャドは 2096 年に 438 歳 (35 + 403) で亡くなりました。

創世記 11:14: 「シェラク、三十歳、父ヘベル。」

エベールは 1723 年に生まれました (1693 + 30)

創世記 11:15: 「シェラクはヘベルの誕生から四百三年生きました。そして彼は息子と娘をもうけた。」

シェラッハは 2126 (1723 + 403) に 433 (30 + 403) 歳で亡くなりました。

創世記 11:16: 「ヘベル、34 歳、父はペレグ。」

ペレグは 1757 年に生まれました (1723 + 34)。創世記 10 章 25 節によれば、彼の誕生の際、バベルに集まった人々を分割し分離するために神が創造した話し言葉によって「地球は分割された」とされています。

創世記 11:17: 「ペレグの誕生後、ヘベルは 430 年間生きました。そして彼は息子と娘をもうけた。」

エベールは 2187 年 (1757 + 430) に 464 (34 + 430) 歳で亡くなりました。

創世記 11:18: 「ペレグ、30 歳、レフの父。」

レフは 1787 年生まれ (1757 + 30)

創世記 11:19: 「ペレグはレフの誕生後 209 年生きました。そして彼は息子と娘をもうけた。」

ペレグは 1996 年 (1787 + 209) に 239 (30 + 209) 歳で亡くなりました。おそらく彼の時代に達成されたバベルの塔の反乱による残忍な寿命の短縮に注目してください。

創世記 11:20: 「レフ、32 歳、父はセルグ。」

セルグは 1819 年に生まれました (1787 + 32)

創世記 11:21: 「レフはセルグの誕生後 207 年生きた。そして彼は息子と娘をもうけた。」

レフは 2096 (1819 + 207) に 239 (32 + 207) 歳で亡くなりました。

創世記 11:22: 「セルグ、三十歳、父はナホル。」

ナコールは 1849 年に生まれました (1819 + 30)

創世記 11:23: 「セルグはナホルの誕生後 200 年生きました。そして彼は息子と娘をもうけた。」

セルグは 2049 年 (1849 + 200) に 230 (30 + 200) 歳で亡くなりました。

創世記 11:24: 「ナホル、二十九歳、父親はテラ。」

テラックは 1878 年生まれ (1849 + 29)

創世記 11:25: 「テラの誕生後、ナホルは 119 年間生まれました。そして彼は息子と娘をもうけた。」

ナチョルは 1968 年 (1849 + 119) に 148 (29 + 119) 歳で亡くなりました。

創世記 11:26: 「テラ、70 歳、父はアブラム、ナホル、ハラン」。

アブラムは 1948 年生まれ (1878 + 70)

創世記 21:5 によれば、アブラムは 2048 年に 100 歳で最初の嫡子イサクを産むことになります。

「息子イサクが生まれたとき、アブラハムは 100 歳でした。」

創世記 25:7 によると、アブラムは 2123 年に 175 歳で亡くなります。これらはアブラハムの生涯の日々です：彼は百七十五年生まれました。」

創世記 11:27:

「これらはテラの子孫である。テラはアブラム、ナホル、ハランの父親です。ハランはロトをもうけた。

アブラムはテラの 3 人の息子の長男であることに注意してください。したがって、上の 26 節に明記されているように、彼は父テラが 70 歳のときに生まれたのです。

創世記 11:28:

「そしてハランは、カルデアのウルの生まれ故郷で、父テラの面前で死んだ。」

この死は、ロトが後にアブラムの旅に同行する理由を説明しています。アブラムは彼を保護下に置きました。

アブラムが生まれたのはカルデアのウルであり、預言者エレミヤと預言者ダニエルの時代に反抗的なイスラエルが捕虜に導かれたのもカルデアのバビロンでした。

創世記 11:29:

「アブラムとナホルは妻をめぐりました。アブラムの妻の名はサライ、ナホルの妻の名はミルカ、ハランの娘、ミルカの父、ジスカの父でした。」

この時代の同盟は非常に血族的なもので、ナホルは弟ハランの娘ミルカと結婚した。それは子孫の種族の純粋さを保つことを目的とした規範であり、義務への服従でした。次に、イサクは息子イサクの妻をアラム人ラバンの近親者を見つけるために召使いを送ります。

創世記 11:30:

「サライは不妊でした。彼女には子供がいませんでした。」

この不毛性により、創造主である神は創造力を明らかにすることができます。これは、彼女が夫のアブラムと同じようにほぼ 100 歳になると

きに子供を産むことができるようにするためです。イサクはイエス・キリストがその時代に受肉する新しいアダムの型として描かれているため、この不妊性は預言的なレベルで必要であった。二人とも当時は「神の約束の子」でした。したがって、イエスが自分で妻を選ばないのは、常に「神の子」としての預言的役割のためです。なぜなら、イエスの肉体において、使徒と弟子たちを選ぶのは神、すなわち彼の内におられる父なる霊だからです。そして彼を動かしているのは誰か。

創世記 11:31:

「テラは息子アブラムと、その息子のハランの子ロト、そして息子アブラムの妻である義理の娘サライを連れた。彼らはカルデアのウルからカナン

の地まで一緒に行きました。彼らはハランに来て、そこに住みました。アブラムを含む家族全員は国の北部のチャランに定住しました。この最初の動きは、彼らを人類誕生の場所に近づけることにつながります。彼らは、すでに人口が多く反抗的である大都市や、肥沃で繁栄した平原から自らを切り離しています。

創世記 11:32:

「テラの時代は二百五年であった。そしてテラはハランで死んだ。

テラックは 1878 年に生まれ、2083 年に 205 歳で亡くなりました。

この章の研究の最後に、平均寿命を 120 歳に短縮するプロジェクトが順調に成功に向かっていることに注目しましょう。セムの「600年」とナホルの「148年」またはアブラハムの「175年」の間では、寿命がいかに短くなっているかは明らかです。約4世紀後、モーセはちょうど120年生きることになります。神が挙げた数字が完成模型として得られる。

アブラハムが生きた経験の中で、神は、ご自身のイメージを保っているかどうかに応じて、すべての人間の中から選んだご自分の選ばれた人々の命を贖うためにご自身が何をする用意ができて示しています。この歴史的場面では、アブラハムは父における神であり、イサクは子における神であり、イエス・キリストにおいて成就され、彼の自発的な犠牲の上に新しい契約が生まれます。

創世記 12 章

地上の家族との別れ

創世記 12:1:

「主はアブラムに言われた、『あなたの国から、あなたの祖国から、あなたの父の家から、わたしがあなたに示す地へ行きなさい。』」

次のような言葉に与えられた霊的な意味を見なければなりません。父と母を離れ、妻と結ばれ、二人は一体となるであろう。」アブラムは、キリストの預言的な霊的役割に入るために「父と母を離れ」なければなりません。キリストの預言者としての霊的役割には、アブラムに選ばれた人々である「花嫁」だけが重要です。肉の絆は霊的進歩への障害であり、選ばれた者が、創造主なる神ヤハウエと象徴的な形でイエス・キリストと「一体」になることに成功するためには、それを避けなければなりません。

創世記

12:2:

「わたしはあなたを偉大な国民とし、あなたを祝福します。私はあなたの名を偉大なものにし、あなたは祝福の源となるでしょう。」

アブラムは一神教によって「信者の父」として認められる、聖書の最初の総主教となる。彼は聖書にも登場する神の最初の僕であり、その生涯の詳細は追って詳細に明らかにされることになる。

創世記

12:3:

「あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたを呪う者をわたしは呪います。そうすれば、地球上のすべての家族があなたによって祝福されるでしょう。」

アブラムの旅と出会いはこれを証明するものであり、ファラオが自分の命を守るためにアブラムが言ったとおり、彼女が自分の妹であると信じてサライと寝ようとしたとき、すでにエジプトにいたのです。神は幻の中で、サラが預言者の妻であり、彼が死にそうになったことを彼に知らせました。

この聖句の後半部分、「地上のすべての家族はあなたによって祝福されるでしょう」は、ユダ族のダビデの子、イスラエルの子、イサクの子、アブラムの子であるイエス・キリストにおいて成就します。神はアブラムに、救いの基準を示す二つの連続した同盟を築かれるのです。これらの標準は、記号型から実際の型に移行するために進化する必要があったためです。罪深い人間がキリストの前に生きるかキリストの後に生きるかによる。

創世記

12:4:

「アブラムは主が言われたとおりに行き、ロトも同行した。アブラムがハランから出てきたとき、75歳でした。」

75

歳のアブラムは、すでに長い人生経験を積んでいます。私たちは神の声に耳を傾け、神を求めるためにこの経験を積まなければなりません。それは彼から切り離された人類の呪いを発見した後に行われます。もし神が彼を呼んだとしたら、それはアブラムが彼を探していたからであり、神が彼に姿を現したとき、彼は急いで彼に従うのです。そして、この有益な従順は、

創世記

26

章

5

節に引用されている次の聖句で確認され、息子イサクに記憶されるでしょう。「アブラムは私の声に従い、私の命令、戒め、法令、律法を守つ

たからです。」アブラムがこれらのものを守り続けられたのは、神がそれらを彼に示してくださった場合だけです。この神からの証しは、聖書に記載されていない多くのことが達成されたことを私たちに明らかにします。聖書は人間の長い人生の概要を示しているだけです。そして、175年の男性の人生、彼女が分刻み、秒ごとに何を生きたかを語ることができるのは神だけです、私たちにとっては、本質的な部分を要約するだけで十分です。

したがって、アブラムに与えられる神の祝福はアブラムの従順にかかっており、この従順の重要性を理解していなければ、聖書とその預言のすべての研究は無駄になるでしょう。なぜなら、イエス・キリストがヨハネの言葉で例として与えてくださったからです。 8:29:

「わたしを遣わした方はわたしとともにおられます。私はいつも**彼が喜ぶ**ことをしているので、彼は私を一人にしませんでした。」それは誰でも同じです。良い関係は、あなたが喜ばせたい相手に対して「楽しいこと」をすることで達成されます。したがって、信仰は、それが真の宗教であっても、複雑なものではなく、神と自分自身にとって喜ばしいものとなる単純なタイプの関係です。

終末の時代に現れている兆候は、親や国家当局に対する子供たちの不服従です。神は、神に対して反抗的、恩知らず、または無関心な大人たちに、彼らの邪悪さのために神自身が経験していることを発見させるために、これらのことを組織しています。このように、神によって創造された行為は、叫びやスピーチよりもはるかに大きな叫び声を上げ、神の義憤と単なる非難を表現します。

創世記

12:5:

「アブラムは妻サライと弟の息子ロトを、持っていたすべての財産とハラランで手に入れた召使いたちとともに連れて行きました。彼らはカナン¹の地に行くために出発し、カナン²の地にやって来ました。」

チャランはカナンの北東に位置します。したがって、アブラムはハラランから西へ、そして南へ進み、カナンに入ります。

創世記

12:6:

「アブラムはその地を³通ってシケムという場所、モレの櫨の木まで旅しました。そのときカナン人はその地にいました。」

覚えておいたほうがいいでしょうか？

「カナン人」は巨人ですが、ではアブラム自身はどうでしょうか？というのは、洪水はまだ非常に迫っており、アブラムは巨人ほどの大きさだった可能性が十分にあります。カナンに入ったとき、彼はこれらの巨人の存在を報告しませんでした、彼自身がまだこの規範の中にあるのであれば、それは論理的です。アブラムは南下し、現在のガリラヤを渡り、現在のサマリアのシケムに到着します。このサマリアの地はイエス・キリストが好む福音宣教の地となります。そこで彼は、非常に驚いたことに初めてユダ

ヤ人の入国を許可された「サマリアの女性」とその家族への信仰を見つけることになる。

創世記

12:7:

「主はアブラムに現れて言われた、「わたしはあなたの子孫にこの地を与えよう。」そしてアブラムはそこに現れた主のために祭壇を築いた。」

神はアブラムにご自身を示すために、まず現在のサマリアを選びました。アブラムはそこにキリストの拷問の十字架の預言的な象徴である祭壇を建てることによってこの集会を神聖なものとします。この選択は、イエス・キリストとその使徒たちによる将来のこの国の福音宣教との関連を示唆しています。神はこの場所から、この国を子孫に与えると彼に告げた。しかし、ユダヤ人かキリスト教徒か、どちらでしょうか？ユダヤ人に有利な歴史的事実にもかかわらず、この約束は新しい地で成就するためにキリストに選ばれた者たちに関するものであるように思われます。なぜなら、キリストの選民は、信仰義認の原理によれば、アブラムに約束された子孫でもあるからである。

創世記

12:8:

「彼はそこからベテルの東の山に移動し、西にベテル、東にアイを置いて天幕を張った。彼はまたそこに主のために祭壇を築き、主の名を呼びました。」

アブラムは南に下り、ベテルとアイの間の山中で野営しました。神は二つの都市の方向を指定します。ベテルは「神の家」を意味し、アブラムはそれを西側、幕屋とエルサレム神殿に向かう方向に置き、神の聖なる家、つまり彼の家に向かって入るとき、司式者たちが背を向けるようにしました。東、東から昇る朝日。東にはアイという都市があり、その語源は石の山、遺跡、丘、記念碑を意味します。神は私たちにその裁きを明らかにします。神の家への選ばれた者の入り口の反対側、東側には廃墟と石の山だけがあります。このイメージでは、アブラムは自由への 2 つの道を彼の前に開いていました。西にはベテルと生、東にはアイと死です。幸いなことに、彼はすでに主イエスとともに生きることを選択していました。

創世記 12:9: 「アブラムは旅を続け、南に向かって進んだ。」

この最初のカナン横断では、アブラムは「エバス」（ダビデの将来の都市、エルサレムの名前）には行かないことに注意してください。したがって、アブラムはそれを完全に無視しています。

創世記

12:10:

「国に飢餓があった。そしてアブラムはエジプトに下って滞在した。その国では飢餓が大きかったからだ。」

同様に、イスラエルのヤコブの子ヨセフがエジプトの初代宰相になったとき、アブラムをエジプトに連れて行ったのは飢餓でした。そこで彼が経験したことは、この章の残りの節で詳しく語られています。

アブラムは平和的でありながら、恐ろしい男です。非常に美しかった妻サライを奪うために殺されるのを恐れた彼は、彼女を自分の妹として差し出すことを決心しましたが、それは半分真実でした。この策略により、ファラオは彼を喜ばせ、富と権力を与える品物で彼を覆いました。これを得られ、神はファラオに疫病を与え、ファラオはサライが彼の妻であることを知りました。その後、彼は富と権力を持ってエジプトを去ったアブラムを追いかけます。この経験は、エジプトの奴隷であった後、その金と富を持ってエジプトを離れるヘブライ人たちの滞在を預言しています。そしてこの力はすぐに彼にとって非常に役立つでしょう。

創世記 13 章

アブラムとロトの別れ

エジプトから戻ったアブラムとその家族、そして甥のロトは、神を呼び起こすために祭壇を築いた場所であるベテルに戻りました。彼らは皆、ベテルとアイベの間、「神の家」と「廃墟」の間のこの場所にいるのです。召使間の口論の後、アブラムはロトから離れ、ロトに自分の進みたい方向の選択を与えます。そしてロトはこの機会を利用して、繁栄を約束する平原とその肥沃な土地を選びました。

10節にはこう書かれています。「ロトは目を上げて、完全に水で満たされたヨルダン川の平原全体を見た。主がソドムとゴモラを滅ぼす前、そこはゾアルに至るまでエジプトの地と同様に主の園でした。そうすることで、彼は「破滅」を選択し、今日部分的に「死海」に覆われているこの渓谷の都市を神が火と硫黄で攻撃するとき、それを発見するでしょう。神の慈悲のおかげで、彼は二人の娘とともにその罰から逃れることができます。神は二人の天使を送って警告し、彼が住むソドムから出て行ってくれるでしょう。

13節にはこう書かれています。「ソドムの人々は邪悪で、主に敵対する大罪人でした。」

したがって、アブラムはベテルの近く、山の中の「神の家」に残ります。

創世記

13:14

～

18:

「ロトが離れた後、主はアブラムに言われた、『目を上げて、今いる場所から北と南、東と西を見なさい。あなたが見ているすべての土地を、私はあなたとあなたの子孫に永遠に与えます。わたしはあなたの種を土の塵として作り、誰かが土の塵に番号を付けることができるなら、あなたの種にも番号が付けられるでしょう。立ち上がって、大地を縦横に旅しなさい。あなたにあげますから。アブラムは天幕を張り、ヘブロンの近くにある

マムレの櫨の木の間に住むようになりました。そして彼はそこに主のために祭壇を建てました。」

ロトに選択を委ねたアブラムは、神が彼に与えたいと望んでいる部分を受け取り、そこで再び祝福と約束を新たにします。創世記 2 章 7 節によると、神の「種」と「地の塵」、人間の魂、肉体、霊の起源と終焉の比較は、創世記の「天の星」の比較によって確認されるでしょう。 .15: 5。

創世記 14 章

権力による分離

東から四人の王がロトの住むソドムのある谷の五人の王と戦争をするためにやって来ます。ロトと同様に五人の王も殴られ、捕虜となります。警告されたアブラムは助けに来て、捕らえられた人質全員を解放します。以下の聖句の興味深い点に注目してみましょう。

創世記 14:16:

「彼はすべての富を持ち帰った。彼はまた、女性や人々だけでなく、兄のロトも自分の物品とともに持ち帰った。」

実際には、アブラムが介入したのはロトのためだけでした。しかし、神は事実を語ることによってこの現実を覆い、悪人の町に住むという間違った選択をしたロトに対する非難を呼び起こします。

創世記 14:17:

「アブラムがケドルオメルと彼と一緒にいた王たちから勝利を収めて戻った後、ソドムの王は王の谷であるシャウエの谷に彼を迎えるために出て行った。」

勝者には感謝しなければなりません。

「シャヴェ」という言葉は、「プレーン」、「プレーン」という意味です。正確には、何がロトを誘惑し、彼の選択に影響を与えたのか。

創世記 14:18:

「サレムの王メルキゼデクはパンとぶどう酒を持ってきた。彼はいと高き神の祭司であった。」

このサレムの王は「いと高き神の祭司」でした。彼の名前は「私の王は正義」を意味します。彼の存在と彼の介入は、洪水の終わり以来、地上で真の神への崇拝が継続していることの証拠を提供しており、それはアブラムの時代の人々の考えの中に今でも強く残っています。しかし、真の神の崇拝者たちは、アブラムとその子孫が生きた預言的な経験を通して神が明らかにされる救いの計画について何も知りません。

創世記

14:19:

「そして彼はアブラムを祝福して言った、「天地の主、いと高き神によってアブラムに祝福あれ！」」

この神の公式の代表者の祝福は、神が直接アブラムに直接与えた祝福をさらに裏付けています。

創世記

14:20:

「あなたの敵をあなたの手に渡されたいと高き神にほめたたえられますように。そしてアブラムは彼にすべてのものの十分の一を与えました。」

メルキゼデクはアブラムを祝福しますが、彼の勝利をアブラムのせいにはないように注意しています。彼はそれを「至高の神、敵を彼の手に渡した。そして、アブラムが神の律法に従順であることの具体的な例は、「私の王は正義」という名前を意味するメルキゼデクに「すべてのものの十分の一を捧げた」からです。したがって、この十分の一の律法は、地上の洪水が終わってから、そしておそらくは「洪水」の前からすでに存在していました。

創世記

14:21:

「ソドムの王はアブラムに言った。『わたしに人を与え、富を自分のものにしてください。』」

ソドムの王は、民を救ってくれたアブラムに恩義を感じています。したがって、彼は自分の奉仕に対して王室のお金を払いたいと考えています。

創世記

14:22:

「アブラムはソドムの王に答えた。「わたしは天地の主、いと高き神、主に手を上げます。」

アブラムはこの状況を利用して、ひねくれた王に「天地の主」である「至高の神ヤハウェ」の存在を思い出させます。そのため、彼は王がその悪によって得たすべての富の唯一の所有者になります。

創世記

14:23:

「わたしはあなたのものは何一つ、たとえ一本の糸でも、靴紐さえも取りません。そうすれば、あなたが『わたしがアブラムを富ませた』と言わないようにするためです。私には何もありません！」

このような態度で、アブラムはソドムの王に、自分は甥のロトを救うためだけにこの戦争に来たと証言します。アブラムは悪と倒錯と暴力の中で生きるこの王を神のように非難します。そして彼は、不当に手に入れた富を拒否することで、このことを明らかにしています。

創世記

14:24:

「若者たちが食べたものと、私と一緒に歩いた人々、アネル、エシュコル、マムレの分だけです。彼らは自分たちの分を取るのです。」

しかし、アブラムのこの選択は神の僕である彼だけに關係しており、彼の僕たちは差し出された富の分け前を受け取ることができます。

創世記 15 章

契約による別居

創世記

15:1: これらの出来事の後、ヤハウエの言葉が幻の中でアブラムに臨み、彼はこう言いました。「アブラム、恐れるな。」私はあなたの盾です、そしてあなたの報酬は非常に大きいです。」

アブラムは残酷な世界に住む平和な人ですが、同じく幻の中で神、彼の友人であるヤハウエがやって来て、「私はあなたの盾です、そしてあなたの報酬は非常に大きいです。」と彼を安心させます。

創世記

15:2: アブラムは答えた、「主よ、あなたは私に何をくださるでしょうか。」私は子供なしで行きます。そして私の家の相続人はダマスカスのエリエゼルです。」

アブラムは、正妻サライの不妊のせいで、長い間、父親になれないことに苦しんできました。そして彼は、自分が死ぬと近親者である「ダマスカスのエリエゼル」が彼の財産を相続することを知っています。ついでに、シリアのこの都市「ダマスカス」がどれほど古いか注目してみましょう。

創世記

15:3:

「そしてアブラムは言った、「見よ、あなたはわたしに種を与えなかった。わたしの家に生まれた者がわたしの跡継ぎとなるだろう。」

アブラムには子供がいないため、子孫に対する約束が理解できません。

創世記

15:4:

「その時、主の言葉が彼に臨んだ。『彼はあなたの相続人ではないが、あなたの体から出た者があなたの相続人となるだろう』。」

神は彼に、彼が本当に子供の父親になるだろうと告げます。

創世記

15:5:

「そして彼を連れ出すと、彼は言った、「天を見て、数えられるなら星の数を数えてください。」そして彼は彼に言った、「これがあなたの種になります。」

アブラムに与えられたこのビジョンを機に、神は「星」という言葉に霊的に与える意味の象徴的な鍵を私たちに明らかにされました。もともと創世記 1 章 15 節で引用されている「星」には「地を照らす」という役割があり、この役割はすでに神がこの目的のために召し、任命したアブラムの役割ですが、それはまた、神がこの目的のために任命したすべての信者の役割でもあるでしょう。自分の信仰と神への奉仕を主張するだろう。ダニエル書 12:3

によると、選ばれた者が永遠に入るとき、

「星」の地位が与えられることに注意してください。「知的な**者は**天の輝きのように輝き、正義を群衆に教える**者は**星のように永遠に輝きます。」

「星」のイメージは、単に神によって選ばれたために彼らのものであると考えられています。

創世記

15:6:

「**アブラムは主を信頼し、主はそれを義とみなされました。**」

この節のコースは、信仰の定義と信仰による義認の原則の公式の要素を構成します。なぜなら信仰とは、啓発され、正当化され、威厳のある信頼にほかならないからです。神への信頼は、神の意志と神に喜ばれるすべてのことについての啓発された知識においてのみ正当なものであり、それがなければ不当なものとなります。神を信頼するということは、アブラムの模範とイエス・キリストの完全な模範に従い、神に従う者だけを神が祝福してくださると信じることです。

アブラムに対する神のこの裁きは、その時代に提案され、求められていた神の真理に同じように従順に行動するすべての人々に神が下される裁きを預言しています。

創世記

15:7:

「**主は再び彼に言われた、『わたしは主、あなたをカルデア人のウルから連れ出し、この地をあなたに与えるために所有させた者である。』**」

アブラムとの契約の提示の前置きとして、神はアブラムに、彼をカルデアのウルから連れ出したことを思い出させます。この公式は、出エジプト記

20:2

で引用されている神の「十戒」の最初の表現をモデルとしています。「わたしはヤハウエ、あなたの神、あなたをエジプトの地、奴隷の家から**導き出した者である。**」

創世記

15:8:

「アブラムは答えた、「主よ、私がそれを所有するということは、何によって分かりますか。」」

アブラムは主にしるしを求めます。

創世記

15:9:

「そして主は彼に言われた、『**三歳の未經産牛、三歳のやぎ、三歳の雄羊、山鳩と若い鳩を連れて行け**』。』

創世記

15:10:

「アブラムはこれらの動物をすべて取り、真ん中で切り、それぞれの部分を向かい合わせに置きました。しかし彼は鳥を共有しませんでした。

神の反応とアブラムの行動には説明が必要です。この犠牲の儀式は、同盟関係にある二者間の分かち合い、つまり「共に分かち合いましょう」という考えに基づいています。中央に切り取られた動物は、神とその選ばれた者との間で霊的に共有されるキリストの体を象徴しています。羊は

人間とキリストの似姿ですが、鳥には神から遣わされたキリストとなる人間の似姿がありません。これが、彼らが天の象徴として契約の中に現れても、切り離されない理由です。イエスの罪の償いは、地上の選ばれた者たちにとってのみ有益であり、天上の天使たちにとってはそうではありません。

創世記

15:11:

「猛禽類が死骸の上に落ちた。そしてアブラムは彼らを追い出した。」

神が預言した計画では、救い主キリストの栄光の再来の際、邪悪な者と反逆者の死体だけが餌として猛禽類に届けられることになる。終わりの時には、この運命は、キリストとその律法によって神と契約を結ぶ人々には関係ありません。なぜなら、このようにさらされた動物の死体は、神とアブラムにとって非常に神聖なものだからです。事実がキリストの聖性の将来と最終的な運命に関する預言と矛盾してはならないため、アブラムの行動は正当化されます。

創世記

15:12:

「日没になると、アブラムは深い眠りに落ちました。すると見よ、恐怖と大きな闇が彼を襲った。」

この睡眠は正常ではありません。それは、神がアダムに肋骨の一本から女性、つまり彼の「助け」を形成させたときのような「深い眠り」です。彼がアブラムと結ぶ同盟の一環として、神はキリストにおける神の愛の対象となるこの「助け」に与えられた預言的な意味をアブラムに明らかにするでしょう。実際、見かけだけで、神は人間を永遠の臨在に入るために死なせ、人間は神を見て生きることはできないという原則に従って、人間が永遠の命、つまり真の命に入るのを予期しているのである。

「大きな暗闇」とは、神ご自身の出現や臨在を含む、預言的な性質の仮想イメージを心の中に構築するために、神が人間を地上の生活に対して盲目にすることを意味します。こうして暗闇に陥ったアブラムは、正当な「恐怖」を感じます。さらにそれは、神に語りかけられる創造主なる神の恐るべき性格を強調します。

創世記

15:13:

「そして主はアブラムに言われた、『あなたの子孫は、彼らのものではない土地でよそ者となることを知りなさい。彼らはそこで奴隷にされ、400年間抑圧されることになるだろう。』」

神はアブラムに未来、つまり彼の子孫に残された運命を告げます。

「...あなたの子孫は、彼らのものではない土地で見知らぬ人になるでしょう。」：これはエジプトです。

「...彼らはそこで奴隷にされるだろう」：前任者の大宰相となったヘブライ人ヨセフを知らなかった新しいファラオの交代で。この奴隷化はモーセの時代に達成されます。

「...そして彼らは400年間抑圧されるだろう」：これはエジプトの抑圧のみに関するものではなく、より広範に、神が約束した国土であるカ

ナンに所有物を得るまでアブラムの子孫に影響を与える抑圧についての話です。

創世記 15:14:

「しかし、わたしは彼らが仕えている国民を裁く。そうすれば彼らは莫大な富を持って出てくるだろう。」

今回の標的となるのはエジプトのみで、事実上その富を全て奪ってエジプトから離脱することになる。この節で神は、前の節で引用した「压制」をエジプトのせいにしていないことに注意してください。これは、言

及された「400年」がエジプトだけに当てはまるものではないという事実を裏付けています。

創世記 15:15:

「あなたは安らかに先祖たちのところへ行き、幸せな老後を過ごした後に埋葬されるでしょう。」

すべては神が彼に言ったとおりに起こるでしょう。彼はヘブロンのマクペラの洞窟に、アブラムが生前にヒッタイト人から購入した土地に埋葬される予定です。

創世記 15:16:

「四代目に彼らはここに戻ります。エモリ人の不法行為はまだその頂点に達していないからである。」

これらのアモリ人の中でも、ヒッタイト人はアブラムと良好な関係を持っており、アブラムは偉大な神の代表者であると考えられています。そこで彼らは、彼の墓として土地を売ることに同意します。しかし、「四世代」か「四百年」後には、状況は異なり、カナン人は神に支持されない反逆の境目に達し、彼らは皆滅ぼされ、自分たちの土地をヘブライ人に任せて、ヘブライ人に残されるでしょう。彼らの国土。

カナン人に対するこの悲慘な計画をよりよく理解するには、ノアが息子ハムの長男であるカナンを呪ったことを覚えておく必要があります。したがって、約束の地には、ノアと神によって呪われたこのハムの子孫が住んでいました。地上での目的を達成するために神が定めた彼らの滅びは時間の問題でした。

創世記 15:17:

「太陽が沈むと、そこは深い暗闇でした。そして見よ、それは発煙炉であり、分割された動物の間を炎が通過した。」

この儀式では人間による火の焚きは禁止されています。この原則に果敢に違反したため、アロンの二人の息子はいつか神によって焼き尽くされるでしょう。アブラムが神にしるしを求めたところ、それは二つに切られた動物の間を通る天の火の形で現れました。このように神は、イゼベルという名の外国の女王とアハブ王の妻が支援するバアルの預言者の前で、預言者エリヤのようなご自分の僕たちについて証言されるのです。その祭

壇は水に沈み、神が送った火は祭壇とエリヤが用意した水を焼き尽くしますが、偽預言者の祭壇はその火によって無視されます。

創世記

15:18:

「その日、主はアブラムと契約を結び、『わたしはあなたの子孫に、エジプトの川から大河ユーフラテス川に至るまで、この地をあなたの子孫に与える』と言われた。」

この第

15

章の終わりで、この聖句は、確かにその主な主題が、**選ばれた人々を他の人々から引き離し**、神とこの同盟を分かち合い、神に仕える同盟に関するものであることを確認しています。

ヘブライ人に約束された土地の境界は、

カナン征服後にヘブライ人が占領する境界を超えています。しかし神は、東に向かう「ユーフラテス川」につながるシリアとアラビアの広大な砂漠や、「エジプト」をイスラエルから隔てるシュールの砂漠もそのオフアーに含まれています。これらの砂漠の間にある約束の地は、神の園の様相を呈しています。

預言的な霊的読書では、「川」は人々を象徴しているため、神はアブラムの子孫について、黙示録

9

章で象徴される西の「ヨーロッパ」でイスラエルとエジプトを超えて崇拝者とその選民を見つけるキリストについて預言することができます。

14は「大河ユーフラテス」の名前で。

創世記 15:19: 「ケニ人、ケニズ人、カドモン人の土地」

創世記 15:20: 「ヒッタイト人、ペリジ人、レファイム人、」

創世記 15:21: 「アモリ人、カナン人、ギルガシ人、エブス人。」

アブラムの時代、これらの名前は、カナンの地を構成し人口が住む都市に集まった家族を指しました。その中には、ヨシュアが「4世代」または「

400年」後に領土を占領したときに、他の人々よりも古代の人々の巨大な旗を保存しているレファイム人もいます。

アブラムは神の計画の

2

つの契約の族長です。肉を通しての彼の子孫は、神によって選ばれたものの、神によって選ばれたわけではない人々として生まれる多くの子孫を生み出すでしょう。その結果、この肉に基づいた最初の同盟は、彼の救いの計画を歪め、理解を混乱させます。なぜなら、救いは二つの同盟に対する信仰の行為にのみ依存するからです。肉の割礼は、神が要求したにもかかわらず、ヘブライ人を救いませんでした。彼が救われることを可能にしたのは、神への彼の信仰と信頼を明らかにし、確認した彼の従順な行いでした。そしてそれは、新しい契約における救いの条件となるものと同じことであり、聖書全体を通して神が明らかにした戒め、儀式、神聖な原則への従順の業によってキリストへの信仰が生かされるというものである。神との充実した関係においては、手紙の教えは霊の知性によって照らされます

。イエスが「手紙は人を殺すが、御霊は命を与える」と言われたのはこのためです。

創世記 16 章

正当性による分離

創世記 16:1:
「アブラムの妻サライは彼に子供を産みませんでした。彼女にはハガルという名前のエジプト人の召使いがいました。」

創世記 16:2:
「そしてサライはアブラムに言った、「見よ、主は私を不妊にされたのである。お願いです、私の僕のところに来てください。おそらく私は彼女を通じて子供を産むでしょう。アブラムはサライの声を聞きました。」

創世記 16:3:
「アブラムがカナンの地に十年住んだ後、アブラムの妻サライはエジプト人ハガルを侍女とし、夫アブラムの妻に与えた。」

サライの主導によるこの不幸な選択を批判するのは簡単ですが、祝福されたカップルに現れた状況に目を向けてください。

彼の胎内から子供が生まれると告げられました。しかし彼は、不妊の妻サライのことは話さなかった。さらに、アブラムは自分の発表の詳細について創造主に質問しませんでした。彼は神が彼の主権的な意志に従って彼に語りかけられるのを待っていました。そして、そこで私たちは、この説明の欠如がまさに、イサクの上に築かれた将来のイスラエルの前に置くために、祝福の約束という点で、しかし有益であるという点で、神が不法な対応者を創造するこの人間のイニシアチブを刺激することを意図していたことを理解する必要があります。好戦的で抗議活動を行う競争、敵対者、さらには敵です。神は、人間の選択の前に善と悪という 2 つの道があることに加えて、「ロバ」を前進させるためには「アメとムチ」が互いに同じように必要であることを理解していました。アブラムの息子でもあるイシュマエルの誕生は、歴史上の最後の形態、宗教的イスラム教（服従、生まれながらにして遺伝的に反抗的な人々にとっての高み）に至るまで、アラブ人スタッフの形成を促進するだろう。

創世記 16:4:
「彼がハガルのところに行くと、彼女は身ごもった。自分が妊娠しているのを見たとき、彼女は愛人を軽蔑した目で見ました。」

エジプト人ハガルの愛人に対するこの軽蔑的な態度は、今日でもアラブのイスラム教徒の特徴となっている。そしてそうすることで、西洋世界は神なるキリスト・イエスの名において福音宣教されたという計り知れない特権を無視してきたので、彼らは完全に間違っているわけではありま

せん。そのため、この偽のアラブ宗教は、西側諸国が神をその思想の記録から消し去ったにもかかわらず、神は偉大であると宣言し続けているのです。

この聖句で与えられたイメージは、私たちの終わりの時の正確な状況を描いています。なぜなら、西洋キリスト教は、サライのようにもはや息子を産まず、精神的に不毛な暗闇の中に沈んでいくため、歪んでさえます。そして、ことわざにはこうあります。「盲人の国では、片目の人が王である」。

創世記

16:5:

「そしてサライはアブラムに言った、「私に受けた侮辱はあなたにあります。私は私のしもべをあなたの胸に置きました。そして自分が妊娠しているのを見ると、私を軽蔑した目で見ました。私とあなたの間のカギは主に任せてください。」

創世記

16:6:

「アブラムはサライに言った、「見よ、あなたのはしためはあなたの権限にあります。あなたの適切と思うように彼女を扱ってください。」それからサライは彼女を虐待しました。するとハガルは彼女から逃げた。」

アブラムは自分の責任を引き受け、この非嫡出のきっかけとなったのがサライであることを責めません。したがって、最初から、正統性は非嫡出性に対してその法を課し、この教訓に従って、今後、結婚は、将来のイスラエルとイスラエル脱出後に得られるその国家形態が確立されるまで、同じ近親者に属する人々のみを結び付けることになるでしょう。

創世記

16:7:

「主の御使いは、シュールへ向かう途中の砂漠の水の泉のほとりで彼女を見つけた。」

神とハガルの間のこの直接の交流は、アブラムの祝福された地位によってのみ可能になります。神はシュール砂漠でそれを見つけました。そこは、羊やラクダの餌を求めてテントで暮らす遊牧アラブ人の本拠地となります。水源はハガルの生存手段であり、彼女は「命の水の泉」に遭遇し、召使いとしての地位と多産な運命を受け入れるよう彼女を勇気づけるようになります。

創世記

16:8:

「彼は言った、「サライのはしためハガル、あなたはどこから来て、どこへ行くのですか。」彼女は答えた、「私は愛人のサライから逃げているのです。」

ハガルは 2 つの質問に答えます。どこへ行くのですか? 答え: 逃げています。あなたの出身はどこですか? 答え: 私の愛人、サライからです。

創世記

16:9:

「主の御使いは彼女に言った。『あなたの愛人のところに帰り、その手に謙虚になりなさい。』」

偉大な裁判官は彼に選択の余地を残さず、復帰と謙虚さを命じる、なぜなら本当の問題は確かに、不妊を除けば正当な愛人であり、仕えられ尊重されなければならない愛人に対する軽蔑によって引き起こされたからである。

創世記

16:10:

「主の御使いは彼に言った。『わたしはあなたの子孫を増やします。その数は数えきれないほどになるでしょう。』」

ヤハウエは彼に「にんじん」を差し出して彼を励まします。彼は「数え切れないほど多くの」子孫を残すと約束しています。誤解しないでください、この群衆は肉的なものであり、霊的なものではありません。なぜなら、神の神託は、新しい契約が成立するまで、ヘブライ人の子孫によってのみ伝えられるからである。しかしもちろん、誠実なアラブ人であれば、ヘブライ人が聖書に記した神の規準を受け入れることによって神の契約に入ることができます。そして、イスラム教のコーランはその出現以来、この基準を満たしていません。彼は、イエス・キリストによって認証された聖書の真実を非難し、批判し、歪曲しています。

すでにアブラムに使われている「数え切れないほど多い」という表現をイシュマエルに使うことで、それは単に人類の増殖の問題であり、永遠の命に選ばれた者の問題ではないことが分かります。神が提案する比較には、必ず満たさなければならない条件があります。例:

「空の星」は、「地球を照らす」ことを含むあらゆる宗教活動に関係します。しかし、何の光でしょうか？ダニエル 12:3
によれば、神によって正当化された真理の光だけが、その「星」を天で「永遠に輝く」にふさわしいものにするのです。神。

創世記

16:11:

「主の御使いは彼に言った、「見よ、あなたには子供がいます。あなたは男の子を産み、その名をイシュマエルと名付けます。あなたはその子をイシュマエルと名付けます。」主はあなたの苦しみを聞いてくださったからです。」

創世記

16:12:

「彼は野生のロバのようになる。彼の手はすべての人に敵対し、すべての人の手は彼に敵対するだろう。そして彼は兄弟全員の向かい側に住むことになる。」

神はイシュマエルとそのアラブ人の子孫を、その反抗的で頑固な性格で有名な動物である「野生のロバ」に例えています。さらに、「野蠻」と呼ばれるほど残忍です。したがって、彼は自分が飼いなされたり、飼いなされたり、なだめられたりすることを許しません。要するに、彼は愛さず、愛されることも許さず、自分の兄弟や見知らぬ人に対する攻撃的な遺伝を遺伝子に受け継いでいます。神によって確立され明らかにされたこの判決は、この終末の時代において、キリスト教の「光」が単に「光」でしかなかった時代に、偽キリスト教と戦ったイスラム教の神に対する懲

罰的な役割を理解する上で非常に重要です。『創』。祖先の土に戻って以来、イスラエルは再びその標的となっており、キリスト教徒の西側諸国もアメリカの力によって保護されており、彼らはそれを「大いなる悪魔」と呼んでいるが、それは間違いない。確かに、小さな「サタン」でも「大きなサタン」を認識できるのです。

「神が聞いた」という意味の名前であるイシュマエルという争いの子を産むことによって、神はアブラムの家族内にさらなる分離を生じさせます。それはバベル体験で作られた言語の呪いをさらに強めます。しかし、もし彼が罰する手段を用意していたら、それは彼が世界の終わりに至るまでの二回の連続した同盟における人類の反逆的な行動を事前に知っていたからである。

創世記

16:13:

「彼女は、自分に話しかけられた主の名をアタ・エル・ロイと呼びました。なぜなら彼女は言った、「彼が私を見た後、私はここで何かを見ましたか？」」

アッタ

エル

ロイという名前は、「あなたは見る神です」を意味します。しかしすでに、神に名前を与えるというこの取り組みは、神の優位性に対する怒りです。さまざまな方法で翻訳されたこの聖句の残りの部分は、要約するとこの考えです。ハガルには信じられない。小さな僕である彼女は、運命を見てそれを明らかにする偉大な創造主である神の注目の的でした。この経験の後、彼女は何を恐れることができるのでしょうか？

創世記

16:14

「それで、この井戸はラチャイ王の井戸と呼ばれた。カデスとバレドの間にあります。」

神がご自身を現された地上の場所は名誉あるものですが、人々がそこに支払う栄誉は、多くの場合、人々を神と和解させない偶像崇拝の精神によって引き起こされます。

創世記

16:15

「ハガルはアブラムに男の子を産んだ。そしてアブラムはハガルが産んだ息子にイシュマエルという名を与えた。」

イシュマエルは確かにアブラムの本物の息子であり、特に彼が自然に愛着を持つ最初の子供です。しかし、彼は以前に神によって告げられた約束の子ではありません。しかし、神によって選ばれた彼に与えられた「イシュマエル」という名前、または「神が聞いた」という名前は、何よりも、愛人と主人によって下された決断の犠牲者であるハガルの苦悩に基づいています。しかし、第二の意味では、これはエジプト人ハガルが宿したこの息子が神の発表の確認、「成就」、達成であると一時的に信じたというアブラムとサライの誤りにも基づいています。この間違いは世界の終わりで血なまぐさい結果をもたらすでしょう。

別離の子供が生きているということです。

創世記 16:16:
「ハガルがアブラム・イシュマエルを産んだとき、アブラムは86歳でした。」

したがって、「イシュマエル」は、アブラムが86歳の2034年（1948年+86年）に生まれました。

創世記 17 章

割礼による分離: 肉体におけるしるし

創世記 17:1: 「アブラムが 99 歳のとき、主はアブラムに現われ、彼に言われた、「わたしは全能の神である。」私の前を歩いて、罪のない者になってください。」

2047年、99歳、イシュマエル13歳のアブラムは、初めてご自身を「全能の神」として現される神によって霊的に訪問されます。神はこの「全能」の性質を明らかにする行動を準備しておられます。神の栄光は目に見えないままですが、神の姿に似た姿は死ぬことなく見ることができると、神の出現は主に言語と聴覚の順序で行われます。

創世記 17:2:
「わたしはあなたとの間に契約を結び、あなたを際限なく増やします。」
神はその増殖の約束を新たにされ、今度は「地の塵」や「空の星」のように、
「誰も数えることのできない」ものを「無限に」指定されます。

創世記 17:3:
「アブラムはひれ伏した。すると神は彼にこう言われました。
自分に語りかけてくるのが「全能の神」であることに気づいたアブラムは、神を見ないよううつぶせになってしまいますが、魂全体を喜ばせる言葉に耳を傾けます。

創世記 17:4:
「これは私があなたと交わす契約です。あなたは多くの国の父となるでしょう。」

その日、神とアブラムの間に結ばれた契約は強化されました。「あなたは多くの国民の父となるでしょう。」

創世記 17:5:
「あなたはもはやアブラムとは呼ばれません。しかし、あなたの名前はアブラハムになります。私はあなたを多くの国民の父にしたからです。」
アブラムからアブラハムへの変更に決定的であり、イエスの時代に、使徒たちの名前を変更することによって同じことを行うでしょう。

創世記

17:6:

「わたしはあなたを豊かに産み、あなたから国々を造り出す。そうすれば王たちがあなたから出てくるでしょう。」

アブラムはイシュマエルにおいてアラブ民族の最初の父となり、イサクにおいてはイスラエルの子らであるヘブライ人の父となる。そしてミディアンでは彼はミディアンの子孫の父となる。モーセはそこでイテロの娘である妻チッポラと出会います。

創世記

17:7:

「わたしは、わたしとあなた、およびあなたの後の子孫との間に、代々続く契約を打ち立てます。それは、わたしがあなたにとって、そしてあなたの後の子孫にとって神となるという永遠の契約になります。」

神は、「永遠」ではありますが、永遠ではない契約の言葉を微妙に選びます。これは、彼の肉的な子孫と締結された同盟の期間が限られていることを意味します。そして、この限界は、神聖なキリストが初臨と人間としての受肉の際に、自らの自発的な償いの死の上に、永遠の結果をもたらす新たな同盟の基礎を確立するとき達することになる。

この時点で、最初からターゲットにされ指名されたすべての初子人間は正当性を失うことを認識しなければなりません。これはアダムの長子であるカインの場合、アブラムの長子であるが非嫡出の子であるイシュマエルの場合であり、彼の後にはイサクの長子であるエサウの場合となる。この長子の失敗の原則は、ユダヤ人の肉的な同盟の失敗を預言しています。第二の契約は霊的なものであり、偽りの人間のふりによって引き起こされた欺瞞的な外観にもかかわらず、真に改宗した異教徒にのみ利益をもたらします。

創世記

17:8:

「わたしはあなたとあなたの後の子孫に、あなたが外国人として住んでいる土地、カナンを永久の所有物として与え、そしてわたしは彼らの神となる。」

、神が契約に拘束されている限り、

「**永遠の所有物**」として与えられます。そして、救世主イエスの拒絶によってそれは無効となり、また、この暴挙から40年後、国とその首都エルサレムはローマ兵によって破壊され、生き残ったユダヤ人は世界の様々な国に散らばることになる。なぜなら神は契約の条件として「わたしが彼らの神となる」と定めているからです。また、神から遣わされたイエスが国家によって正式に拒否されたとき、神は完全な正当性を持ってイエスとの同盟を破棄することができるでしょう。

創世記

17:9:

「神はアブラハムに言われた、『あなたも、あなたの後の子孫も、代々わたしの契約を守るだろう』。」

この聖句は、矛盾し対立する教えにもかかわらず、神をエキュメニカル同盟に結集した一神教の神とするこれらすべての宗教的見せかけに対

して首をひねります。神が拘束されるのは、ご自分の契約、つまりご自身にのみ従う者たちと交わされる一種の契約の基礎を定めたご自身の言葉だけです。人が契約を守るなら、それを有効にし、延長します。しかし、人は連続する

2つの段階に基づいて構築されたプロジェクトにおいて神に従わなければなりません。前者は肉的なもの、後者は霊的なものです。そして、第一節から第二節までのこの箇所は、人間、そして何よりもまずユダヤ人の個々の信仰を試しています。ユダヤ国民はキリストを拒否することによって、異教徒に扉を開く神との契約を破ることになり、その中でキリストに改宗する者は神の養子となり、アブラハムの霊的な息子とみなされる。したがって、神の契約を守る人は皆、肉的にも霊的にもアブラハムの息子または娘です。

この聖句では、その名前の将来の国であるイスラエルの起源がアブラハムにあることがわかります。神はご自分の子孫を地上でのデモのために「分け隔てられた」民とすることを決定しました。それは救われた人々の問題ではなく、イエス・キリストによって将来得られる神の恵みによって救われる選民の地上の候補者を代表する人間の集まりの構成の問題です。

創世記

17:10:

「これはわたしの契約であり、あなたがたが、わたしとあなた、およびあなたの後の子孫との間で守るものである。あなたがたの男子はみな割礼を受けなければならない。」

割礼は、神であるアブラハムとその子孫である肉の子孫との間に結ばれた契約のしるしです。その弱点は、信仰によって生かされているかどうか、従順かどうかにかかわらず、すべての子孫に当てはまる集団的な形態です。一方、新しい同盟では、信仰による選択が試され、選ばれた者が個別に経験し、この同盟で命がけの永遠の命を獲得します。私たちは割礼にさらに割礼を加えなければなりません、これは残念な結果です。イスラム教徒も族長イシュマエルの時代から割礼を受けており、彼らはこの割礼に精神的な価値を与え、それが永遠の権利を主張するように導くのです。しかし、割礼は永遠の肉体的な効果をもたらすだけであり、永遠ではありません。

創世記

17:11:

「あなたたちは割礼を受けなければなりません。そしてそれは私とあなたとの同盟のしるしとなるでしょう。」

それは確かに神との同盟のしるしですが、その有効性は肉的なものにすぎず、7、8節、および次の13節は、その唯一の「永続的な」適用を確認しています。

創世記 17:12: 「あなたがたの世代に従って、すべての男子が生後8日目になったとき、あなたがたの男子はみな、その家に生まれたか、ある

いは「外国人」の息子からお金で買われたかにかかわらず、割礼を受けなければなりません。あなたの人種に属さずに。

千年紀の神の計画を明らかにする預言を構成します。これが「8日間」を選択する理由です。最初の7日間は、6,000年間の選民の選択と7

千年紀の裁きの地上の時間を象徴しているからです。神は、ユダヤ民族とその最初の胎児であるアブラムとの緊密な同盟を地上で組織することによって、男性から切り落とされた包皮に集中する肉の性的弱さから解放される選ばれた民の将来の永遠の姿を明らかにされました。そのとき、古い契約において、選民は地上のあらゆる出自から来ますが、キリストにおいてのみ来るのと同じように、外国人であっても、神に選ばれた側として生きたいときには割礼を適用しなければなりません。

割礼の主な考え方は、神の永遠の王国では人間はもはや生殖できなくなり、肉欲はもはや不可能になることを教えることです。さらに使徒パウロは、古い契約における肉の割礼と、新しい契約における選ばれた人の心の割礼を比較しています。この視点では、それは肉体の純粋さとキリストに身を捧げる心の純粋さを示唆しています。

割礼とは、**周囲を切り裂くことを意味し**、この考えは、神がご自分の被造物と独特の関係を築きたいと望んでいることを明らかにしています。

。「嫉妬深い」神においては、選ばれた者たちの愛の独占性と優先権を要求され、必要に応じて、自分たちの救いに有害な周囲の人間関係を断ち切り、自分たちとの関係を害するものや人々との関係を断ち切らなければならない。彼。教育的な預言的なイメージとして、この原則は、まず神の肉のイスラエル、そしてイエス・キリストの完全さにおいて明らかにされる全時代の霊的なイスラエルに関係しています。

創世記

17:13:

「家に生まれた者、およびお金で買われた者は誰でも割礼を受けなければなりません。そして私の契約はあなたの肉体の中で**永遠の契約となるでしょう**」。

神はこの考えを主張しています：嫡子と非嫡出の子が神に愛着することができるのは、神が救いの計画の二つの同盟をこのように預言しているからです...そして、「獲得したのはお金がかかった」という表現の復活によって特徴付けられる主張がイエスを預言します反抗的な敬虔なユダヤ人たちによって30デナリオンと推定されるキリスト。こうして神は、神聖な同盟の名において、30デナリでユダヤ人と異教の選民を贖うために人間の命を差し出すことになる。

しかし、割礼のしるしの「**永遠の**」性質が思い出され、「あなたの肉体の」正確さは、その瞬間的な性質を裏付けます。ここで始まるこの契約は、
ダニエル書 7:24 によれば、

「罪を終わらせるために」メシヤが現れるときに終わるからです。

創世記

17:14:

「肉体的に割礼を受けていない、割礼のない男性は、民の中から断たれるであろう。彼はわたしの契約を破ったことになる。」

神が定めた規則の尊重は非常に厳格であり、その違反が神の預言計画を歪めるため例外を認めません。神はモーセがカナンに入るのを妨げることによって、この過失が非常に大きいことを示します。将来の永遠の日の栄えの王国において、心の割礼を受けていない人が地上のユダヤ人に住むことが正当ではないのと同様に、肉体の割礼を受けていない人が地上のユダヤ人として生きることは正当ではありません。

創世記

17:15:

「神はアブラハムに言われた、『あなたはもはやサライを妻のサライと呼んではならない。でも彼女の名前はサラになります。』

アブラムは民の父を意味しますが、アブラハムは群衆の父を意味します。同様に、サライは貴族を意味しますが、サラは王女を意味します。

アブラムはすでにイシュマエルの父ですが、アブラハムという名前の変更は、イシュマエルではなく、神が彼に告げる息子イサクにおいて子孫を増やすことによって正当化されます。同じ理由で、不毛のサライはイサクを通して多くの子を産み、彼女の名前はサラになります。

創世記

17:16:

「わたしは彼女を祝福し、あなたに彼女との間に息子を授けよう。わたしはそれを祝福する、そうすればそれは国々となるだろう。人々の王は彼女から出てくるでしょう。」

アブラムは神とともに歩みますが、彼の日常生活は地上的なものであり、神の奇跡ではなく、地上の自然条件に基づいています。また彼の考えの中で、彼はサライが召使ハガルを通して息子を授かったという手段による祝福の意味を神の言葉に与えています。

創世記

17:17:

「アブラハムはひれ伏した。彼は笑いながら心の中で言った、「百歳の男に息子が生まれるだろうか？」そして90歳のサラが出産するだろうか？」

神は、サライが不妊ですでに99歳であるにもかかわらず、子供を産むことができるようにすることを意味しているのかもしれないと悟り、彼は心の中で笑いました。この状況は地上の人間レベルでは想像を絶するものであるため、彼のこの反射的な思考は自然なことのようには思えます。そして彼は自分の考えに意味を与えます。

創世記

17:18:

「そしてアブラハムは神に言った、「ああ！」イシュマエルがあなたの目の前に生きていきますように！」

アブラハムが肉欲的に推論し、すでに生まれて13歳になる息子イシュマエルを通してのみ自分の増殖を理解していることは明らかです。

創世記

17:19:

「神は言われた、あなたの妻サラは必ず息子を産むだろう。そしてあなた

は彼の名前をイサクと呼ぶことにする。わたしは彼との契約を結び、彼の後の子孫のための永遠の契約を結びます。」

アブラハムの考えを知っていた神は彼を叱責し、解釈ミスの余地を少しも残さずに発表を改めて行った。

イサクの奇跡的な誕生についてアブラハムが表明した疑念は、人類がイエス・キリストに対して表明するであろう疑念と不信仰を預言しています。そしてその疑惑は、アブラハムの肉的な子孫の側からの公式の拒絶という形をとるでしょう。

創世記

17:20 イシュマエルのことについて、私はあなたの話を聞きました。見よ、わたしは彼を祝福し、子を産み、彼を大いに増やすだろう。彼は12人の王子を産むでしょう、そして私は彼を偉大な国にします。」

イシュマエルとは神が聞いたことを意味し、また、この介入においても神は彼に与えた名前を正当化します。神はそれを実り豊かにし、増殖させ、「12人の君主」からなる偉大なアラブ国家を形成するでしょう。この12という数字は、イエス・キリストの12使徒に引き継がれる聖なる同盟のヤコブの12人の息子に似ていますが、それは神の助けを裏付けるものであって、彼の永遠の命のプロジェクトに関する救いの同盟を裏付けるものではないため、似ているということは同一という意味ではありません。さらに、イシュマエルとその子孫は、神の聖なる同盟を結ぶすべての人々、続いてユダヤ人、次にキリスト教徒に対して敵対的になるでしょう。この有害な役割は、不妊の母親と過度に自己満足な父親によって想像された同様に不法なプロセスによって不法な出産を承認することになります。これが、アブラハムの肉の息子たちが同じ呪いを負い、最終的には同じように神からの拒絶に苦しむことになる理由です。

神とその価値観を知ったイシュマエルの子孫は、ユダヤ同盟に入るまで神の規則に従って生きることを選択できますが、この選択は、選ばれた者に提供される永遠の救いと同様、個人的なものであり続けます。同様に、あらゆる出自の他の人々と同様に、キリストによる救いが彼らに提供され、永遠への道が開かれますが、それは十字架につけられ、死んで復活された救い主キリストの従順な基準に基づいてのみです。

創世記

17:21:

「私はイサクと契約を結び、サラは来年の今頃にあなたにそれを結びます。」

27節によると、この幻の時点でイシュマエルは13歳なので、イサクが生まれるときには14歳になります。しかし、神はこの点を強調されます。神の契約はイシュマエルではなくイサクと確立されるのです。そして彼はサラによって生まれます。

創世記

17:22:

「彼が語り終えたとき、神はご自身をアブラハムよりも高められた。」

神の出現はまれで例外的であり、これがなぜ人間が神の奇跡に慣れないのか、そしてなぜ人間の推論がアブラハムのように地上生活の自然法則に条件づけられたままなのかを説明しています。彼のメッセージが伝わり、神は撤退します。

創世記 17:23:

「アブラハムは、その子イシュマエルと、彼の家で生まれたすべての者たち、および金で買ったすべての者たち、アブラハムの家の民の男子全員を連れた。そして、その日のうちに、神が彼に与えられた命令に従って、彼らに割礼を施しました。」

神から与えられた命令は即座に実行されます。彼の従順は神との契約を正当化します。この古代の強力な主人は使用人を購入しました、そして奴隷の地位は存在し、争われませんでした。実際、この主題に疑問を持たせるのは、暴力の使用と使用人への虐待です。奴隷の地位は、今日でもイエス・キリストによって贖われたすべての者の地位でもあります。

創世記 17:24:

「アブラハムが割礼を受けたとき、アブラハムは九十九歳でした。」

この明確化は、年齢に関係なく、神は人間に従順を求めていることを思い出させます。最年少から最年長まで。

創世記 17:25: 「息子イシュマエルが割礼を受けたとき、彼は 13歳であった。」

したがって、彼は弟のイサクより14歳年上となり、正妻の息子である弟に実害を与える能力が確保されることになる。

創世記 17:26:

「その日、アブラハムとその息子イシュマエルも割礼を受けた。」

神はイシュマエルの父であるアブラハムに対する正当性を思い出します。彼らの共通の割礼は、同じ神から来たと主張する彼らの子孫の主張と同じくらい誤解を招きます。なぜなら、神を主張するには、同じ祖先の肉親な父親を持つだけでは十分ではないからです。そして、不信者のユダヤ人たちが、彼らの父アブラハムのせいで神とのつながりを主張すると、イエスはこの主張を拒否し、初めから彼らを悪魔、サタン、偽りの父、殺人者だと非難するでしょう。イエスが当時の反抗的なユダヤ人に言った言葉は、私たちのアラブ人やイスラム教徒の主張にも同じように当てはまります。

創世記 17:27:

「そして、彼らの家の男たちは皆、彼らの家に生まれたか、見知らぬ人からお金で手に入れたのかにかかわらず、彼と一緒に割礼を受けました。」

この従順の模範の後、エジプトを去ったヘブライ人の不幸は、いつの時代も、そして世の終わりまで、常に神が絶対的に要求するこの従順を彼らが過小評価していることから来るのがわかります。

創世記 18 章

敵対する兄弟の別離

創世記 18:1 :
「日中の暑さの中、彼が天幕の入り口に座っていたとき、主はマムレの檜の木の間で彼に現れた。」

創世記 18:2:
「そして彼は目を上げて見ると、見よ、三人の男が彼のそばに立っていました。彼らを見ると、彼はテントの入り口から走って彼らに会いに行き、地面にひれ伏しました。」

訪問者に「会うために走っている」ため、良好な体型を維持しています。彼は彼らを天の使者として認識したのでしょうか?彼が彼らの前で「地にひれ伏す」ことから、そう推測できます。しかし、彼が見ているのは「3人の男」であり、私たちは彼の反応の中に、彼の自然な愛情深い性格の成果である自発的なもてなしの感覚を見ることができます。

創世記 18:3:
「そして彼は言いました、『主よ、もし私があなたの目に好意を寄せているのなら、どうかあなたの僕から離れないでください。』」

訪問者を「主」と呼んだのはアブラハムの非常に謙虚な結果であり、やはり彼が神に呼びかけていると考えていたという証拠はありません。なぜなら、出エジプト記33:20 から 23 によれば、モーセですら神の顔の「栄光」を見ることは許されないからです。私の顔を見てください。人は私を見て生きることができないからです。ヤハウエは言われた、「ここが私の近くにある場所です。あなたは岩の上に立つでしょう。わたしの栄光が過ぎ去るとき、わたしはあなたを岩のくぼみに置き、わたしが通り過ぎるまで手であなたを覆う。そして、私が手を回すと、あなたは私の後ろを見るでしょうが、私の顔は見えません。」神の「栄光」のビジョンが禁止されても、人間の姿をとって被造物に近づくことは禁止されません。神は友人であるアブラハムを訪問するためにそれを行います。彼は胎児のときから、そして償いの死に至るまで、イエス・キリストの形で再びそれを行います。

創世記 18:4:
「誰かがあなたの足を洗うために少量の水を持ってきてください。そしてこの木の下で休んでください。」

1
節で明らかになった、暑くて、足の汗は土のような塵に覆われている訪問者の足を洗うことを正当化します。それは彼らにとって嬉しい提案です。そして、この注目はアブラハムの功績です。

創世記 18:5:
「あなたの心を強めるために、私は行って一切れのパンを取りに行きます」

。その後、旅を続けます。それが、あなたがしもべの前を通り過ぎる理由だからです。彼らは答えました、「あなたの言ったとおりにしなさい。」

ここで、アブラハムがこれらの訪問者を天の存在として認識していなかったことがわかります。したがって、彼が彼らに対して示す注意は、彼の自然な人間性の証拠です。彼は謙虚で、愛情深く、優しく、寛大で、親切で、もてなしてくれます。神に愛されるもの。この人間的な側面において、神はすべての提案を承認し、受け入れます。

創世記

18:6:

「アブラハムは急いで天幕に入ってサラのところに行き、「急いで、上等な小麦粉を三尺持ってきて、こねてケーキを作りなさい」と言った。」

食べ物は肉の体にとって有益であり、アブラハムは目の前に3つの肉の体を見て、訪問者の体力を回復するために食べ物を準備しました。

創世記

18:7:

「そしてアブラハムは羊の群れのところに走って行き、柔らかくて立派な子牛を取り、召使に与えた。召使は急いでそれを準備した。」

柔らかい子牛を選ぶことは、その寛大さと生来の慈悲深さをさらに示しています。隣人を喜ばせることが彼の喜びです。この結果を達成するために、訪問者に最高のものを提供します。

創世記

18:8:

「そして彼は、準備しておいた子牛と一緒に、さらにクリームと牛乳を取り、彼らの前に置いた。彼自身も彼らの隣、木の下に立っていました。そして彼らは食べました。」

これらの食欲をそそる食べ物は、通りすがりの見知らぬ人たち、つまり彼が知らない人々に差し出されますが、彼は彼らを自分の家族の一員として扱います。彼らは人間のために作られた食べ物を食べるので、訪問者の化身は非常に現実的です。

創世記

18:9:

「すると彼らは彼に言った、『あなたの妻サラはどこにいますか』。彼は答えた、「彼女はテントの中にいます。」

ホストの試練は神の栄光と彼自身の栄光にとって成功であり、訪問者は、神が以前のビジョンで彼に与えた妻の名前「サラ」と名付けることによって、自分たちの本当の性質を明らかにします。

創世記

18:10:

「彼らのうちの一人は、「私は今同じ時間にあなたのもとに帰ります」と言いました。そして見よ、あなたの妻サラに息子が生まれます。サラは後ろにあるテントの入り口で聞いていました。」

3 人の訪問者の外見には、ヤハウエと同行する 2 人の天使を識別するものは何もないことに注意してください。天上の命がここに現れ、そこに君臨する平等主義の意味を明らかにします。

3人の訪問者のうちの1人がサラの誕生が近づいていることを告げる間、彼女はテントの入り口から話の内容を聞いており、テキストには誰が

「彼の後ろにいた」かが明記されている。これは、彼が彼女を見ていなかった、そして人間として彼女の存在に気づくことができなかったことを意味します。しかし、彼らは男性ではありませんでした。

創世記 18:11:

「アブラハムとサラは年をとり、高齢になっていたのに、サラはもはや子供を産むことを望むことができませんでした。」

この聖句は、全人類に共通する正常な人間の状態を定義しています。

。

創世記 18:12:

「そして彼女は心の中で笑いながら言った、「私は年をとったのに、まだ望むことがあるだろうか？」殿下もご高齢ですよ」

もう一度その正確さに注目してください。「彼女は心の中で笑った」。そのため、考えと心を探求される生ける神以外には、彼の笑い声を聞いた人は誰もいません。

創世記 18:13:

「主はアブラハムに言われた。ではなぜサラは笑って言ったのか。『私は年をとっているのに、本当に子供を産むことができるだろうか?』」

神はこの機会を利用してご自身の神性を明らかにされ、この人間の姿でアブラハムに語るのは主であるため、主について言及することが正当化されます。サラの隠された考えを知ることができるのは神だけであり、アブラハムは今、神が自分に語り掛けていることを知っています。

創世記 18:14:

「主の側に何か驚くべきことがあったでしょうか。指定された時刻に、私は同時にあなたのところに戻ります。そしてサラには息子が生まれます。」

神は権威主義的になり、彼の神性の名であるヤハウエの名において明らかにその予言を更新します。

創世記 18:15:

「サラは、「私は笑わなかった」と嘘をつきました。彼女は怖かったからです。でも彼はこう言いました、「逆に、あなたは笑った」。

「サラは嘘をついた」と書かれているのは、神が彼女の秘密の考えを聞いたからであるが、彼女の口からは笑いが起こらなかった。つまり、それは神にとってはほんの少しの嘘でしたが、人間にとっては嘘ではありませんでした。そして神が彼女を叱責するとしたら、それは彼女が神が自分の考えをコントロールできることを認めていないからです。彼女は彼に嘘までついて証拠を提示した。だからこそ彼は「逆に（嘘です）笑ったじゃないですか」と主張する。神によって祝福された人間はアブラハムであって、夫の祝福によってのみ恩恵を受ける彼の正妻サラではないことを忘れないようにしましょう。彼の考えはすでに、将来の世襲の敵でありイス

ラエルの競争相手となるイシュマエルの誕生という呪いをもたらしました。神聖なプロジェクトを達成することは真実です。

創世記 18:16:

「そして、これらの人たちは立ち上がって出発し、ソドムの方を見た。アブラハムも彼らに同行するために同行しました。

心を癒し、栄養を与え、将来の嫡子イサクの誕生をアブラハムとサラに報告した天の訪問者たちは、地上への訪問には別の使命があることをアブラハムに明らかにします。それはソドムに関するものです。

創世記 18:17:

「それから主は言われた、『私がしようとしていることをアブラハムに隠しましょうか..』」

ここに、アモス 3 章 7

節のこの聖句が正確に当てはまります。「主なる神は、そのしもべである預言者たちにその秘密を明らかにせずには何もなさないからである。」

創世記 18:18:

「アブラハムは必ず偉大で強力な国民となり、彼によって地上のすべての国民は祝福されるであろう。」

副詞「確かに」に適用される通常の意味の喪失のため、私はそれが「確実かつ絶対的な方法で」を意味することを思い出しました。破壊的な計画を明らかにする前に、神はアブラハムに面と向かって自分の立場について急いで安心させ、アブラハムは彼に与える祝福を新たにします。神はアブラハムを人類の歴史上の偉大な人物の地位に高めるために三人称で語り始めます。このように行動して、彼は自分の肉のおよび霊的な子孫に、彼が祝福し、次の聖句で思い出し定義する模範を示します。

創世記 18:19:

「わたしが彼を選んだのは、彼が彼の息子たちと彼の後の家に、義と義をもって主の道を守るよう命じるためであり、アブラハムに約束したことをアブラハムに恵みを与えるためである。」

神がこの聖句で説明していることは、神が滅ぼすソドムとは大きく異なります。世の終わりまで、選ばれた者たちは次のような描写になるだろう。主の道を守ることは正義と正義を実践することである。神がご自分の民イスラエルに教えるために律法の本文に基づいて築かれる真の義と真の正義。これらの事柄を尊重することが、神が祝福の約束を尊重するための条件となります。

創世記 18:20:

「そして主は言われた、『ソドムとゴモラに対する叫びは増大し、彼らの罪は大きい。』」

神は、アブラハムが攻撃されたときに助けに来た王たちの都市であるソドムとゴモラに対してこの裁きを下します。しかし、甥のロトが家族や召使とともに定住することを選んだのもソドムでした。アブラハムが甥に対して抱いている愛着の絆を知っていた神は、アブラハムに自分の意図

を告げるために、老人に対してさまざまな形で注意を向けます。そしてこれを行うために、彼は自分を人間のレベルまで下げて、自分をできる限り人間らしくし、自分をその僕であるアブラハムの人間的な理性のレベルに置くのです。

創世記 18:21:

「それで、私は下って行き、彼らが私に來た報告に従って完全に行動したかどうかを見ます。そうでないなら、私は知っています。」

これらの言葉は、サラの考えに関する知識とは対照的です。なぜなら、神は平原のこれら 2 つの都市で達した不道德のレベルとその豊かな繁栄を無視することができないからです。この反応は、忠実な僕に正しい判決を受け入れさせるために彼が気を配っていることを示しています。

創世記 18:22:

「そして人々は出発してソドムへ行った。しかし、アブラハムは依然として主の前に立っていました。」

ここでは、訪問者を分けることで、アブラハムは彼らの中に生ける神ヤハウエが素朴な人間の姿で現れ、言葉の交換を促すことを認識することができます。アブラハムは大胆になるだろう 2 つの都市の救いを得るために神と一種の取引をするまでになり、そのうちの 1 つは彼の愛する甥のロトが住んでいます。

創世記 18:23:

「アブラハムは近づいてきて言った、「あなたは悪人と一緒に義人も滅ぼすつもりですか。」」

人類は、正義の集団的行動において、巻き添え被害と呼ばれる罪のない犠牲者の死を引き起こしているため、エイブラハムの質問は正当です。しかし、人間が区別できなくても、神には区別できるのです。そして彼はアブラハムと彼の聖書の証言を読む私たちにこの証拠を提供するでしょう。

創世記 18:24: 「おそらく、町の真ん中には 50

人の義人がいるでしょう。あなたは彼らも滅ぼし、その真ん中にいる 50 人の義人たちのせいで町を許さないのですか。「彼女は？」」

アブラハムはその穏やかで愛情深い魂の中で幻想に満ちており、これら 2 つの都市で少なくとも 50

人の義人を見つけることが可能であると想像し、この 2 つの都市の恵みを神から得るためにこれら 50

人の義人になり得る人々を呼び起こします。まさに、無実の者を有罪者で打ち負かすことのできない、彼の完全な正義の名である。

創世記 18:25:

「義人を悪人とともに処刑して、義人も悪人同様に処刑することは、あなたがたからは決して許されません。あなたから遠く離れてください！全地を裁く者は正義を行使しないだろうか？」

そこでアブラハムは、完全な正義感に執着する自分の性格を否定せずにはできないことを神に思い出させることで問題を解決しようと考えます。

創世記 18:26:

「そして主は言われた、『ソドムの町の真ん中で五十人の義人を見つけたら、わたしは彼らのために町全体を赦すであろう。』」

主は忍耐と優しさをもってアブラハムに語らせ、それに応じて彼が正しかったことを証明しました。50人の義人のために都市は破壊されません。

創世記 18:27:

「アブラハムは答えて言った、「見よ、わたしは塵と灰であるわたしが、あえて主に語りかけた。」

谷の二つの都市が破壊された後、不敬虔な人々が残るという「塵と灰」の考えでしょうか？それでも、アブラハムは、自分自身は「塵と灰」にすぎないと告白します。

創世記 18:28: 「50人の義人のうち5人が足りないかもしれない。5人のために町全体を滅ぼすのか。そして主は言われた、「もしそこで45人の義人を見つけたら、私はそれを滅ぼさない」。

アブラハムの大胆さは、選出される可能性のある者の数を減らすたびに交渉を続けることになり、32節で義人の数10人について停止します。そしてそのたびに、神はアブラハムが提案した数字に従って恵みを与えてくださいます。

創世記 18:29:

「アブラハムは彼に話し続けて言った、「おそらくそこには義人が四十人いるだろう。そしてヤハウエは言われた、「私はこの40人のために何もしない」。

創世記 18:30:

「アブラハムは言った、「主を怒らせないでください。私が話します。」おそらくそこには30人の義人がいるでしょう。そしてヤハウエは言われた、「もしそこで30人の義人を見つけても、私は何もしない」。

創世記 18:31:

「アブラハムは言った、「見よ、私はあえて主に話しかけてみた。」おそらくそこには20人の義人がいるでしょう。そしてヤハウエは言われた、「わたしはこの二十人のためにそれを滅ぼさない」。

創世記 18:32:

「アブラハムは言った。『主を怒らせないでください。私は今度はこれ以上話さないでください。』おそらくそこには10人の義人がいるでしょう。そして主は言われた、「わたしはこれら十人の正しい者たちのためにそれを滅ぼさない」。

アブラハムの交渉はここで終わります。アブラハムは、自分の主張には限界があり、それを超えると無理があることを理解しています。彼は

義人の十人という数字に止まりました。彼は、ロトとその親族だけを数えたとしても、これほど多くの義人がこの二つの腐敗した都市で見つかるに違いないと楽観的に信じている。

創世記

18:33:

「主はアブラハムと話し終わると去って行かれた。そしてアブラハムは自分の住まいに戻った。」

二人の友人、一人は天の全能の神、もう一人は地球の塵である人間の地上での出会いは終わり、それぞれが自分の職業に戻ります。アブラハムは自分の住居に向かって、主は破壊的な裁きが下されるソドムとゴモラに向かって。

アブラハムは神とのやりとりの中で、命に強い貴重な価値を与えながら真の正義が達成されるのを見ることに関心を持っている、神の似姿である自分の性格を明らかにしました。だからこそ、しもべの交渉は、自分の感情を完全に分かち合う神の心を喜ばせ、喜ばせることしかできなかったのです。

創世記 19 章

緊急時の別居

創世記

19:1:

「夕方、二人の天使がソドムにやって来た。ロトはソドムの門に座っていた。ロトは彼らを見ると、立ち上がって彼らを迎え、地面にひれ伏した。」

この行動には、アブラハムが甥のロトに良い影響を与えていることがわかります。アブラハムは通りすがりの訪問者に対しても同様の思いやりを示しているからです。そして彼は、自分が定住したソドムの町の住民の道徳の悪さを知っているので、なおさら注意を払ってそれを行います。

創世記

19:2:

「それから彼は言った、「ご主人様たち、お願いします。しもべの家に入って、そこで一晩過ごしてください。」足を洗います。あなたは朝早く起きて、旅を続けるでしょう。いいえ、彼らは答えました、私たちは路上で一晩を過ごすつもりです。」

ロトは、腐敗した住民の恥知らずで悪意のある行為から人々を守るために、家を通る人々を歓迎することを義務としています。アブラムが3人の訪問者に対して述べたのと同じ歓迎の言葉が見つかります。ロトは確かに義人であり、この街の邪悪な者たちとの共同生活によって自分が墮落することを許しませんでした。二人の天使は都市を破壊するためにやって来ましたが、都市を破壊する前に、住民の邪悪さを積極的に示し、その行

為を捕まえて混乱させたいと考えています。そして、この結果を得るには、彼らがソドム人に襲われるために路上で一晩過ごすだけで十分です。

創世記 19:3:

「しかし、ロトが彼らを強く勧めたので、彼らは彼のところに来て、彼の家に入った。彼は彼らにごちそうを与え、種なしパンを焼きました。そして彼らは食べました。」

したがって、ロトは彼らを説得することに成功し、彼らは彼のもてなしを受け入れました。アブラハムが以前にそうしたように、その寛大さを彼に示す機会がまだ与えられているのです。この経験は彼らに、不正義の真っ只中にいる義人であるロトの美しい魂を発見することを教えます。

創世記 19:4:

「子供から老人まで、町の人々、ソドムの人々が家を取り囲んだとき、彼らはまだ寝ていませんでした。住民全員が走って来た。」

ロトが彼らを歓迎した家にまで彼らを探しに来るので、住民の邪悪さの実証は二人の天使の予想を超えています。この邪悪な伝染のレベルに注意してください：「子供から老人まで」。したがって、ヤハウエの判断は完全に正当化されます。

創世記 19:5:

「そこで彼らはロトを呼んで言った、「今夜あなたのところに来た人たちはどこにいるのですか。」私たちが彼らを知ることができるように、彼らを私たちに連れてきてください。」

素朴な人々はソドム人の意図に騙される可能性があります。なぜなら、それは知り合いを求めるものではなく、「アダムは妻を知っており、彼女は息子を産んだ」という例の聖書の用語の意味での知識を求めるものだからです。したがって、これらの人々の墮落は完全であり、救済の余地はありません。

創世記 19:6:

「ロトは家の戸口で彼らのところに出て、後ろ手に戸を閉めた。」

忌まわしい存在たちに会いに急いで向かい、訪問者を守るために家のドアを後ろで注意深く閉める勇気のあるロト。

創世記 19:7:

「そして彼は言いました。「兄弟たちよ、お願いします。悪をしないでください。」」

善人は悪人に悪を行わないように勧めます。彼が彼らを「兄弟」と呼ぶのは、彼らも自分と同じ人間であり、彼らの行動が彼らに向けている死から何人かを救うという希望を自分の中に持ち続けているからである。

創世記 19:8:

「見よ、私には人間を知らない二人の娘がいます。私は彼らをあなたの外に連れて行きます、そしてあなたは彼らに好きなようにしてください。彼らは私の屋根の影に来たのですから、何もしないでください。」

ロトにとって、ソドム人の行動は、この経験でこれまでに到達したことの無い高みに達しました。そして、二人の訪問者を守るために、彼はまた処女の二人の娘を代わりに差し出しに来るのです。

創世記

19:9:

「彼らは言った、「出発せよ！」彼らは再び言いました、「この人は見知らぬ人としてやって来ました、そして彼は裁判官を務めたいと思っています！」まあ、私たちはあなたたちに彼らよりひどい仕打ちをします。そしてロトに激しく迫り、彼らは前に出てドアを打ち破った。」

ロトの言葉は集まった群れを落ち着かせるものではなく、これらの怪物たちは、ロトに対して自分たちよりもひどいことをしようとしている、と彼らは言う。その後、彼らはドアを破壊しようとしています。

創世記

19:10:

「そこで人々は手を伸ばしてロトを家に連れて行き、戸を閉めた。」

勇敢なロト自身が危険にさらされると、天使たちが介入してロトを家の中に連れて行きます。

創世記

19:11:

「そして彼らは、小さい者から大きい者に至るまで、家の戸口にいた人々を打って盲目にしたので、彼らは戸を見つけるために苦勞したのは無駄だった。」

外では、最も近くにいた興奮した人々が失明してしまいます。したがって、家の居住者は保護されます。

創世記

19:12:

「人々はロトに言った、「まだここにいるのは誰ですか？」義理の息子たち、息子、娘たち、そして市内にいるすべてのあなたの所有物を、この場所から連れ出さなさい。」

ロトは天使たちと彼らを遣わした神の目に好意を寄せました。彼の命が救われるためには、彼は「**出て行かなければならない**」都市と平原の谷の»

天使たちがこの谷の住民を滅ぼすから、この谷は都市アイのような廃墟地帯になるでしょう。天使たちの捧げ物は、生きている人間のうち、神に属するすべてのものに及びます。

この分離というテーマでは、「**出て行け**」という神の命令は永続的です。なぜなら、神は彼の被造物たちに、偽りのキリスト教会のようなあらゆる形態の悪から**離れるように促している**からです。黙示録 18:4で、彼は自分の選んだ者たちに「**出て行け**」と命じています。»

「大いなるバビロン」、これは第一にカトリック宗教、第二に多形態のプロテスタント宗教に関係しており、その影響下に今に至るまで残っている。そして、ロトの場合と同様に、彼らの命は神の命令に直ちに従うことによってのみ救われます。なぜなら、日曜日を初日に休むことを義務付ける法律が公布されるとすぐに、猶予期間は終わりを迎えるからである。そして、この問題に対するあなたの意見や立場を変えるには遅すぎます。

ここで私は、必要な意思決定を後回しにすることによって表される危険性に注意を促します。私たちの人生はもろく、病気、事故、発作によって死ぬ可能性があります。神が私たちの反応の遅さを認めない場合、起こり得ることです。この場合、集合的な恵みの時代の終わりはその重要性をすべて失います。なぜなら、彼女より先に死ぬ者は、不当な行為と神による非難の中で死ぬからである。この問題を認識しているパウロは、ヘブライ

3:7-8

でこう言います。「今日、彼の声を聞いたら、反逆のときのように心をかたくなにしていけません…

」。したがって、神の申し出に応えることが常に緊急に求められており、パウロはヘブライ

4:1

によれば次のように考えています。あまり遅くはないようです。」

創世記

19:13:

「主の前でその住民に対する叫びが大きいので、私たちはこの場所を破壊するでしょう。主はそれを滅ぼすために私たちを遣わされました。」

今回は時間が迫っているので、天使たちはロトに自分たちが家にいる理由を知らせました。この都市は主の決定によって速やかに破壊されなければなりません。

創世記

19:14:

「ロトは出て行って、娘たちを連れてきた義理の息子たちに語りかけました。「起きなさい、ここから出て行け」と彼は言いました。主がその都市を滅ぼされるからである。しかし、義理の息子たちの目には、彼は冗談を言っているように見えました。」

ロトの義理の息子たちは確かに他のソドム人のような邪悪さのレベルではありませんでしたが、救いのためには信仰だけが重要です。そして明らかに、彼らはそれを持っていませんでした。義父の信仰には彼らは興味を示さなかったし、神ヤハウエが街を破壊する準備ができているという突然の考えは、彼らにとってただただ信じられないことだった。

創世記

19:15:

「夜明けから、天使たちはロトに勧めて言った、「起きて、ここにいるあなたの妻と二人の娘を連れて行きなさい。あなたが町の廃墟で滅ぼされないように」。

、信仰と信仰の欠如を明らかにする悲痛な別れを引き起こします。ロトの娘たちは、父親に従うか、夫に従うかの選択を迫られます。

創世記

19:16:

「そして、彼が遅れていると、人々は彼、妻、そして二人の娘の手を取った。主が彼を赦してくださるからだ。彼らは彼を連れ去り、市の外に置き去りにしました。

この行為において、神は私たちに「火から取り出されたブランド」を示します。もう一度言いますが、神が彼と二人の娘と妻を救われるのは

義なるロトのためです。こうして、都市から引き離された彼らは、外で自由で生きていることに気づきます。

創世記 19:17:

「イエスが彼らを連れ出すと、そのうちの一人がこう言いました。後ろを振り返ったり、平地全域で立ち止まったりしないでください。死なないように山に逃げなさい。」

救いは山にあり、その選択はアブラハムに委ねられます。こうしてロトは、平原とその繁栄を選んだ自分の間違いを理解し、後悔することができるのです。彼の命は危険にさらされており、神の火が谷を襲ったときに安全を確保したければ、急がなければなりません。彼は振り返らないように命じられている。この命令は文字通りにも比喩的にも受け取られるべきです。ソドムの生存者たちの前には、未来と人生が待っています。なぜなら、彼らの背後には、間もなく、空から投げられた硫黄石によって点火された白熱の遺跡だけが存在するからです。

創世記 19:18: 「ロトは彼らに言った：ああ！いいえ、主よ！」

天使が与えた命令はロトを怖がらせます。

創世記 19:19:

「見よ、私はあなたの目に恵みを見出しました。そして、あなたは私の命を守って私に対してあなたの慈悲の大きさを示してくださいました。しかし、災難が私を襲う前に山に逃げることはできず、私は滅んでしまいます。」

ロトは自分が住んでいるこの地域のことを知っており、その山に行くには長い時間がかかることも知っています。だからこそ彼は天使に懇願し、別の解決策を提案したのです。

創世記 19:20:

「見よ、この町は私が避難できるほど近くにあるが、小さい。おお！そこに逃げられることを...小さくないですか?...そして私の魂が生きていることを！」

谷の終わりには小さなという意味の言葉、ツォアールがあります。彼女はロトとその家族の避難場所として、谷の悲劇を生き延びました。

創世記 19:21:

「そして彼は言った、『見よ、わたしもあなたにこの恵みを与えます。あなたの話している町をわたしは滅ぼしません』。」

この都市の存在は、ソドムとゴモラの 2 つの都市があった平原の谷の都市に影響を与えたこの劇的なエピソードを今でも証言しています。

創世記 19:22:

「急いでそこに避難してください。あなたがそこに到着するまで、私は何もできません。これが、この都市にゾアルという名前が付けられた理由です。」

天使は今、彼の同意に依存しており、ロトが谷を攻撃するためにゾアルに入るまで待つつもりです。

創世記 19:23:

「ロトがツォアルに入ったとき、太陽が地に昇っていた。」

ソドム人にとっては、美しい日の出の下で新しい一日が告げられるかのようなものでした。いつもと同じような一日...

創世記 19:24:

「それから主は天から硫黄と火をソドムとゴモラに降らせた。」

この奇跡的な神の行為は、アドベンチスト派の考古学者ロン・ワイアットの発見を通じて強力な証拠となりました。彼は、この谷に接する山の西側の斜面に住居が互いに傾いていたゴモラの都市の場所を特定した。この場所の地面は硫黄石できており、火に触れると今でも発火します。したがって、神の奇跡は完全に確認され、選ばれた人々の信仰に値するものとなります。

よく考えられ、言われてきたこととは反対に、神はこの溪谷を破壊するために原子力発電を求めたのではなく、専門家によれば異例の純度90%と推定される硫黄と純粋な硫黄の石に呼びかけたのだ。空には硫黄の雲がありませんので、この破壊は創造主なる神の御業であると言えます。神は地球、空、そしてそれらに含まれるすべてのものを創造したので、必要に応じてあらゆる物質を創造することができます。

創世記 19:25:

「神はそれらの都市、すべての平原、都市のすべての住民、そして地の植物を滅ぼした。」

燃えるような硫黄の石の雨が降る場所で何が生き残れるでしょうか？岩と硫黄石が残っている以外は何もありません。

創世記 19:26: 「ロトの妻は振り返ると、彼女は塩の柱になった。」

ロトの妻が振り返ったこの回想は、この呪われた場所に対する後悔と依然として関心が残っていることを明らかにしています。この精神状態は神に喜ばれず、神は自分の体を塩の柱、絶対的な霊的不毛のイメージに変えることによってそのことを知らせます。

創世記 19:27:

「アブラハムは朝早く起きて、主の前に立っていた場所に行きました。」

起こったドラマに気づかず、アブラハムはマムレの櫛の木にやって来て、そこで3人の訪問者を迎えました。

創世記 19:28:

「そして彼はソドムとゴモラ、そして平原の全域を見渡した。そして見よ、彼は、かまどの煙のように、地面から煙が立ち上っているのを見た。」

この山は素晴らしい展望台です。アブラハムはその身長からこの地域を支配しており、ソドムとゴモラの谷がどこにあるかを知っています。その場所の地面がまだ白熱の火鉢である場合、上には硫黄と人間が都市で収集したすべての物質の消費によって引き起こされる刺激的な煙が立ち上

ります。この場所は世界の終わりまで無菌状態にあると宣告されている。そこでは、岩、石、硫黄石、そして塩だけが見つかります。塩は土壌の不滅性を促進します。

創世記

19:29:

「神は平原の町々を滅ぼしたとき、アブラハムのことを思い出されました。そして彼はロトを災難のただ中から脱出させ、それによってロトが住居とした都市を転覆させた。」

この明確化が重要なのは、神がロトを救ったのは、その忠実な僕であるアブラハムを喜ばせるためだけだったということが明らかになるからです。したがって、彼は繁栄した溪谷とその腐敗した都市を選択したことを非難することをやめませんでした。そしてこれは、ソドムによって「火から奪われたブランド」として、または非常に正確に知られている運命から彼が実際に救われたことを裏付けています。

創世記

19:30:

「ロトはゾアルに留まるのが怖かったので、ゾアルを出て高みへ行き、二人の娘とともに山に定住した。彼は二人の娘と一緒に洞窟に住んでいました。」

分離の必要性が明らかになりました。そして、「小さい」とはいえ、神の前に墮落して罪深い人々が住んでいたゾアルに留まらないと決めたのも彼です。今度は彼が山に行き、何の慰めからも遠く、神の創造物が提供した自然の安全な避難所である洞窟で二人の娘と一緒に暮らします。

創世記

19:31:

「年上の人には年下の人にこう言いました。『私たちの父は年をとりました。そして、どの国の慣例によれば、この国には私たちのところに来る人は一人もいません。』」

ロトの二人の娘がとった取り組みにはスキャンダラスな点は何もありません。彼らは父親に子孫を残すという目的を持って行動するため、彼らの動機は正当化され、神によって承認されます。この動機がなければ、この取り組みは近親相姦的なものになってしまうでしょう。

創世記

19:32:

「さあ、私たちの父にぶどう酒を飲ませて、一緒に寝ましょう。**父の人種を守るためです。**」

創世記

19:33:

「そこで彼らは、その夜、父親にぶどう酒を飲ませた。そして長男は父親と一緒に寝ました。父親は彼女が横になっているときも起きているときも気づきませんでした。」

創世記

19:34:

「翌日、長老は弟にこう言いました。「見よ、私は昨夜父と一緒に寝た。今夜も彼にワインを飲ませて、**父の種族を守るために一緒に寝ましょう。**」」

創世記

19:35:

「彼らはその夜、また父親にぶどう酒を飲ませた。そして末っ子は彼と一緒に寝ました。彼は彼女が横になっているときも起きているときも気づきませんでした。」

この行為におけるロトの完全な無意識は、このプロセスに、最後の時代に動物や人間に適用される人工授精のイメージを与えます。そこには快楽の探求など微塵もなく、人類の始まりにおける兄弟姉妹の結合ほど衝撃的なものはない。

創世記 19:36: 「ロトの二人の娘は父親によって妊娠した。」

ロトのこれら二人の娘には、父親の名誉のために自己犠牲を払うという並外れた特質が見られます。未婚の母親として、彼らは公式には父親なしで一人で子供を育てることになるため、夫、配偶者、伴侶を受け入れることを放棄します。

創世記

19:37:

「長子は男の子を産み、その名をモアブと名づけた。彼は今日に至るまでモアブ人の父である。」

創世記

19:38:

「末っ子も男の子を産み、その名をベン・アミと名付けました。彼は今日に至るまでアンモン人の父です。」

次のような記述があります。しかしエドム、モアブ、そしてアンモン人の族長は彼の手から救出されるであろう。」したがって、肉のかつ霊的な絆によって、これらの子孫は、ヘブライ人のヘベルに続く根であるアブラハムを基礎とするイスラエルに結び付けられることとなります。しかし、これらの共通のルーツは争いを引き起こし、これらの子孫をイスラエルという国に敵対させるでしょう。ゼパニヤ書 2 章 8 節と 9 節で、神はモアブとアンモンの子らに災いが起こると次のように預言しています。これが私が生きている理由です！イスラエルの神、万軍の主は言われる、モアブはソドムのようになる、アンモンの人々はゴモラのようになる、いばらに覆われた場所、塩の鉱山、永遠の砂漠のようになる。残りの私の民は彼らを略奪し、残りの私の国の人々は彼らを所有するでしょう。」

これは、神の祝福がアブラハムにのみ与えられ、同じ父テラから生まれた彼の兄弟たちには祝福が与えられなかったことを証明しています。ロトがアブラハムの模範から恩恵を受けることができたとしても、ロトの二人の娘から生まれた子孫には当てはまらないでしょう。

創世記 20

神の預言者の地位による分離

章で報告されているファラオとの経験を新たにして、アブラハムは妻サラをゲラル（現在のガザ近郊のパレスチナ）の王アビメレクに妹として紹介します。再び彼を罰する神の反応により、彼はサラの夫が自分の預言者であることを知ります。こうしてアブラハムの権力と恐怖はその地域全体に広がりました。

創世記 21 章

合法と非合法の分離

愛するものを犠牲にして別離する

創世記

21:1:

「そして、主は語られたとおりにサラを訪れ、主も語られたとおりにサラにされた。」

この訪問で、神はサラの長い不妊に終止符を打ちました。

創世記

21:2:

「そしてサラはアブラハムを身ごもり、年老いてから神が彼に告げられた定めの際に息子を産んだ。」

イザヤ書

55:11

はこれを裏付けています。「私の口から出た言葉も同様です。私の意志を実行し、私の計画を達成することなく、それは無効になって私に戻ってくることはありません。」

」アブラハムとの約束は守られているので、この聖句は正当化されます。この息子は、神が彼の誕生を告げた後にこの世に生まれます。聖書はイサクを「約束の子」として描写しており、そのためイサクは預言者としての救世主「神の子」イエスの型となっています。

創世記

21:3:

「そしてアブラハムは、サラが産んだ息子の名をイサクと呼んだ。」

アイザックという名前は、「彼は笑う」という意味です。アブラハムもサラも、神が彼らの将来の息子を発表するのを聞いて笑いました。喜びの笑いが肯定的であるとしても、嘲笑の場合はそうではありません。実際、人間の偏見の犠牲者として、夫婦とも同じ反応を示しました。なぜなら、彼らは周囲の人々の人間的な反応を考えて笑ったからです。洪水以来、寿命は大幅に短縮され、人間にとって

100

歳は高齢期を迎えます。私たちが人生にほとんど期待していないもの。しかし、万物の限界を定める創造主である神との関係においては、年齢は何の意味も持ちません。そしてアブラハムは自分の経験の中でこのことを発見し、今度は神を通して、正当な富、名誉、そして父性を受け取ります。

創世記 21:4: 「そしてアブラハムは、神が命じられたとおり、生後 8 日目に息子イサクに割礼を施しました。」

次に、嫡子には割礼が施されます。神の命令は従われます。

創世記

21:5:

「そして、アブラハムに息子イサクが生まれたとき、アブラハムは百歳でした。」

このことは注目に値するが、古代の基準からするとそうではない。

創世記

21:6:

「するとサラは言いました、神は私に笑うきっかけを与えてくださいました。それを聞いた人は誰でも私と一緒に笑うでしょう。」

サラは人間であり、人間の偏見の犠牲者であるため、この状況が滑稽であると感じています。しかし、この笑いたいという欲求は、予期せぬ喜びも反映しています。夫のアブラハムと同じように、彼女は人間の正常な感覚からはもはや想像できない年齢で出産する可能性を獲得しています。

創世記

21:7:

「そして彼女は言った。「サラが息子たちに乳を与えるだろう」と誰がアブラハムに言うだろうか。というのは、私は高齢になって彼に息子を産んだからである。」

それは本当に例外的であり、完全に奇跡です。サラのこれらの言葉を預言的なレベルで見ると、イシュマエルが最初の契約の子を預言するのに対し、イサクにはキリストにおける新しい契約を預言する息子がいます。キリスト・イエスを拒否したことにより、割礼のしるしによって肉に従って生まれたこの生来の子は、神によって拒絶され、信仰によって選ばれたクリスチャンの子が選ばれることとなります。イサクのように、新しい契約の創始者であるキリストは、人間の姿で神を現し、それを表すために奇跡的に生まれます。対照的に、イシュマエルは肉欲に基づいて、厳密に人間の理解に基づいて考えられています。

創世記

21:8:

「そして、その子は成長し、乳離れした。そしてアブラハムはイサクが乳離れした日に盛大な祝宴を開きました。」

母乳で育てられた赤ん坊は思春期となり、アブラハム神父にとっては約束と幸福に満ちた未来が開かれ、それを喜んで祝います。

創世記

21:9:

「そしてサラは、アブラハムに産んだエジプト人ハガルの息子が笑っているのを見た。そして彼女はアブラハムに言った。」

祝福されたカップルの生活において、笑いが大きな位置を占めていることは明らかです。イシュマエルは嫡子であるイサクに対する敵意と嫉妬から、彼を嘲笑して笑います。サラにとって、耐えられる限界に達しました。母親の嘲笑の次は、息子の嘲笑です。これは、やりすぎ。

創世記

21:10:

「この女中とその息子を追い出さない。なぜなら、このはしための息子は、私の息子、イサクとともに相続することはないからです。」

サラの怒りは理解できますが、上の私と一緒に見てください。サラは、キリスト・イエスの正義への信仰に基づいて、選ばれた者たちに新しい同盟が継承されない最初の同盟は価値のないものであると預言します。

創世記

21:11:

「そして、アブラハムにとって、それは息子のせいで非常に悪いことでした。」

アブラハムは、自分の感情が二人の息子の中で共有されているため、サラのように反応しません。イサクの誕生によって、イサクとイシュマエルを結びつけた14年間の愛情が消えるわけではありません。

創世記

21:12:

「そして神はアブラハムに言われた、『その子とあなたのはしためのために、あなたの目に悪いことが起こらないように。』サラがあなたに言ったことすべてについて、彼女の声を聞いてください。なぜなら、あなたはイサクにおいて種と呼ばれるからです。」

このメッセージの中で、神はアブラハムに長男イシュマエルの離別を受け入れるよう備えさせています。この**分離**は神の預言的な計画の中にあります。なぜなら彼は古いモーセの契約の失敗を預言しているからです。慰めとして、イサクにおいて、彼は子孫を増やすでしょう。そして、この神の言葉の成就是、「選ばれた者」がイエス・キリストにおける神の永遠の福音のメッセージによって「召される」新しい契約の確立を通じて行われます。

したがって、逆説的ですが、イサクは古い契約の族長となり、何よりもその息子ヤコブにおいて、肉と割礼のしるしに従って、神のイスラエルがその基礎の上に設立されることになります。しかし、矛盾しているのは、この同じイサクがキリストにある新しい契約に関する教訓だけを預言しているということです。

創世記

21:13:

「そして、わたしは、はしための息子を国民とします。彼はあなたの子孫だからです。」

イシュマエルは中東の多くの民族の族長です。キリストが地上での救いの働きのために現れるまで、霊的正当性はアブラハムのこの二人の息子の子孫にのみ属していました。西洋世界は、偉大な創造主である神の存在を無視し、さまざまな形の異教の中で生きていました。

創世記

21:14:

「そして、アブラハムは朝早く起きて、パンと水袋を取り、ハガルに渡し、肩に乗せた。すると、ハガルは彼女に子供を与え、送り出した。そして彼女はベエル・シェバの荒野をさまよった。」

神の介入によりアブラハムは落ち着きました。彼は神ご自身がハガルとイシュマエルを見守ってくださることを知っており、神が彼らを守り導いてくださると信頼しているので、彼らから離れることに同意します。なぜなら、彼自身もこれまで神によって守られ、導かれてきたからです。

創世記 21:15:

「そして、革袋の水がなくなると、彼女は子供を藪の下に投げ込んだ。」

ベエルシェバの砂漠では、運び去られた水はすぐに消費されてしまい、水がなければハガルは自分の不幸な状況の最終結果として死しか考えません。

創世記 21:16:

「行って、弓が届く範囲の向かい側に座った。なぜなら彼女は、「あの子が死ぬところを見ないでほしい」と言ったからです。そして彼女は向かいに座り、声を上げて泣きました。」

この極限状況において、ハガルは二度目に神の御前で涙を流します

創世記 21:17:

「すると、神は子声を聞いて、神の御使いが天からハガルを呼び、彼女に言った、「ハガル、どうしたのですか？」恐れなくてください、神は子供のいる場所でその子声を聞いたのです。」

そして二度目に神が介入し、彼女を安心させるために話しかけます

創世記 21:18:

「起きて、子供を抱き上げて手に取りなさい。わたしがこの国を偉大な国にするからです。」

思い出してください、子供イシュマエルは 15 歳から 17 歳の十代の若者ですが、それでも母親ハガルの服従する子供であり、二人にはもう飲む水がありません。彼には強力な運命が待っているのです、神は彼女が息子をサポートすることを望んでいます。

創世記 21:19:

「そして神が彼女の目を開くと、彼女は水の井戸を見た。そこで彼女は行って、皮膚に水を満たし、子供に飲ませました。」

奇跡の結果であろうとなかろうと、この水の井戸はハガルとその息子に人生の味を与えるために必要な瞬間に現れます。そして彼らは、物事のビジョンと知性を開いたり閉じたりする強力な創造主のおかげで自分たちの人生を生きています。

創世記 21:20:

「神がその子とともにおられたので、彼は成長して荒野に住み、射手となった。」

イシュマエルが動物を狩って弓で殺して食べたので、砂漠は空ではありませんでした。

創世記

21:21:

「そして彼はパランの荒野に住んだ。そして彼の母親はエジプトの国から彼を妻に迎えました。」

したがって、イシュマエル人とエジプト人の間の絆は強化され、時間が経つにつれて、イシュマエルとイサクの対立は彼らを永久の天敵にするまでに増大するでしょう。

創世記

21:22:

「そのとき、アビメレクとその軍の長ピコルがアブラハムにこう言った。あなたが行うすべてのことにおいて、神はあなたとともにおられます。」

創世記

20

章に記録されているサラの妹としての提示によって引き起こされた経験は、アビメレクにアブラハムが神の預言者であることを教えました。彼は今、恐れられ続けています。

創世記

21:23:

「そして今、ここで神にかけて私に誓ってください。あなたは私に対しても、私の子供たちに対しても、私の孫たちに対しても、不当な扱いをしないことを、私があなたに示した親切心にしたがって、私に対して行動し、滞在した国に向けて。」

アビメレクはもはやアブラハムの策略の犠牲者になることを望まず、平和的な同盟への確固たる決意を彼から得たいと考えています。

創世記

21:24:

「そしてアブラハムは言った、「わたしは誓います。」」

アブラハムはアビメレクに対して悪意を持っていないので、この協定に同意することができます。

創世記

21:25:

「そして、アブラハムは、アビメレクの家来たちがカづくで水の井戸を奪ったことを理由に、アビメレクを叱責した。」

創世記

21:26:

「そしてアビメレクは言った、「誰がこのことをしたのか私は知りません、そしてあなたはそれについて私に警告しませんでした、そして私はそれについて今日聞いただけです。」」

創世記

21:27:

「そしてアブラハムは羊の群れを集めてアビメレクに与え、二人は契約を結んだ。」

創世記

21:28:

「そしてアブラハムは、七匹の若い羊を群れから分けた。」

アブラハムが「七匹の羊」を選んだことは、アブラハムが創造主である神と自分の仕事に結びつけたいと望んでいることを証明しています。アブラハムは外国に定住しましたが、自分の労働の成果を自分の財産として残しておきたいと考えています。

創世記 21:29:
「そしてアビメレクはアブラハムに言った、「あなたが分けておいたこの七匹の子羊は何ですか。」」

創世記 21:30:
「そして彼は言った、「私がこの井戸を掘ったことの証しとして、この七匹の子羊を私の手から取り上げてください。」」

創世記 21:31:
「そこで彼らは、二人ともそこで誓ったので、その場所をベエルシェバと呼びました。」

係争中の井戸は、ヘブライ語の数字「7」の語源である「シバ」という言葉にちなんで名付けられました。この言葉は、7日目を表す「安息日」という言葉に見られます。この言葉は、私たちの土曜日が毎週の休みに神によって聖別されたものです。彼の地上の創造の始まり以来。この同盟の記憶を保存するために、この井戸は「七人の井戸」と呼ばれるようになりました。

創世記 21:32:
「そして彼らはベエル・シェバで契約を結んだ。そこでアビメレクとその軍の長ピコルが立ち上がり、彼らはペリシテ人の地に戻った。」

創世記 21:33:
「そしてアブラハムはベエルシェバにタマリスクの木を植えた。そこで彼は永遠の神ヤハウエの名を呼んだ。」

創世記 21:34:
「そしてアブラハムはペリシテ人の地に長い間滞在した。」
神はご自分の僕のために平和と静けさの条件を整えてくださいました。

創世記 22

父の別離と犠牲となった一人息子

この第 22 章は、父なる神によって犠牲として捧げられたキリストの預言的なテーマを示しています。それは、自由で知性があり自律的な自分に対抗する者を創造するという神の決定の初めから、神が秘密裏に準備した救いの原則を描いています。この犠牲は、彼の生き物からの愛の見返りを得るために支払う代償となるでしょう。選ばれる者は、完全な選択の自由をもって神の期待に応えた者たちになります。

創世記

22:1:

「これらの事の後、神はアブラハムを試し、彼に言った、『アブラハム！』そして彼は答えました：私はここにいます！」

アブラハムは神に対して非常に従順ですが、この従順はどこまで及ぶのでしょうか？神はすでに答えを知っていますが、アブラハムは、すべての選ばれた人々への証しとして、彼の模範的な従順の具体的な証拠を残さなければなりません。その模範的な従順が、彼を神の愛にふさわしいものにし、その子孫が神によって昇華される族長となるのです。キリスト・イエスの誕生。

創世記

22:2:

「神は言われました。あなたの息子、あなたの独り子、あなたの愛する人、イサクを連れて行きなさい。モリヤの地に行き、私があなたに話す山の一つで彼を燔祭として捧げなさい。」

神は、百歳を超えたこの老人が耐えられる限界まで、痛いものを意図的に押し進めます。神は奇跡的に彼と正妻サラとの間に息子が生まれるという喜びを与えられました。また、彼は「あなたの独り子をいけにえとして捧げなさい」という神の信じられない願いを周囲に隠します。そしてアブラハムの前向きな反応は全人類に永遠の影響を与えるでしょう。なぜなら、アブラハムが息子を捧げることに同意した後は、神ご自身がもはや救いの計画を放棄することができないからです。もし彼がそれを諦めることを考えていたら。

山のひとつで、私はあなたに話します」という正確さの興味深いことに注目してみましょう。この正確な場所は、キリストの血を受けるようにプログラムされています。

創世記

22:3:

「アブラハムは朝早く起きて、ロバに鞍を置き、二人の召使いと息子イサクを連れて行きました。彼は燔祭のための薪を割り、神が彼に告げられた場所へ向かいました。」

アブラハムはこの過剰に従うことを決心し、魂に死を覚悟して、神が命じた血なまぐさい儀式の準備を組織しました。

創世記

22:4:

「三日目、アブラハムは目を上げて遠くにその場所を見た。」

モリヤの国は彼の住んでいる場所から歩いて3日の距離にある。

創世記

22:5:

「そしてアブラハムは家来たちに言った、『ロバと一緒にここにいてください。私と若者は礼拝のためにそこまで行って、あなたのところに戻ってきます。』」

彼が行おうとしている恐ろしい行為に目撃者は必要ない。彼_ そのため、彼の帰りを待たなければならない二人の従者たちから引き離されます。

創世記

22:6:

「アブラハムは燔祭のたきぎを取り、息子イサクに積み込み、火とナイフを手に持った。そして二人は一緒に歩きました。」

この預言的な場面では、キリストが手首を釘で打ち付けられる重い「パティビュラム」を運ばなければならないのと同じように、イサクは、火をつけられて犠牲の体を焼き尽くす薪を積んでいます。

創世記

22:7:

「それから、イサクは父アブラハムにこう言いました。「わが父よ！」そして彼は答えました、「ここにいます、息子です！」イサクは答えた、「ここに火と木があります。しかし、燔祭の子羊はどこにあるのでしょうか？」

アイザックは多くの宗教的な犠牲を目撃しており、犠牲となる動物が存在しないことに驚くのも当然です。

創世記

22:8:

「アブラハムは言った。「わが子よ、神は全焼のいけにえとして子羊を備えてくださるでしょう。」そして二人は一緒に歩きました。」

アブラハムのこの返答は、神から直接靈感を受けたものである。なぜなら、この返答は、神が自らを人間の肉の磔刑に捧げることによって莫大な犠牲を払うことを壮大に預言しており、それによって選ばれた罪人が神の完全性を備えた効果的で公正な救い主を必要としているからである。しかしアブラハムは、この救いの未来、全能の創造主なる神ヤハウエに犠牲として捧げられた動物によって預言された救い主キリストの役割を見ていません。彼にとって、この反応は、自分が犯さなければならない犯罪を恐怖の目で見つめているときに、単に時間を稼ぐことを可能にするだけです。

創世記

22:9:

「彼らが神から告げられた場所に来ると、アブラハムはそこに祭壇を築き、たきぎを並べた。彼は息子イサクを縛り、祭壇の上の薪の上に置きました。」

祭壇の前にいるアブラハムにとって残念なことに、自分が犠牲の羊となることをイサクから隠す方法はもはやありません。アブラハム神父がこの異常な受け入れにおいて崇高であることを示したとすれば、イサクの従順な行動は、彼の時代のイエス・キリストの姿、つまり従順と自己犠牲における崇高さを反映しています。

創世記

22:10:

「それからアブラハムは手を伸ばしてナイフを取り、息子を殺そうとした。」

神はこれに反応して、ご自分の選ばれた者の真の価値と信憑性を証しするために、試練の最後の最後まで待っていることに注意してください。

「手に持ったナイフ」。残っているのは、すでに犠牲になった多くの羊のようにイサクを屠ることだけです。

創世記

22:11:

「すると、主の御使いが天から彼に呼びかけて言った、「アブラハム！」アブラハム！そして彼は答えました：私はここにいます！」

アブラハムの従順な信仰を実証し、完璧に実行しました。神は老人の試練と、彼とその愛にふさわしい息子の試練に終止符を打たれました。

アブラハムは神やその息子に呼ばれるたびに、常に「ここにいます」と答えていることに注目してください。彼から湧き出るこの自発的な反応は、彼の隣人に対する寛大でオープンな性格を証明しています。さらに、それは、神が彼にこう言わざるを得なかったほど、神から隠れた罪の状況に陥ったアダムの態度とは対照的です。」。

創世記

22:12:

「すると天使は言いました。「その子に手を伸ばしたり、何もしたりしないでください。なぜなら、あなたが神を畏れており、あなたの独り子を私から差し控えていないことを私は今知っているからです。」

アブラハムは、その忠実で従順な信仰を実証することによって、すべての人の目に留まり、世の終わりまで、そして彼を受肉するキリストの到来まで、神によって真の信仰の模範として示されることができます。神聖な完全性を取り戻してください。アブラハムがイエス・キリストの流された血によって救われた真の信者たちの霊的な父となるのは、この非の打ちどころのない従順の模範においてです。この経験において、アブラハムはちょうど、ナザレのイエスという名の彼の一人息子を、真の死すべき犠牲として捧げる父なる神の役割を演じたところです。

創世記

22:13:

「アブラハムは目を上げ、後ろに角をつかまれて藪に捕らえられている雄羊が見えた。そこでアブラハムは行ってその雄羊を取り、息子の代わりに燔祭としてささげた。」

この時点で、アブラハムはイサクに対する「わが子よ、神は燔祭の子羊を自ら備えてくださるでしょう」という返答が神の靈感によるものであることに気づくことができます。なぜなら、

「子羊」とは実際には「若い雄羊」だからです。

、確かに神によって「備えられ」、神によって提供されます。人間、つまり男性のアダムに与えられた責任と支配のため、主に犠牲にされた動物は常に雄であることに注意してください。救い主キリストも男性になります。

創世記

22:14:

「アブラハムはこの場所をヤハウエ・ジレと名付けました。これが今日、「主の山に彼が現れる」と言われている理由です。」

ヤハウエ・ジレ」という名前は、「ヤハウエが現れる」という意味です。この名前の採用は、モリアの地で

、恐怖と畏怖を呼び起こす目に見えない偉大な神が、それほど恐ろしい人間の姿で現れ、選ばれた者に救いをもたらし、それを獲得することを告げる真の預言です。そして、この任命の起源であるイサクを犠牲として捧げたことは、「世の罪を取り除く神の小羊」の地上での奉仕を裏付けるものです。再現され繰り返された型やモデルに対する神の関心を知っているので、アブラハムが、19世紀後にイエスが十字架につけられようとしていたまさにその場所、ゴルゴダの丘のふもとで自分の犠牲を捧げた可能性が高く、ほぼ確実である。、エルサレムの外、都は一時的にだけ神聖です。

創世記

22:15:

「主の御使いは二度目に天からアブラハムを呼びました。」

この恐ろしい試練は、アブラハムが経験しなければならない最後の試練となるでしょう。神は彼の中に従順な信仰の模範的な族長を見出し、それを彼に知らせました。

創世記

22:16:

「そして言った、「私は自分自身にかけて、主の御言葉を誓います！」あなたはこれを行い、あなたの息子、あなたの一人息子を差し控えなかったのですから。」

神がこれらの言葉「あなたの独り子」を強調するのは、ヨハネ 3:16によると、この言葉はイエス・キリストにおける将来の犠牲を預言しているからです。「神は世をととも愛し、ご自分の独り子をお与えになりました。滅びますが、永遠の命を持っています。」

創世記

22:17:

「わたしはあなたを祝福し、空の星や海岸の砂のようにあなたの子孫を増やします。そうすればあなたの子孫は彼らの敵の門を所有するでしょう。」

»

注意

！アブラハムの祝福は相続されるものではなく、彼だけのものであり、彼の子孫の男性または女性はそれぞれ神の祝福に値するものでなければなりません。なぜなら、神は彼に多くの子孫を約束しているが、この子孫の中で、同じ忠実さと同じ従順さをもって行動する選ばれた者だけが神の祝福を受けるからである。そうすれば、自分たちはアブラハムの息子であり、したがって彼の祝福を受け継ぐに値する息子たちであると誇らしげに主張したユダヤ人たちの霊的無知を測ることができます。イエスは彼らに石を示し、神はこれらの石からアブラハムの子孫を与えることができると言って彼らを反駁しました。そして彼は彼らの父親はアブラハムではなく悪魔であると信じました。

カナンを征服する際、ヨシュアは敵の門を手に入れることとなりますが、その最初に陥落したのはエリコの街でした。最後に、神とともに、選ばれた聖徒たちは、イエス・キリストの黙示録で明らかにされたさまざまな教えに従って、最後の敵「大いなるバビロン」への扉を手に入れます。

創世記

22:18:

「あなたがわたしの声に従ったので、地上のすべての国々はあなたの子孫に祝福されるでしょう。」

それはまさに「地上のすべての国民」です。なぜなら、キリストによる救いの申し出は、すべての人間、すべての起源、すべての民族に提供されているからです。しかし、これらの国々は、エジプトの地から出てきたヘブライ人に啓示された神の神託を発見できたという事実もアブラハムのおかげです。キリストにおける救いは、ヘブライ人に代表されるアブラハムとその子孫、そしてナザレのイエス、イエス・キリストの二重の祝福によって得られます。

この聖句の中で、祝福とその原因、つまり神に認められた従順を明確に記すことが望ましい。

創世記

22:19:

「アブラハムが家臣たちのところに戻ると、彼らは立ち上がって一緒にベエル・シェバへ行った。アブラハムはベエル・シェバに住んでいたからである。」

創世記

22:20:

「これらの事の後、アブラハムにこう報告された。『見よ、ミルカもあなたの子ナホルに息子を産んだ。』」

は、忠実で従順なイサクのために神が選んだ理想の妻となる「リベカ」とのつながりを整えることを目的としています。彼女はアブラハムの兄弟ナホルの子孫であるアブラハムの近親者から引き取られます。

創世記 22:21: 「長子ウズ、兄弟アラムの父ズズ、ケムエル」

創世記 22:22: 「ケセド、ハズ、ピルダシュ、ジドラフ、ベトエル。

»

創世記

22:23:

「ベトエルはリベカを生みました。これらは、ミルカがアブラハムの兄弟であるナホルに産んだ8人の息子です。」

創世記

22:24:

「レウマという名の彼の側室もテバク、ガハム、タハシュ、マアカを産んだ。」。

アブラハムとの約束の成就

創世記

23

章には、ヘブロンのマクペラの洞窟での妻サラの死と埋葬が記されています。アブラハムは、約400年後に神がその土地全体を子孫に与えるのを待ちながら、カナンの地に埋葬地を手に入れました。

そして、創世記

24

章でも、アブラハムは依然として神の役割を保持しています。地元の異教の人々から離れたままにするために、彼は息子イサクの妻を見つけるために自分のしもべを遠い場所、彼の近親者に送り、彼らは神に彼らを選んでもらうでしょう。同様に、神は神の子キリストの花嫁となる選民を選びます。この選択において、主導権と判断は神に属するため、人間は何の関係もありません。神の選択は完璧で、非の打ちどころがなく、効果的です。選ばれた妻リベカのように、愛があり、知的で外見が美しく、そして何よりも霊的で忠実です。妻をめとろうとするすべての霊的な男性が探すべき真珠です。

ヤコブとエサウ

その後、創世記

25

章によれば、リベカは元々はアブラムの妻サライと同様に不妊でした。この共通の不妊は、二人の女性がキリストに祝福された子孫を残すという事実によるものであり、キリストはマリアと呼ばれる若い処女少女の胎内で神によって形成されることになる。このように、神の救いの事業の系譜は神の奇跡的な行為によって特徴付けられます。この自然不妊に苦しんでいるリベカは主に訴え、主から胎内で戦う二人の双子を授かります。心配した彼女は、このことについて神に尋ねました。 : あなたの胎内には 2 つの国家があり、2

つの民族があなたの胎内から分離されます。これらの人々のどちらかが他の人々よりも強くなり、大きい人は小さい人の影響を受けます。 »
彼女は二人の双子を出産します。毛深いため全身が「赤」だったため、子孫に「エドム」という名前が与えられ、長男は「毛深い」を意味する「エサウ」と名付けられました。最年少は「ジェイコブ」と呼ばれます。これ

は「詐欺師」を意味する名前です。すでに二人の名前は彼らの運命を予言している。

「ヴェル」さんは、「ルー」または赤レンズ豆のジューシーな料理と引き換えに、自分の長子の権利を最年少に売るつもりだ。彼はその公正価値を過小評価しているため、この生得権を売却します。それとは全く反対に、霊的な「欺瞞者」は、神の祝福がそれに付随しているので、名誉であるだけではないこの称号を切望します。

「欺瞞者」とは、何としてでも天の御国を強制的に占領させようとする暴力的な人々の一種であり、イエスはこの主題について彼を念頭に置いて語られました。そして、この沸騰する熱意を見て、神の心は大いに喜びます。また、「毛深い」にとってはあまりにも残念ですが、「欺瞞者」にとってはなおさら良いことです。神の決定によって「イスラエル」になるのは彼だからです。誤解しないでください、ヤコブは普通の詐欺師ではなく、驚くべき男です。なぜなら、神の祝福を得ようとする彼の決意を示す聖書の例は他になく、彼が騙すのはこの目標を達成するためだけだからです。」ですから、私たち全員が彼に倣えば、忠実な天も喜ぶでしょう。エサウとしては、アダムと同じ語源と意味を持つ「赤」を意味する名前「エドム」の民を子孫として持つことになり、神の預言通り、この民はイスラエルの敵となるでしょう。

私は、「赤」という色が神によって明らかにされた救いのプロジェクトの預言的なイメージにおいてのみ罪を示しており、この基準は「エサウ」などのその作品の俳優にのみ適用されることを明記します。中世の暗い時代、悪者とみなされた赤毛の子供たちは殺されました。これが、赤い色が普通の人をブルネットやブロンドよりも罪深くするわけではない理由だと私が指摘するのは、罪人は信仰の悪い行いによって識別されるからである。したがって、イザヤ書 1 章 18 節によれば、人間の血の色である「赤」が罪の象徴であるのは、象徴的な価値においてのみです。ヤハウエは言います。あなたの罪が緋のようであれば、それは雪のように白くなるでしょう。紫のような赤であれば、羊毛のようになります。»

同様に、イエスは黙示録、黙示録の中で、赤色を、無意識であろうがなかろうが、神によって創造された人生の最初の罪人である悪魔、サタンに仕える人間の道具と結びつけています。例: 黙示録 6:4 の「赤い馬」、黙示録 12:3 の「赤または燃えるような赤い龍」、黙示録 17:3 の「緋色の獣」。

この長子の権利を手に入れたヤコブは、アブラハムの後継者として、神の計画を預言する人生経験を生きることになります。

創世記 27:24
によれば、彼が兄エサウの怒りを恐れて家族を離れたのには正当な理由があり、それは、死にかけて父親の祝福を流用し、ある男に「騙されて」彼を殺す決意をしていたからである。妻レベッカの心からの策略。この誘拐

では、双子の2つの名前がその重要性を明らかにします。なぜなら、「テンピュール」は毛むくじゃらの肌を使って盲目になったアイザックを騙し、生まれつき「毛深い」兄であることを偽っていたからです。霊的な人々は互いに支え合い、リベカはエサウよりもヤコブに似ていました。この行動において、神は、自分に感謝した獲物をもたらしてくれた狩人エサウを選んだイサクの人間的で肉的な選択に矛盾します。そして神は、長子の権利を最もそれに値する者、すなわち欺瞞者ヤコブに与えます。

アラム人の叔父でリベカの弟であるラバンのもとに働きに来たヤコブは、ラバンの娘の中で末っ子だが最も美しいラケルと恋に落ちる。彼が知らないのは、彼の実生活において、神は彼に、彼の救いの計画を預言しなければならぬ預言者の役割を演じさせているということです。また、愛するラケルを手に入れるために「7年」の努力をした後、ラバンは長女「レア」を彼に押しつけ、妻として与えます。レイチェルを手に入れて結婚するには、叔父のために「あと7年」働かなければなりません。この経験の中で、「ヤコブ」は神が救いの計画において何を経験しなければならぬかを預言します。なぜなら、彼もまた、自分の心の望みに沿わない最初の同盟を結ぶことになるからである。なぜなら、肉的で国家的なイスラエルの経験は、その善良さにふさわしい成功と栄光によって特徴付けられることはないからである。

「裁判官」と「王」の継承は、いくつかのまれな例外にもかかわらず、常に悪い結果に終わります。そして、自分の愛に値する望ましい妻は、イエス・キリストの宣教において愛を示し、救いの計画を明らかにした後でのみ、二度目の同盟によって得られるでしょう。彼の教え、彼の死、そして復活。人間と神の好みは完全に逆転していることに注意してください。ヤコブの愛する人は不妊のラケルですが、神の愛する人は多産のレアです。まずヤコブにレアを妻として与えることによって、神は預言者に、最初の同盟で二人が経験するであろう失望を経験させます。この経験において、神は彼の最初の同盟がひどい失敗に終わることを告げます。そして、彼の子孫によるメシアイエスの拒絶は、この預言的なメッセージを裏付けました。花婿によって選ばれた最愛の人ではなかったレアは、異教の出身で、唯一の創造主である神の存在を知らずに長い間生きてきた、新しい同盟の選ばれた者を預言するイメージです。しかし、レアの多産な性質は、神の栄光のために多くの実を結ぶ契約を預言しました。そして、イザヤ書 54:1 はこう言って確証しています。もう苦しみのないあなたよ、喜びと喜びを爆発させましょう！見捨てられた者の息子たちは、結婚した彼女の息子たちよりも多いと主は言われる。」ここで、見捨てられた者はレアを通して新しい契約を預言し、既婚者はラケルを通して古いヘブライ契約を預言します。

ヤコブがイスラエルになる

裕福で裕福なラバンのもとを去ったヤコブとその仲間たちは、兄エサウのもとに戻りますが、彼はその正当で復讐に満ちた怒りを恐れています。ある夜、神が彼の前に現れ、彼らは夜明けまで戦います。最後に神は彼の腰に傷を負い、彼は神と人間との戦いで勝利を収めたので、これからは「イスラエル」と呼ばれることになることを告げました。この経験において、神は信仰の戦いにおいてヤコブの闘う魂の姿を描きたいと思われました。神によってイスラエルと名付けられた彼は、必死に望んで求めていたもの、つまり神からの祝福を手に入れました。このようにして、イサクにおけるアブラハムの祝福は、イスラエルとなったヤコブに基づいて築かれた肉のイスラエル憲法を通じて形を成し、奴隷制エジプトからの脱出後、すぐに恐れられる国家となるのです。神の恵みによってエサウは準備され、二人の兄弟は平安と喜びを感じます。

ヤコブは 2 人の妻と 2 人の従者ととともに、12 人の男の子と 1 人の女の子だけの父親になりました。最初はサライやリベカのように不妊でしたが、偶像崇拝のラケルは、神から二人の子供、長男ヨセフと末っ子ベニヤミンを授かりました。彼女は第二子の出産中に亡くなった。このようにして彼女は、イエス・キリストの贖いの血に基づく新しい契約の設立によって終わる古い契約の終わりを預言します。しかし、第二の応用では、これらの死すべき状況は、彼がミカエル・イエス・キリストの輝かしい神聖な側面を取り戻したとき、彼の幸福な介入によって救われるであろう選ばれた人々の最終的な運命を預言しています。最後に選ばれた人々の状況のこの逆転は、瀕死の母親によって「ベン・オニ」、あるいは「私の悲しみの息子」と呼ばれた子供の名前が父親のヤコブによって変更されることによって預言されています。ベンジャミン」

「右の息子」（右側）または祝福された息子のいずれか。その確認として、
マタイ 25:33

でイエス・キリストは「羊を右に、ヤギを左」に置きます。この「ベンジャミン」という名前は、神が自らの預言的な計画のためだけに、つまり私たちのために選んだものであり、ヤコブにとってはほとんど意味がなかったからです。そして神にとって、偶像崇拝のレイチェルは「正しい」という修飾語を付ける資格がありませんでした。世の終わりに関するこれらの事柄は、黙示録 7:8 の説明で展開されています。

立派なジョセフ

イスラエルの歴史において、神がヨセフに与えた役割は、ヨセフを兄弟たちを支配するように導き、兄弟たちは彼の霊的な支配に激怒して彼をアラブ商人に売り飛ばします。エジプトでは、彼の正直さと忠誠心が高く評価されましたが、主人の妻が彼を虐待しようとしたため、抵抗した結果、ジョセフは刑務所に入れられました。そこでは、夢や出来事を説明することで、彼をファラオ以下の最高位である第一宰相に導きます。この高

さは、彼の後のダニエルに関する彼の預言的な賜物に基づいています。この賜物は彼にエジプトを託したファラオに高く評価されました。飢餓が起これると、ヤコブの兄弟たちはエジプトに行き、そこでヨセフは邪悪な兄弟たちと和解します。ヤコブとベニヤミンも彼らに加わり、こうしてヘブライ人はエジプトのゴシェン地方に定住します。

出エジプトと忠実なモーセ

奴隷となったヘブライ人は、神が用意した解放者であるファラオの娘によって育てられ養子として育てられた、ナイル川の水から救われたという意味の名前を持つヘブライ人の子モーセをモーセの中に見つけるでしょう。

彼らの奴隷状態がますます厳しくなる中、ヘブライ人を守るためにモーセはエジプト人を殺し、彼はエジプトから逃亡します。彼の旅は、アブラハムの子孫が住んでおり、サラの死後に二番目の妻であるケトラが結婚したサウジアラビアのミディアンへ向かいます。義父イテロの長女チツポラと結婚して

40

年後、モーセはホレブ山に向かって羊の群れを先導していたときに神と出会いました。創造者は、燃えても消費されない白熱の茂みの形で彼の目に見えます。彼は彼にイスラエルのための計画を明らかにし、彼の民の脱出を導くために彼をエジプトに送ります。

ファラオに貴重な奴隷たちを自由に解放させるには、10の災いが必要となる。しかし、預言的に大きな重要性を持つのは10番目です。神は人間も動物も含めてエジプトの初子をすべて殺したからだ。そして同じ日に、ヘブライ人は歴史上最初の過越の祭りを祝いました。過越祭は、メシアであるイエス、「初子」、そしてエジプトからの出エジプトの日に屠られた「小羊」のように犠牲としてささげられた純粋で汚れのない「神の小羊」の死を預言しました。神がアブラハムに求めたイサクの犠牲に続く、エジプト出エジプトの過越祭は、メシア（油そそがれた）イエス、またはギリシャ語でイエス・キリストの死を告げる二度目の預言的告知です。エジプトからの出エジプトは、イブとアダムの罪から約2500年後の紀元前15^{世紀}頃、年の最初の月の14^日に達成されました。これらの数字は、カナンの地の住民であるアモリ人に神が与えた「四世代」のうちの「400年」の時間を裏付けています。

ファラオの誇りと反抗的な精神は、「紅海」の海域で軍隊とともに消え去ってしまうが、それが意味をなすのは、ヘブライ人がサウジアラビアの地に入るために開いた後、紅海が彼らを閉ざすからである。エジプト半島の南端。神はミディアンを避けて、砂漠を通過してシナイ山に向かって民を導き、そこで「十戒」という律法を彼らに提示します。唯一の真の神の前で、イスラエルは今や試されなければならない学識ある国民です。こ

の目的のために、モーセはシナイの山で彼に呼び出され、神は彼をそこに40昼夜保ちます。彼は神の指で刻まれた律法の2つの表を彼に渡しました。ヘブライ人の陣営では、モーセの長期不在が反逆的な精神を有利にし、アロンに圧力をかけ、最終的には彼に「金の子牛」の鑄造と成形を受け入れさせます。この経験だけでも、あらゆる時代の反逆的な人々の神に対する行動を要約できます。彼らはその権威に服従することを拒否するため、その存在を疑うことを好むようになります。そして神の度重なる罰は何も変わりません。この40昼夜にわたる試練の後、カナン巨人への恐怖により、人々は40年間砂漠をさまようことになるが、この試練の世代だけがヨシュアとカレブだけが神が提供する約束の地に入ることができるだろう。アダム罪から2540年頃。

創世記の物語の主人公は、創造主である神が組織したプロダクションの俳優たちです。それらのそれぞれは、預言的な目的であろうとなかろうと、教訓を伝えており、この見世物の考えは、1コリント4章9節で次のように述べた使徒パウロによって確認されました。私たちは世にとって、天使にとって、そして人間にとって見世物であったため、ある意味死刑を宣告された最後の人類である使徒たちです。»

それ以来、主の使者エレン・G・ホワイトは「時代の悲劇」というタイトルの有名な本を書きました。したがって、「スペクタクル」のアイデアは確認されていますが、聖典の「星、星」の後には、私たち一人ひとりが自分の役割を果たす番です。彼らは彼らの間違いを再現することなく、彼らの良い行いを模倣する義務を負っています。私たちにとって、ダニエル（私の裁判官は神です）と同様に、神は「私たちの裁判官」であり、確かに慈悲深いですが、誰にも例外を設けない「裁判官」であり続けます。

ユダヤ民族イスラエルの経験は悲惨なものですが、それは広範な背教に終わる私たちの時代のキリスト教信仰の経験と同様です。私たちはこの類似性に驚くべきではありません。なぜなら、古い契約のイスラエルは地球全体に住む人類の小宇宙、サンプルにすぎないからです。だからこそ、そこでは真の信仰が、救い主であり「忠実な証人」イエス・キリストの上に築かれた新しい契約と同じくらい稀であったのです。

聖書全般から

聖書全体は、神が人間の僕たちに口述し、靈感を与えたものであり、預言的な教訓を伝えています。創世記から黙示録まで。神に選ばれた俳優たちが、ありのままの姿を私たちに見せてくれます。しかし、この永遠の光景の中で預言的なメッセージを構築するために、創造主である神が出来事の主催者となります。エジプト脱出後、神はイスラエルに、2840年頃に終わる「裁き人」の時代までの300年間、天の律法の自由な側面をイスラエルに与えます。そして、この自由、つまり罪への回帰において、神は

ご自分の民を「7」罰することを義務付けられます。彼は最終的に彼らを世襲の敵であるペリシテ人に引き渡します。そして彼は「7回」「解放者」を立ち上げます。聖書には、当時「誰もが自分の望むことをした」と書かれています。そして、この完全な自由の時間は、各人が結んだ果実が明らかになるために必要でした。それは私たちの「終末」においても同じです。ヘブライ人が絶えず罪に戻ったことを特徴とするこの自由の 300 年間を、神は私たちに、ご自分の選民の模範として示された義人エノクの生涯の 300 年と比較するよう勧め、次のように言われます。

「エノクは三百年間神とともに歩きましたが、神が彼を捕らえたため、彼はもういなくなりました。」彼とともに、モーセとエリヤ、そしてイエスの死に復活した聖徒たちと同じように、イエス・キリストの使徒たちを含む他のすべての選ばれた人々よりも先に、彼をその永遠の中に最初に入らせることによって。彼らは皆、終わりの日に変容するか復活するでしょう。

「裁判官」の時代が終わった後、王の時代が到来し、そこで再び神は最初の二人の俳優に、悪が最終的な善に向かって進行するというメッセージを裏付ける預言的な役割を与えます。つまり、夜または暗闇からです。光に向かって。このようにして、この二人の男、サウルとダビデは、地上の選民のために用意された救いの計画の全体的なプロジェクト、すなわち二段階、あるいは二回連続する聖なる同盟を預言したのです。それを持って行きなさい、ダビデはサウル王の死によってのみ王になります。それは、古い永遠の契約の死によってキリストが新しい契約、彼の統治、そして彼の永遠の支配を確立することを可能にするのと同じです。

他の地上の国々と同じように」神に王を求め、彼らは「異教的」だからです。つまり、これらの王のモデルは悪魔のような価値観のものであり、神的なものではないということです。神にとって王は優しく、謙虚な心で、自己否定と慈悲に満ち、自らをすべての奉仕者としているのと同じくらい、悪魔は厳しく、高慢で、利己的で軽蔑的であり、そして彼は要求しますすべての人に提供されるように。民からの拒絶によって不当に傷ついた彼を、神は彼の願いを聞き入れ、彼の不幸のために、悪魔と彼のすべての不正の基準に従って彼に王を与えました。それ以来、彼の民であるイスラエルのために、しかし彼だけが、王族はその神聖な正当性を獲得しました。

口頭または書面でのスピーチは、2

人の個人間の情報交換の手段です。聖書は、その教訓を地上の被造物に伝えるために、神がご自分の僕たちに口述または靈感を与えた証を集めたという意味で、神の言葉です。証言は時間をかけて彼によって分類され、選択され、グループ化されました。地上で確立された正義が不完全であることに気づいても、私たちは驚かないでください。神から切り離された人間は、法律の条文に基づいてしか正義を確立できないからです。さて、神はイエスを通して、この手紙で「文字は人を殺すが、霊は命を与える」と告

げておられます。したがって、聖書の聖典は、黙示録 11 章 3 節に示されているように「証人」になることしかできず、決して「裁判官」になることはできません。神は、律法の文言では正しい裁きを下すことができないことを認識することによって、ご自身の人間の神聖な性質のみに基づく真理を明らかにされます。彼だけが正義の判断を下すことができる。なぜなら、彼の被造物の心の秘密の思考を分析する彼の能力により、彼は彼が裁く人々の動機、他の被造物によって隠され無視されているものを知ることができるからである。したがって、聖書は裁きに用いられる証言の根拠を提供するだけです。天の裁きの「千年」の間に、選ばれた聖徒たちは裁かれる魂の動機にアクセスすることになる。イエス・キリストがあれば、最終的な判決によって第二の死で受ける苦しみの長さが決まるため、彼らは必要とされる完璧な裁きを下すことができるでしょう。犯人の本当の動機を知ること、地上で最初の殺人者であるカインに対する神の慈悲をより深く理解できるようになります。聖書に書かれた唯一の証言によると、カインは、アベルの捧げ物を祝福し、カインの捧げ物を軽蔑するという神の選択によって嫉妬に駆られ、後者はこの霊的な違いの理由を知らず、依然として無視されていたという。物事はこのようにあり、人生は無数のパラメーターと条件で構成されており、事実を完全に知って特定し判断できるのは神だけです。そうは言っても、聖書は依然として人間のためのものであり、天国で選ばれた聖徒たちに秘密の思いが明らかにされるのを待ちながら、人間の行動を裁く法の根拠を文字で示す唯一の本である。しかし、手紙の役割はその行為を非難したり裁いたりすることです。イエスが黙示録の中で人々に「働き」の重要性を思い出させ、信仰についてはめったに語らないのはこのためです。ヤコブ 2 章 17 節で使徒ヤコブは、「行いがなければ信仰は死んだものである」と回想していますが、これもこの意見を裏付けており、イエスは信仰によって生み出される「行い」の善し悪しについてのみ語っています。そして、信仰によって生み出されるこれらの作品は、もっぱら聖書が神の法則に基づいて教えているものです。カトリック教会によって評価される善行は、人間主義的な性格とインスピレーションによる作品であるため、考慮されません。

終わりの時代には、聖書は完全に軽蔑され、人間社会はグローバル化した神秘的で嘘に満ちた側面を示します。そのとき、聖書の特徴づける「真理」という言葉、生ける神の言葉、そしてより広範にはその地球規模の普遍的なプロジェクトがその重要性を完全に帯びます。なぜなら、この独特の「真実」に対する軽蔑が、人間関係、世俗、宗教、政治、経済のあらゆる分野における嘘の上に人類を構築するよう導くからです。

この記事は、2021年8月14日の安息日、明日8月15日に大規模な集会で書かれており、偽りの宗教に騙された被害者たちは、彼が「蛇」を「蛇」として使って以来、彼のキャリアの中で最も成功した悪魔的神秘主義に敬意を表することになるだろう。

「エデン」の霊媒：「聖母マリア」をイメージした彼女の姿。本物の人は、イエスの後に息子や娘を産んだので、もはや処女ではありませんでした。イエスの兄弟姉妹。しかし、嘘は頑固で、聖書の最良の議論にも抵抗します。何は関係なく、この8月15日以降、この暴挙のために残されるのはせいぜい8回の祭典だけであり、神を苛立たせ、罪を犯した人々の頭に降りかかる神の正当な怒りを呼び起こすことになるだろう。この出現では、「処女」の幻視を証明するために子供たちが選ばれたことに注意してください。彼らは人々が言ったりふりをしたりするほど無実なののでしょうか？生まれながらにして罪人である彼らは、無罪であると不当に認定されていますが、それゆえに私たちは彼らを共犯者として告発することはできません。これらの子供たちが受けたビジョンは非常に現実的でしたが、悪魔は非常に現実的な反逆の精神でもあり、イエス・キリストは悪魔についてご自分の僕たちに警告するために多くの言葉を悪魔に捧げられました。歴史は、誘惑され騙された犠牲者を「第二の死」に導くその欺瞞的な誘惑の力を証明しています。教皇およびローマ・カトリック教会全体での悪魔崇拝は、黙示録 13 章 4 節の次の聖句で神によって非難されています。彼らはその獣を崇拝して言った、「誰がその獣に似ていて、誰が彼と戦えるだろうか？」。実際には、イエス・キリストの真に選ばれた聖徒たちを束縛し迫害する「獣」へのこの「崇拝」が終わって初めて、状況が課した寛容の時期に、この崇拝が延長され始めるのである。悪魔のような「処女」の幻影という魅惑的な手段によって。「蛇」が夫を誘惑した「女」を誘惑した後、「蛇」の代わりに「女」が登場する。原則は同じであり、効果も同じです。

最後の選択の時間

この神の啓示の研究は、人格のあらゆる側面において神がどのような方であるかを私たちに明らかにした創世記の分析で終わります。私たちは、アブラムが百歳近くになったときに並外れた信仰の試練にさらすことによって、彼が被造物たちに従順を求める決意をどのように果たすかを見てきました。したがって、この神聖な要求はもはや証明する必要はありません。

1843 年の春以来神によって提案され、より正確には 1844 年 10 月 22

日以来要求された最後の選択の際、安息日の遵守は、神に選ばれた真の聖徒たちが神に与えた愛の証拠として神によって要求されました。このように、普遍的な霊的状况は、宗教的、キリスト教的組織のすべてのメンバーにのみ宛てられる単一の質問の形で提示されます。

あなたを殺すか永遠に生きさせるかの質問

皇帝、王、教皇には、神が話したり書いたりした言葉を、あるいはモーセのように神の口述によって変更する権限と権限が与えられているのでしょうか？

この質問さえもすべてを予見していたイエスは、マタイ 5:17-18 でこう言われて、事前に答えを与えられました。わたしは廃止するためではなく、成就するために来たのです。本当にあなたに言いますが、天地が滅びるまで、すべてが達成されるまでは、一銭も一銭も律法から外れてはならないのです。 » 同じイエスは、ヨハネ 12:47 から 49 で、ご自分の話した言葉が私たちを裁くだろうとも告げられました。なぜなら、私は世界を裁くためではなく、世界を救うために来たからです。私を拒否し、私の言葉を受け入れない人には、その人が裁きます。わたしが言った言葉が終わりの日に彼を裁くだろう。私は自分自身について話していないからです。しかし、私を遣わした父ご自身が、私が言い、宣言しなければならぬことを私に定めてくださいました。 »

これが神の律法の概念です。しかしダニエル 7:25 は、ローマ・カトリック教皇庁について、「彼はいと高き者に敵対する言葉を語り、いと高き者の聖徒たちを抑圧するであろう」と述べ、それを「**変える**」意図がキリスト教時代に現れることであることを明らかにした。

ハイ、そして彼は時代と法律を変えることを望むでしょう。そして聖徒たちは、何度も、そして半分の間、彼の手に渡されるであろう。 » この暴挙はやがて止まり、彼は次の26節に従って正当に罰する方法を知るのでしょう。 »

これらの「時」、つまり預言的な年は、彼の迫害統治が538年から1798年までの1260年間達成されたことを発表しています。

この「**判断**」はいくつかの段階で行われます。最初の段階は準備段階です。それは、1843年の春以来、神によって確立された「アドベンチスト」信仰の分離と聖化の働きです。アドベンチストは、カトリックおよびプロテスタントの宗教から**分離されています。黙示録では、この段階は**黙示録 3:1-7-14 の「サルディス、フィラデルフィア、ラオデキア」の時代に関係していません。

第 2 段階は強制力があります。「私たちは彼の支配を奪います」。それは、2030年の春に期待されるイエス・キリストの輝かしい再臨です。選出されたアドベンチストは、地上で死につつあるふさわしくないカトリック、プロテスタント、アドベンチストの反逆者たちから切り離されて、永遠の時を過ごすこととなります。この行動は黙示録 3:14 の「ラオデキア」時代の終わりに達成されます。

第三段階は、神の日の栄えの王国に入った選ばれた人々によって実行される、墮落した死者の裁きの段階です。被害者たちは裁判官となり、それぞれの反逆者の命が別々に裁かれ、罪に応じた最終判決が言い渡される。これらの判決は、彼らの「第二の死」という行為が引き起こす「苦痛」の時間の長さを決定します。黙示録では、このテーマは Rev.4 の主題です。 11:18と20:4。これはダニエル書 7:9-10 以来です。

第四に、7千年紀の終わり、神とキリストに選ばれた者のための大安息日には、キリストとその選ばれし者によって宣告される判決の執行段階が到来する。彼らが復活する罪の地で、非難された反逆者たちは「永遠に」滅ぼされる。二度目の死。黙示録では、この執行判決または「最後の判決」が黙示録 20:11-15 のテーマとなっています。

最後の選択の時点で、相容れない 2 つの宗教的概念は、互いに極度に対立しているため、決定的に分離されます。キリストに選ばれた人々は、キリストが彼らに話しかけ、呼びかけるときに、キリストの声を聞き、その要求に適応します。もう一つの立場は、あたかも真実が知性や推論、証言ではなく時間の問題であるかのように、何世紀にもわたる宗教的伝統に従うキリスト教徒です。これらの人々は、預言者エレミヤがエレ 31:31 から 34 で表現した「新しい契約」が何であるかを理解していませんでした。新しい契約は、わたしが彼らの手を引いてエジプトの地から連れ出した日に彼らの先祖と結んだ契約、わたしが彼らの主人であったにもかかわらず彼らが破った契約とは異なる、と主は言われる。しかし、これこそが、その日の後にわたしがイスラエルの家と結ぶ契約である、と主は言われる、「わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にそれを書き記す。そして私は彼らの神となり、彼らは私の民となるでしょう。この人はもはや隣人にも兄弟にも、「YHWHを知れ！」と教えることはないだろう。なぜなら、最も小さい者から最も偉大な者に至るまで、誰もがわたしを知るからである、と主は言われる。わたしは彼らの咎を許し、彼らの罪をもう思い出さないからである。」

神はどのようにして「心に書き記す」ことができるのでしょうか？人間の聖なる律法への愛、古い契約の規範では獲得できなかったものでしょうか？この質問に対する答え、そして二つの同盟の唯一の違いは、受肉して現された身代わりのイエス・キリストの贖いの死によって達成される神の愛の実証という側面にあります。しかし、イエスの死は従順に終止符を打つために来たのではなく、逆に、これほど強く愛することができる神に対してさらに従順になる理由を選ばれた人々に与えました。そして、彼が人の心を掴んだとき、神の求めた目標は達成されます。彼は永遠を分かち合うのにふさわしい、ふさわしい者となるのです。

分離の主題です。これは、選ばれる者と呼ばれる者の違いを生み出す重要なポイントです。人間は本来、自分の習慣や物事概念を乱される

ことを好みません。しかし、この混乱は、確立された嘘に慣れているため必要なものであり、その嘘に選ばれた者になるためには、人間は根こそぎにされ、神が示す真実に適応するために方向転換しなければなりません。そのときこそ、**神が認めない人々からの分離が必要となります**。選ばれた者は、自分の考え、習慣、そして永遠の命を運命づけられることのない存在との肉的なつながりに具体的に異議を唱える能力を示さなければなりません。

選挙で選ばれた役人にとって、宗教の優先順位は垂直的なものである。目標は、たとえそれが人間関係を損なうことであっても、創造主である神との強固な絆を築くことです。墮落した人々にとって、宗教は水平的なものです。彼らは、たとえそれが神に不利益をもたらすとしても、他の人間と確立されたつながりを優先します。

セブンスデー・アドベンチズム: 別離、名前、歴史

12

部族」のイスラエルを形成します。彼らの選択は、ダニエル書第 8 章 14 節で

1843

年の日付を告げる預言の言葉に示された関心に基づいて、一連の信仰の試みを通じて行われました。それは、カトリック信仰によって代表されるまで、キリスト教の神による再開を示すものでした。ダニエル書第 8 章 14 節の聖句は、キリストの栄光の再臨、彼の「待ち」の原因となったキリストの降臨を告げるものとして解釈され、ラテン語では「アドベントゥス」となったのです。

1843年から1844年にかけてこの体験とその追随者たちに与えられたアドベンチストの名前。明らかに、このメッセージは安息日について述べたものではなく、外見上のみ述べているようです。なぜなら、キリストの再臨は7千年紀、つまり偉大な安息日への入り口を示すからです。毎週、7日目の安息日、つまりユダヤ人の土曜日までに預言されました。初期のアドベンチスト派はこの関連性を知らず、この試練の時が来るまで神が安息日を重視していることに気づきませんでした。そして、これを理解したとき、開拓者たちは、設立された教会の名前に記憶されている「7日目の」安息日の真理をしっかりと教えました。しかし、時が経つにつれて、その働きの継承者たちは、ダニエルの預言が示した1843年の日付に安息日を結びつけるのではなく、安息日の有効性をイエス・キリストの再臨の時期に結び付けることで、神が安息日に与える重要性をほぼ与えなくなりました。このような基本的な神の要求を先送りしたことは過失となり、その結果は1994年に、1843年以来すでに神によって非難されている反乱軍陣営に引き渡した組織とそのメンバーを神が拒否するという結果となった。この悲しい経験と最後の役人のこの失敗は、キリスト教信仰の制度は、偽キリスト教が人間の絆の分離を受け入れることができないことを証明しています。

神の真理、ひいては神ご自身への愛の欠如が問題となっている。これはキリスト教信仰の歴史における究極の教訓であり、全能の神の名において私があなたに説明し、教え、警告することができる。 、YaHWéH-Michael-Jesus Christ.

最後に、これと同じテーマで、私は辛い霊的別離という代償を払ったので、マタイ 10:37
この聖句を思い出します。また、その前にある聖句が、真のキリスト教信仰の分離の特徴を明確に要約しているからです。
、34節から38節まですべて述べています。

「私が地上に平和をもたらすために来たと考えないでください。私は平和をもたらすために来たのではなく、剣をもたらすために来たのです。なぜなら、私は男性とその父親、娘とその母親、そして嫁とその義母の間に区別を付けるために来たからです。そして人の敵は自分の家族の者たちになる。私よりも自分の父親や母親を愛する人は私にふさわしくないし、私よりも自分の息子や娘を愛する人は私にふさわしくない。自分の十字架を背負って私に従わない者は、私にふさわしくない。」 この 37節はアブラハムの祝福を正当化します。彼は肉の息子よりも神を愛していると証しました。そして、アドベンチスト派の兄弟に自分の義務を思い出させ、彼にこの聖句を引用することによって、私たちの道は分かれ、私は神から特別な祝福を受けました。その後、私はこの「兄弟」から狂信者と呼ばれ、この経験以来、彼は伝統的なアドベンチストの道を歩むようになりました。私にアドベンティズムと菜食主義の恩恵を紹介してくれた彼は、後にアルセイマー病で亡くなりましたが、私は今も健康で、生きていて、神への奉仕に積極的に取り組んでいます。77歳で、医者にも薬にも頼っていません。すべての栄光は創造主である神とその貴重なアドバイスに捧げられます。実は！

アドベンチズムの歴史を要約するには、次の事実を覚えておく必要があります。この「アドベンチスト」という名前の下に、神は、321年3月7日にコンスタンティヌス1世によって「征服されざる太陽の日」という異教の名前で定められた日曜日を**宗教的に**正当化したカトリック信仰の長い支配の後、最後の聖徒たちをまとめた。初期のアドベンチストは、継承されたキリスト教の日曜日を敬虔に尊重するプロテスタントまたはカトリック教徒でした。したがって、彼らは、1843年の春と1844年10月22日に連続して彼らに告げられたイエス・キリストの再臨を喜んだ行動によって神によって選ばれました。安息日の光が彼らに与えられたのは、この選択の後になって初めてでした。提示されました。また、ダニエルと黙示録の預言の彼らの解釈には大きな誤りが含まれており、私はこの著作でそれを訂正します。先駆者たちは安息日についての知識がなかったので、いわゆる「調査」判決の理論を構築しましたが、これに疑問を抱くことは決してできませんでした。安息日の光が彼らに与えられた後でさえ。知らな

い人のために言っておきますが、この理論によれば、1843年、その後1844年以來、イエスは天国で証しの書を調べて、救われるべき最後の選ばれた人を選んでいきます。しかし、日曜日の罪が明確に特定されたことにより、たとえ「**聖所を清める**」という下手に翻訳された形であっても、ダニエル書 8:14

のメッセージに正確な意味が与えられました。そして、この悪い翻訳は、解決のつかない論争を引き起こしました。なぜなら、この表現は、ヘブライイ 9:23

によると、主にイエス・キリストの贖いの死による成就に関係していたから**です**。このようにして**浄化されたかどうか、天上のもの自体がこれらよりも優れた犠牲によって浄化されたかどうか**。なぜなら、キリストは、**真の聖所を模倣して手で造られた聖所に入ったのではなく、天国そのものに入って、今、私たちのために神の御前に現われるからである**。」したがって、天国で清められるはずだったすべてのものはイエス・キリストの死によって清められました。したがって、捜査判決はもはや論理的な意味を持ちません。イエスの死と復活の後、いかなる罪も罪人も天を再び汚すために天に入ってくることはありません。なぜなら、黙示録 12:7 の 12節、特に 9

節によれば、イエスはサタンとその天使の追隨者を地上に追い出すことによって天の領域を清めたからです。

「そして、**全地球を惑わす悪魔やサタンと呼ばれる大いなる竜、古代の蛇が追放され、彼は地に追放され、彼の天使たちも彼とともに追放されました**。」」

公式のアドベンティズムの 2番目の誤りも、安息日の役割についての当初の無知から生じたもので、安息日が非常に重要になったのはずっと後になってからです。アドベンチストは、実際にはイエス・キリストの真の再臨の時にまだ生きている人々だけに関係する最後の、究極の信仰の試練の時に誤って注意を向けてきました。特に、彼らは日曜日がこの最後の試練の時にのみ「**獣の刻印**」になると誤って考えており、これは実際には神がその起源から呪われた日曜日の実践者たちとの友情を模索していることを説明しています。私が示す証拠は、黙示録 8 章、9 章、11 章の「7つのラッパ」の存在です。そのうちの最初の 6 つは、321年以降、キリスト教時代を通じて、人々に、罪に定められた日曜日の罪を**実践していることを警告**しています。神。このことはダニエル 8:12が次のように述べてすでに明らかにしています。「**軍隊は**罪のために永遠の犠牲**を払って引き渡された。角笛は**真実**を地面に投げ捨て、彼の事業は**成功**した。**」

この「**罪**」はすでに、日曜日の習慣は321年以来コンスタンティヌス1世から民事的に受け継がれ、538年以來ローマ法王によって宗教的に正当化されており、アポ13:15で引用されている「**獣の刻印**」であった。 14:9-11; 16:2。

1982年から1991年にかけて私が提案した預言の光の拒否を表明した後、1995年に公式のアドベンチストは、宣言され明らかにされた神の敵と同盟を結ぶという重大な誤りを犯しました。神がエジプトとの同盟に関して古代イスラエルに向けた数々の非難の例は、典型的な罪の象徴であったが、この行動では完全に無視されている。それがアドベンチストの罪をさらに大きくします。

実際、安息日の役割と安息日が創造主なる神の称号に与える重要性を認識したとき、アドベンチスト派の人々は自分たちの宗教上の敵を明確に特定し、彼らとのいかなる兄弟同盟も避けるべきでした。なぜなら、土曜日の安息日は黙示録 7 章 2 節の「生ける神の印」であり、創造主なる神の王の印であり、その敵対者である日曜日は、黙示録13 章 15 節の「獣の印」でしかあり得ないからです。

ここで私は、公式の制度的アドベンティズムの崩壊の原因は複数あることを思い出しますが、主かつ最も深刻な懸念は、ダニエル 8章14節の真の翻訳に当てられた光の拒否と、ダニエル 12章の真新しい説明に対して示された軽蔑に関係しています。その教訓は、7日目のアドベンチズムの神聖な正当性を強調することです。次に、1994年に発表されたイエス・キリストの再臨に希望を置けなかったという責任が生じます。この研究の先駆者たちが 1843 年と 1844 年に行ったように。

神の主な裁き

神による地と天の創造は完了し、6日目に神は人間を地上に据えましました。そして、人類の不従順な行動、ひいては罪のゆえに、神は七千年の歴史の中で人類を次々と数々の裁きにさらされるのである。それぞれの判断によって、具体的かつ目に見える形で変化が生じ、認識されます。人類が行き過ぎた行為には、主権ある判断によって承認された真理の道に人類を戻すことを目的とした神の介入が必要です。

古い契約の裁き。

第一の審判：呪われて「エデンの園」を追われたイブとアダムが犯した罪を神が裁く。

第

2

の審判:

神は反逆的な人類を地球規模の「洪水」によって滅ぼします。

第三の審判：神は人間が「バベルの塔」から昇格した後、言語の違いによって分けます。

第

4

の審判:

神はアブラムと同盟を結び、アブラムはアブラハムになります。このとき

、神は極度の罪が行われていた都市であるソドムとゴモラを破壊します。忌まわしく忌まわしい「知識」。

第 5 の判決:
神はイスラエルをエジプトの奴隷状態から救い出し、イスラエルは自由で独立した国家となり、神はそこに律法を提示します。

第 6 の審判: 300 年間、神はご自身の指示と 7 人の^{解放}裁判官の行動を通じて、罪のために敵に侵略されたイスラエルを救い出しました。

第 7 の判決:
民の要請とその呪いのために、神は地上の王とその長い王朝(ユダの王とイスラエルの王)に取って代わられます。

第 8 ^{判決}: イスラエルはバビロンに追放される。

第 9 ^{判決}: イスラエルは神の「メシア」イエスを拒否
古い契約の終わり。新しい契約は完全な教義的基盤の上に始まります。

第 10 の判決:
70 年にイスラエル国家はローマ人によって滅ぼされる。

新しい契約の裁き。

それらは黙示録の中で「7つのラッパ」として言及されています。

第 1 ^{判決}: 321 年以降、395 年から 538 年までの蛮族の侵入。

第 2 の判決: 538 年 ^{に教皇による支配的な宗教政權が樹立された。}

第三の審判: 宗教戦争:
彼らはカトリック教徒と神に不承認となったプロテスタントの改革者たち、ダニエル書 11:34 の「偽善者たち」に^{敵対}します。

第 4 の判決:
フランスの革命的無神論は君主制を打倒し、ローマ・カトリックの専制主義に終止符を打った。

第 5 ^{判決}: 1843~1844 年と 1994 年。

– 始まり: ダニエル 8:14 の布告が発効します – それは、1170 年以來、完璧な例であるペテロ・ヴァルド以來宗教改革によって始められた仕事の完了を要求します。プロテスタントの信仰は崩壊し、アドベンティズムが勝利を収めて生まれます。ローマの日曜日の習慣は非難され、土曜日の安息日の習慣は 1843 年以來、イエス・キリストにおいて神によって正当化され、要求されています。このようにして改革の取り組みは完了し、完了しました。

– 結末:
彼女はイエスによって「嘔吐」され、「ラオデキア」に宛てられたメッセージに従い、1994 年に施設内で死亡した。神の裁きは、神の家が預言的信仰の致命的な試練を受けることから始まりました。不承認となり、選出された元役人はカトリックとプロテスタントの反政府勢力の陣営に加わった。

第 6 の裁き: 「第 6 のラッパ」は、ダニエル 11:40 ~ 45 に記述されているように、今回は核による第三次世界大戦の形で達成されます。生存者は究極の普遍政府を組織し、最初の義務的な日の残りを回復します。布告。その結果、7日目の安息日である土曜日の休息は禁止され、当初は社会的制裁によって禁止され、その後、最終的には新たな法令によって死刑に処せられた。

第 7 の審判: 黙示録 16 章に記述されている最後の七つの災いの時よりも前の 2030 年春、キリストの栄光の再臨により人類の地上文明の存在に終止符が打られました。人類は絶滅する。サタンだけが荒廃した地球、黙示録 20 章の「深淵」に「千年間」囚われ続けることとなります。

第 8 回の裁き: イエス・キリストによって天に上げられた者たちは、邪悪な死者たちを裁き始めます。これは黙示録 11:18 に引用されている判決です。

第9の審判: 最後の審判。邪悪な死者は復活し、地球を覆い、罪による業の痕跡をすべて焼き尽くす「火の湖」のせいで、「第二の死」の基準に苦しむこととなります。

第10の審判: 汚れた地と天が新しくなり、栄光が与えられます。選ばれた人たちを神の新しい永遠の王国によろこせ!

AからZまで、AlephからTavまで、アルファからオメガまで神聖

聖書は、表面的な見た目を除けば、人間によって書かれた他の本と何の共通点もありません。なぜなら、実際には、私たちが目にしているのは、原文が私たちに伝えられたヘブライ語とギリシャ語の言語に特有の表記規則に従って読んだ表面だけだからです。しかし、モーセは聖書を書く際に、現在のヘブライ語とは異なるアルファベットを使用しましたが、バビロン捕囚中に問題なく置き換えられました。しかし、単語と単語の間を空けずに文字がくっついてしまったので、読みやすくはありませんでした。しかし、この欠点の背後には、その始まりを示すために選択した文字の選択に応じて異なる単語を形成できるという利点があります。これは可能であり、実証されており、聖書が本当に人間の想像力や達成の可能性をはるかに超えていることを証明しています。無限の創造主である神の思考と記憶だけがこのような作品を思いつくことができました。なぜなら、聖書を複数回読んだことを観察すると、そこに登場するそれぞれの言葉が、最後の黙示録または黙示録に至るまで、時間をかけて神によって選ばれ、さまざまな著書の著者たちに靈感を与えられたことが明らかになるからです。

1890年頃、ロシアの数学者イヴァン・パニンは、聖書本文の構築のさまざまな側面において数値が存在することを実証しました。ヘブライ語とギリシャ語には、アルファベットの文字が数字や数としても使用される

という共通点があるからです。イワン・パニンによるデモは、神の聖書を真剣に受け止めない人々の罪をかなり悪化させました。なぜなら、これらの発見が人々が神を愛することができるようにすることに何の影響も与えないとしても、それにもかかわらず、それらは神の存在を信じないことの正当性を奪うことになるからです。イヴァン・パニンは、「7」という数字が聖書の構築全体を通して、特に創世記 1:1 の最初の節にどのように遍在しているかを実証しました。私自身、七日目の安息日が黙示録7 章 2 節の「生ける神の印」であることを証明しましたが、この研究は、当時と我々の要求の厳しい科学者たちに、議論の余地のない科学的証明を提供したこの優秀な数学者によって発見された証拠を確認するものにすぎません。

。 。
イヴァン・パニン以来、現代のコンピューティングは、唯一の古代同盟の聖書を構成する 304,805 文字の文字を分析し、ソフトウェアは各文字を巨大なチェッカーボード上に配置することで無数の異なる読み方を提供し、その配列の可能性は、その配列の可能性が 1 本の水平線から始まります。最終的にこれら 304805 文字の 1 つの垂直線が得られるまで、304805 文字。そして、これら 2 つの極端な配列の間には、無数の中間の組み合わせが存在します。私たちは地上世界、その国際的な出来事、古代と現代の人々の名前に関するメッセージを発見します。唯一の必須条件は、形成される単語の各文字の間に同一のスペース (1 から n...) を保つことであるため、その可能性は計り知れません。水平および垂直の配置に加えて、上から下、下から上、右から左、左から右といった斜めの配置も多数あります。

したがって、海の画像を撮ると、聖書に関する私たちの知識がその表面のレベルにあることがわかります。隠されていたものは、選ばれた人々が永遠に入る間に明らかにされるだろう。そして神は今後もその計り知れない無限の力で愛する人たちを驚かせるでしょう。

これらの目もくらむような実証は、残念なことに人間の心を変えて、「心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして」神を愛するようにさせることはできません (申命記 6:5、マタイ 6:5)。22:37);彼のただの要求に従って。地上の経験がそれを証明しており、非難、叱責、刑罰が人を変えることはありません。だからこそ、神の救いの計画は自由生活の始まり以来、この聖句に基づいてきました。「完全な愛は恐れを追い出す」(1ヨハネ4:18))。選ばれた人の選択は、天の御父である神に対する完全な愛の実証に基づいて行われます。この「完全な愛」においては、もはや律法や戒めは必要なく、これを最初に理解したのは老エノクであり、神を不快にさせるようなことをしないように注意しながら「共に歩む」ことで神への愛を示しました。なぜなら、従うことは愛することであり、愛することは愛する人

に楽しみと喜びを与えることを目的として従うことから成るからです。イエスはその神聖な完璧さにおいて、最初の人間モデルであるアブラハム、モーセ、エリヤ、ダニエル、ヨブ、そして神だけが名前を知っている他の多くの人たちに倣って、この「真の」愛の教訓を確認するようになりました。

経年による変形

人類の倒錯した精神によって引き起こされた進化と変容を経ていない言語は地球上に一つもありません。そしてこの問題に関しては、ヘブライ語はこの人間の倒錯から逃れることができているので、私たちがオリジナルと考えるヘブライ語本文はすでに、部分的に歪められた状態のモーセの文書のオリジナルにすぎません。私はこの発見をイワン・パニンの業績と、彼が1890年に使用したヘブライ語本文の創世記1:1で、神という言葉にヘブライ語の「エロヒム」でデジタル化したという事実のおかげです。ヘブライ語で「エロヒム」は単数形で神を意味する「エロハ」の複数形です。

3

番目の形式は「E1」です。これは、神という言葉と名前を結び付けるために使用されます。サミュエル。ベテル。 etc...

真の神を表すこれらの用語は、真の神と人間の偽りの異教の神との違いを示すために、私たちの翻訳では大文字で表記されています。

聖書は、神が「唯一」であり、それが神を「エロハ」、唯一の真の「エロハ」にするという事実を正しく、そして執拗に強調しています。これが、創世記

1
章やその他の箇所、神が「エロヒム」という複数形の単語をご自身に帰することによって、私たちの地上系の創造以前から存在していた多数の生命の父であると正当に主張するメッセージを私たちに送っている理由です。または次元、そして地球上に現れるすべての生命の。すでに創造されたこれらの天上の命は、彼の最初の自由な被造物に現れた罪によってすでに分割されていました。創造主である神は、自分自身を「エロヒム」という言葉で表すことによって、生きているもの、そして自分から生まれたものすべてに対する権威を主張しています。この能力において、彼は後にイエス・キリストにあって選ばれた多数の人々の罪を負い、自らの贖いの死だけで多くの人々の命を救うことができるのです。したがって、「エロヒム」という複数形の言葉は、生きとし生けるものすべてを創造する力を持つ神を指します。この言葉はまた、救いのプロジェクトにおいて彼が果たすであろう複数の役割を預言しており、その中で彼はすでに主として継続的に「父、子、聖霊」として、洗礼後に選ばれた人々の生活を清め、聖化するために行動することになる。この複数形は、神が持つさまざまな名前にも関係しています。ミカエルは天使たちを指します。イエス・キリストは、ご自分の血によって買い取られた選ばれた人間のためのものです。

人間の倒錯による歪みの例として、ヘブライ語では「brq」という語根で表現され、使用される母音の選択によって最終的に「祝福」または「呪い」と翻訳される動詞「bless」を挙げます。このひねくれた歪曲はヨブに関するメッセージの意味を歪めており、翻訳者が提案しているようにヨブの妻は実際には「神を祝福して死ね」ではなく、「神を呪って死ね」と言っているのである。陰湿なひねくれた変化のもう一つの例は、フランス語で、本来確実で絶対的なことを意味する「確かに」という表現が、人間の思考の中でまったく逆の「おそらく」という意味を帯びるようになったことです。そして、この最後の例は、重要性が増し、深刻な結果をもたらすため、引用する価値があります。

「プチ・ラルース」辞書で、「日曜日」という言葉の定義に関する変更

1980

年のバージョンでは週の最初の日として導入され、翌年のバージョンでは

7
日目になりました。したがって、真理の神の子供たちは、人間によって確立された進化論的な慣習に警戒しなければなりません。なぜなら、人間の側では、彼らとは異なり、偉大な創造主である神は変わらないし、その価値観も、物事の秩序や物事の順序と同じように変わらないからです。彼が世界の創設から確立した時間。

人類の倒錯した行為は、聖書のヘブライ語本文にさえも傷をつけており、そこでは救いに何の影響も与えずに母音が不当に割り当てられていますが、その公式版を守るために、神は数値的な方法、つまり本物と偽物を識別する手段を用意されました。これにより、ギリシア語と同様にヘブライ語でも、その記号が紀元前
2^{世紀}以来変更されていない、本物の聖書を独自に特徴づける多数の数値の存在を確認し、注目することができます。

御霊は信仰による（自分の信仰による）義認についての真理を回復します。

私はちょうど聖書本文の歪曲について言及しました。原文の複数の翻訳者によるもの。終わりの時の人々を啓発するために、真実の御霊は彼らの真実を回復し、重大な歪みがまだ残っている文書に選ばれた人々の心に向けます。これが、2021年9月4日のこの安息日にまさに達成されたことであり、私はそれに「クリスタルの安息日」という名前を付けました。研究テーマの選択はルワンダ人の姉妹に任せました。オンラインで安息日の進捗状況を共有しています。彼女は「信仰による義認」を提案した。この研究は、この主題に対する私たちの理解を非常に明確にするいくつかの本当に重要な発見をもたらしました。

聖書では、ペテロ第一

1:7

で、聖霊は純化された金によって信仰を象徴しています。イエス・キリス

トが現れます。」この比較から、私たちはすでに、信仰、真の信仰が極めて稀なものであることを理解しています;私たちはどこにでも小石や石を見つけますが、金には当てはまりません。

次に、節から節へと、私たちはまず次のことを保持しました。ヘブライ 11:6

によれば、「信仰がなければ神を喜ばせることは不可能です。」なぜなら、神のもとに来る者は、神が存在し、神を求める者たちに報いてくださる方であることを信じなければならないからである。 »

二つの教えが信仰に結びついています。それは信仰の存在に対する信仰ですが、また信仰が「信仰を求める人々

」を誠実に祝福するという確信であり、これは欺瞞の許されない重要な点です。そして、信仰の目標は神に喜ばれることであるため、選ばれた者は、被造物に対する神の愛の名の下に神が提示するすべての儀式と戒めに従うことによって神の愛に応えるでしょう。互いに愛し合い、キリストにあって神を愛する者たちを磁石のように結びつけるこの愛の絆の果実は、神に喜ばれる真の愛を説明する第一コリント 13

章に引用されている有名な教えの中に示されています。これを読んだ後、私はハバクク書 2 章 4

節にある同じく有名なメッセージを思い出しました。「...義人は信仰によって生きる」。しかし、この節で、ルイ・セゴンが提案した翻訳は次のように述べています。しかし義人は信仰によって生きる。 »

長い間、この聖句は私に解決しようとしてこなかった問題を引き起こしました。誇りを持って「高ぶる」人が、どうして神に「正しい」と判断されるのでしょうか。箴言 3:34、ヤコブ 4:6、ペテロ第一 5:5によれば、「高ぶる者には抵抗するが、謙虚な者には恵みを与える」人でしょうか。解決策は、セゴンドで引用されている「腫れた」という言葉の代わりに「不信仰」という言葉をヘブライ語本文で見つけることによって現れました。そして驚いたことに、

「カトリック」ヴィグルー訳で、問題を完全に明確にする優れた非常に論理的な翻訳を見つけました。御霊からのメッセージ。実際、御霊はハバククにおいて、ソロモン王に絶対反対の対立パラメータを入れるという格言の形ですすでにインスピレーションを得たスタイルでメッセージを鼓舞しているからである。ここハバクク語では「不信仰」と「信仰」を意味します。そして、ヴィグルーと彼の翻訳のラテン語ウルガタ訳の基礎によれば、その聖句はこうなっています。しかし義人は信仰によって生きるであろう

。 »
聖句の両方の部分を同じ主題に帰することによって、ルイ・セゴンは聖霊のメッセージを歪曲し、読者は神から与えられた真のメッセージを理解することができなくなります。物は修復されたので、ハバククが 1843 年から 1844 年、1994 年の「アドベンチスト」裁判、そしてキリストの真の最後の再臨に関する

最終的な日付である 2030
年の春をどのように正確に描写しているかがわかります。これにより、キリストの再臨が 2030 年に確定することにより、黙示録 10 章 6-7 節で次の表現ですでに確認されている一連のアドベンチストの経験をよりよく理解し、証明することができます。達成しました。」このデモンストラーションでは、Habakkuk 2
のテキストを最初から取り出し、説明的なコメントを挟みます。

私が修正した L.Segond バージョン

1節：「私は自分の持ち場に着き、塔の上に立つつもりです。私は主が私に何と言われるか、そして私が議論の中で何と答えるかを見守っていきたいと思います。」

アドベンチスト裁判を特徴付ける預言者の「待つ」態度に注目してください。聖霊はダニエル書 12:12 のメッセージで「1335 日まで待つ者は幸いである」と告げています。明確に理解するために、この「議論」の意味は、ハバククが提起した問題が地上での邪悪な者の繁栄の延長であるという前の章で与えられています。彼はいつも惜しむことなく国家を守っているのだろうか？」 (ハブ 1:17)。

この考察とこの問いかけにおいて、ハバククは、世界の終わりまで同じ観察をするすべての人々の行動をイメージしています。また、神はイエス・キリストの再臨という主題を預言的に示唆することによって、その答えを示し、邪悪で軽蔑的で不信仰で不忠実で反逆的な者の支配に決定的に終止符を打つでしょう。

2 節:

「主は私に話しかけて言われました。「預言を書きなさい。それを石板に刻んで、一般に読まれなさい。」」

1831年から1844年にかけて、ウィリアム・ミラーは、最初は1843年の春、次に1844年の秋にイエス・キリストの再臨を預言する発表をまとめた表を提示しました。1982年から1994年にかけて、私はまた、アドベンチスト派や他の人類に提案し、現在も提案しています。

、4つのテーブルに、私たちの「終わりの時」のために真理の主からインスピレーションを得た新しい預言の光の概要が示されています。1844年の場合のように、1994年のこの試練に伴う本当の結果が、マークされた時を経て初めて理解されたとしても、日付とその計算は今日まで生ける神の御霊によって証明されています。

3節：「それは、すでに時が定められている預言だからです。」

神によって定められたこの時期は、2018年から明らかにされています。イエス・キリストの再臨の日を目標としており、この定められた時期は2030年の春です。

「彼女は終わりに向かって歩いています、そして彼女は嘘をつきません。」

勝利したキリストの再臨はしかるべき時に達成され、それを告げる預言は「嘘をつかない」。イエス・キリストは2030年の春に必ず再臨されます。

「もしそれが遅れるなら、それを待ちなさい、それは必ず起こりません、それは必ず起こります。」

もし日付が神によって定められたのであれば、彼にとって、キリストの真の再臨は、2018年まで神だけが知っていたこの定められた時に達成されることになる。したがって、提案された遅延は、「もし遅れたとしても」ということは、人間だけに関係することができる。イエス・キリストの再臨に関する虚偽の発表を行う権利。これにより、イエスは1843年、1844年、1994年、そして私たちの最後の時まで、自分の救いであると主張するキリスト教徒の信仰を試すことができ、それによってイエス・キリストの選出者を選ぶことができる。

。イエス・キリストの再臨に関するこれらの誤って予想された発表は、神によって世の終わりまで「小麦ともみがら、羊とヤギ」、「信者と異教徒」、「信者と不信者」を分けるために利用されます。

»、墮落した者の選ばれし者。

この聖句は、アドベンチストの「期待」という要素を裏付けるものであり、これは、2回目のアドベンチストの試練が終わった1844年の秋以来、真の7日目の安息日の実践によって分けられ、封印された最後の聖徒たちを説明する要素として残っている。この聖句の中で、聖霊は、勝利者、解放者、復讐者であるキリストの再臨を特徴付ける**確実性の概念を強調**しています。

ヴィグルーバージョン

4節：「見よ、不信者には正しい魂が備わっていない。しかし義人は信仰によって生きるであろう。」

このメッセージは、1843年、1844年、1994年、2030年の日付に関連する4つのアドベンチスト裁判にさらされた人間に対して神が下す裁きを明らかにしています。神の判決はそれぞれの時代で鋭いものです。神は預言の発表を通して、ご自分が選んだ使者や預言者の預言の発表を軽蔑することによって、

「不信仰」な本性を明らかにする「偽善者」クリスチャンの正体を暴きます。まったく対照的に、選ばれた者は神の預言的なメッセージを受け取り、そこから明らかにされる新しい指示に従うことによって神に栄光を帰します。この従順は、神によって「喜ばしい」と判断され、同時に、イエス・キリストの名に帰せられた義を保つに値すると判断されます。

神への「愛から」この従順な信仰だけが、来るべき永遠に入るに値すると判断されます。キリストの血が罪を清める者だけが「信仰によって救われる」。信仰の反応は個人的なものであるため、イエスは自分の選んだ人々に個別にメッセージを伝えます。例: マタイ 24:13:

「しかし、最後まで耐え忍ぶ者は、

保存しました。」信仰は、単一の基準を満たしていれば、集団的になることができます。でも気をつけてください！人間の主張は誤解を招きます。なぜなら、天国に入ることを望む候補者によって示された信仰の判断に従って、誰が救われるか失われるかはイエスだけが決めるからです。

要約すると、ハバククのこれらの聖句の中で、御霊は、それが生み出す「信仰」と「行い」の密接で切り離せない絆を明らかにし、確認しています。使徒ヤコブによってすでに提起されたもの（ヤコブ 2:17:「信仰も同様です。行いがなければ、それ自体が死んだものです。」）。これは、福音宣教の初めから、信仰の主題が誤解され、誤解されていたという事実を暗示しています。今日のように、信仰の側面のみをそれに結び付け、その価値と生命を与えている作品の証言を無視する人もいます。神がイエス・キリストの再臨を告げ知らせた人々の行動は、彼らの信仰の真の性質を明らかにします。そして、神が最後の僕たちに大いなる光を注いでいる今、1843年以来神が定めた新しい要求を理解していない人には、もはや言い訳はありません。恵みによる救いは続いています。この日以来、イエス・キリストに選ばれた人々が、イエスに捧げる愛を実際に証明する証を通して、益をもたらします。当初、安息日はこの神の祝福のしるしでしたが、1844年以來、安息日は決してそうではありませんでした。1843年から2030年までに啓示された彼の預言的真理への愛も、常に神によって求められてきたため、それ自体で十分だからです。実際、2018年以來受け取った新しい光は、2030年春のイエス・キリストの再臨で始まる7千年紀の預言的イメージとなった7日目の安息日と密接な関係がある。2018年以來、「による義認」信仰は、マタイ 13:52で教えられているように、神への愛と、イエス・キリストの名において明らかにされたすべての新旧の光を明らかにすることによって、選ばれた者となる召された人々に実を結び、恩恵をもたらします。したがって、天国について学ぶ書記官は皆、自分の宝から新しいものと古いものを取り出す家の主人のようなものです。神を愛する人は誰でも、長い間人間によって隠され無視されてきた神の計画と秘密を発見することだけを愛することができます。

ハバククとメシアの初臨

この預言はユダヤ民族イスラエルにとっても成就し、救世主の最初の到来を告げました。この到来の時刻は定められており、ダニエル書 9:25で発表されました。そして、その計算の鍵は、エズラ記の第 7章にありました。ユダヤ人はダニエル書を歴史書の中に置き、それがエズラ書よりも前にあったことが判明しました。しかし、このようにして彼の預言者の役割は縮小され、読者には見えにくくなりました。イエスは、使徒や弟子たちの注意をダニエルの預言に向けさせた最初の預言者でした。

遅れるなら待て」という発表された遅延も、その成就をもたらした。なぜなら、ユダヤ人は、聖霊がキリストについて1節で語っているイザヤ書61章に頼って、ローマ人の復讐者であり解放者である救世主を待っていたからである。

「主よ、主の御霊が私の上にあります。なぜなら、主は貧しい人々に良い知らせをもたらすために私に油を注がれたからです。神は心の傷ついた人々を癒し、捕虜に自由を宣言し、捕虜に解放を宣言するために私を遣わしました。」

2節で、御霊は次のように述べています。すべての苦しんでいる人たちを慰めるために。

イザヤ書 61:2
によれば、ユダヤ人は、「恵みの年」と「復讐の日」の間に、勝利者、解放者、復讐者であるキリストの再臨に人々を導くにはまだ2000年の時間が必要だということを知りませんでした。この教訓は、ルカ4章16節から21節に引用されている証言の中にはっきりと表れています。

「彼は生まれ育ったナザレに行き、習慣に従って安息日に会堂に入った。彼は本を読むために立ち上がって、預言者イザヤの本を渡されました。それを広げて、彼はそれが書かれている場所を見つけました。神は、心の傷ついた人々を癒し、捕虜の解放と目の見えない人の視力の回復を宣言し、抑圧されている人々を解放し、主の恵みの年を宣言するために私を遣わされました。それから彼は本を丸めて使用人に渡し、座りました。」
ここで朗読をやめることで、彼は自分の初臨が預言者イザヤによって告げられたこの「恵みの年」にのみ関係していることを確認した。

21節にはこう続きます、「会堂にいた人はみな彼を見た。それから彼は彼らに言い始めました：今日、あなたが今聞いた聖書の言葉が成就しました。」

「無視され、読まれなかった「復讐の日」は、神の再臨のために、今度は神聖な力を尽くして、2030年の春に神によって設定されました。しかし、この帰還の前に、今見たように、ハバククの預言は1843年から1844年と1994年の「アドベンチスト」裁判を通じて「

遅れて」成就する必要がありました。

最後の献身

事実に直面する

神聖な年の始まりである2021年の春、裕福だが偽りキリスト教徒である西側人類は、たとえ国家経済の破滅を犠牲にしても、高齢者の命を守りたいという願望を示したばかりである。だからこそ神は、この二度目の天罰には治療法やワクチンがないことを知りながら、あらゆる年齢の人々の多くの命を奪う第三次世界大戦にそれをもたらすのである。私たちの目の前には、8年後に地球創造6000年が到来し、その終わりはイエス・キリストの再臨によって示されるでしょう。勝利と勝利を収めた彼は、救われた者たち、生きていた選ばれた者たち、そしてこれから復活させる者たちを天国に導き、地上の全人類を滅ぼし、最初から反抗的な天使を一人、暗闇の中に孤立させて置き去りにするだろう。、サタン、悪魔。

このプログラムを受け入れるには、6000

年原理への信仰が不可欠です。アブラハムの誕生日（テラの3人の息子の単一の日付：創世記11：26）に関する「曖昧さ」のため、聖書に示されている数字から正確に計算することは不可能でした。しかし、アダムからキリストの再臨までの一連の人類の世代の継承は、この6000という数字が近づいていることを裏付けています。この丸くて正確な数字を信じることによって、私たちはこの選択を「知性のある」存在、つまり、創造主なる神、すべての知性と生命の源。第 4

戒めに挙げられている「安息日」の原則によれば、神は人間にすべての働きをするために「6日」と6,000年を与えましたが、7日目と7千年紀は「神聖な」休息の時です。別に)神とその選ばれた者のために。

が、神が語ること、預言すること、考えることすべてから恩恵を受ける神に選ばれた人々の「聡明で賢明な」行動によって築かれることを実証しています（ダニエル12:3参照：「そして賢い者は光輝のように輝くでしょう」このように行動することで、彼らは、イエス・キリストにおいて示された神の救いの正義の恩恵を彼らに与えようとする神の選択を正当化します。

これから始まるドラマの直前に、この作品を締めくくるために、私は今度は、この作品を読み、信仰と喜びをもってこの作品を歓迎するすべての神の真の子供たちに、ヨハネ 16:33

のこの聖句を捧げたいと思います。 1980年6月14日の私の洗礼の機会に、2つの異なる情報源によって奉獻されました。1つは施設からの私のバプテスマ証明書に、もう1つは当時の同僚の僕がこの機会に私に提供してくれた『イエス・キリスト』という本の序文にあり、イエスが自分の命を犠牲として捧げた年齢に近いものでした。

「これらのことを私があなたに話したのは、あなたが私のうちに平安を得

られるようにするためです。あなたにはこの世で艱難が訪れるだろう。でも勇気を出してください、私は世界を征服しました。」

イエス・キリストの祝福された僕サムエル、「まさに」！

最後の電話

私がこのメッセージを書いている 2021
年末の時点でも、世界は依然として、十分に評価され、普遍的な宗教的平和を享受しています。しかしながら、神が用意された解読された預言的啓示に関する私の知識に基づいて、私は、恐るべき世界大戦が準備中であり、今後 3 年から 5 年以内に達成される予定であると、少しの疑いもなく断言します。黙示録 9 章で「第6のラッパ」という象徴的な名前ですそれを提示することによって、御霊は、聖なる安息日への忠誠の放棄と、321年3月7日以来軽視されてきたその他の儀式を罰するために、すでに5つの恐ろしい刑罰が下されたことを私たちに思い出させます。不滅の神の罰は、神聖な宗教計画に基づいて組織された人類の歴史の 1600 年に及びました。彼の6番目の罰は、キリスト教が彼に対する不貞の罪で有罪であることを最後にもう一度警告するために行われます。神とその救いの計画を離れては、人間の人生には何の意味もありません。これが、レビ記 26 章のアナロジーによって明らかにされた「ラッパ」が段階的な性質を持ち、「第6のラッパ」の殺人的な激しさが、人類が長い間恐れ、恐れてきた恐怖の高みに達する理由です。「第6のラッパ」は、黙示録9章15節によれば、多数の人類、つまり「人類の3分の1」を絶滅させる最終的な世界大戦に関するものです。そして、黙示録 9 章 16 節に示されている正確さによると、この割合は文字通り、武装し、訓練され、装備を整えた 2 億人のプロの戦闘員が互いに対決する戦争で達成される可能性があります。「それらの数を聞きました」;つまり、2 x 10000 x 10000。この最後の紛争の前、20^{世紀}、1914 ~ 1918 年と 1939 ~ 1945 年の 2 つの世界大戦は、自由国家と独立の時代を終わらせるために来る大きな罰の前兆でした。神はご自分が選んだ者たちに避難都市を与えてはおられませんが、神の怒りによって優先的に狙われた地域から逃げるよう、十分に明確な指示を私たちに残してくださいました。彼は、この任務に召された人間が繰り出さなければならない打撃を指揮するだろう。しかし、彼らの誰も彼が選んだ者にはなりません。地球全体に散らばっている不信者の反逆者や不信者は神の神の怒りの道具となり犠牲者となるでしょう。第二次世界大戦は、キリスト教を信仰する西洋人同士が争って戦った。しかし、来るべき第3回では、衝突の動機は本質的に宗教的なものとなり、これま

で教義的に決して両立しなかった宗教同士が対立することになる。平和と貿易だけがこの幻想を増大させてきました。しかし、黙示録 7:2-3によると、神が選んだ時に、神の天使たちが保持している悪魔の普遍性が解放され、「地と海に害を及ぼす」か、解説されているシンボルが「イエス・キリストに不忠実な「プロテスタントとカトリック教徒」。非常に論理的には、不忠実なキリスト教信仰が正義の裁判官イエス・キリストの怒りの主な標的となります。古い契約のときと同じように、イスラエルは70年に国家が滅亡するまで絶えず不貞行為を行ったために罰せられました。この「第6のラッパ」と並行して、ダニエル書11章40節から45節の預言は、「3人の王」を呼び起こしてそれを裏付けています。

」、一神教の3つの宗教、ヨーロッパのカトリック、アラブおよび北アフリカのイスラム教、ロシア正教の意味合い。この紛争は、国王として名指しはされなかったが、伝統的にロシアの潜在的な敵であると示唆されたアメリカのプロテスタントの介入により、状況の逆転で終結した。競合する勢力を排除することで、「ザ・ザ・地から上る獣」と黙示録 13:11に記されています。この最後の文脈で、相次ぐヒスパニック系移民のせいで、アメリカのプロテスタント信仰が少数派になり、ローマ・カトリック信仰が多数派になったことを明記しておこう。

2022年、暗殺されたジョン・ケネディ大統領と同じく、アイルランド出身の大統領自身もカトリック教徒である。

黙示録

18:4

で、イエス・キリストは全能の神において、彼を信じ希望するすべての人、つまり彼の選ばれた者たちに「大いなるバビロンから出て来なさい」と命じています。この著作の中で教皇ローマ・カトリック教会の証拠によって「バビロン」が特定され、「彼女の罪」のために裁かれ、有罪判決を受けています。

「その罪」の歴史的継承により、カトリックの罪は、宗教的实践を通じてローマから受け継いだ日曜日の休みを正当化するプロテスタントと正教会の人々にも及んでいます。バビロンからの脱出は、「自分の罪」の放棄を意味します。その中で最も重要なのは、神がそれを、毎週の安息日、神の命令の週の最初の日、ローマの日曜日であることを識別する「目印」としているからです。

このメッセージの中で、時代の緊急性を考慮して、私は神の息子と娘たちに、首都パリを中心としたフランス北部地域から離れるように勧めます。なぜなら、それは間もなく神の怒りに見舞われ、「天からの火」に見舞われるからであり、今回は、ヨハネの黙示録の黙示録11章8節で彼がそれを例える「ソドム」の都市のように、核的なものとなるからである。彼はまた、ヘブライ人の出エジプトの歴史的記述におけるファラオのように、神に敵対する無宗教のコミットメントの反逆的な態度のため、それを「罪」の象徴的なイメージである「エジプト」という名前で指定しました

。道路が寸断され禁止されている戦争状況では、標的となった地域を離れ、致命的な悲劇から逃れることは不可能です。

生ける神イエス・キリストの僕サムエル

まず、この作品の最後に何が提示されているかを知りたい人は、なぜ私がフランスとヨーロッパの差し迫った破壊の取り返しのつかない性質をそれほど確信しているのかを理解するのは難しいでしょう。しかし、この本を最初から最後まで読んだ人は、読み進めるうちに絶えず積み重なっていく証拠を集め、最終的には「神の御霊は」という揺るぎない確信を共有できるまでになるだろう。私の中に、そして彼に属するすべての人の中に組み込まれています。実は。すべての栄光は彼のものです。

悪い驚きは、彼の比類のない、最も多くの力、そして完璧な達成まで彼の計画に従ってすべてを導く彼の能力を認識することを頑固に拒否する人々からのみ来るでしょう。

最後のアドベンチスト歩行者の天のマナという作品に示されたメッセージの形で永遠に記され、記録されています。